

第9期

大淀町

介護予防・日常生活圏域二一ズ調査及び
在宅介護実態調査

報 告 書

令和5（2023）年8月

大淀町

目次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査設計	1
3 回収状況	1
4 報告書の見方	2
5 在宅介護実態調査の集計・分析における留意点	3
第2章 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査	5
1 回答者の属性	5
2 家族や生活状況について	7
3 からだを動かすことについて	19
4 食べることについて	39
5 毎日の生活について	59
6 地域での活動について	95
7 たすけあいについて	106
8 健康について	128
9 認知症について	143
10 人生の最終段階について	151
11 災害時や緊急時の対応などについて	157
12 リスク判定	165
第3章 在宅介護実態調査	189
1 単純集計結果	189
2 クロス集計結果	213
資料編	276
1 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 調査票	276

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本町では、令和6年度から令和8年度までの3年間を計画期間とする「第9期介護保険事業計画及び高齢者福祉計画」を策定する予定としており、この調査は、次期計画策定における基礎資料を作成することを目的として実施したものです。

2 調査設計

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

調査対象：本町在住の要介護認定を受けていない65歳以上の方及び要支援1・2の方2,500人を無作為抽出

調査期間：令和5（2023）年6月8日（木）～令和5（2023）年7月10日（月）

調査方法：郵送による配布・回収

(2) 在宅介護実態調査

調査対象：下記調査期間に介護保険の更新申請を行い、認定調査を受けた在宅の要介護認定者

調査期間：令和4（2022）年9月13日（火）～令和5（2023）年6月30日（金）

調査方法：認定調査員による聞き取り

3 回収状況

図表 1-3-1 調査の配布数と回収状況

	配付数	有効回答数	有効回答率
(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2,500件	1,630件	65.2%
(2) 在宅介護実態調査	—	114件	—

4 報告書の見方

- 調査結果の図表は、原則として回答者の構成比(百分率)で表現しています。
- 図表中の「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
- 集計は、回答者数(該当質問においては該当者数)を100%として算出し、本文及び図表の数字に関しては、全て小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記します。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。また、複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。

5 在宅介護実態調査の集計・分析における留意点

(1) サービス利用の回数・組み合わせ等に着目した集計・分析に係る用語の定義

在宅介護実態調査における集計・分析では、介護保険サービスの利用回数・利用の組み合わせ等に着目した集計・分析を行うため、介護保険サービスを大きく、「訪問系」、「通所系」、「短期系」の3つに分類して集計しています。なお、介護保険サービスの中には介護予防・日常生活支援総合事業を通じて提供される「介護予防・生活支援サービス」も含まれます。

それぞれ、用語の定義は以下の通りです。

図表 1-5-1 サービス利用の分析に用いた用語の定義

用語		定義
未利用		・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計しています。
訪問系		・（介護予防）訪問介護、（介護予防）訪問入浴介護、（介護予防）訪問看護、（介護予防）訪問リハビリテーション、（介護予防）居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計しています。
通所系		・（介護予防）通所介護、（介護予防）通所リハビリテーション、（介護予防）認知症対応型通所介護を「通所系」として集計しています。
短期系		・（介護予防）短期入所生活介護、（介護予防）短期入所療養介護を「短期系」として集計しています。
その他	小規模多機能	・（介護予防）小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計しています。
	看護多機能	・看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計しています。
	定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計しています。

図表 1-5-2 サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義

用語	定義
未利用	・上表に同じ
訪問系のみ	・上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計しています。
訪問系を含む組み合わせ	・上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」＋「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計しています。
通所系・短期系のみ	・上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」＋「短期系」の利用を集計しています。

(2) サービス利用のカテゴリー化に係る注意点

(1) の通り、介護保険サービスを大きく、「訪問系」、「通所系」、「短期系」の3つに分類して集計しています。実際には、訪問系は、訪問介護や訪問リハビリテーション、訪問看護等、内容の異なる複数のサービスがまとめて集計されていることから、訪問介護が必要であるか、訪問看護が必要であるかといったような細かな分析はできません。サービスの内容をまとめて集計しているのは、サービスの分類が細分化された状態では、サンプル数に制約があるため、十分な分析をすることが困難であることが挙げられます。

(3) 施設等検討の状況に係る用語の定義

本集計・分析では、施設等検討の状況について、「入所・入居は検討していない（検討していない）」、「入所・入居を検討している（検討中）」、「すでに入所・入居申し込みをしている（申請済み）」の3つに分類して集計しています。

ここでの、施設等の定義については、調査票内において「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。」としています。

したがって、ここでの施設等とは、介護保険施設に限定するものではありません。

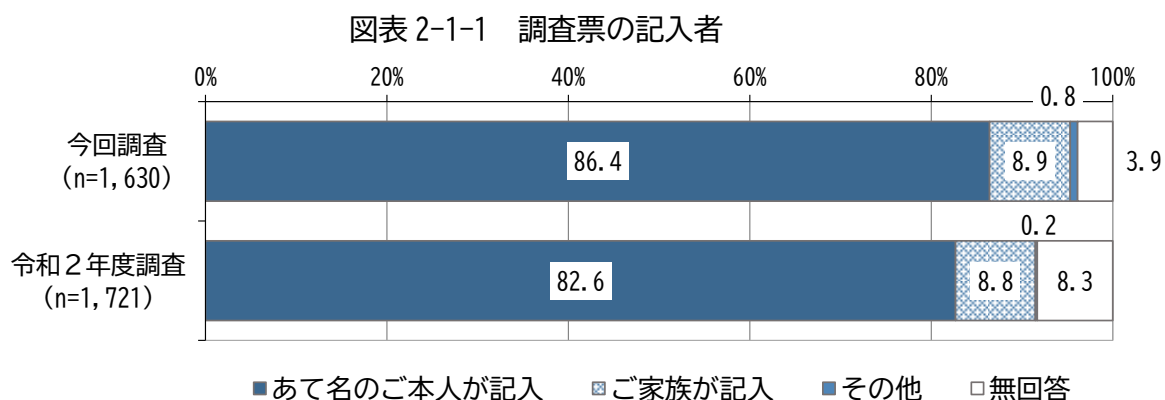
第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1 回答者の属性

(1) 調査票の記入者

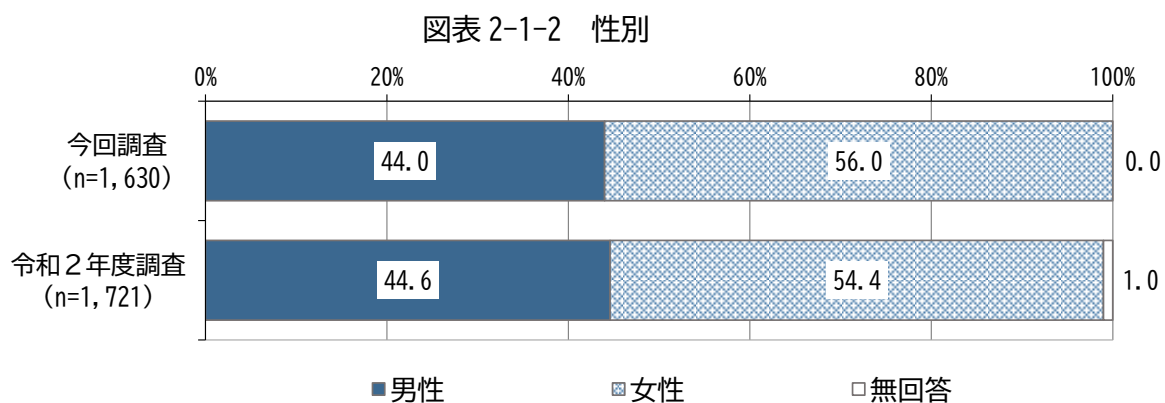
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

調査票の記入者については、「あて名のご本人が記入」が86.4%で最も高く、次いで「ご家族が記入」が8.9%、「その他」が0.8%となっています。



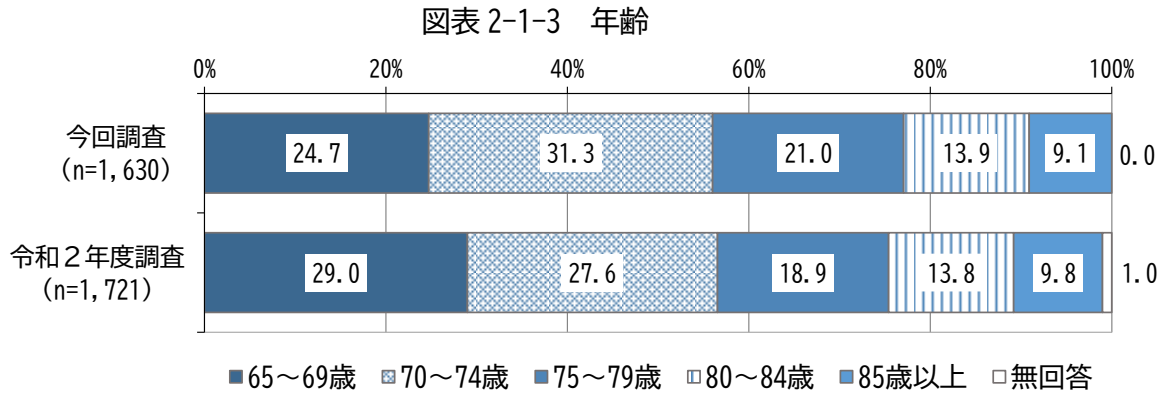
(2) 性別

性別については、「男性」が44.0%、「女性」が56.0%となっています。



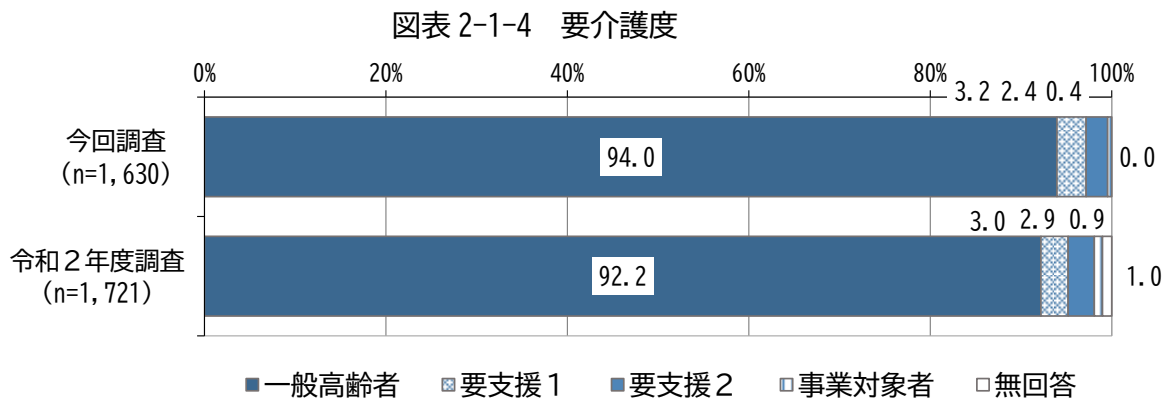
(3) 年齢

年齢については、「70～74歳」が31.3%で最も高く、次いで「65～69歳」が24.7%、「75～79歳」が21.0%と続いています。



(4) 要介護度

要介護度については、「一般高齢者」が94.0%で最も高く、次いで「要支援1」が3.2%、「要支援2」が2.4%と続いています。



2 家族や生活状況について

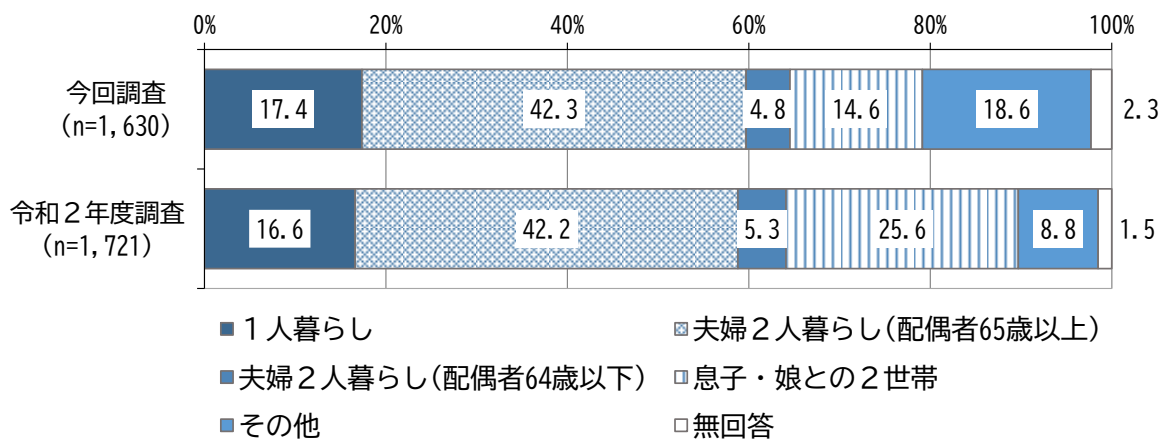
(1) 家族構成

問1-1 家族構成をお教えてください（〇はひとつ）

家族構成については、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が42.3%で最も高く、次いで「その他」が18.6%、「1人暮らし」が17.4%と続いています。

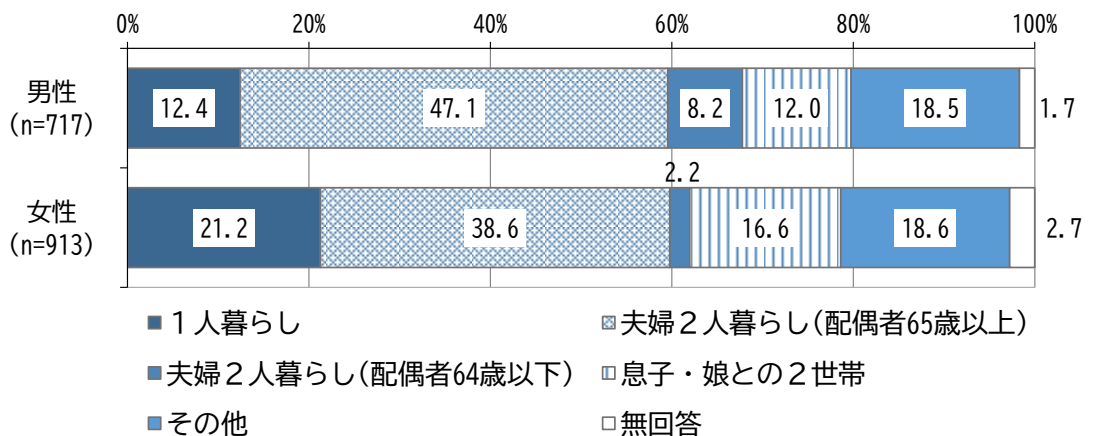
令和2（2020）年度調査と比較すると、「その他」（18.6%）では、令和2（2020）年度調査（8.8%）より9.8ポイント増加しています。

図表 2-2-1 家族構成



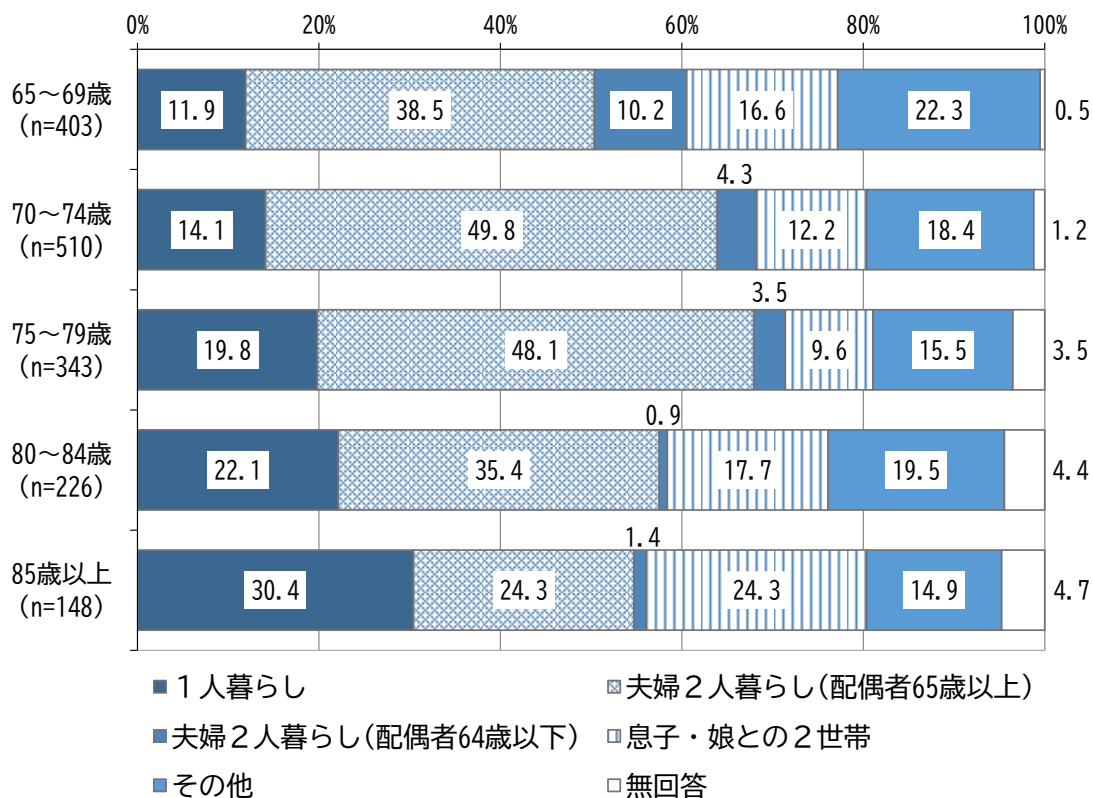
性別でみると、「1人暮らし」では、男性が12.4%、女性が21.2%となっています。

図表 2-2-2 家族構成 性別



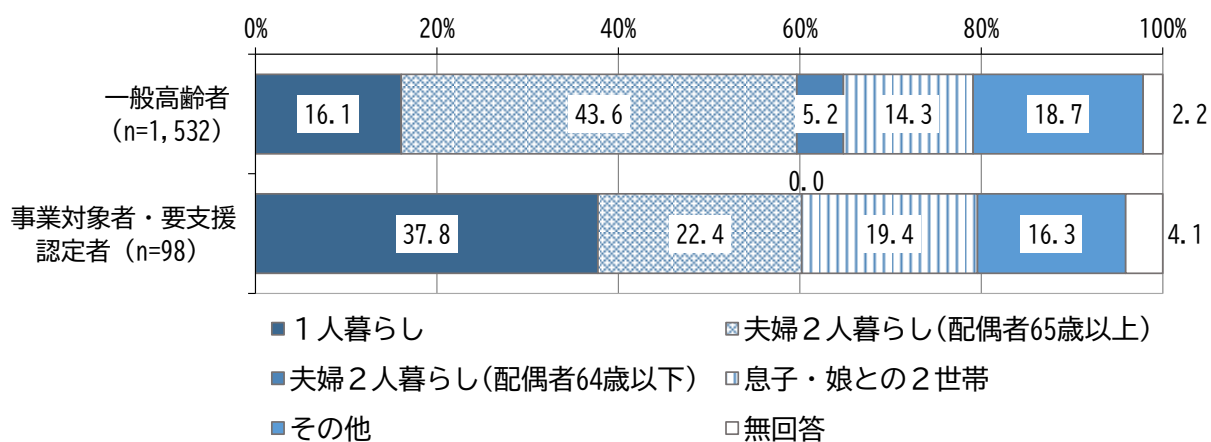
年齢別でみると、「1人暮らし」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が30.4%で最も高くなっています。

図表 2-2-3 家族構成 年齢別



認定状況別でみると、「1人暮らし」では、一般高齢者が16.1%、事業対象者・要支援認定者が37.8%となっています。

図表 2-2-4 家族構成 認定状況別



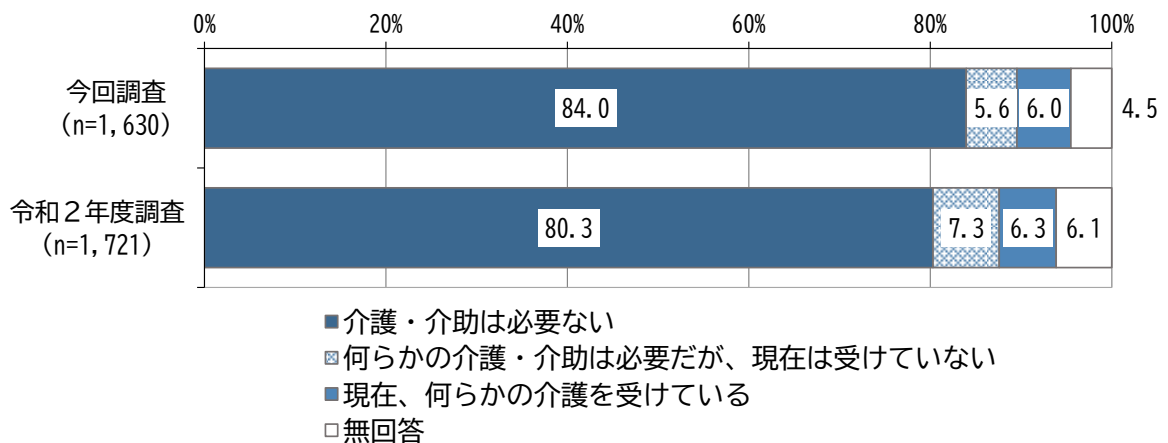
(2) 普段の生活で介護・介助が必要か

問1-2 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか（○はひとつ）

普段の生活で介護・介助が必要かについては、「介護・介助は必要ない」が84.0%で最も高く、次いで「現在、何らかの介護を受けている」が6.0%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が5.6%となっています。

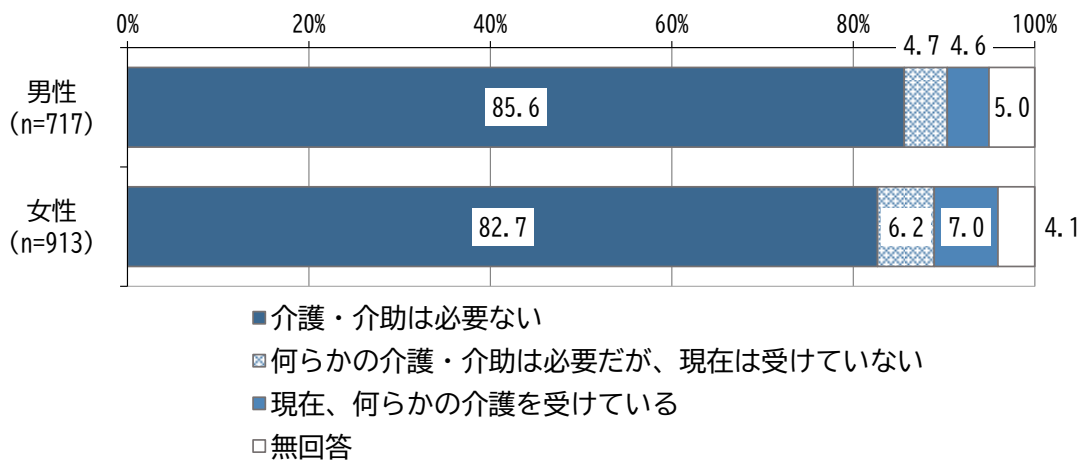
令和2（2020）年度調査と比較すると、「介護・介助は必要ない」（84.0%）では、令和2（2020）年度調査（80.3%）より3.7ポイント増加しています。

図表 2-2-5 普段の生活で介護・介助が必要か



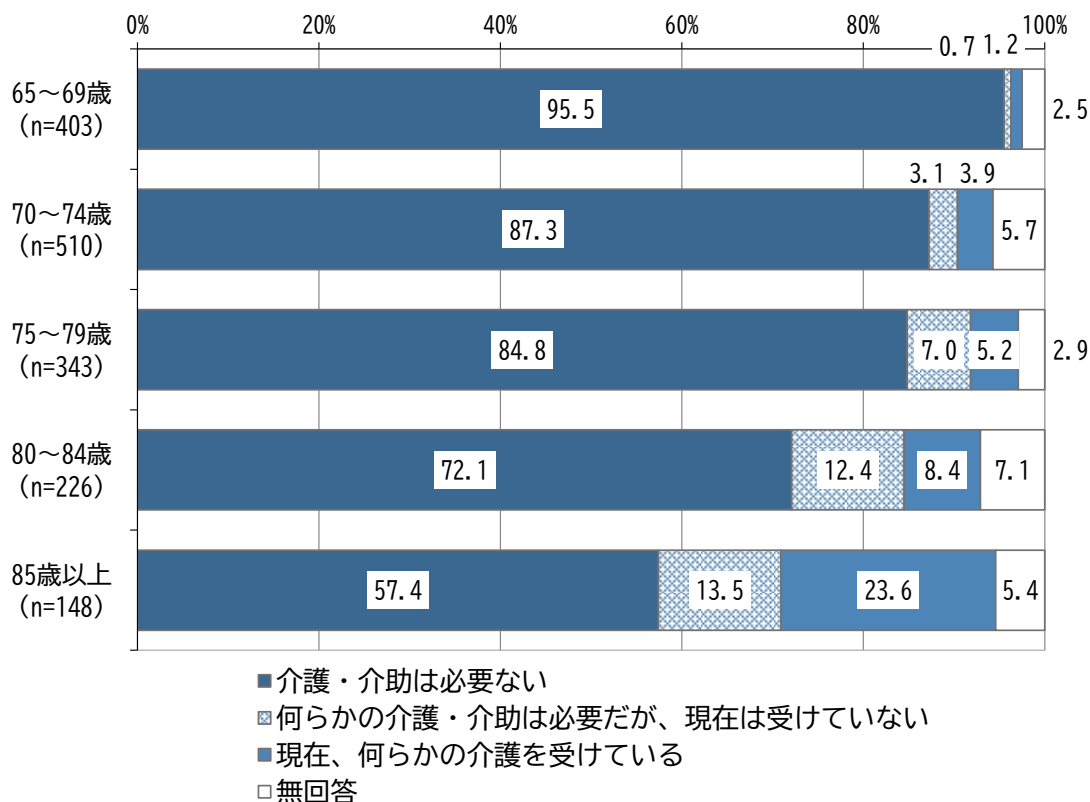
性別でみると、『何らかの介護・介助が必要』（「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている」の合計）では、男性が9.3%、女性が13.2%となっています。

図表 2-2-6 普段の生活で介護・介助が必要か 性別



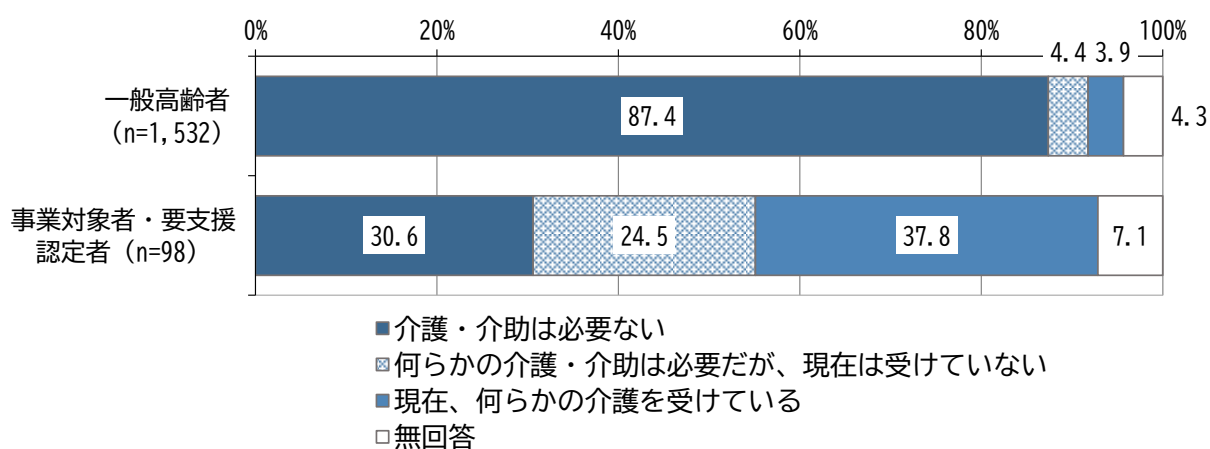
年齢別でみると、『何らかの介護・介助が必要』では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が37.1%で最も高くなっています。

図表 2-2-7 普段の生活で介護・介助が必要か 年齢別



認定状況別でみると、『何らかの介護・介助が必要』では、一般高齢者が8.3%、事業対象者・要支援認定者が62.3%となっています。

図表 2-2-8 普段の生活で介護・介助が必要か 認定状況別



(3) 介護・介助が必要になった主な原因

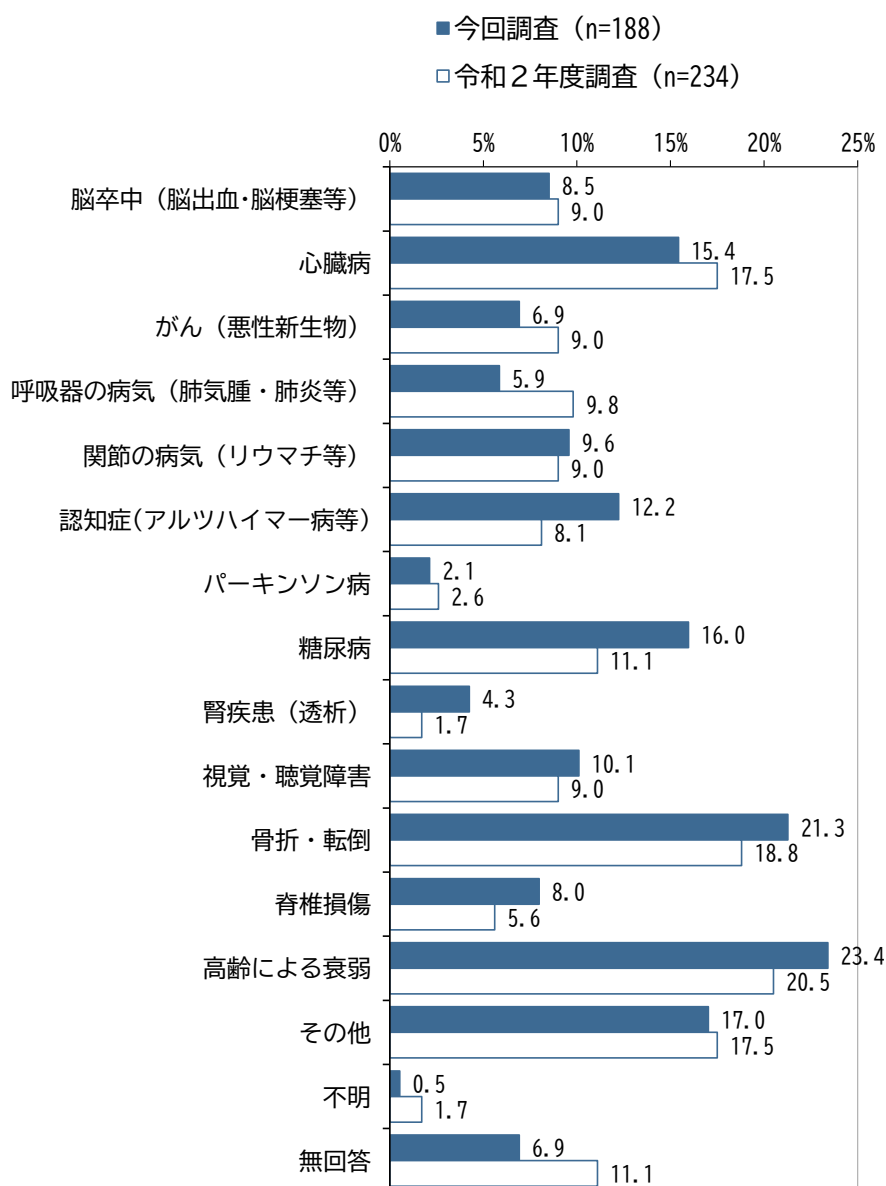
問1-2で「2」または「3」を回答された方（介護・介助が必要な方）のみ

問1-2-1 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（〇はいくつでも）

介護・介助が必要になった主な原因については、「高齢による衰弱」が23.4%で最も高く、次いで「骨折・転倒」が21.3%、「その他」が17.0%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「糖尿病」（16.0%）では、令和2（2020）年度調査（11.1%）より4.9ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-2-9 介護・介助が必要になった主な原因



性別でみると、男性では「糖尿病」が26.9%で最も高く、女性では「骨折・転倒」、「高齢による衰弱」がいずれも24.8%で最も高くなっています。

年齢別でみると、85歳以上では「高齢による衰弱」が40.0%で最も高くなっています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「高齢による衰弱」が21.3%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「骨折・転倒」が32.8%で最も高くなっています。

図表 2-2-10 介護・介助が必要になった主な原因 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	がん（悪性新生物）	腫呼吸器の病気（肺炎等）	関節の病気（リウマチ等）	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	糖尿病	腎疾患（透析）	視覚・聴覚障害
全体		188	8.5	15.4	6.9	5.9	9.6	12.2	2.1	16.0	4.3	10.1
性別	男性	67	6.0	23.9	9.0	9.0	6.0	11.9	1.5	26.9	9.0	4.5
	女性	121	9.9	10.7	5.8	4.1	11.6	12.4	2.5	9.9	1.7	13.2
年齢別	65～69歳	8	12.5	0.0	37.5	0.0	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0
	70～74歳	36	13.9	5.6	5.6	5.6	11.1	5.6	5.6	25.0	11.1	19.4
	75～79歳	42	9.5	23.8	4.8	9.5	9.5	11.9	2.4	26.2	7.1	4.8
	80～84歳	47	4.3	21.3	8.5	6.4	12.8	10.6	2.1	8.5	2.1	8.5
	85歳以上	55	7.3	12.7	3.6	3.6	5.5	18.2	0.0	9.1	0.0	10.9
認定状況別	一般高齢者	127	7.9	12.6	6.3	4.7	10.2	16.5	2.4	17.3	5.5	10.2
	事業対象者・要支援認定者	61	9.8	21.3	8.2	8.2	8.2	3.3	1.6	13.1	1.6	9.8

		合計	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明	無回答
全体		188	21.3	8.0	23.4	17.0	0.5	6.9
性別	男性	67	14.9	6.0	20.9	14.9	0.0	7.5
	女性	121	24.8	9.1	24.8	18.2	0.8	6.6
年齢別	65～69歳	8	0.0	0.0	50.0	37.5	0.0	0.0
	70～74歳	36	19.4	8.3	8.3	22.2	0.0	8.3
	75～79歳	42	11.9	7.1	16.7	14.3	0.0	9.5
	80～84歳	47	23.4	12.8	17.0	14.9	0.0	6.4
	85歳以上	55	30.9	5.5	40.0	14.5	1.8	5.5
認定状況別	一般高齢者	127	15.7	5.5	21.3	17.3	0.0	9.4
	事業対象者・要支援認定者	61	32.8	13.1	27.9	16.4	1.6	1.6

※網掛け■は最も割合が高いもの

(4) 誰から介護・介助を受けているか

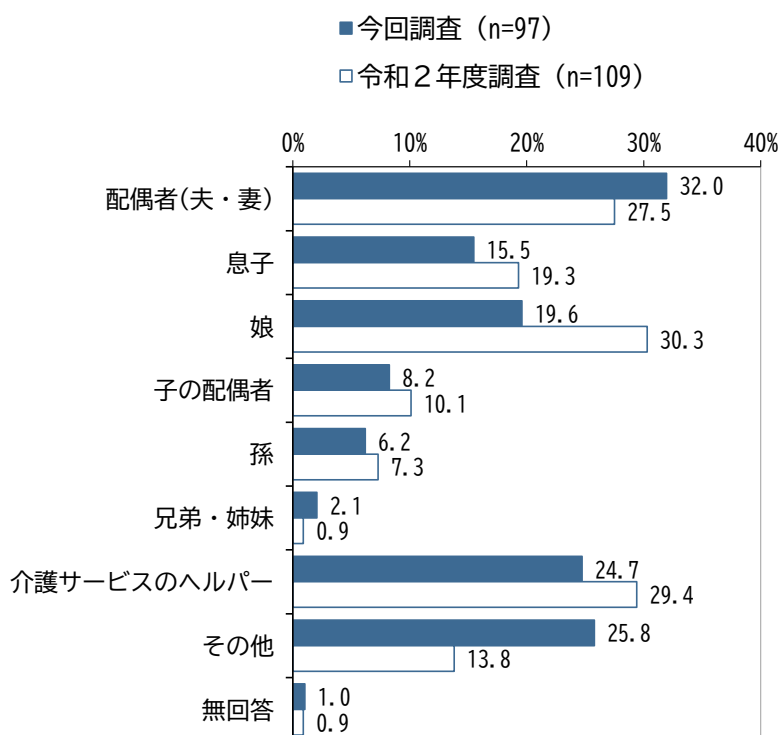
問1-2で「3. 現在、何らかの介護を受けている」を回答された方のみ

問1-2-2 主にどなたの介護、介助を受けていますか（〇はいくつでも）

誰から介護・介助を受けているかについては、「配偶者(夫・妻)」が32.0%で最も高く、次いで「その他」が25.8%、「介護サービスのヘルパー」が24.7%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「娘」（19.6%）では、令和2（2020）年度調査（30.3%）より10.7ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

図表 2-2-11 誰から介護・介助を受けているか



性別でみると、男性・女性いずれも「配偶者(夫・妻)」の割合が最も高くなっています。
 年齢別でみると、85歳以上では「介護サービスのヘルパー」が37.1%で最も高くなっています。
 認定状況別でみると、一般高齢者では「配偶者(夫・妻)」、「その他」がいずれも36.7%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「介護サービスのヘルパー」が40.5%で最も高くなっています。

図表 2-2-12 誰から介護・介助を受けているか 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者 (夫・妻)	息子	娘	子の 配偶者	孫	兄弟・ 姉妹	介護サ ービスの ヘルパー	その他	無回 答
全体		97	32.0	15.5	19.6	8.2	6.2	2.1	24.7	25.8	1.0
性別	男性	33	42.4	9.1	21.2	9.1	6.1	3.0	24.2	33.3	0.0
	女性	64	26.6	18.8	18.8	7.8	6.3	1.6	25.0	21.9	1.6
年齢別	65～69歳	5	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
	70～74歳	20	50.0	15.0	5.0	0.0	0.0	0.0	15.0	35.0	0.0
	75～79歳	18	50.0	11.1	27.8	5.6	5.6	0.0	22.2	22.2	0.0
	80～84歳	19	15.8	10.5	15.8	5.3	5.3	5.3	21.1	31.6	5.3
	85歳以上	35	17.1	22.9	25.7	17.1	11.4	2.9	37.1	14.3	0.0
状況別 認定	一般高齢者	60	36.7	11.7	16.7	6.7	1.7	1.7	15.0	36.7	0.0
	事業対象者・要 支援認定者	37	24.3	21.6	24.3	10.8	13.5	2.7	40.5	8.1	2.7

※網掛け■は最も割合が高いもの

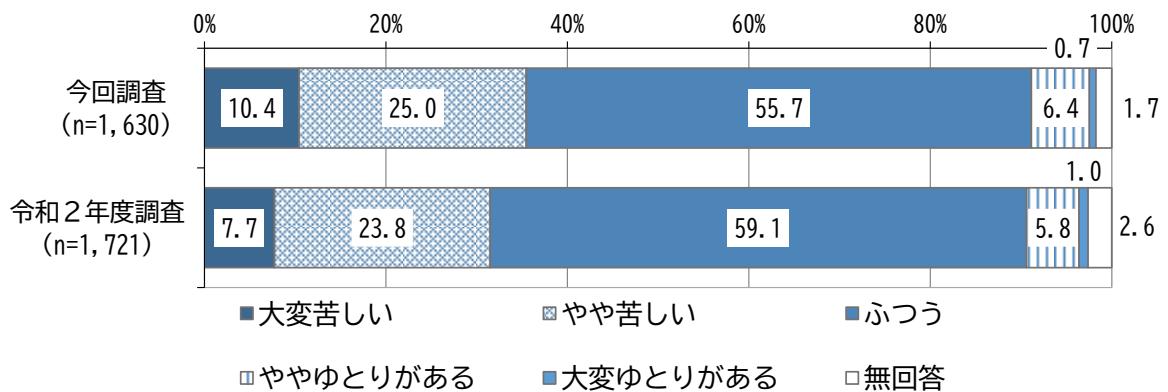
(5) 経済的にみた現在の暮らしの状況

問1-3 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか（〇はひとつ）

経済的にみた現在の暮らしの状況については、「ふつう」が55.7%で最も高く、次いで「やや苦しい」が25.0%、「大変苦しい」が10.4%と続いています。

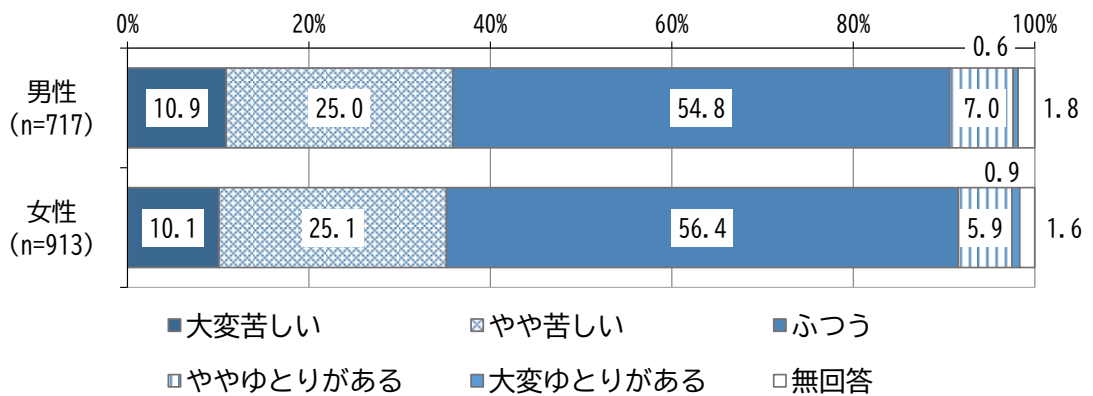
令和2（2020）年度調査と比較すると、『苦しい』（「大変苦しい」と「やや苦しい」の合計）（35.4%）では、令和2（2020）年度調査（31.5%）より3.9ポイント増加しています。

図表 2-2-13 経済的にみた現在の暮らしの状況



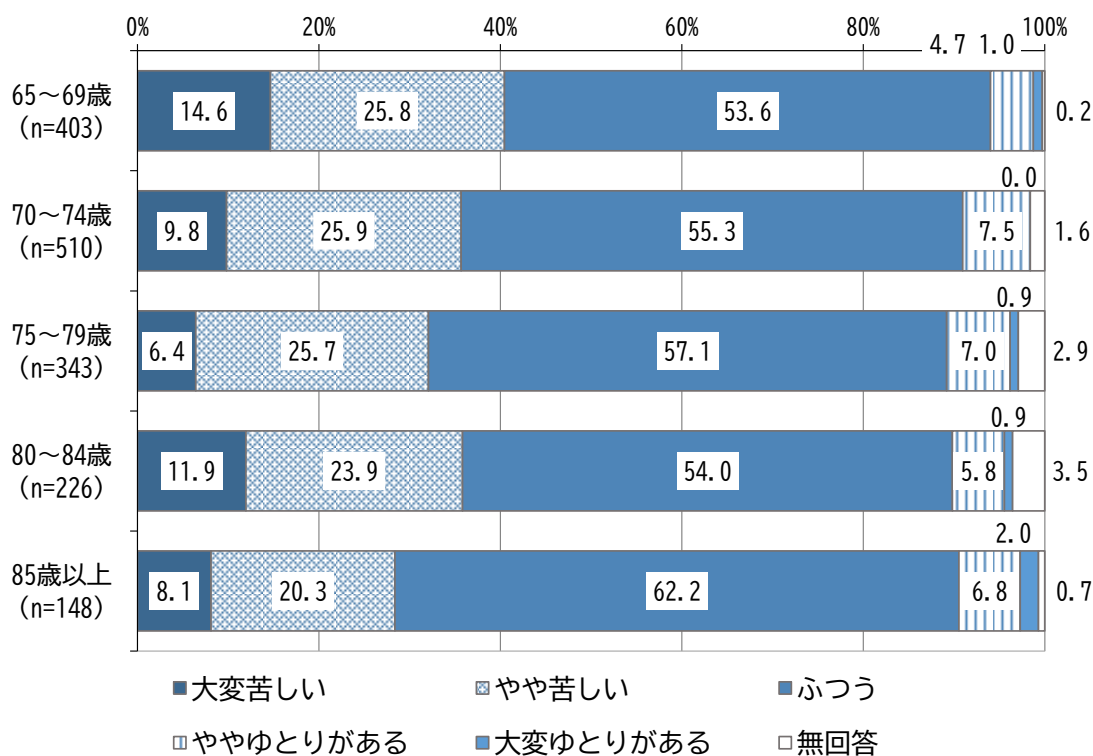
性別でみると、『苦しい』では、男性が35.9%、女性が35.2%となっています。

図表 2-2-14 経済的にみた現在の暮らしの状況 性別



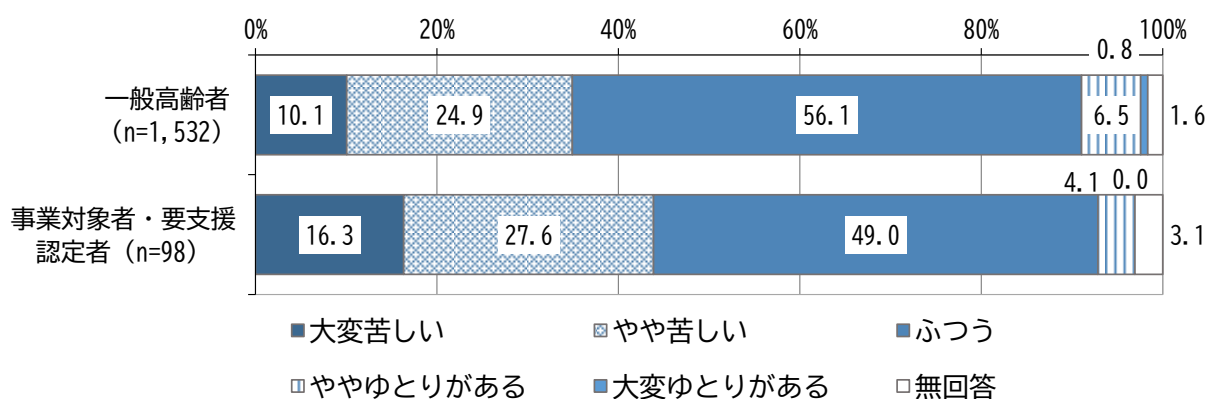
年齢別でみると、『苦しい』では、65～69歳が40.4%で最も高くなっています。

図表 2-2-15 経済的にみた現在の暮らしの状況 年齢別



認定状況別でみると、『苦しい』では、一般高齢者が35.0%、事業対象者・要支援認定者が43.9%となっています。

図表 2-2-16 経済的にみた現在の暮らしの状況 認定状況別



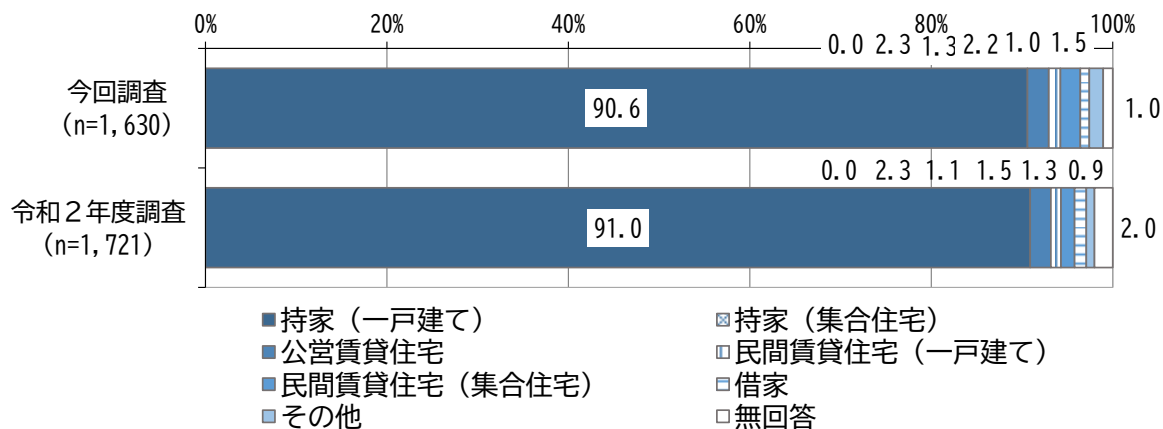
(6) 住まいの状況

問1-4 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか（〇はひとつ）

住まいの状況については、「持家（一戸建て）」が 90.6%で最も高く、次いで「公営賃貸住宅」が 2.3%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が 2.2%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-2-17 住まいの状況



性別でみると、男性・女性いずれも「持家（一戸建て）」の割合が最も高くなっています。
 年齢別でみると、全ての年齢階級で「持家（一戸建て）」の割合が最も高くなっています。
 認定状況別でみると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「持家（一戸建て）」の割合が最も高くなっています。

図表 2-2-18 住まいの状況 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	持家 （一戸建て）	持家 （集合住宅）	公営 賃貸住宅	民間 賃貸住宅 （一戸建て）	民間 賃貸住宅 （集合住宅）	借家	その他	無 回答
全体		1,630	90.6	0.0	2.3	1.3	2.2	1.0	1.5	1.0
性別	男性	717	93.0	0.0	1.3	1.4	2.0	0.4	1.3	0.7
	女性	913	88.7	0.0	3.2	1.2	2.4	1.4	1.8	1.3
年齢別	65～69歳	403	91.6	0.0	2.2	0.7	2.7	1.5	0.7	0.5
	70～74歳	510	92.7	0.0	2.4	1.6	1.2	0.4	0.8	1.0
	75～79歳	343	93.3	0.0	1.2	0.9	2.3	0.3	1.5	0.6
	80～84歳	226	84.5	0.0	3.1	2.2	2.7	2.2	3.1	2.2
	85歳以上	148	83.8	0.0	4.1	1.4	3.4	1.4	4.1	2.0
状況別	一般高齢者	1,532	90.9	0.0	2.1	1.4	2.2	1.0	1.5	0.8
	事業対象者・要支援認定者	98	85.7	0.0	6.1	0.0	2.0	0.0	2.0	4.1

※網掛け■は最も割合が高いもの

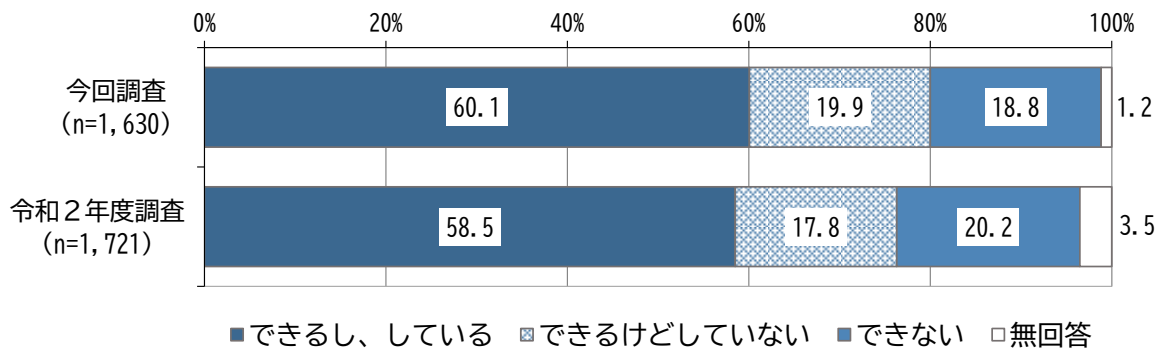
3 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか

問2-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか（○はひとつ）

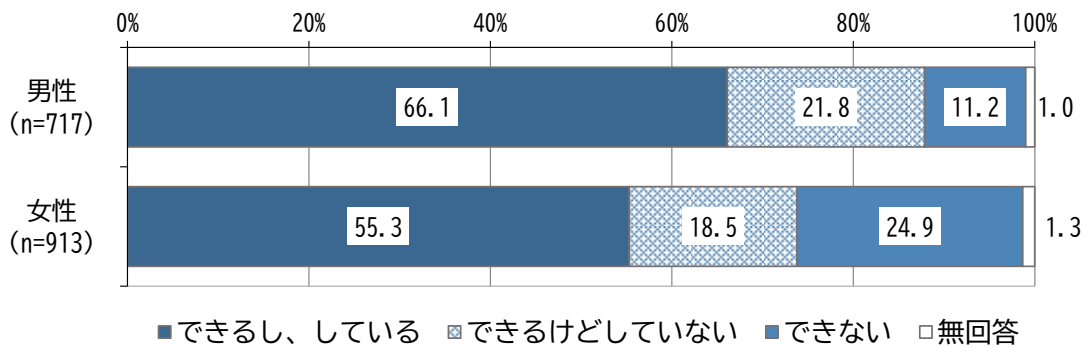
階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについては、「できるし、している」が60.1%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が19.9%、「できない」が18.8%となっています。令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-3-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか



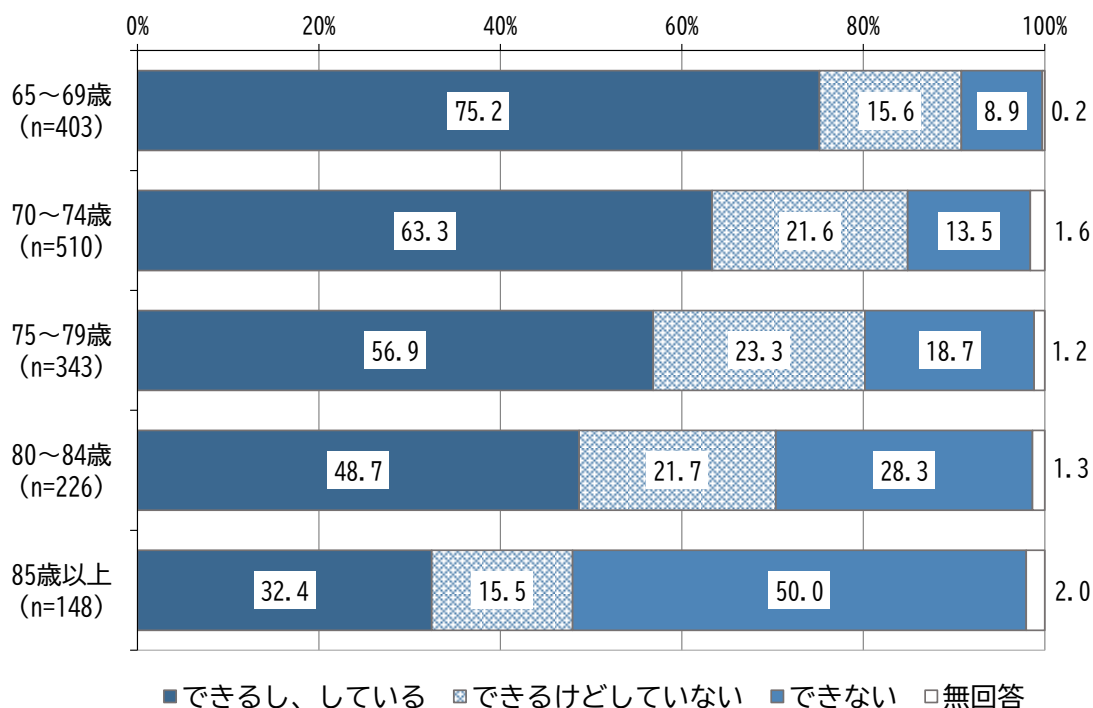
性別で見ると、「できない」では、男性が11.2%、女性が24.9%となっています。

図表 2-3-2 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか 性別



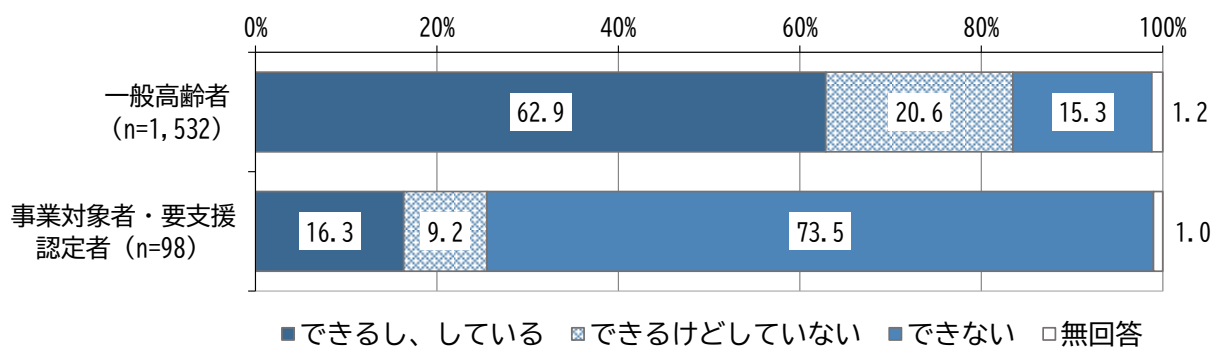
年齢別でみると、「できない」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が50.0%で最も高くなっています。

図表 2-3-3 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか 年齢別



認定状況別でみると、「できない」では、一般高齢者が15.3%、事業対象者・要支援認定者が73.5%となっています。

図表 2-3-4 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか 認定状況別



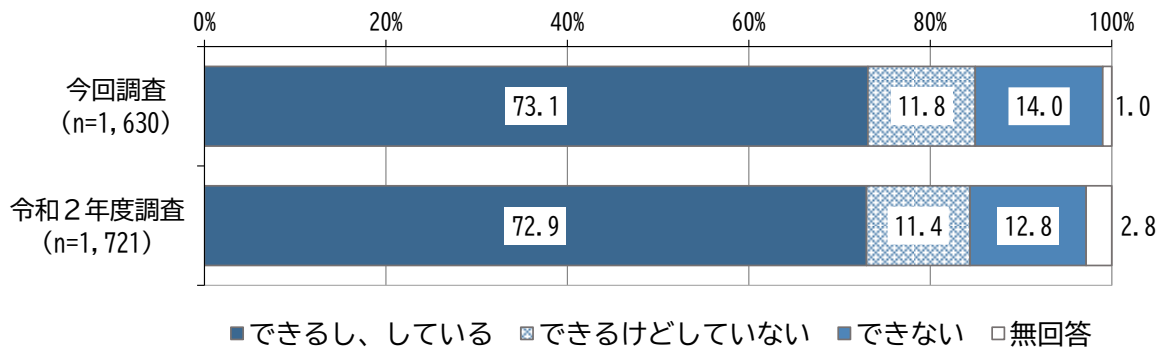
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか

問2-2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (○はひとつ)

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、「できるし、している」が73.1%で最も高く、次いで「できない」が14.0%、「できるけどしていない」が11.8%となっています。

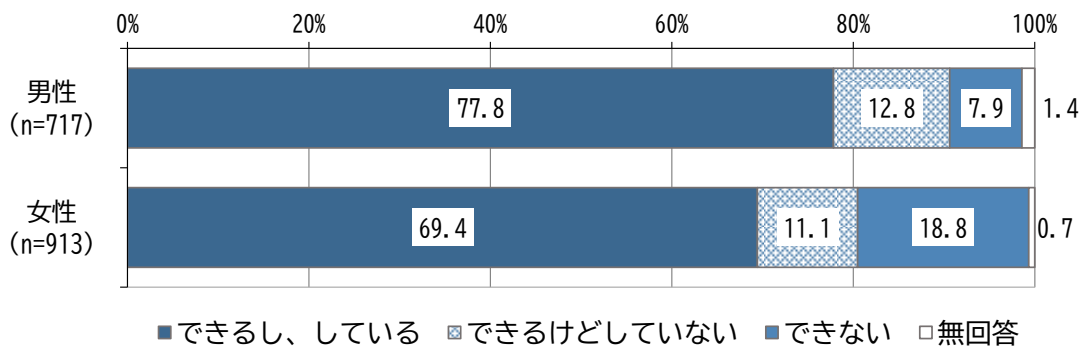
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-3-5 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか



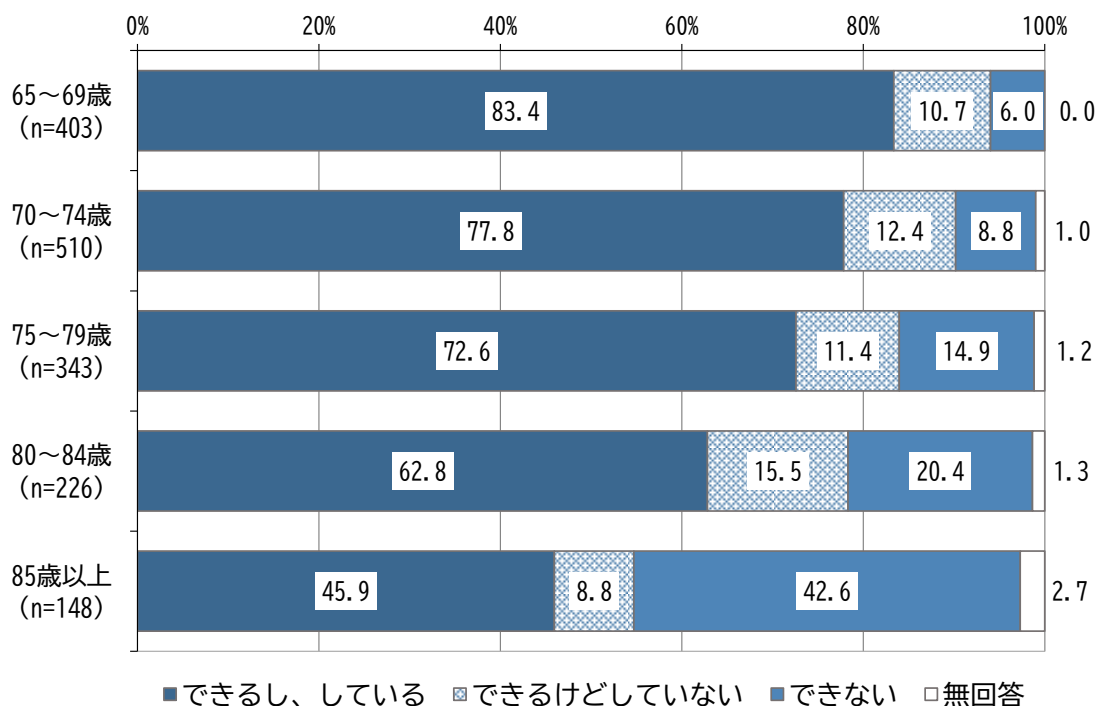
性別でみると、「できない」では、男性が7.9%、女性が18.8%となっています。

図表 2-3-6 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか 性別



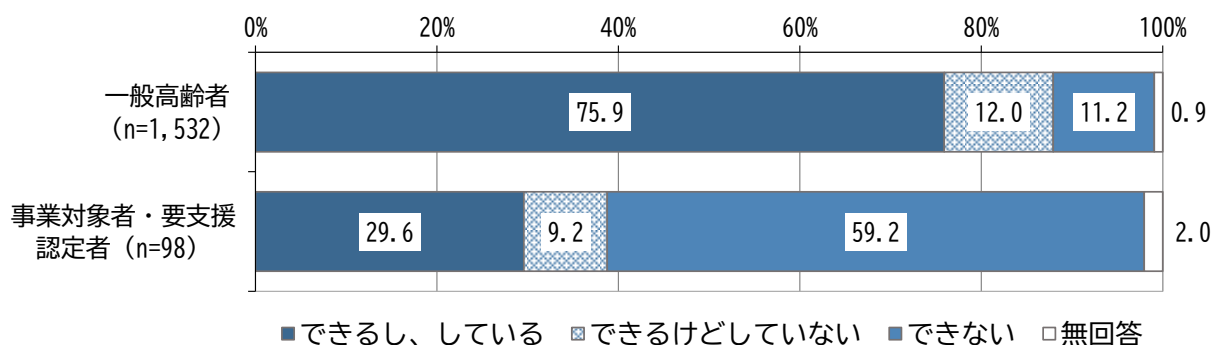
年齢別でみると、「できない」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が42.6%で最も高くなっています。

図表 2-3-7 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか 年齢別



認定状況別でみると、「できない」では、一般高齢者が11.2%、事業対象者・要支援認定者が59.2%となっています。

図表 2-3-8 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか 認定状況別

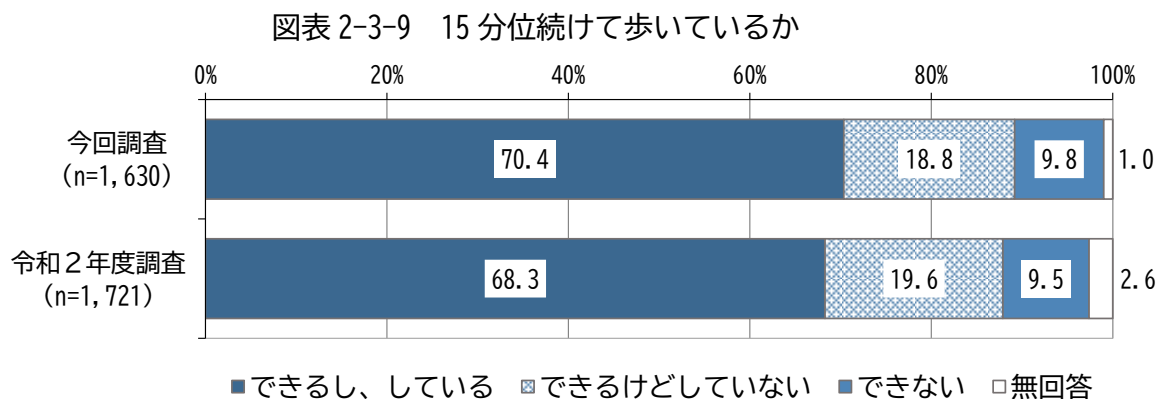


(3) 15分位続けて歩いているか

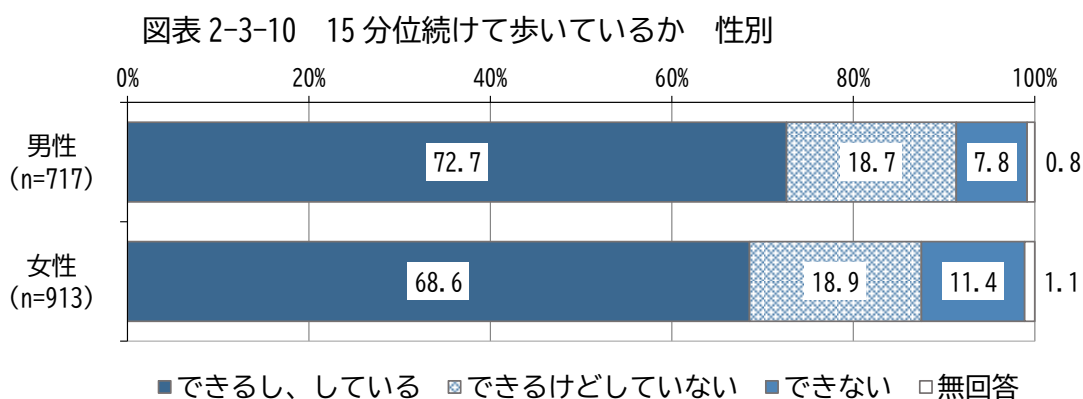
問2-3 15分位続けて歩いていますか (○はひとつ)

15分位続けて歩いているかについては、「できるし、している」が70.4%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が18.8%、「できない」が9.8%となっています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

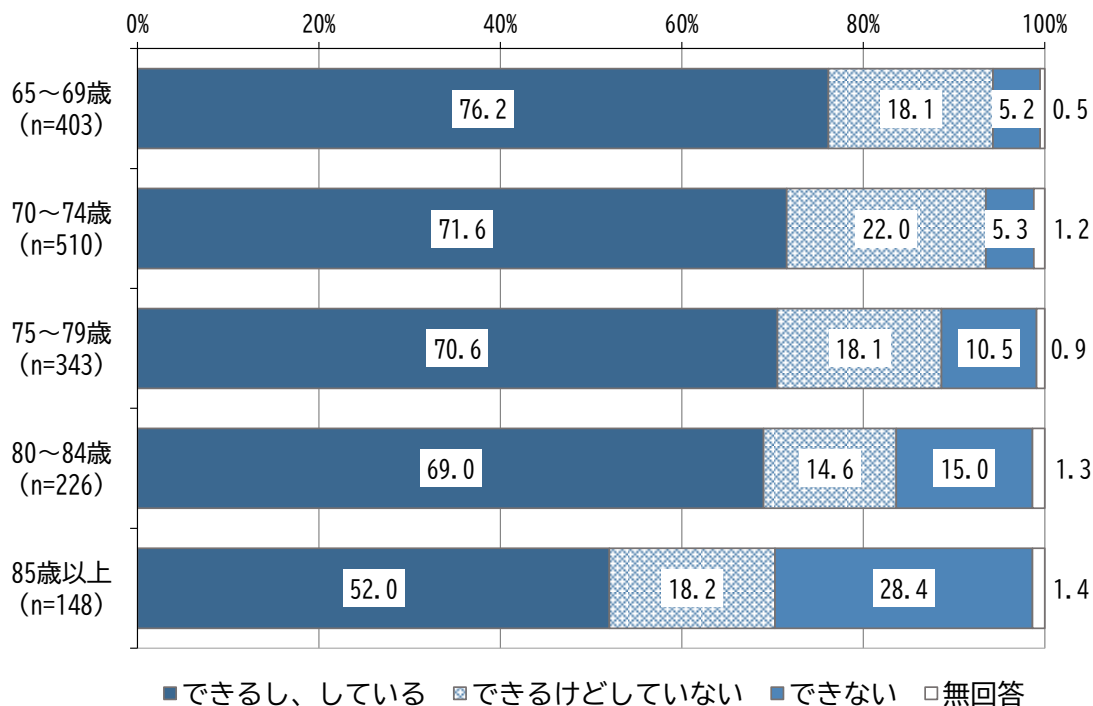


性別でみると、「できない」では、男性が7.8%、女性が11.4%となっています。



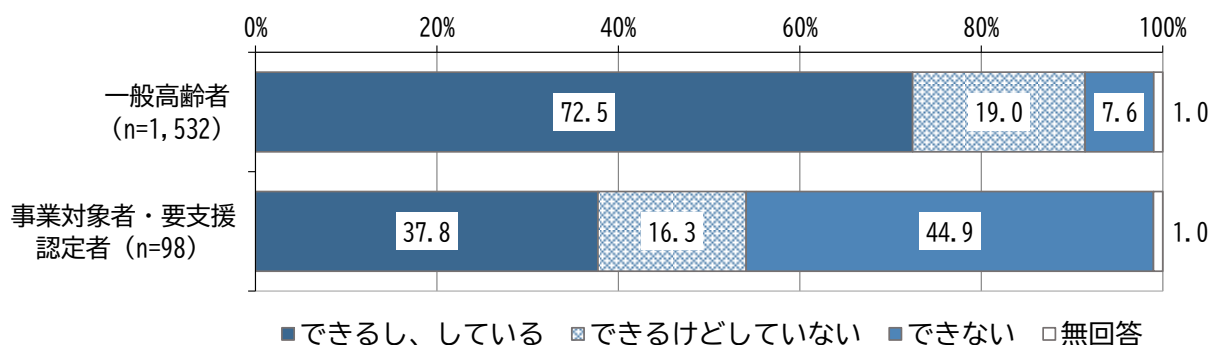
年齢別でみると、「できない」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が28.4%で最も高くなっています。

図表 2-3-11 15分位続けて歩いているか 年齢別



認定状況別でみると、「できない」では、一般高齢者が7.6%、事業対象者・要支援認定者が44.9%となっています。

図表 2-3-12 15分位続けて歩いているか 認定状況別

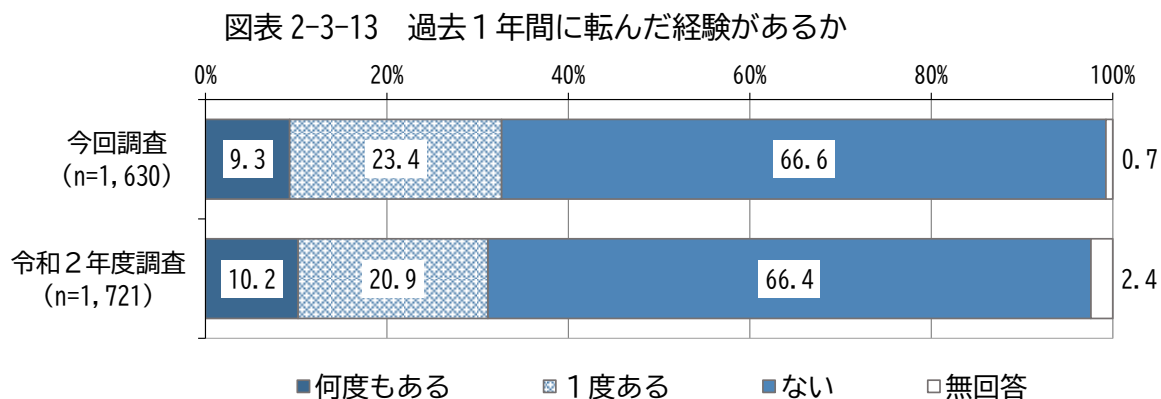


(4) 過去1年間に転んだ経験があるか

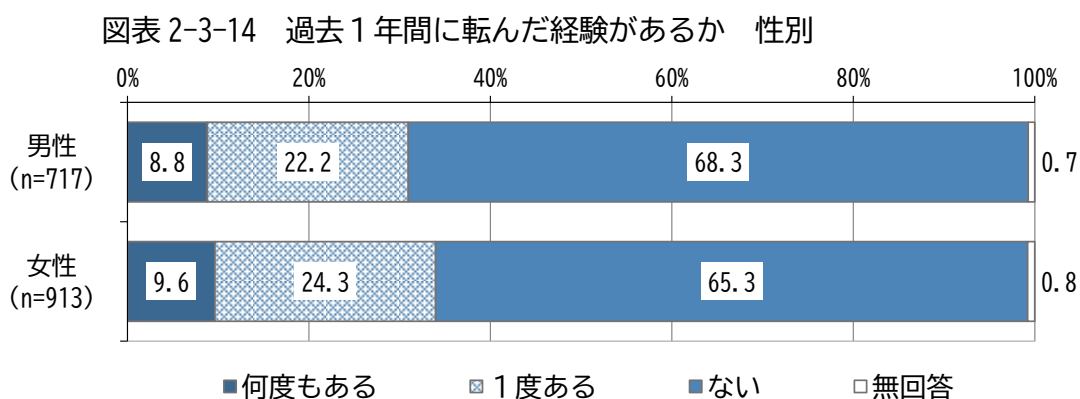
問2-4 過去1年間に転んだ経験がありますか (〇はひとつ)

過去1年間に転んだ経験があるかについては、「ない」が66.6%で最も高く、次いで「1度ある」が23.4%、「何度もある」が9.3%となっています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

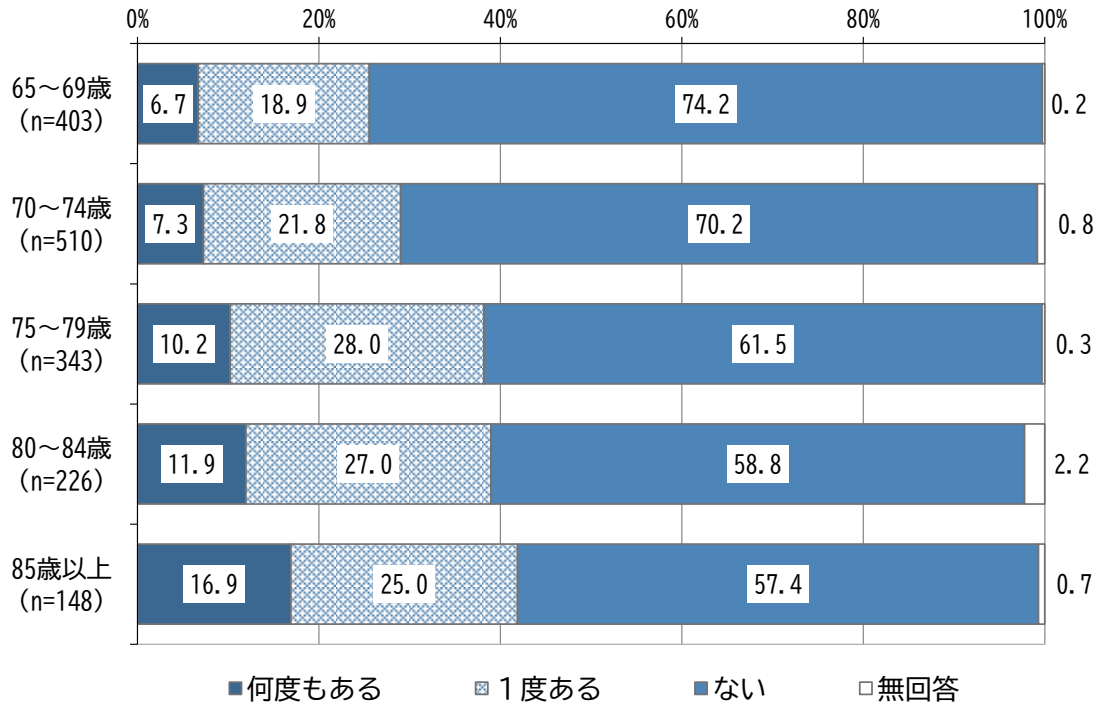


性別でみると、「何度もある」では、男性が8.8%、女性が9.6%となっています。



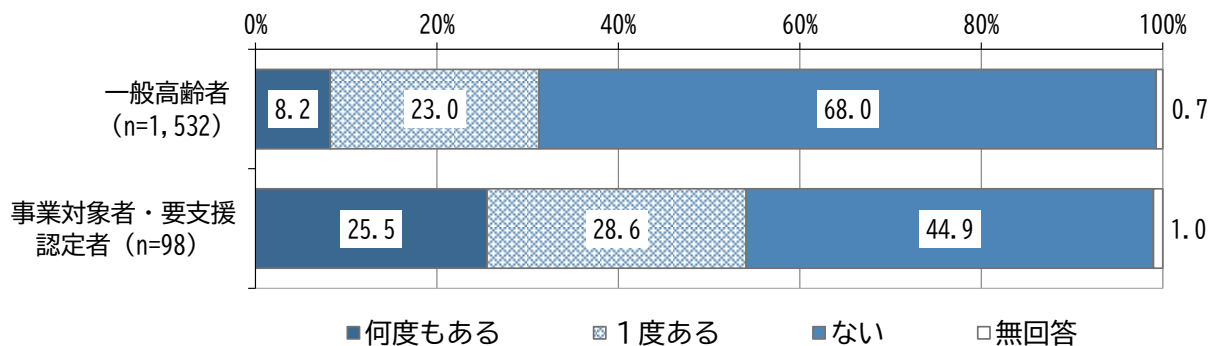
年齢別でみると、「何度もある」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が16.9%で最も高くなっています。

図表 2-3-15 過去1年間に転んだ経験があるか 年齢別



認定状況別でみると、「何度もある」では、一般高齢者が8.2%、事業対象者・要支援認定者が25.5%となっています。

図表 2-3-16 過去1年間に転んだ経験があるか 認定状況別



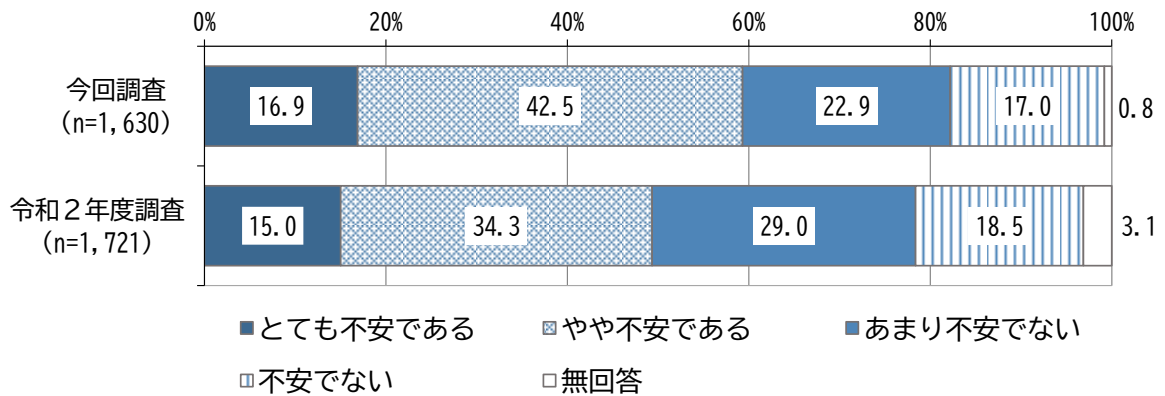
(5) 転倒に対する不安は大きいか

問2-5 転倒に対する不安は大きいですか（〇はひとつ）

転倒に対する不安は大きいかについては、「やや不安である」が42.5%で最も高く、次いで「あまり不安でない」が22.9%、「不安でない」が17.0%と続いています。

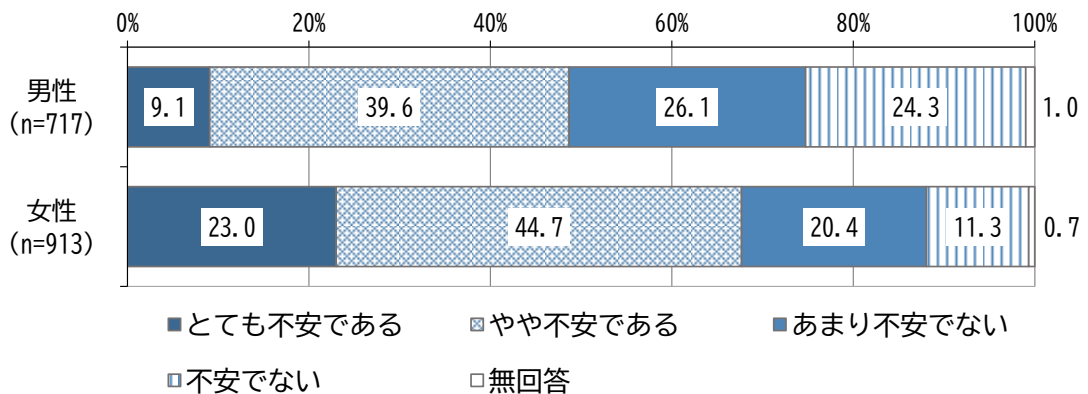
令和2（2020）年度調査と比較すると、『不安である』（「とても不安である」と「やや不安である」の合計）（59.4%）では、令和2（2020）年度調査（49.3%）より10.1ポイント増加しています。

図表 2-3-17 転倒に対する不安は大きいか

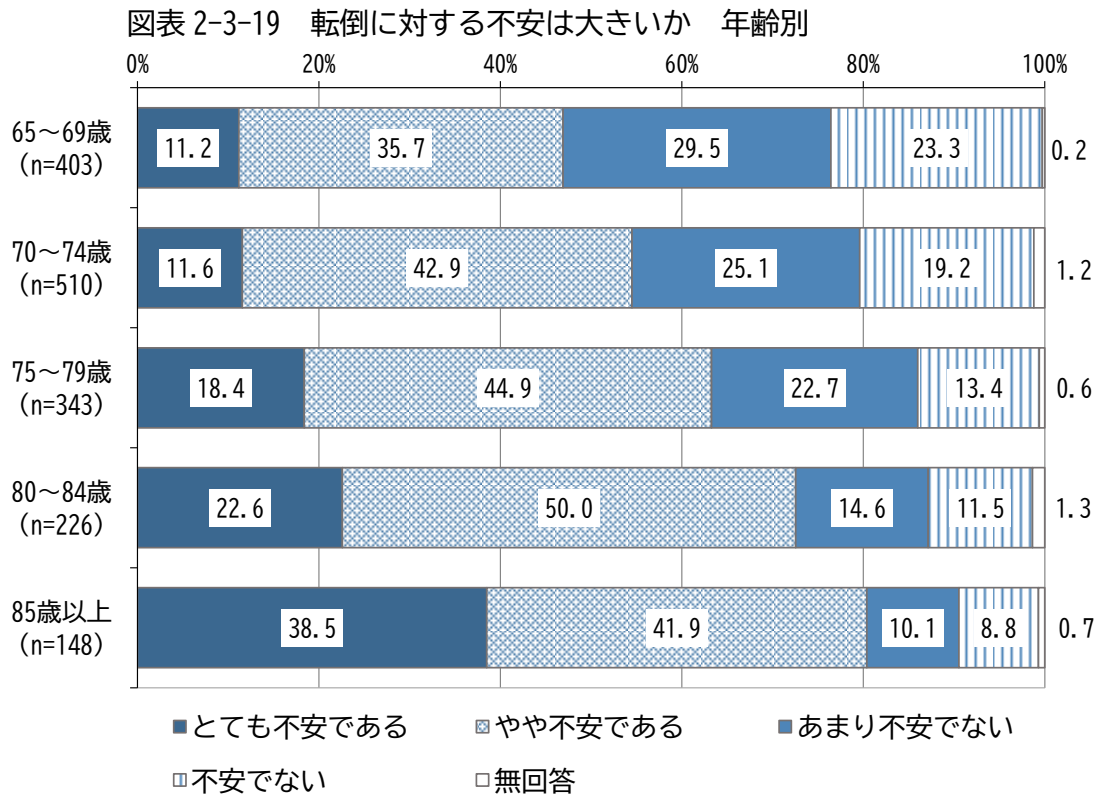


性別でみると、『不安である』では、男性が48.7%、女性が67.7%となっています。

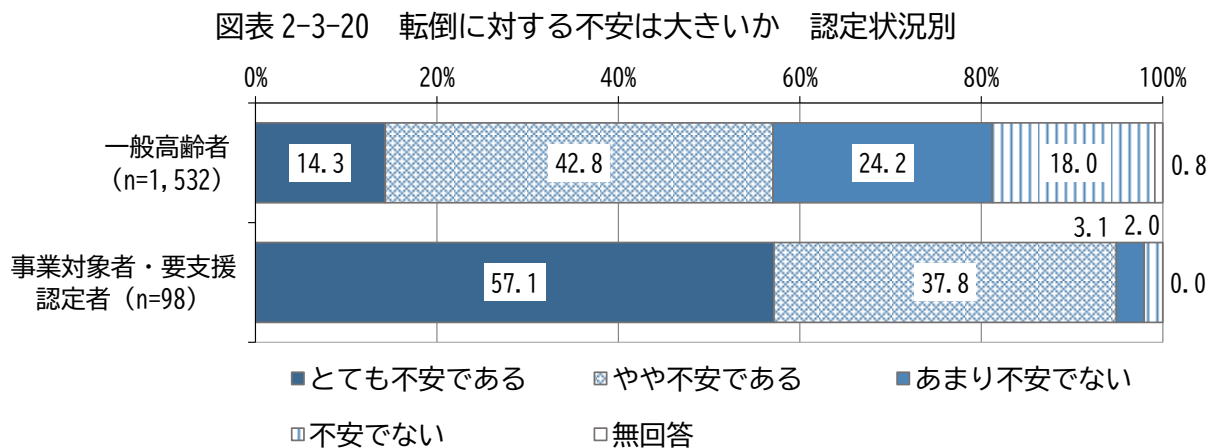
図表 2-3-18 転倒に対する不安は大きいか 性別



年齢別でみると、『不安である』では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が80.4%で最も高くなっています。



認定状況別でみると、『不安である』では、一般高齢者が57.1%、事業対象者・要支援認定者が94.9%となっています。

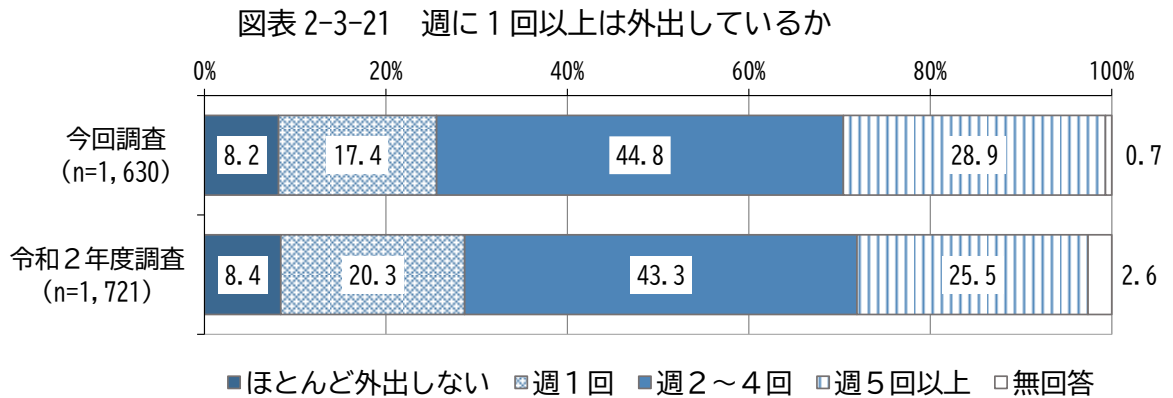


(6) 週に1回以上は外出しているか

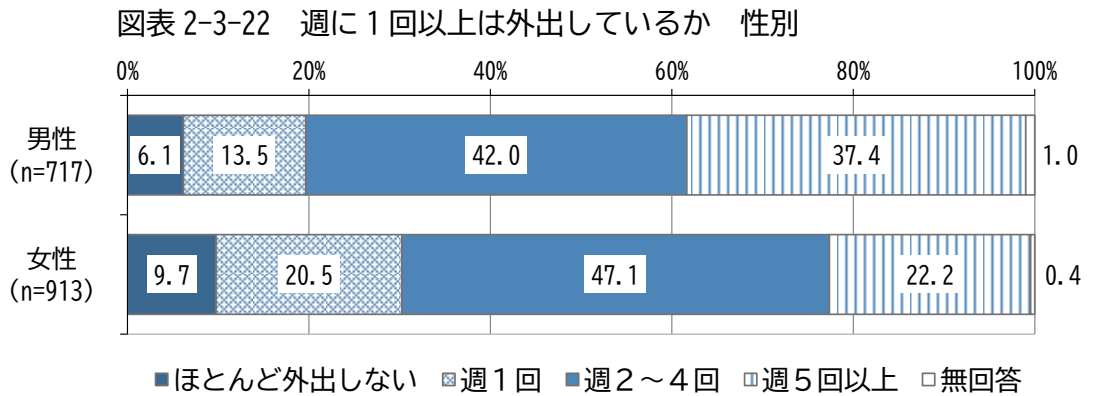
問2-6 週に1回以上は外出していますか (〇はひとつ)

週に1回以上は外出しているかについては、「週2～4回」が44.8%で最も高く、次いで「週5回以上」が28.9%、「週1回」が17.4%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「週5回以上」（28.9%）では、令和2（2020）年度調査（25.5%）より3.4ポイント増加しています。

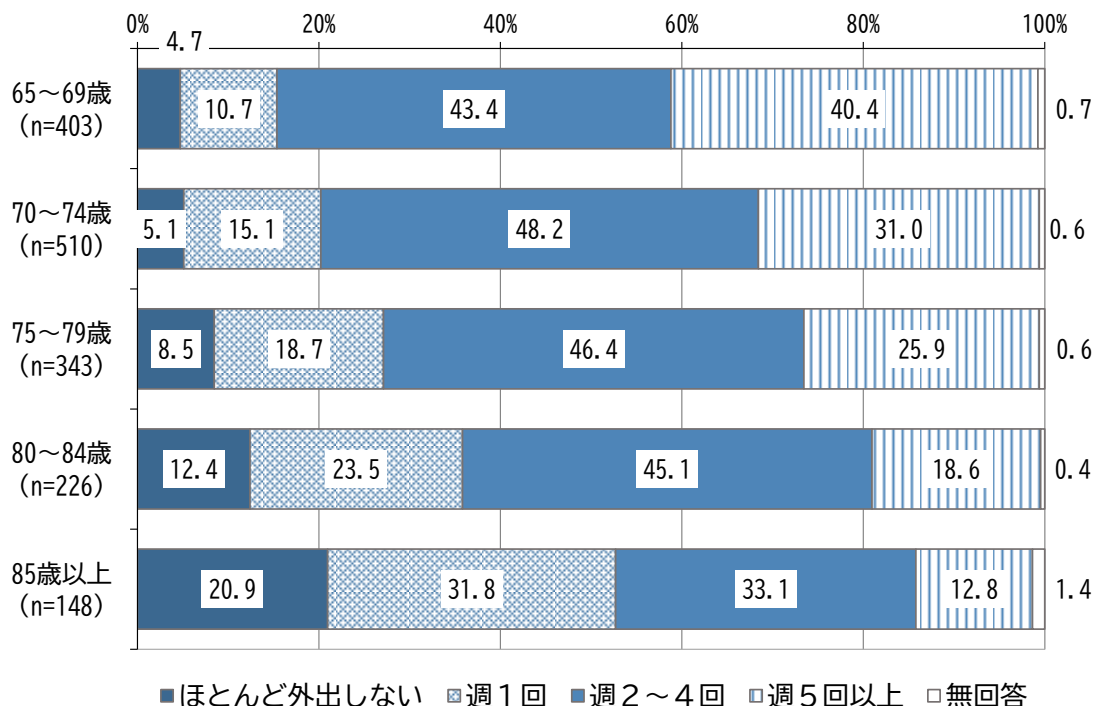


性別でみると、「ほとんど外出しない」では、男性が6.1%、女性が9.7%となっています。



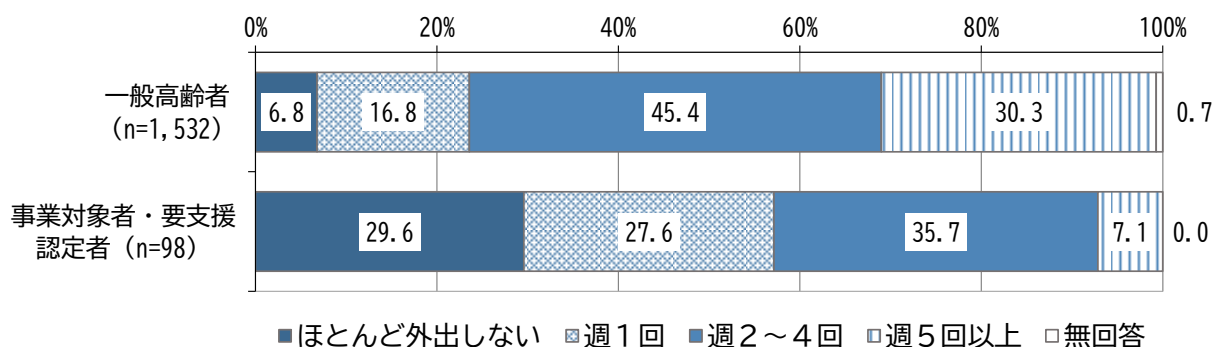
年齢別でみると、「ほとんど外出しない」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が20.9%で最も高くなっています。

図表 2-3-23 週に1回以上は外出しているか 年齢別



認定状況別でみると、「ほとんど外出しない」では、一般高齢者が6.8%、事業対象者・要支援認定者が29.6%となっています。

図表 2-3-24 週に1回以上は外出しているか 認定状況別



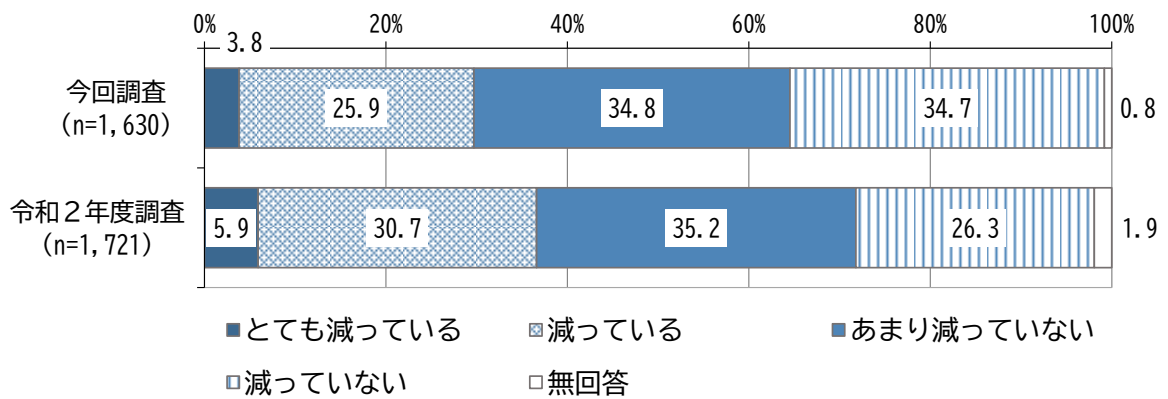
(7) 昨年と比べて外出の回数が減っているか

問2-7 昨年と比べて外出の回数が減っていますか（〇はひとつ）

昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、「あまり減っていない」が34.8%で最も高く、次いで「減っていない」が34.7%、「減っている」が25.9%と続いています。

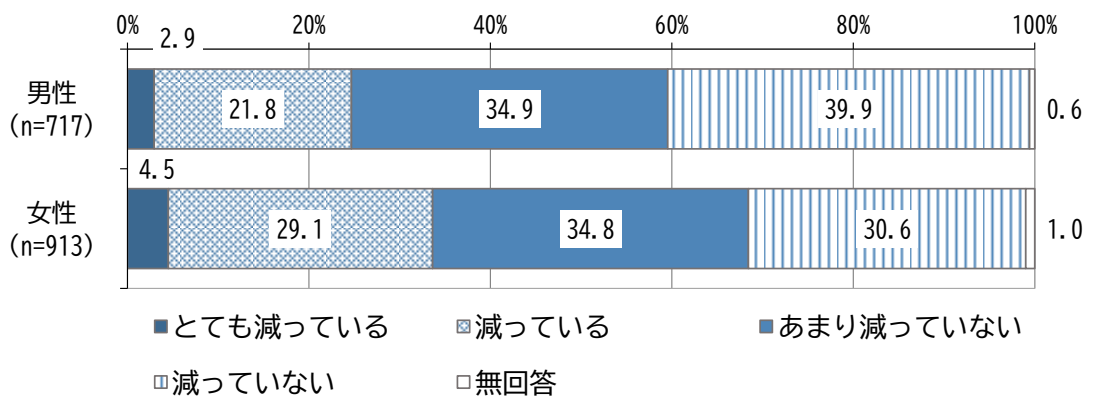
令和2（2020）年度調査と比較すると、「減っていない」（34.7%）では、令和2（2020）年度調査（26.3%）より8.4ポイント増加しています。

図表 2-3-25 昨年と比べて外出の回数が減っているか



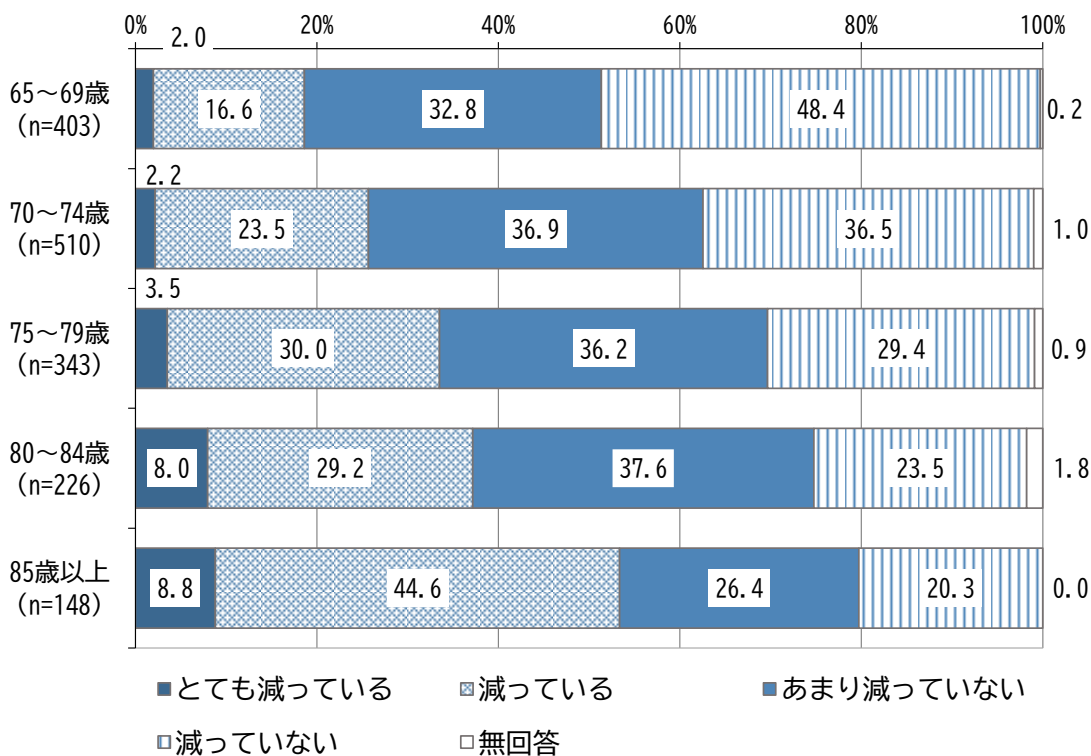
性別で見ると、『減っている』（「とても減っている」と「減っている」の合計）では、男性が24.7%、女性が33.6%となっています。

図表 2-3-26 昨年と比べて外出の回数が減っているか 性別



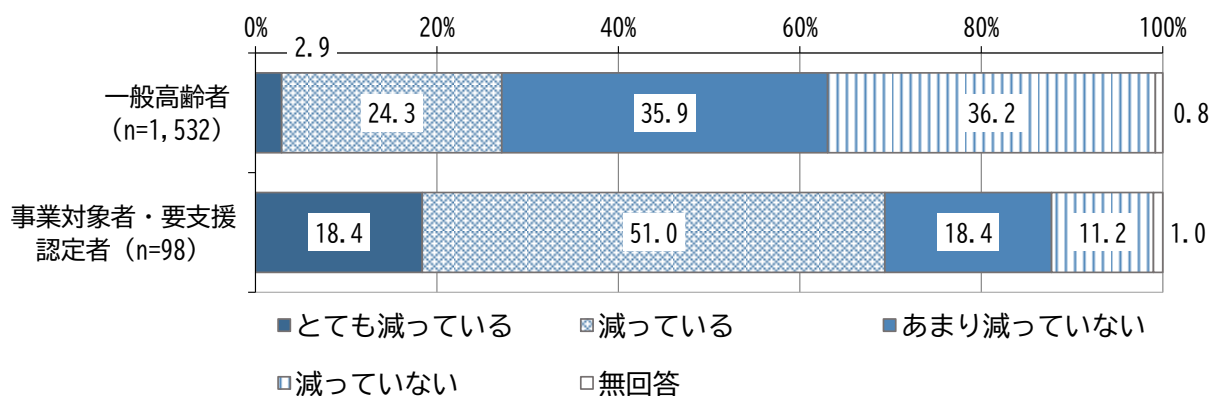
年齢別でみると、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が53.4%となっています。

図表 2-3-27 昨年と比べて外出の回数が減っているか 年齢別



認定状況別でみると、一般高齢者が27.2%、事業対象者・要支援認定者が69.4%となっています。

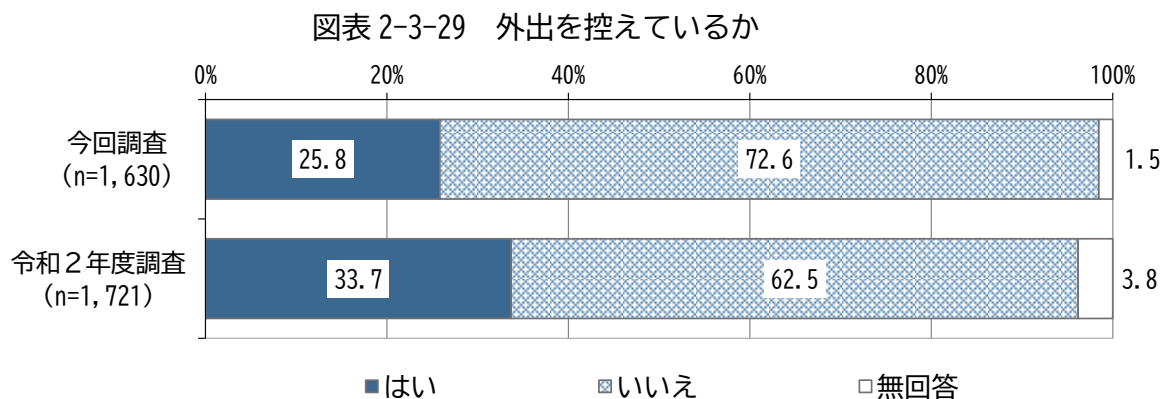
図表 2-3-28 昨年と比べて外出の回数が減っているか 認定状況別



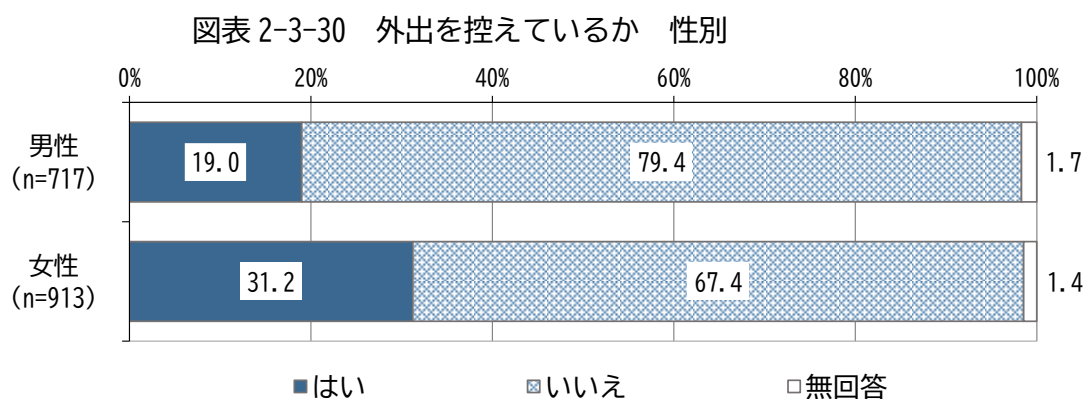
(8) 外出を控えているか

問2-8 外出を控えていますか (○はひとつ)

外出を控えているかについては、「はい」が25.8%、「いいえ」が72.6%となっています。
 令和2(2020)年度調査と比較すると、「いいえ」(72.6%)では、令和2(2020)年度調査(62.5%)より10.1ポイント増加しています。

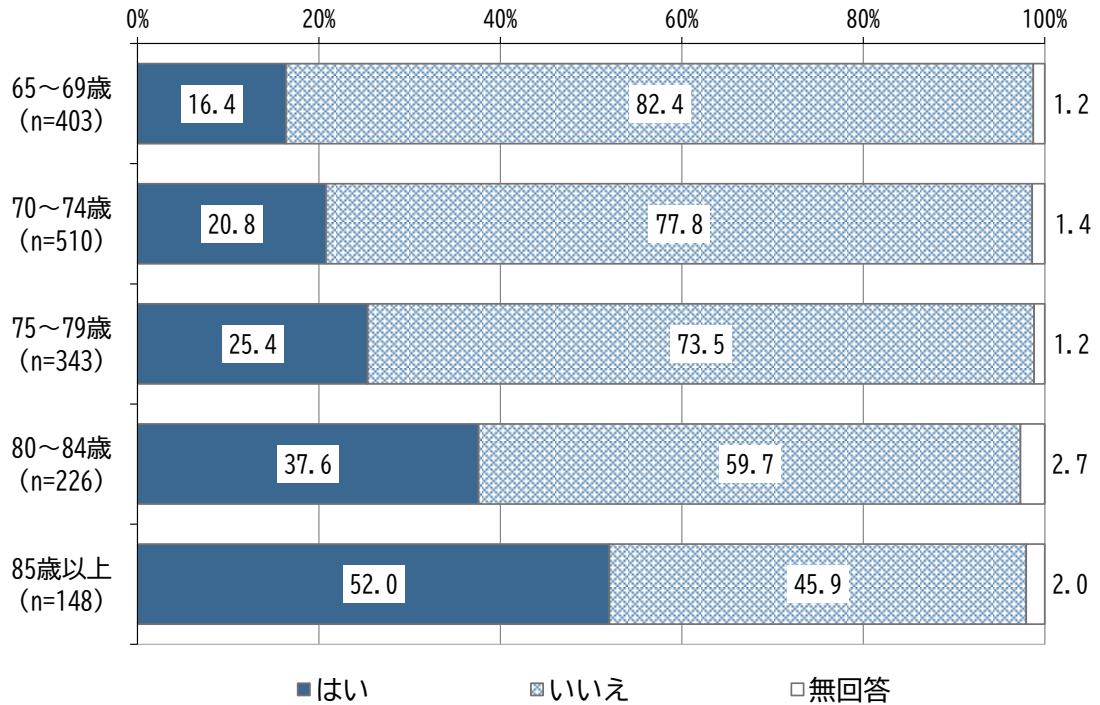


性別でみると、「はい」では、男性が19.0%、女性が31.2%となっています。



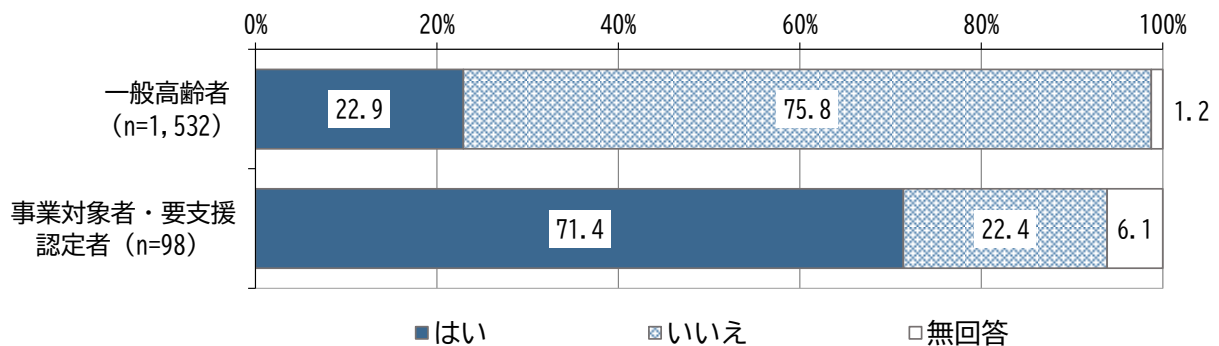
年齢別でみると、「はい」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が52.0%で最も高くなっています。

図表 2-3-31 外出を控えているか 年齢別



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が22.9%、事業対象者・要支援認定者が71.4%となっています。

図表 2-3-32 外出を控えているか 認定状況別



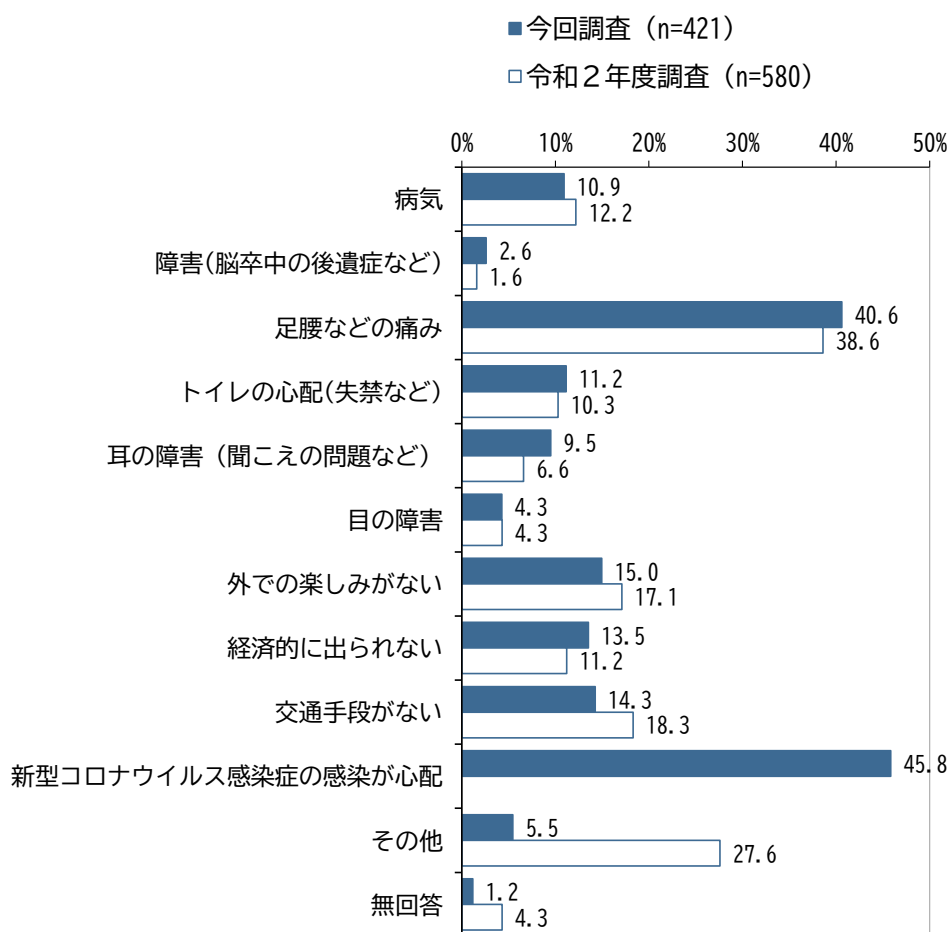
(9) 外出を控えている理由

問2-8で「はい」を回答された方のみ

問2-8-1 外出を控えている理由は、次のどれですか（〇はいくつでも）

外出を控えている理由については、「新型コロナウイルス感染症の感染が心配」が45.8%で最も高く、次いで「足腰などの痛み」が40.6%、「外での楽しみがない」が15.0%と続いています。

図表 2-3-33 外出を控えている理由



※ 「新型コロナウイルス感染症の感染が心配」は今回調査からの選択肢

性別でみると、男性では「新型コロナウイルス感染症の感染が心配」が45.6%で最も高く、女性では「足腰などの痛み」、「新型コロナウイルス感染症の感染が心配」がいずれも46.0%で最も高くなっています。

年齢別でみると、「足腰などの痛み」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が59.7%で最も高くなっています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「新型コロナウイルス感染症の感染が心配」が48.7%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「足腰などの痛み」が72.9%で最も高くなっています。

図表 2-3-34 外出を控えている理由 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	病 気	障 害 （ 脳 卒 中 の 後 遺 症 ）	足 腰 な ど の 痛 み	ト イ レ の 心 配 （ 失 禁 な ど ）	耳 の 障 害 （ 聞 こ え の 問 題 な ど ）	目 の 障 害	外 で の 楽 し み が な い	経 済 的 に 出 ら れ な い	交 通 手 段 が な い	新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症 の 感 染 が 心 配
全体		421	10.9	2.6	40.6	11.2	9.5	4.3	15.0	13.5	14.3	45.8
性別	男性	136	16.2	2.2	29.4	8.8	10.3	5.9	19.9	15.4	10.3	45.6
	女性	285	8.4	2.8	46.0	12.3	9.1	3.5	12.6	12.6	16.1	46.0
年齢別	65～69歳	66	15.2	4.5	21.2	6.1	4.5	4.5	13.6	24.2	6.1	48.5
	70～74歳	106	9.4	4.7	27.4	12.3	5.7	3.8	12.3	17.9	9.4	56.6
	75～79歳	87	16.1	3.4	46.0	16.1	8.0	1.1	16.1	10.3	12.6	46.0
	80～84歳	85	10.6	0.0	49.4	7.1	12.9	5.9	10.6	10.6	22.4	41.2
	85歳以上	77	3.9	0.0	59.7	13.0	16.9	6.5	23.4	5.2	20.8	33.8
状況別	一般高齢者	351	10.5	2.3	34.2	9.1	7.4	4.0	14.8	13.7	12.3	48.7
	事業対象者・要支援認定者	70	12.9	4.3	72.9	21.4	20.0	5.7	15.7	12.9	24.3	31.4

		合計	そ の 他	無 回 答
全体		421	5.5	1.2
性別	男性	136	5.1	1.5
	女性	285	5.6	1.1
年齢別	65～69歳	66	6.1	0.0
	70～74歳	106	5.7	1.9
	75～79歳	87	2.3	0.0
	80～84歳	85	8.2	2.4
	85歳以上	77	5.2	1.3
状況別	一般高齢者	351	6.3	1.1
	事業対象者・要支援認定者	70	1.4	1.4

※網掛け■は最も割合が高いもの

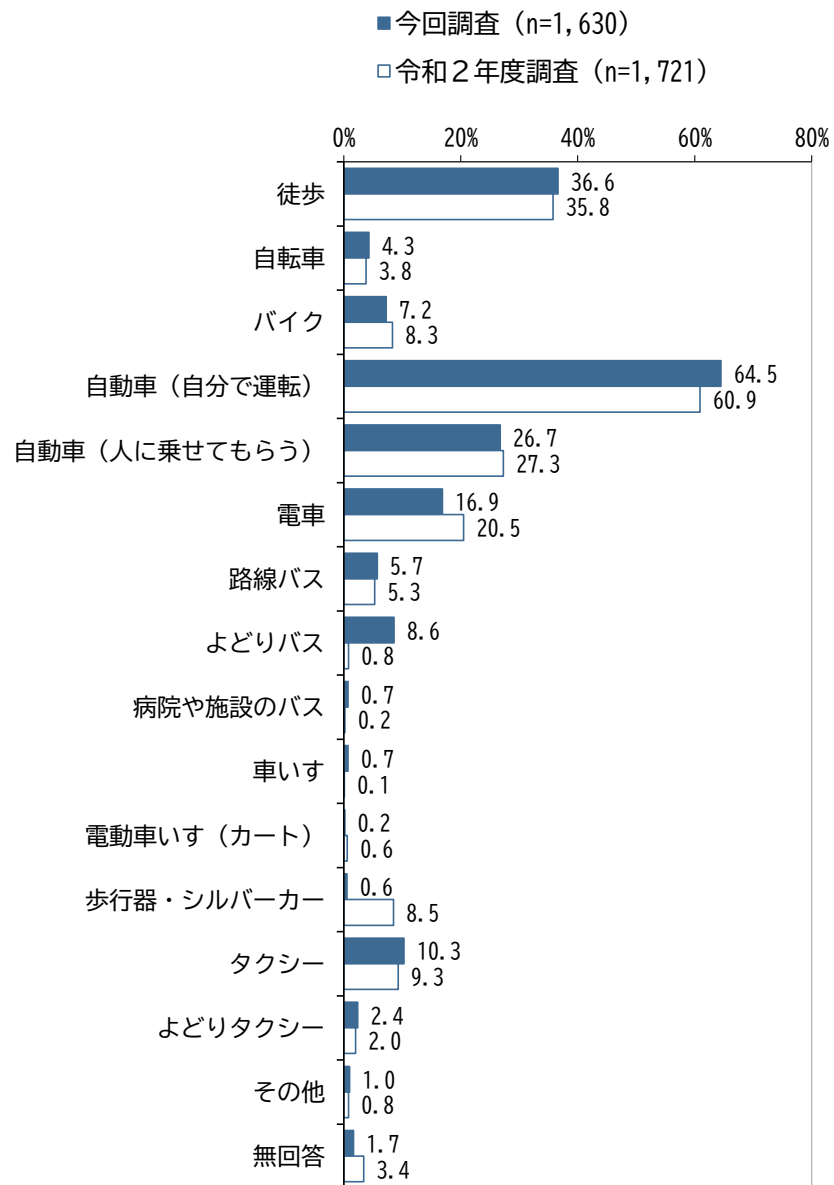
(10) 外出する際の移動手段

問2-9 外出する際の移動手段は何ですか（〇はいくつでも）

外出する際の移動手段については、「自動車（自分で運転）」が64.5%で最も高く、次いで「徒歩」が36.6%、「自動車（人に乗せてもらう）」が26.7%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「よどりバス」（8.6%）では、令和2（2020）年度調査（0.8%）より7.8ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-3-35 外出する際の移動手段



性別でみると、男性・女性いずれも「自動車（自分で運転）」の割合が最も高くなっています。

年齢別でみると、79歳以下では「自動車（自分で運転）」の割合が最も高く、80～84歳では「徒歩」の割合が最も高く、85歳以上では「自動車（人に乗せてもらう）」の割合が最も高くなっています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「自動車（自分で運転）」が67.4%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「自動車（人に乗せてもらう）」が48.0%で最も高くなっています。

図表 2-3-36 外出する際の移動手段 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	徒歩	自転車	バイク	自動車 （自分で運転）	自動車 （人に乗せても らう）	電車	路線バス	よどりバス	病院や施設のバス	車いす
全体		1,630	36.6	4.3	7.2	64.5	26.7	16.9	5.7	8.6	0.7	0.7
性別	男性	717	35.7	4.9	8.2	81.0	15.5	13.9	3.6	4.2	0.3	0.4
	女性	913	37.3	3.8	6.5	51.5	35.6	19.2	7.3	12.0	1.1	1.0
年齢別	65～69歳	403	39.2	5.7	9.7	78.9	22.1	18.9	3.5	4.5	0.0	0.0
	70～74歳	510	31.2	4.9	5.5	72.9	24.3	16.5	4.9	4.9	0.4	0.4
	75～79歳	343	37.9	4.1	9.0	66.2	24.8	16.6	5.8	9.3	0.3	0.9
	80～84歳	226	43.4	1.3	7.5	42.0	32.3	19.0	10.2	16.8	2.2	1.3
	85歳以上	148	35.1	3.4	2.0	26.4	43.9	10.1	7.4	18.2	2.7	2.7
状況別	一般高齢者	1,532	37.5	4.5	7.6	67.4	25.4	17.3	5.6	8.1	0.4	0.8
	事業対象者・要支援認定者	98	22.4	1.0	1.0	18.4	48.0	10.2	7.1	16.3	6.1	0.0

		合計	電動車いす （カート）	歩行器・シルバーカー	タクシー	よどりタクシー	その他	無回答
全体		1,630	0.2	0.6	10.3	2.4	1.0	1.7
性別	男性	717	0.0	0.3	4.6	0.7	0.3	1.7
	女性	913	0.3	0.8	14.8	3.7	1.5	1.6
年齢別	65～69歳	403	0.2	0.0	3.0	0.7	0.5	0.7
	70～74歳	510	0.2	0.4	6.5	0.8	0.6	2.5
	75～79歳	343	0.0	0.3	8.7	1.2	2.6	0.9
	80～84歳	226	0.0	1.3	24.3	8.0	0.4	2.2
	85歳以上	148	0.7	2.0	25.7	6.8	0.7	2.0
状況別	一般高齢者	1,532	0.1	0.3	8.2	1.9	0.8	1.6
	事業対象者・要支援認定者	98	1.0	4.1	43.9	10.2	4.1	2.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

4 食べることについて

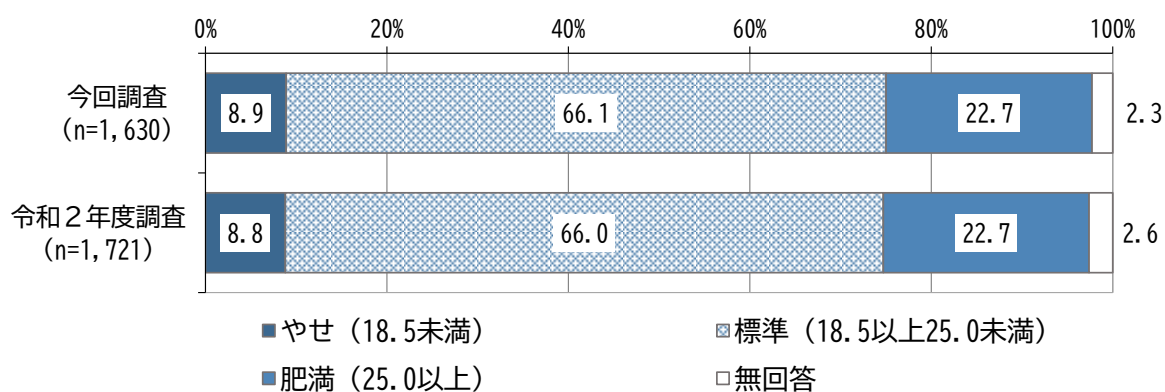
(1) BMI

問3-1 身長・体重（数字を記入）（小数点以下は四捨五入）

BMI（身長・体重より算出）については、「標準（18.5以上25.0未満）」が66.1%で最も高く、次いで「肥満（25.0以上）」が22.7%、「やせ（18.5未満）」が8.9%となっています。

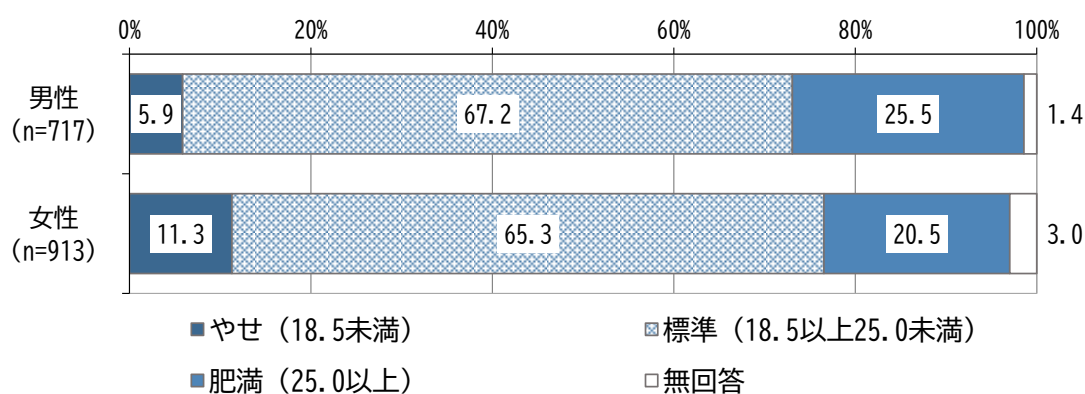
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表2-4-1 BMI



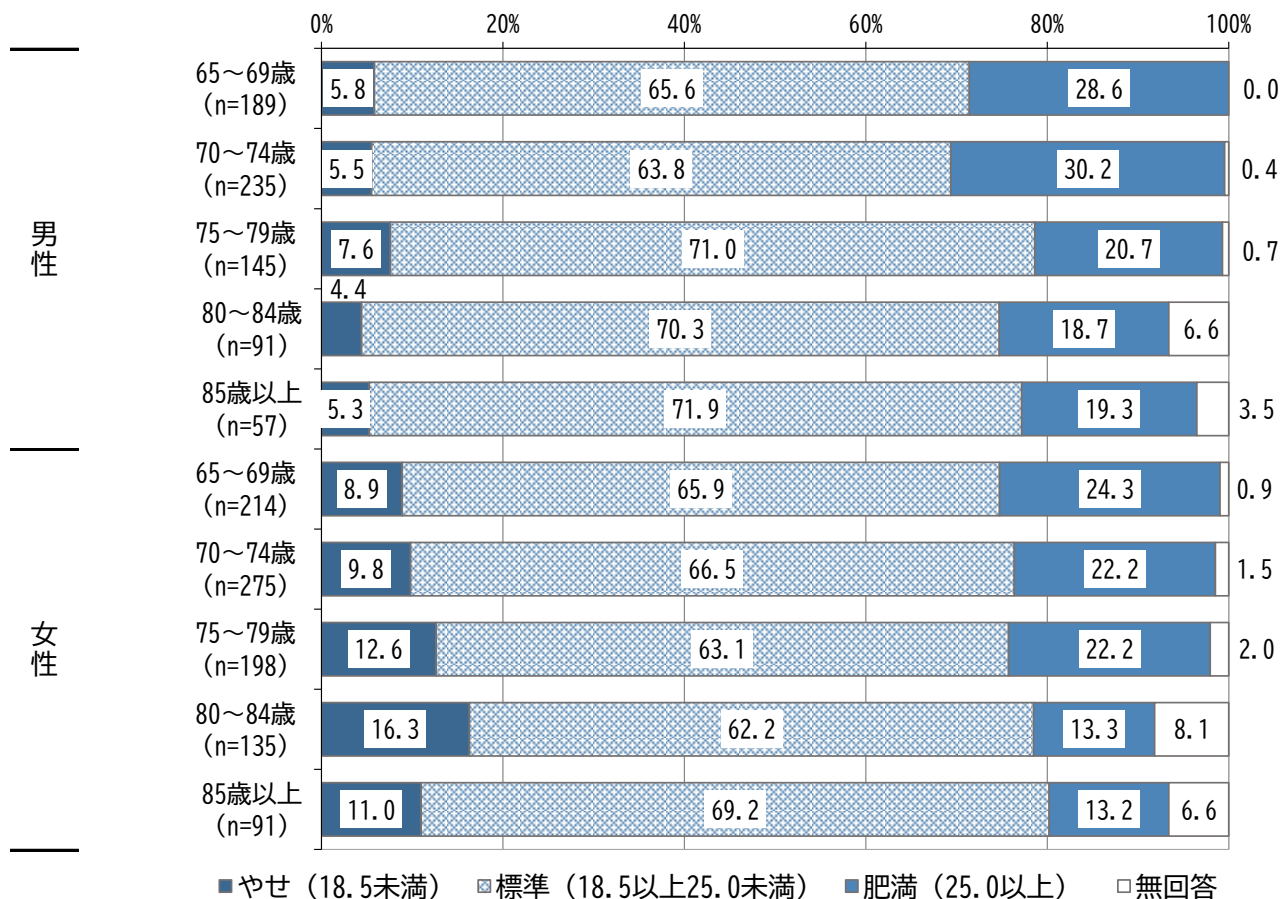
性別で見ると、「肥満（25.0以上）」では、男性が25.5%、女性が20.5%となっています。

図表2-4-2 BMI 性別



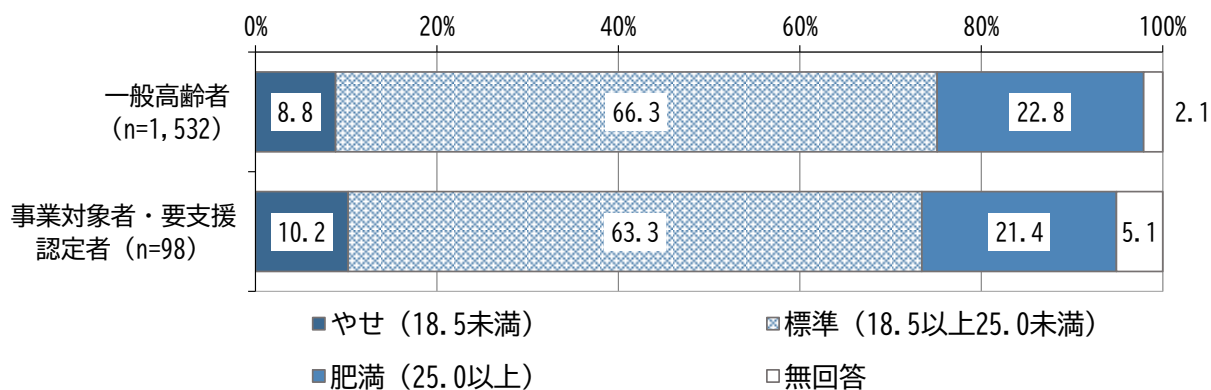
性別・年齢別でみると、「肥満（25.0 以上）」では、男性・70～74 歳が 30.2%で最も高く、「やせ（18.5 未満）」では、女性・80～84 歳が 16.3%で最も高くなっています。

図表 2-4-3 BMI 性別・年齢別



認定状況別でみると、「肥満（25.0 以上）」では、一般高齢者が 22.8%、事業対象者・要支援認定者が 21.4%となっています。

図表 2-4-4 BMI 認定状況別



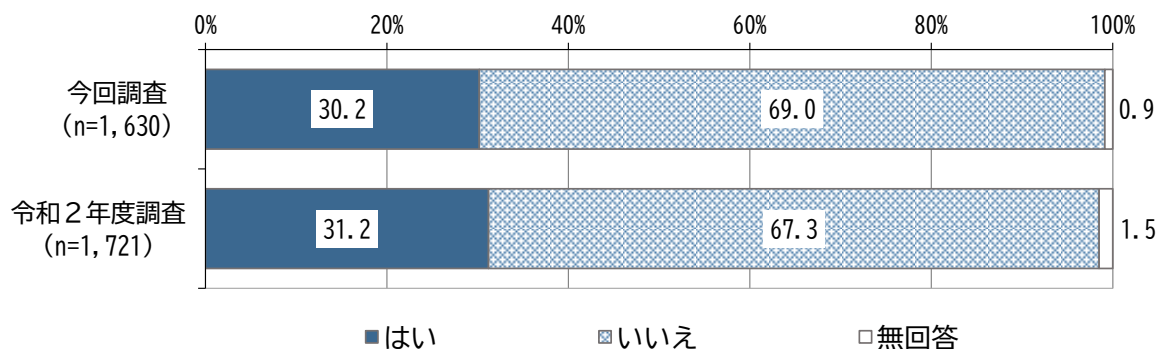
(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか

問3-2 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (○はひとつ)

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについては、「はい」が30.2%、「いいえ」が69.0%となっています。

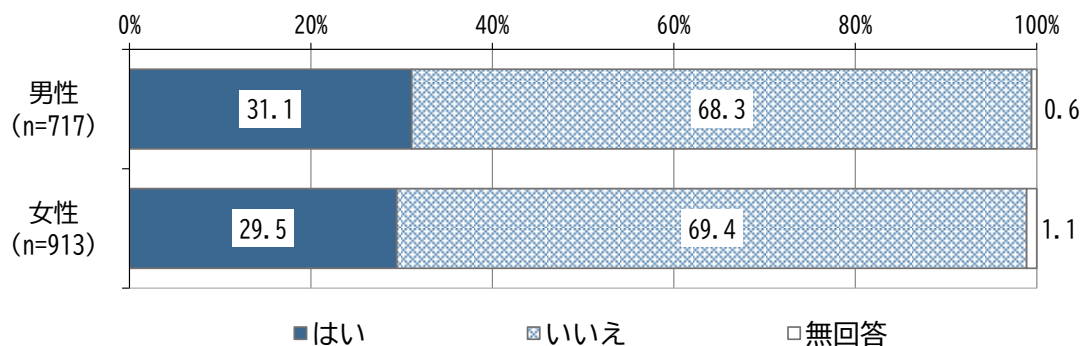
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-4-5 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか



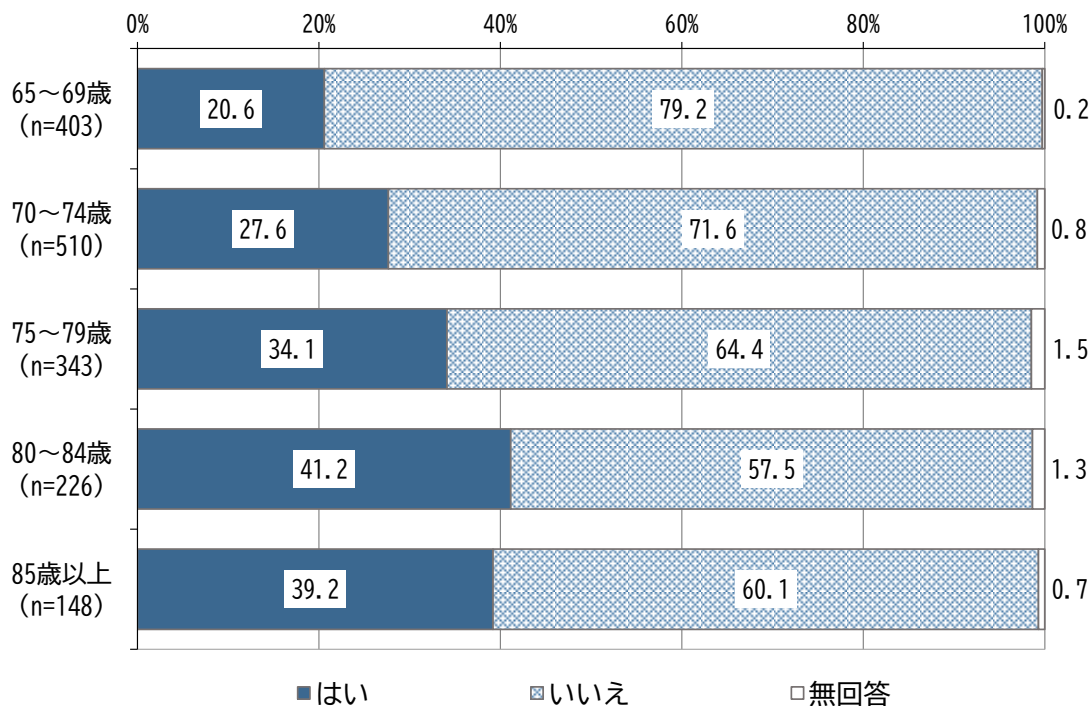
性別でみると、「はい」では、男性が31.1%、女性が29.5%となっています。

図表 2-4-6 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか 性別



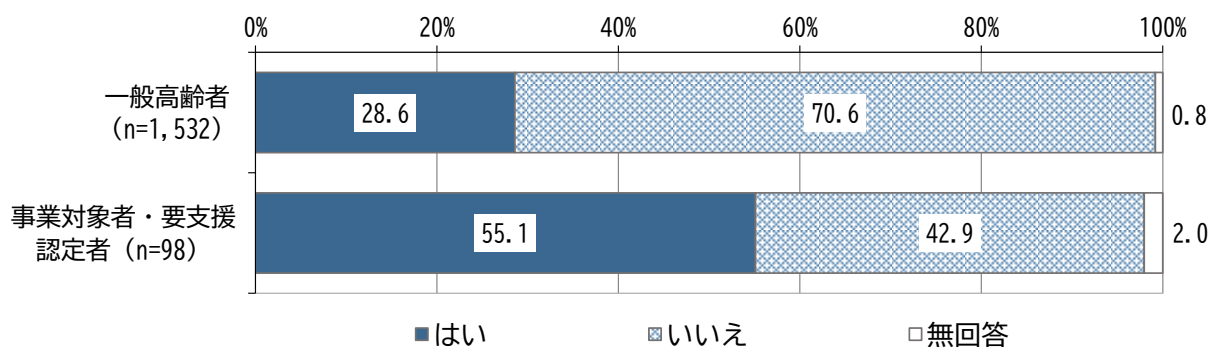
年齢別でみると、「はい」では、84歳以下で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、80～84歳が41.2%で最も高くなっています。

図表 2-4-7 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか 年齢別



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が28.6%、事業対象者・要支援認定者が55.1%となっています。

図表 2-4-8 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか 認定状況別



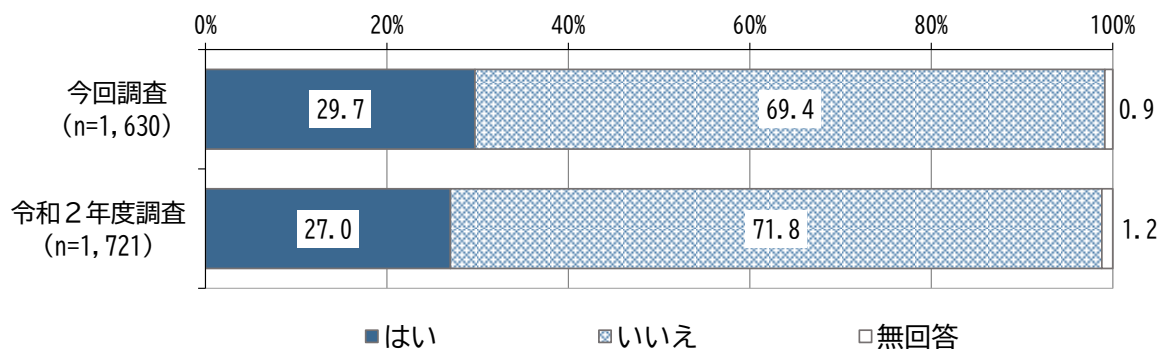
(3) お茶や汁物等でむせることがあるか

問3-3 お茶や汁物等でむせることがありますか (〇はひとつ)

お茶や汁物等でむせることがあるかについては、「はい」が29.7%、「いいえ」が69.4%となっています。

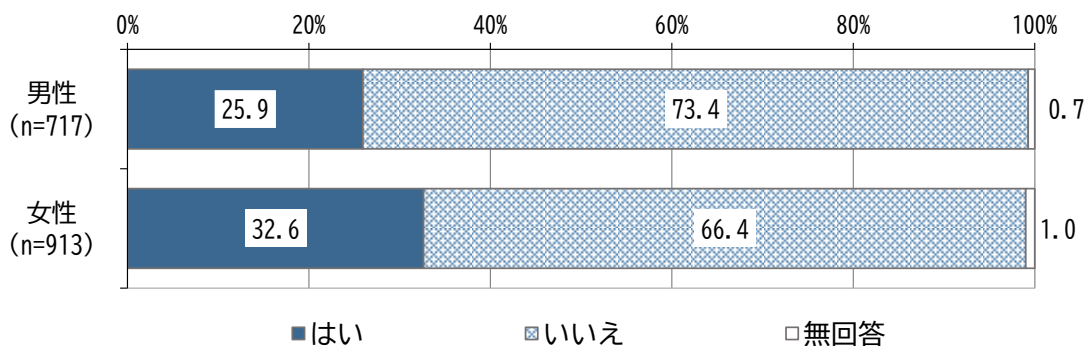
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-4-9 お茶や汁物等でむせることがあるか



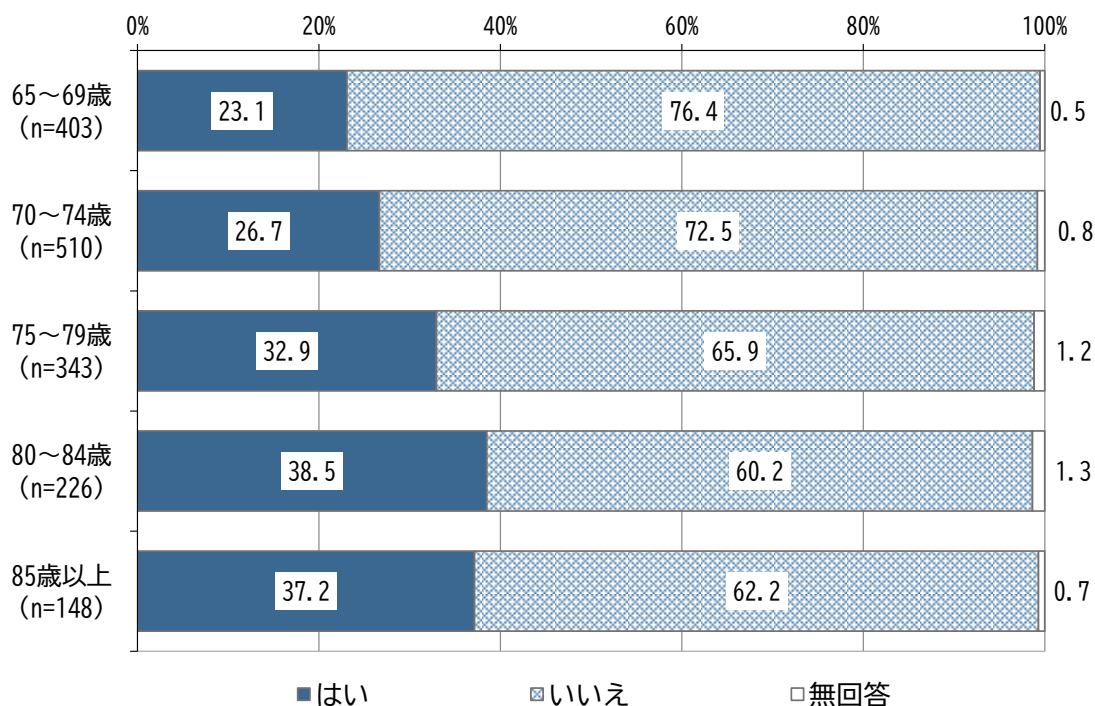
性別でみると、「はい」では、男性が25.9%、女性が32.6%となっています。

図表 2-4-10 お茶や汁物等でむせることがあるか 性別



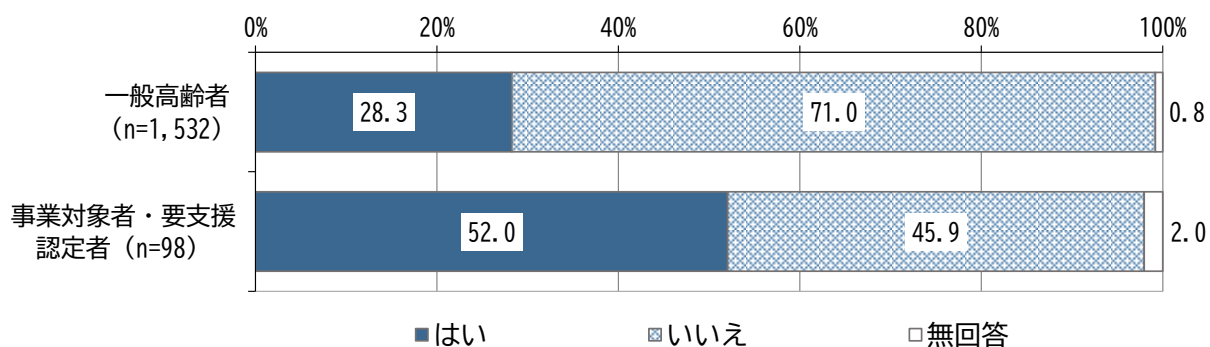
年齢別でみると、「はい」では、84歳以下で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、80～84歳が38.5%で最も高くなっています。

図表 2-4-11 お茶や汁物等でむせることがあるか 年齢別



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が28.3%、事業対象者・要支援認定者が52.0%となっています。

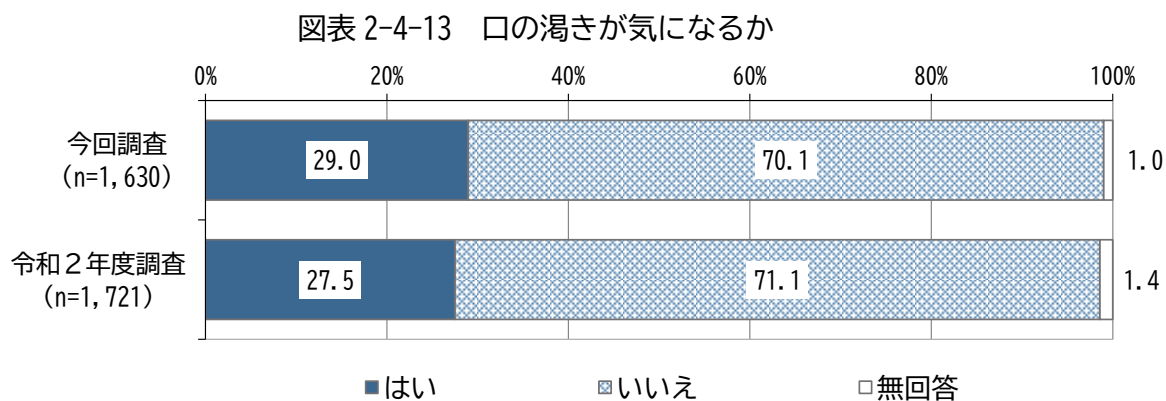
図表 2-4-12 お茶や汁物等でむせることがあるか 認定状況別



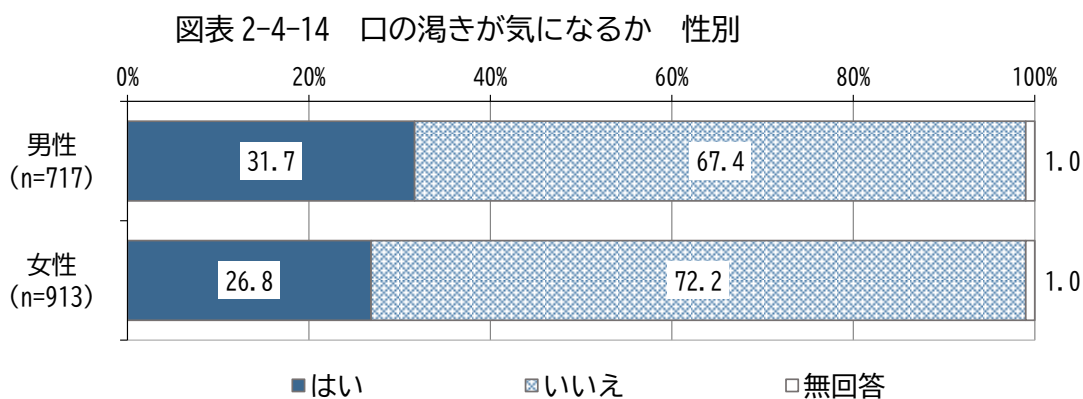
(4) 口の渇きが気になるか

問3-4 口の渇きが気になりますか (○はひとつ)

口の渇きが気になるかについては、「はい」が29.0%、「いいえ」が70.1%となっています。
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

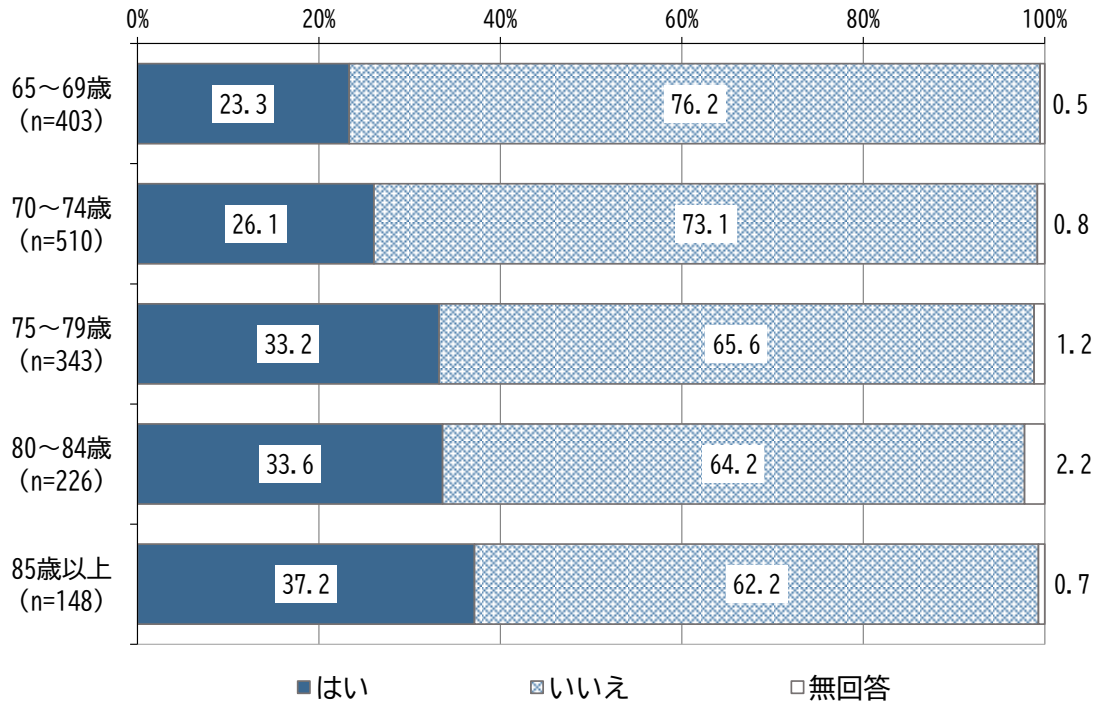


性別でみると、「はい」では、男性が31.7%、女性が26.8%となっています。



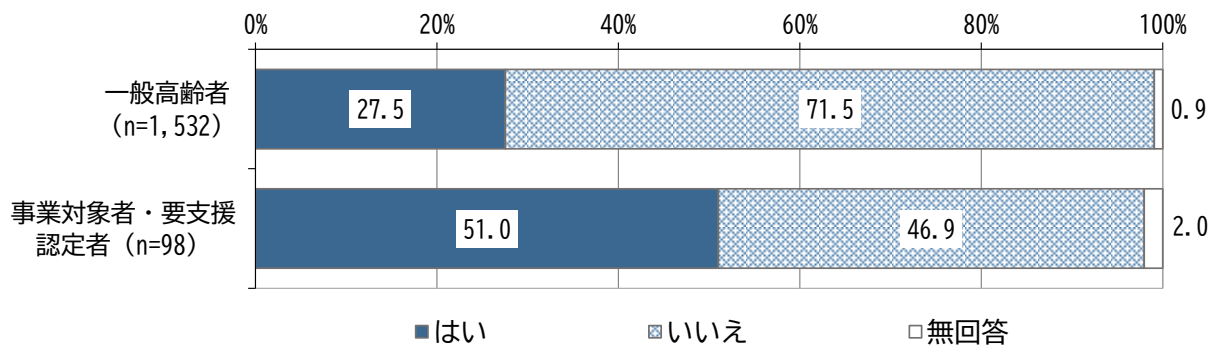
年齢別でみると、「はい」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が37.2%で最も高くなっています。

図表 2-4-15 口の渇きが気になるか 年齢別



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が27.5%、事業対象者・要支援認定者が51.0%となっています。

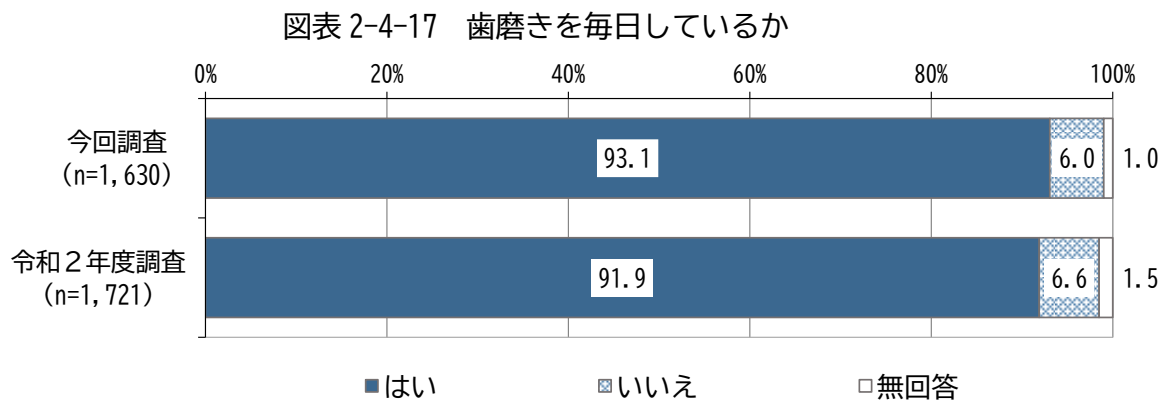
図表 2-4-16 口の渇きが気になるか 認定状況別



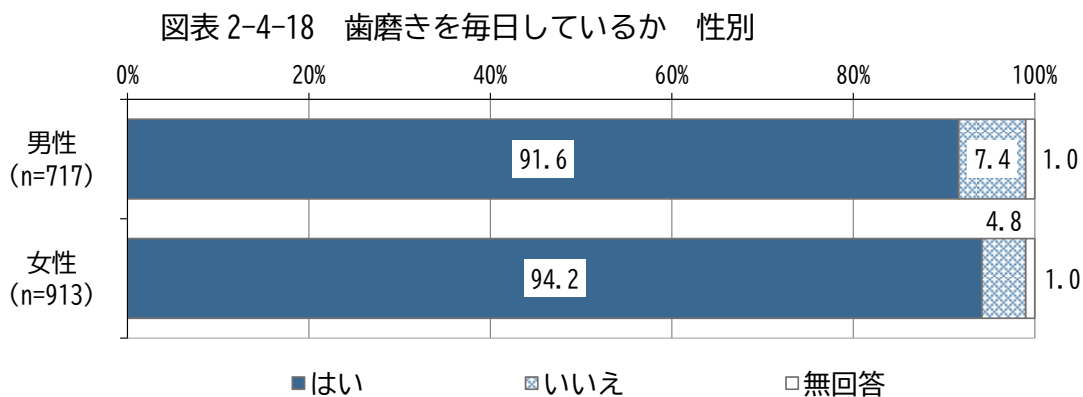
(5) 歯磨きを毎日しているか

問3-5 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか（〇はひとつ）

歯磨きを毎日しているかについては、「はい」が93.1%、「いいえ」が6.0%となっています。
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

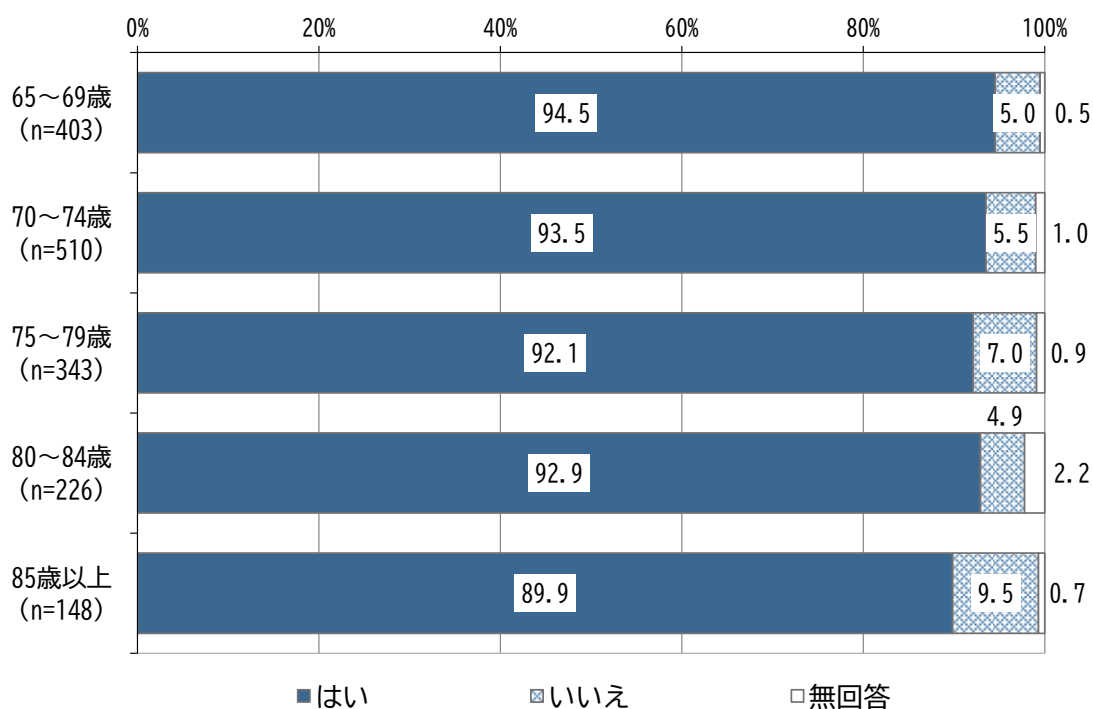


性別でみると、「いいえ」では、男性が7.4%、女性が4.8%となっています。



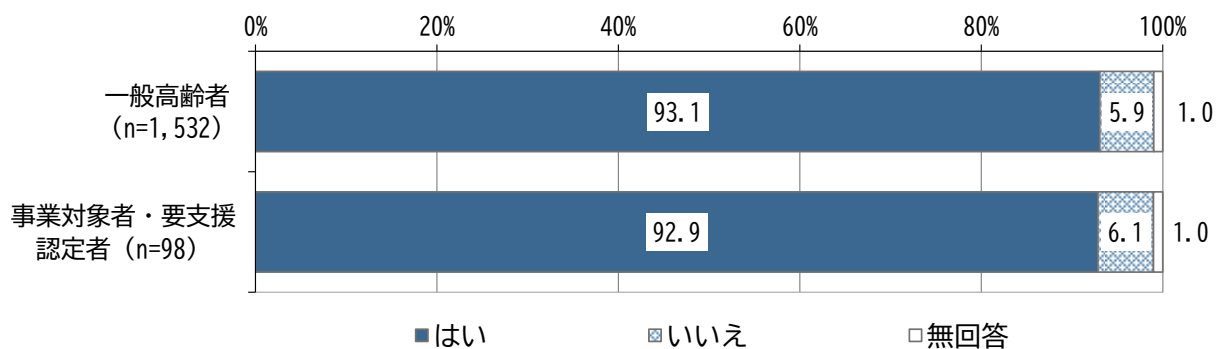
年齢別でみると、「いいえ」では、85歳以上が9.5%で最も高くなっています。

図表 2-4-19 歯磨きを毎日しているか 年齢別



認定状況別でみると、「いいえ」では、一般高齢者が5.9%、事業対象者・要支援認定者が6.1%となっています。

図表 2-4-20 歯磨きを毎日しているか 認定状況別



(6) 歯の数と入れ歯の利用状況

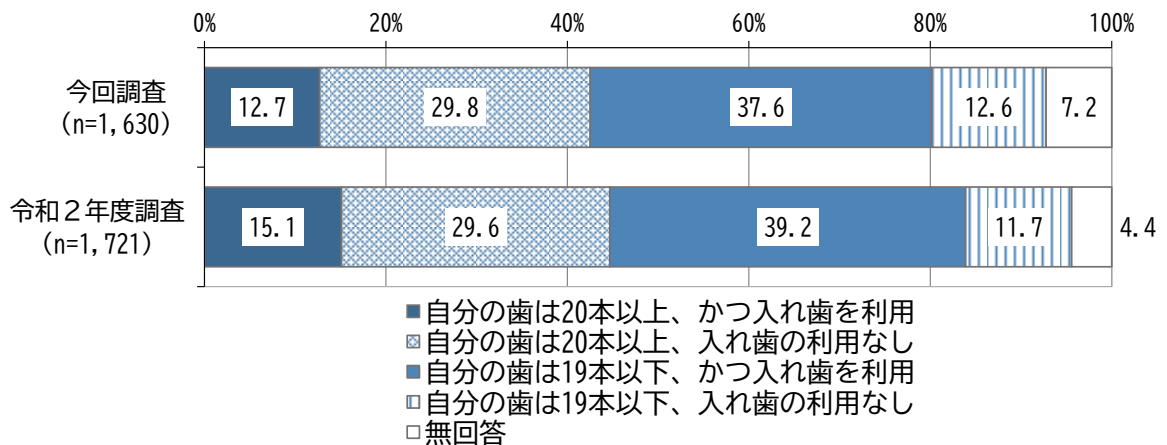
問3-6 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください（〇はひとつ）

（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です）

歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が37.6%で最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が29.8%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が12.7%と続いています。

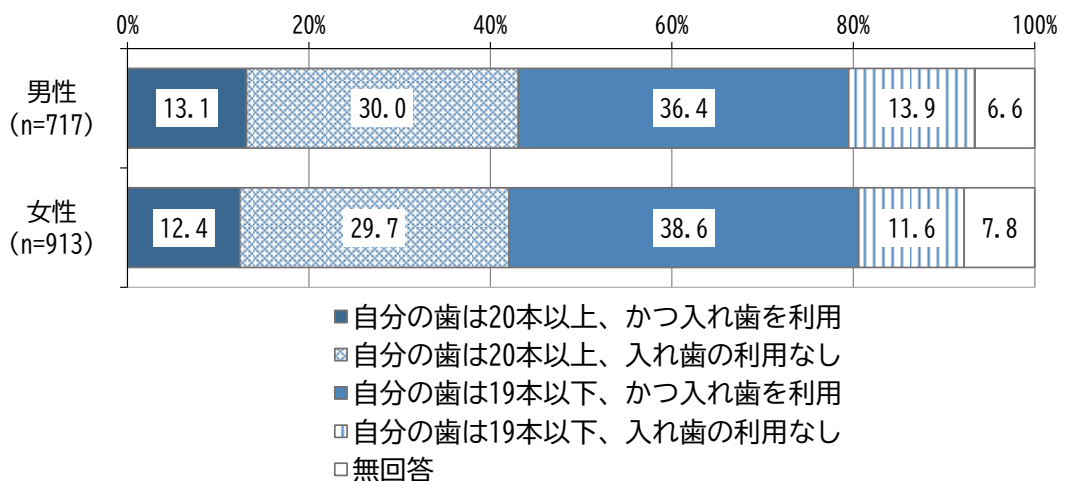
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-4-21 歯の数と入れ歯の利用状況



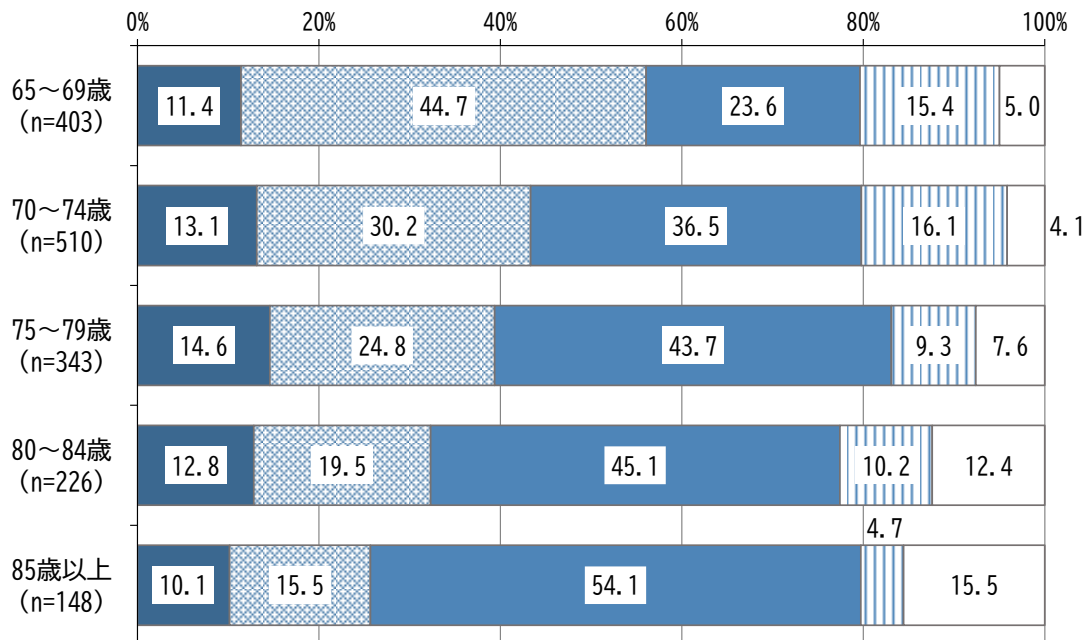
性別でみると、男性・女性いずれも「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が最も高くなっています。

図表 2-4-22 歯の数と入れ歯の利用状況 性別



年齢別でみると、『自分の歯は20本以上』（「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の合計）では、年齢が上がるにつれて割合が減少しており、65～69歳が56.1%で最も高くなっています。

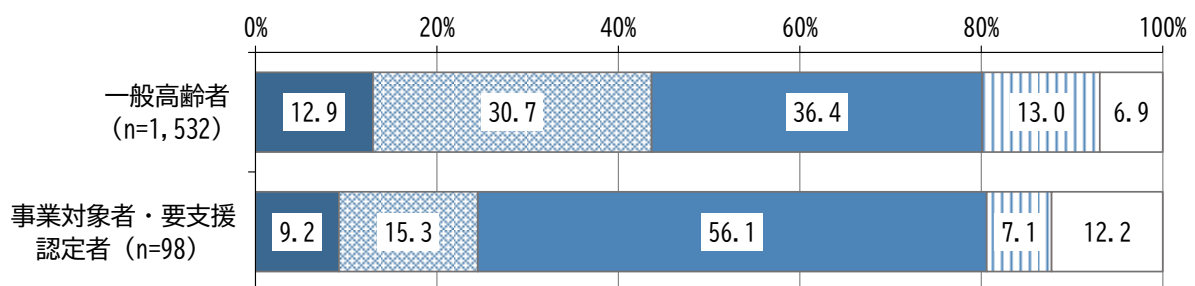
図表 2-4-23 歯の数と入れ歯の利用状況 年齢別



- 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用
- ▨ 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
- 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用
- ▨ 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし
- 無回答

認定状況別でみると、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」では、一般高齢者が13.0%、事業対象者・要支援認定者が7.1%となっています。

図表 2-4-24 歯の数と入れ歯の利用状況 認定状況別



- 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用
- ▨ 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
- 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用
- ▨ 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし
- 無回答

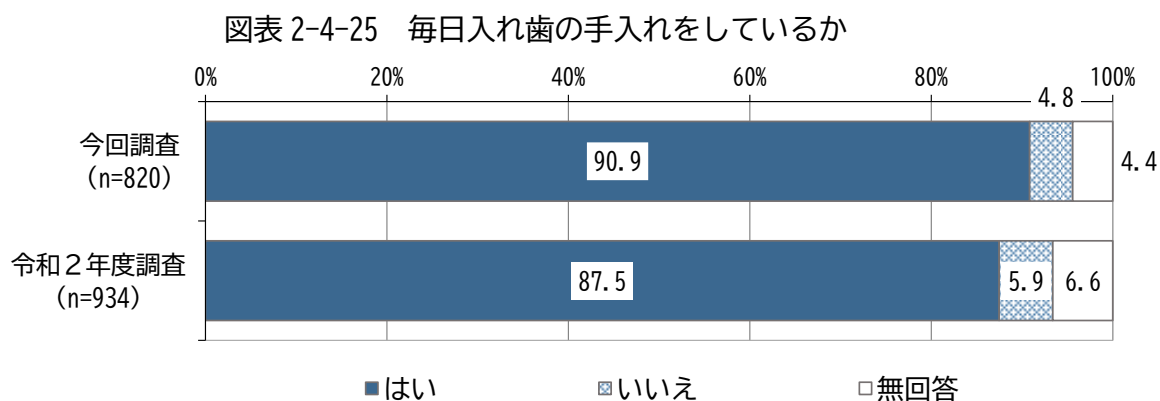
(7) 毎日入れ歯の手入れをしているか

問3-6で「1」または「3」を回答された方（入れ歯を利用されている方）のみ

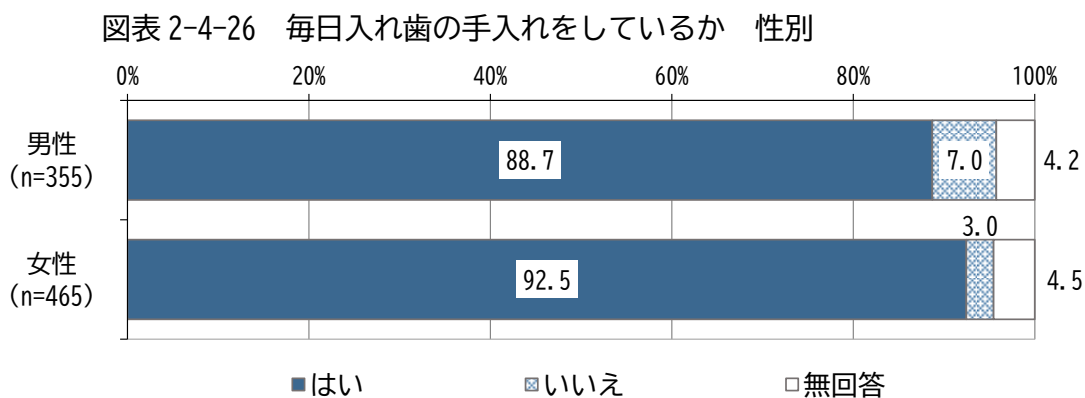
問3-6-1 毎日入れ歯の手入れをしていますか（○はひとつ）

毎日入れ歯の手入れをしているかについては、「はい」が90.9%、「いいえ」が4.8%となっています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「はい」（90.9%）では、令和2（2020）年度調査（87.5%）より3.4ポイント増加しています。

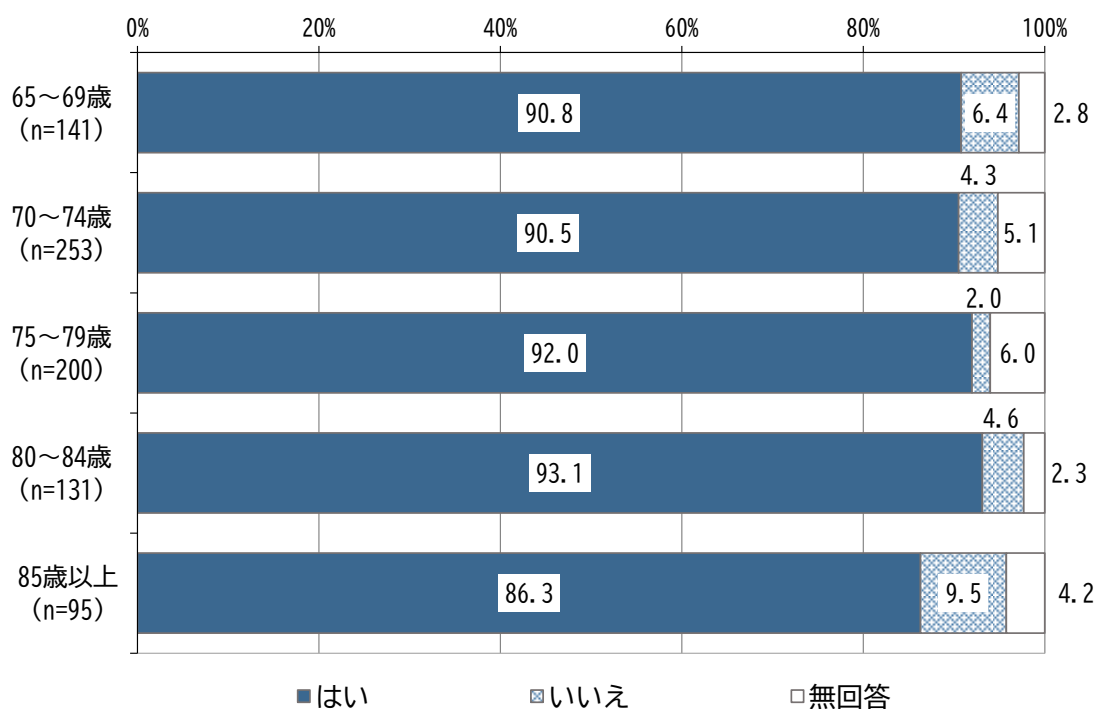


性別でみると、「いいえ」では、男性が7.0%、女性が3.0%となっています。



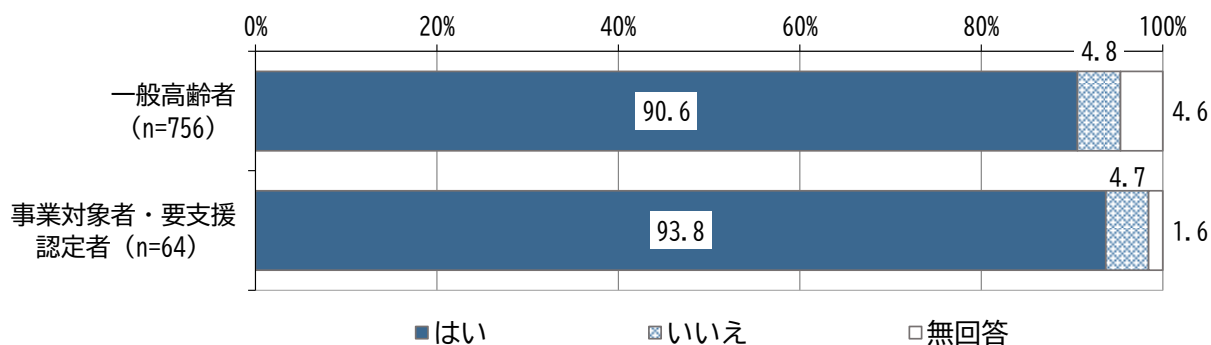
年齢別でみると、「いいえ」では、85歳以上が9.5%で最も高くなっています。

図表 2-4-27 毎日入れ歯の手入れをしているか 年齢別



認定状況別でみると、「いいえ」では、一般高齢者が4.8%、事業対象者・要支援認定者が4.7%となっています。

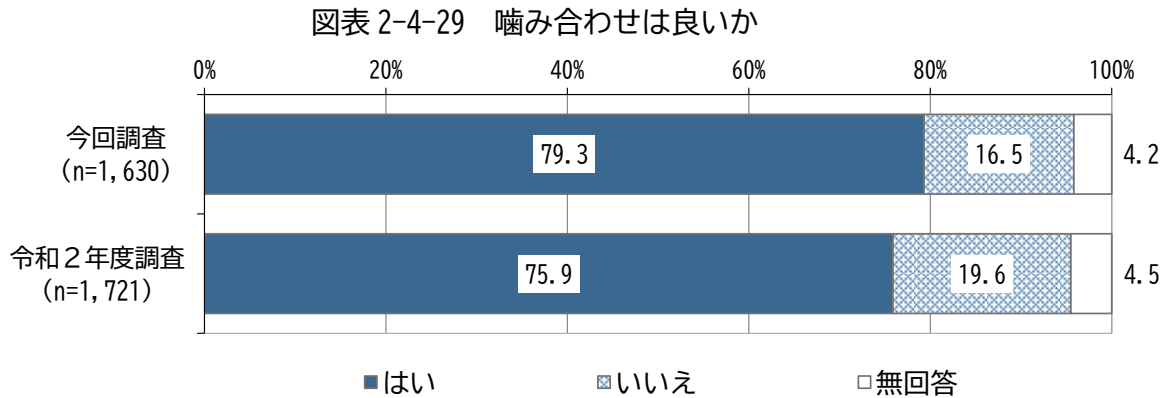
図表 2-4-28 毎日入れ歯の手入れをしているか 認定状況別



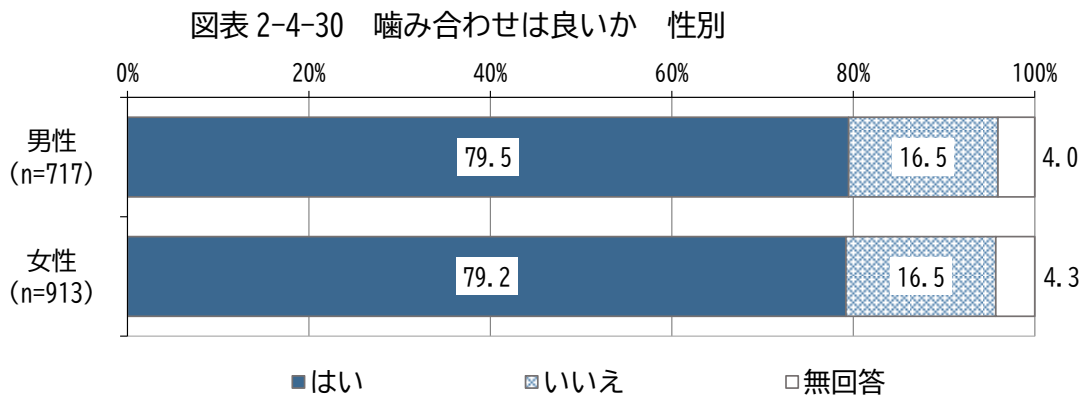
(8) 噛み合わせは良いか

問3-7 噛み合わせは良いですか (○はひとつ)

噛み合わせは良いかについては、「はい」が79.3%、「いいえ」が16.5%となっています。
 令和2（2020）年度調査と比較すると、「はい」（79.3%）では、令和2（2020）年度調査（75.9%）より3.4ポイント増加しています。

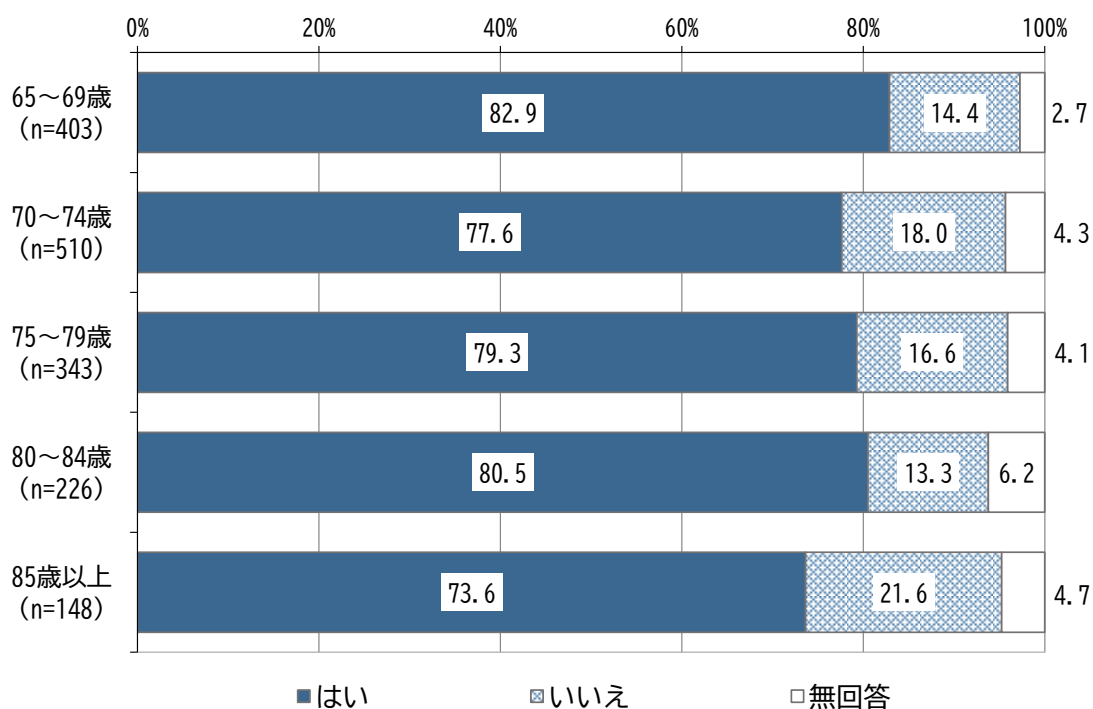


性別でみると、「いいえ」では、男性・女性いずれも16.5%となっています。



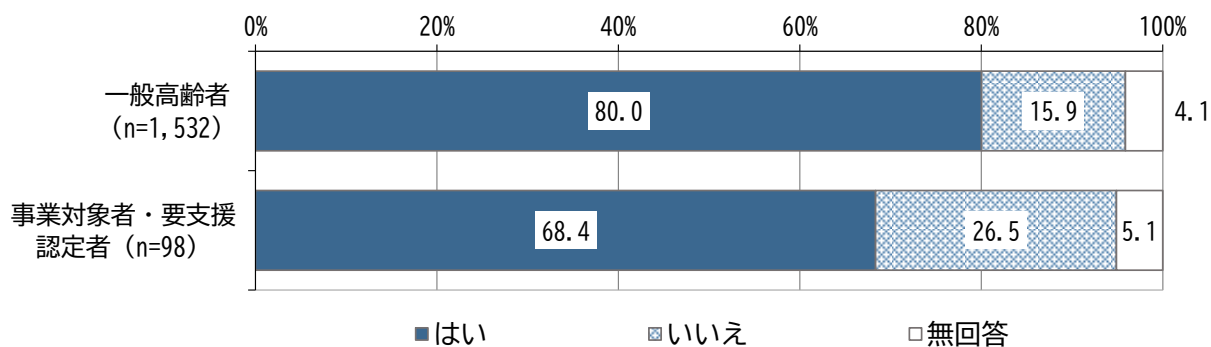
年齢別でみると、「いいえ」では、85歳以上が21.6%で最も高くなっています。

図表 2-4-31 噛み合わせは良いか 年齢別



認定状況別でみると、「いいえ」では、一般高齢者が15.9%、事業対象者・要支援認定者が26.5%となっています。

図表 2-4-32 噛み合わせは良いか 認定状況別



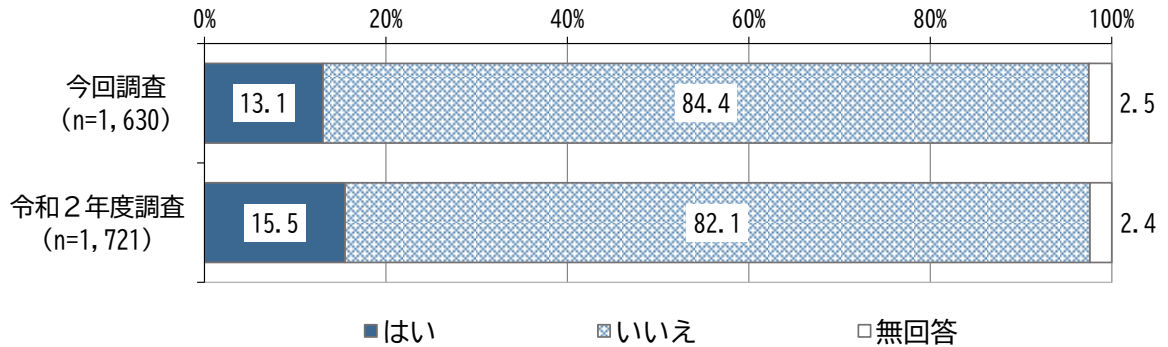
(9) 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか

問3-8 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか(○はひとつ)

6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかについては、「はい」が13.1%、「いいえ」が84.4%となっています。

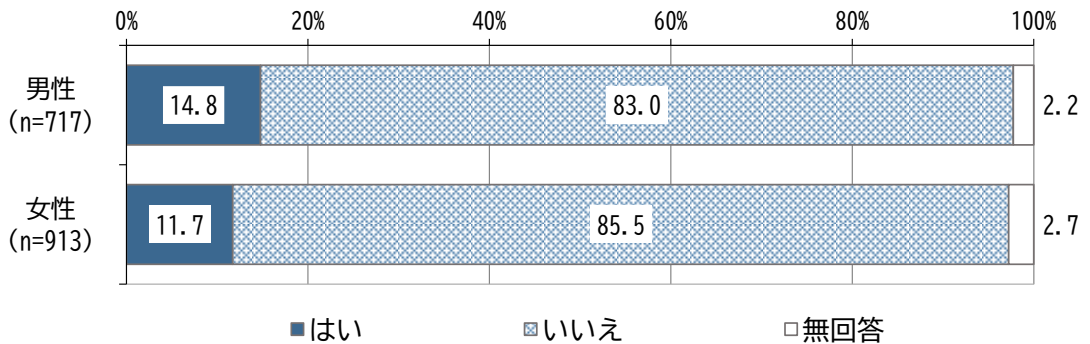
令和2(2020)年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-4-33 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか



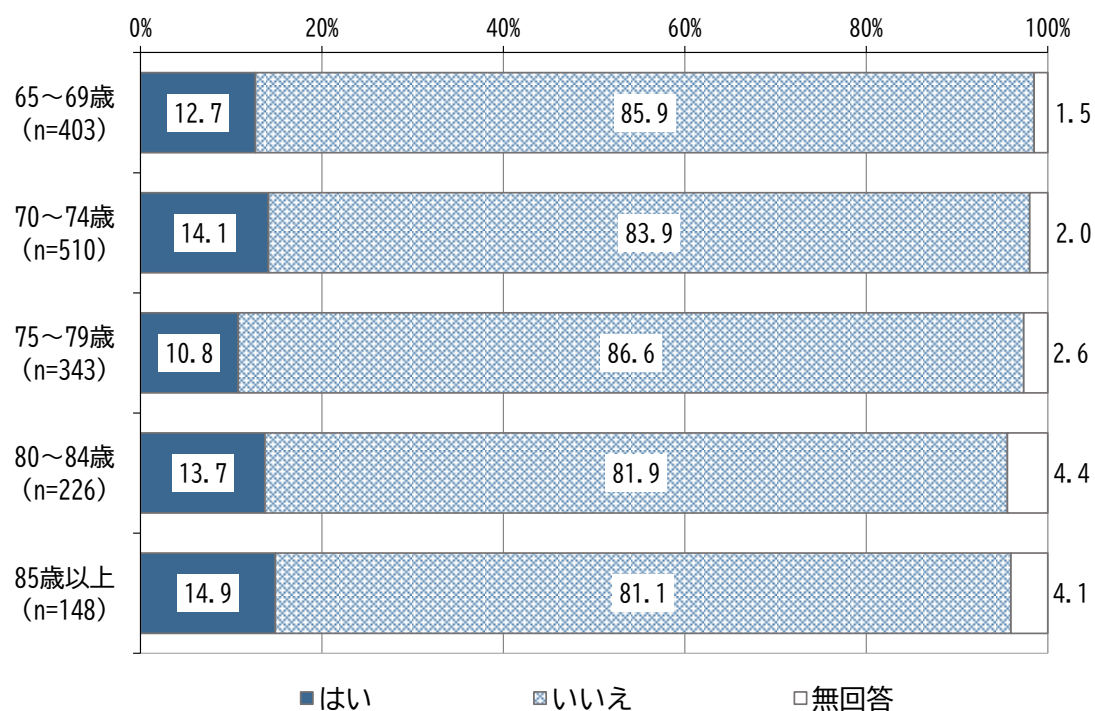
性別でみると、「はい」では、男性が14.8%、女性が11.7%となっています。

図表 2-4-34 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか 性別



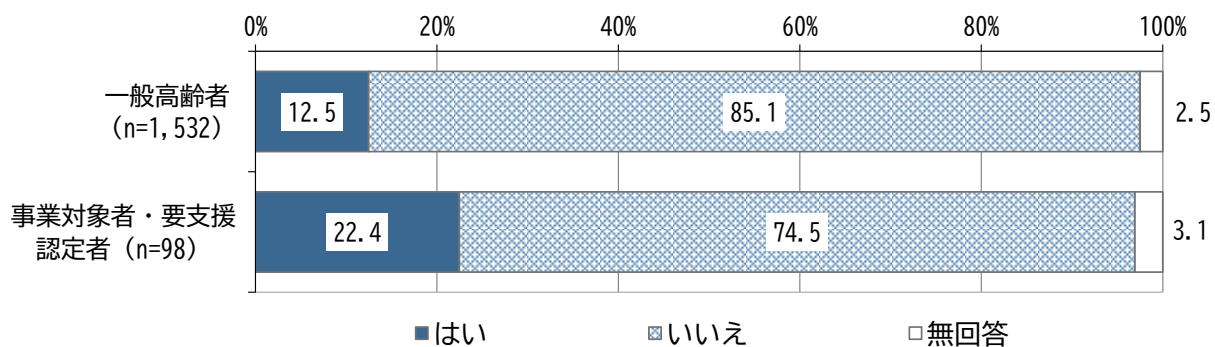
年齢別でみると、「はい」では、85歳以上が14.9%で最も高くなっています。

図表 2-4-35 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか 年齢別



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が12.5%、事業対象者・要支援認定者が22.4%となっています。

図表 2-4-36 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか 認定状況別



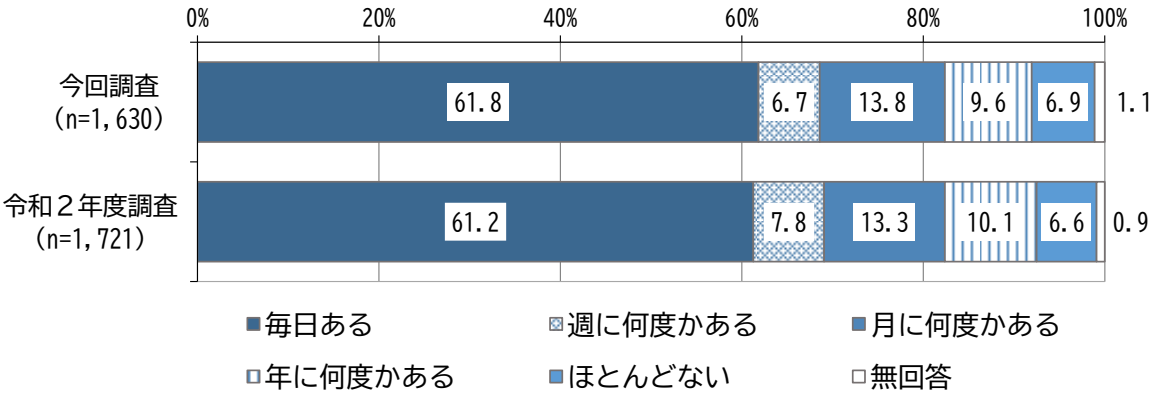
(10) 誰かと食事をとる機会があるか

問3-9 どなたかと食事をとる機会がありますか（〇はひとつ）

誰かと食事をとる機会があるかについては、「毎日ある」が61.8%で最も高く、次いで「月に何度かある」が13.8%、「年に何度かある」が9.6%と続いています。

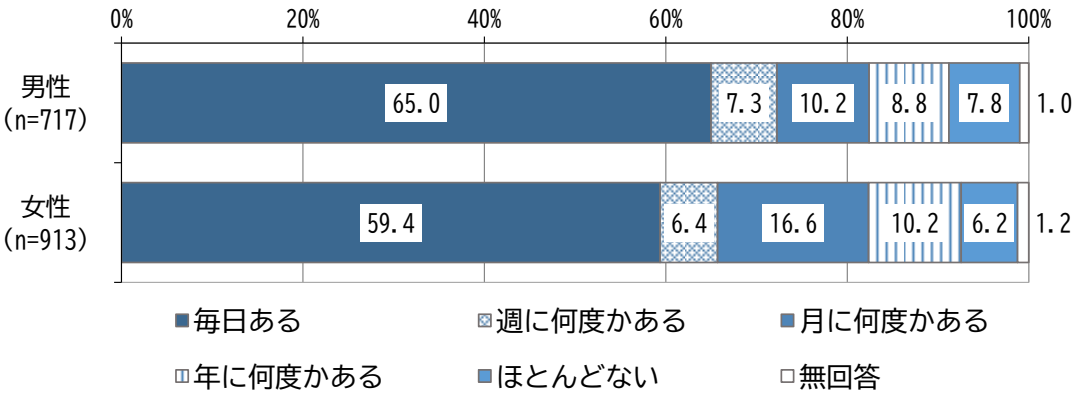
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-4-37 誰かと食事をとる機会があるか



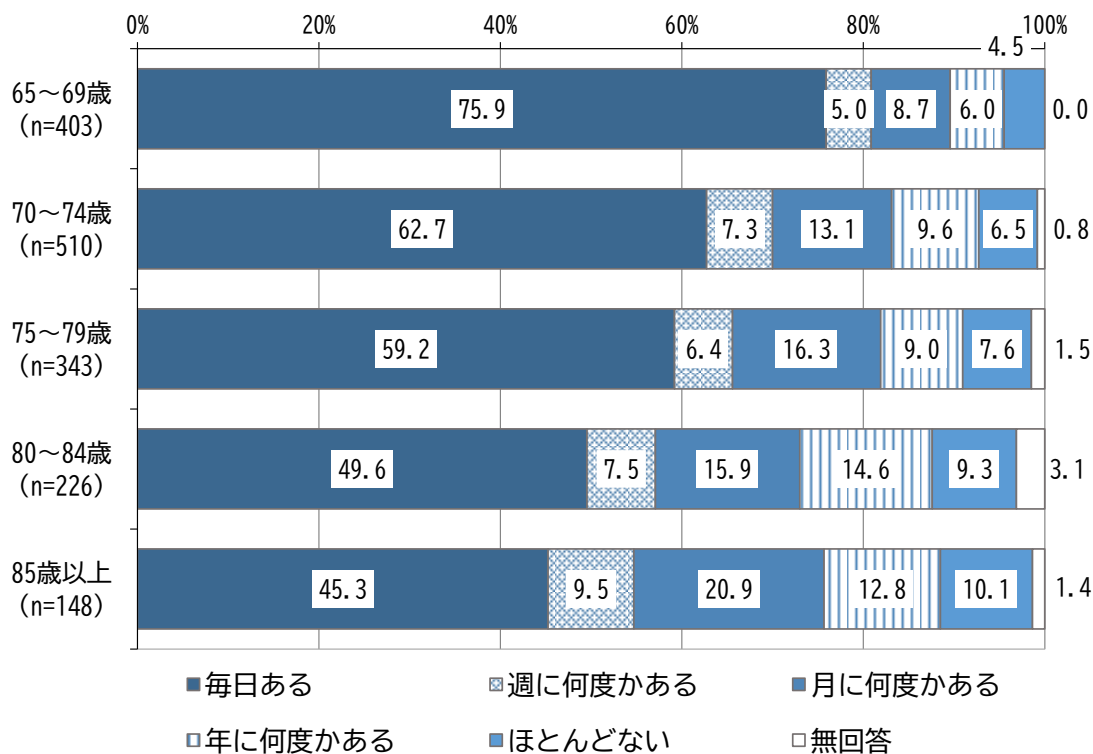
性別でみると、「ほとんどない」では、男性が7.8%、女性が6.2%となっています。

図表 2-4-38 誰かと食事をとる機会があるか 性別



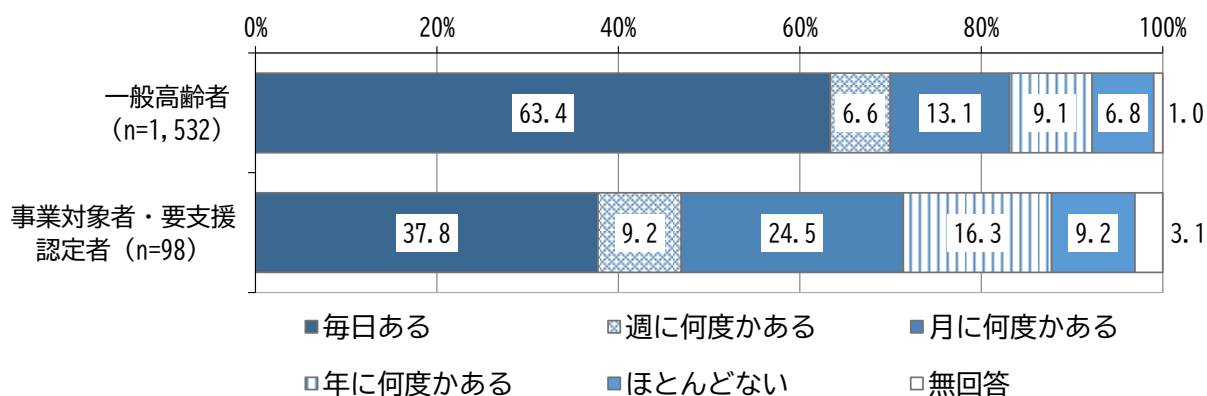
年齢別でみると、「ほとんどない」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が10.1%で最も高くなっています。

図表 2-4-39 誰かと食事をとにもする機会があるか 年齢別



認定状況別でみると、「ほとんどない」では、一般高齢者が6.8%、事業対象者・要支援認定者が9.2%となっています。

図表 2-4-40 誰かと食事をとにもする機会があるか 認定状況別

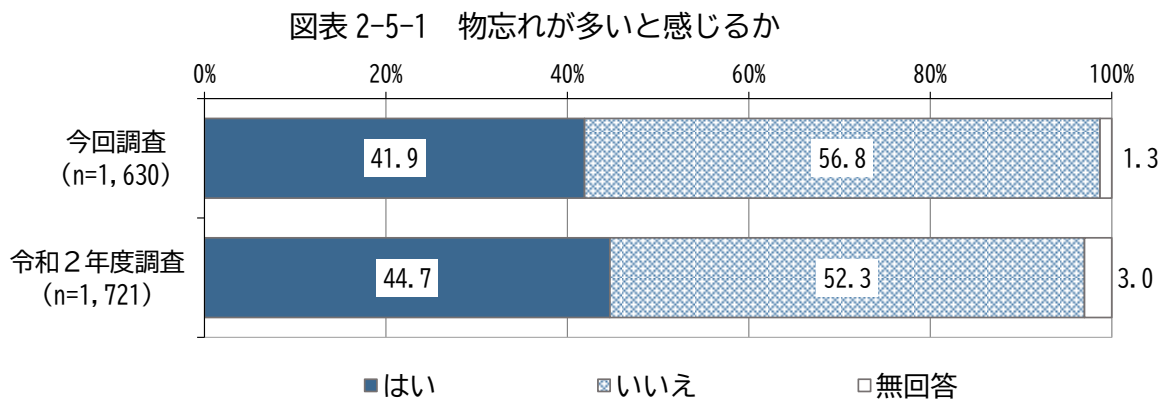


5 毎日の生活について

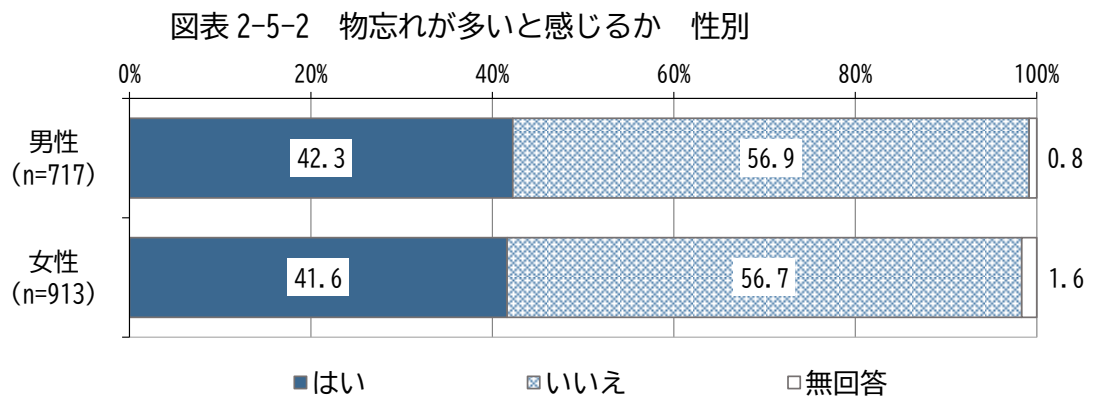
(1) 物忘れが多いと感じるか

問4-1 物忘れが多いと感じますか（〇はひとつ）

物忘れが多いと感じるかについては、「はい」が41.9%、「いいえ」が56.8%となっています。令和2（2020）年度調査と比較すると、「いいえ」（56.8%）では、令和2（2020）年度調査（52.3%）より4.5ポイント増加しています。

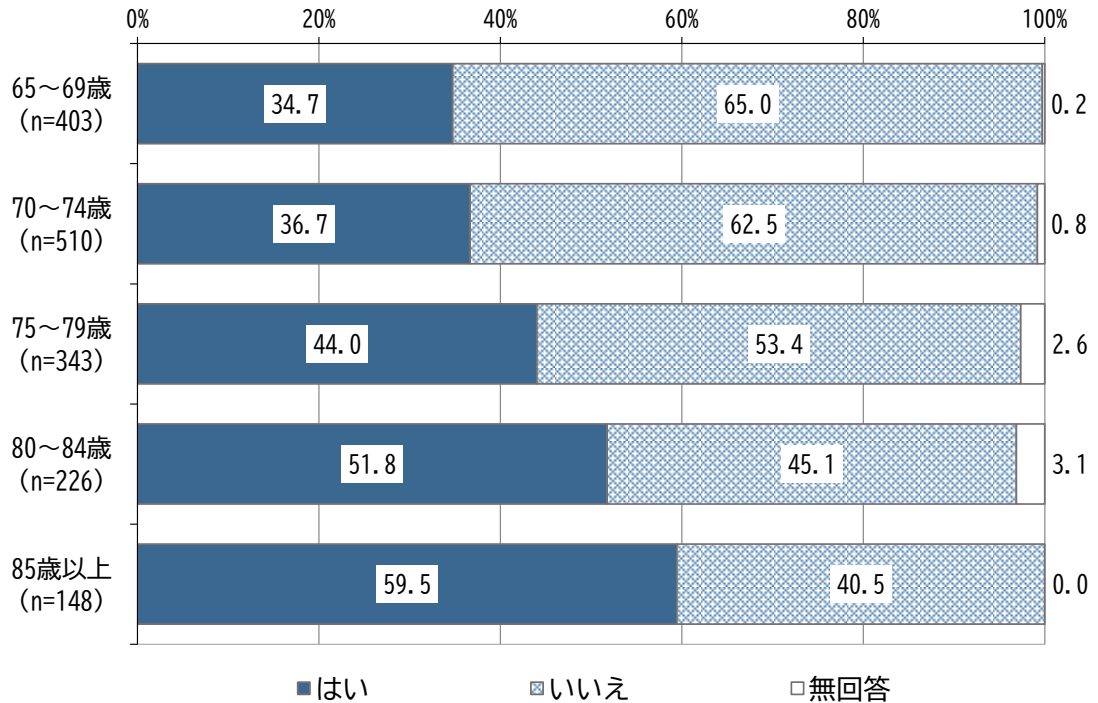


性別でみると、「はい」では、男性が42.3%、女性が41.6%となっています。



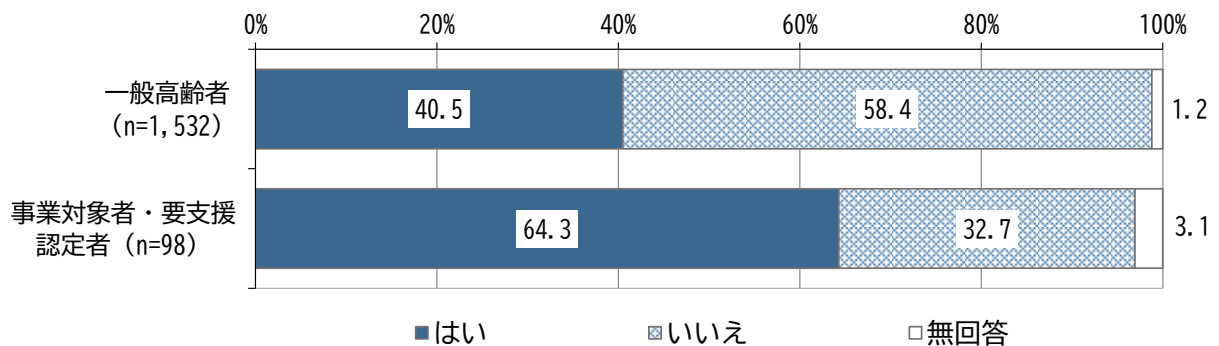
年齢別でみると、「はい」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が59.5%で最も高くなっています。

図表 2-5-3 物忘れが多いと感じるか 年齢別



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が40.5%、事業対象者・要支援認定者が64.3%となっています。

図表 2-5-4 物忘れが多いと感じるか 認定状況別



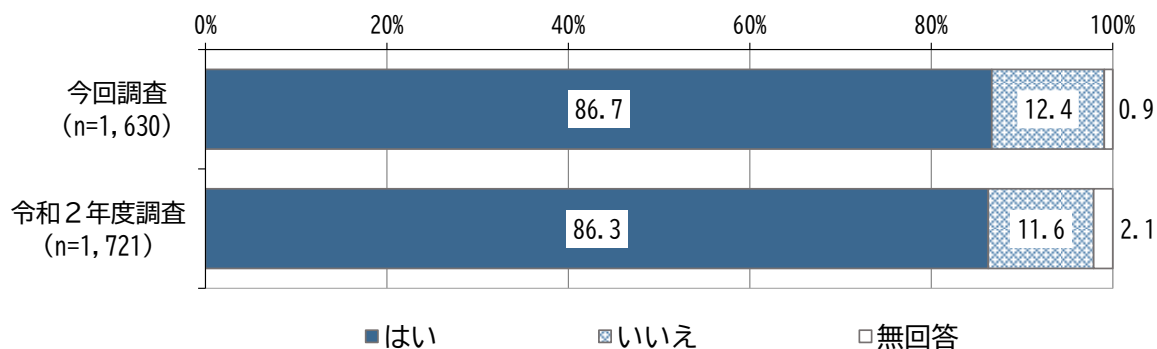
(2) 自分で電話番号を調べて電話をかけているか

問4-2 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか (〇はひとつ)

自分で電話番号を調べて電話をかけているかについては、「はい」が 86.7%、「いいえ」が 12.4%となっています。

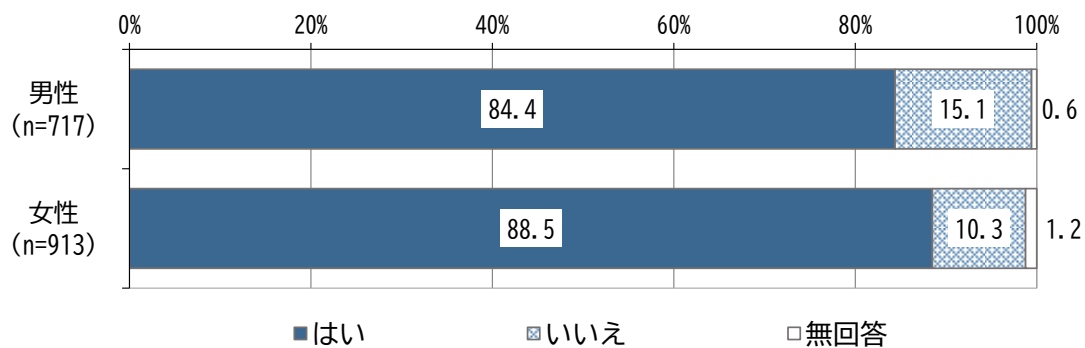
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-5-5 自分で電話番号を調べて電話をかけているか



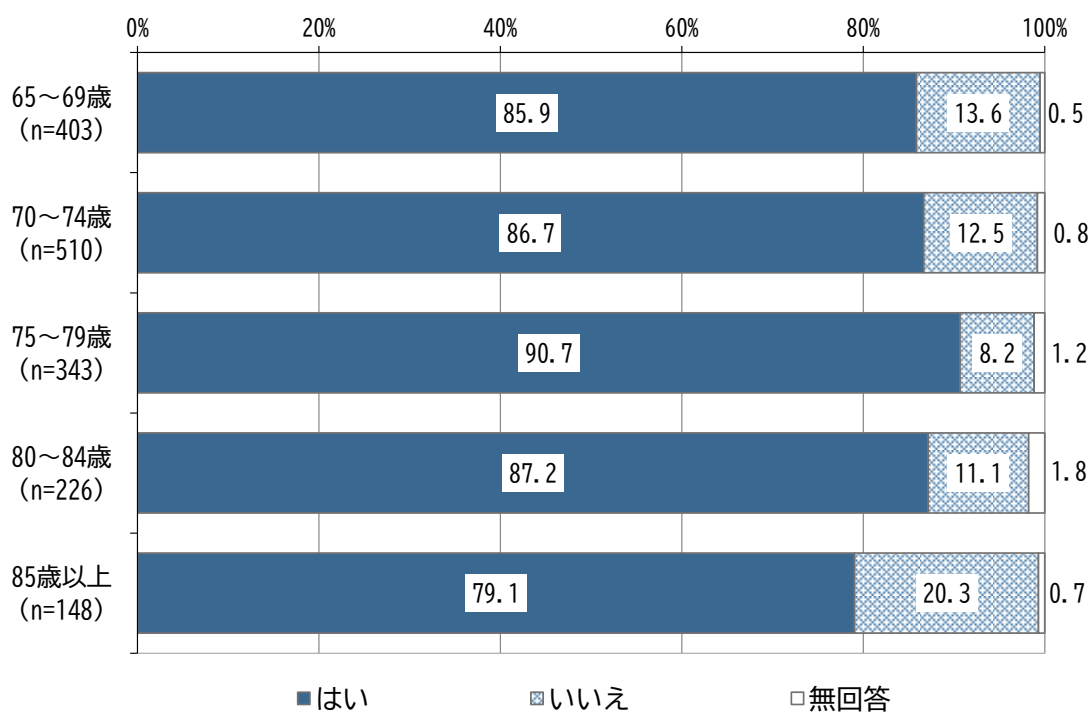
性別でみると、「いいえ」では、男性が 15.1%、女性が 10.3%となっています。

図表 2-5-6 自分で電話番号を調べて電話をかけているか 性別



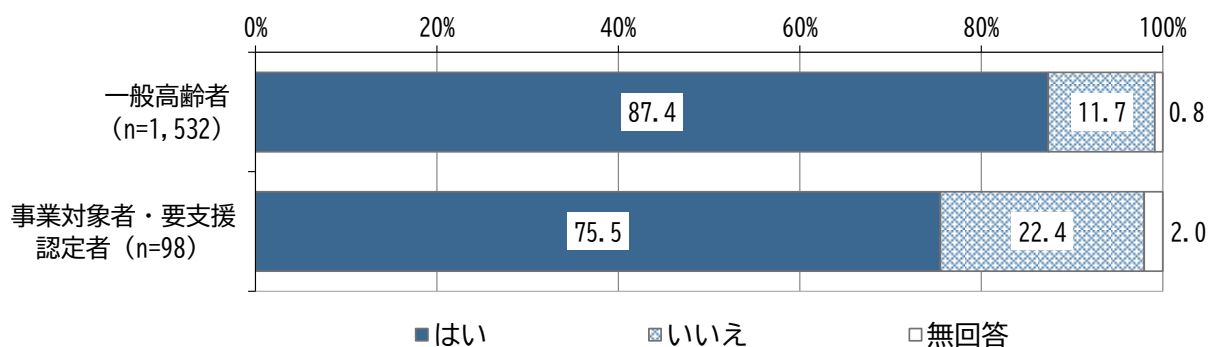
年齢別でみると、「いいえ」では、85歳以上が20.3%で最も高くなっています。

図表 2-5-7 自分で電話番号を調べて電話をかけているか 年齢別



認定状況別でみると、「いいえ」では、

図表 2-5-8 自分で電話番号を調べて電話をかけているか 認定状況別

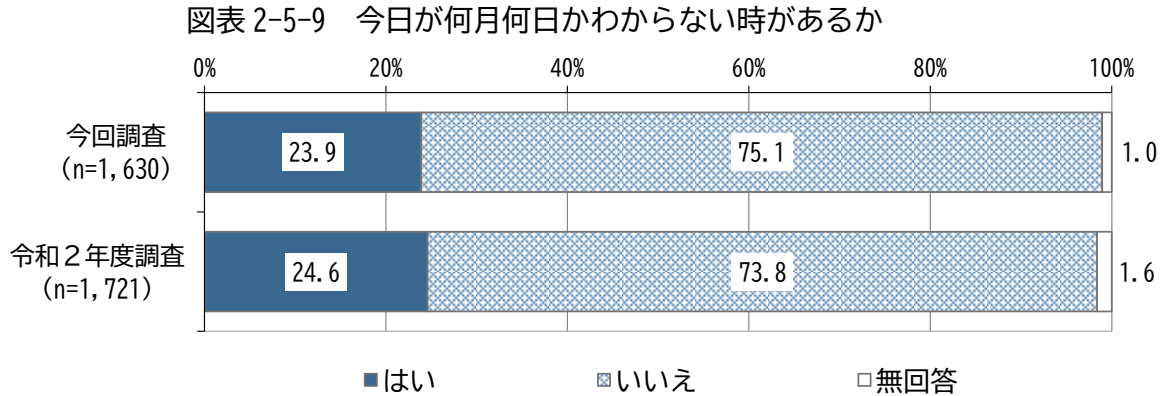


(3) 今日が何月何日かわからない時があるか

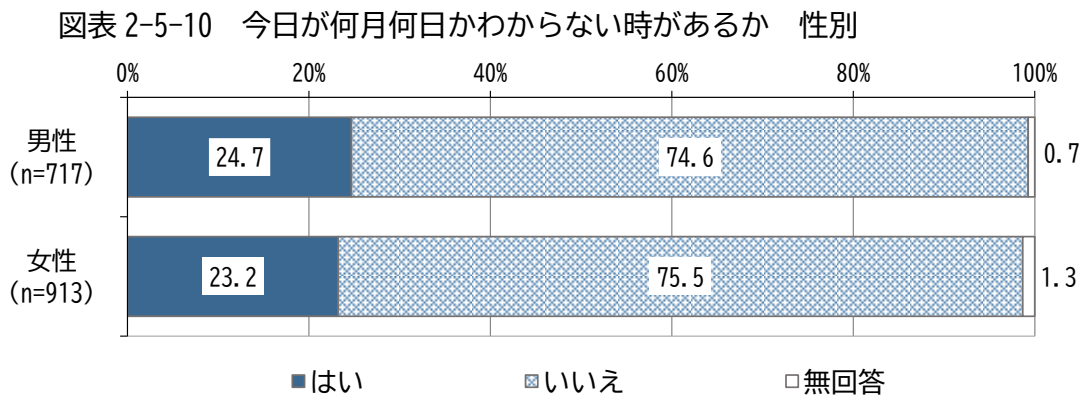
問4-3 今日が何月何日かわからない時がありますか (○はひとつ)

今日が何月何日かわからない時があるかについては、「はい」が23.9%、「いいえ」が75.1%となっています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

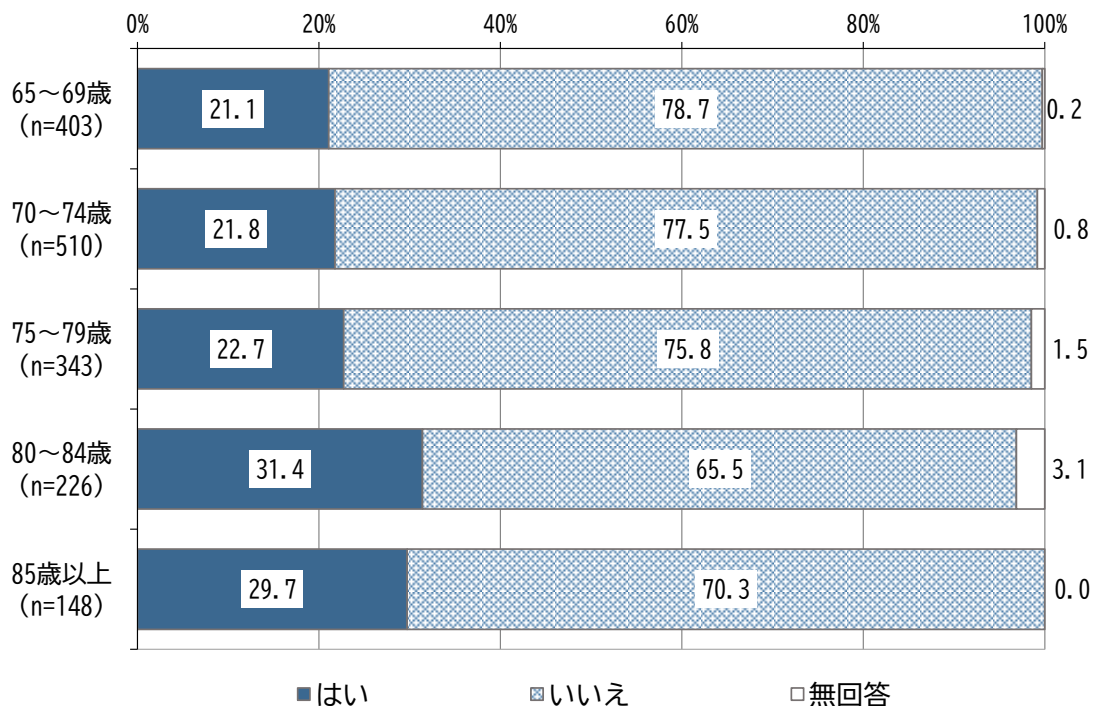


性別でみると、「はい」では、男性が24.7%、女性が23.2%となっています。



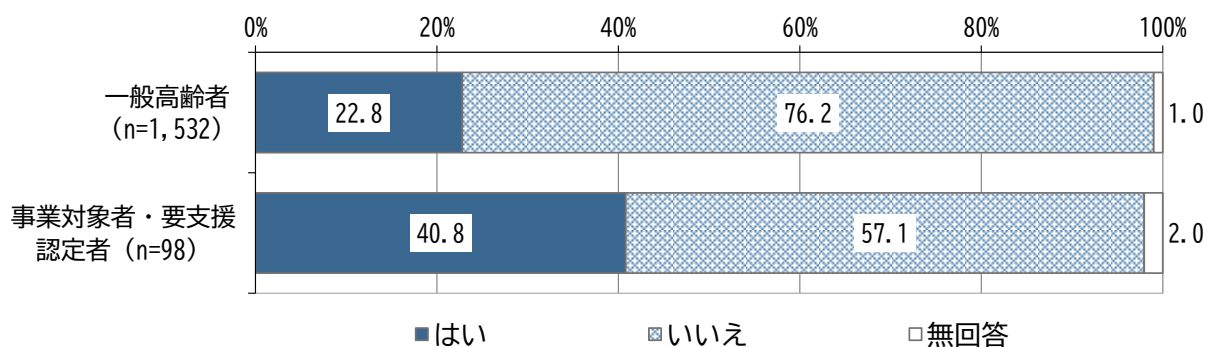
年齢別でみると、「はい」では、84歳以下で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、80～84歳が31.4%で最も高くなっています。

図表 2-5-11 今日が何月何日かわからない時があるか 年齢別



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が22.8%、事業対象者・要支援認定者が40.8%となっています。

図表 2-5-12 今日が何月何日かわからない時があるか 認定状況別



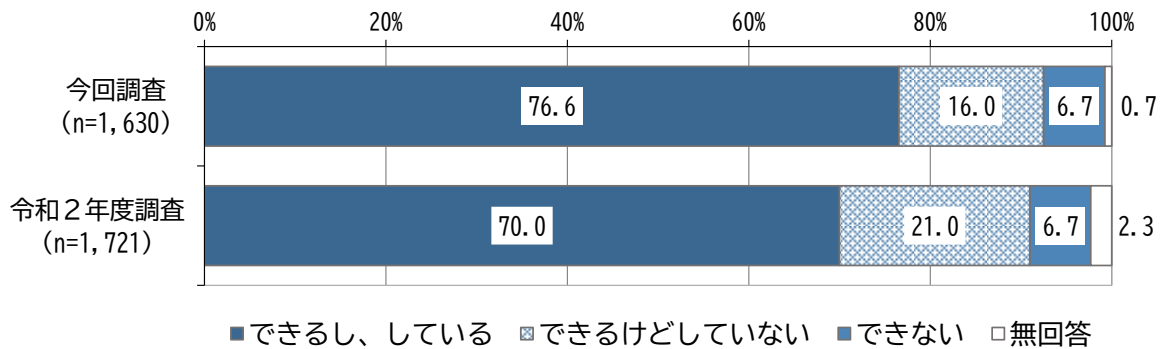
(4) バスや電車を使って1人で外出しているか

問4-4 バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）（○はひとつ）

バスや電車を使って1人で外出しているかについては、「できるし、している」が76.6%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が16.0%、「できない」が6.7%となっています。

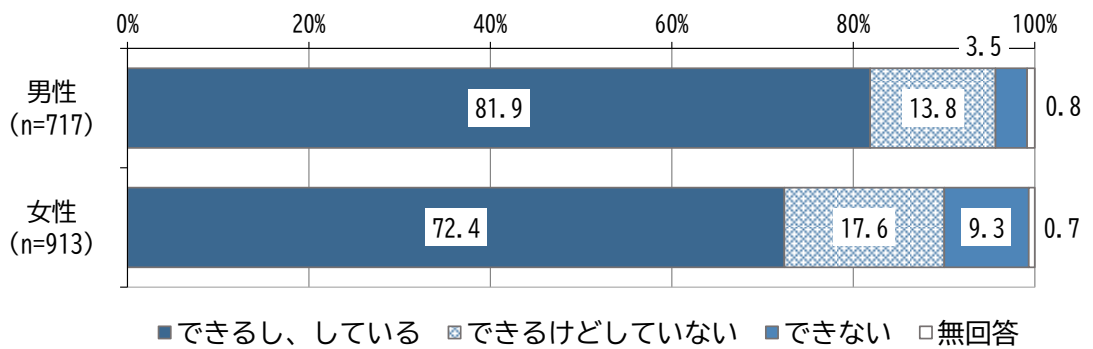
令和2（2020）年度調査と比較すると、「できるし、している」（76.6%）では、令和2（2020）年度調査（70.0%）より6.6ポイント増加しています。

図表 2-5-13 バスや電車を使って1人で外出しているか



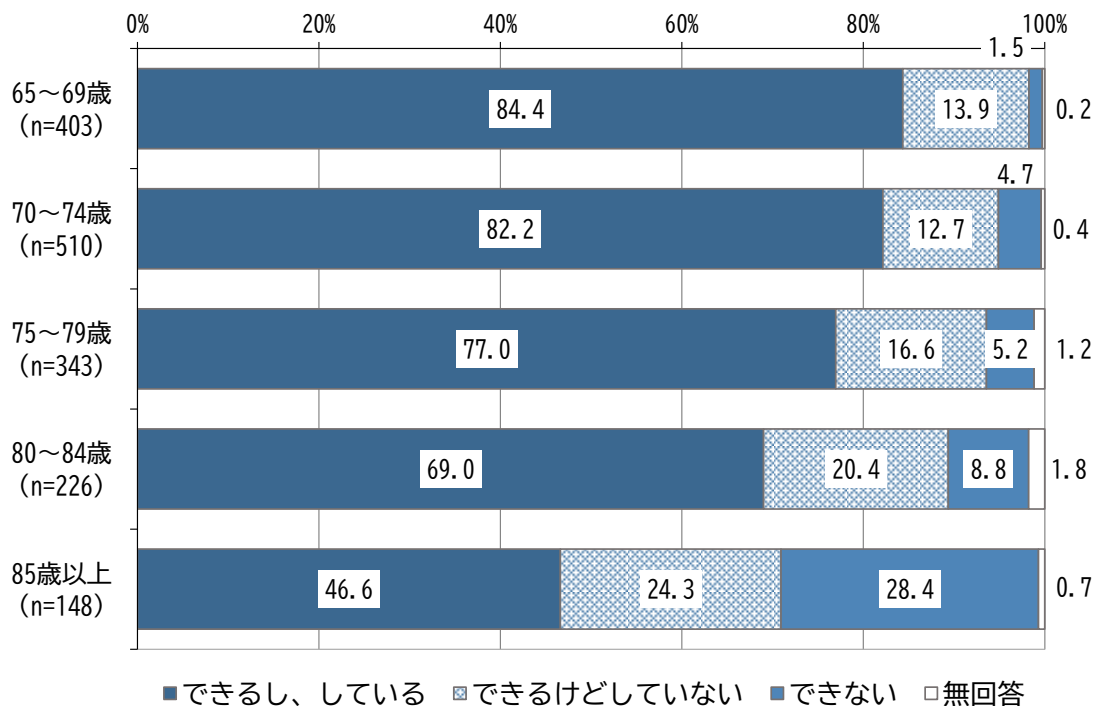
性別でみると、「できない」では、男性が3.5%、女性が9.3%となっています。

図表 2-5-14 バスや電車を使って1人で外出しているか 性別



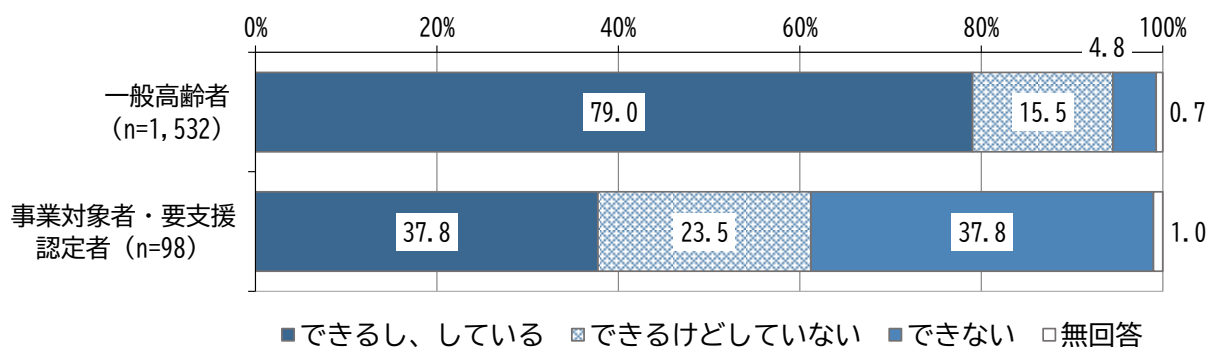
年齢別でみると、「できない」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が28.4%で最も高くなっています。

図表 2-5-15 バスや電車を使って1人で外出しているか 年齢別



認定状況別でみると、「できない」では、一般高齢者が4.8%、事業対象者・要支援認定者が37.8%となっています。

図表 2-5-16 バスや電車を使って1人で外出しているか 認定状況別



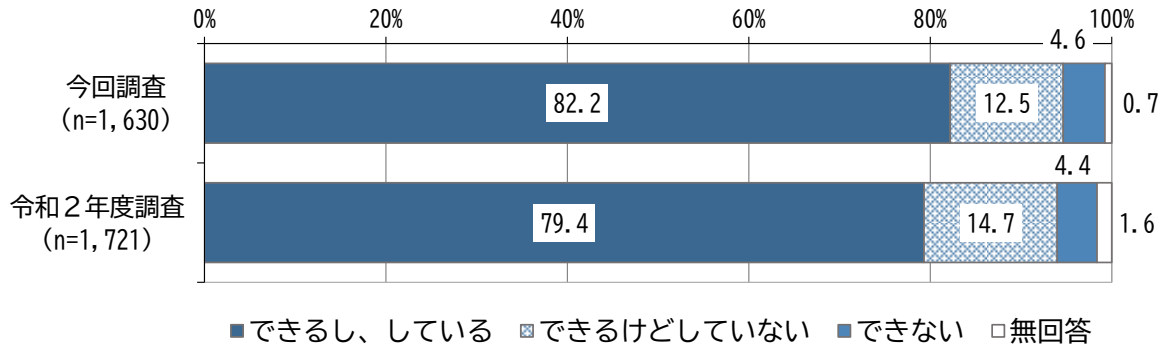
(5) 自分で食品・日用品の買物をしているか

問4-5 自分で食品・日用品の買物をしていますか（〇はひとつ）

自分で食品・日用品の買物をしているかについては、「できるし、している」が82.2%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が12.5%、「できない」が4.6%となっています。

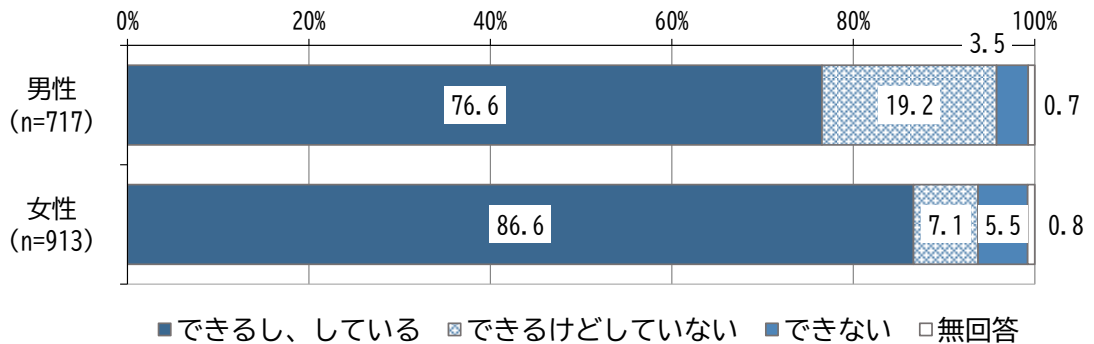
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-5-17 自分で食品・日用品の買物をしているか



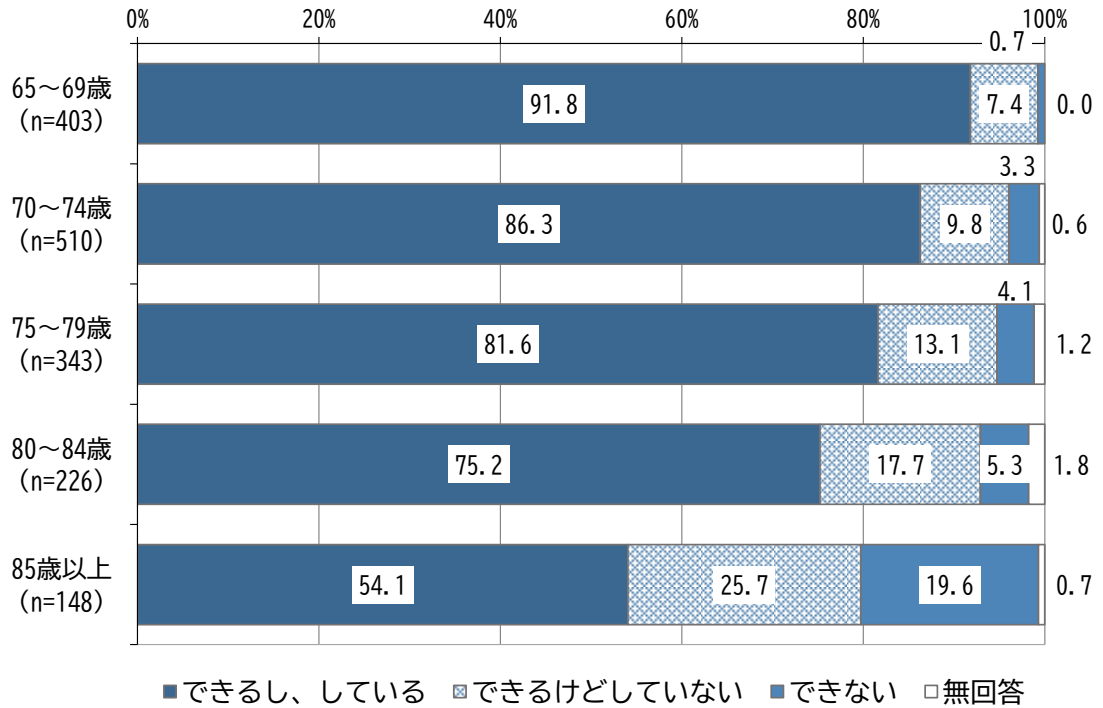
性別でみると、「できない」では、男性が3.5%、女性が5.5%となっています。

図表 2-5-18 自分で食品・日用品の買物をしているか 性別



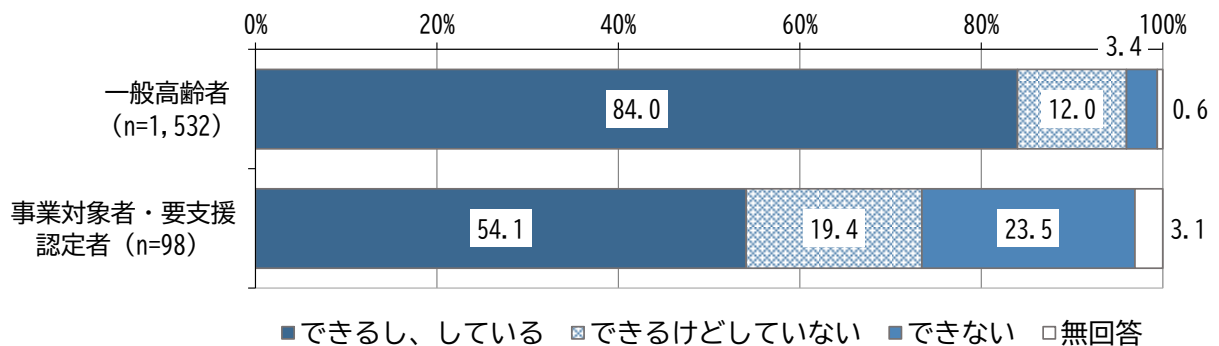
年齢別でみると、「できない」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が19.6%で最も高くなっています。

図表 2-5-19 自分で食品・日用品の買物をしているか 年齢別



認定状況別でみると、「できない」では、一般高齢者が3.4%、事業対象者・要支援認定者が23.5%となっています。

図表 2-5-20 自分で食品・日用品の買物をしているか 認定状況別

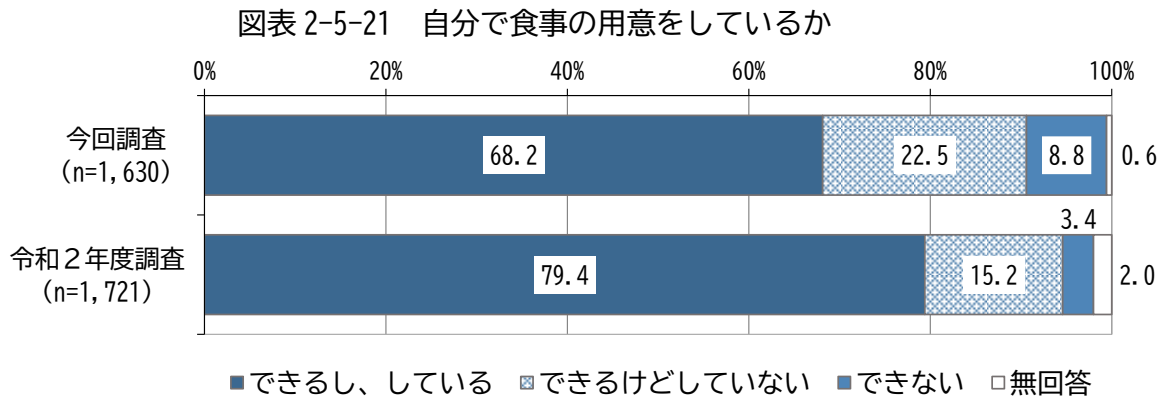


(6) 自分で食事の用意をしているか

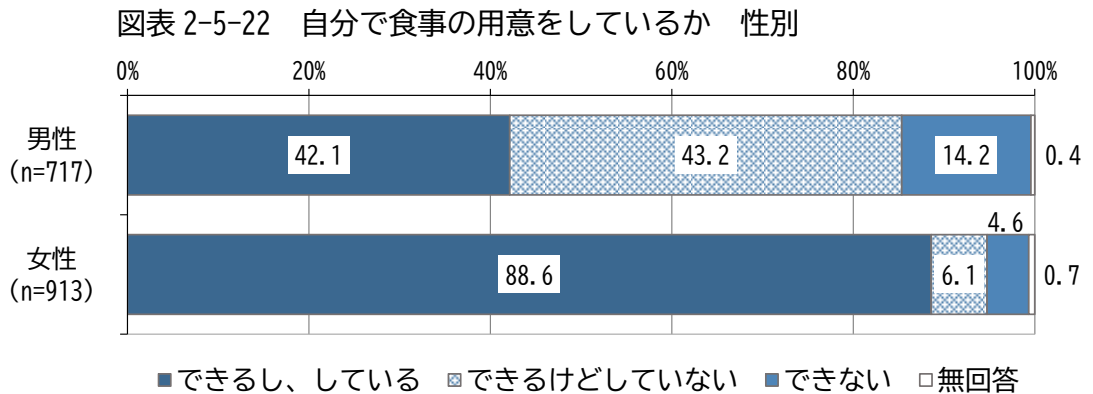
問4-6 自分で食事の用意をしていますか (〇はひとつ)

自分で食事の用意をしているかについては、「できるし、している」が68.2%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が22.5%、「できない」が8.8%となっています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「できるし、している」（68.2%）では、令和2（2020）年度調査（79.4%）より11.2ポイント減少しています。

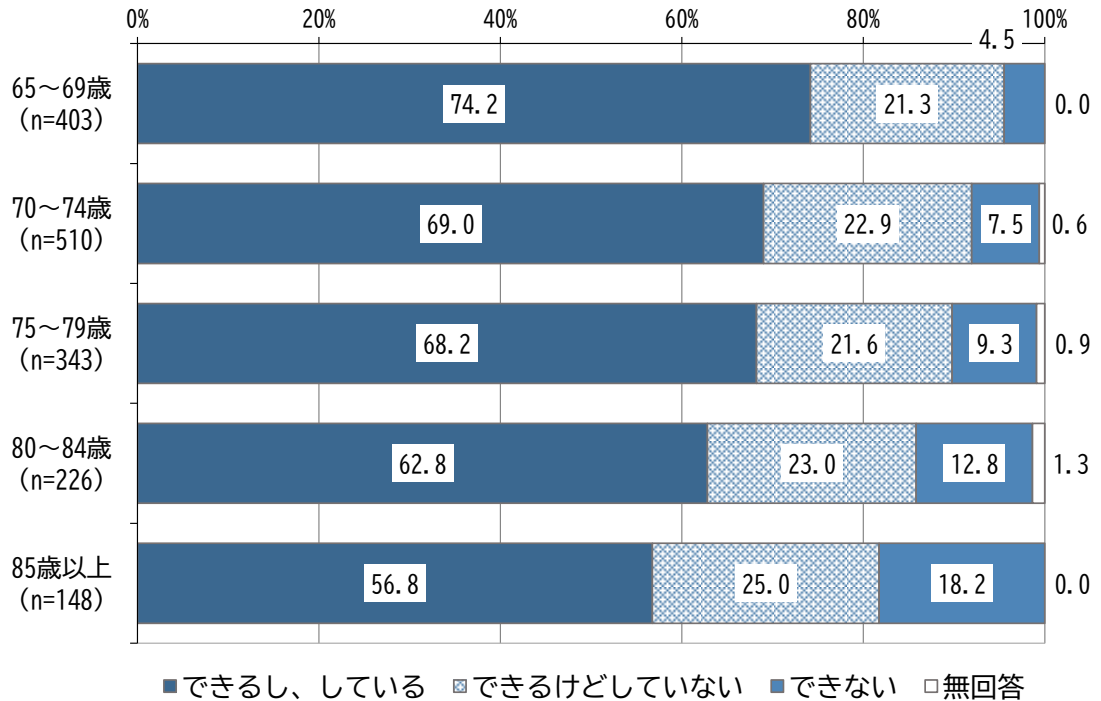


性別でみると、「できない」では、男性が14.2%、女性が4.6%となっています。



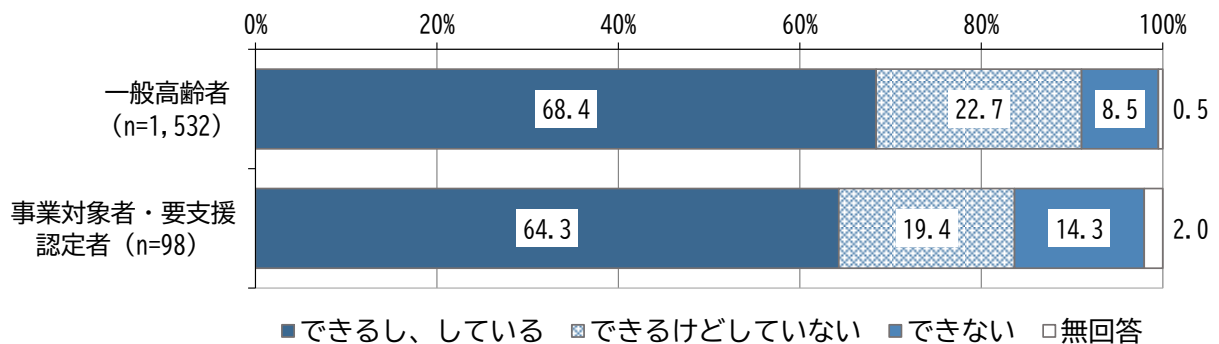
年齢別でみると、「できない」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が18.2%で最も高くなっています。

図表 2-5-23 自分で食事の用意をしているか 年齢別



認定状況別でみると、「できない」では、一般高齢者が8.5%、事業対象者・要支援認定者が14.3%となっています。

図表 2-5-24 自分で食事の用意をしているか 認定状況別

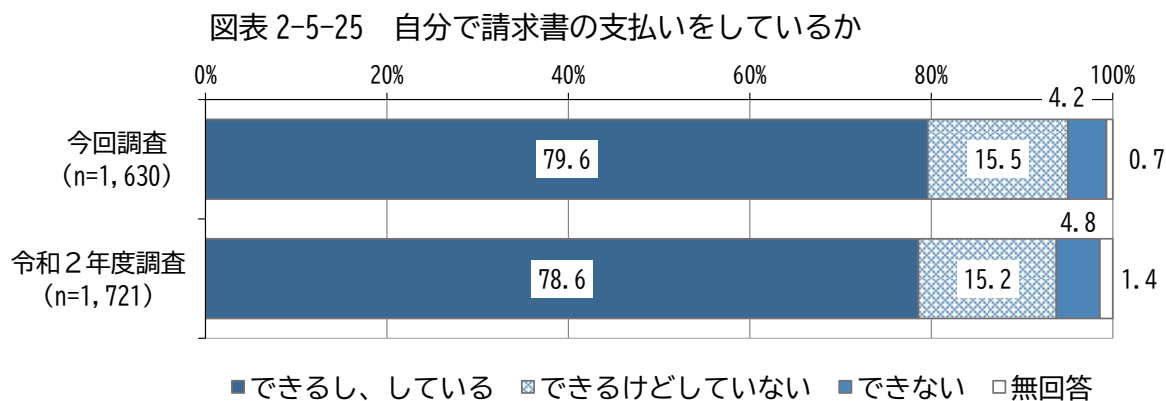


(7) 自分で請求書の支払いをしているか

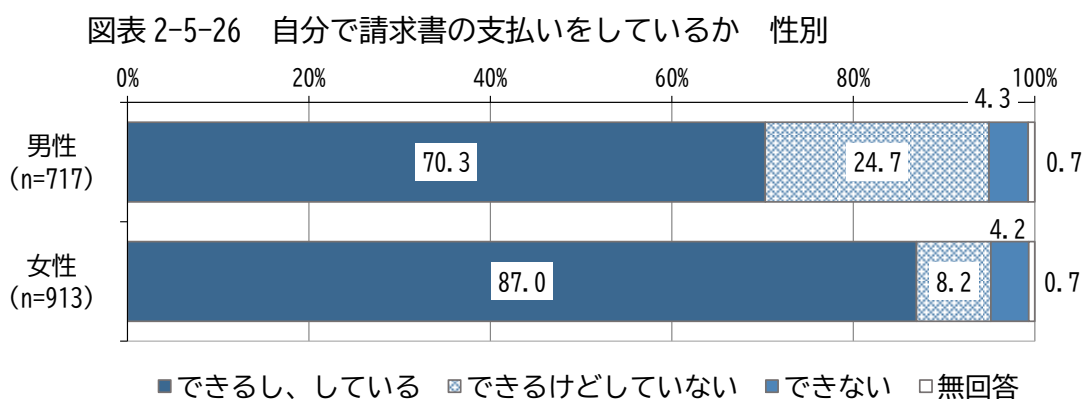
問4-7 自分で請求書の支払いをしていますか (〇はひとつ)

自分で請求書の支払いをしているかについては、「できるし、している」が79.6%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が15.5%、「できない」が4.2%となっています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

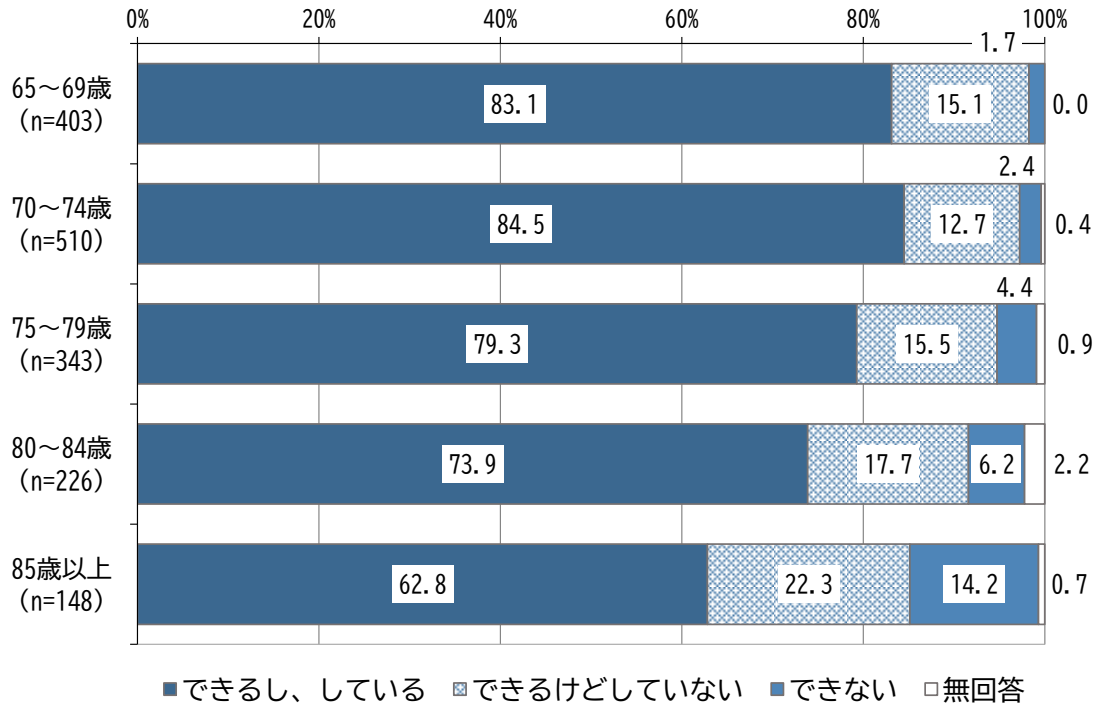


性別でみると、「できない」では、男性が4.3%、女性が4.2%となっています。



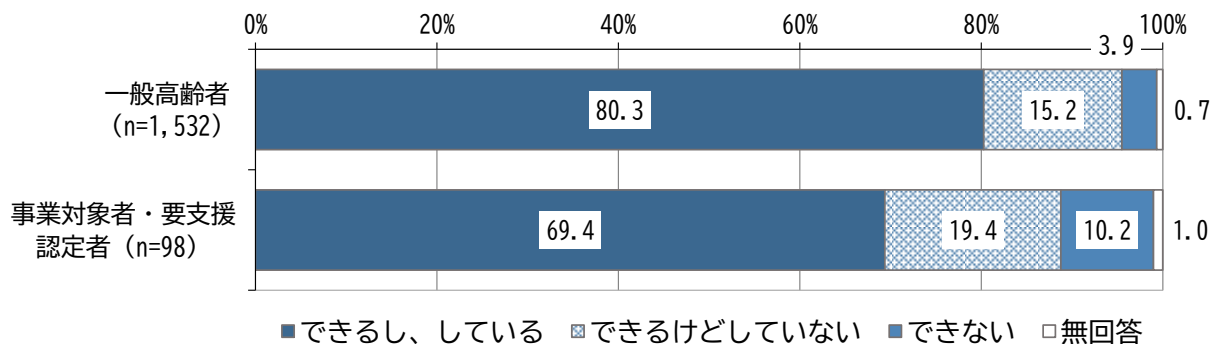
年齢別でみると、「できない」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が14.2%で最も高くなっています。

図表 2-5-27 自分で請求書の支払いをしているか 年齢別



認定状況別でみると、「できない」では、一般高齢者が3.9%、事業対象者・要支援認定者が10.2%となっています。

図表 2-5-28 自分で請求書の支払いをしているか 認定状況別



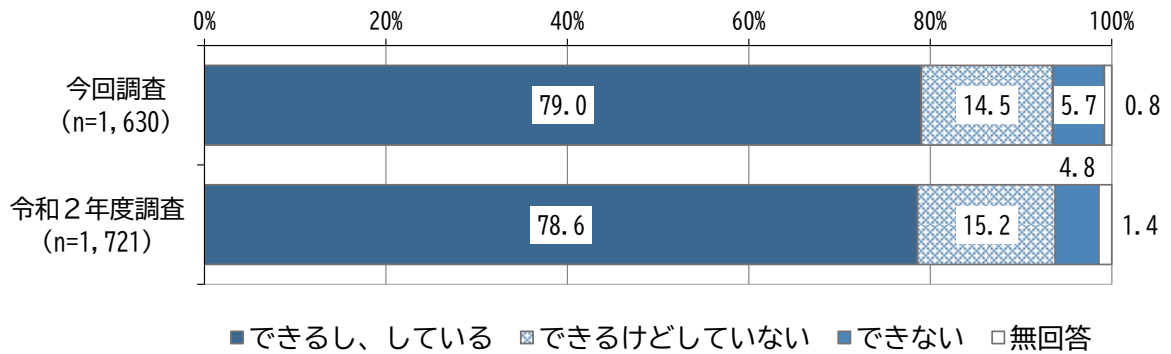
(8) 自分で預貯金の出し入れをしているか

問4-8 自分で預貯金の出し入れをしていますか (〇はひとつ)

自分で預貯金の出し入れをしているかについては、「できるし、している」が79.0%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が14.5%、「できない」が5.7%となっています。

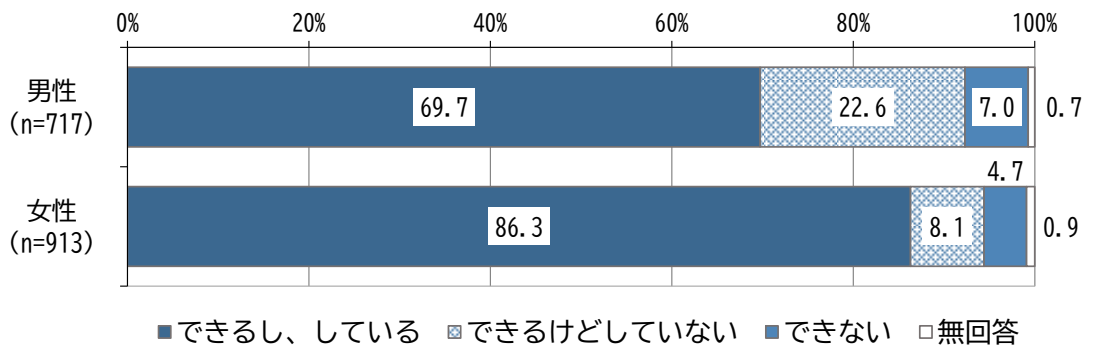
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-5-29 自分で預貯金の出し入れをしているか



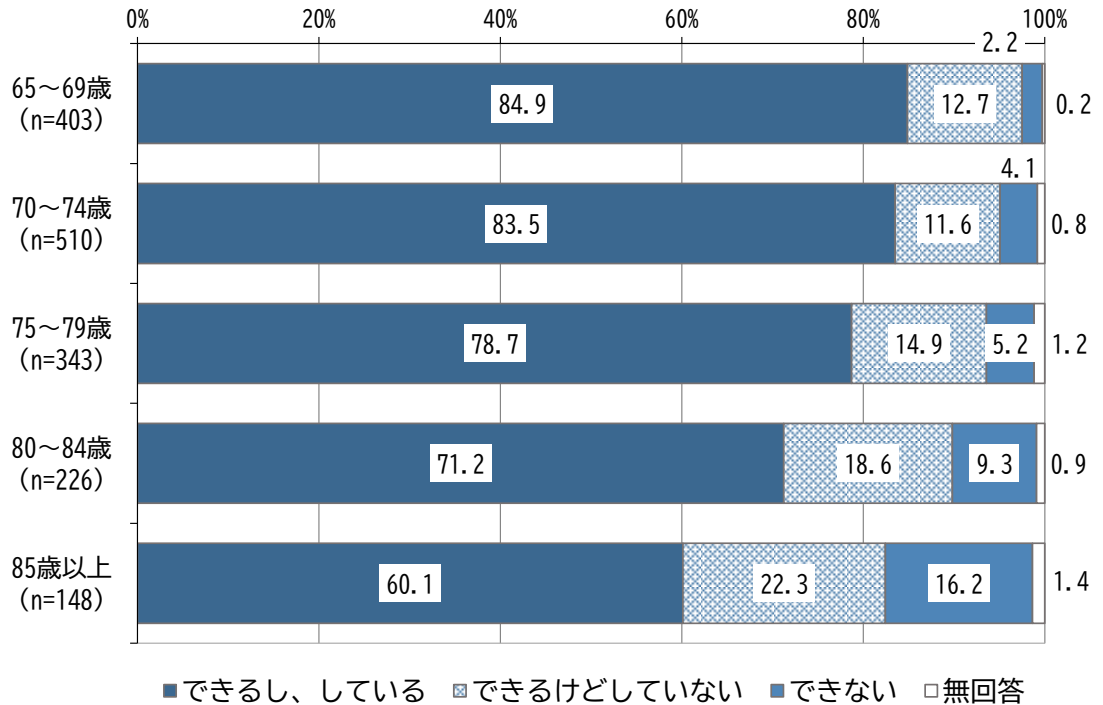
性別でみると、「できない」では、男性が7.0%、女性が4.7%となっています。

図表 2-5-30 自分で預貯金の出し入れをしているか 性別



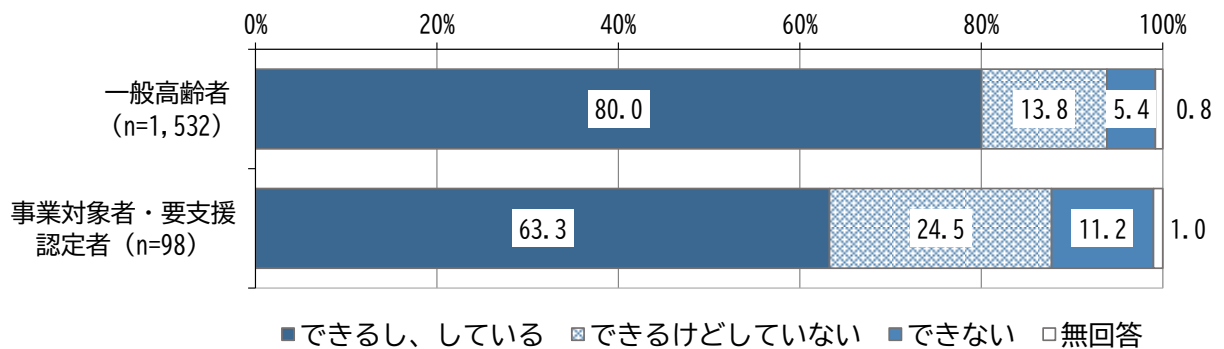
年齢別でみると、「できない」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が16.2%で最も高くなっています。

図表 2-5-31 自分で預貯金の出し入れをしているか 年齢別



認定状況別でみると、「できない」では、一般高齢者が5.4%、事業対象者・要支援認定者が11.2%となっています。

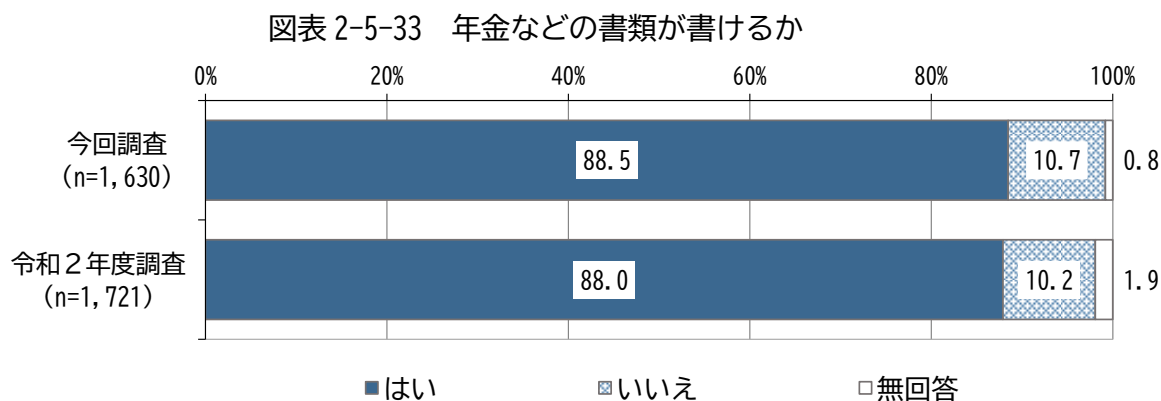
図表 2-5-32 自分で預貯金の出し入れをしているか 認定状況別



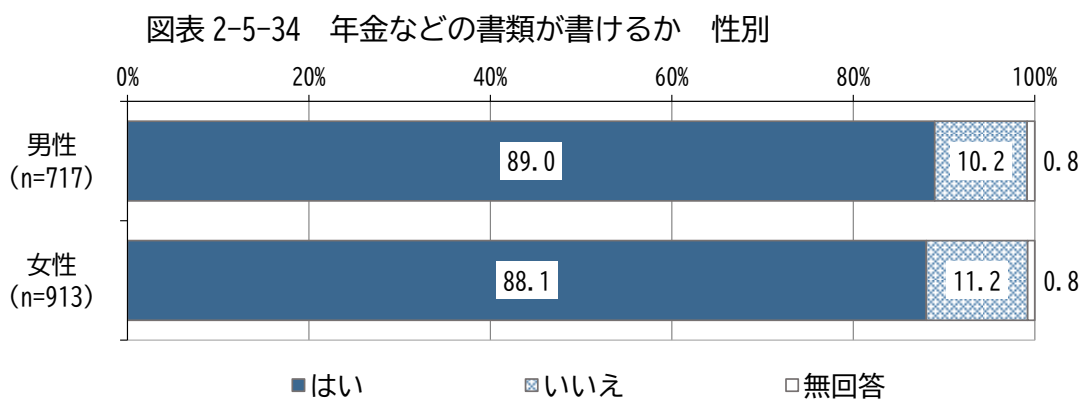
(9) 年金などの書類が書けるか

問4-9 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか（〇はひとつ）

年金などの書類が書けるかについては、「はい」が88.5%、「いいえ」が10.7%となっています。令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

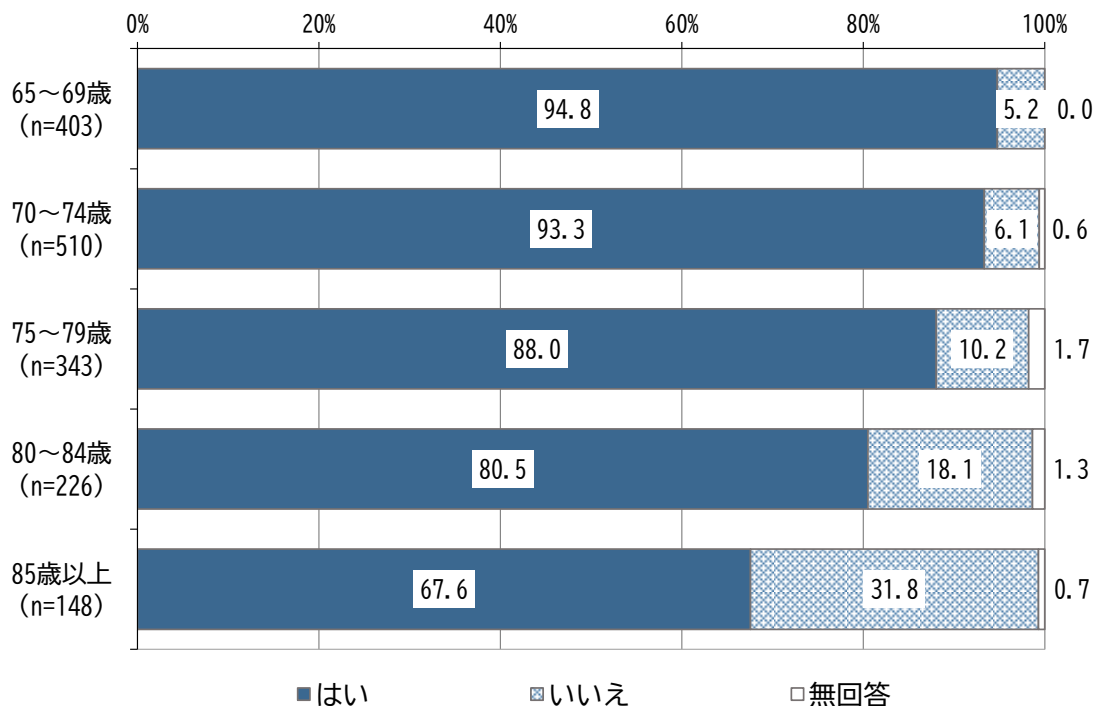


性別でみると、「いいえ」では、男性が10.2%、女性が11.2%となっています。



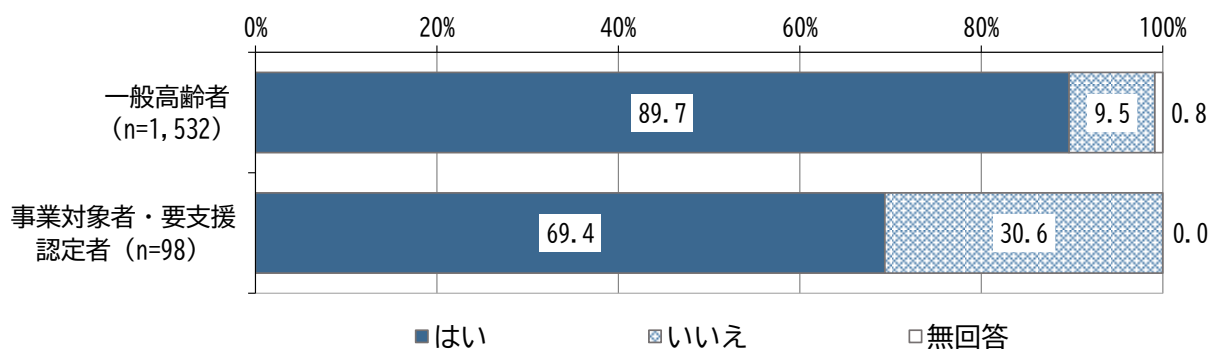
年齢別でみると、「いいえ」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が31.8%で最も高くなっています。

図表 2-5-35 年金などの書類が書けるか 年齢別



認定状況別でみると、「いいえ」では、一般高齢者が9.5%、事業対象者・要支援認定者が30.6%となっています。

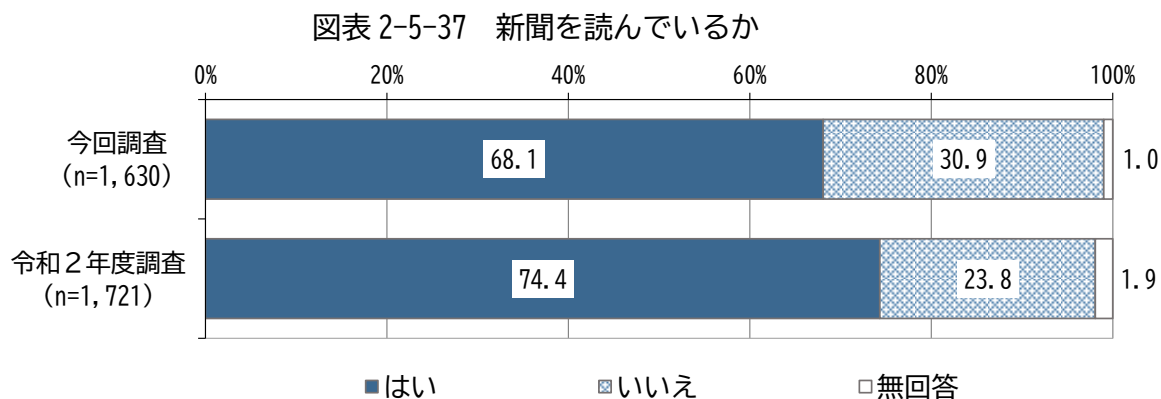
図表 2-5-36 年金などの書類が書けるか 認定状況別



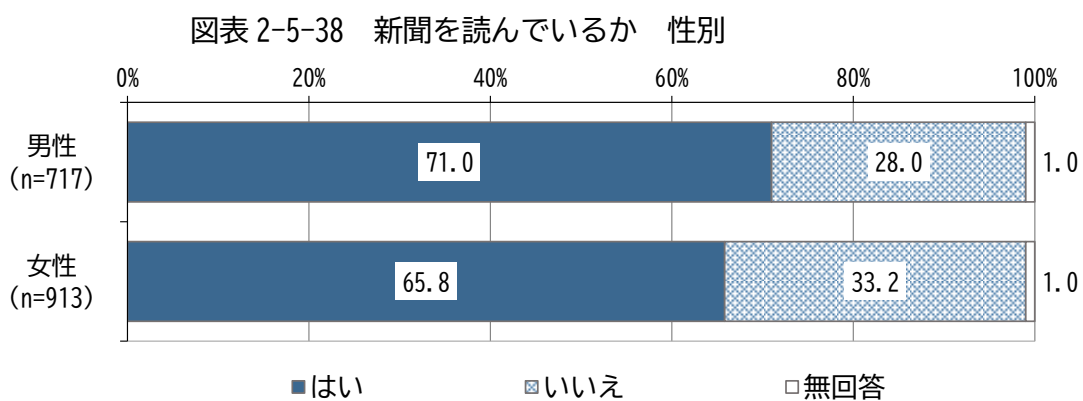
(10) 新聞を読んでいるか

問4-10 新聞を読んでいますか (○はひとつ)

新聞を読んでいるかについては、「はい」が68.1%、「いいえ」が30.9%となっています。
令和2（2020）年度調査と比較すると、「いいえ」（30.9%）では、令和2（2020）年度調査（23.8%）より7.1ポイント増加しています。

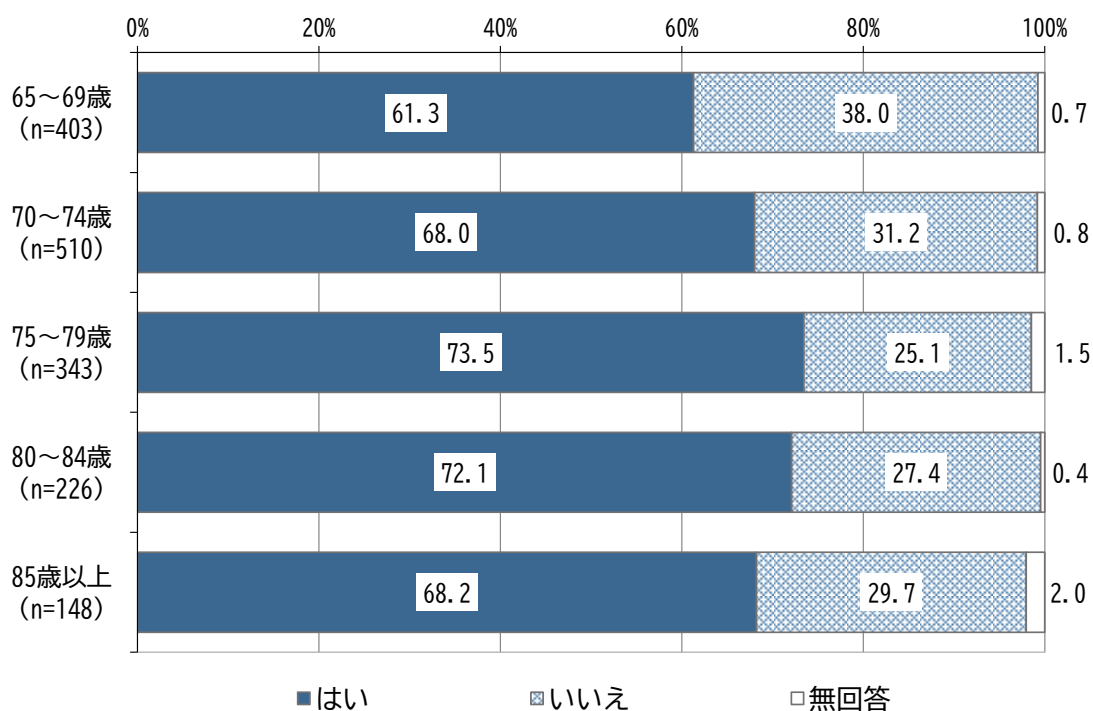


性別でみると、「いいえ」では、男性が28.0%、女性が33.2%となっています。



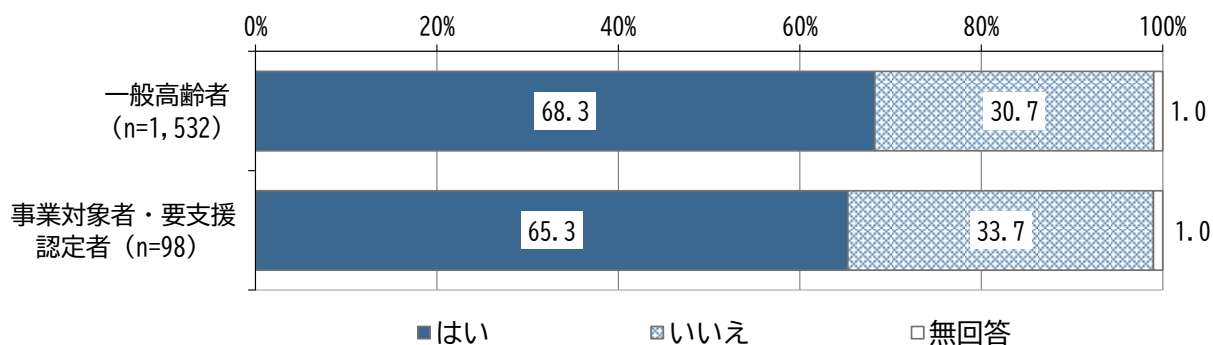
年齢別でみると、「いいえ」では、65～69歳が38.0%で最も高くなっています。

図表 2-5-39 新聞を読んでいるか 年齢別



認定状況別でみると、「いいえ」では、一般高齢者が30.7%、事業対象者・要支援認定者が33.7%となっています。

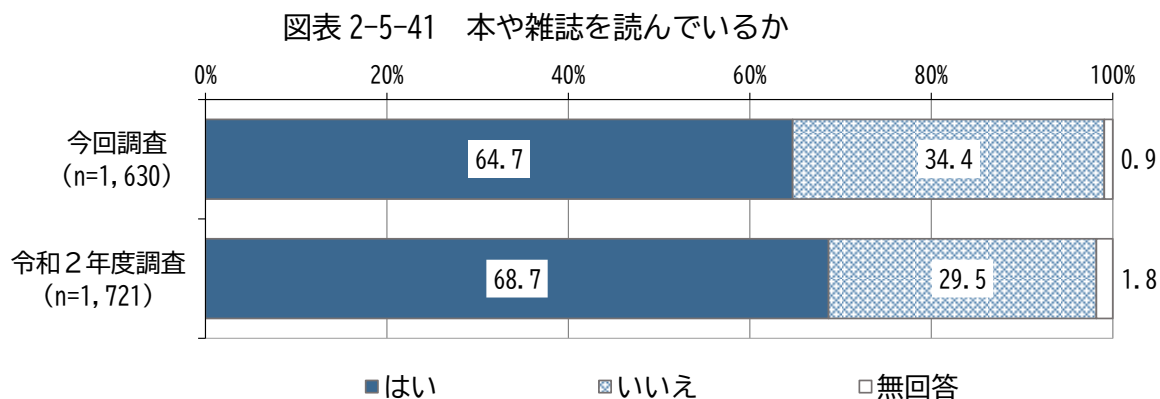
図表 2-5-40 新聞を読んでいるか 認定状況別



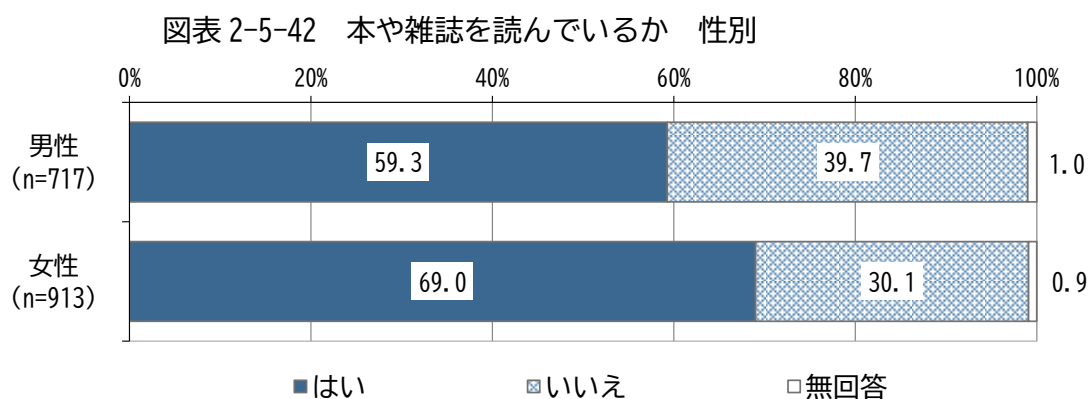
(11) 本や雑誌を読んでいるか

問4-11 本や雑誌を読んでいますか（○はひとつ）

本や雑誌を読んでいるかについては、「はい」が64.7%、「いいえ」が34.4%となっています。令和2（2020）年度調査と比較すると、「いいえ」（34.4%）では、令和2（2020）年度調査（29.5%）より4.9ポイント増加しています。

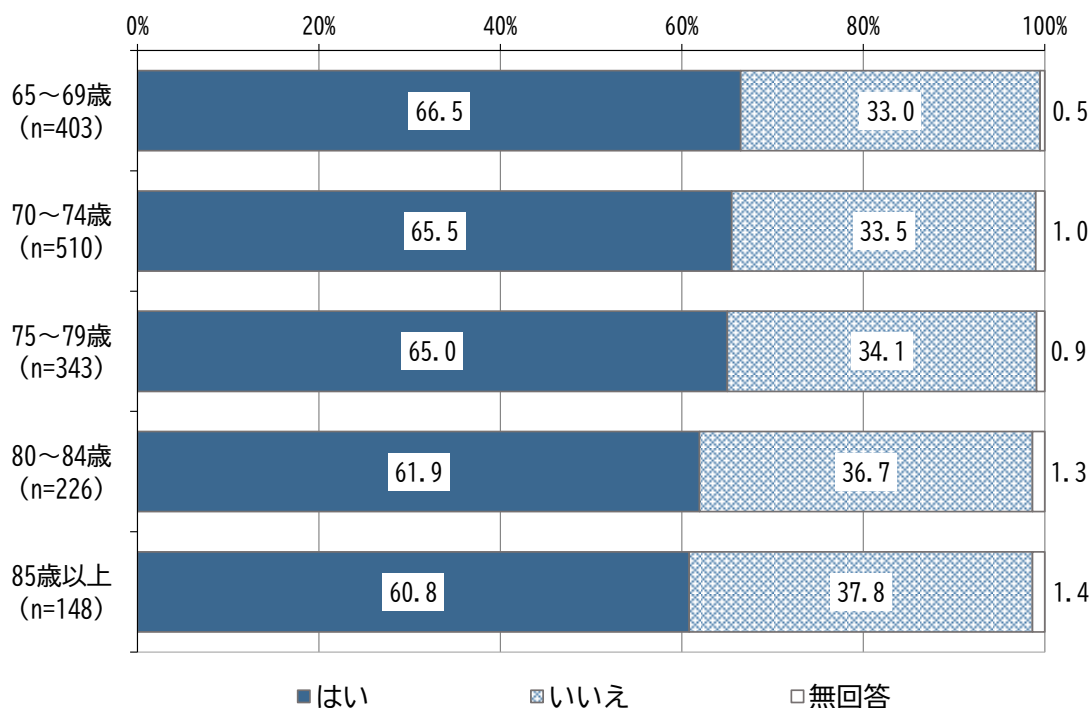


性別でみると、「いいえ」では、男性が39.7%、女性が30.1%となっています。



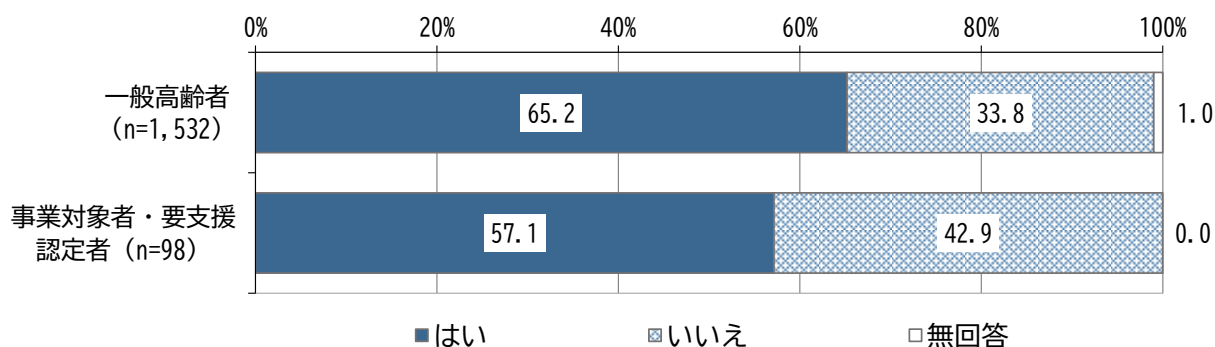
年齢別でみると、「いいえ」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が37.8%で最も高くなっています。

図表 2-5-43 本や雑誌を読んでいるか 年齢別



認定状況別でみると、「いいえ」では、一般高齢者が33.8%、事業対象者・要支援認定者が42.9%となっています。

図表 2-5-44 本や雑誌を読んでいるか 認定状況別



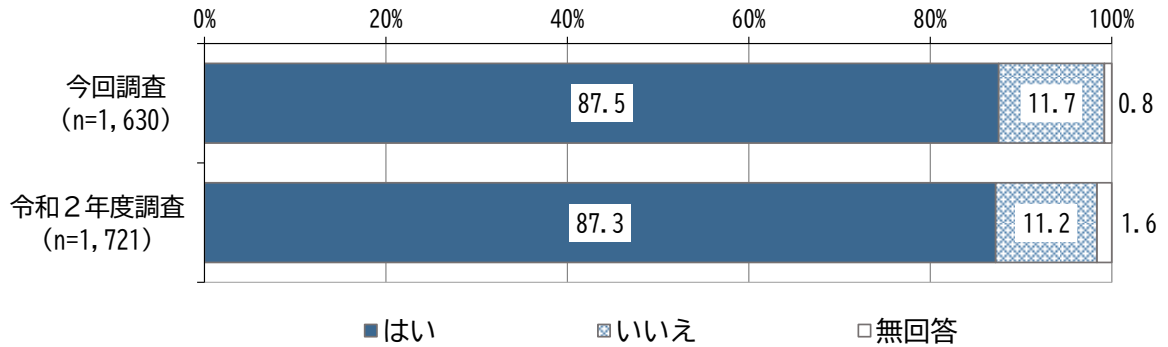
(12) 健康についての記事や番組に関心があるか

問4-12 健康についての記事や番組に関心がありますか（〇はひとつ）

健康についての記事や番組に関心があるかについては、「はい」が87.5%、「いいえ」が11.7%となっています。

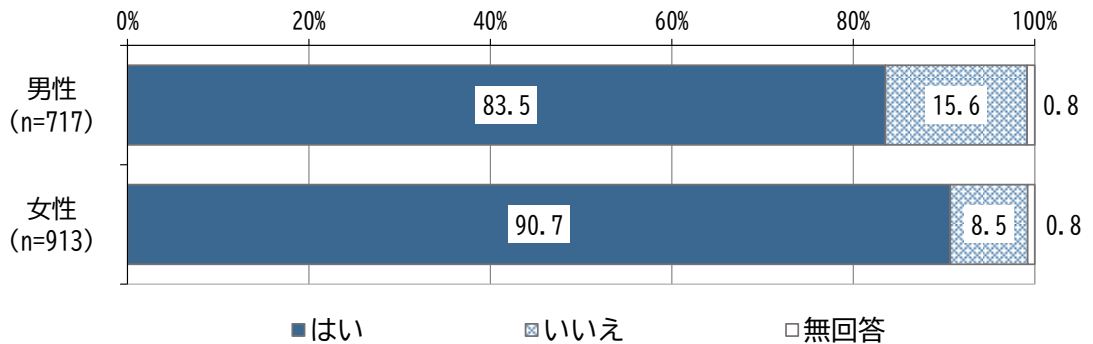
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-5-45 健康についての記事や番組に関心があるか



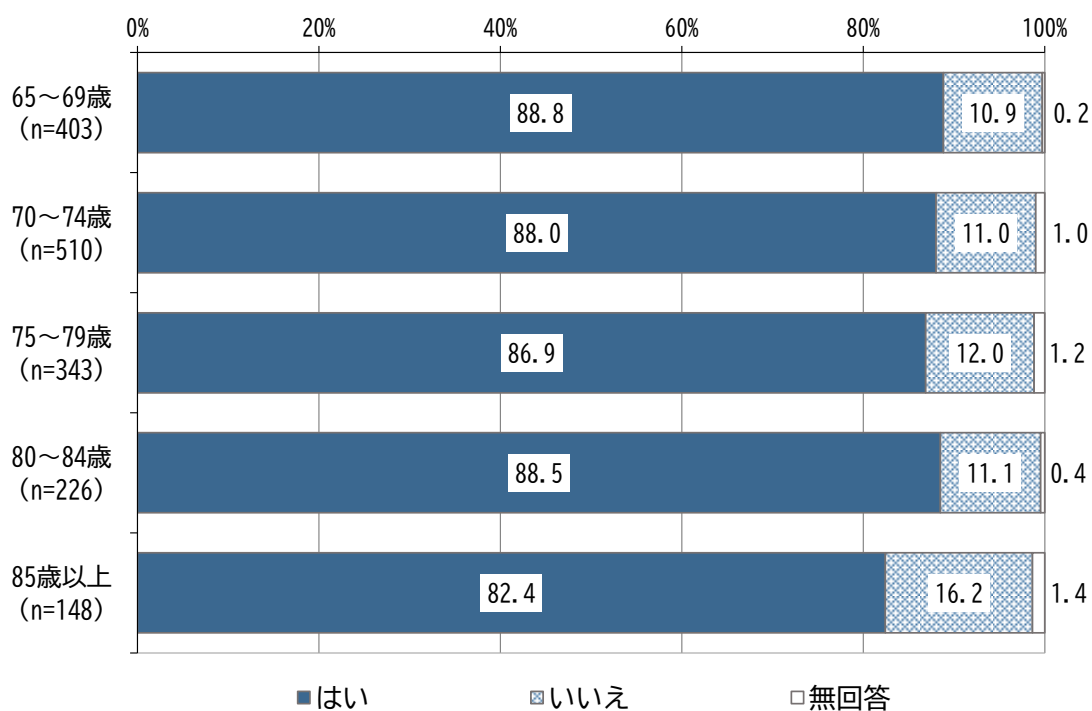
性別でみると、「いいえ」では、男性が15.6%、女性が8.5%となっています。

図表 2-5-46 健康についての記事や番組に関心があるか 性別



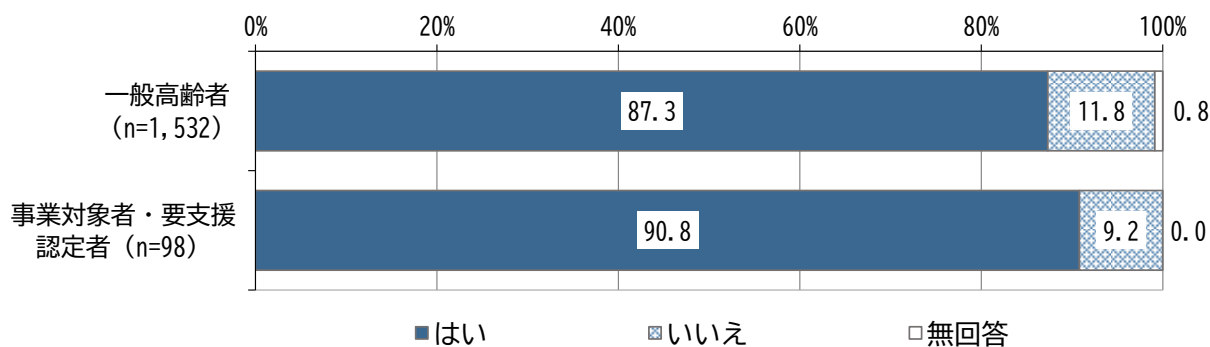
年齢別でみると、「いいえ」では、85歳以上が16.2%で最も高くなっています。

図表 2-5-47 健康についての記事や番組に関心があるか 年齢別



認定状況別でみると、「いいえ」では、一般高齢者が11.8%、事業対象者・要支援認定者が9.2%となっています。

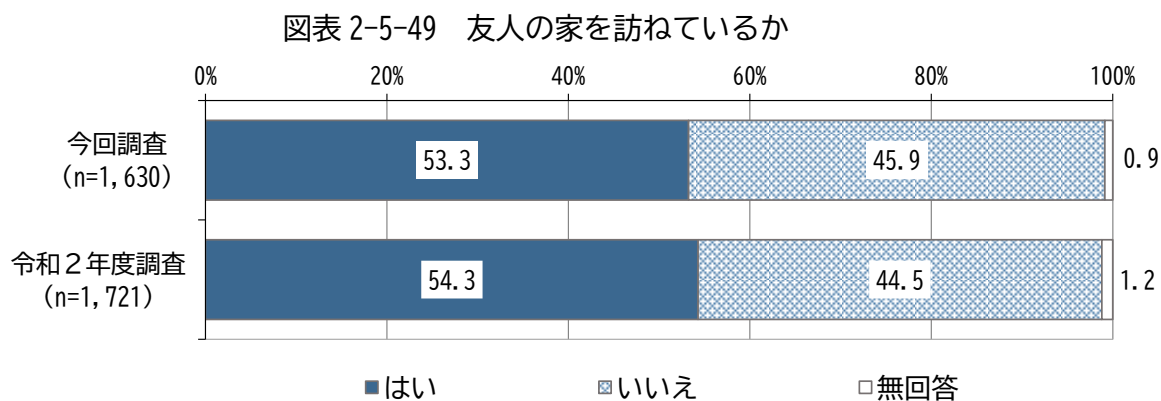
図表 2-5-48 健康についての記事や番組に関心があるか 認定状況別



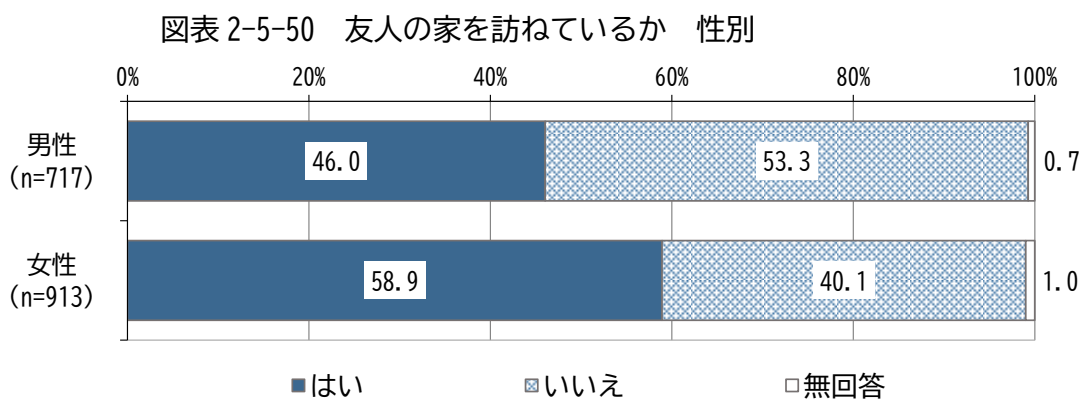
(13) 友人の家を訪ねているか

問4-13 友人の家を訪ねていますか（○はひとつ）

友人の家を訪ねているかについては、「はい」が53.3%、「いいえ」が45.9%となっています。令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

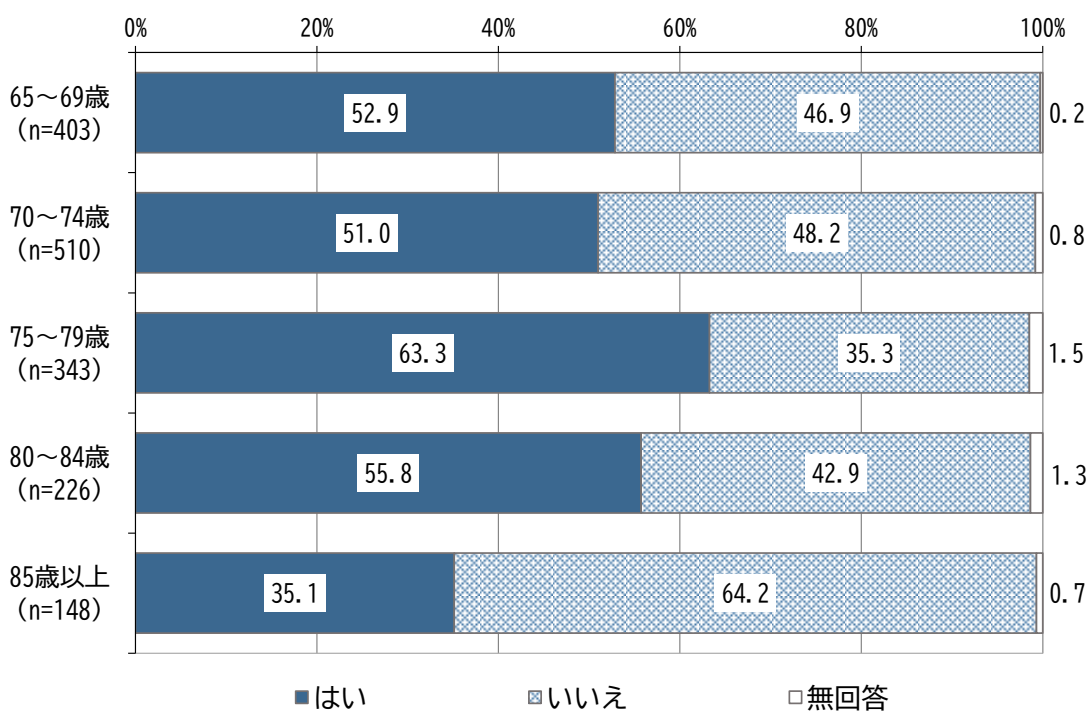


性別でみると、「いいえ」では、男性が53.3%、女性が40.1%となっています。



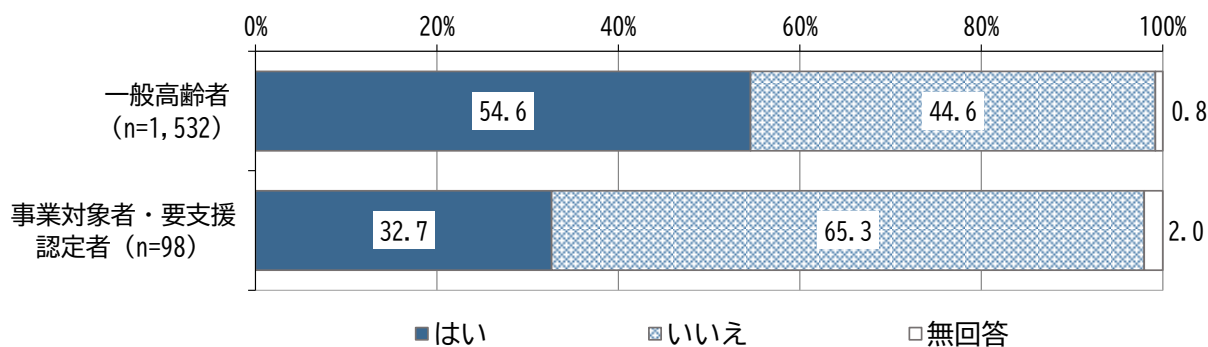
年齢別でみると、「いいえ」では、85歳以上が64.2%で最も高くなっています。

図表 2-5-51 友人の家を訪ねているか 年齢別



認定状況別でみると、「いいえ」では、一般高齢者が44.6%、事業対象者・要支援認定者が65.3%となっています。

図表 2-5-52 友人の家を訪ねているか 認定状況別

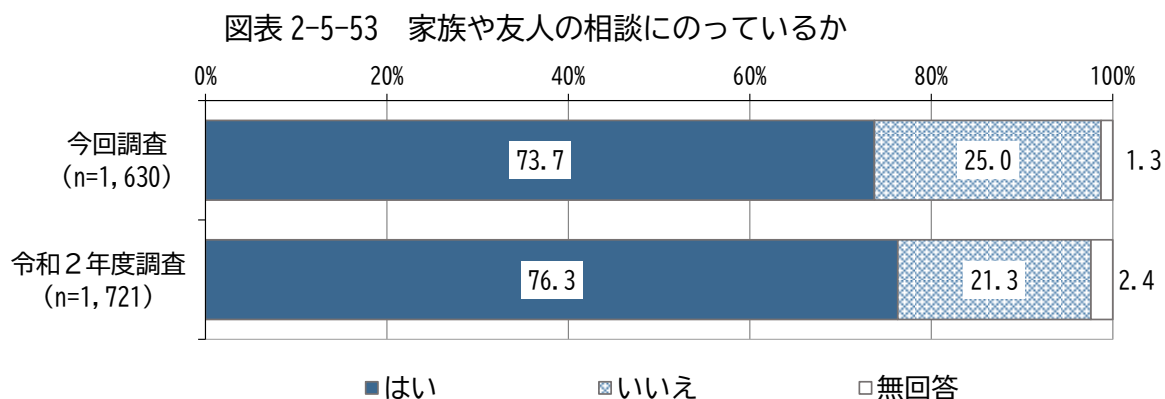


(14) 家族や友人の相談にのっているか

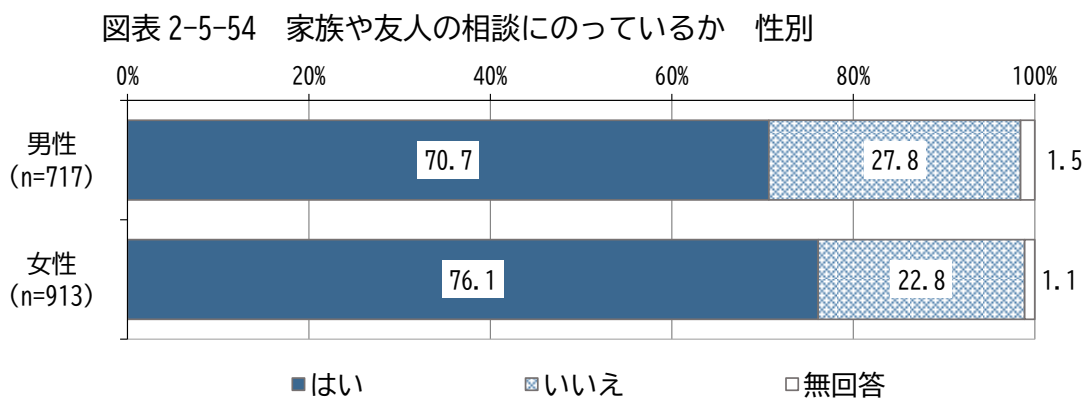
問4-14 家族や友人の相談にのっていますか (○はひとつ)

家族や友人の相談にのっているかについては、「はい」が73.7%、「いいえ」が25.0%となっています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「いいえ」（25.0%）では、令和2（2020）年度調査（21.3%）より3.7ポイント増加しています。

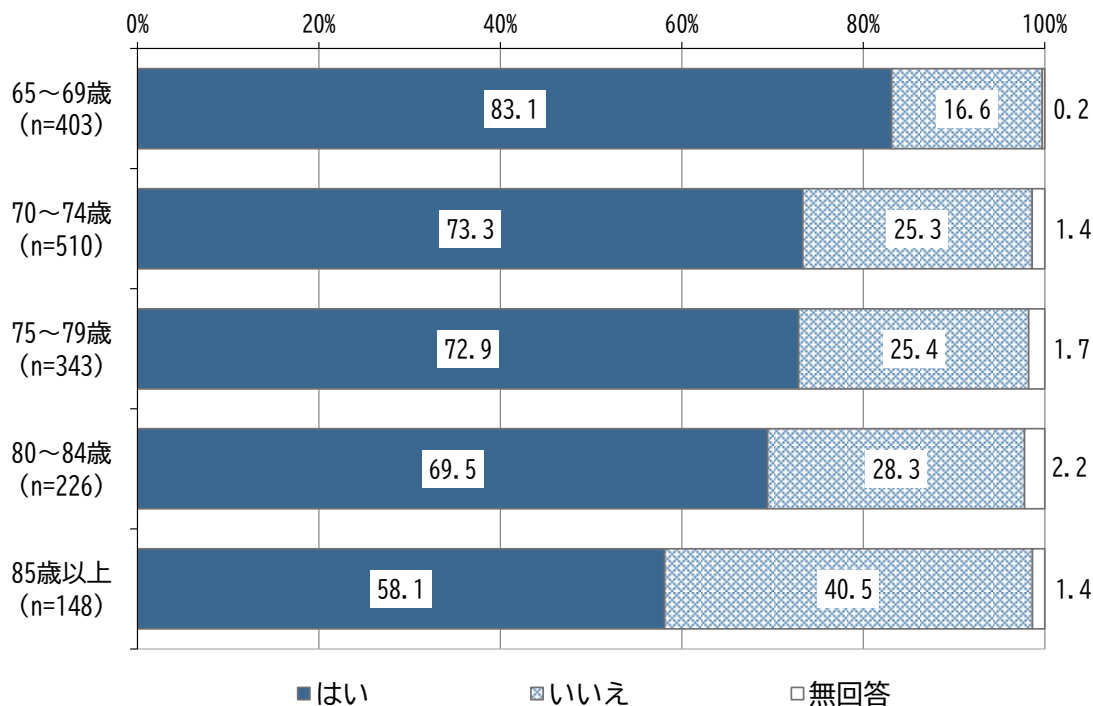


性別でみると、「いいえ」では、男性が27.8%、女性が22.8%となっています。



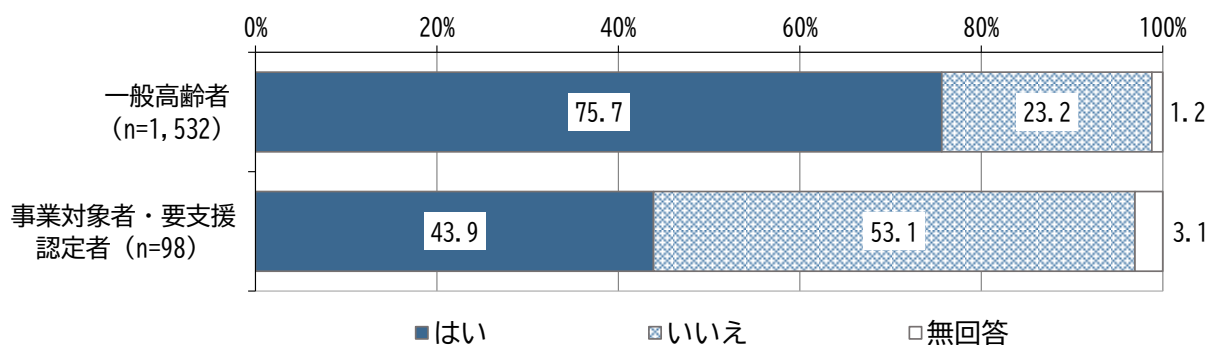
年齢別でみると、「いいえ」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が40.5%で最も高くなっています。

図表 2-5-55 家族や友人の相談にのっているか 年齢別



認定状況別でみると、「いいえ」では、一般高齢者が23.2%、事業対象者・要支援認定者が53.1%となっています。

図表 2-5-56 家族や友人の相談にのっているか 認定状況別

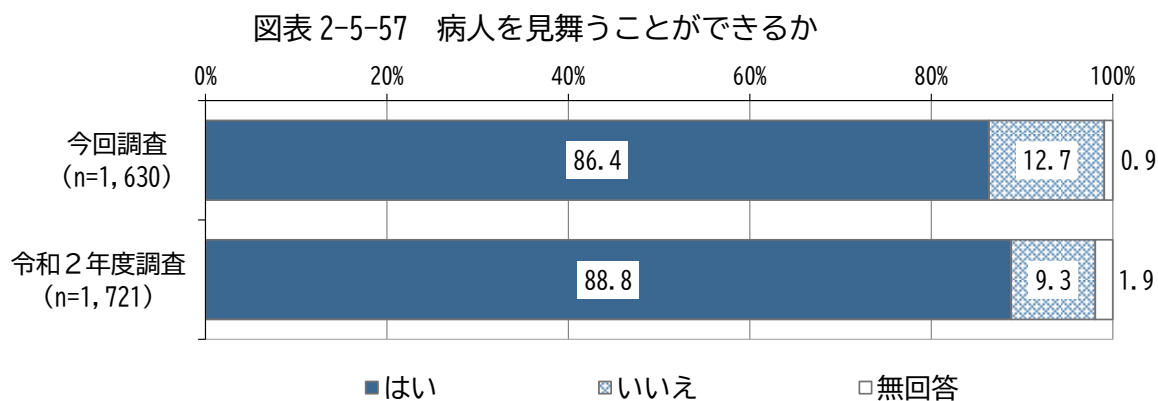


(15) 病人を見舞うことができるか

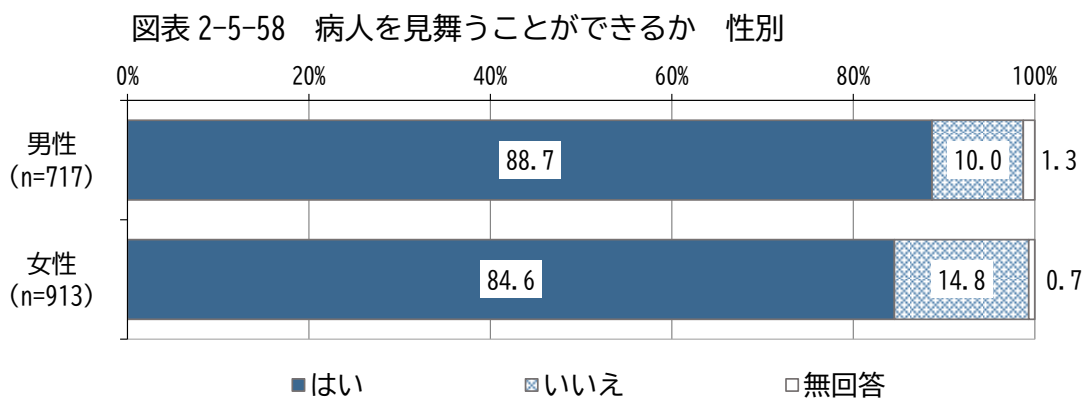
問4-15 病人を見舞うことができますか (○はひとつ)

病人を見舞うことができるかについては、「はい」が86.4%、「いいえ」が12.7%となっています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「いいえ」（12.9%）では、令和2（2020）年度調査（9.3%）より3.4ポイント増加しています。

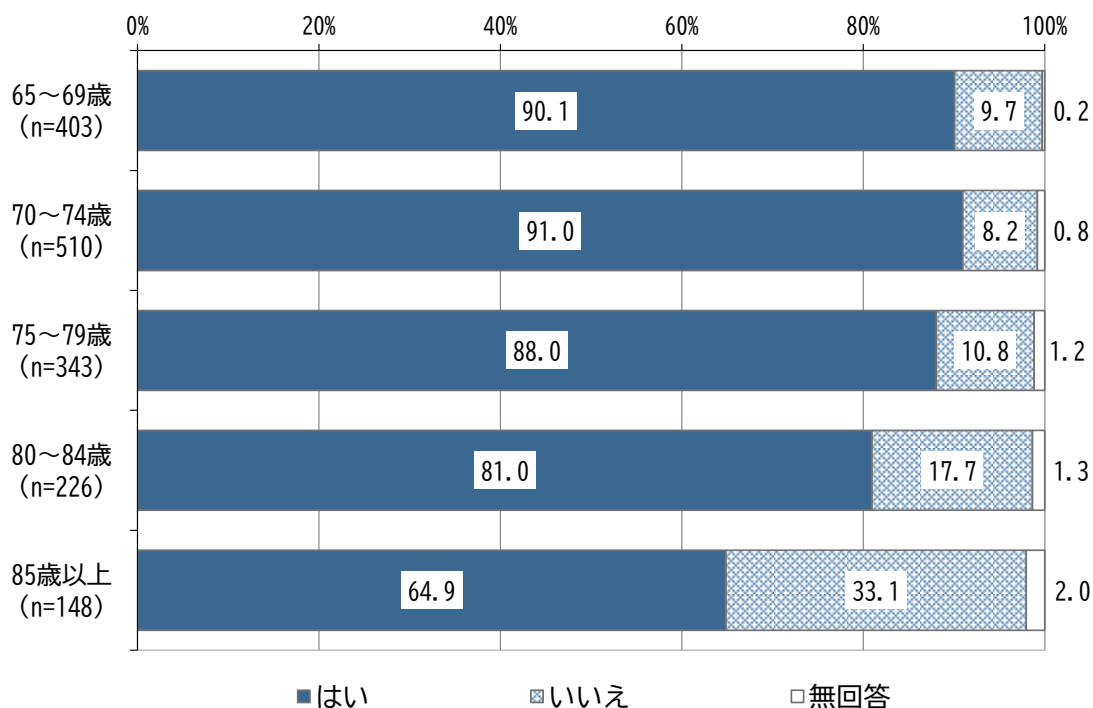


性別でみると、「いいえ」では、男性が10.0%、女性が14.8%となっています。



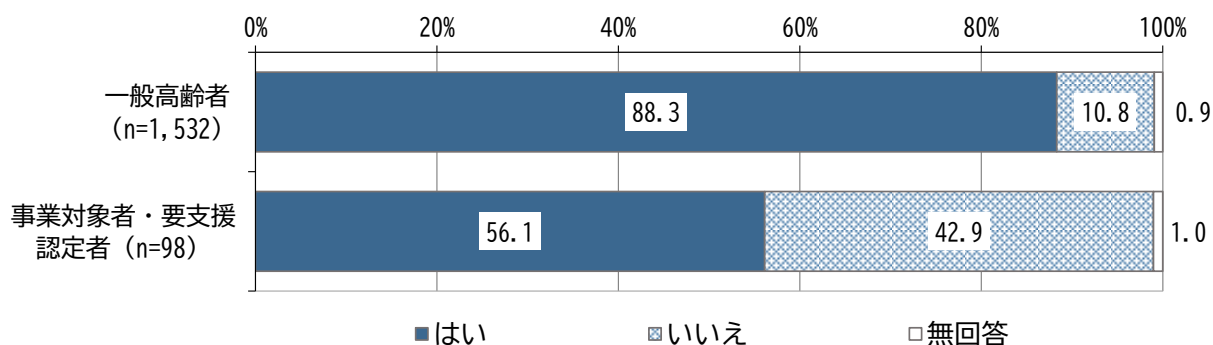
年齢別でみると、「いいえ」では、70歳以上で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が33.1%で最も高くなっています。

図表 2-5-59 病人を見舞うことができるか 年齢別



認定状況別でみると、「いいえ」では、一般高齢者が10.8%、事業対象者・要支援認定者が42.9%となっています。

図表 2-5-60 病人を見舞うことができるか 認定状況別



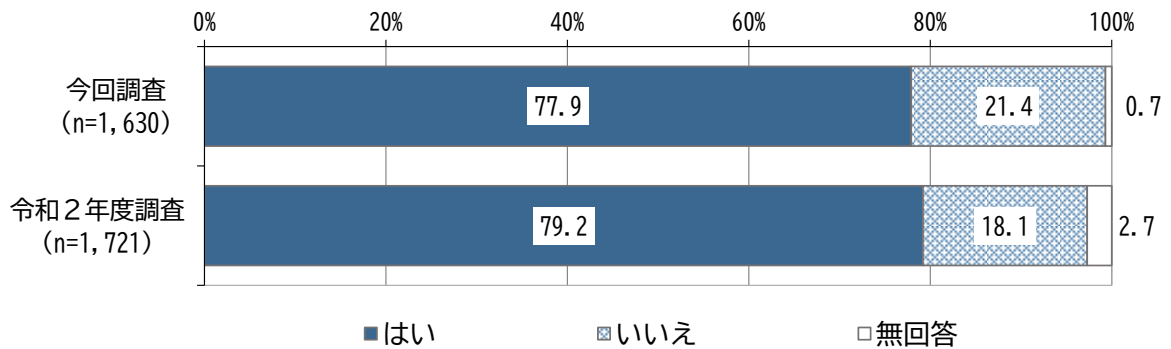
(16) 若い人に自分から話しかけることがあるか

問4-16 若い人に自分から話しかけることがありますか（〇はひとつ）

若い人に自分から話しかけることがあるかについては、「はい」が77.9%、「いいえ」が21.4%となっています。

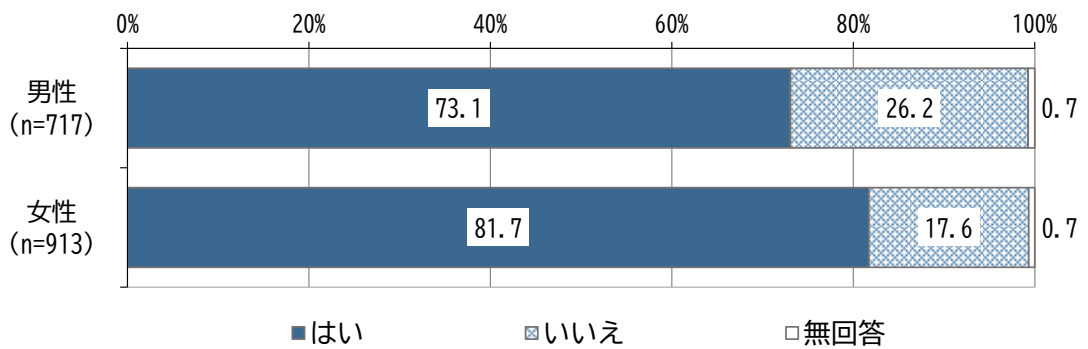
令和2（2020）年度調査と比較すると、「いいえ」（21.4%）では、令和2（2020）年度調査（18.1%）より3.3ポイント増加しています。

図表 2-5-61 若い人に自分から話しかけることがあるか



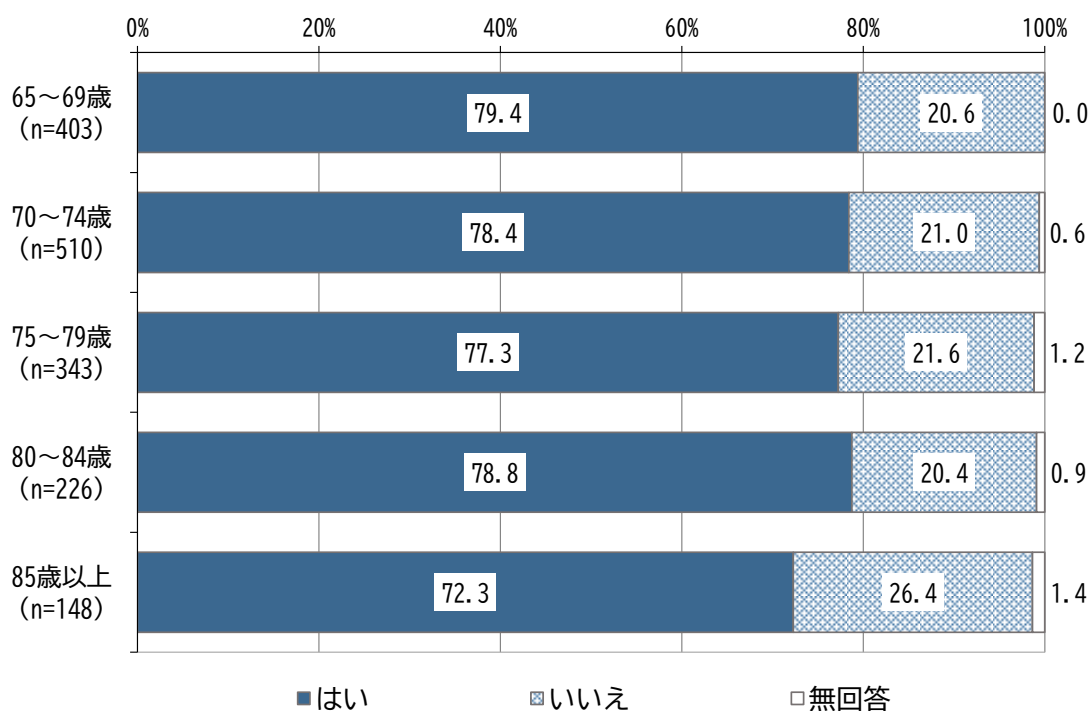
性別でみると、「いいえ」では、男性が26.2%、女性が17.6%となっています。

図表 2-5-62 若い人に自分から話しかけることがあるか 性別



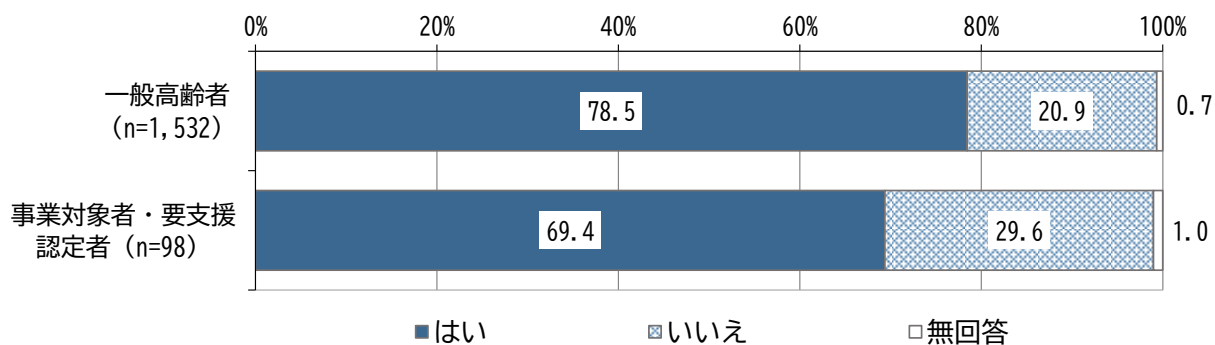
年齢別でみると、「いいえ」では、85歳以上が26.4%で最も高くなっています。

図表 2-5-63 若い人に自分から話しかけることがあるか 年齢別



認定状況別でみると、「いいえ」では、一般高齢者が20.9%、事業対象者・要支援認定者が29.6%となっています。

図表 2-5-64 若い人に自分から話しかけることがあるか 認定状況別

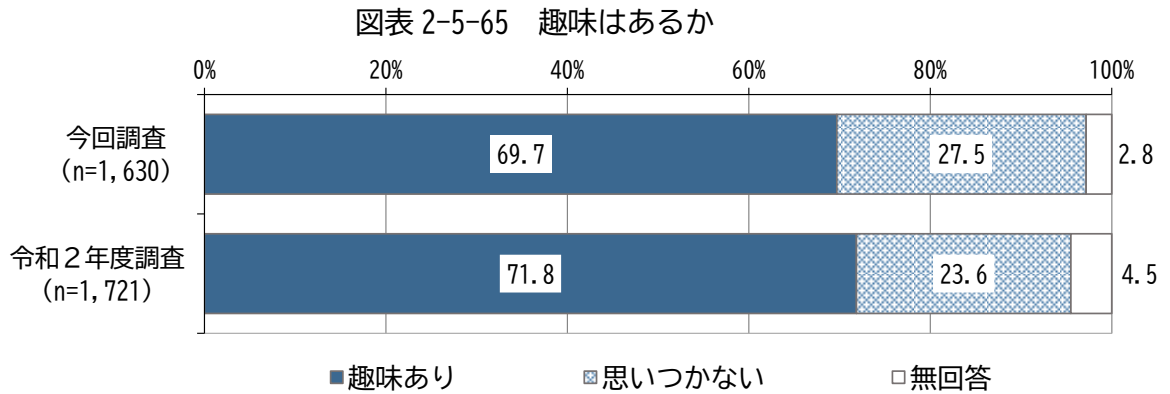


(17) 趣味はあるか

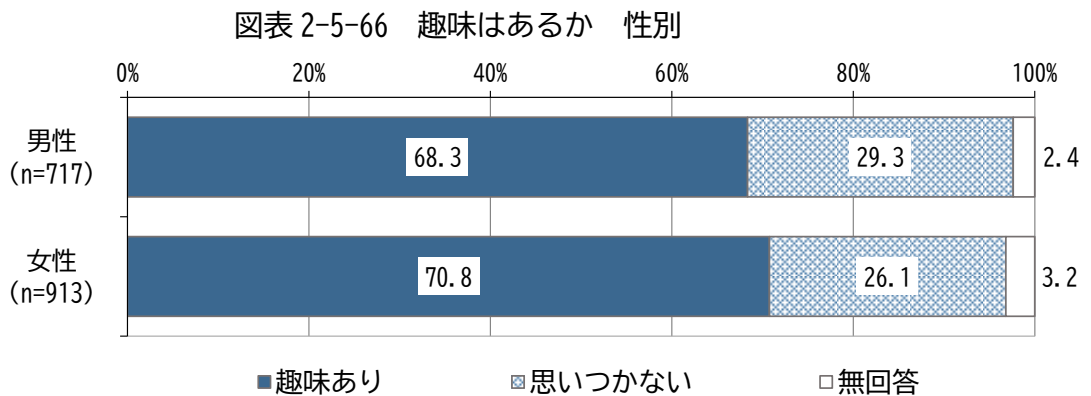
問4-17 趣味はありますか（〇はひとつ）

趣味はあるかについては、「趣味あり」が69.7%、「思いつかない」が27.5%となっています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「思いつかない」（27.5%）では、令和2（2020）年度調査（23.6%）より3.9ポイント増加しています。

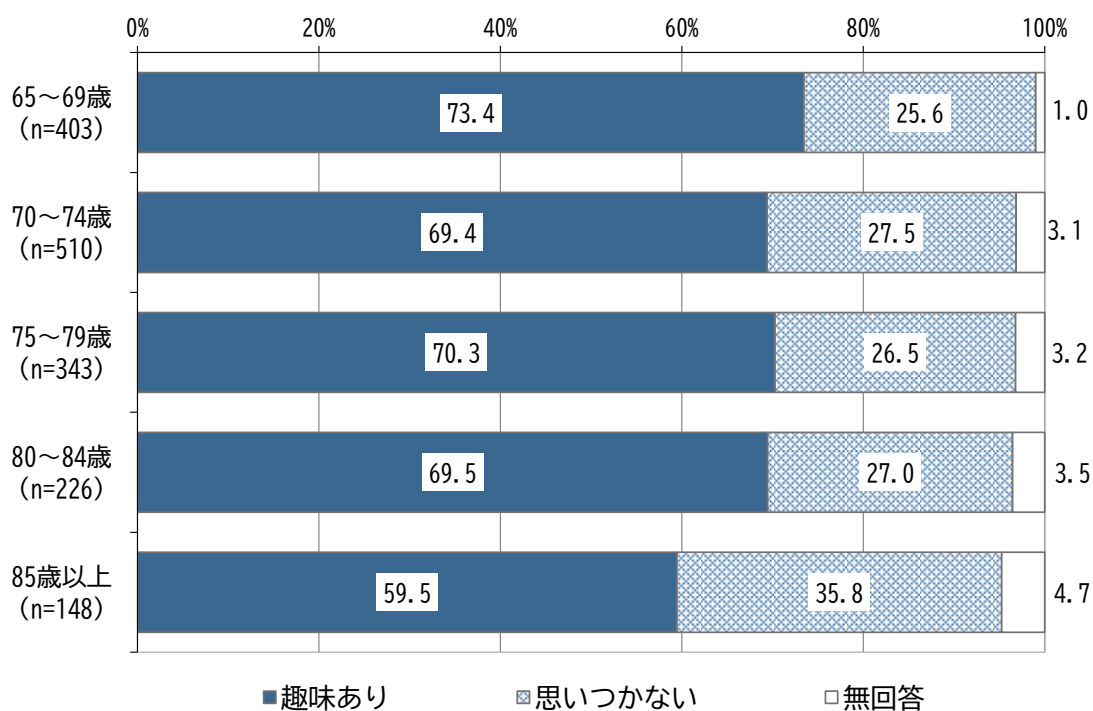


性別でみると、「思いつかない」では、男性が29.3%、女性が26.1%となっています。



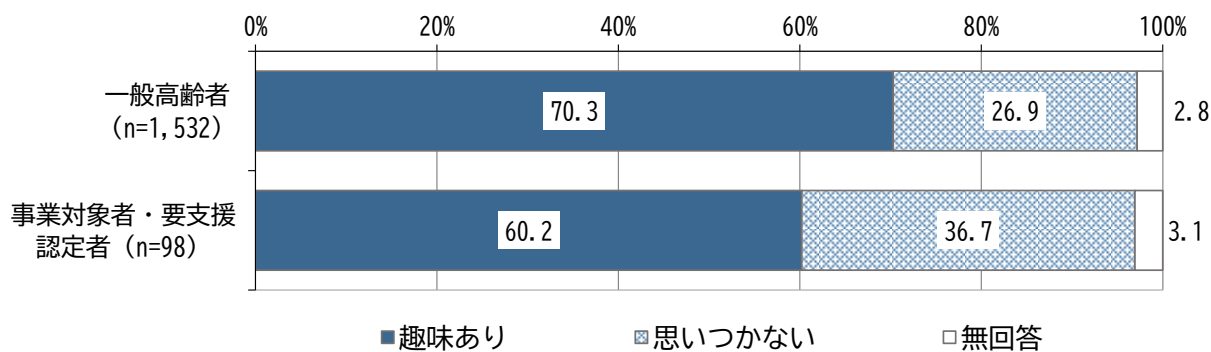
年齢別でみると、「思いつかない」では、85歳以上が35.8%で最も高くなっています。

図表 2-5-67 趣味はあるか 年齢別



認定状況別でみると、「思いつかない」では、一般高齢者が26.9%、事業対象者・要支援認定者が36.7%となっています。

図表 2-5-68 趣味はあるか 認定状況別

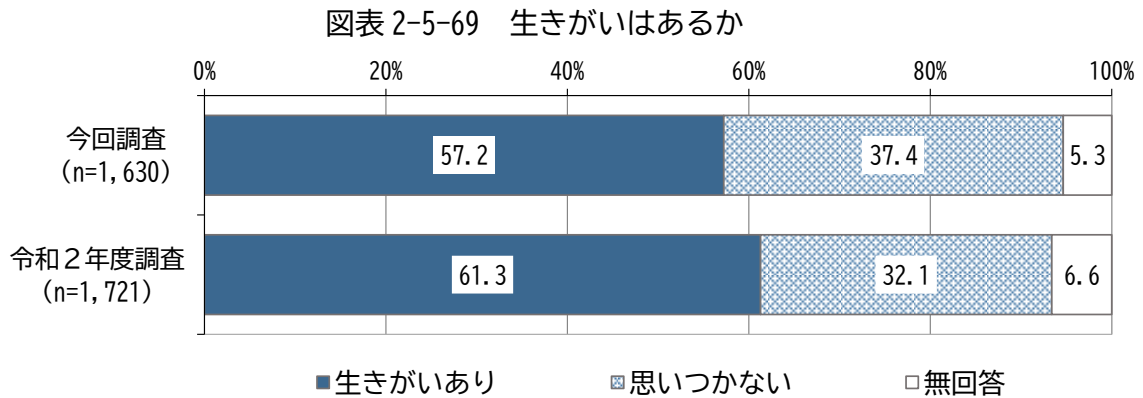


(18) 生きがいはあるか

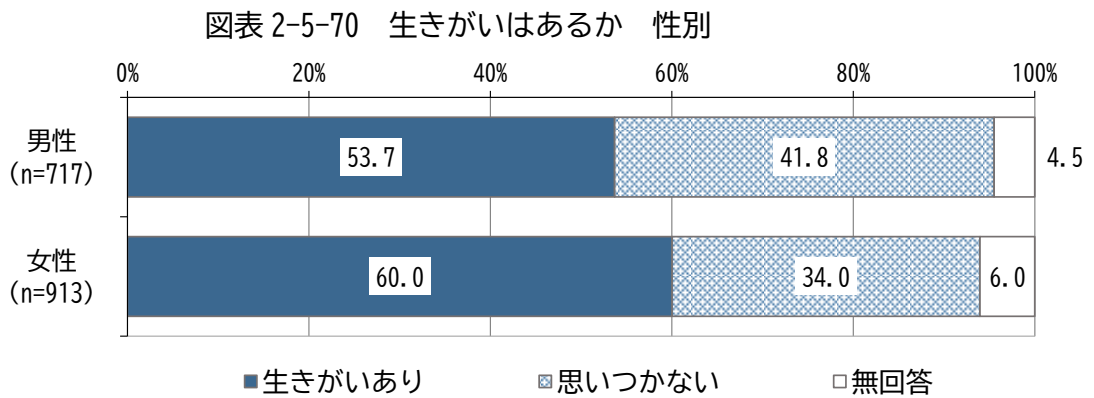
問4-18 生きがいがありますか (○はひとつ)

生きがいがあるかについては、「生きがいあり」が 57.2%、「思いつかない」が 37.4%となっています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「思いつかない」（37.4%）では、令和2（2020）年度調査（32.1%）より 5.3 ポイント増加しています。

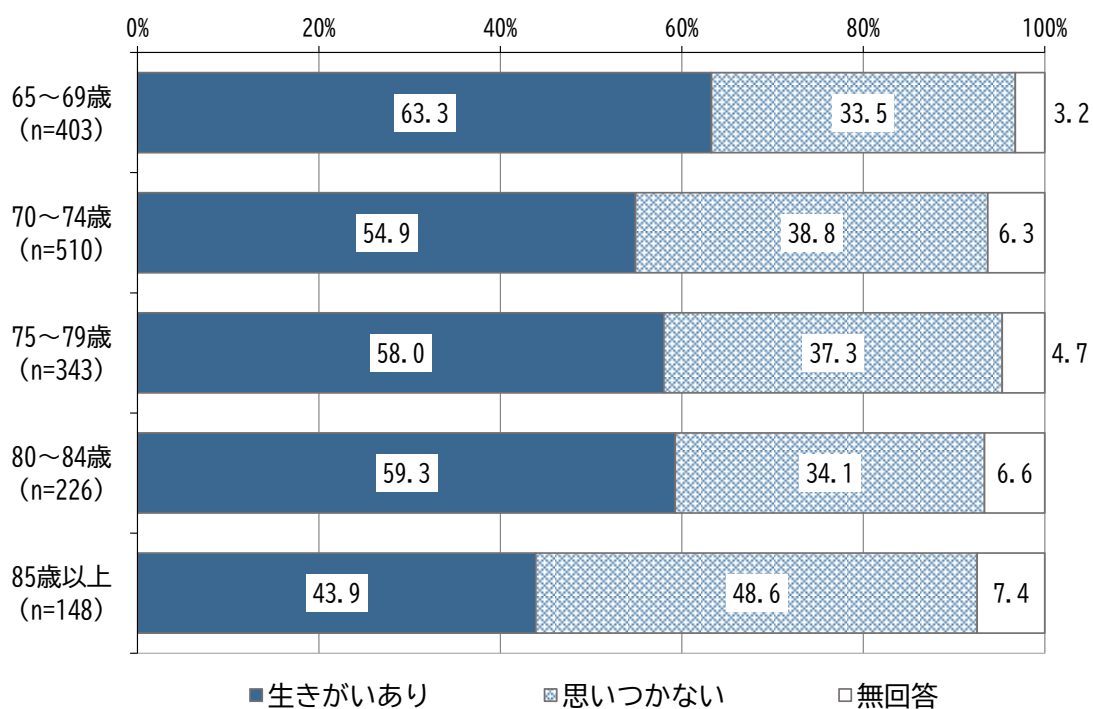


性別でみると、「思いつかない」では、男性が 41.8%、女性が 34.0%となっています。



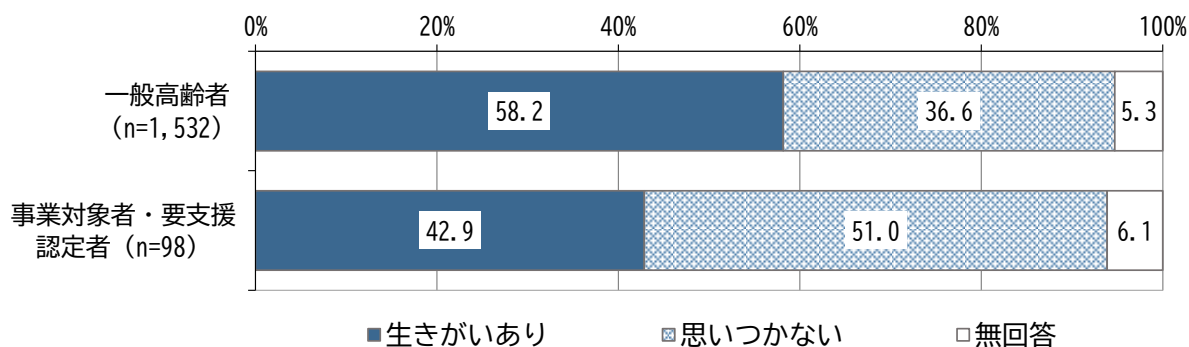
年齢別でみると、「思いつかない」では、85歳以上が48.6%で最も高くなっています。

図表 2-5-71 生きがいはあるか 年齢別



認定状況別でみると、「思いつかない」では、一般高齢者が36.6%、事業対象者・要支援認定者が51.0%となっています。

図表 2-5-72 生きがいはあるか 認定状況別



6 地域での活動について

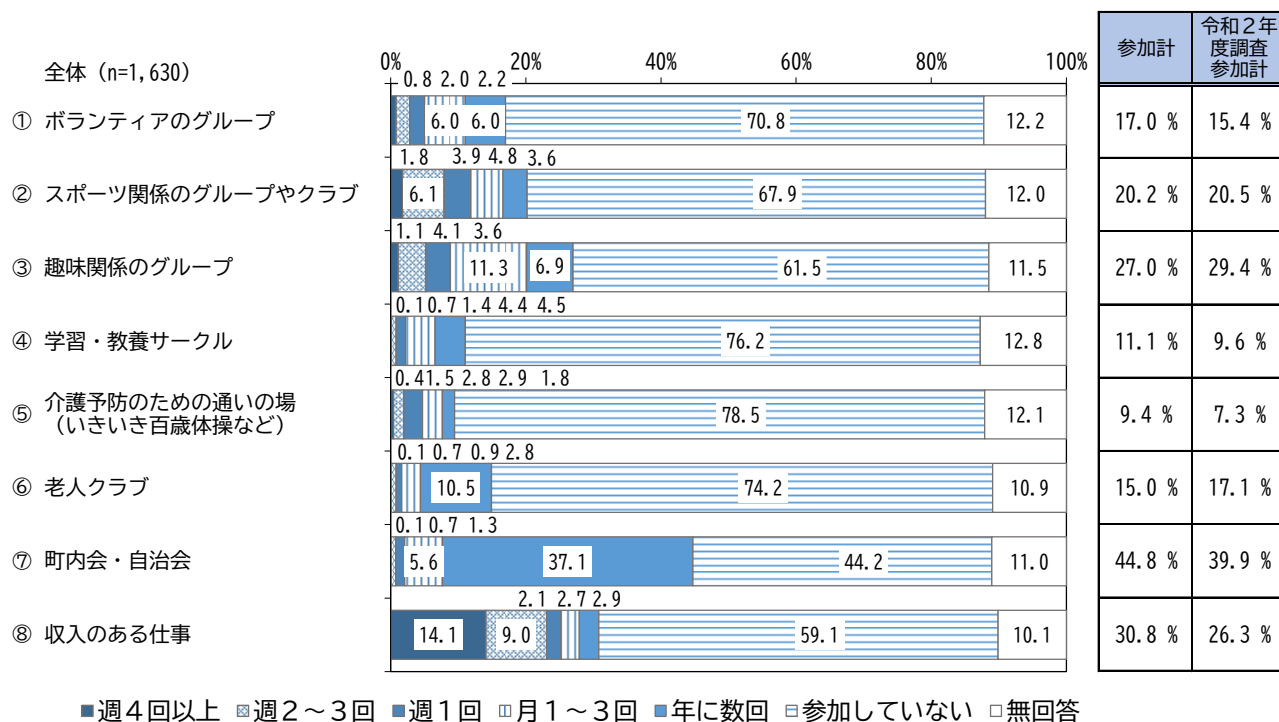
(1) 社会活動への参加状況

問5-1 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
 ※ ①～⑧それぞれに回答してください（①～⑧それぞれに○はひとつ）

社会活動への参加状況については、参加している人（年に数回以上の参加）の割合は、「⑦ 町内会・自治会」が44.8%で最も高く、次いで「⑧ 収入のある仕事」が30.8%、「③ 趣味関係のグループ」が27.0%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、参加している人（年に数回以上の参加）の割合は、「② スポーツ関係のグループやクラブ」、「③ 趣味関係のグループ」、「⑥ 老人クラブ」を除く全ての項目で令和2（2020）年度調査よりも割合が増加しています。

図表 2-6-1 社会活動への参加状況



① ボランティアのグループ

図表 2-6-2 ①ボランティアのグループへの参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加計	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	1,630	0.8	2.0	2.2	6.0	6.0	17.0	70.8	12.2	
令和2年度調査	1,721	1.0	1.4	1.3	4.1	7.6	15.4	54.3	30.3	
性別	男性	717	1.1	1.5	2.9	4.9	8.9	19.3	70.7	9.9
	女性	913	0.5	2.4	1.6	6.9	3.6	15.0	70.9	14.0
年齢別	65～69歳	403	0.5	2.0	2.0	6.0	4.5	15.0	79.9	5.2
	70～74歳	510	1.0	2.5	2.9	6.7	5.1	18.2	72.4	9.4
	75～79歳	343	0.6	1.5	2.3	6.7	9.6	20.7	65.6	13.7
	80～84歳	226	0.9	1.8	1.3	6.2	7.1	17.3	61.5	21.2
	85歳以上	148	1.4	2.0	1.4	2.0	2.7	9.5	66.9	23.6
状況別	一般高齢者	1,532	0.8	2.1	2.3	6.3	6.3	17.8	70.4	11.7
	事業対象者・要支援認定者	98	1.0	1.0	0.0	1.0	1.0	4.0	76.5	19.4

※網掛け■は最も割合が高いもの

② スポーツ関係のグループやクラブ

図表 2-6-3 ②スポーツ関係のグループやクラブへの参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加計	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	1,630	1.8	6.1	3.9	4.8	3.6	20.2	67.9	12.0	
令和2年度調査	1,721	3.0	5.8	3.4	3.4	4.9	20.5	51.5	28.1	
性別	男性	717	1.8	5.7	3.5	5.9	5.9	22.8	67.4	9.9
	女性	913	1.8	6.5	4.3	3.9	1.8	18.3	68.2	13.6
年齢別	65～69歳	403	1.5	4.7	4.5	5.5	3.7	19.9	74.9	5.2
	70～74歳	510	1.2	7.3	4.5	4.5	3.1	20.6	70.0	9.4
	75～79歳	343	2.6	5.8	3.5	6.1	5.0	23.0	64.1	12.8
	80～84歳	226	3.1	6.6	4.0	3.5	3.1	20.3	58.4	21.2
	85歳以上	148	0.7	6.1	1.4	2.7	2.0	12.9	64.2	23.0
状況別	一般高齢者	1,532	1.9	6.2	4.1	5.0	3.8	21.0	67.6	11.4
	事業対象者・要支援認定者	98	0.0	5.1	1.0	1.0	0.0	7.1	72.4	20.4

※網掛け■は最も割合が高いもの

③ 趣味関係のグループ

図表 2-6-4 ③趣味関係のグループへの参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加計	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	1,630	1.1	4.1	3.6	11.3	6.9	27.0	61.5	11.5	
令和2年度調査	1,721	1.6	3.7	3.8	11.9	8.4	29.4	44.8	25.9	
性別	男性	717	1.4	3.6	3.9	9.2	9.1	27.2	63.0	9.8
	女性	913	0.9	4.5	3.4	12.9	5.1	26.8	60.4	12.8
年齢別	65～69歳	403	0.7	3.0	3.0	10.7	7.7	25.1	70.7	4.2
	70～74歳	510	0.6	3.7	4.1	10.0	8.2	26.6	64.1	9.2
	75～79歳	343	1.5	5.0	4.4	14.6	5.8	31.3	56.3	12.5
	80～84歳	226	3.1	5.8	1.8	13.3	5.8	29.8	49.1	21.2
	85歳以上	148	0.0	4.1	4.7	6.8	4.1	19.7	58.8	21.6
状況別	一般高齢者	1,532	1.0	4.2	3.7	11.6	7.2	27.7	61.6	10.9
	事業対象者・要支援認定者	98	3.1	3.1	3.1	7.1	2.0	18.4	61.2	20.4

※網掛け■は最も割合が高いもの

④ 学習・教養サークル

図表 2-6-5 ④学習・教養サークルへの参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加計	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	1,630	0.1	0.7	1.4	4.4	4.5	11.1	76.2	12.8	
令和2年度調査	1,721	0.3	0.8	1.2	2.9	4.4	9.6	57.9	32.5	
性別	男性	717	0.0	0.4	1.5	3.1	5.0	10.0	78.8	11.2
	女性	913	0.2	0.9	1.3	5.4	4.1	11.9	74.2	14.0
年齢別	65～69歳	403	0.0	0.0	1.5	2.0	4.0	7.5	86.8	5.7
	70～74歳	510	0.2	0.6	1.2	3.1	3.9	9.0	80.6	10.4
	75～79歳	343	0.0	1.2	1.2	7.6	6.7	16.7	70.0	13.4
	80～84歳	226	0.4	0.4	2.2	5.8	4.9	13.7	61.9	24.3
	85歳以上	148	0.0	2.0	1.4	5.4	2.0	10.8	68.2	20.9
状況別	一般高齢者	1,532	0.1	0.7	1.4	4.4	4.8	11.4	76.5	12.1
	事業対象者・要支援認定者	98	1.0	1.0	1.0	3.1	0.0	6.1	71.4	22.4

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑤ 介護予防のための通いの場

図表 2-6-6 ⑤介護予防のための通いの場への参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加計	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	1,630	0.4	1.5	2.8	2.9	1.8	9.4	78.5	12.1	
令和2年度調査	1,721	0.3	0.6	1.0	1.8	3.6	7.3	60.7	32.1	
性別	男性	717	0.3	0.7	0.7	1.8	1.5	5.0	84.2	10.7
	女性	913	0.5	2.2	4.4	3.8	2.0	12.9	73.9	13.1
年齢別	65～69歳	403	0.0	0.5	0.7	1.0	1.2	3.4	91.3	5.2
	70～74歳	510	0.0	0.6	1.4	3.1	1.4	6.5	83.7	9.8
	75～79歳	343	0.6	1.5	2.9	4.4	2.3	11.7	75.2	13.1
	80～84歳	226	0.9	4.0	4.9	4.9	3.5	18.2	59.7	22.1
	85歳以上	148	2.0	4.1	9.5	1.4	0.7	17.7	61.5	20.9
状況別	一般高齢者	1,532	0.3	1.2	2.2	3.0	1.7	8.4	79.8	11.9
	事業対象者・要支援認定者	98	3.1	6.1	12.2	2.0	3.1	26.5	58.2	15.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑥ 老人クラブ

図表 2-6-7 ⑥老人クラブへの参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加計	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	1,630	0.1	0.7	0.9	2.8	10.5	15.0	74.2	10.9	
令和2年度調査	1,721	0.5	0.7	0.5	2.7	12.7	17.1	54.9	28.1	
性別	男性	717	0.1	0.6	0.7	2.6	10.9	14.9	76.2	8.9
	女性	913	0.0	0.9	1.0	2.8	10.2	14.9	72.6	12.5
年齢別	65～69歳	403	0.0	0.2	0.2	0.7	4.2	5.3	89.8	4.7
	70～74歳	510	0.0	0.0	0.4	2.9	9.6	12.9	77.6	9.4
	75～79歳	343	0.0	0.9	1.2	3.5	12.8	18.4	68.8	12.8
	80～84歳	226	0.4	2.2	1.3	4.9	19.5	28.3	54.9	16.8
	85歳以上	148	0.0	2.0	2.7	2.7	11.5	18.9	61.5	19.6
状況別	一般高齢者	1,532	0.1	0.7	0.8	2.9	10.3	14.8	74.9	10.4
	事業対象者・要支援認定者	98	0.0	2.0	1.0	1.0	13.3	17.3	63.3	19.4

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑦ 町内会・自治会

図表 2-6-8 ⑦町内会・自治会への参加状況

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	参加頻度					参加計	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	1,630	0.1	0.7	1.3	5.6	37.1	44.8	44.2	11.0	
令和2年度調査	1,721	0.5	0.8	0.9	4.8	32.9	39.9	33.3	26.8	
性別	男性	717	0.1	1.0	1.7	8.4	42.7	53.9	38.5	7.7
	女性	913	0.0	0.4	1.1	3.4	32.6	37.5	48.7	13.7
年齢別	65～69歳	403	0.2	0.0	1.2	7.4	40.2	49.0	46.7	4.2
	70～74歳	510	0.0	1.0	1.8	5.5	40.8	49.1	41.4	9.6
	75～79歳	343	0.0	0.0	0.9	6.7	36.7	44.3	43.4	12.2
	80～84歳	226	0.0	1.8	0.9	4.4	36.3	43.4	38.1	18.6
	85歳以上	148	0.0	1.4	2.0	0.0	17.6	21.0	58.8	20.3
状況別	一般高齢者	1,532	0.1	0.7	1.3	5.9	38.4	46.4	43.0	10.6
	事業対象者・要支援認定者	98	0.0	1.0	2.0	0.0	15.3	18.3	63.3	18.4

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑧ 収入のある仕事

図表 2-6-9 ⑧収入のある仕事への参加状況

単位：実数（人）、構成比（％）

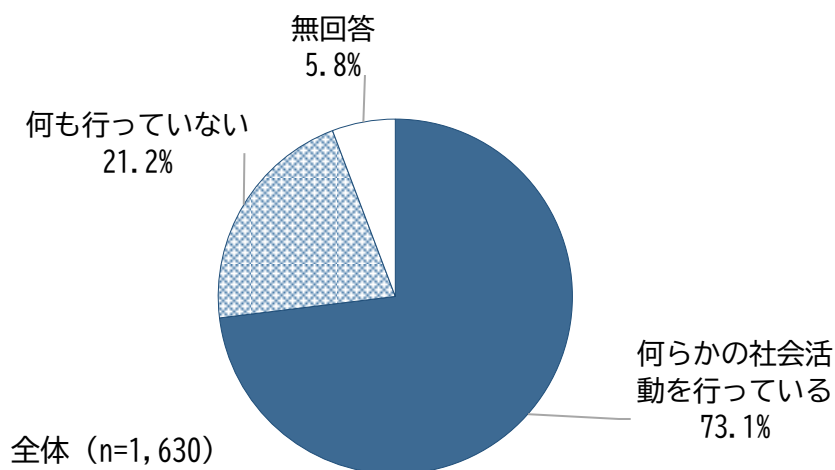
	合計	参加頻度					参加計	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	1,630	14.1	9.0	2.1	2.7	2.9	30.8	59.1	10.1	
令和2年度調査	1,721	12.6	7.4	1.3	2.2	2.8	26.3	46.0	27.8	
性別	男性	717	18.0	11.3	2.4	3.3	4.3	39.3	53.4	7.3
	女性	913	11.1	7.1	2.0	2.2	1.8	24.2	63.5	12.4
年齢別	65～69歳	403	28.0	16.1	2.7	3.0	3.2	53.0	44.4	2.5
	70～74歳	510	15.7	10.0	2.2	2.7	3.1	33.7	58.6	7.6
	75～79歳	343	6.7	7.3	1.7	3.2	3.2	22.1	66.5	11.4
	80～84歳	226	4.9	1.3	2.2	2.2	1.3	11.9	68.1	19.9
	85歳以上	148	2.0	1.4	1.4	1.4	2.7	8.9	69.6	21.6
状況別	一般高齢者	1,532	15.0	9.4	2.3	2.8	2.9	32.4	58.2	9.4
	事業対象者・要支援認定者	98	0.0	2.0	0.0	1.0	2.0	5.0	73.5	21.4

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑨ 社会参加活動の状況

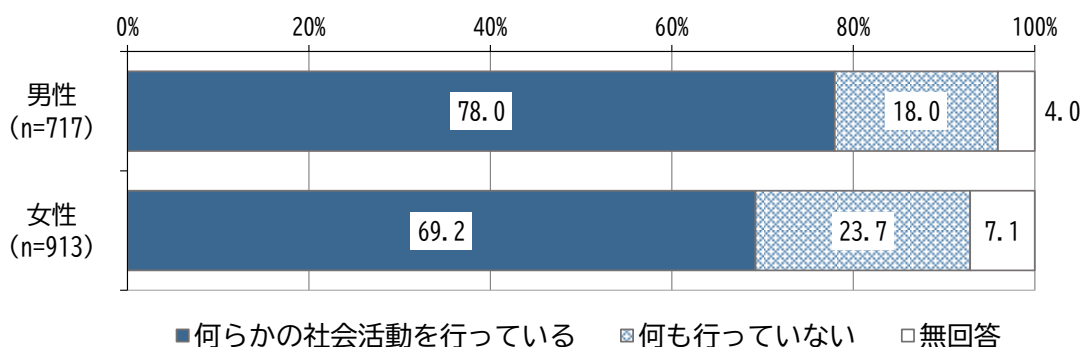
上記①～⑧について、「何らかの社会活動を行っている」（①～⑧いずれかに年に数回以上の参加）が 73.1%、「何も行っていない」（①～⑧いずれも参加していない）が 21.2%となっています。

図表 2-6-10 社会参加活動の状況



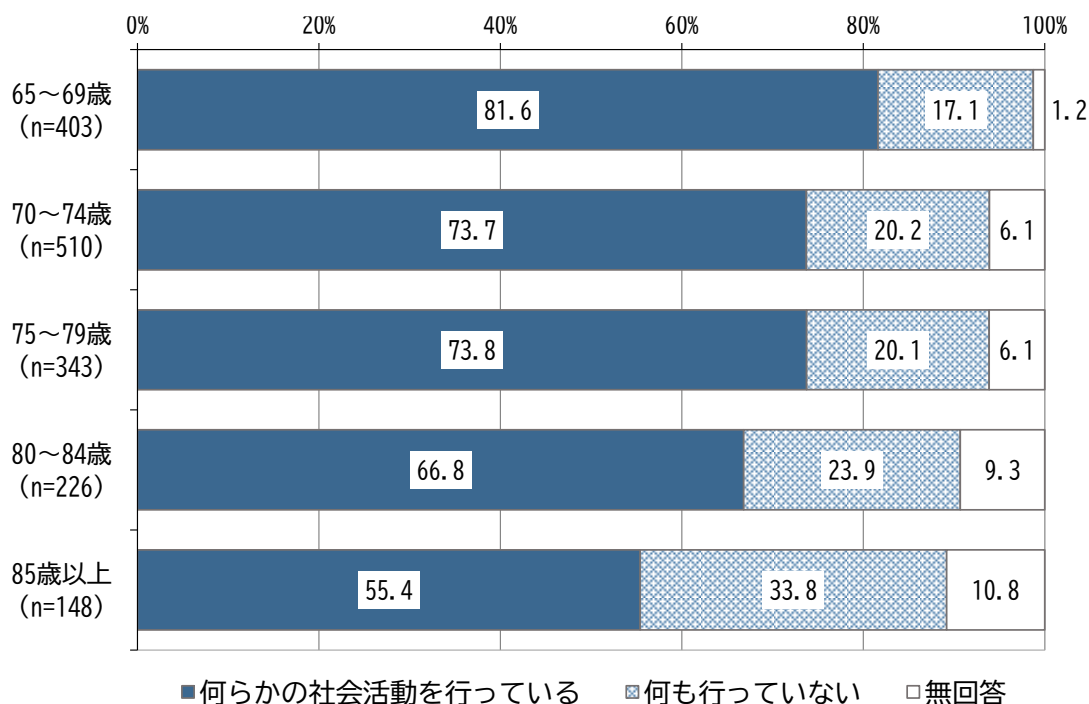
性別でみると、「何も行っていない」では、男性が 18.0%、女性が 23.7%となっています。

図表 2-6-11 社会参加活動の状況 性別



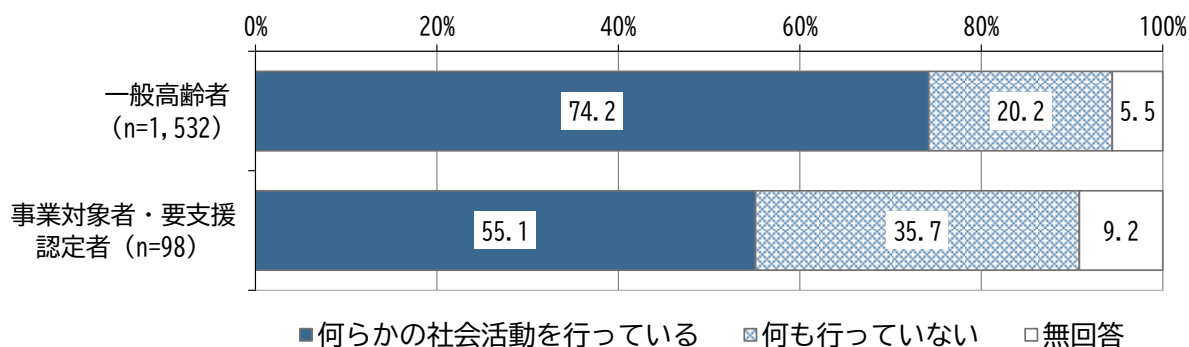
年齢別でみると、「何も行っていない」では、85歳以上が33.8%で最も高くなっています。

図表 2-6-12 社会参加活動の状況 年齢別



認定状況別でみると、「何も行っていない」では、一般高齢者が20.2%、事業対象者・要支援認定者が35.7%となっています。

図表 2-6-13 社会参加活動の状況 認定状況別



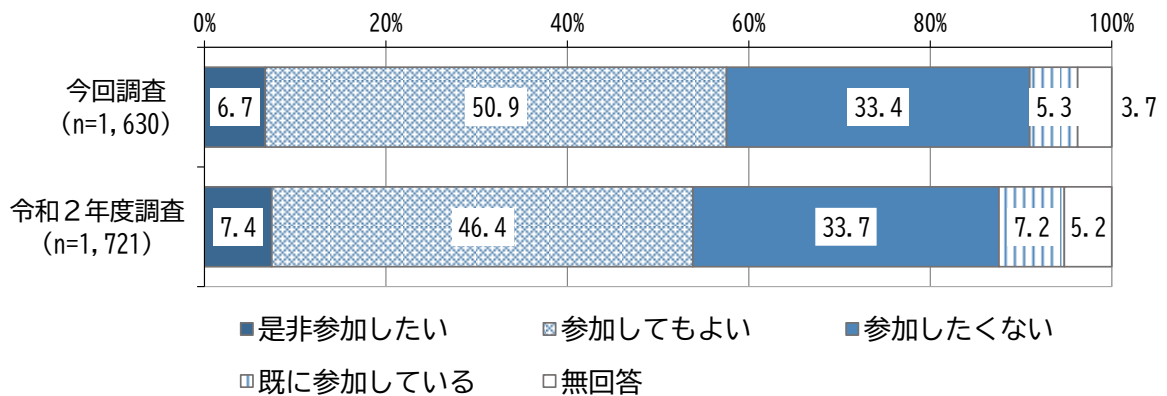
(2) 地域住民のグループ活動による地域づくりに参加者として参加したいか

問5-2 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか（○はひとつ）

地域住民のグループ活動による地域づくりに参加者として参加したいかについては、「参加してもよい」が50.9%で最も高く、次いで「参加したくない」が33.4%、「是非参加したい」が6.7%と続いています。

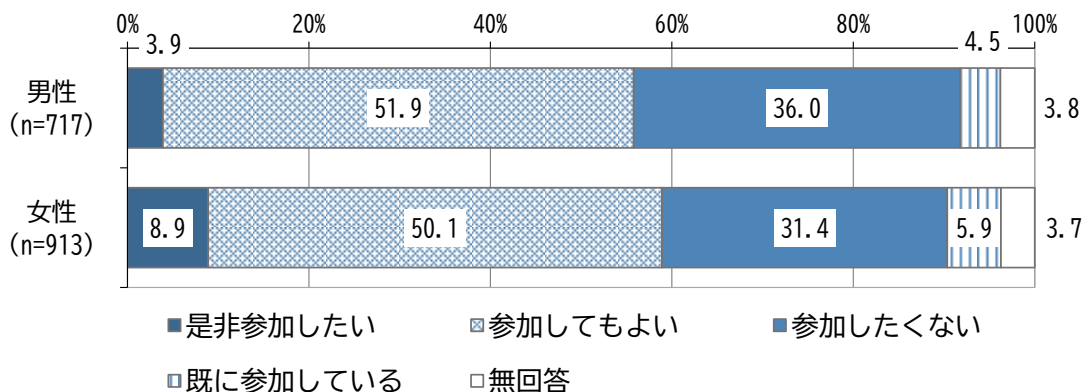
令和2（2020）年度調査と比較すると、「参加してもよい」（50.9%）では、令和2（2020）年度調査（46.4%）より4.5ポイント増加しています。

図表 2-6-14 地域住民のグループ活動による地域づくりに参加者として参加したいか



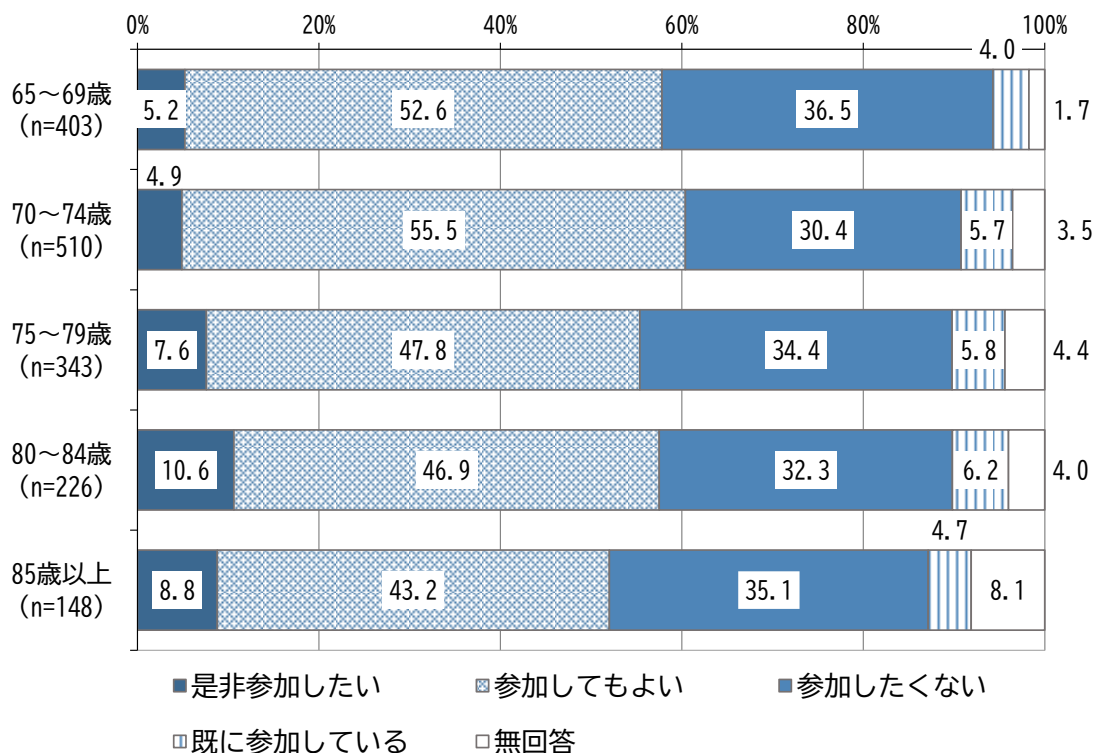
性別でみると、『参加意向がある』（「是非参加したい」と「参加してもよい」、「既に参加している」の合計）では、男性が60.3%、女性が64.9%となっています。

図表 2-6-15 地域住民のグループ活動による地域づくりに参加者として参加したいか 性別



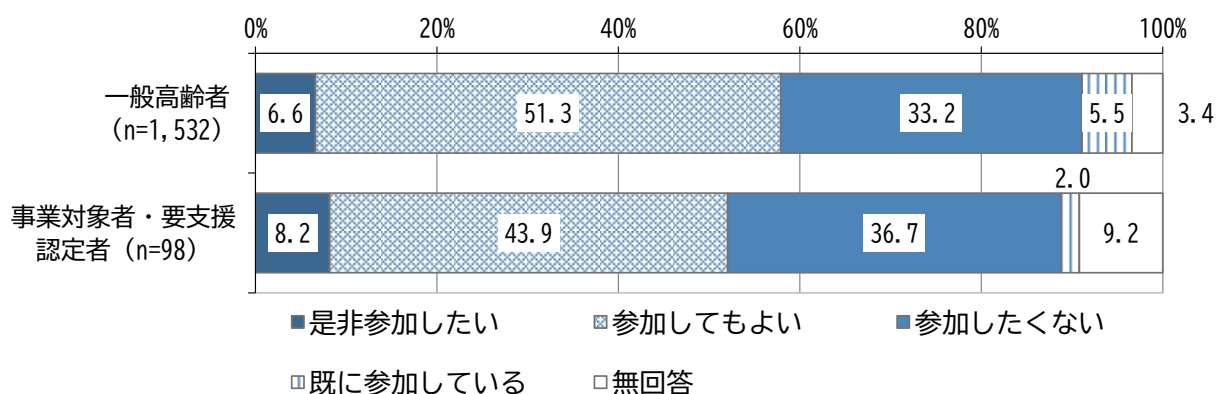
年齢別でみると、「参加したくない」では、65～69歳が36.5%で最も高くなっています。

図表 2-6-16 地域住民のグループ活動による地域づくりに参加者として参加したいか 年齢別



認定状況別でみると、「参加したくない」では、一般高齢者が33.2%、事業対象者・要支援認定者が36.7%となっています。

図表 2-6-17 地域住民のグループ活動による地域づくりに参加者として参加したいか 認定状況別



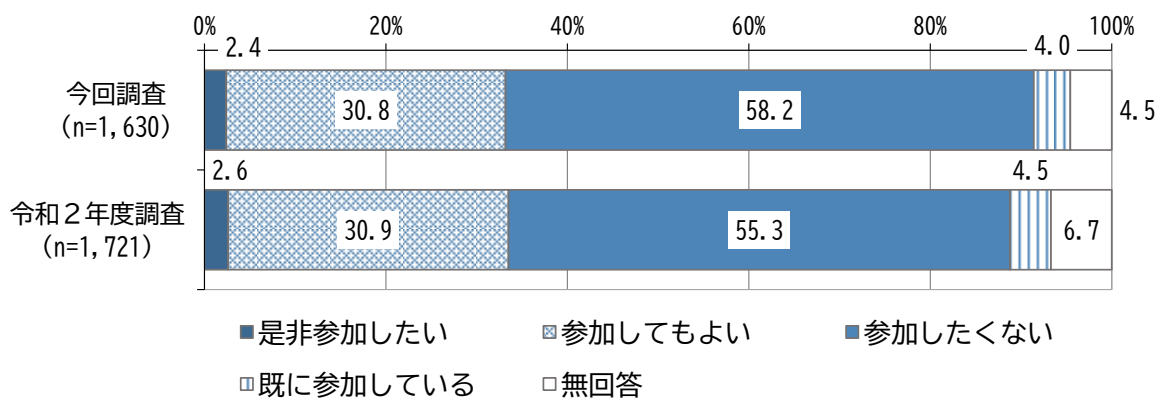
(3) 地域住民のグループ活動による地域づくりに企画・運営として参加したいか

問5-3 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（〇はひとつ）

地域住民のグループ活動による地域づくりに企画・運営として参加したいかについては、「参加したくない」が58.2%で最も高く、次いで「参加してもよい」が30.8%、「既に参加している」が4.0%と続いています。

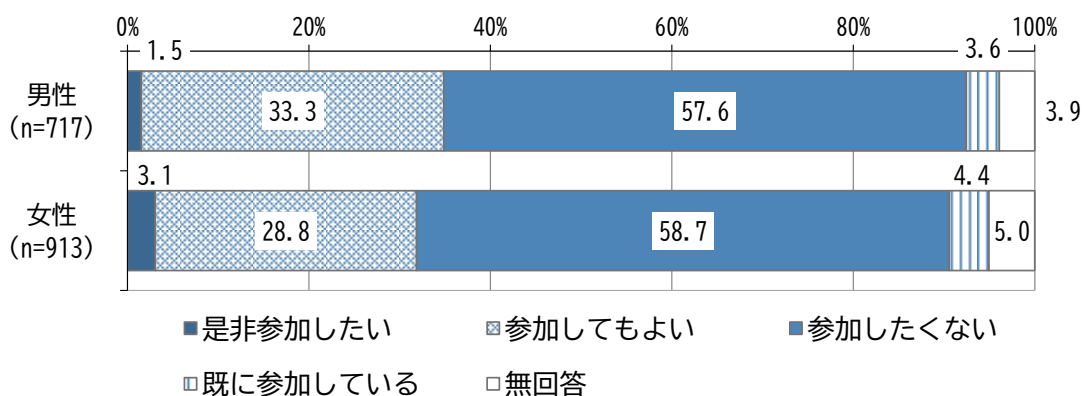
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-6-18 地域住民のグループ活動による地域づくりに企画・運営として参加したいか



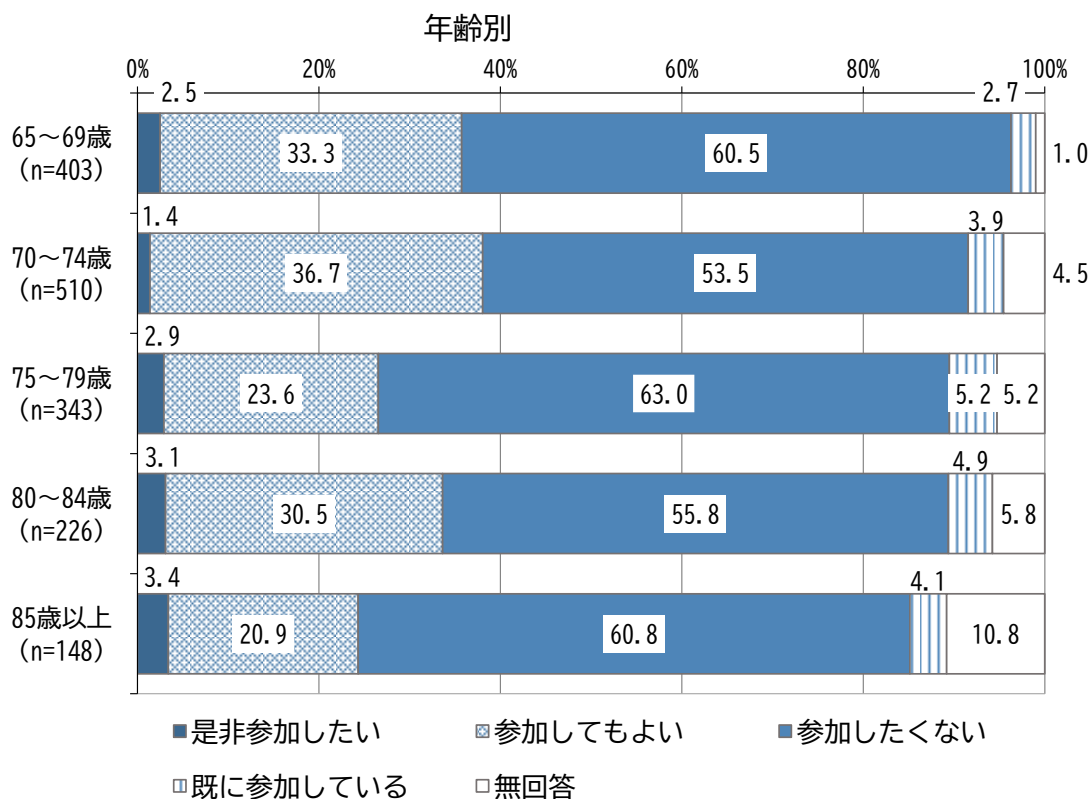
性別でみると、『参加意向がある』（「是非参加したい」と「参加してもよい」、「既に参加している」の合計）では、男性が38.4%、女性が36.3%となっています。

図表 2-6-19 地域住民のグループ活動による地域づくりに企画・運営として参加したいか 性別



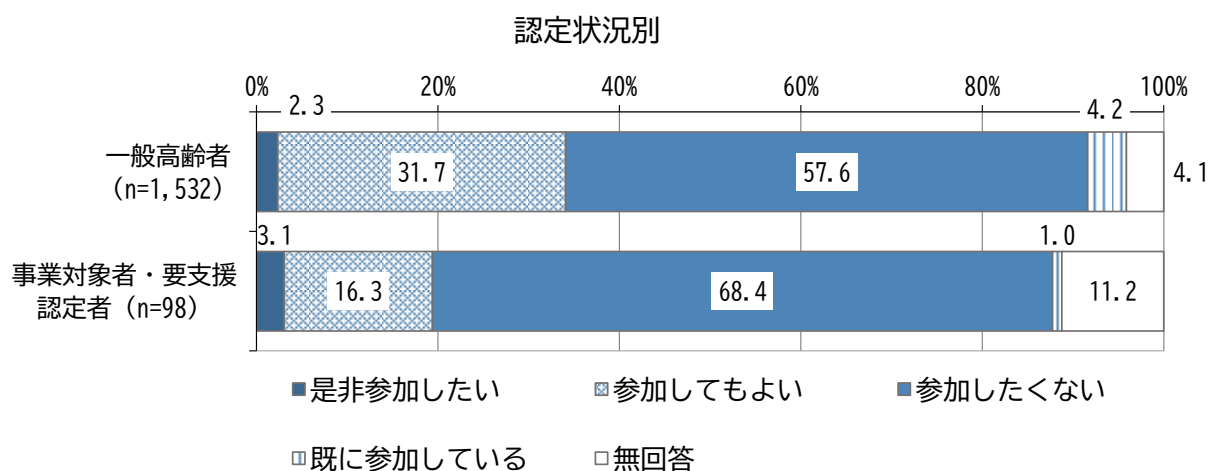
年齢別でみると、「参加したくない」では、85歳以上が60.8%で最も高くなっています。

図表 2-6-20 地域住民のグループ活動による地域づくりに企画・運営として参加したいか



認定状況別でみると、「参加したくない」では、一般高齢者が57.6%、事業対象者・要支援認定者が68.4%となっています。

図表 2-6-21 地域住民のグループ活動による地域づくりに企画・運営として参加したいか



7 たすけあいについて

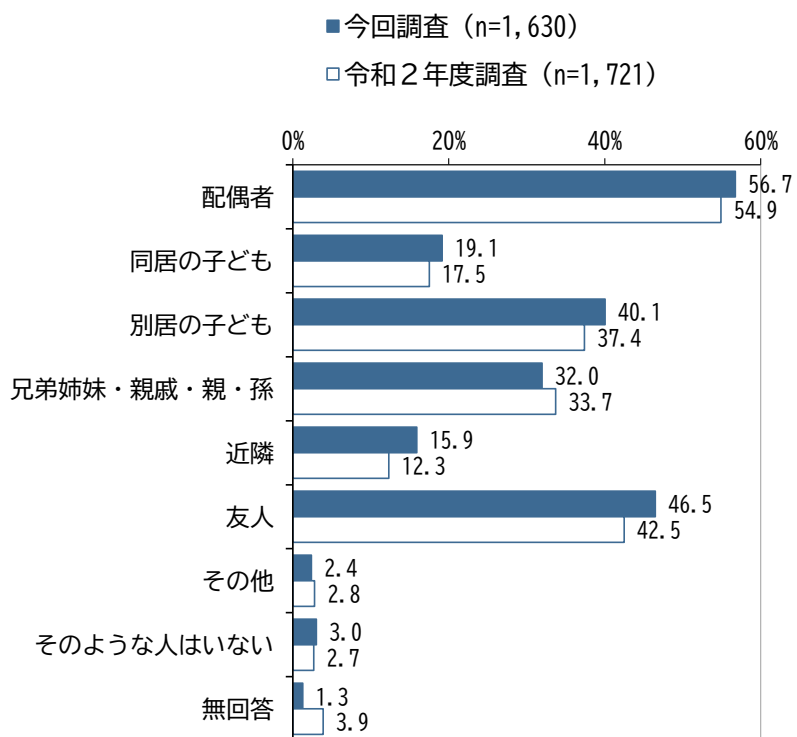
(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

問6-1 あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(〇はいくつでも)

心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が56.7%で最も高く、次いで「友人」が46.5%、「別居の子ども」が40.1%と続いています。

令和2(2020)年度調査と比較すると、「友人」(46.5%)では、令和2(2020)年度調査(42.5%)より4.0ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-7-1 心配事や愚痴を聞いてくれる人



性別でみると、男性では「配偶者」が72.4%で最も高く、女性では「友人」が55.3%で最も高くなっています。

年齢別でみると、79歳以下では「配偶者」の割合が最も高く、80～84歳では「友人」の割合が最も高く、85歳以上では「別居の子ども」の割合が最も高くなっています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「配偶者」が58.6%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「別居の子ども」が39.8%で最も高くなっています。

図表 2-7-2 心配事や愚痴を聞いてくれる人 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		1,630	56.7	19.1	40.1	32.0	15.9	46.5	2.4	3.0	1.3
性別	男性	717	72.4	14.5	31.8	23.6	9.3	35.3	2.5	4.3	1.4
	女性	913	44.5	22.8	46.5	38.6	21.0	55.3	2.3	2.0	1.2
年齢別	65～69歳	403	67.0	21.1	39.0	31.3	15.4	48.9	2.0	3.2	0.2
	70～74歳	510	61.4	14.5	38.2	32.4	13.7	48.6	1.8	3.3	1.4
	75～79歳	343	56.9	17.5	44.3	36.4	16.6	48.7	2.3	2.0	0.9
	80～84歳	226	46.9	23.5	36.3	30.1	21.2	47.8	2.7	2.2	2.2
	85歳以上	148	27.7	27.0	45.3	25.0	14.9	25.7	5.4	4.7	3.4
状況別	一般高齢者	1,532	58.6	19.3	40.1	32.8	16.1	47.5	2.2	2.7	1.1
	事業対象者・要支援認定者	98	28.6	17.3	39.8	19.4	12.2	30.6	6.1	7.1	4.1

※網掛け■は最も割合が高いもの

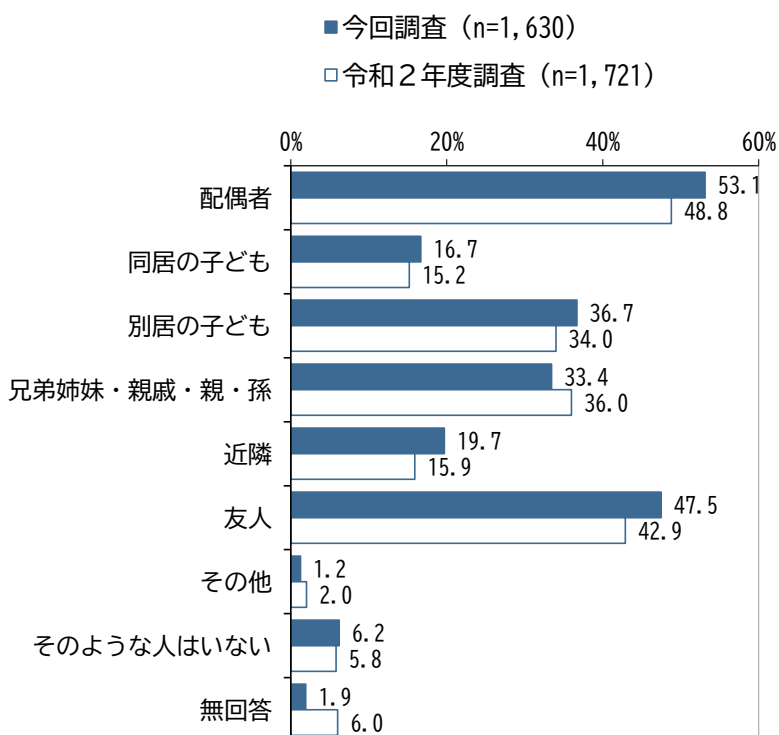
(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人

問6-2 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（〇はいくつでも）

心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が53.1%で最も高く、次いで「友人」が47.5%、「別居の子ども」が36.7%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「友人」（47.5%）では、令和2（2020）年度調査（42.9%）より4.6ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-7-3 心配事や愚痴を聞いてあげる人



性別でみると、男性では「配偶者」が 69.2%で最も高く、女性では「友人」が 57.2%で最も高くなっています。

年齢別でみると、79 歳以下では「配偶者」の割合が最も高く、80～84 歳では「友人」の割合が最も高く、85 歳以上では「別居の子ども」の割合が最も高くなっています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「配偶者」が 55.0%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「友人」が 34.7%で最も高くなっています。

図表 2-7-4 心配事や愚痴を聞いてあげる人 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		1,630	53.1	16.7	36.7	33.4	19.7	47.5	1.2	6.2	1.9
性別	男性	717	69.2	15.3	32.2	26.8	13.1	35.1	1.3	7.5	2.1
	女性	913	40.5	17.7	40.2	38.7	24.9	57.2	1.2	5.1	1.8
年齢別	65～69歳	403	62.3	19.4	40.0	35.5	16.1	49.1	2.0	4.0	0.7
	70～74歳	510	60.0	13.5	35.1	33.7	18.0	50.8	1.2	5.5	1.4
	75～79歳	343	51.6	16.3	39.9	35.0	24.8	47.5	0.9	5.0	2.0
	80～84歳	226	42.5	17.3	31.9	32.3	23.5	48.7	0.4	6.2	3.1
	85歳以上	148	24.3	20.3	33.1	25.0	17.6	29.7	1.4	17.6	4.7
状況別	一般高齢者	1,532	55.0	17.0	37.1	34.2	19.7	48.3	1.2	5.8	1.8
	事業対象者・要支援認定者	98	24.5	11.2	30.6	21.4	19.4	34.7	1.0	12.2	4.1

※網掛け■は最も割合が高いもの

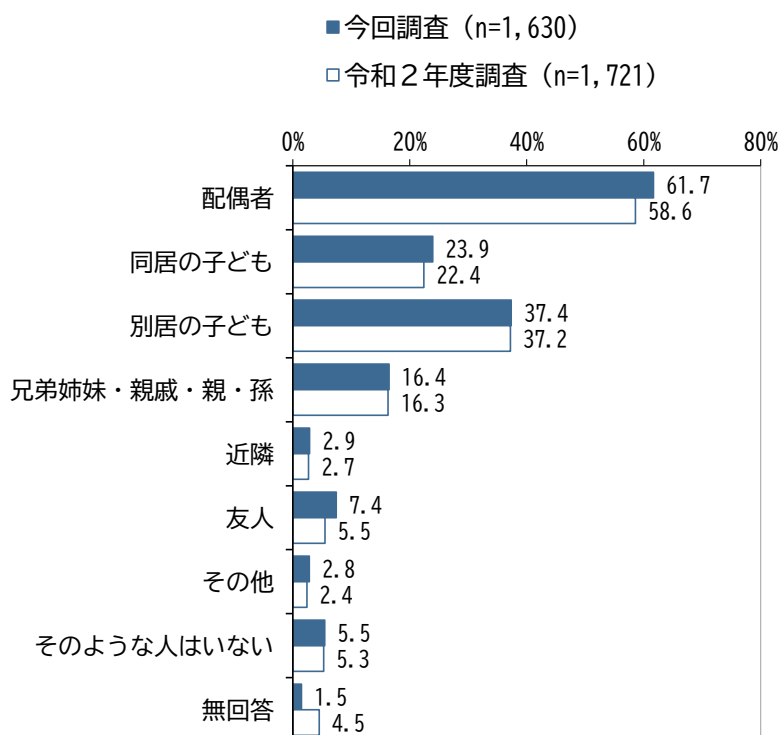
(3) 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人

問6-3 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（〇はいくつでも）

病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が61.7%で最も高く、次いで「別居の子ども」が37.4%、「同居の子ども」が23.9%と続いている。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「配偶者」（61.7%）では、令和2（2020）年度調査（58.6%）より3.1ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-7-5 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人



性別でみると、男性・女性いずれも「配偶者」の割合が最も高くなっています。

年齢別でみると、84歳以下では「配偶者」の割合が最も高く、85歳以上では「別居の子ども」の割合が最も高くなっています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「配偶者」が63.8%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「別居の子ども」が45.9%で最も高くなっています。

図表 2-7-6 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		1,630	61.7	23.9	37.4	16.4	2.9	7.4	2.8	5.5	1.5
性別	男性	717	79.2	18.7	30.5	12.7	1.4	4.7	1.4	5.0	1.3
	女性	913	47.9	28.0	42.7	19.4	4.1	9.5	3.9	5.8	1.6
年齢別	65～69歳	403	74.7	22.3	32.3	14.6	2.0	6.5	2.2	5.5	0.5
	70～74歳	510	68.2	19.2	35.5	18.0	1.6	8.4	2.0	5.5	1.0
	75～79歳	343	59.8	23.9	42.9	16.3	3.5	8.5	2.9	5.2	1.5
	80～84歳	226	49.6	28.3	38.5	17.3	6.6	9.3	4.4	4.4	3.1
	85歳以上	148	26.4	37.8	43.2	14.9	2.7	1.4	4.7	7.4	3.4
状況別	一般高齢者	1,532	63.8	23.4	36.8	16.6	2.9	7.5	2.7	5.2	1.2
	事業対象者・要支援認定者	98	28.6	31.6	45.9	14.3	3.1	6.1	4.1	9.2	5.1

※網掛け■は最も割合が高いもの

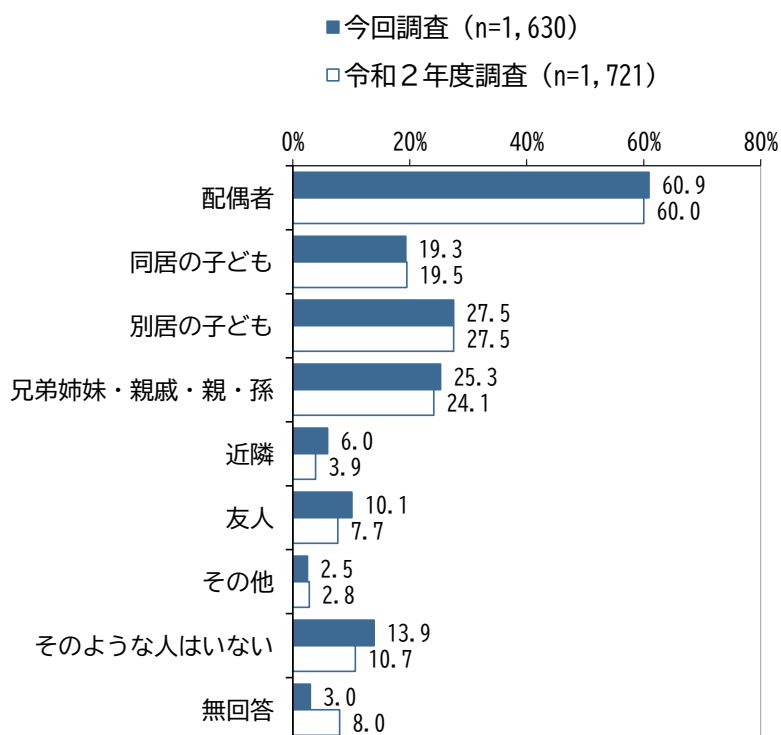
(4) 看病や世話をしあける人

問6-4 反対に、看病や世話をしあける人 (○はいくつでも)

看病や世話をしあける人については、「配偶者」が60.9%で最も高く、次いで「別居の子ども」が27.5%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が25.3%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「そのような人はいない」（13.9%）では、令和2（2020）年度調査（10.7%）より3.2ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-7-7 看病や世話をしあける人



性別でみると、男性・女性いずれも「配偶者」の割合が最も高くなっています。

年齢別でみると、84歳以下では「配偶者」の割合が最も高く、85歳以上では「そのような人はいない」の割合が最も高くなっています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「配偶者」が63.6%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「そのような人はいない」が39.8%で最も高くなっています。

図表 2-7-8 看病や世話をしあける人 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		1,630	60.9	19.3	27.5	25.3	6.0	10.1	2.5	13.9	3.0
性別	男性	717	73.1	15.3	22.7	18.8	3.2	5.3	1.1	14.4	2.4
	女性	913	51.4	22.5	31.2	30.3	8.1	13.9	3.6	13.6	3.5
年齢別	65～69歳	403	71.0	19.9	31.5	32.8	4.0	8.4	3.0	9.9	0.7
	70～74歳	510	67.5	17.5	29.6	26.9	5.3	10.6	2.4	9.8	3.1
	75～79歳	343	60.3	17.8	30.6	24.2	8.2	12.0	1.5	13.7	2.9
	80～84歳	226	50.4	22.6	21.2	17.7	10.2	11.9	2.2	19.9	3.5
	85歳以上	148	28.4	23.0	11.5	13.5	2.0	6.1	4.7	30.4	8.1
状況別	一般高齢者	1,532	63.6	19.6	28.7	26.1	6.0	10.1	2.3	12.3	2.3
	事業対象者・要支援認定者	98	18.4	14.3	8.2	12.2	5.1	11.2	6.1	39.8	13.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

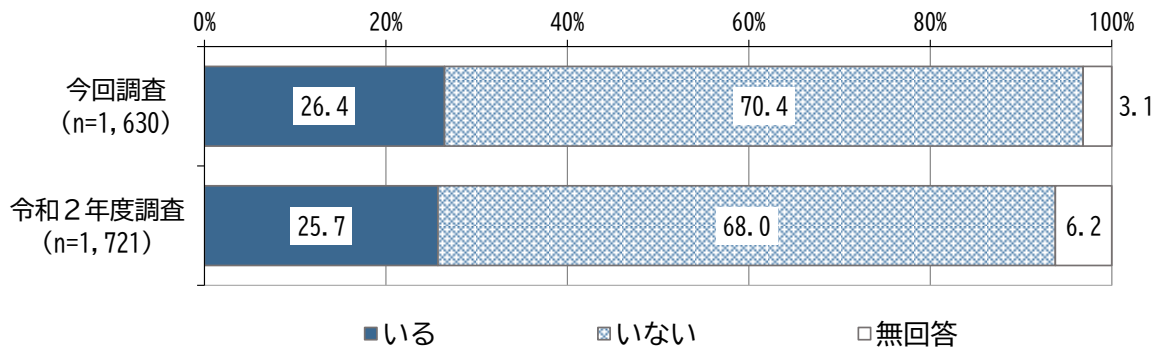
(5) 日常生活の中で家族以外でゴミ出し等の手伝いをしてもらえる人はいるか

問6-5 日常生活の中で、家族以外でゴミ出し等の手伝いをしてもらえる人はいますか
(〇はひとつ)

日常生活の中で家族以外でゴミ出し等の手伝いをしてもらえる人はいるかについては、「いる」が26.4%、「いない」が70.4%となっています。

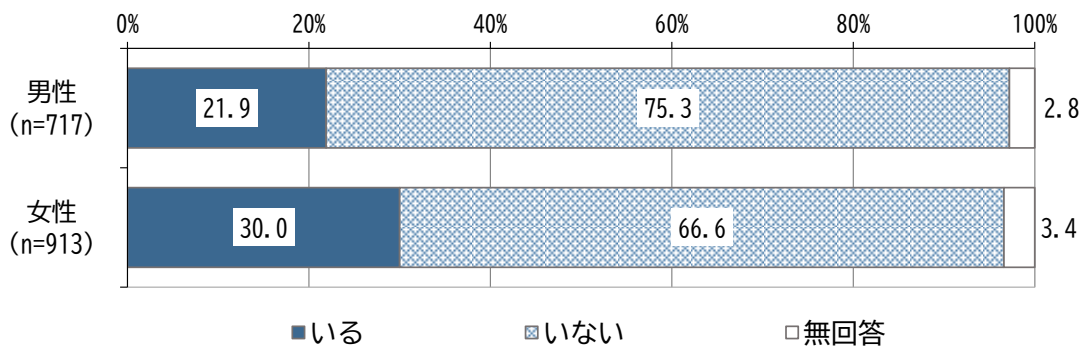
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-7-9 日常生活の中で家族以外でゴミ出し等の手伝いをしてもらえる人はいるか



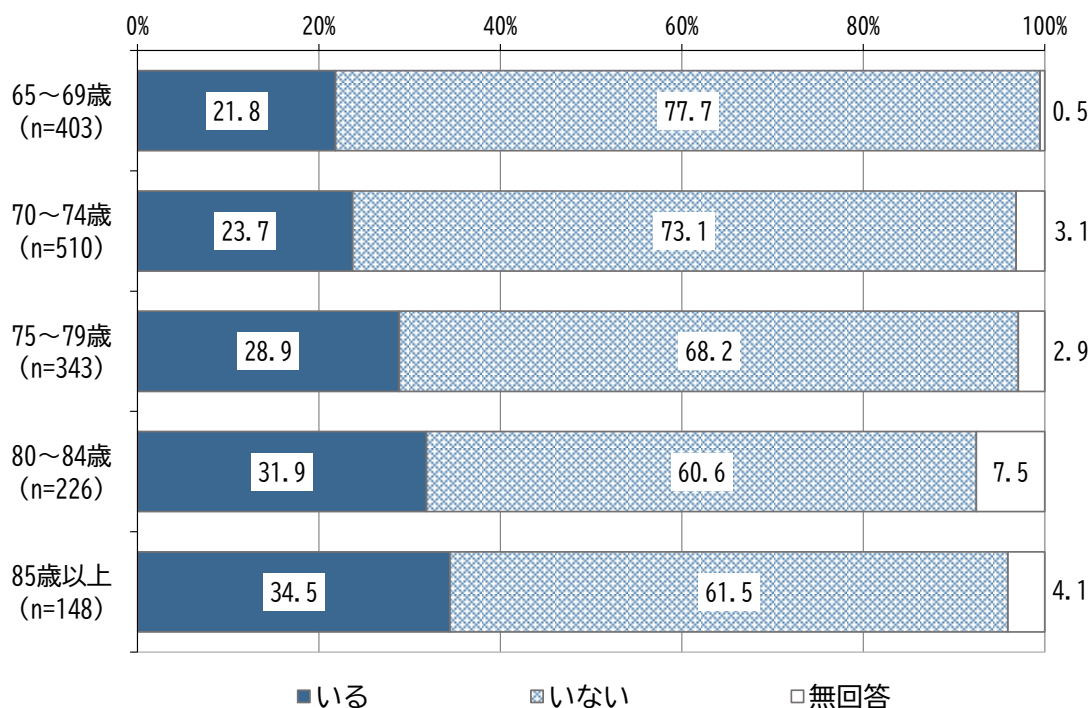
性別でみると、「いない」では、男性が75.3%、女性が66.6%となっています。

図表 2-7-10 日常生活の中で家族以外でゴミ出し等の手伝いをしてもらえる人はいるか 性別



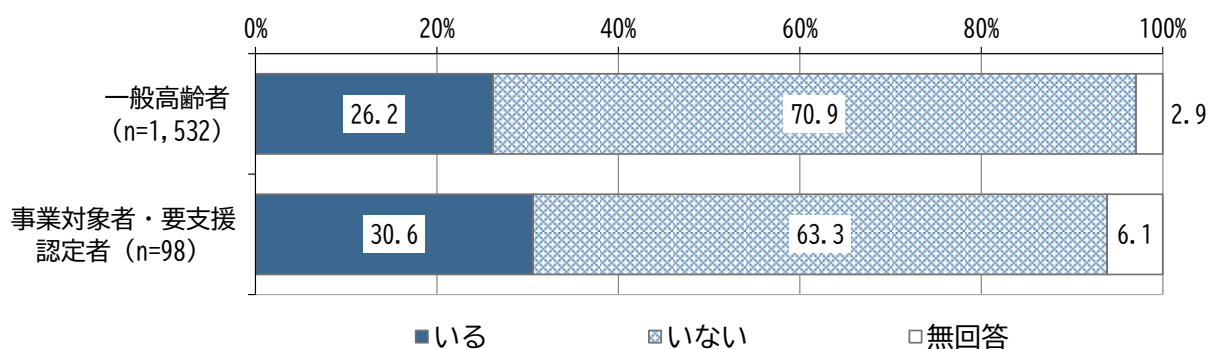
年齢別でみると、「いない」では、84歳以下で年齢が下がるにつれて割合が増加しており、65～69歳が77.7%で最も高くなっています。

図表 2-7-11 日常生活の中で家族以外でゴミ出し等の手伝いをしてもらえる人はいるか 年齢別



認定状況別でみると、「いない」では、一般高齢者が70.9%、事業対象者・要支援認定者が63.3%となっています。

図表 2-7-12 日常生活の中で家族以外でゴミ出し等の手伝いをしてもらえる人はいるか 認定状況別



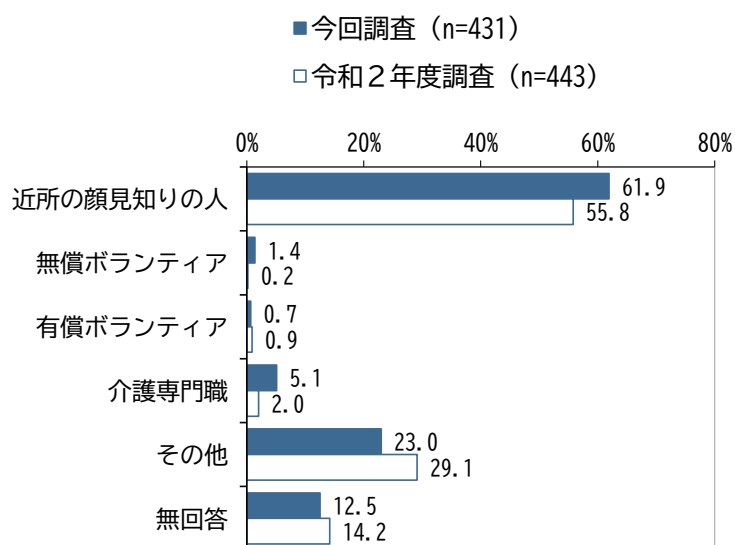
(6) ゴミ出し等を誰に手伝ってもらっているか

問6-5で「1」を回答された方（家族以外で手伝いをしてもらえる人がいる方）のみ
問6-5-1 どんな人に手伝ってもらっていますか（〇はいくつでも）

ゴミ出し等を誰に手伝ってもらっているかについては、「近所の顔見知りの人」が61.9%で最も高く、次いで「その他」が23.0%、「介護専門職」が5.1%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「近所の顔見知りの人」（61.9%）では、令和2（2020）年度調査（55.8%）より6.1ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-7-13 ゴミ出し等を誰に手伝ってもらっているか



性別でみると、男性・女性いずれも「近所の顔見知りの人」の割合が最も高くなっています。
 年齢別でみると、全ての年齢階級で「近所の顔見知りの人」の割合が最も高くなっています。
 認定状況別でみると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「近所の顔見知りの人」の割合が最も高くなっています。

図表 2-7-14 ゴミ出し等を誰に手伝ってもらっているか 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	近所の顔見知りの人	無償ボランティア	有償ボランティア	介護専門職	その他	無回答
全体		431	61.9	1.4	0.7	5.1	23.0	12.5
性別	男性	157	60.5	2.5	1.3	6.4	21.0	14.0
	女性	274	62.8	0.7	0.4	4.4	24.1	11.7
年齢別	65～69歳	88	60.2	0.0	0.0	0.0	26.1	14.8
	70～74歳	121	57.9	0.8	0.8	5.0	28.1	14.0
	75～79歳	99	63.6	2.0	1.0	5.1	21.2	11.1
	80～84歳	72	76.4	2.8	1.4	4.2	13.9	4.2
	85歳以上	51	51.0	2.0	0.0	15.7	21.6	19.6
状況別	一般高齢者	401	62.6	1.0	0.7	4.0	22.9	12.7
	事業対象者・要支援認定者	30	53.3	6.7	0.0	20.0	23.3	10.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

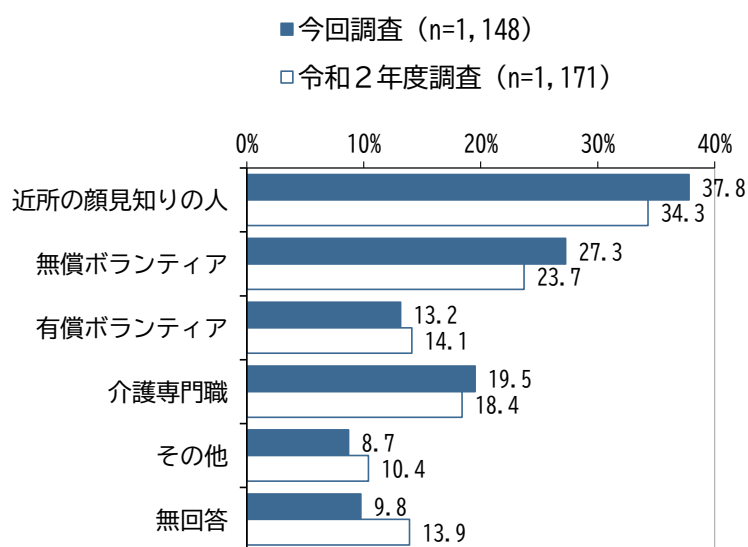
(7) ゴミ出し等を誰に手伝ってもらいたいのか

問6-5で「2」を回答された方（家族以外で手伝いをしてもらえない方）のみ
問6-5-2 （仮に手伝ってもらおうとした場合）どんな人に手伝ってもらいたいですか
（〇はいくつでも）

ゴミ出し等を誰に手伝ってもらいたいかについては、「近所の顔見知りの人」が37.8%で最も高く、次いで「無償ボランティア」が27.3%、「介護専門職」が19.5%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「無償ボランティア」（27.3%）では、令和2（2020）年度調査（23.7%）より3.6ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-7-15 ゴミ出し等を誰に手伝ってもらいたいのか



性別でみると、男性・女性いずれも「近所の顔見知りの人」の割合が最も高くなっています。

年齢別でみると、65～69歳では「無償ボランティア」の割合が最も高く、70歳以上では「近所の顔見知りの人」の割合が最も高くなっています。

認定状況別でみると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「近所の顔見知りの人」の割合が最も高くなっています。

図表 2-7-16 ゴミ出し等を誰に手伝ってもらいたいか 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	近所の顔見知りの人	無償ボランティア	有償ボランティア	介護専門職	その他	無回答
全体		1,148	37.8	27.3	13.2	19.5	8.7	9.8
性別	男性	540	39.1	26.1	12.2	17.6	8.9	10.2
	女性	608	36.7	28.3	14.0	21.2	8.6	9.4
年齢別	65～69歳	313	31.3	31.6	13.7	22.7	9.3	7.0
	70～74歳	373	40.8	26.0	12.6	17.4	7.2	10.5
	75～79歳	234	42.3	25.6	16.2	14.5	10.3	9.0
	80～84歳	137	35.0	26.3	10.2	24.1	8.8	13.9
	85歳以上	91	40.7	23.1	9.9	23.1	8.8	12.1
状況別	一般高齢者	1,086	37.8	27.2	13.4	19.1	8.7	9.5
	事業対象者・要支援認定者	62	37.1	29.0	9.7	27.4	8.1	14.5

※網掛け■は最も割合が高いもの

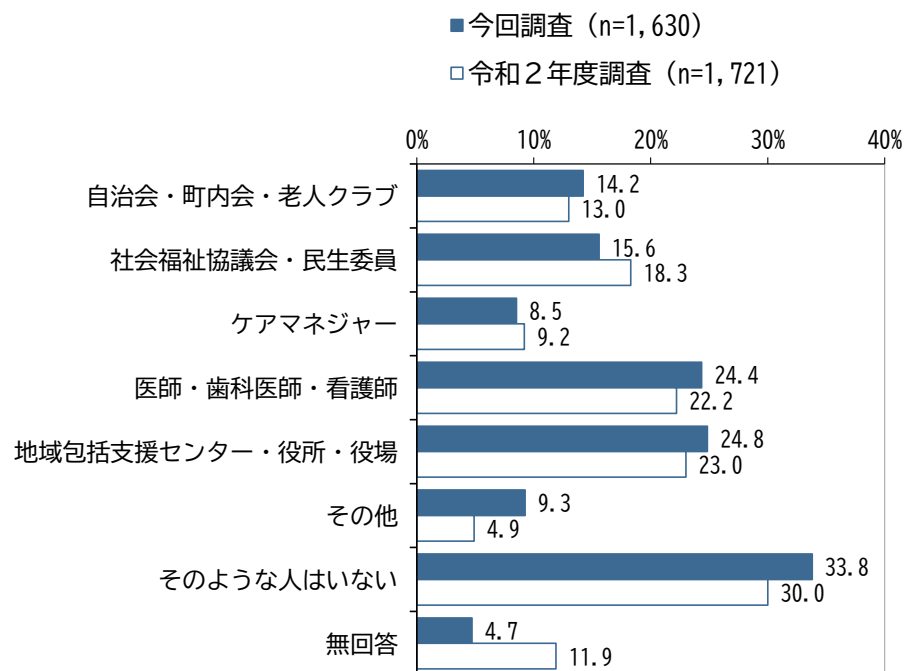
(8) 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手

問6-6 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください
(〇はいくつでも)

家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手については、「そのような人はいない」が33.8%で最も高く、次いで「地域包括支援センター・役所・役場」が24.8%、「医師・歯科医師・看護師」が24.4%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「その他」（9.3%）では、令和2（2020）年度調査（4.9%）より4.4ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-7-17 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手



性別でみると、男性・女性いずれも「そのような人はいない」の割合が最も高くなっています。年齢別でみると、79歳以下では「そのような人はいない」の割合が最も高く、80～84歳では「地域包括支援センター・役所・役場」の割合が最も高く、85歳以上では「医師・歯科医師・看護師」の割合が最も高くなっています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「そのような人はいない」が34.7%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「ケアマネジャー」が36.7%で最も高くなっています。

図表 2-7-18 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	自治会・町内会・老人クラブ	社会福祉協議会・民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター・役所・役場	その他	そのような人はいない	その他	無回答
全体		1,630	14.2	15.6	8.5	24.4	24.8	9.3	33.8	4.7	
性別	男性	717	16.6	17.0	6.4	23.0	23.8	10.0	34.9	3.8	
	女性	913	12.4	14.5	10.2	25.4	25.6	8.7	33.0	5.5	
年齢別	65～69歳	403	11.2	12.7	5.7	22.8	22.6	11.4	39.5	3.0	
	70～74歳	510	15.5	12.4	6.1	22.7	22.2	8.2	39.8	4.7	
	75～79歳	343	16.6	16.9	7.6	23.3	27.1	8.7	30.9	5.2	
	80～84歳	226	15.0	23.0	12.8	27.9	30.5	9.3	22.1	6.2	
	85歳以上	148	11.5	20.3	20.3	31.1	26.4	8.1	22.3	6.1	
状況別	一般高齢者	1,532	14.4	15.1	6.7	24.2	24.3	9.3	34.7	4.8	
	事業対象者・要支援認定者	98	11.2	22.4	36.7	26.5	32.7	8.2	19.4	3.1	

※網掛け■は最も割合が高いもの

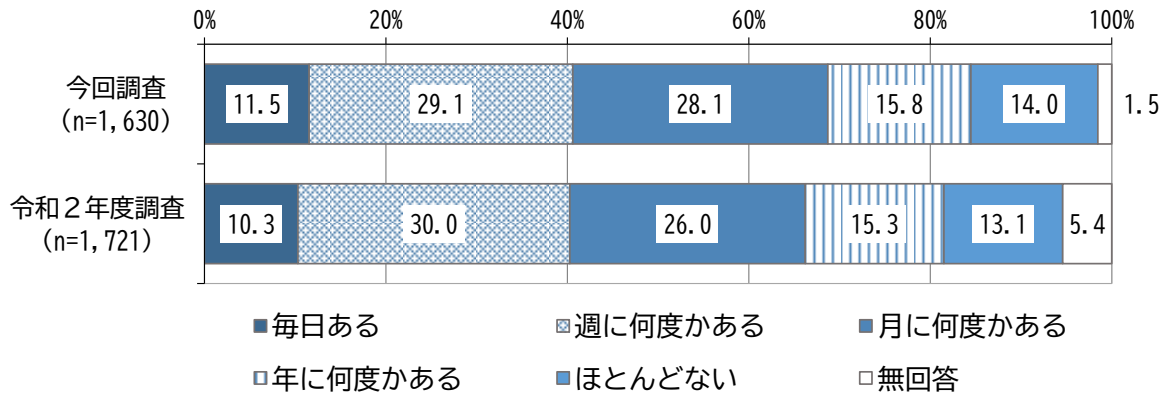
(9) 友人・知人と会う頻度

問6-7 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか（〇はひとつ）

友人・知人と会う頻度については、「週に何度かある」が29.1%で最も高く、次いで「月に何度かある」が28.1%、「年に何度かある」が15.8%と続いています。

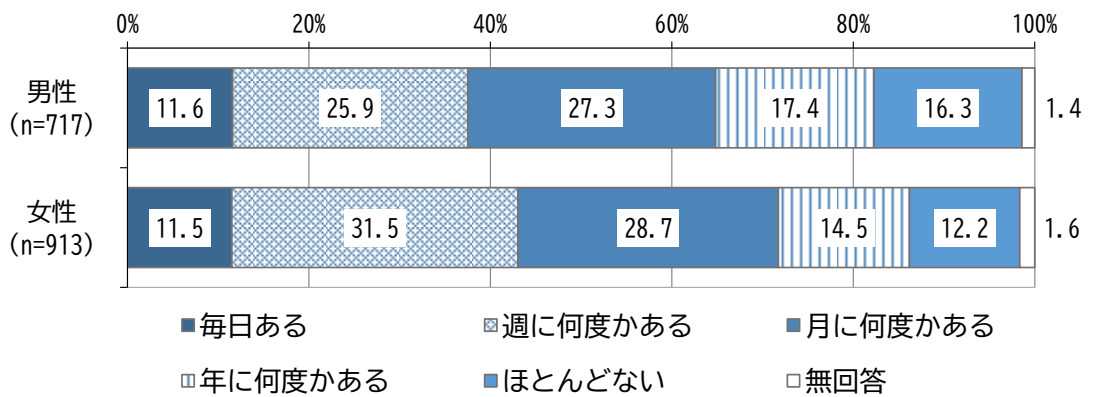
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-7-19 友人・知人と会う頻度



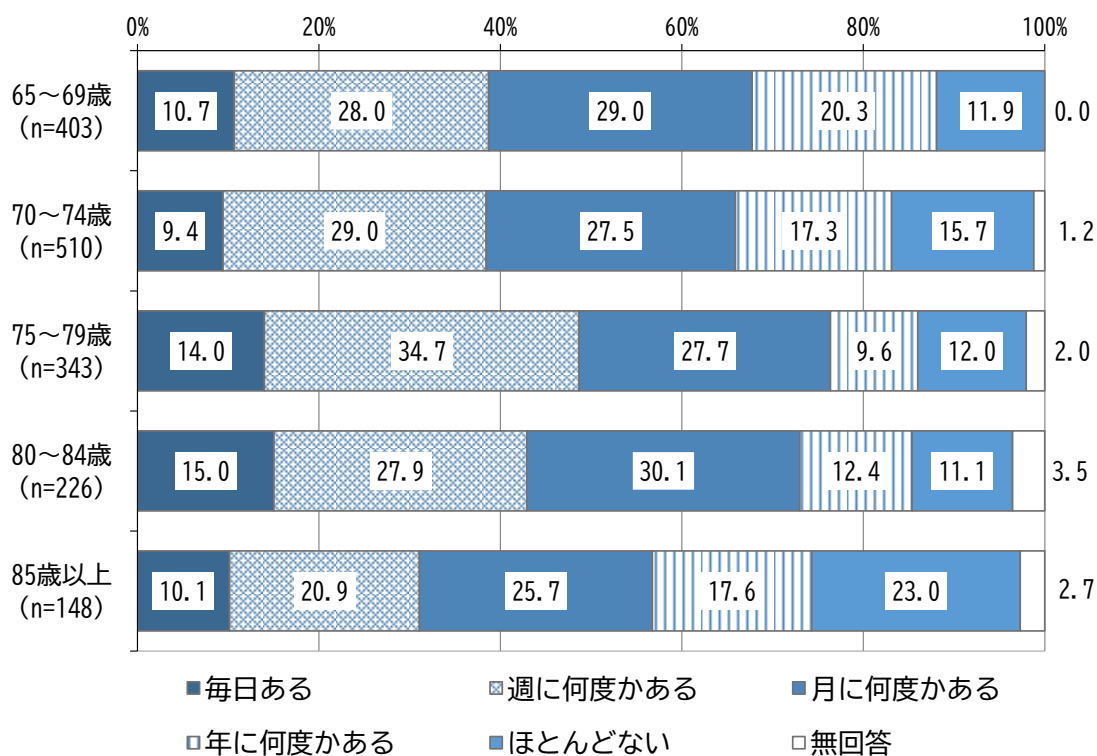
性別でみると、「ほとんどない」では、男性が16.3%、女性が12.2%となっています。

図表 2-7-20 友人・知人と会う頻度 性別



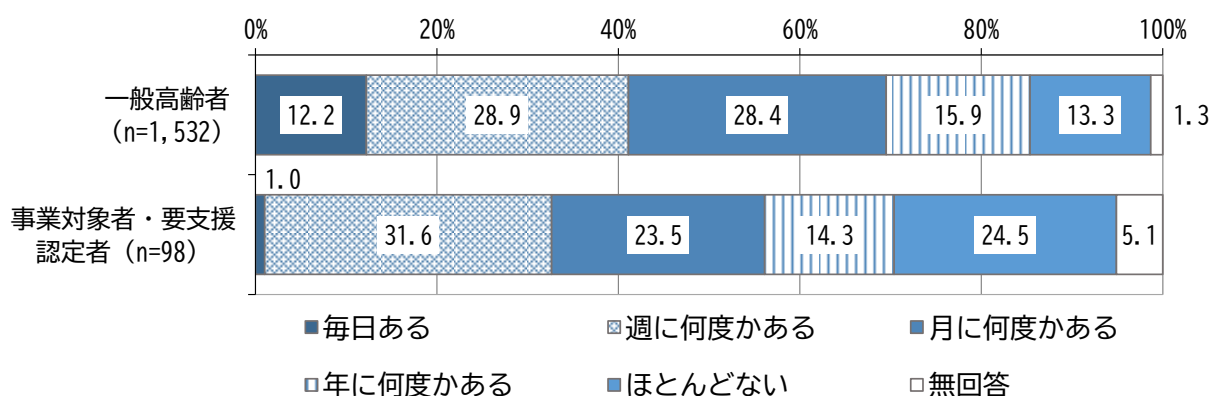
年齢別でみると、「ほとんどない」では、85歳以上が23.0%で最も高くなっています。

図表 2-7-21 友人・知人と会う頻度 年齢別



認定状況別でみると、「ほとんどない」では、一般高齢者が13.3%、事業対象者・要支援認定者が24.5%となっています。

図表 2-7-22 友人・知人と会う頻度 認定状況別



(10) この1か月間何人の友人・知人と会ったか

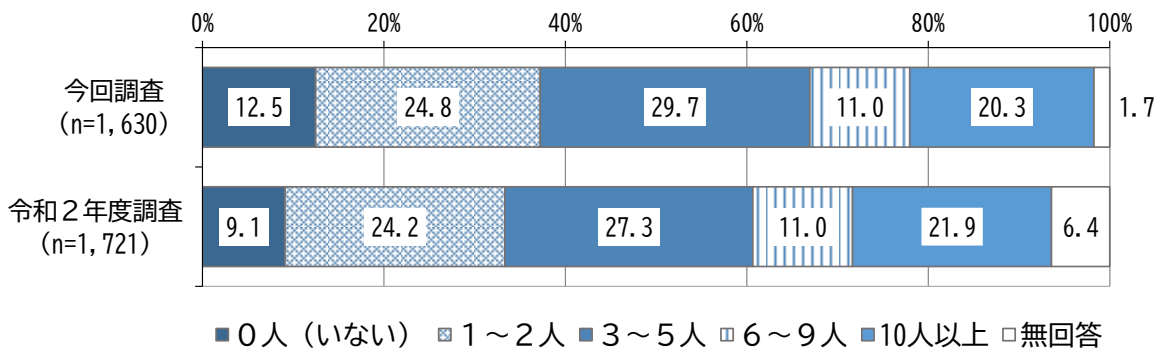
問6-8 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか（〇はひとつ）

※同じ人には何度会っても1人と数えることとします

この1か月間何人の友人・知人と会ったかについては、「3～5人」が29.7%で最も高く、次いで「1～2人」が24.8%、「10人以上」が20.3%と続いています。

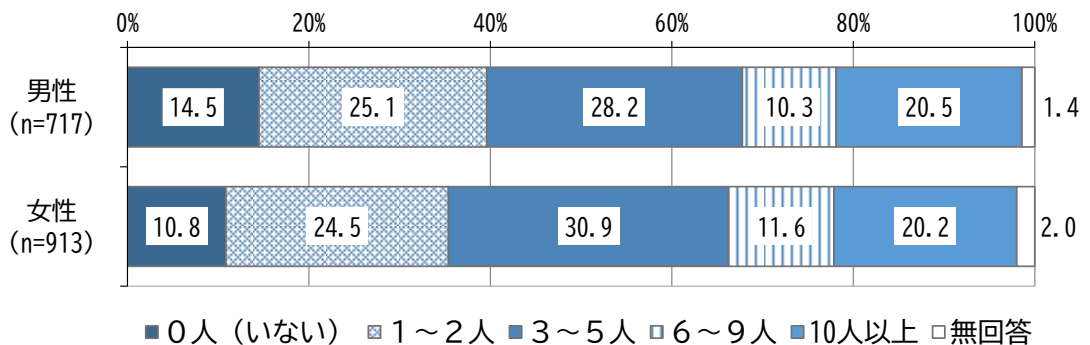
令和2（2020）年度調査と比較すると、「0人（いない）」（12.5%）では、令和2（2020）年度調査（9.1%）より3.4ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-7-23 この1か月間何人の友人・知人と会ったか



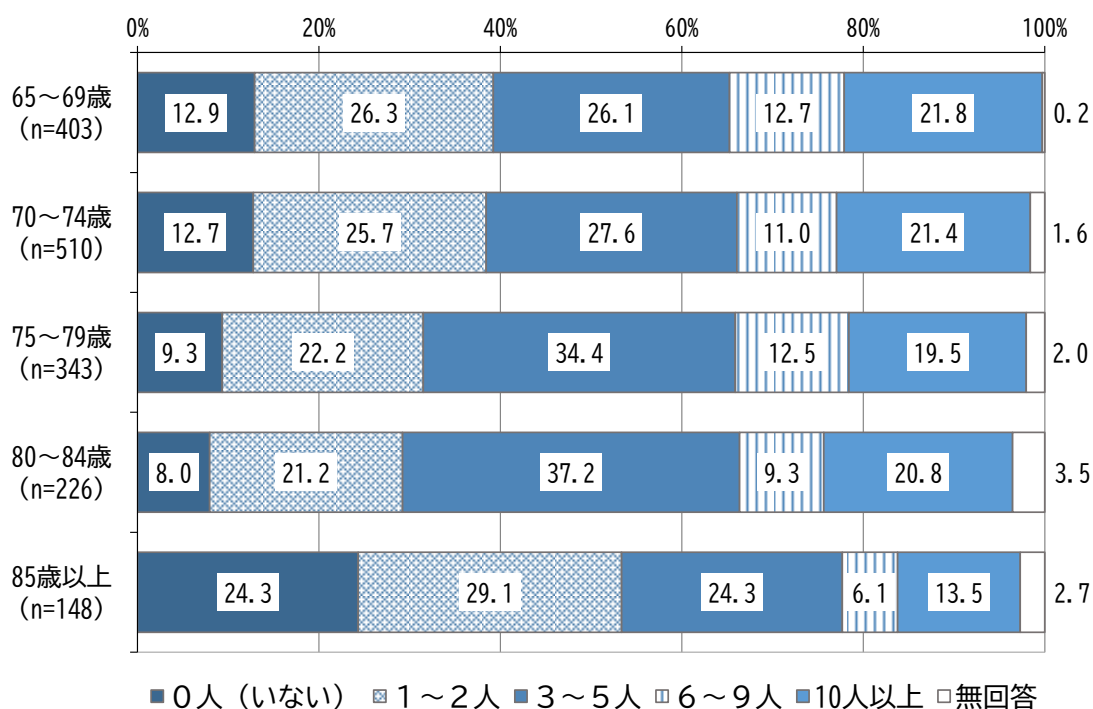
性別でみると、「0人（いない）」では、男性が14.5%、女性が10.8%となっています。

図表 2-7-24 この1か月間何人の友人・知人と会ったか 性別



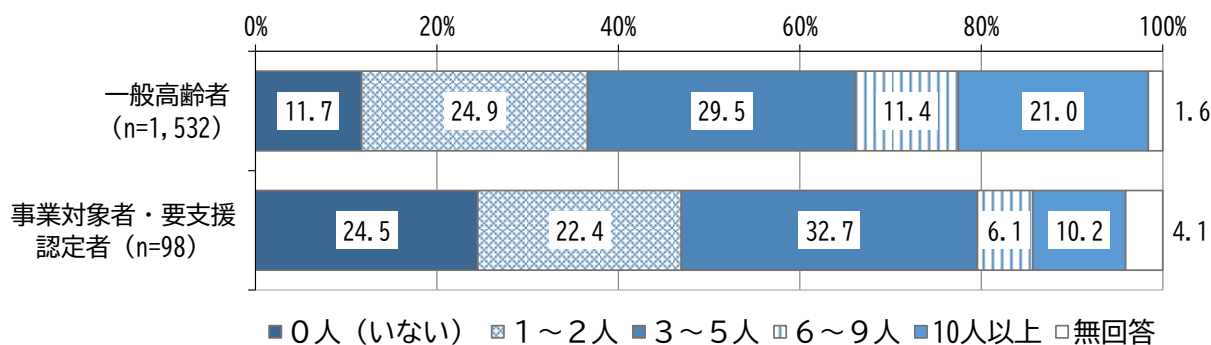
年齢別でみると、「0人（いない）」では、85歳以上が24.3%で最も高くなっています。

図表 2-7-25 この1か月間何人の友人・知人と会ったか 年齢別



認定状況別でみると、「0人（いない）」では、一般高齢者が11.7%、事業対象者・要支援認定者が24.5%となっています。

図表 2-7-26 この1か月間何人の友人・知人と会ったか 認定状況別



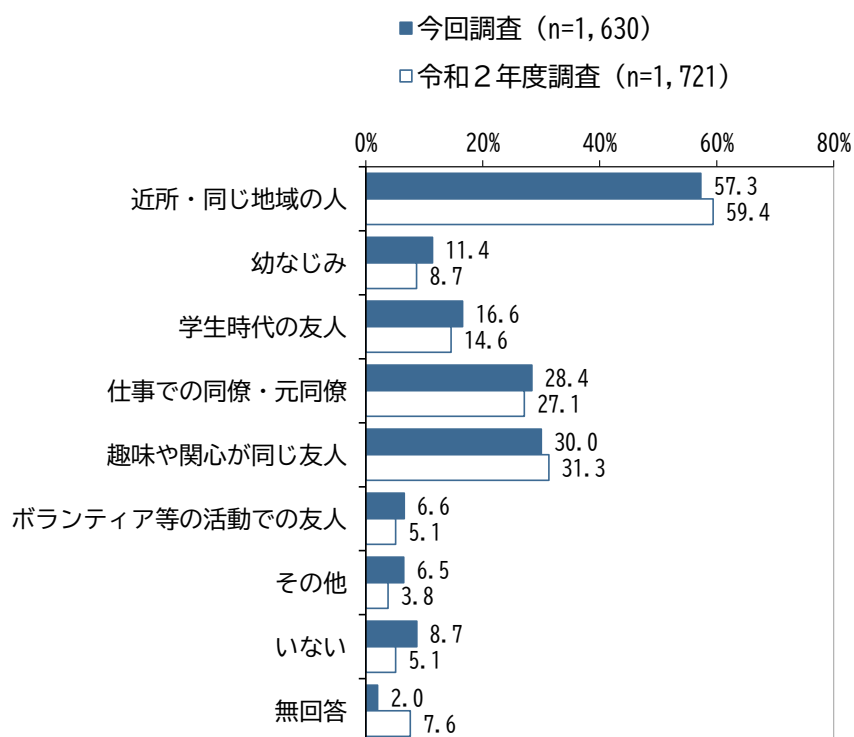
(11) よく会う友人・知人はどんな関係の人か

問6-9 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（〇はいくつでも）

よく会う友人・知人はどんな関係の人かについては、「近所・同じ地域の人」が57.3%で最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が30.0%、「仕事での同僚・元同僚」が28.4%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「いない」（8.7%）では、令和2（2020）年度調査（5.1%）より3.6ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-7-27 よく会う友人・知人はどんな関係の人か



性別でみると、男性・女性いずれも「近所・同じ地域の人」の割合が最も高くなっています。
 年齢別でみると、全ての年齢階級で「近所・同じ地域の人」の割合が最も高くなっています。
 認定状況別でみると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「近所・同じ地域の人」の割合が最も高くなっています。

図表 2-7-28 よく会う友人・知人はどんな関係の人が 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	近所・同じ地域の人	幼なじみ	学生時代の友人	仕事での同僚・元同僚	趣味や関心が同じ友人	友人ボランティア等の活動での	その他	いない	無回答
全体		1,630	57.3	11.4	16.6	28.4	30.0	6.6	6.5	8.7	2.0
性別	男性	717	49.5	12.7	16.9	35.4	29.0	5.3	5.9	10.0	2.0
	女性	913	63.4	10.4	16.3	22.9	30.8	7.6	7.0	7.7	2.1
年齢別	65～69歳	403	51.4	14.1	19.6	41.4	27.5	5.5	6.5	7.7	0.7
	70～74歳	510	54.1	11.4	15.5	34.5	30.8	7.8	6.5	8.6	1.4
	75～79歳	343	64.1	11.7	18.4	22.7	33.8	7.0	5.0	7.9	2.3
	80～84歳	226	62.4	7.5	15.9	16.4	32.3	7.1	9.3	5.8	4.4
	85歳以上	148	60.8	9.5	8.8	3.4	21.6	3.4	6.1	18.2	3.4
状況別	一般高齢者	1,532	57.6	11.7	17.3	29.6	30.8	7.0	6.3	8.1	1.8
	事業対象者・要支援認定者	98	52.0	6.1	5.1	10.2	17.3	0.0	9.2	18.4	6.1

※網掛け■は最も割合が高いもの

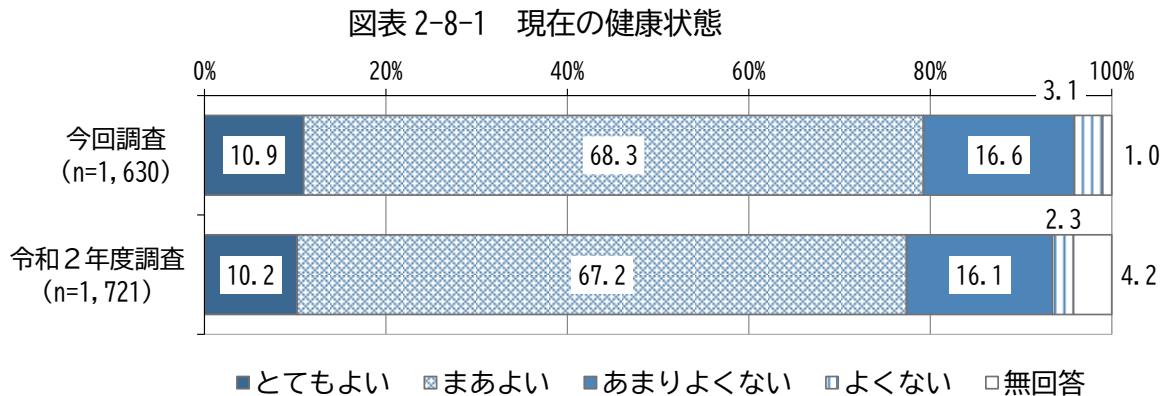
8 健康について

(1) 現在の健康状態

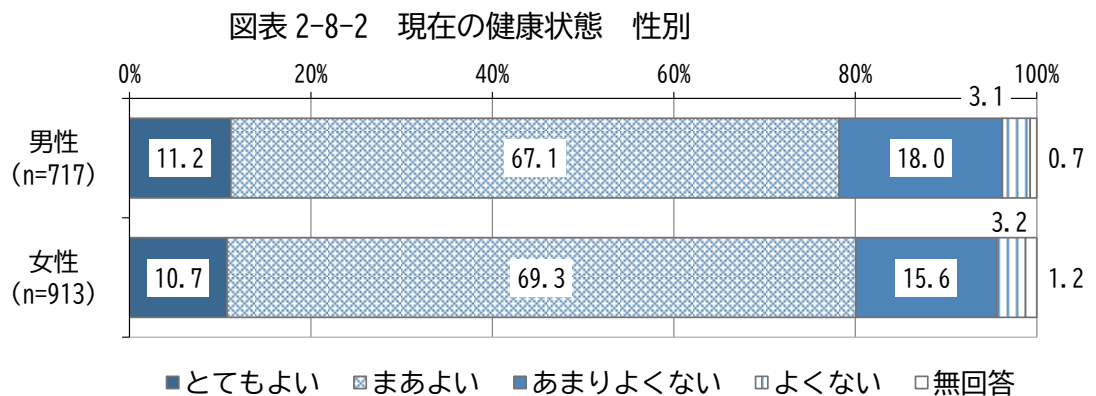
問7-1 現在のあなたの健康状態はいかがですか（〇はひとつ）

現在の健康状態については、「まあよい」が68.3%で最も高く、次いで「あまりよくない」が16.6%、「とてもよい」が10.9%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

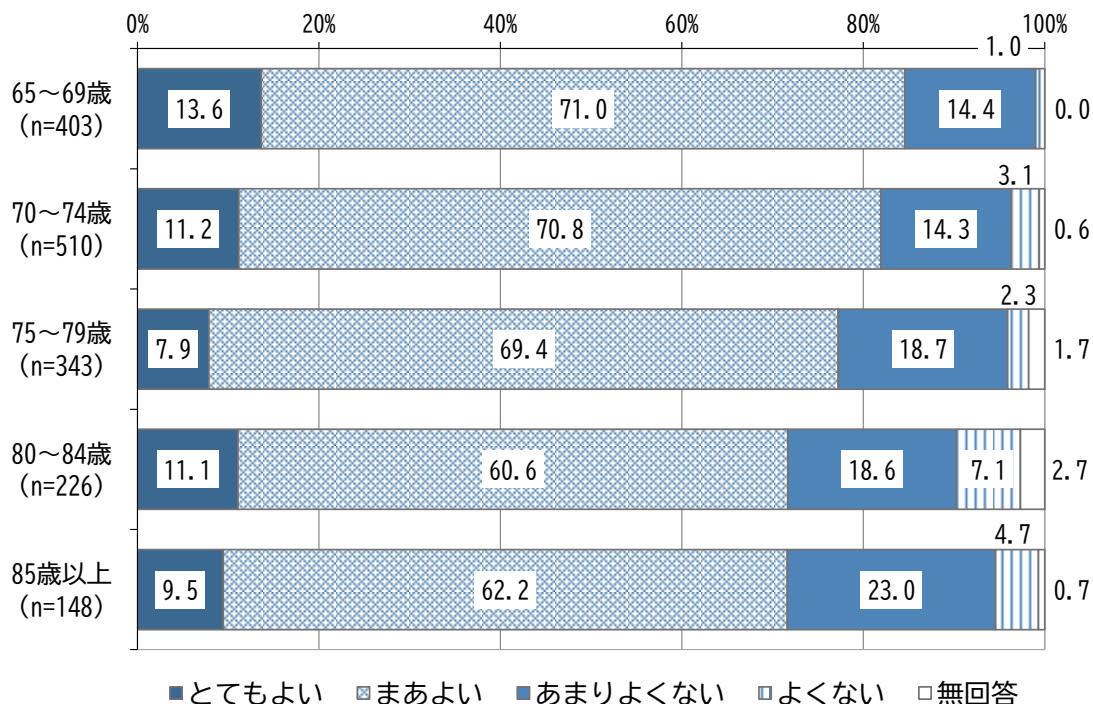


性別でみると、『よくない』（「あまりよくない」と「よくない」の合計）では、男性が21.1%、女性が18.8%となっています。



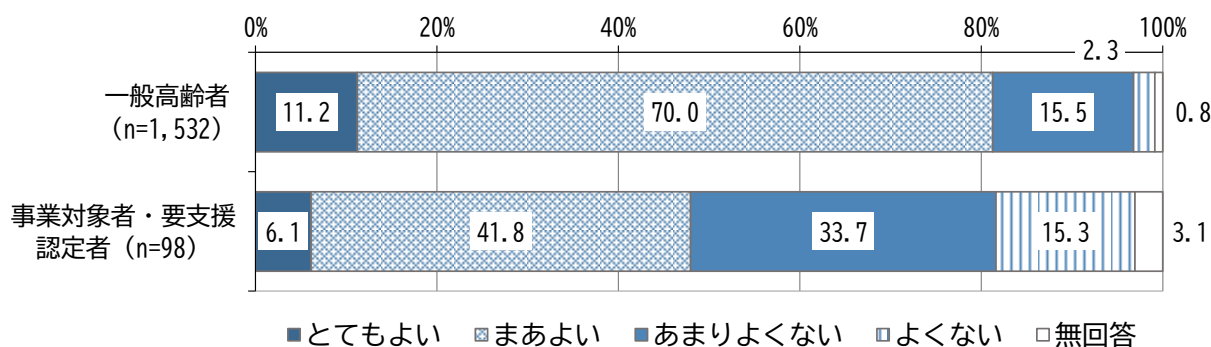
年齢別でみると、『よくない』では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が27.7%で最も高くなっています。

図表 2-8-3 現在の健康状態 年齢別



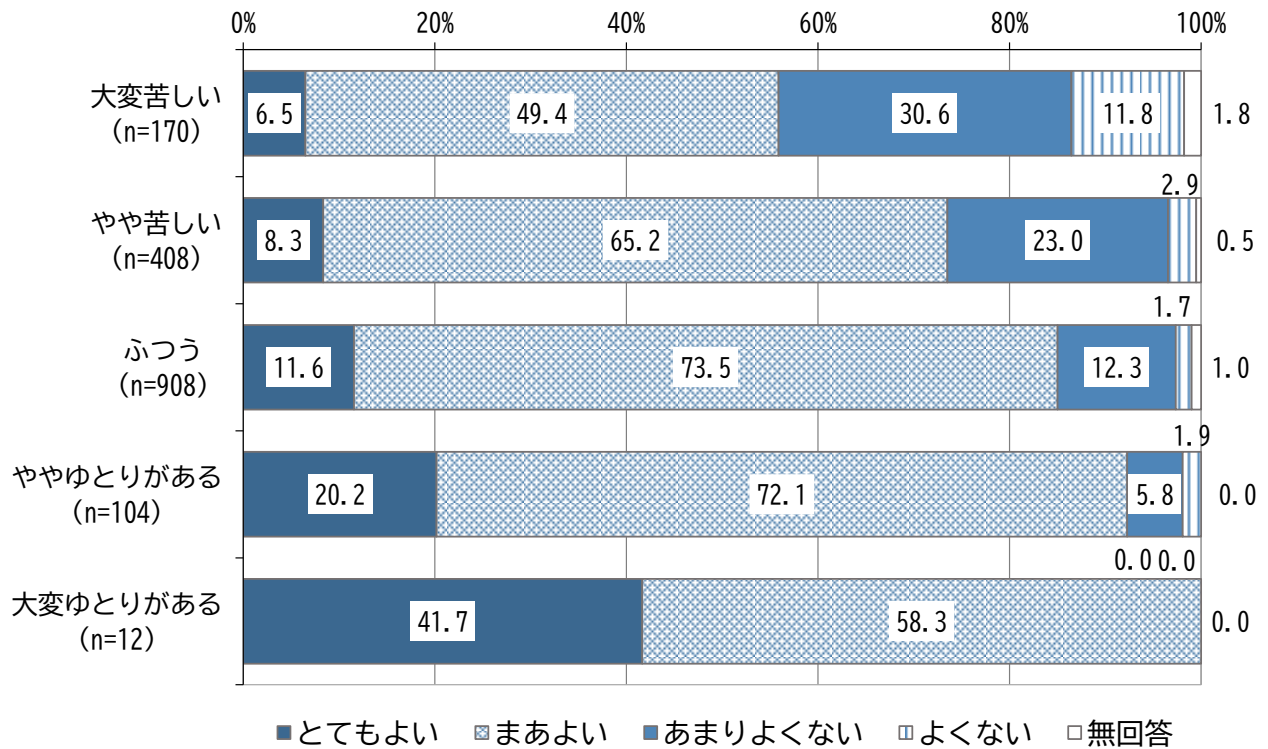
認定状況別でみると、『よくない』では、一般高齢者が17.8%、事業対象者・要支援認定者が49.0%となっています。

図表 2-8-4 現在の健康状態 認定状況別



主観的経済状況別でみると、『よくない』では、主観的経済状況を苦しいと感じる割合が強くなるにつれて割合が増加しており、「大変苦しい」が42.4%で最も高くなっています。

図表 2-8-5 現在の健康状態 主観的経済状況別



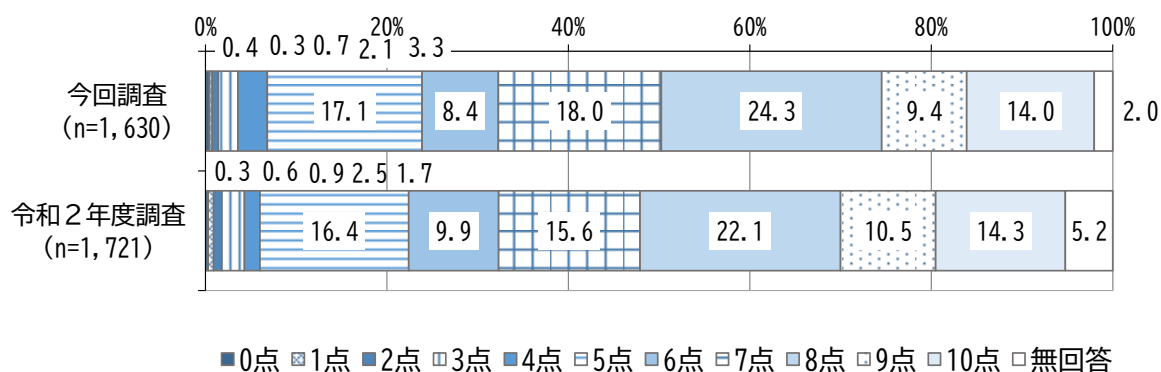
(2) 現在どの程度幸せか

問7-2 あなたは、現在どの程度幸せですか（〇はひとつ）
 （「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）

現在どの程度幸せかについては、「8点」が24.3%で最も高く、次いで「7点」が18.0%、「5点」が17.1%と続いており、平均点は7.16点となっています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、平均点（7.16点）では、令和2（2020）年度調査（7.19点）より0.03点減少しています。

図表 2-8-6 現在どの程度幸せか



性別でみると、男性・女性いずれも「8点」の割合が最も高くなっています。
 年齢別でみると、全ての年齢階級で「8点」の割合が最も高くなっています。
 認定状況別でみると、一般高齢者では「8点」が24.9%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「5点」が22.4%で最も高くなっています。

図表 2-8-7 現在どの程度幸せか 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答
全体		1,630	0.4	0.3	0.7	2.1	3.3	17.1	8.4	18.0	24.3	9.4	14.0	2.0
性別	男性	717	0.4	0.3	0.4	2.9	3.6	17.2	8.6	20.9	24.0	7.9	12.0	1.7
	女性	913	0.4	0.3	0.9	1.5	3.0	17.0	8.2	15.7	24.5	10.5	15.7	2.3
年齢別	65～69歳	403	0.5	0.0	0.5	1.7	4.0	16.9	8.9	17.6	25.6	11.2	12.4	0.7
	70～74歳	510	0.8	0.6	0.8	2.0	2.9	15.1	7.5	21.0	26.3	8.0	13.7	1.4
	75～79歳	343	0.3	0.3	0.3	2.3	2.9	18.7	10.5	16.9	23.3	9.0	12.8	2.6
	80～84歳	226	0.0	0.0	0.9	2.2	3.1	17.3	6.6	14.2	21.2	9.7	20.4	4.4
	85歳以上	148	0.0	0.7	1.4	3.4	3.4	20.3	8.1	16.9	20.9	9.5	12.8	2.7
状況別	一般高齢者	1,532	0.4	0.3	0.7	1.9	3.2	16.7	8.4	18.0	24.9	9.3	14.4	1.8
	事業対象者・要支援認定者	98	1.0	1.0	1.0	6.1	4.1	22.4	8.2	17.3	15.3	10.2	8.2	5.1

※網掛け■は最も割合が高いもの

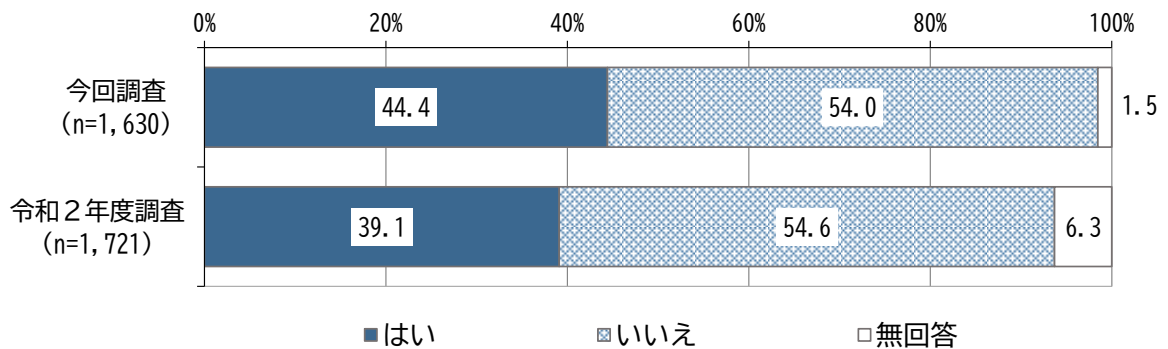
(3) この1か月間気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったか

問7-3 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか
(○はひとつ)

この1か月間気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったかについては、「はい」が44.4%、「いいえ」が54.0%となっています。

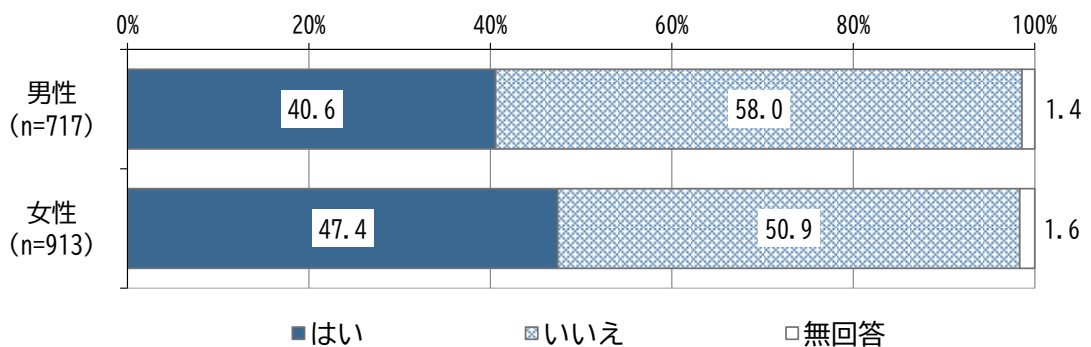
令和2（2020）年度調査と比較すると、「はい」（44.4%）では、令和2（2020）年度調査（39.1%）より5.3ポイント増加しています。

図表 2-8-8 この1か月間気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったか



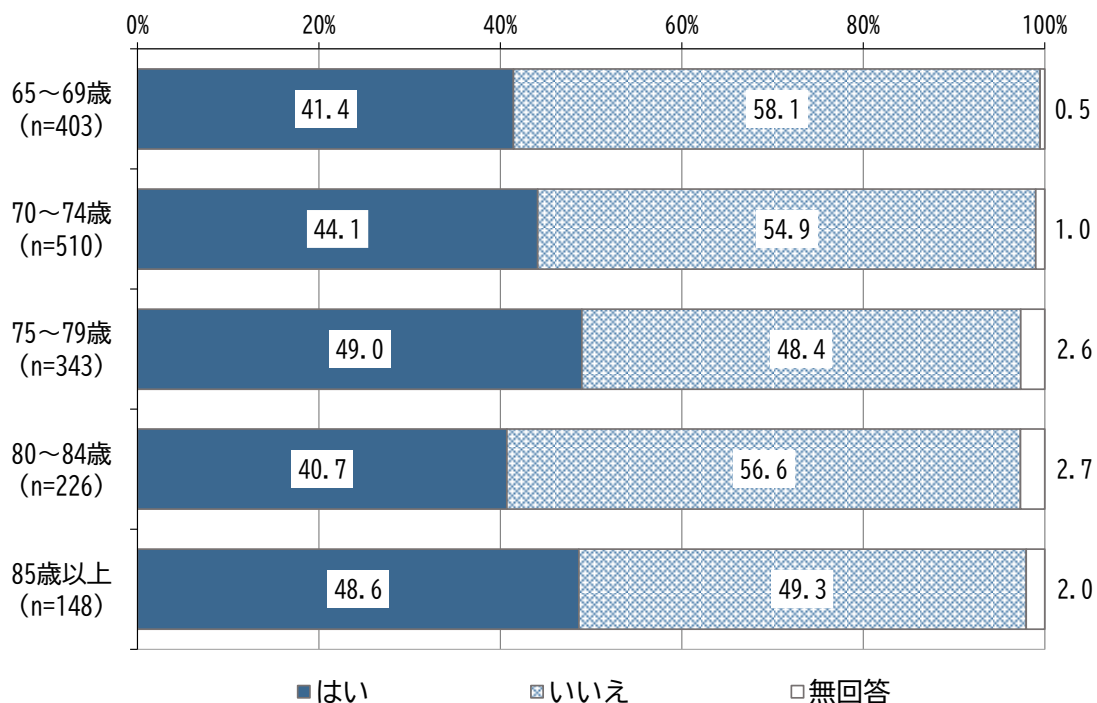
性別でみると、「はい」では、男性が40.6%、女性が47.4%となっています。

図表 2-8-9 この1か月間気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったか 性別



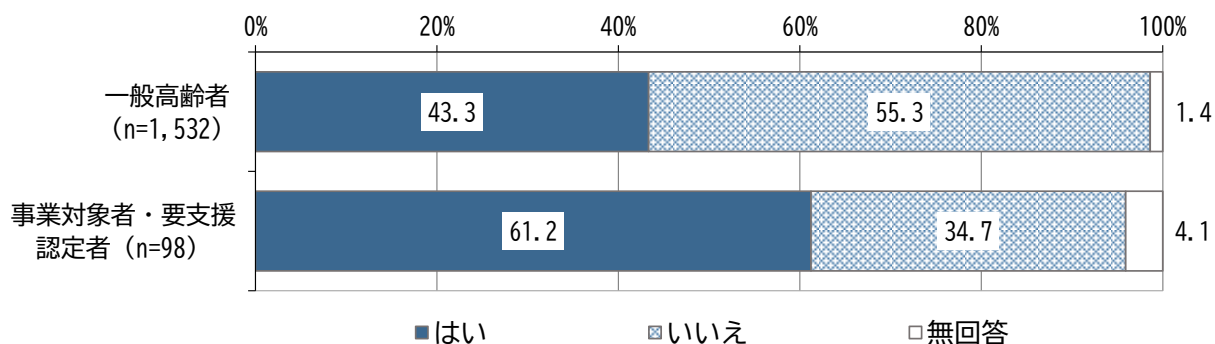
年齢別でみると、「はい」では、75～79歳が49.0%で最も高くなっています。

図表 2-8-10 この1か月間気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったか
年齢別



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が43.3%、事業対象者・要支援認定者が61.2%となっています。

図表 2-8-11 この1か月間気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったか
認定状況別



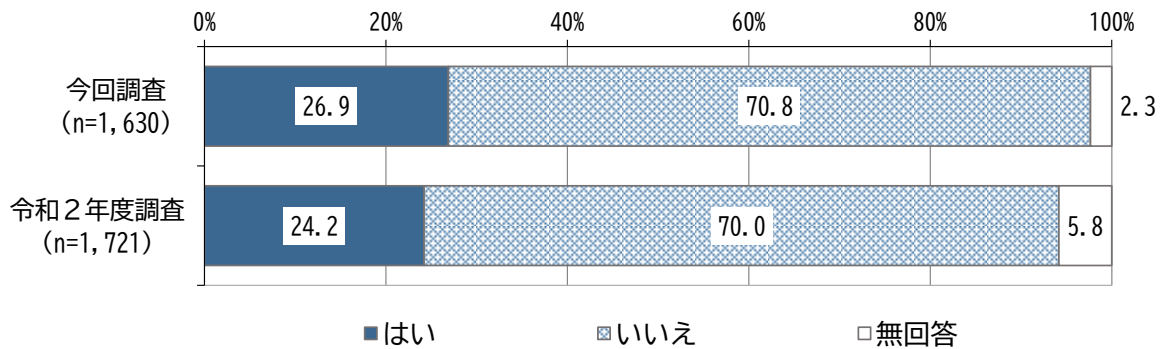
(4) この1か月間物事に興味がわかない心から楽しめない感じがよくあったか

問7-4 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか (〇はひとつ)

この1か月間物事に興味がわかない心から楽しめない感じがよくあったかについては、「はい」が26.9%、「いいえ」が70.8%となっています。

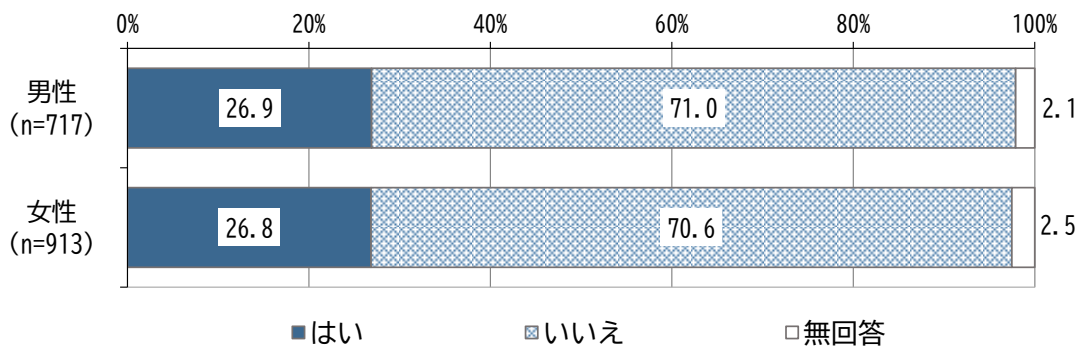
令和2(2020)年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-8-12 この1か月間物事に興味がわかない心から楽しめない感じがよくあったか



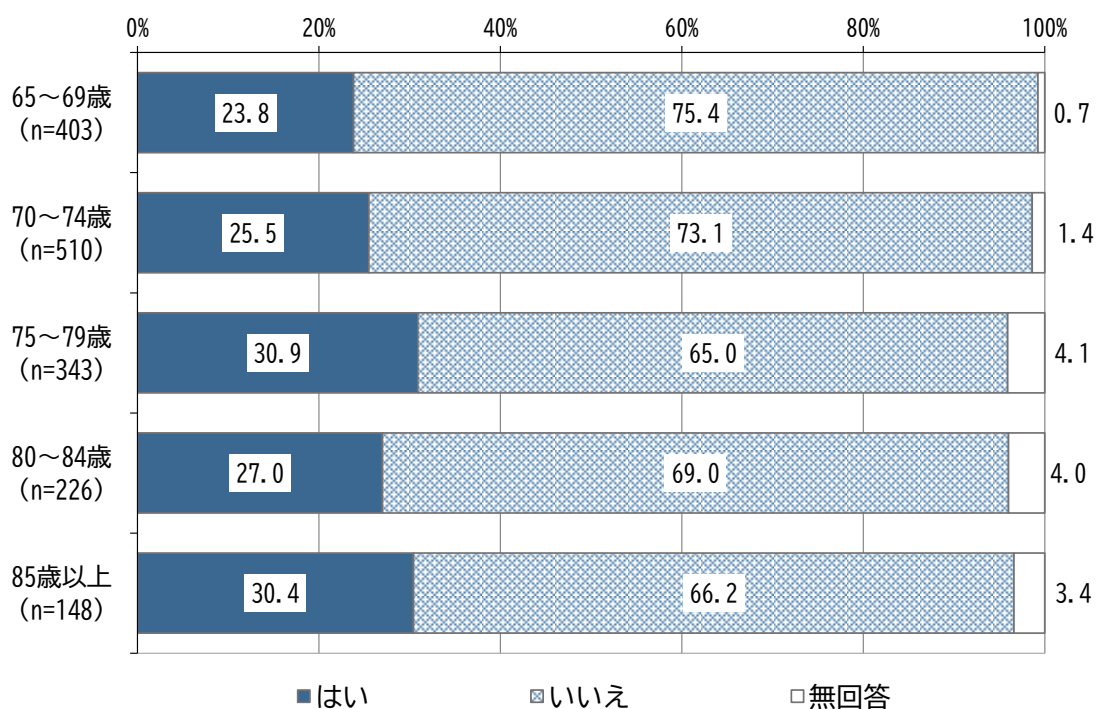
性別でみると、「はい」では、男性が26.9%、女性が26.8%となっています。

図表 2-8-13 この1か月間物事に興味がわかない心から楽しめない感じがよくあったか 性別



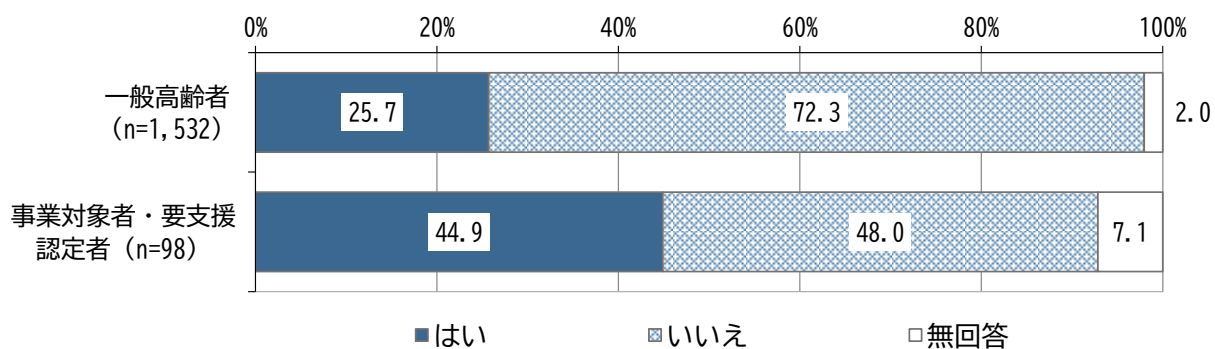
年齢別でみると、「はい」では、75～79歳が30.9%で最も高くなっています。

図表 2-8-14 この1か月間物事に興味がわかない心から楽しめない感じがよくあったか 年齢別



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が25.7%、事業対象者・要支援認定者が44.9%となっています。

図表 2-8-15 この1か月間物事に興味がわかない心から楽しめない感じがよくあったか 認定状況別

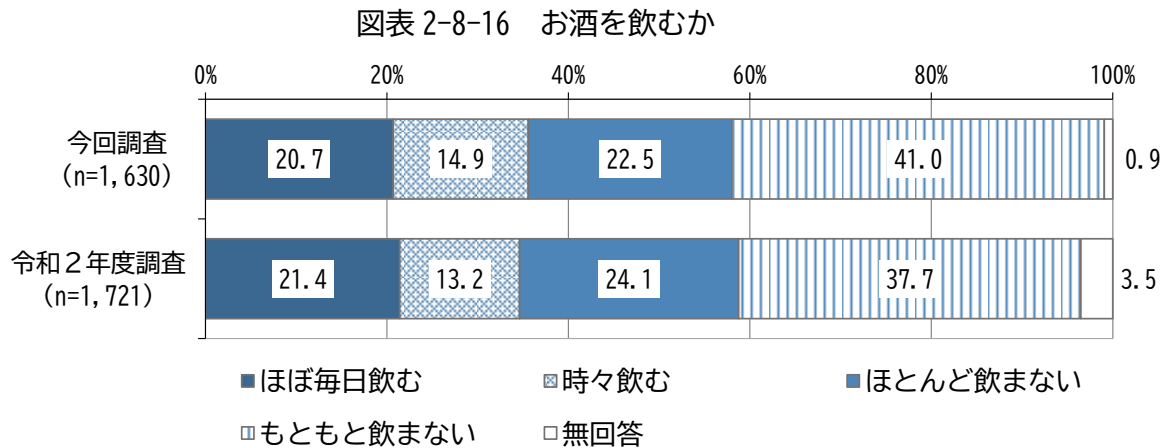


(5) お酒を飲むか

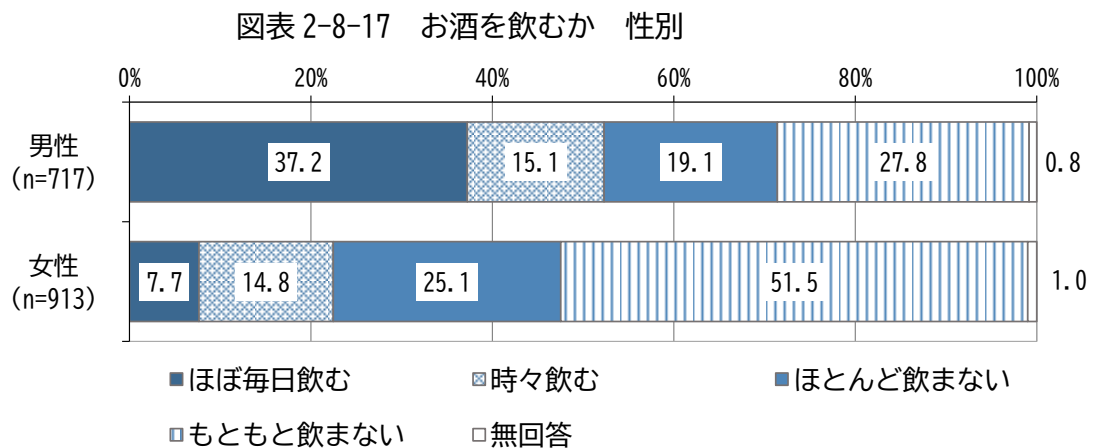
問7-5 お酒は飲みますか (〇はひとつ)

お酒を飲むかについては、「もともと飲まない」が41.0%で最も高く、次いで「ほとんど飲まない」が22.5%、「ほぼ毎日飲む」が20.7%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「もともと飲まない」（41.0%）では、令和2（2020）年度調査（37.7%）より3.3ポイント増加しています。

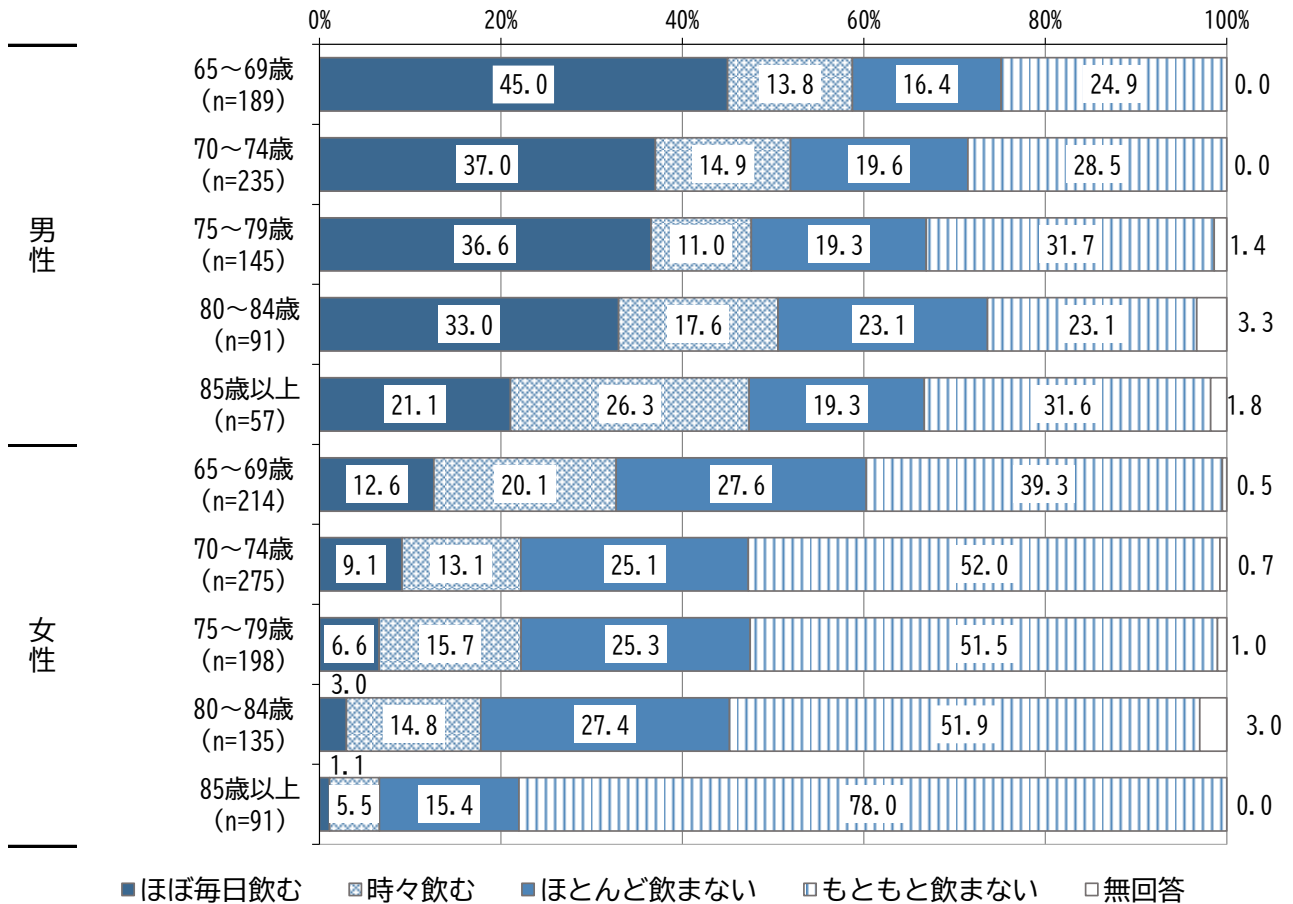


性別でみると、「ほぼ毎日飲む」では、男性が37.2%、女性が7.7%となっています。



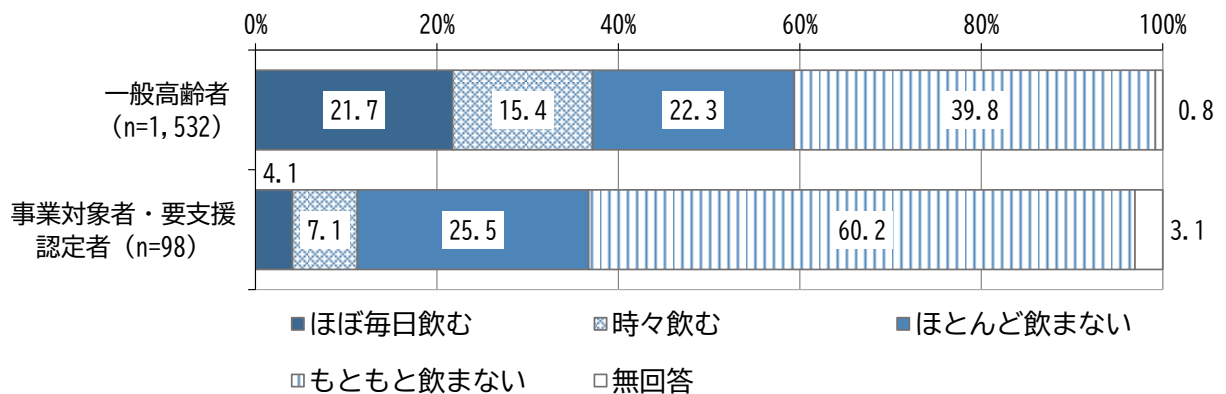
性別・年齢別でみると、「ほぼ毎日飲む」では、男性・65～69歳が45.0%で最も高くなっています。

図表 2-8-18 お酒を飲むか 性別・年齢別



認定状況別でみると、「ほぼ毎日飲む」では、一般高齢者が21.7%、事業対象者・要支援認定者が4.1%となっています。

図表 2-8-19 お酒を飲むか 認定状況別



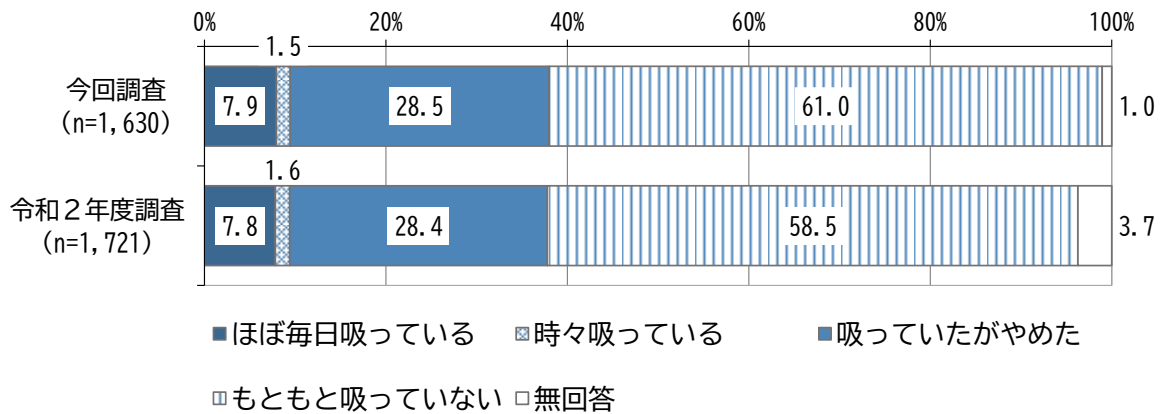
(6) タバコを吸うか

問7-6 タバコは吸っていますか (○はひとつ)

タバコを吸うかについては、「もともと吸っていない」が61.0%で最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が28.5%、「ほぼ毎日吸っている」が7.9%と続いています。

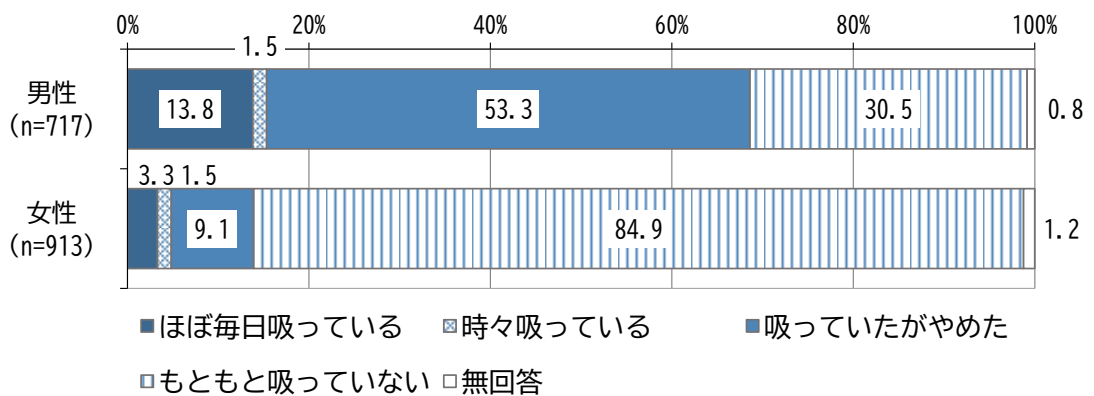
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-8-20 タバコを吸うか



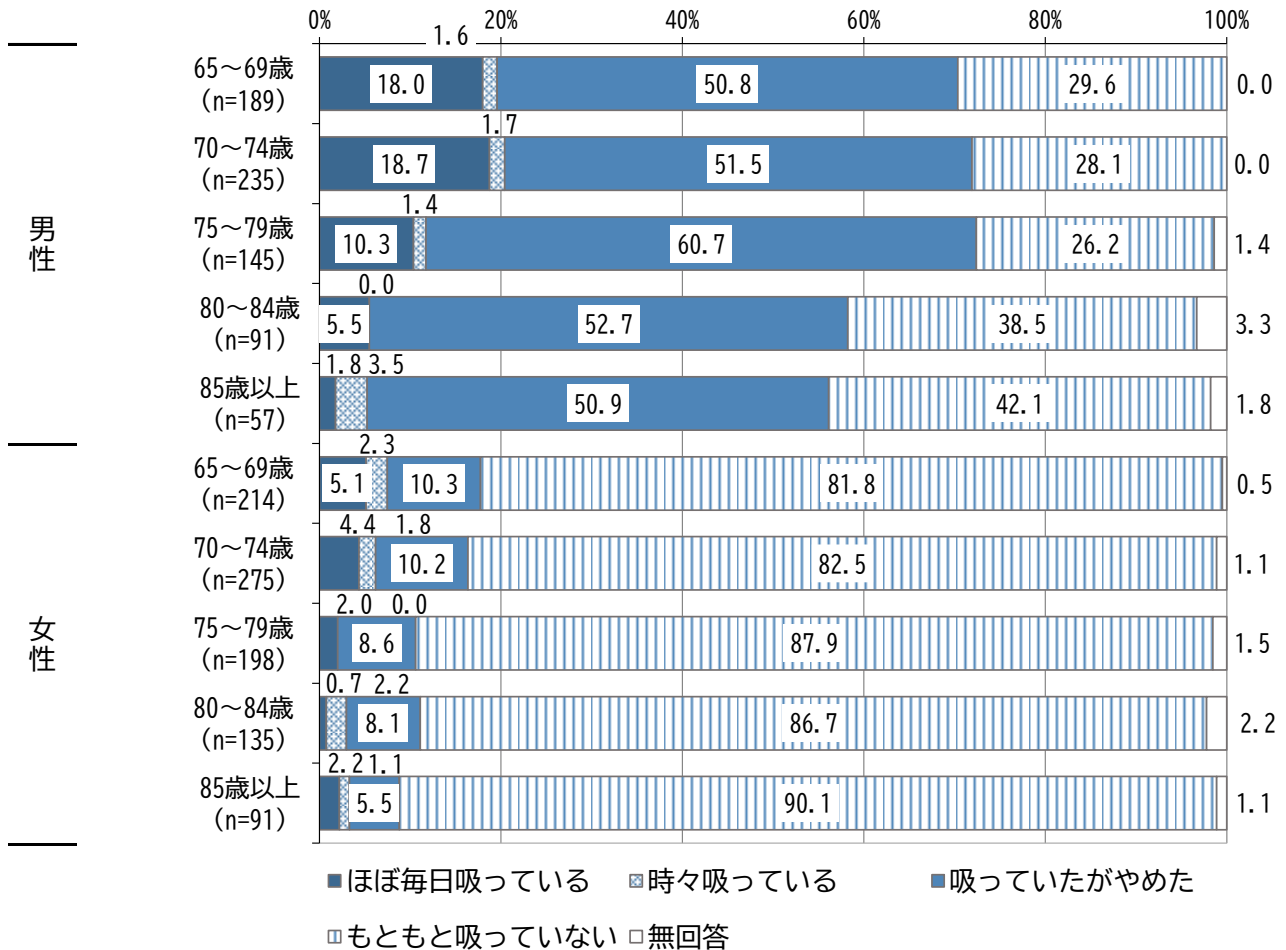
性別でみると、『喫煙している』（「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」の合計）では、男性が15.3%、女性が4.8%となっています。

図表 2-8-21 タバコを吸うか 性別



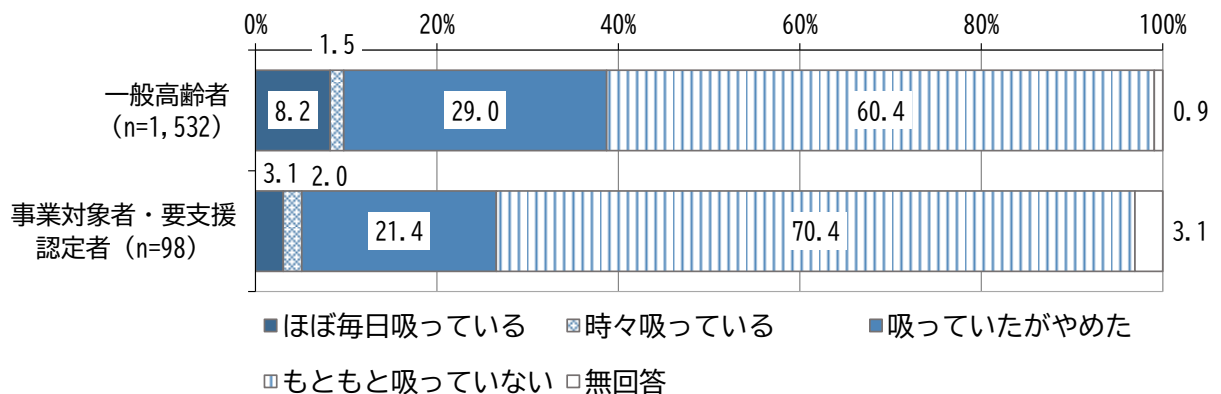
性別・年齢別でみると、『喫煙している』では、男性・70～74歳が20.4%で最も高くなっています。

図表 2-8-22 タバコを吸うか 性別・年齢別



認定状況別でみると、『喫煙している』では、一般高齢者が9.7%、事業対象者・要支援認定者が5.1%となっています。

図表 2-8-23 タバコを吸うか 認定状況別



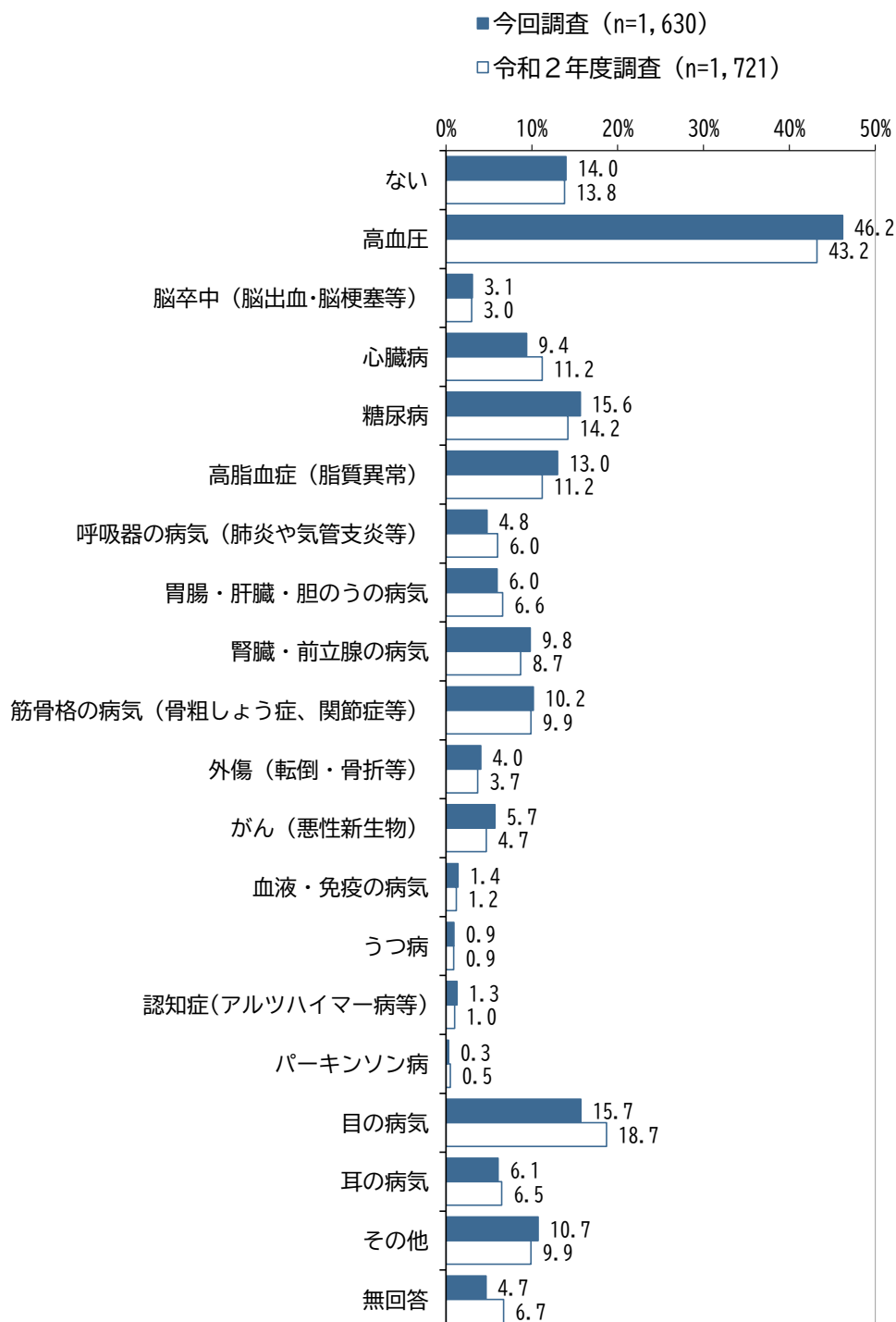
(7) 現在治療中または後遺症のある病気はあるか

問7-7 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (〇はいくつでも)

現在治療中または後遺症のある病気はあるかについては、「高血圧」が46.2%で最も高く、次いで「目の病気」が15.7%、「糖尿病」が15.6%と続いています。

令和2(2020)年度調査と比較すると、「高血圧」(46.2%)では、令和2(2020)年度調査(43.2%)より3.0ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-8-24 現在治療中または後遺症のある病気はあるか



性別でみると、男性・女性いずれも「高血圧」の割合が最も高くなっています。
 年齢別でみると、全ての年齢階級で「高血圧」の割合が最も高くなっています。
 認定状況別でみると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「高血圧」の割合が最も高くなっています。

図表 2-8-25 現在治療中または後遺症のある病気はあるか 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	ない	高血圧	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	高脂血症 (脂質異常)	気管支炎等 (呼吸器の病気)	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気 (肩関節症等)
全体		1,630	14.0	46.2	3.1	9.4	15.6	13.0	4.8	6.0	9.8	10.2
性別	男性	717	12.8	46.9	3.9	12.6	21.1	10.9	5.7	6.6	18.1	4.2
	女性	913	14.9	45.7	2.4	6.9	11.4	14.7	4.1	5.5	3.3	14.9
年齢別	65～69歳	403	18.4	40.7	1.7	6.2	14.4	16.1	3.5	5.2	8.7	5.7
	70～74歳	510	17.1	42.4	2.9	7.5	15.1	14.9	3.7	6.7	9.8	8.4
	75～79歳	343	8.7	49.9	4.7	11.4	17.5	10.5	7.6	5.5	9.9	11.1
	80～84歳	226	11.1	48.7	2.2	13.3	14.2	9.7	5.8	6.6	8.0	13.7
	85歳以上	148	8.1	62.2	4.7	14.2	18.9	8.8	4.1	5.4	15.5	20.9
認定状況別	一般高齢者	1,532	14.7	45.7	2.8	8.7	15.4	13.4	4.7	5.8	9.5	8.9
	事業対象者・要支援認定者	98	3.1	54.1	7.1	20.4	19.4	7.1	6.1	8.2	14.3	29.6

		合計	外傷 (転倒・骨折等)	がん (悪性新生物)	血液・免疫の病気	うつ病	認知症 (アルツハイマー病等)	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答
全体		1,630	4.0	5.7	1.4	0.9	1.3	0.3	15.7	6.1	10.7	4.7
性別	男性	717	2.4	7.1	1.5	0.7	1.0	0.4	15.2	7.0	9.3	2.9
	女性	913	5.4	4.6	1.3	1.1	1.5	0.2	16.1	5.4	11.8	6.0
年齢別	65～69歳	403	2.5	6.2	1.7	0.2	0.2	0.5	10.4	3.0	10.7	4.5
	70～74歳	510	2.9	4.9	1.2	1.6	0.0	0.2	14.1	3.9	11.2	5.5
	75～79歳	343	2.3	6.4	2.0	0.6	1.5	0.3	17.2	7.0	12.8	4.7
	80～84歳	226	8.4	5.3	0.9	0.4	1.8	0.0	23.0	9.7	8.4	4.4
	85歳以上	148	9.5	6.1	0.7	2.0	7.4	0.7	20.9	14.2	8.1	2.7
認定状況別	一般高齢者	1,532	3.4	5.6	1.1	0.8	1.2	0.3	15.3	5.6	10.6	4.6
	事業対象者・要支援認定者	98	14.3	7.1	6.1	3.1	3.1	1.0	22.4	13.3	13.3	5.1

※網掛け■は最も割合が高いもの

9 認知症について

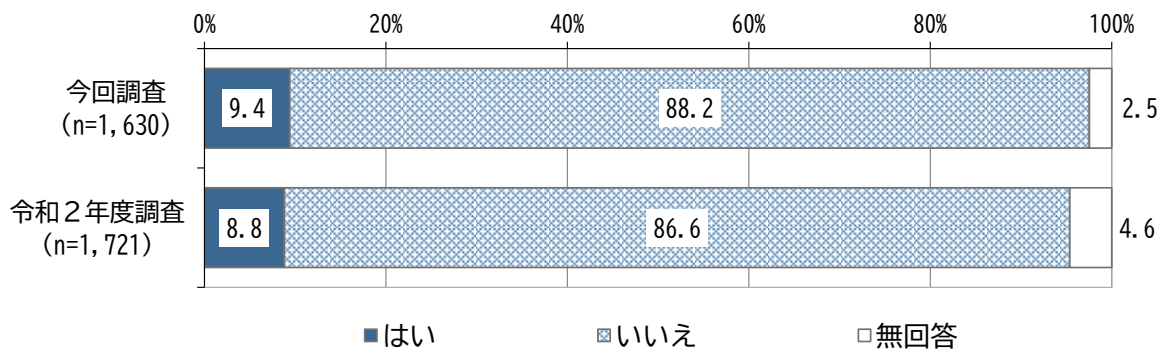
(1) 認知症の症状があるか・家族に認知症の症状がある人がいるか

問8-1 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか（○はひとつ）

認知症の症状があるか・家族に認知症の症状がある人がいるかについては、「はい」が9.4%、「いいえ」が88.2%となっています。

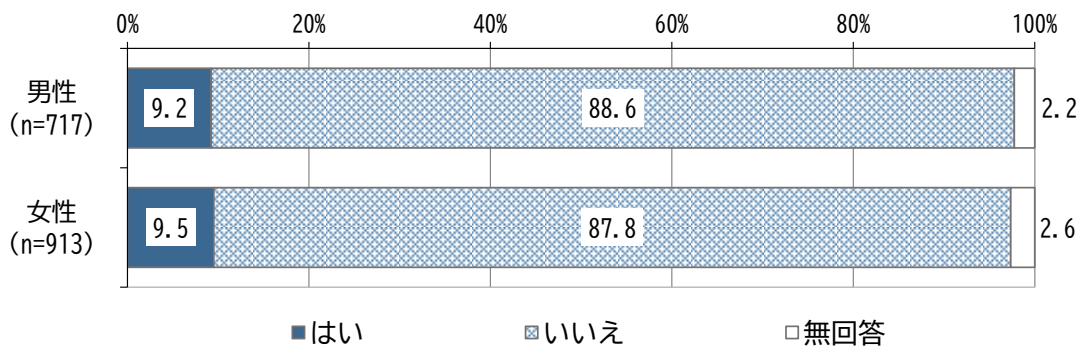
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-9-1 認知症の症状があるか・家族に認知症の症状がある人がいるか



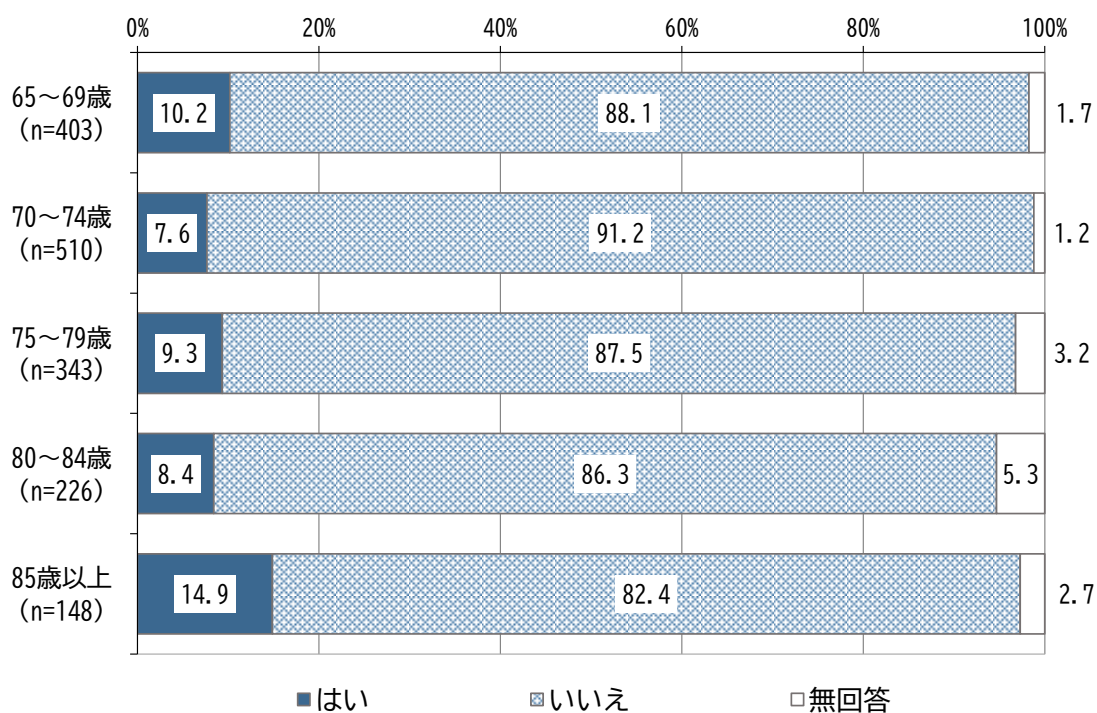
性別でみると、「はい」では、男性が9.2%、女性が9.5%となっています。

図表 2-9-2 認知症の症状があるか・家族に認知症の症状がある人がいるか 性別



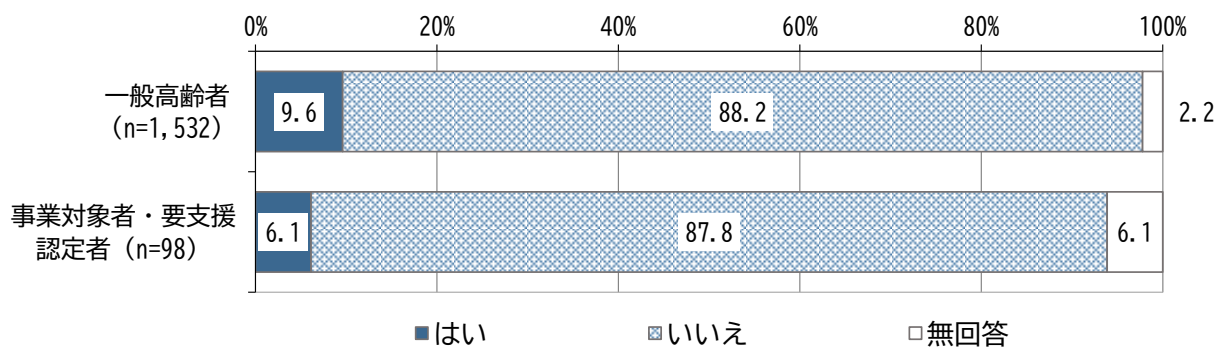
年齢別でみると、「はい」では、85歳以上が14.9%で最も高くなっています。

図表 2-9-3 認知症の症状があるか・家族に認知症の症状がある人がいるか 年齢別



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が9.6%、事業対象者・要支援認定者が6.1%となっています。

図表 2-9-4 認知症の症状があるか・家族に認知症の症状がある人がいるか 認定状況別



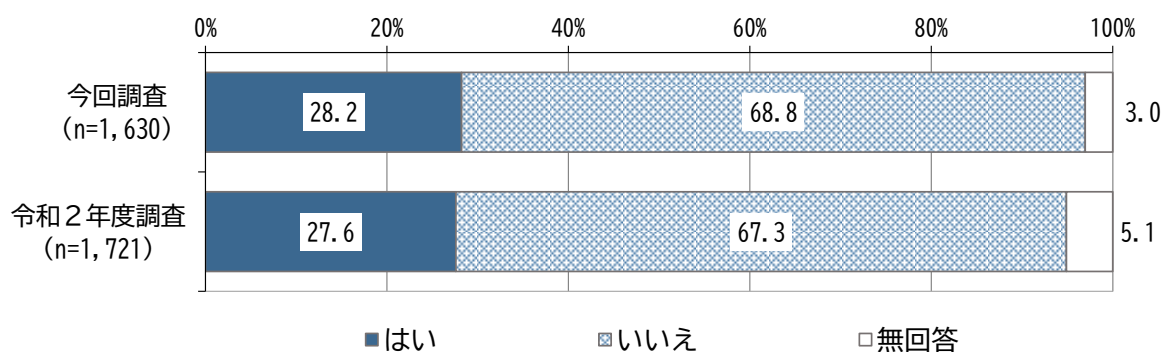
(2) 認知症に関する相談窓口を知っているか

問8-2 認知症に関する相談窓口を知っていますか (〇はひとつ)

認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「はい」が28.2%、「いいえ」が68.8%となっています。

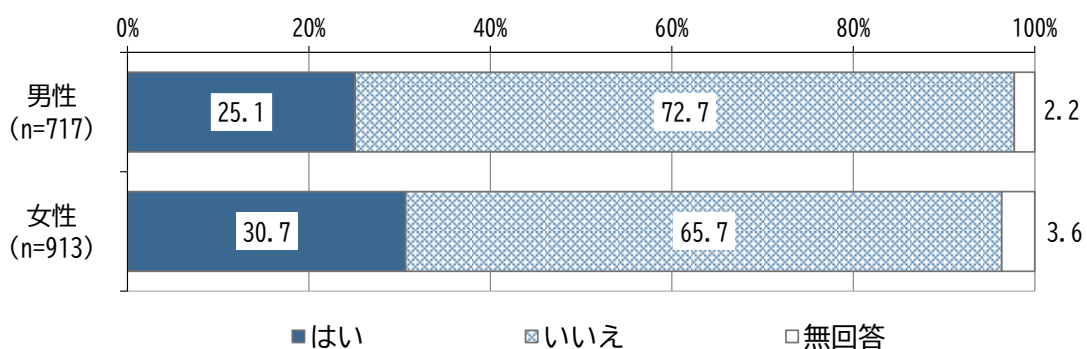
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-9-5 認知症に関する相談窓口を知っているか



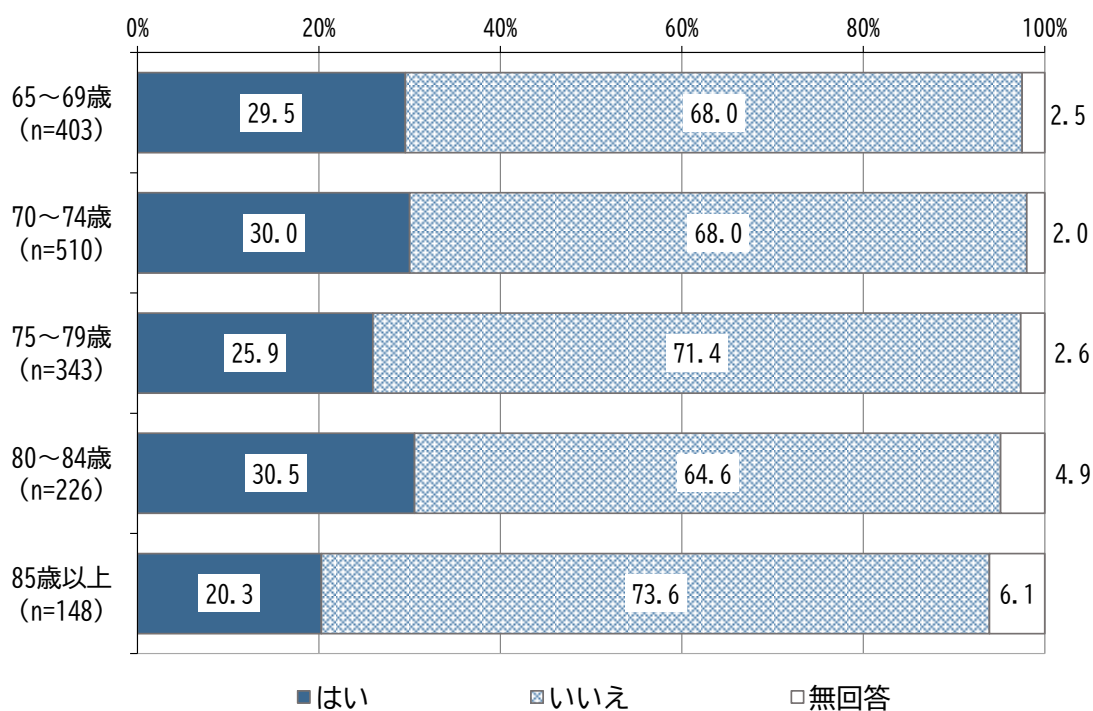
性別でみると、「いいえ」では、男性が72.7%、女性が65.7%となっています。

図表 2-9-6 認知症に関する相談窓口を知っているか 性別



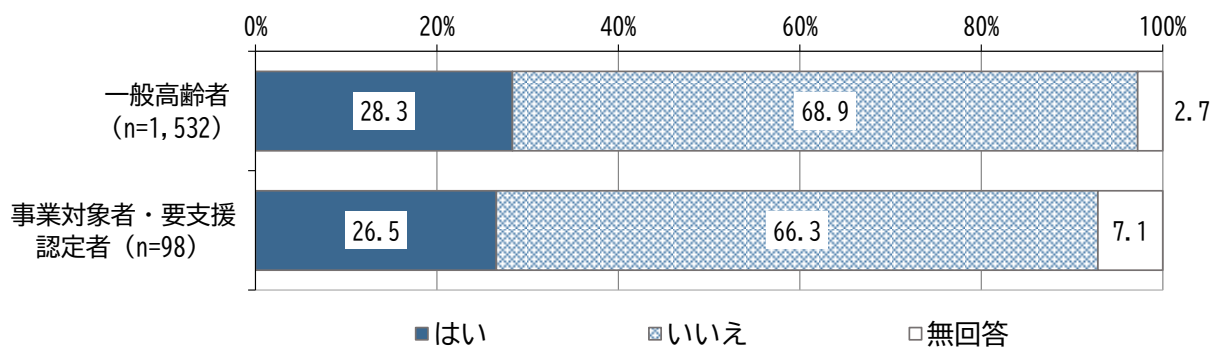
年齢別でみると、「いいえ」では、85歳以上が73.6%で最も高くなっています。

図表 2-9-7 認知症に関する相談窓口を知っているか 年齢別



認定状況別でみると、「いいえ」では、一般高齢者が68.9%、事業対象者・要支援認定者が66.3%となっています。

図表 2-9-8 認知症に関する相談窓口を知っているか 認定状況別

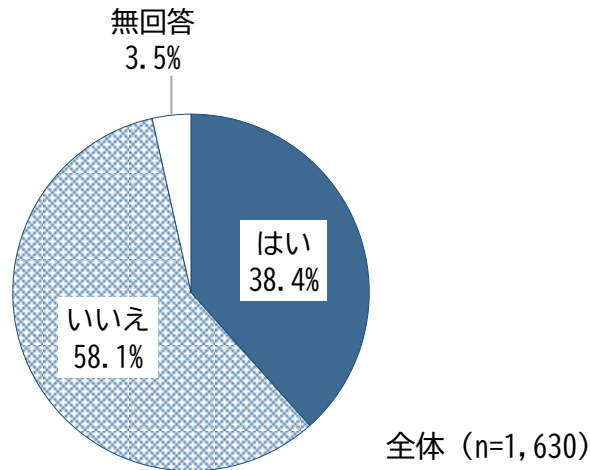


(3) 認知症が疑われる際に受診する病院やその診療科目を知っているか

問8-3 認知症が疑われる際に受診する病院やその診療科目を知っていますか (〇はひとつ)

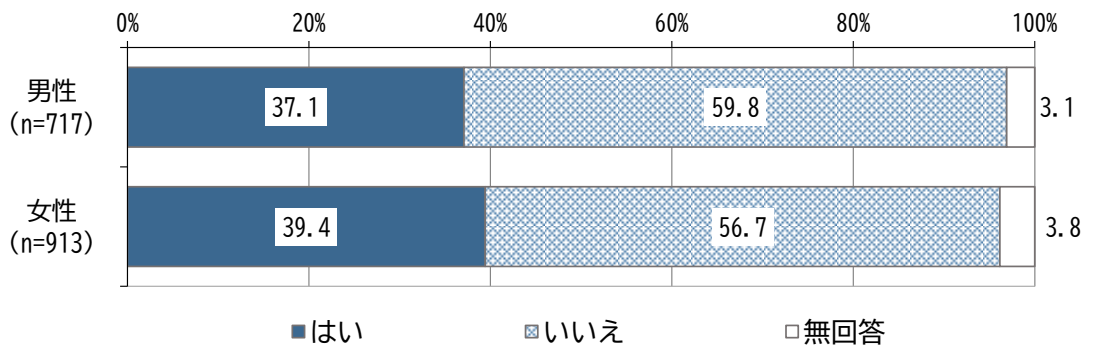
認知症が疑われる際に受診する病院やその診療科目を知っているかについては、「はい」が38.4%、「いいえ」が58.1%となっています。

図表 2-9-9 認知症が疑われる際に受診する病院やその診療科目を知っているか



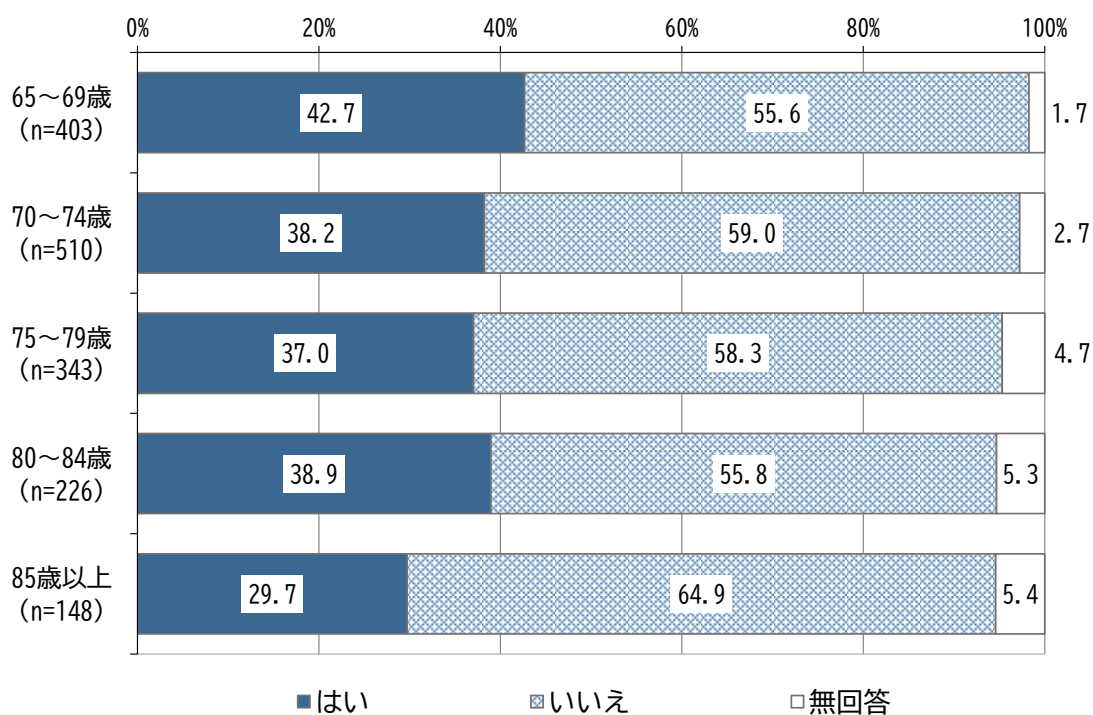
性別でみると、「いいえ」では、男性が59.8%、女性が56.7%となっています。

図表 2-9-10 認知症が疑われる際に受診する病院やその診療科目を知っているか 性別



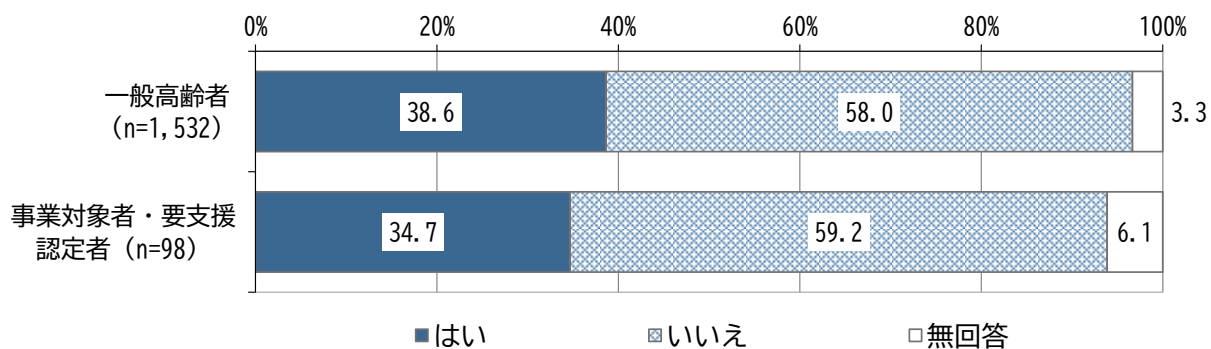
年齢別でみると、「いいえ」では、85歳以上が64.9%で最も高くなっています。

図表 2-9-11 認知症が疑われる際に受診する病院やその診療科目を知っているか 年齢別



認定状況別でみると、「いいえ」では、一般高齢者が58.0%、事業対象者・要支援認定者が59.2%となっています。

図表 2-9-12 認知症が疑われる際に受診する病院やその診療科目を知っているか 認定状況別

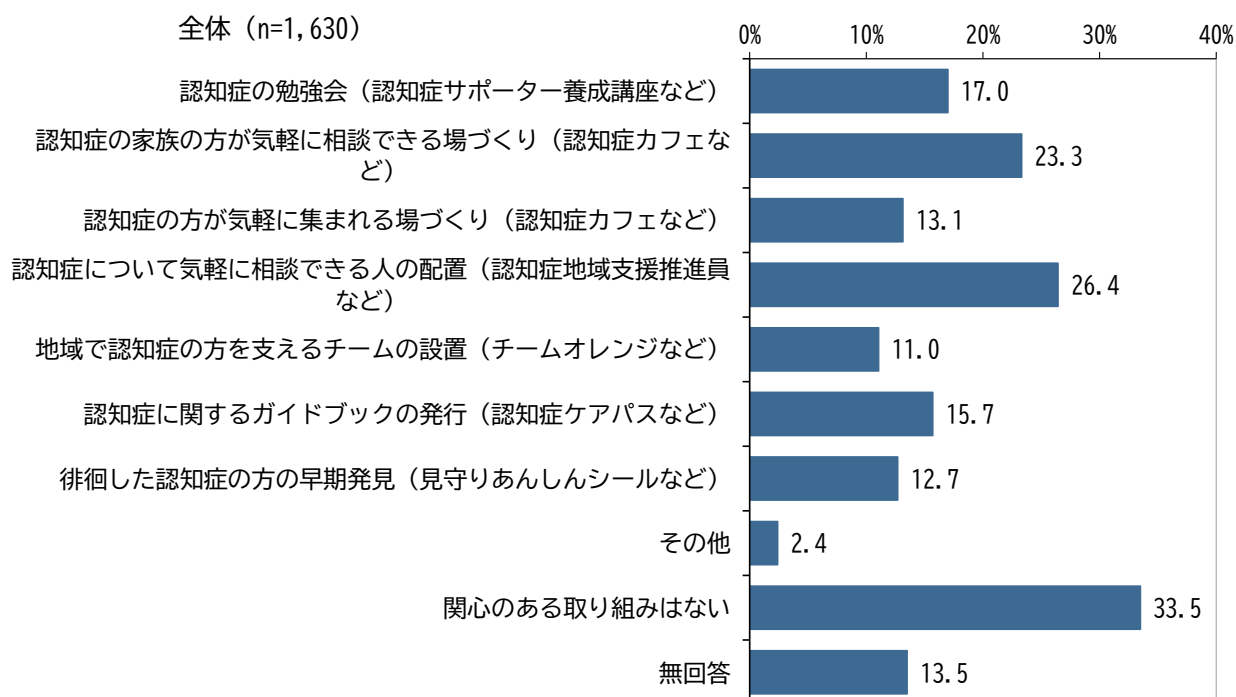


(4) 認知症の施策について関心のある取り組み

問8-4 認知症の施策について関心のある取り組みはありますか（〇はいくつでも）

認知症の施策について関心のある取り組みについては、「関心のある取り組みはない」が33.5%で最も高く、次いで「認知症について気軽に相談できる人の配置（認知症地域支援推進員など）」が26.4%、「認知症の家族の方が気軽に相談できる場づくり（認知症カフェなど）」が23.3%と続いています。

図表 2-9-13 認知症の施策について関心のある取り組み



性別でみると、男性では「関心のある取り組みはない」が43.2%で最も高く、女性では「認知症について気軽に相談できる人の配置（認知症地域支援推進員など）」が29.2%で最も高くなっています。

年齢別でみると、80～84歳では「認知症について気軽に相談できる人の配置（認知症地域支援推進員など）」の割合が最も高く、それ以外の年齢階級では「関心のある取り組みはない」の割合が最も高くなっています。

認定状況別でみると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「関心のある取り組みはない」の割合が最も高くなっています。

図表 2-9-14 認知症の施策について関心のある取り組み 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	認知症の勉強会（認知症サポーター養成講座など）	相談できる家族の方が気軽に認知症ケアできる場づくり（認知症に相対する方が気軽に集まれる場づくり）	認知症の家族が気軽に集まれる場づくり（認知症に相対する方が気軽に集まれる場づくり）	認知症の家族が気軽に集まれる場づくり（認知症に相対する方が気軽に集まれる場づくり）	認知症の家族が気軽に集まれる場づくり（認知症に相対する方が気軽に集まれる場づくり）	認知症の家族が気軽に集まれる場づくり（認知症に相対する方が気軽に集まれる場づくり）	認知症の家族が気軽に集まれる場づくり（認知症に相対する方が気軽に集まれる場づくり）	認知症の家族が気軽に集まれる場づくり（認知症に相対する方が気軽に集まれる場づくり）	その他	関心のある取り組みはない	無回答
全体		1,630	17.0	23.3	13.1	26.4	11.0	15.7	12.7	2.4	33.5	13.5	
性別	男性	717	12.6	20.6	9.1	22.9	8.8	14.5	10.6	1.3	43.2	11.3	
	女性	913	20.5	25.4	16.3	29.2	12.8	16.6	14.3	3.3	25.8	15.2	
年齢別	65～69歳	403	14.9	29.0	13.4	28.3	13.4	14.9	14.1	1.7	39.5	7.7	
	70～74歳	510	18.0	23.9	13.9	24.5	10.0	16.3	12.7	2.9	32.2	12.4	
	75～79歳	343	17.5	21.0	14.9	26.5	11.1	16.3	11.4	3.2	32.4	13.1	
	80～84歳	226	19.5	20.8	11.5	31.4	10.6	17.7	12.4	1.8	25.7	19.9	
	85歳以上	148	14.2	14.9	8.1	20.3	8.8	11.5	12.2	1.4	36.5	24.3	
状況別	一般高齢者	1,532	17.4	23.9	13.4	26.6	11.2	15.7	12.7	2.2	33.5	12.9	
	事業対象者・要支援認定者	98	10.2	14.3	8.2	23.5	9.2	16.3	13.3	6.1	33.7	23.5	

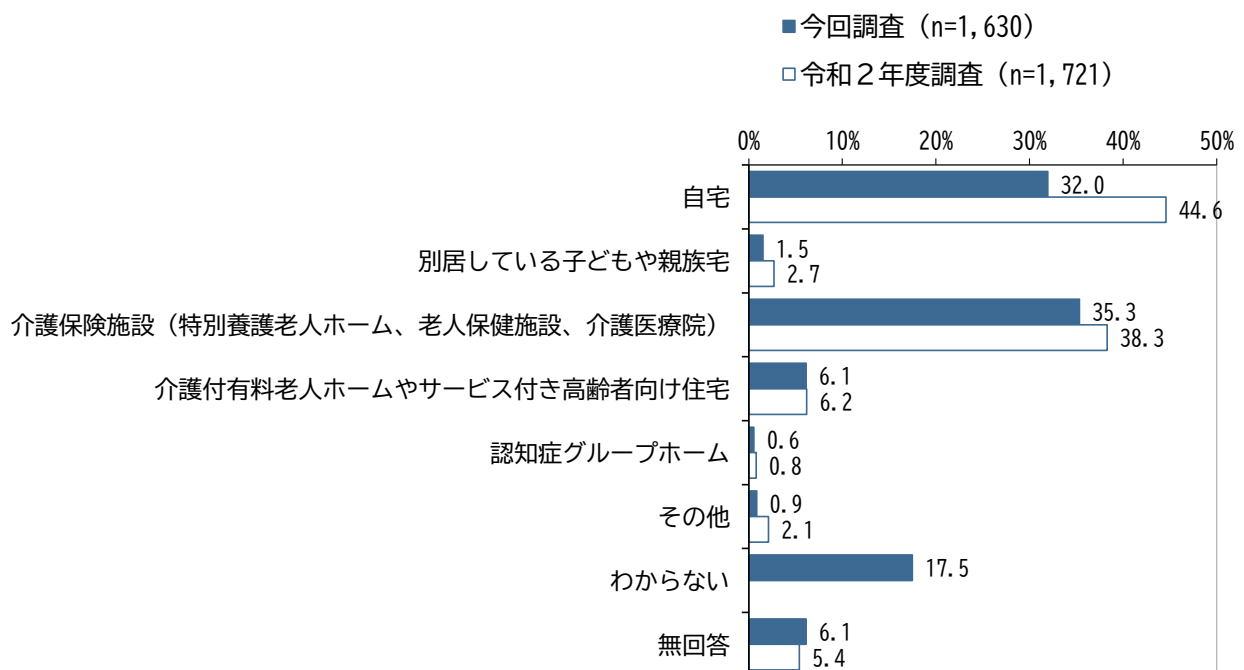
10 人生の最終段階について

(1) 身の回りのことができなくなったときにどこで介護を受けたいか

問9-1 将来、身の回りのことができなくなったときに、どこで介護を受けたいとお考えですか
(○はひとつ)

身の回りのことができなくなったときにどこで介護を受けたいかについては、「介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院）」が 35.3%で最も高く、次いで「自宅」が 32.0%、「わからない」が 17.5%と続いています。

図表 2-10-1 身の回りのことができなくなったときにどこで介護を受けたいか



※ 「わからない」は今回調査からの選択肢

性別でみると、男性では「自宅」が 37.8%で最も高く、女性では「介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院）」が 39.8%で最も高くなっています。

年齢別でみると、74 歳以下では「介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院）」の割合が最も高く、75 歳以上では「自宅」の割合が最も高くなっています。

認定状況別でみると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院）」の割合が最も高くなっています。

図表 2-10-2 身の回りのことができなくなったときにどこで介護を受けたいか 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	自宅	別居している子どもや親族	介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院）	介護付有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅	認知症グループホーム	その他	わからない	無回答
全体		1,630	32.0	1.5	35.3	6.1	0.6	0.9	17.5	6.1
性別	男性	717	37.8	1.8	29.7	5.9	0.6	0.7	18.0	5.6
	女性	913	27.4	1.3	39.8	6.4	0.5	1.0	17.1	6.6
年齢別	65～69歳	403	26.3	1.2	38.7	6.7	0.7	0.5	21.8	4.0
	70～74歳	510	30.2	2.0	37.3	5.3	0.0	1.0	19.4	4.9
	75～79歳	343	35.9	1.2	32.7	7.0	1.2	0.9	14.6	6.7
	80～84歳	226	36.3	1.8	32.3	6.6	0.4	1.8	11.9	8.8
	85歳以上	148	37.8	1.4	30.4	4.7	0.7	0.0	14.2	10.8
状況別	一般高齢者	1,532	32.2	1.5	35.3	6.1	0.5	0.9	17.6	5.8
	事業対象者・要支援認定者	98	27.6	2.0	35.7	6.1	2.0	0.0	15.3	11.2

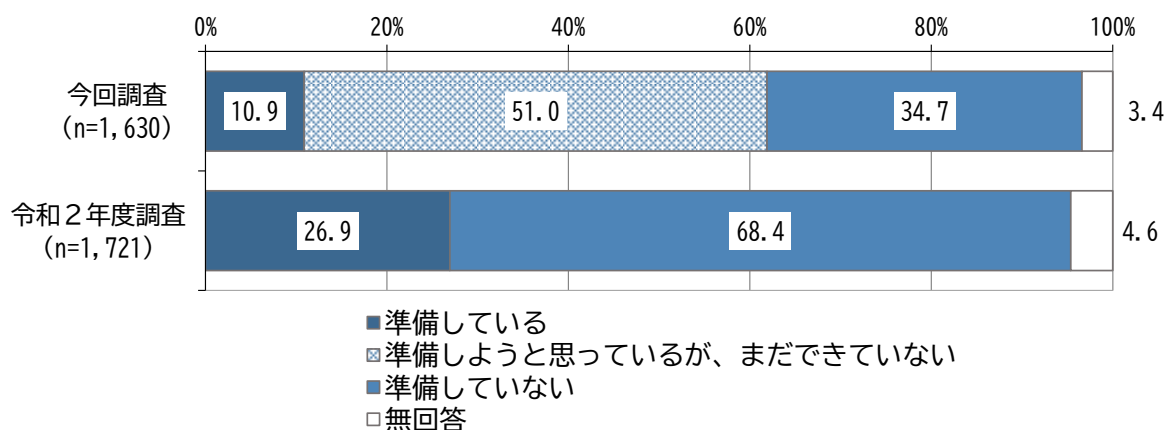
※網掛け■は最も割合が高いもの

(2) 人生の最終段階に向けて準備していることはあるか

問9-2 ご自身の人生の最終段階に向けて、何か準備していることはありますか（〇はひとつ）

人生の最終段階に向けて準備していることはあるかについては、「準備しようと思っているが、まだできていない」が51.0%で最も高く、次いで「準備していない」が34.7%、「準備している」が10.9%と続いています。

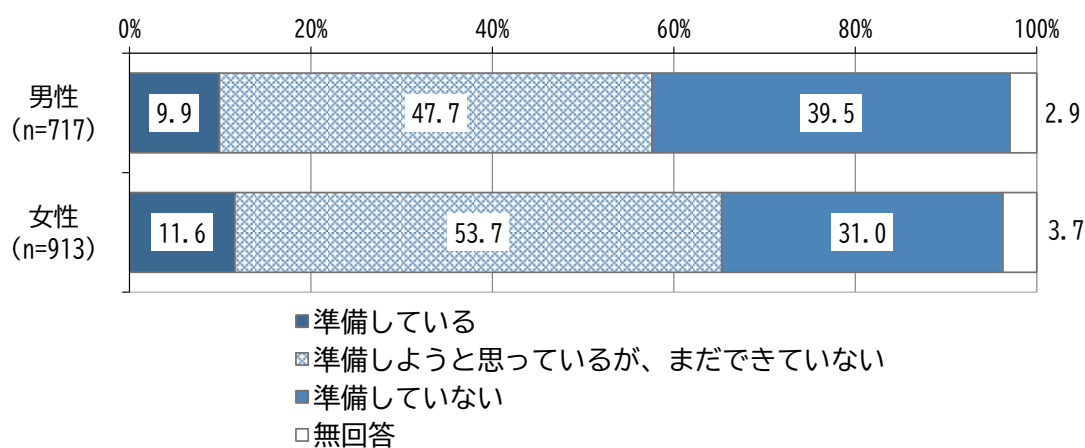
図表 2-10-3 人生の最終段階に向けて準備していることはあるか



※ 「準備しようと思っているが、まだできていない」は今回調査からの選択肢

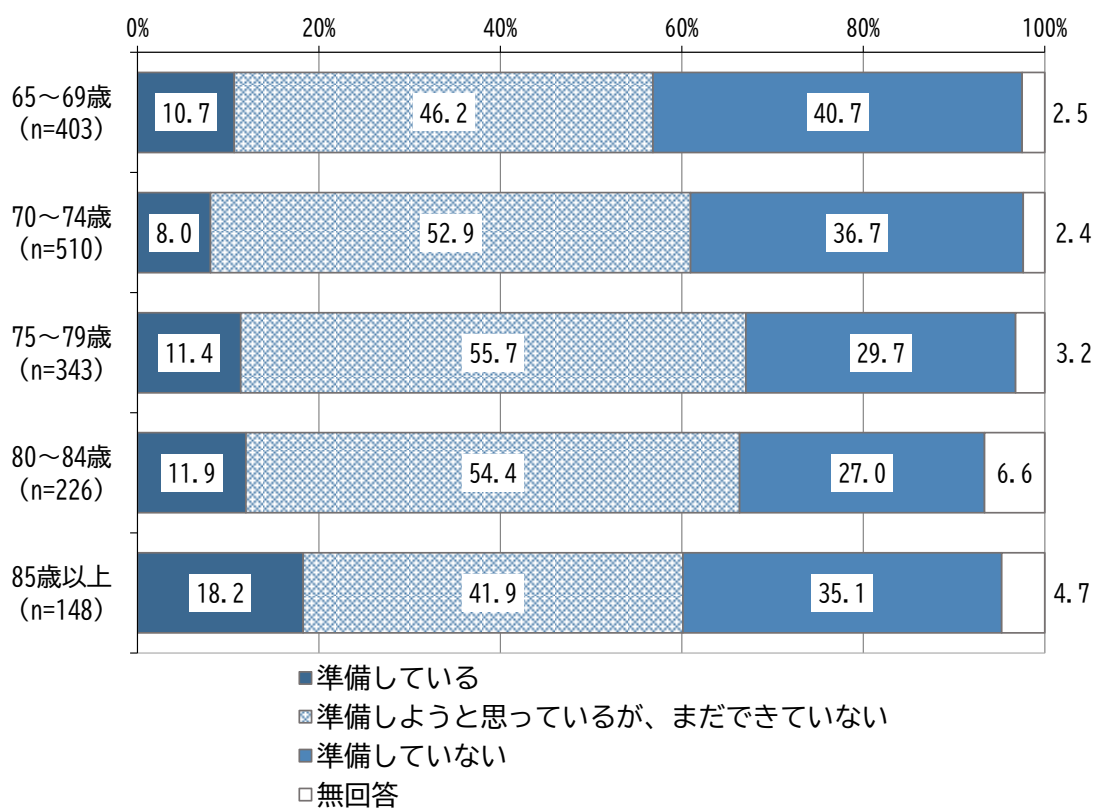
性別でみると、「準備していない」では、男性が39.5%、女性が31.0%となっています。

図表 2-10-4 人生の最終段階に向けて準備していることはあるか 性別別



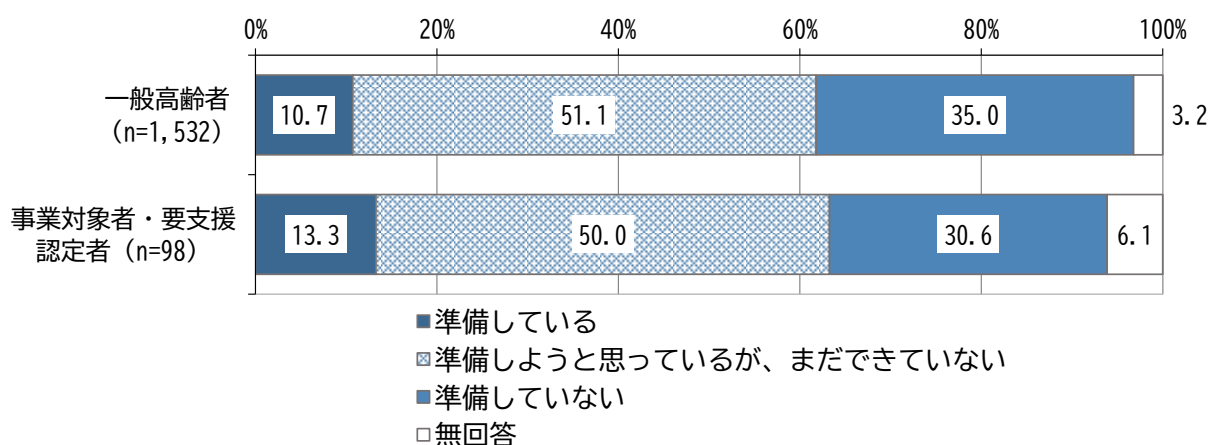
年齢別でみると、「準備していない」では、65～69歳が40.7%で最も高くなっています。

図表 2-10-5 人生の最終段階に向けて準備していることはあるか 年齢別



認定状況別でみると、「準備していない」では、一般高齢者が35.0%、事業対象者・要支援認定者が30.6%となっています。

図表 2-10-6 人生の最終段階に向けて準備していることはあるか 認定状況別

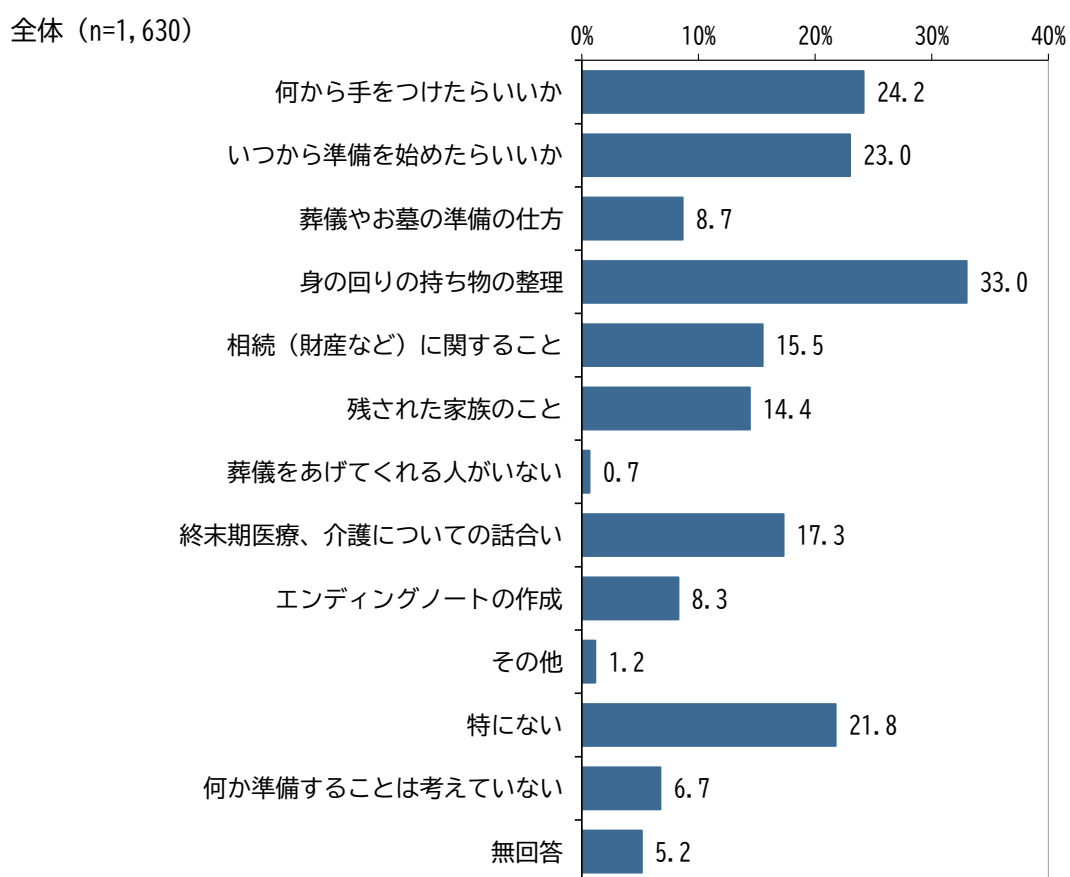


(3) 人生の最終段階に向けて知りたいことや相談したいこと

問9-3 人生の最終段階に向けた準備を進めるにあたって（または現在準備を進めている中で）、ご自身が知りたいことや相談したいことはありますか（〇はいくつでも）

人生の最終段階に向けて知りたいことや相談したいことについては、「身の回りの持ち物の整理」が33.0%で最も高く、次いで「何から手をつけたらいいか」が24.2%、「いつから準備を始めたらいいか」が23.0%と続いています。

図表 2-10-7 人生の最終段階に向けて知りたいことや相談したいこと



性別でみると、男性・女性いずれも「身の回りの持ち物の整理」の割合が最も高くなっています。

年齢別でみると、全ての年齢階級で「身の回りの持ち物の整理」の割合が最も高くなっています。

認定状況別でみると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「身の回りの持ち物の整理」の割合が最も高くなっています。

図表 2-10-8 人生の最終段階に向けて知りたいことや相談したいこと 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	い 何 か ら 手 を つ け た ら い	ら い つ か ら 準 備 を 始 め た	方 葬 儀 や お 墓 の 準 備 の 仕	理 身 の 回 り の 持 ち 物 の 整 理	相 続 （ 財 産 な ど ） に 関 する こ と	残 さ れ た 家 族 の こ と	が 葬 儀 を あ げ て く れ る 人 が い な い	終 末 期 医 療 、 介 護 に つ いて の 話 合 い	作 成 エ ン デ ィ ン グ ノ ー ト の	そ の 他
全体		1,630	24.2	23.0	8.7	33.0	15.5	14.4	0.7	17.3	8.3	1.2
性別	男性	717	21.1	24.8	9.3	26.8	17.7	16.5	0.7	13.2	6.4	1.3
	女性	913	26.6	21.6	8.1	37.9	13.8	12.8	0.7	20.5	9.7	1.1
年齢別	65～69歳	403	23.6	25.1	9.7	32.5	14.4	14.9	0.7	17.4	9.2	0.5
	70～74歳	510	24.1	24.7	8.4	31.4	17.1	17.3	0.4	15.7	8.2	2.5
	75～79歳	343	27.7	24.5	8.2	33.8	14.9	12.2	0.9	19.0	8.5	0.6
	80～84歳	226	23.5	19.0	9.3	37.2	15.9	15.0	0.9	22.1	8.8	0.9
	85歳以上	148	18.9	14.2	6.8	31.8	14.2	7.4	0.7	11.5	4.7	0.0
状況別	一般高齢者	1,532	24.0	23.4	8.4	33.0	15.5	14.4	0.6	16.9	8.2	1.2
	事業対象者・要支援認定者	98	26.5	17.3	12.2	32.7	16.3	14.3	2.0	23.5	9.2	1.0

		合計	特 に な い	え 何 か 準 備 す る こ と は 考 え て い な い	無 回 答
全体		1,630	21.8	6.7	5.2
性別	男性	717	23.4	9.3	4.3
	女性	913	20.5	4.7	5.8
年齢別	65～69歳	403	24.1	7.4	3.5
	70～74歳	510	22.5	4.9	4.9
	75～79歳	343	18.1	7.9	5.0
	80～84歳	226	19.0	6.6	8.0
	85歳以上	148	25.7	8.8	6.8
状況別	一般高齢者	1,532	21.9	6.9	5.0
	事業対象者・要支援認定者	98	19.4	4.1	7.1

※網掛け■は最も割合が高いもの

11 災害時や緊急時の対応などについて

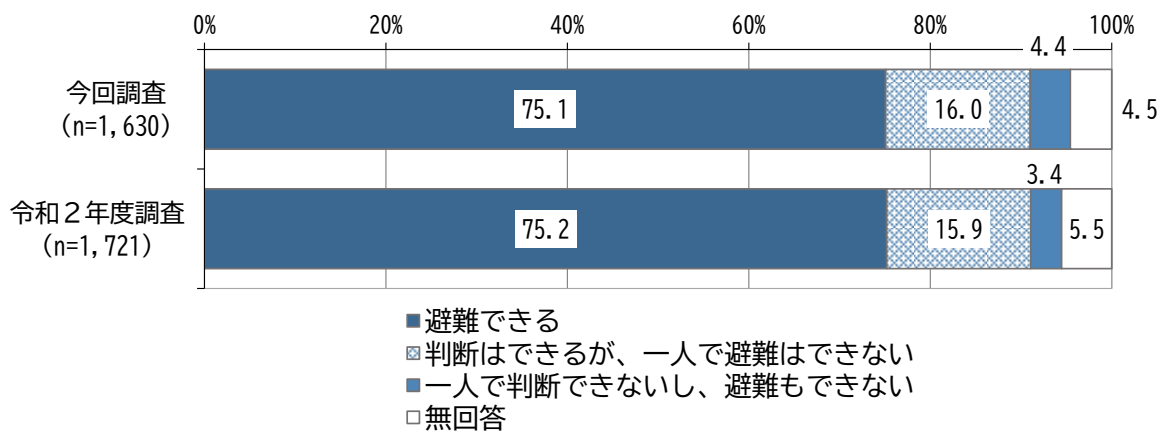
(1) 災害時や緊急時に一人で避難することができるか

問 10-1 あなたは、災害時（台風や地震など）や火災などの緊急時に、一人で避難することができますか（○はひとつ）

災害時や緊急時に一人で避難することができるかについては、「避難できる」が75.1%で最も高く、次いで「判断はできるが、一人で避難はできない」が16.0%、「一人で判断できないし、避難もできない」が4.4%と続いています。

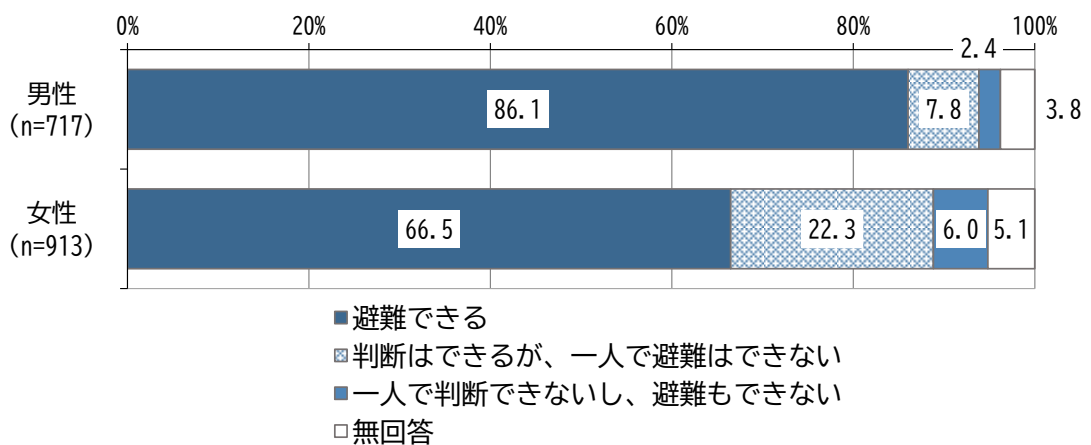
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-11-1 災害時や緊急時に一人で避難することができるか



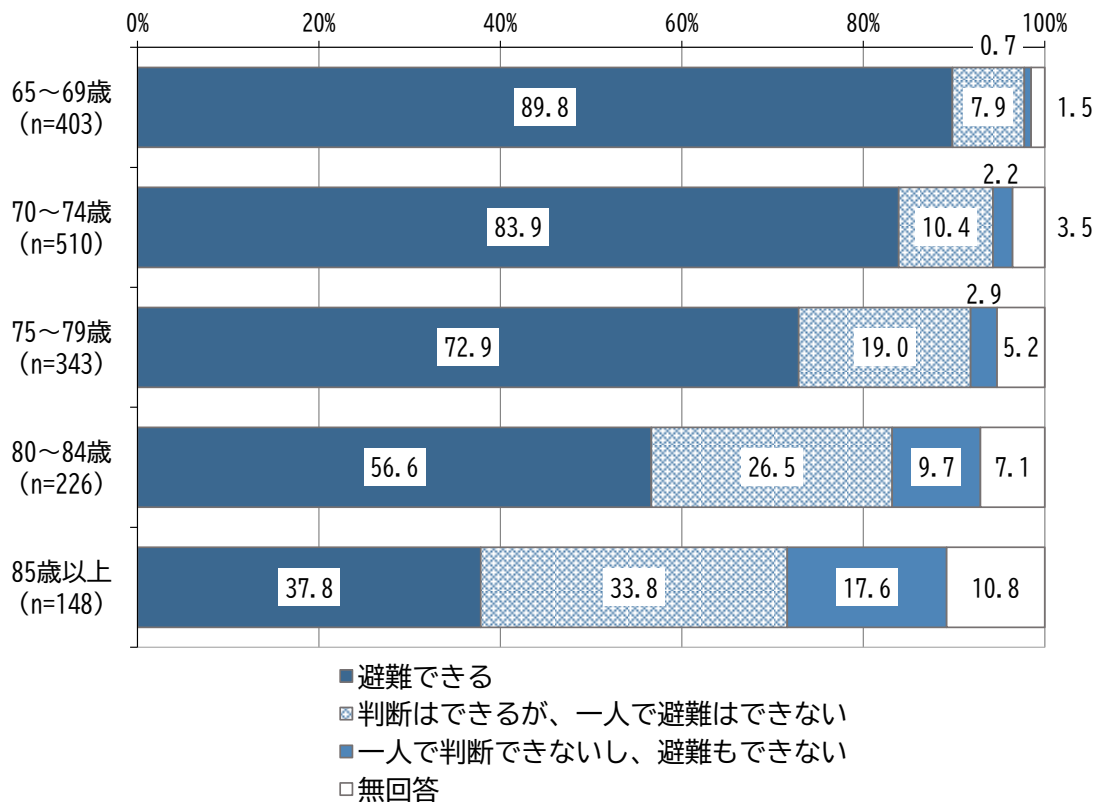
性別でみると、『一人で避難できない』（「判断はできるが、一人で避難はできない」と「一人で判断できないし、避難もできない」の合計）では、男性が10.2%、女性が28.3%となっています。

図表 2-11-2 災害時や緊急時に一人で避難することができるか 性別



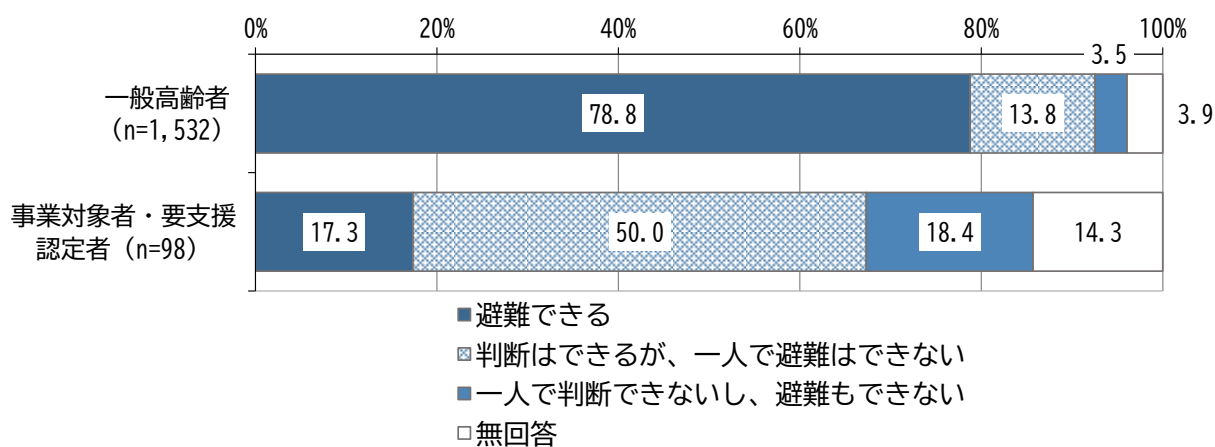
年齢別でみると、『一人で避難できない』では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が51.4%で最も高くなっています。

図表 2-11-3 災害時や緊急時に一人で避難することができるか 年齢別



認定状況別でみると、『一人で避難できない』では、一般高齢者が17.3%、事業対象者・要支援認定者が68.4%となっています。

図表 2-11-4 災害時や緊急時に一人で避難することができるか 認定状況別



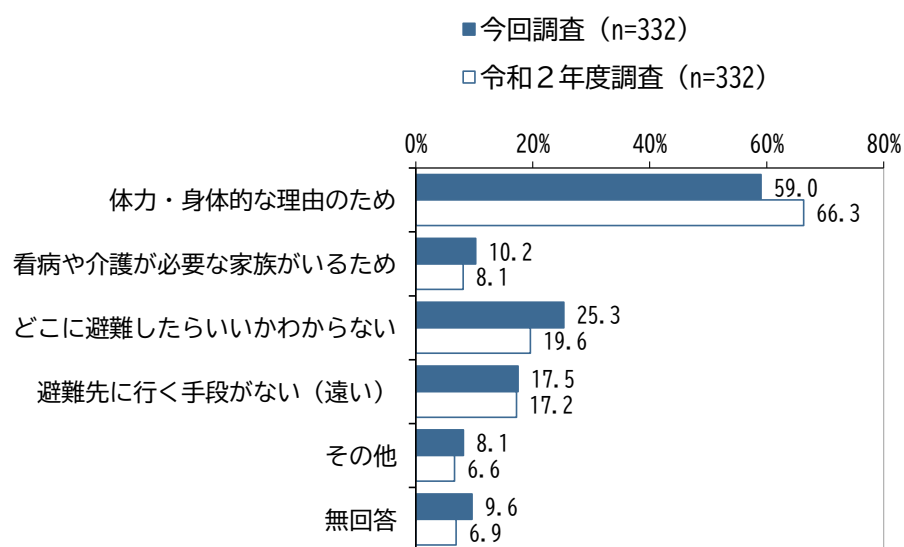
(2) 一人で避難できない理由

問 10-1 で「2」または「3」を回答された方（一人では避難できない方）のみ
問 10-1-1 避難できない理由は何ですか（〇はいくつでも）

一人で避難できない理由については、「体力・身体的な理由のため」が 59.0% で最も高く、次いで「どこに避難したらいいかわからない」が 25.3%、「避難先に行く手段がない（遠い）」が 17.5% と続いています。

令和 2（2020）年度調査と比較すると、「どこに避難したらいいかわからない」（25.3%）では、令和 2（2020）年度調査（19.6%）より 5.7 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-11-5 一人で避難できない理由



性別でみると、男性・女性いずれも「体力・身体的な理由のため」の割合が最も高くなっています。

年齢別でみると、全ての年齢階級で「体力・身体的な理由のため」の割合が最も高くなっています。

認定状況別でみると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「体力・身体的な理由のため」の割合が最も高くなっています。

図表 2-11-6 一人で避難できない理由 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	体力・身体的な理由のため	看病や介護が必要な家族がいるため	どこに避難したらいいかわからない	（遠い）避難先に行く手段がない	その他	無回答
全体		332	59.0	10.2	25.3	17.5	8.1	9.6
性別	男性	73	57.5	9.6	20.5	16.4	5.5	12.3
	女性	259	59.5	10.4	26.6	17.8	8.9	8.9
年齢別	65～69歳	35	48.6	20.0	25.7	0.0	2.9	14.3
	70～74歳	64	48.4	12.5	31.3	10.9	7.8	10.9
	75～79歳	75	64.0	10.7	24.0	12.0	5.3	9.3
	80～84歳	82	57.3	7.3	22.0	26.8	14.6	7.3
	85歳以上	76	69.7	6.6	25.0	26.3	6.6	9.2
状況別 認定	一般高齢者	265	54.0	12.5	27.5	14.3	8.3	9.8
	事業対象者・要支援認定者	67	79.1	1.5	16.4	29.9	7.5	9.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

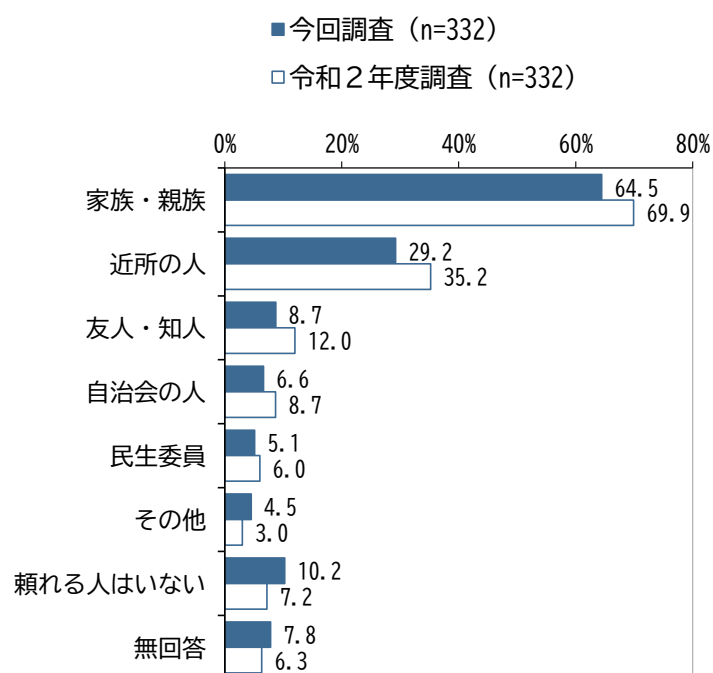
(3) 災害時や緊急時に手助けを頼める人がいるか

問 10-1 で「2」または「3」を回答された方（一人では避難できない方）のみ
問 10-1-2 災害時や火災など緊急時に避難する際、手助けを頼める人はいますか
（〇はいくつでも）

災害時や緊急時に手助けを頼める人がいるかについては、「家族・親族」が 64.5%で最も高く、次いで「近所の人」が 29.2%、「頼れる人はいない」が 10.2%と続いています。

令和 2（2020）年度調査と比較すると、「頼れる人はいない」（10.2%）では、令和 2（2020）年度調査（7.2%）より 3.0 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-11-7 災害時や緊急時に手助けを頼める人がいるか



性別でみると、男性・女性いずれも「家族・親族」の割合が最も高くなっています。
 年齢別でみると、全ての年齢階級で「家族・親族」の割合が最も高くなっています。
 認定状況別でみると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「家族・親族」の割合が最も高くなっています。

図表 2-11-8 災害時や緊急時に手助けを頼める人がいるか 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	家族・親族	近所の人	友人・知人	自治会の人	民生委員	その他	頼れる人はいない	無回答
全体		332	64.5	29.2	8.7	6.6	5.1	4.5	10.2	7.8
性別	男性	73	58.9	21.9	6.8	4.1	1.4	6.8	13.7	12.3
	女性	259	66.0	31.3	9.3	7.3	6.2	3.9	9.3	6.6
年齢別	65～69歳	35	65.7	14.3	2.9	2.9	2.9	2.9	5.7	14.3
	70～74歳	64	60.9	18.8	7.8	4.7	1.6	4.7	15.6	7.8
	75～79歳	75	72.0	40.0	10.7	9.3	8.0	2.7	8.0	6.7
	80～84歳	82	57.3	31.7	11.0	13.4	3.7	6.1	11.0	8.5
	85歳以上	76	67.1	31.6	7.9	0.0	7.9	5.3	9.2	5.3
状況別	一般高齢者	265	65.3	28.3	8.3	6.8	4.9	5.3	9.1	9.1
	事業対象者・要支援認定者	67	61.2	32.8	10.4	6.0	6.0	1.5	14.9	3.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

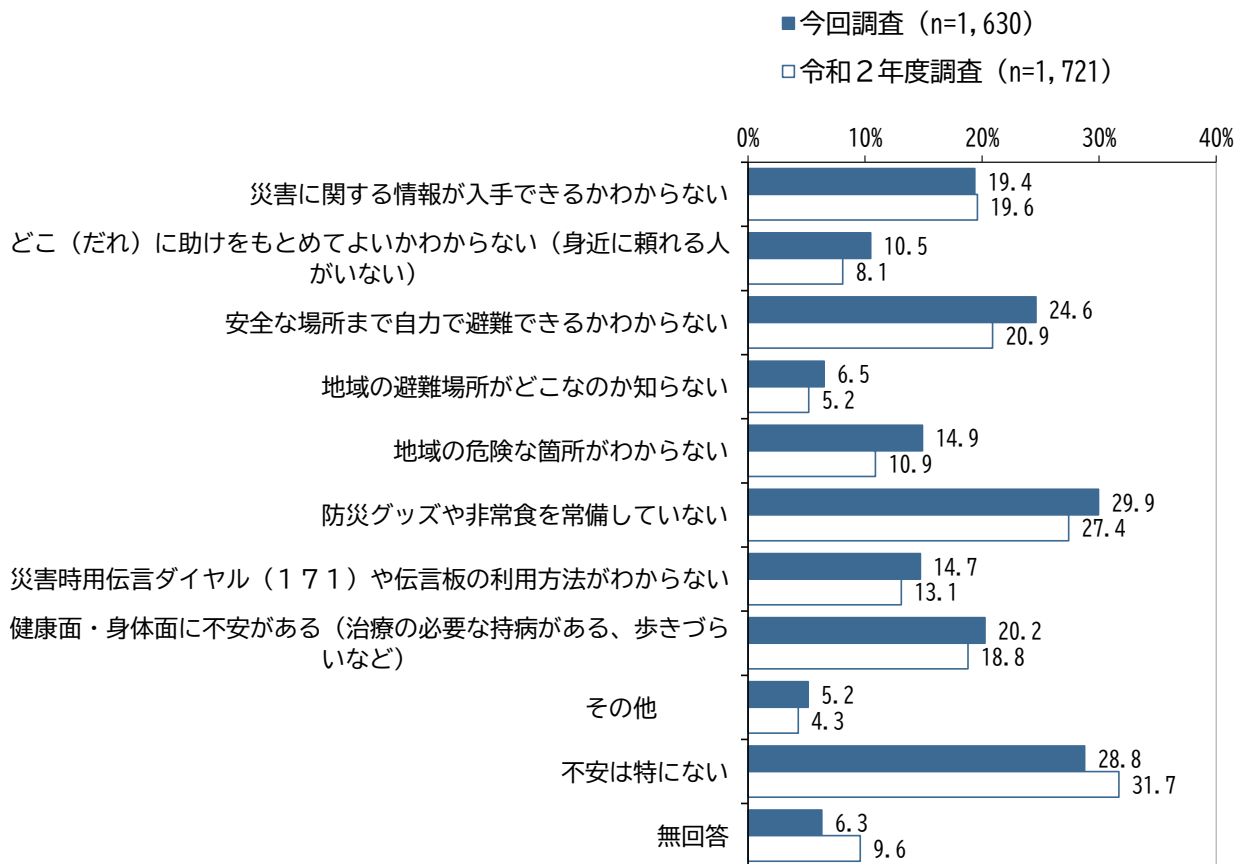
(4) 災害時に不安に思うこと

問 10-2 地震や風水害などの災害時に対し、不安に思うことはありますか (○はいくつでも)

災害時に不安に思うことについては、「防災グッズや非常食を常備していない」が29.9%で最も高く、次いで「不安は特にない」が28.8%、「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が24.6%と続いています。

令和2(2020)年度調査と比較すると、「地域の危険な箇所がわからない」(14.9%)では、令和2(2020)年度調査(10.9%)より4.0ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-11-9 災害時に不安に思うこと



性別でみると、男性では「不安は特にない」が 37.2%で最も高く、女性では「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が32.7%で最も高くなっています。

年齢別でみると、「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が43.9%で最も高くなっています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「不安は特にない」が 30.2%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「健康面・身体面に不安がある（治療の必要な持病がある、歩きづらいなど）」が57.1%で最も高くなっています。

図表 2-11-10 災害時に不安に思うこと 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	災害に 関する 情報が 入手で きる かわか らない	近 よ い か ら い な い （ 身 と 助 け を も と に し て く れ る 人 が い な い ）	安 全 な 場 所 ま で 自 力 で 避 難 で き る か わ か ら な い	地 域 の 避 難 場 所 が ど こ な の か 知 ら な い	地 域 の 危 険 な 箇 所 が わ か ら な い	防 災 グ ツ ズ や 非 常 食 を 常 備 し て い な い	災 害 時 用 伝 言 板 の 利 用 方 法 （ 7 1 ） が わ か ら な い	災 害 時 用 伝 言 板 の 利 用 方 法 （ 7 1 ） が わ か ら な い （ 身 体 面 に 不 安 が あ る 、 歩 き づ ら い な ど ）	健 康 面 ・ 身 体 面 に 不 安 が あ る （ 治 療 の 必 要 な 持 病 が あ る 、 歩 き づ ら い な ど ）	不 安 は 特 に な い	無 回 答
全体		1,630	19.4	10.5	24.6	6.5	14.9	29.9	14.7	20.2	5.2	28.8	6.3
性別	男性	717	17.3	9.6	14.2	4.7	11.7	30.7	13.1	15.3	3.1	37.2	5.3
	女性	913	21.0	11.2	32.7	7.9	17.4	29.4	16.0	24.1	6.8	22.1	7.1
年齢別	65～69歳	403	17.9	8.2	14.6	5.7	15.6	32.8	12.9	11.4	5.7	32.8	3.2
	70～74歳	510	20.2	9.6	20.0	5.1	13.5	29.8	15.5	16.7	4.5	31.6	6.5
	75～79歳	343	18.4	9.9	25.9	5.2	15.7	30.0	14.3	23.3	5.8	28.6	6.1
	80～84歳	226	20.8	15.9	38.1	9.7	12.4	29.6	15.5	27.4	5.8	20.4	10.6
	85歳以上	148	20.9	12.8	43.9	11.5	19.6	23.0	16.9	38.5	3.4	21.6	8.1
状況別	一般高齢者	1,532	18.9	9.7	22.8	6.1	14.6	30.0	14.4	17.9	5.2	30.2	5.9
	事業対象者・要支援認定者	98	26.5	22.4	53.1	13.3	20.4	28.6	20.4	57.1	4.1	7.1	12.2

※網掛け■は最も割合が高いもの

12 リスク判定

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」は、要介護状態になる前の高齢者について、要介護状態になるリスクの発生状況と、各種リスクに影響を与える日常生活の状況を把握し、地域の抱える課題を特定することを目的に実施しています。

今節では、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の調査項目を使用し、各種リスクの判定を行っています。

(1) 運動器機能の低下

下記の5設問について、3問以上該当する選択肢が回答された場合、運動器機能の低下している高齢者として判定しました。

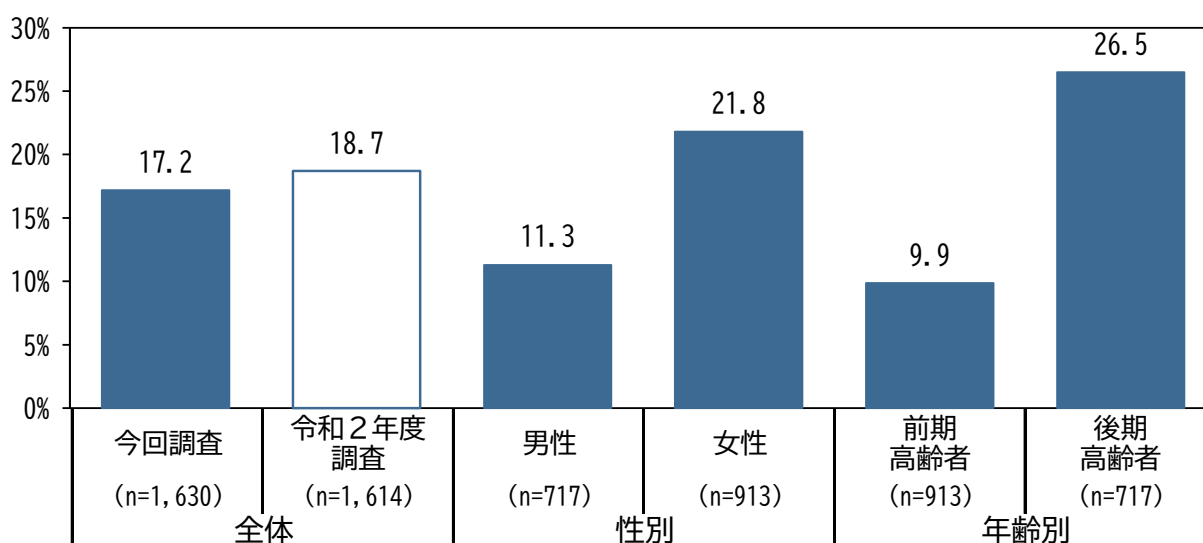
図表 2-12-1 運動器機能の低下を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問2-1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」
問2-2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」
問2-3	15分位続けて歩いていますか	「3. できない」
問2-4	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 「2. 1度ある」
問2-5	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 「2. やや不安である」

運動器機能が低下している高齢者の割合は、全体で17.2%となっています。

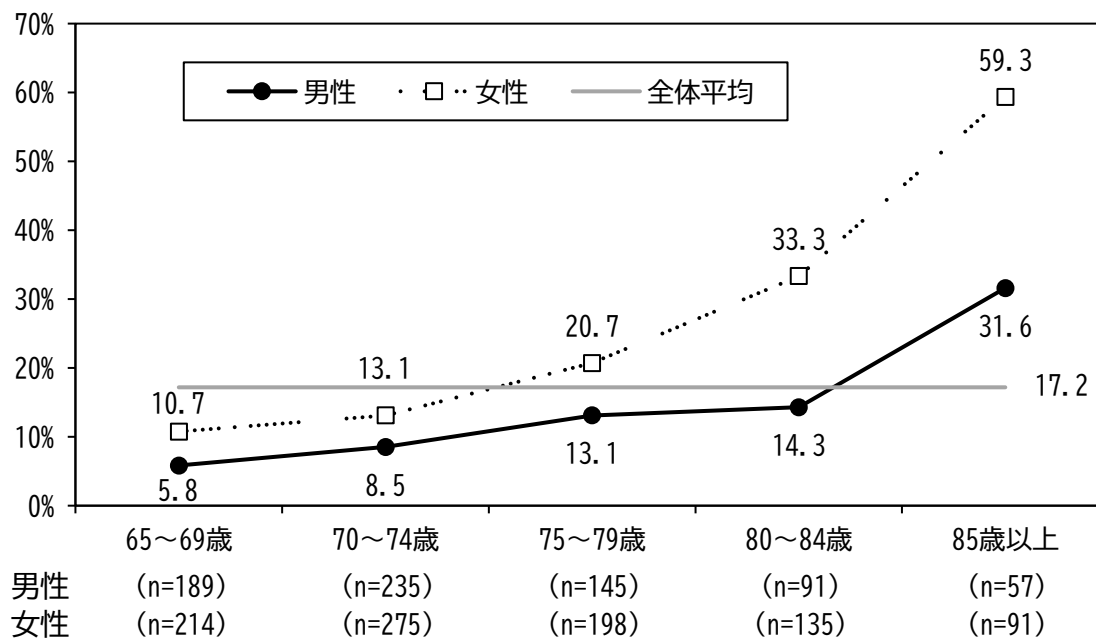
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-12-2 運動器機能の低下 該当者の割合



性別・年齢別でみると、男性・女性いずれも年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上の割合が最も高く、男性・85歳以上が31.6%、女性・85歳以上が59.3%となっています。

図表 2-12-3 運動器機能の低下 性別・年齢別



(2) 転倒リスク

下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、転倒リスクのある高齢者として判定しました。

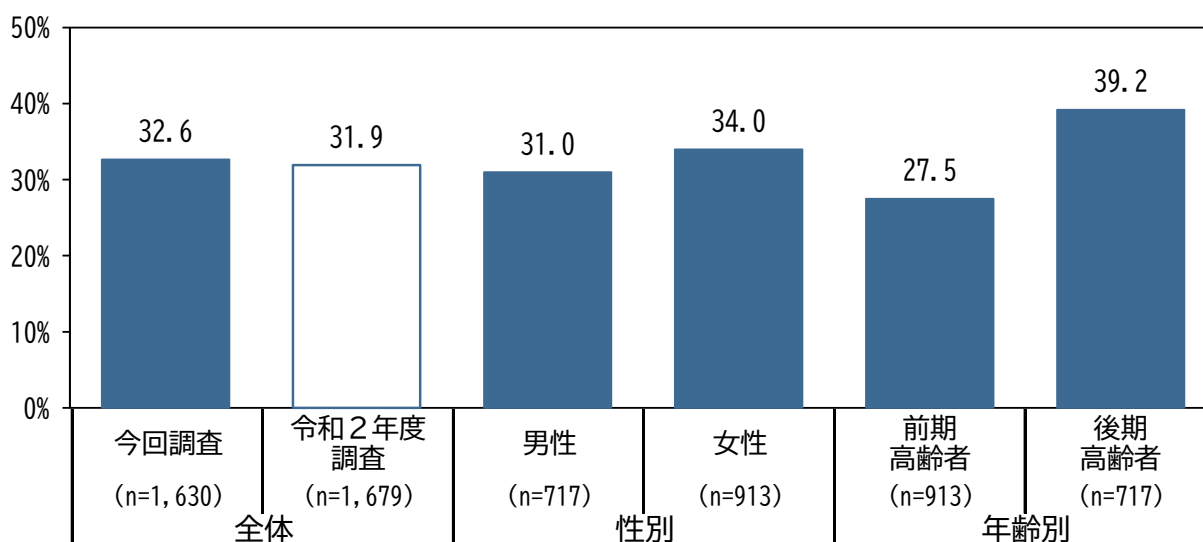
図表 2-12-4 転倒リスクを判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問2-4	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 「2. 1度ある」

転倒リスクのある高齢者の割合は、全体で32.6%となっています。

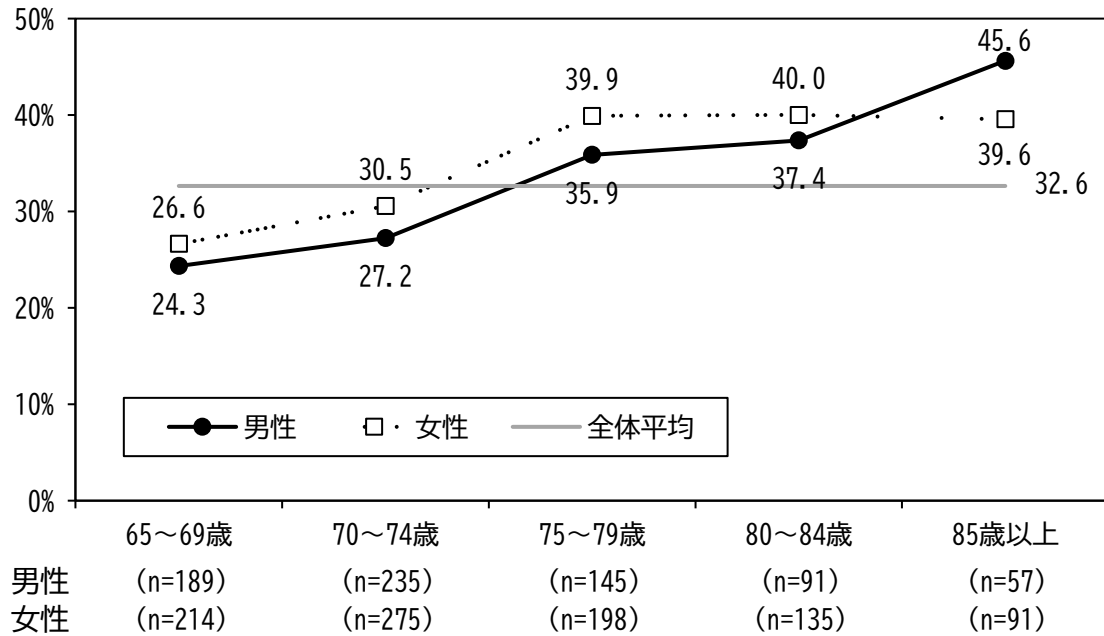
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-12-5 転倒リスクのある高齢者 該当者の割合



性別・年齢別で見ると、男性では年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が45.6%で最も高く、女性では80～84歳が40.0%で最も高くなっています。

図表 2-12-6 転倒リスクのある高齢者 性別・年齢別



(3) 閉じこもり傾向

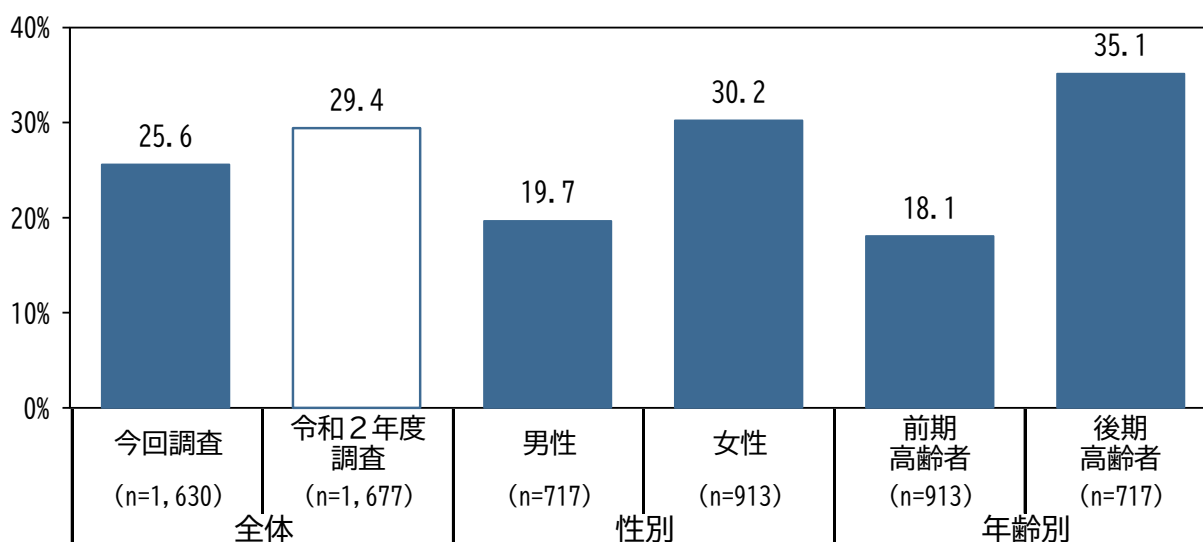
下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、閉じこもり傾向の高齢者として判定しました。

図表 2-12-7 閉じこもり傾向を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問2-6	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」 「2. 週1回」

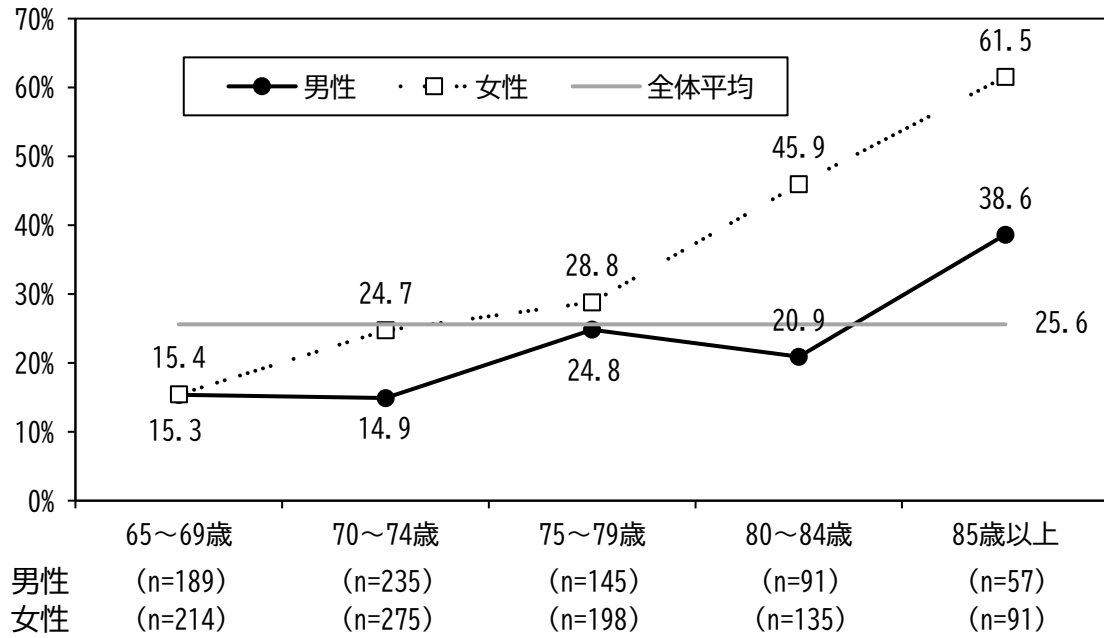
閉じこもり傾向の高齢者の割合は、全体で 25.6%となっており、令和2（2020）年度調査（29.4%）と比較すると、3.8ポイント減少しています。

図表 2-12-8 閉じこもり傾向の高齢者 該当者の割合



性別・年齢別でみると、男性では85歳以上が38.6%で最も高く、女性では、年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上が61.5%で最も高くなっています。

図表 2-12-9 閉じこもり傾向の高齢者 性別・年齢別



(4) 低栄養状態

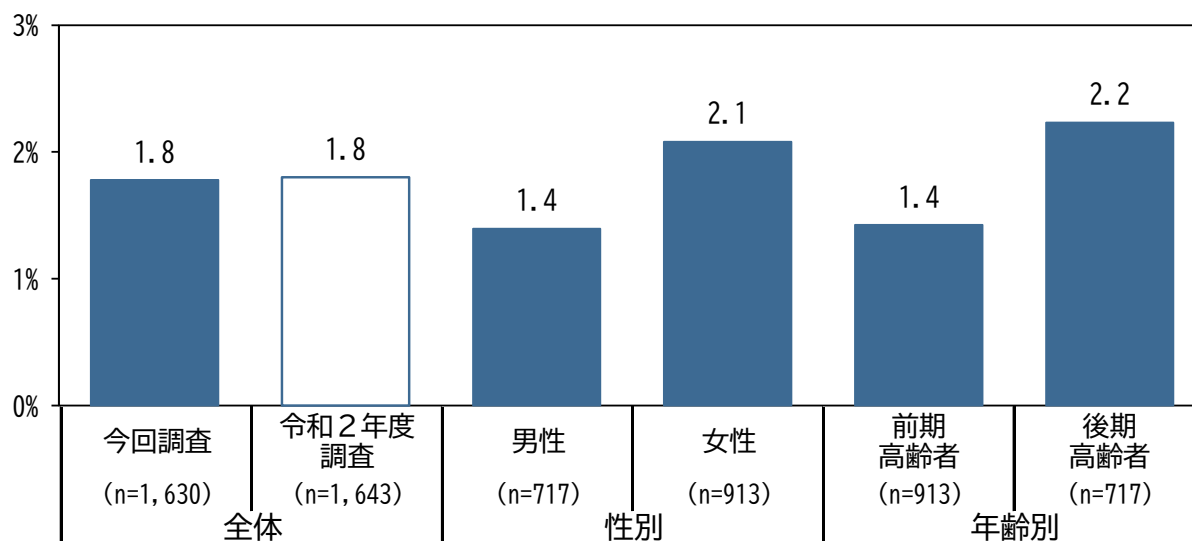
下記の2設問について、2設問ともに該当した場合、低栄養状態の高齢者として判定しました。

図表 2-12-10 低栄養状態を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問3-1	身長・体重	身長・体重から算出される BMI (体重 (kg) ÷ {身長 (m) × 身長 (m)}) が 18.5 未満
問3-8	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」

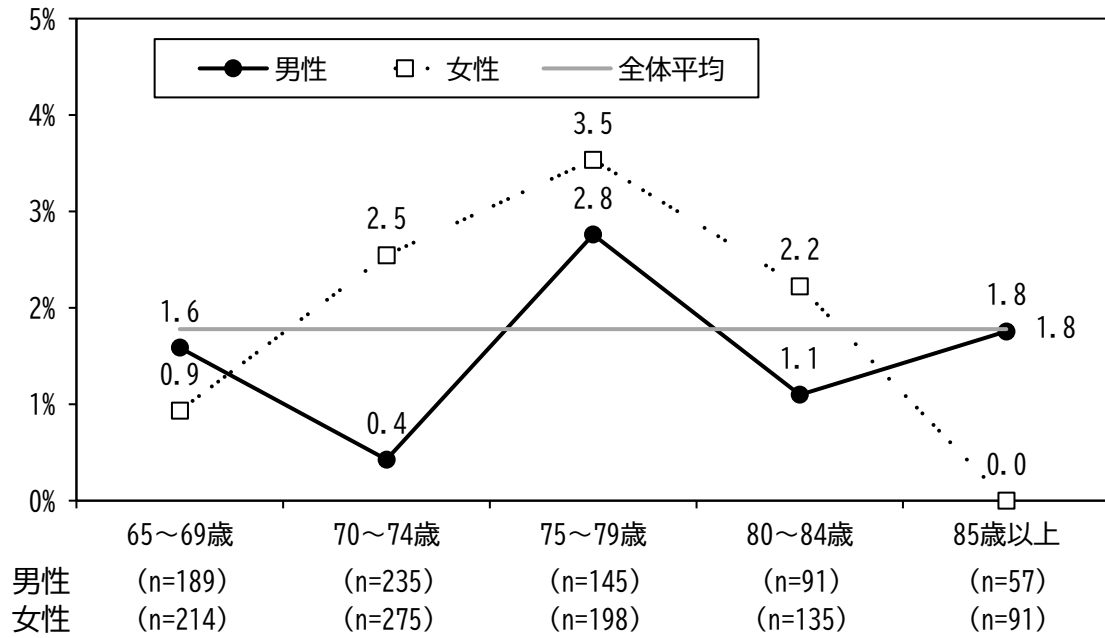
低栄養状態にある高齢者の割合は、全体で1.8%となっています。
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-12-11 低栄養状態 該当者の割合



性別・年齢別でみると、男性・女性いずれも 75～79 歳の割合が最も高く、男性・75～79 歳が 2.8%、女性・75～79 歳が 3.5%となっています。

図表 2-12-12 低栄養状態 性別・年齢別



(5) 口腔機能の低下

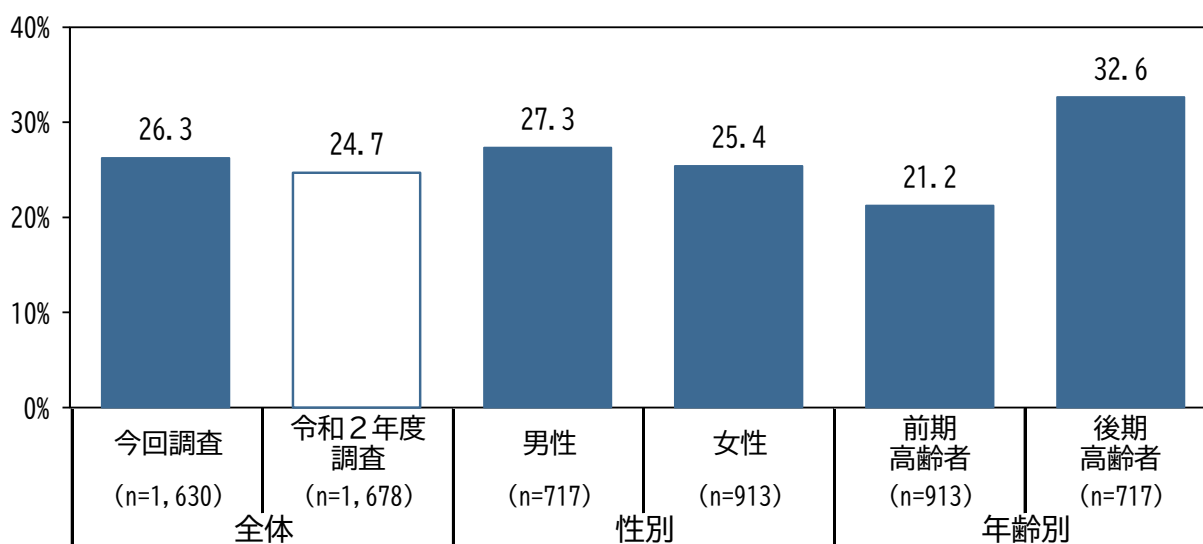
下記の3設問について、2問以上該当する選択肢が回答された場合、口腔機能が低下している高齢者として判定しました。

図表 2-12-13 口腔機能の低下を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問3-2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問3-3	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問3-4	口の渇きが気になりますか	「1. はい」

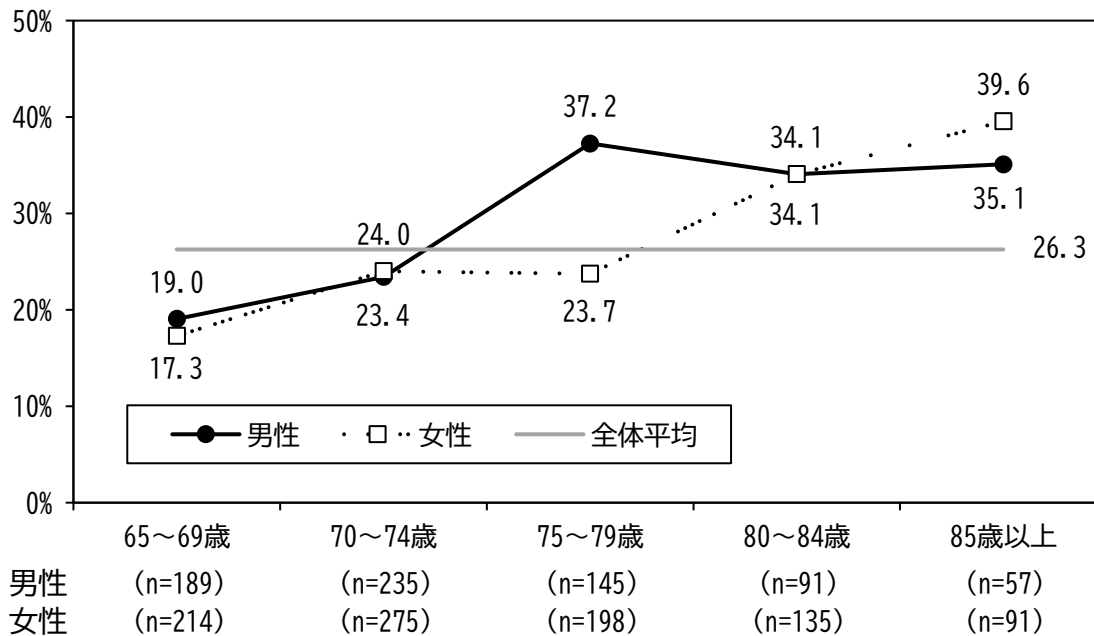
口腔機能が低下している高齢者の割合は、全体で 26.3%となっています。
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-12-14 口腔機能の低下 該当者の割合



性別・年齢別で見ると、男性では75～79歳が37.2%で最も高く、女性では85歳以上が39.6%で最も高くなっています。

図表 2-12-15 口腔機能の低下 性別・年齢別



(6) 認知機能の低下

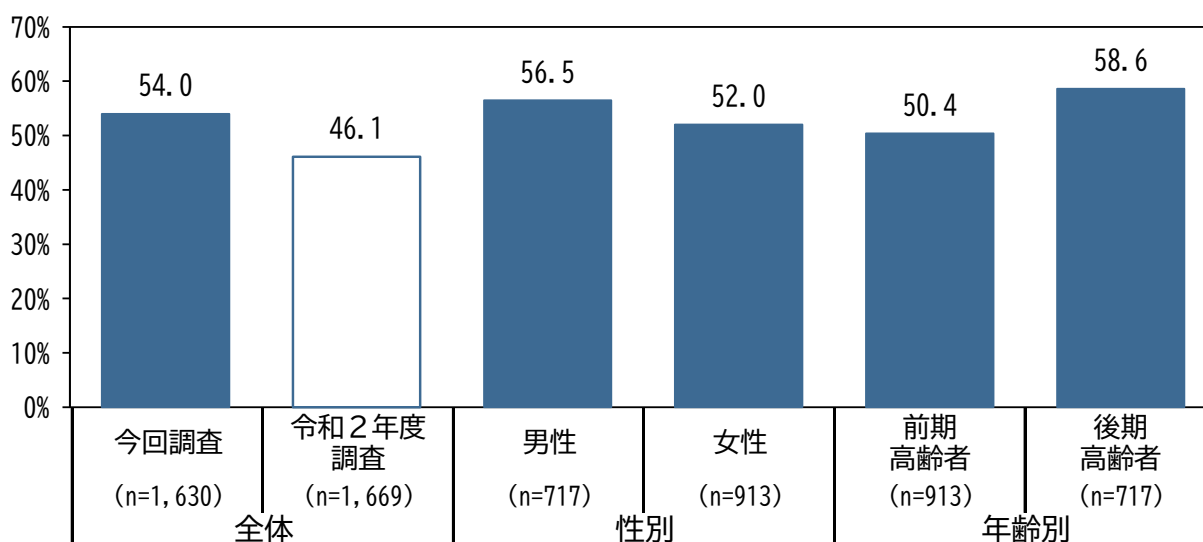
下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、認知機能が低下している高齢者として判定しました。

図表 2-12-16 認知機能の低下を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問4-1	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」
問4-2	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問4-3	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」

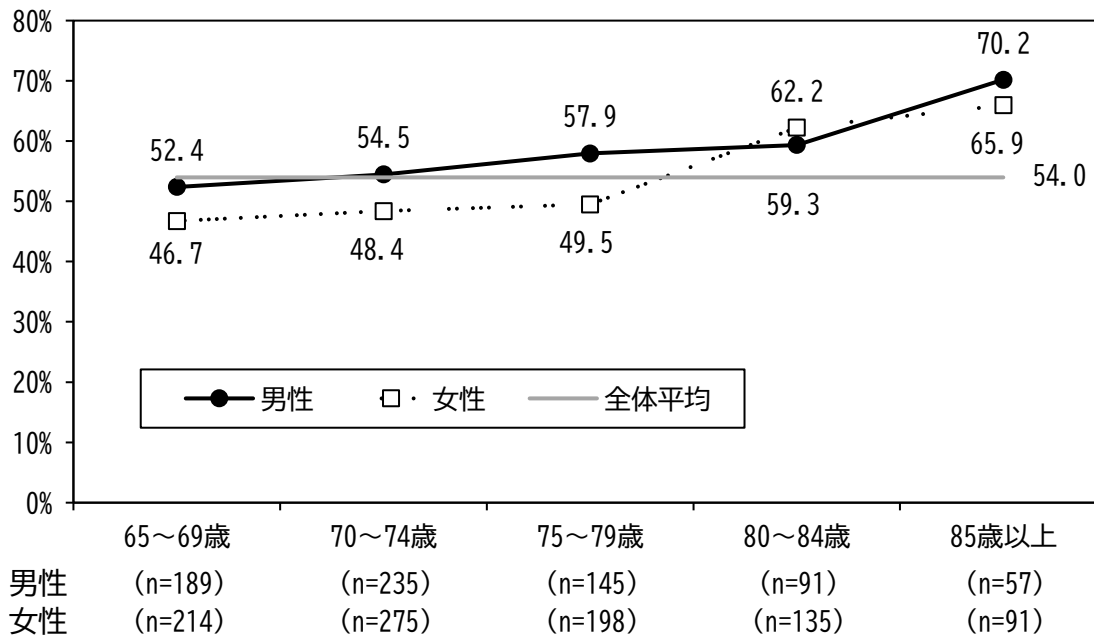
認知機能が低下している高齢者の割合は、全体で 54.0%となっており、令和2（2020）年度調査（46.1%）と比較すると、7.9ポイント増加しています。

図表 2-12-17 認知機能の低下 該当者の割合



性別・年齢別でみると、男性・女性いずれも年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85歳以上の割合が最も高く、男性・85歳以上が70.2%、女性・85歳以上が65.9%となっています。

図表 2-12-18 認知機能の低下 性別・年齢別



(7) うつ傾向

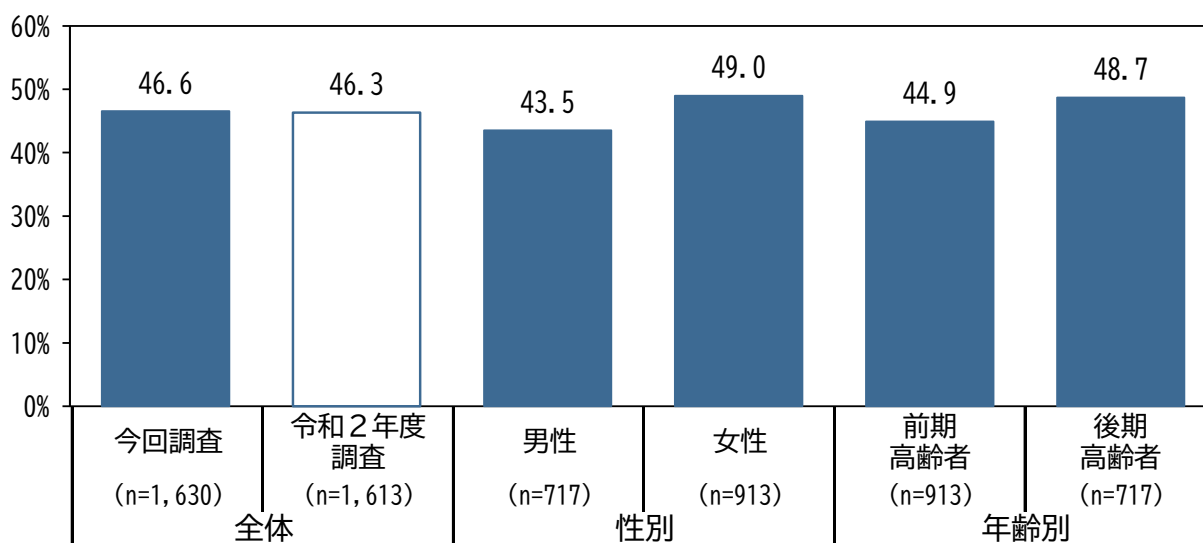
下記の2設問について、いずれか1つでも該当する選択肢が回答された場合、うつ傾向の高齢者として判定しました。

図表 2-12-19 うつ傾向を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問7-3	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
問7-4	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

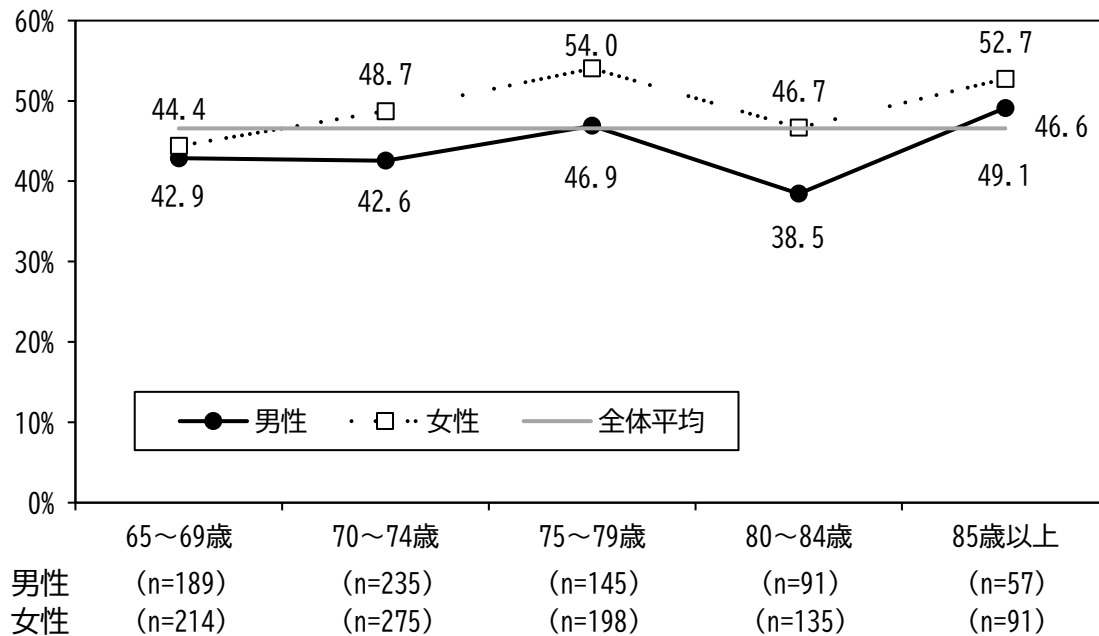
うつ傾向の高齢者の割合は、全体で46.6%となっています。
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-12-20 うつ傾向 該当者の割合



性別・年齢別でみると、男性では85歳以上が49.1%で最も高く、女性では75～79歳が54.0%で最も高くなっています。

図表 2-12-21 うつ傾向 性別・年齢別



(8) IADLの低下

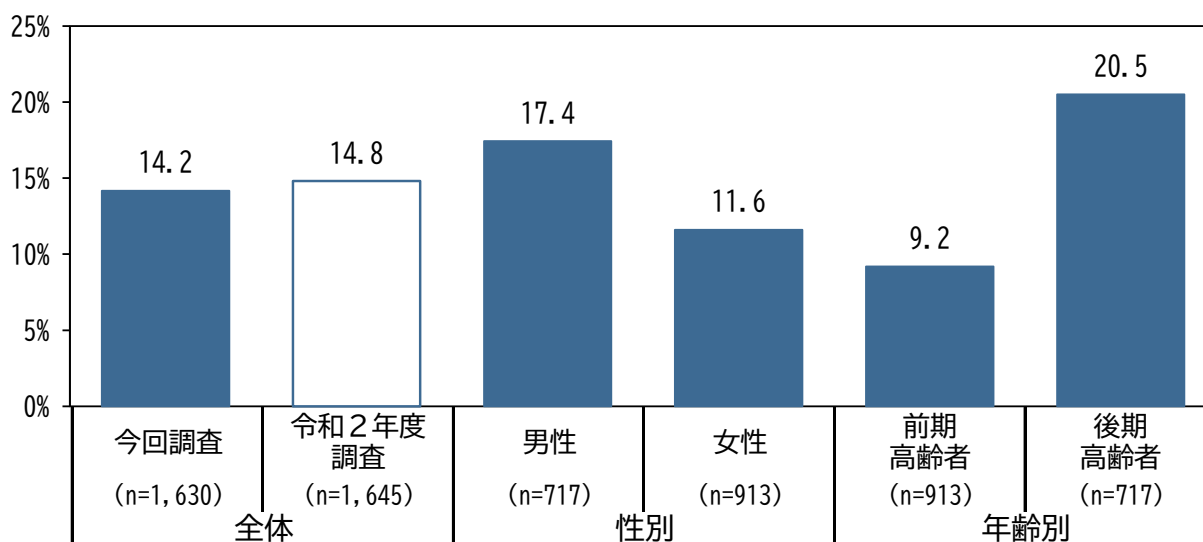
老研式活動能力指標に基づき、下記の5設問について、該当する選択肢を回答した場合を1点として、5点満点で評価し、4点以下の場合、IADL（手段的自立度）が低下している高齢者として判定しました。

図表 2-12-22 IADLの低下を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問4-4	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4-5	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4-6	自分で食事の用意をしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4-7	自分で請求書の支払いをしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4-8	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」

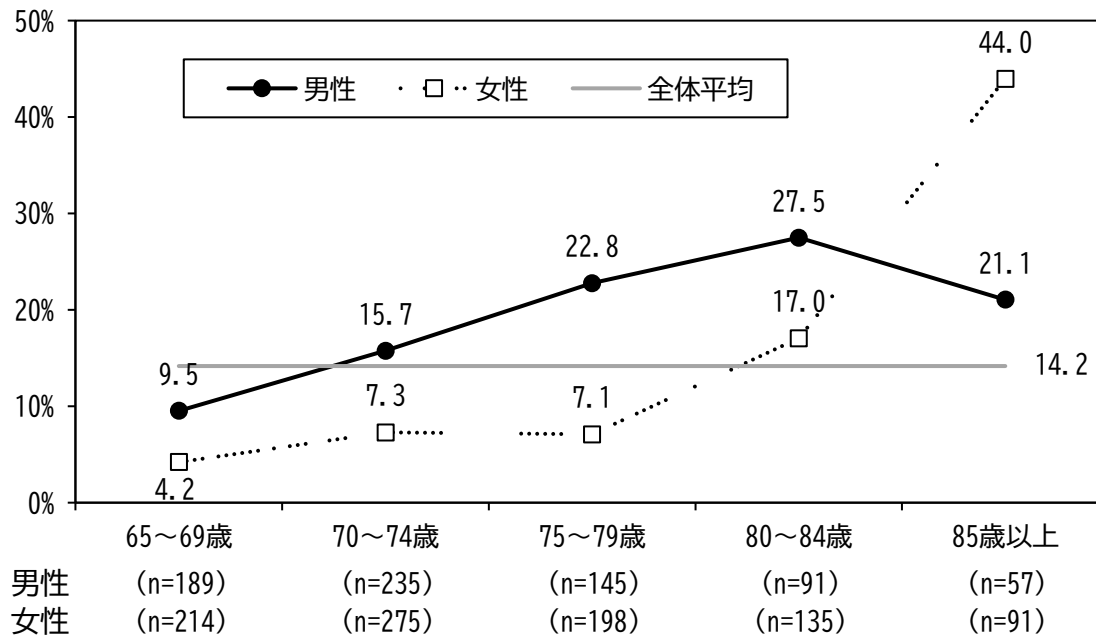
IADLが低下している高齢者の割合は、全体で14.2%となっています。
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-12-23 IADLの低下 該当者の割合



性別・年齢別でみると、男性では80～84歳が27.5%で最も高く、女性では85歳以上が44.0%で最も高くなっています。

図表 2-12-24 IADLの低下 性別・年齢別



(9) 知的能動性の低下

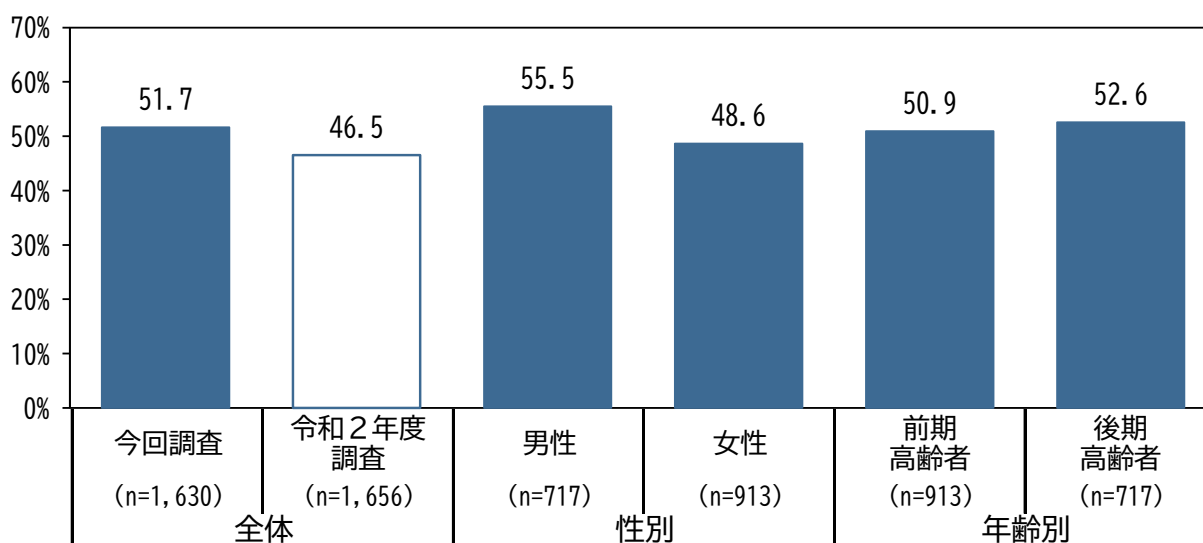
老研式活動能力指標に基づき、下記の4設問について、該当する選択肢が回答された場合を1点として、4点満点で評価し、3点以下の場合、知的能動性が低下している高齢者として判定しました。

図表 2-12-25 知的能動性の低下を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問4-9	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「1. はい」
問4-10	新聞を読んでいますか	「1. はい」
問4-11	本や雑誌を読んでいますか	「1. はい」
問4-12	健康についての記事や番組に関心がありますか	「1. はい」

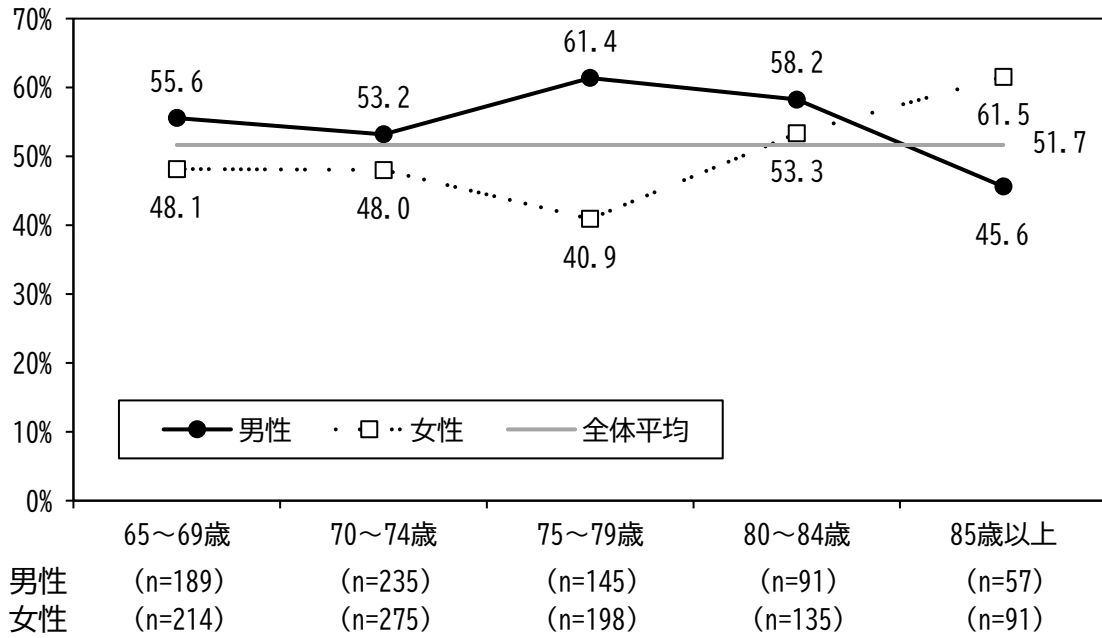
知的能動性が低下している高齢者の割合は、全体で 51.7%となっており、令和2（2020）年度調査（46.5%）と比較すると、5.2ポイント増加しています。

図表 2-12-26 知的能動性の低下 該当者の割合



性別・年齢別でみると、男性は75～79歳が61.4%で最も高く、女性は85歳以上が61.5%で最も高くなっています。

図表 2-12-27 知的能動性の低下 性別・年齢別



(10) 社会的役割の低下

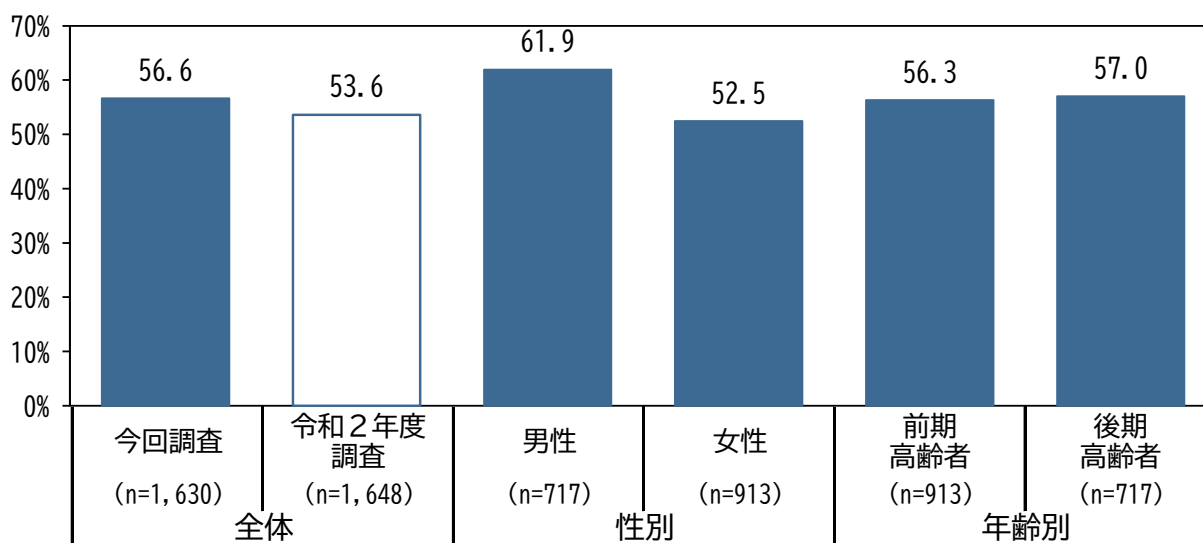
老研式活動能力指標に基づき、下記の4設問について、該当する選択肢が回答された場合を1点として、4点満点で評価し、3点以下の場合、社会的役割が低下している高齢者として判定しました。

図表 2-12-28 社会的役割の低下を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問4-13	友人の家を訪ねていますか	「1. はい」
問4-14	家族や友人の相談にのっていますか	「1. はい」
問4-15	病人を見舞うことができますか	「1. はい」
問4-16	若い人に自分から話しかけることがありますか	「1. はい」

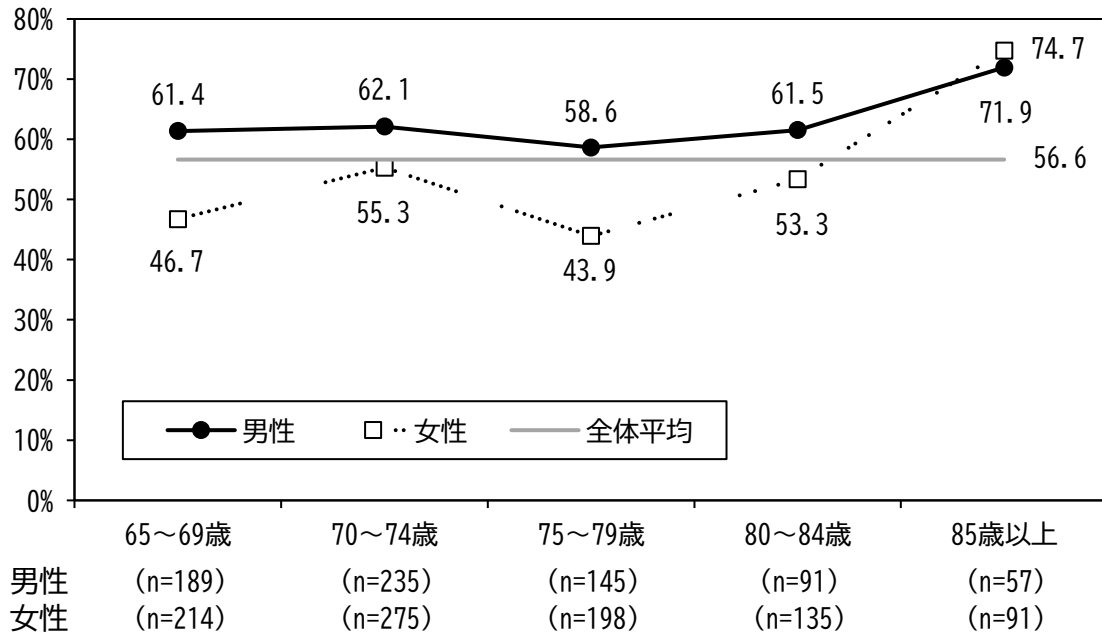
社会的役割が低下している高齢者の割合は、全体で 56.6%となっており、令和2（2020）年度調査（53.6%）と比較すると、3.0ポイント増加しています。

図表 2-12-29 社会的役割の低下 該当者の割合



性別・年齢別でみると、男性・女性いずれも 85 歳以上の割合が最も高く、男性・85 歳以上が 71.9%、女性・85 歳以上が 74.7%となっています。

図表 2-12-30 社会的役割の低下 性別・年齢別



(11) 生活機能全般の低下

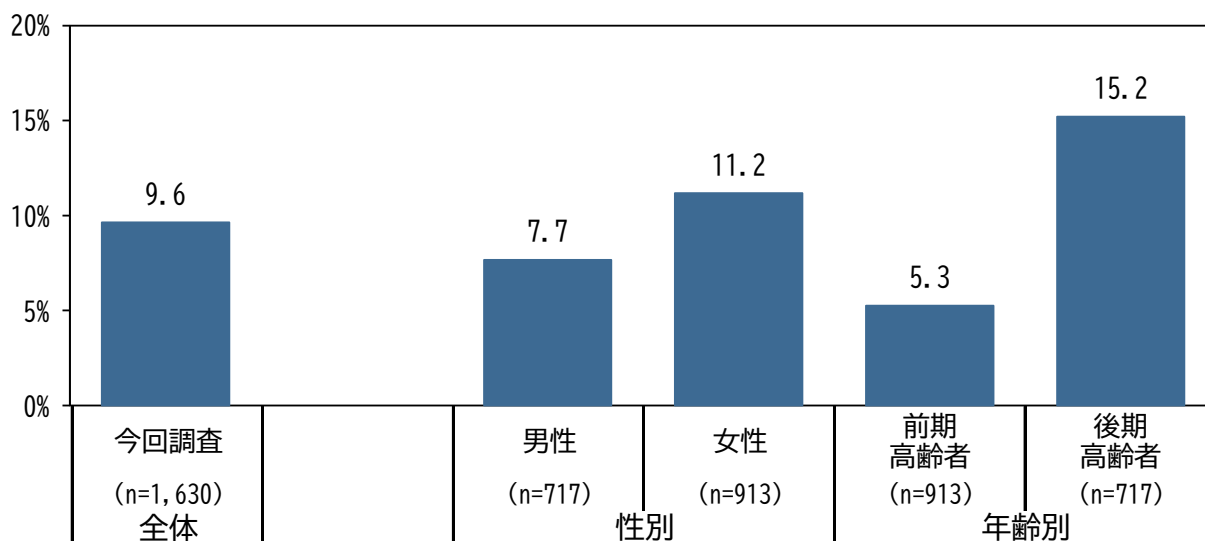
下記の 20 設問について、各設問に該当する選択肢を回答した場合を 1 点として、20 点満点で評価し、10 点以上の場合、生活機能全般が低下している高齢者として判定しました。

図表 2-12-31 生活機能全般の低下を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問 2-1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」
問 2-2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」
問 2-3	15 分位続けて歩いていますか	「3. できない」
問 2-4	過去 1 年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 「2. 1 度ある」
問 2-5	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 「2. やや不安である」
問 2-6	週に 1 回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」 「2. 週 1 回」
問 2-7	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」 「2. 減っている」
問 3-1	身長・体重	身長・体重から算出される BMI (体重 (kg) ÷ {身長 (m) × 身長 (m)}) が 18.5 未満
問 3-2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問 3-3	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問 3-4	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
問 3-8	6 か月間で 2～3 kg 以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
問 4-1	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」
問 4-2	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問 4-3	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」
問 4-4	バスや電車を使って 1 人で外出していますか (自家用車でも可)	「3. できない」
問 4-5	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「3. できない」
問 4-8	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「3. できない」
問 4-13	友人の家を訪ねていますか	「2. いいえ」
問 4-14	家族や友人の相談にのっていますか	「2. いいえ」

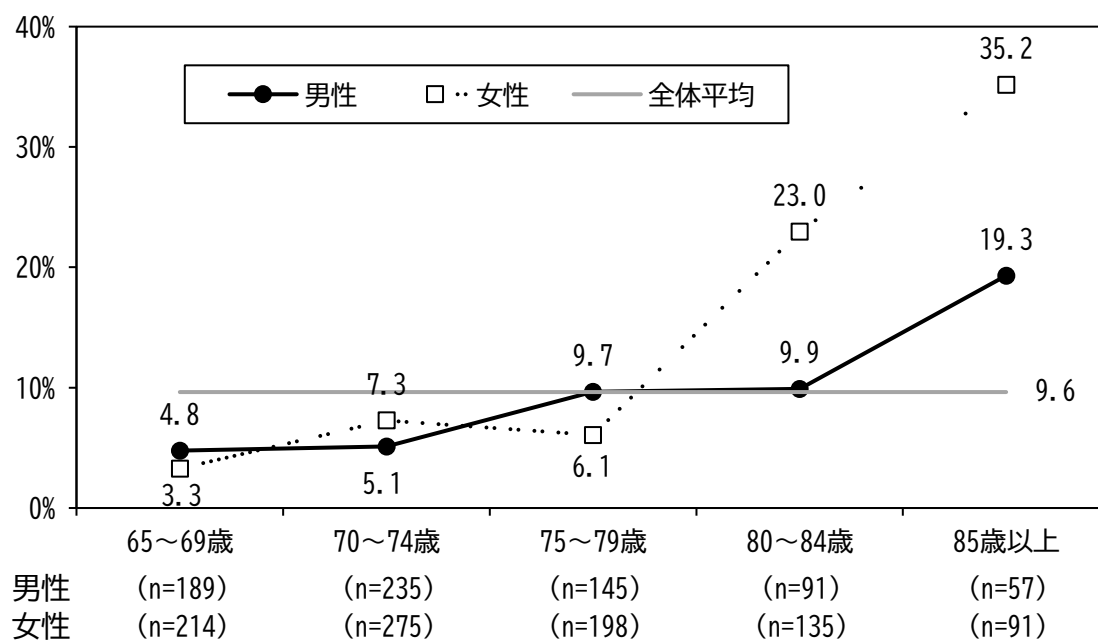
生活機能全般が低下している高齢者の割合は、全体で 9.6%となっています。

図表 2-12-32 生活機能全般の低下 該当者の割合



性別・年齢別で見ると、男性・女性いずれも 85 歳以上の割合が最も高く、男性・85 歳以上が 19.3%、女性・85 歳以上が 35.2%となっています。

図表 2-12-33 生活機能全般の低下 性別・年齢別

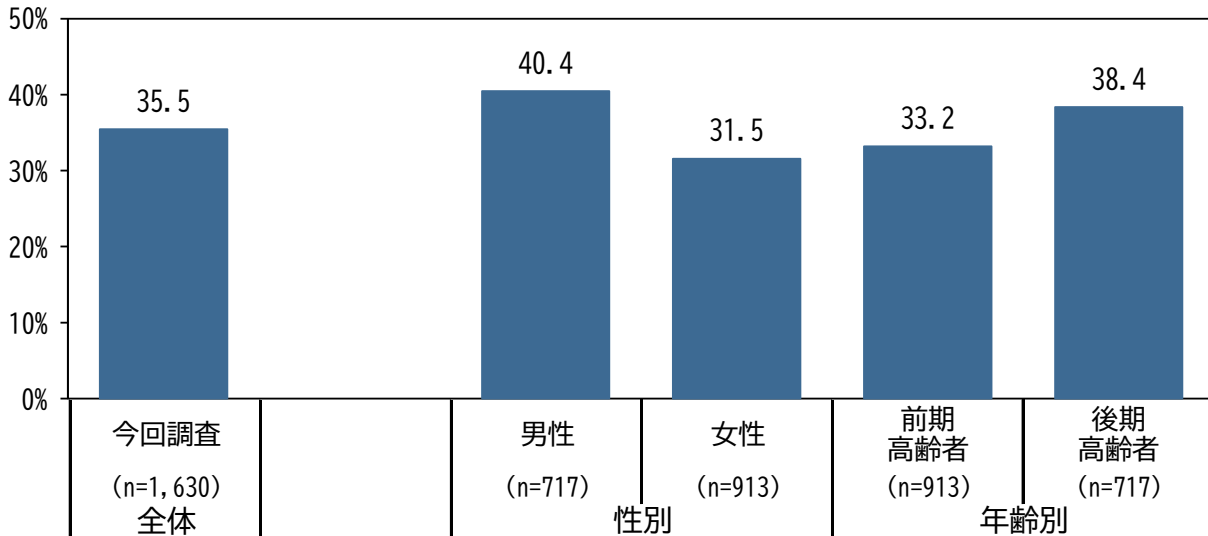


(12) 生活機能総合評価の低下者

I ADL（手段的自立度）に知的能動性、社会的役割を加えた老研式活動能力指標 13 項目で、13 点満点で評価し、11 点以上を「高い」、9・10 点を「やや高い」、8 点以下を「低い」とし、10 点以下を「低下者」として判定しました。

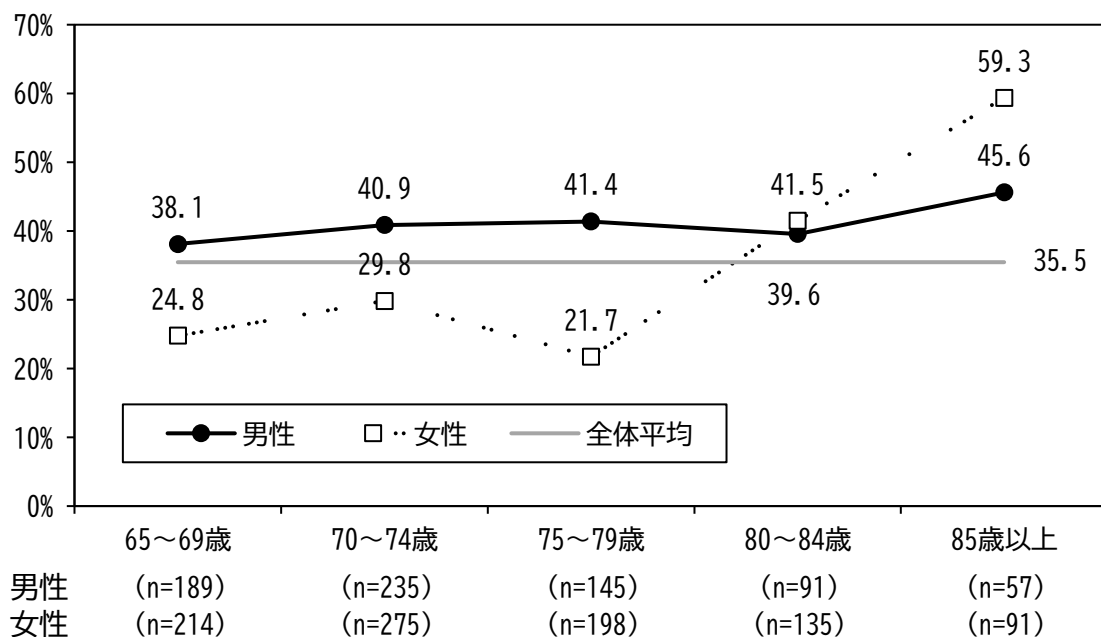
生活機能総合評価で低下者と判定された高齢者の割合は、全体で 35.5%となっています。

図表 2-12-34 生活機能総合評価の低下者 該当者の割合



性別・年齢別で見ると、男性・女性いずれも 85 歳以上の割合が最も高く、男性・85 歳以上が 45.6%、女性・85 歳以上が 59.3%となっています。

図表 2-12-35 生活機能総合評価の低下者 性別・年齢別

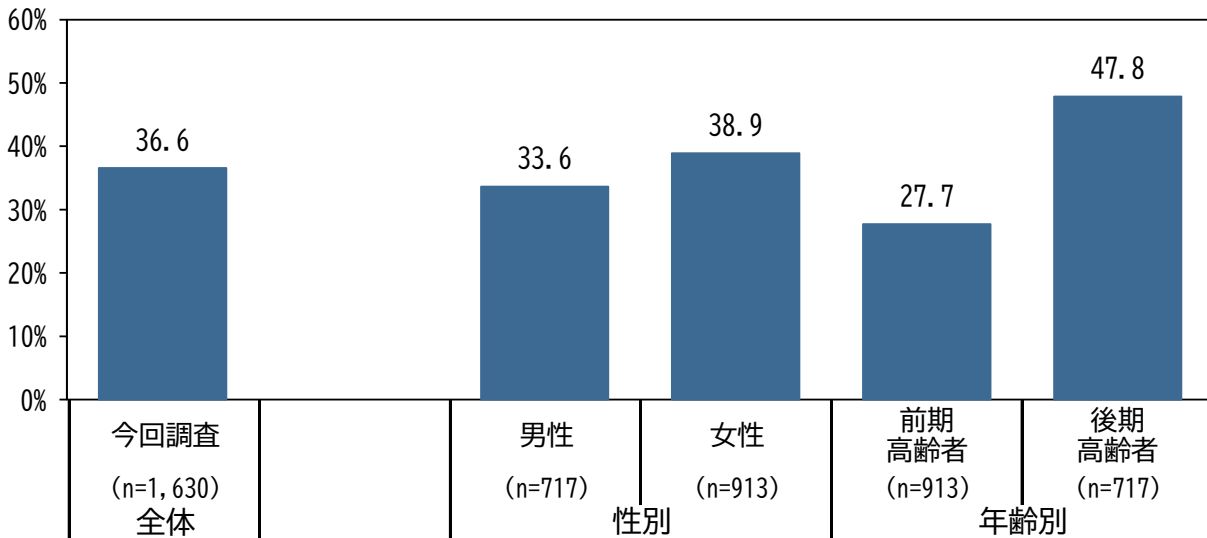


(13) 事業対象者

運動器機能の低下、低栄養状態、口腔機能の低下、生活機能全般の低下のいずれかに該当している場合、事業対象者として判定しました。

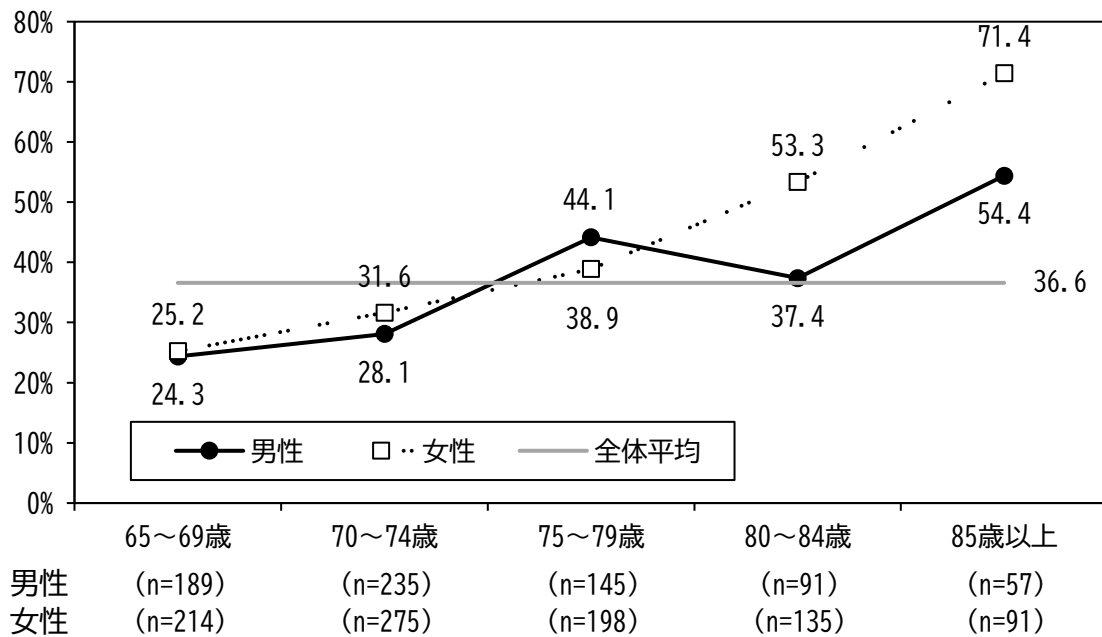
事業対象者と判定された高齢者の割合は、全体で 36.6%となっています。

図表 2-12-36 事業対象者 該当者の割合



性別・年齢別でみると、男性・女性いずれも 85 歳以上の割合が最も高く、男性・85 歳以上が 54.4%、女性・85 歳以上が 71.4%となっています。

図表 2-12-37 事業対象者 性別・年齢別



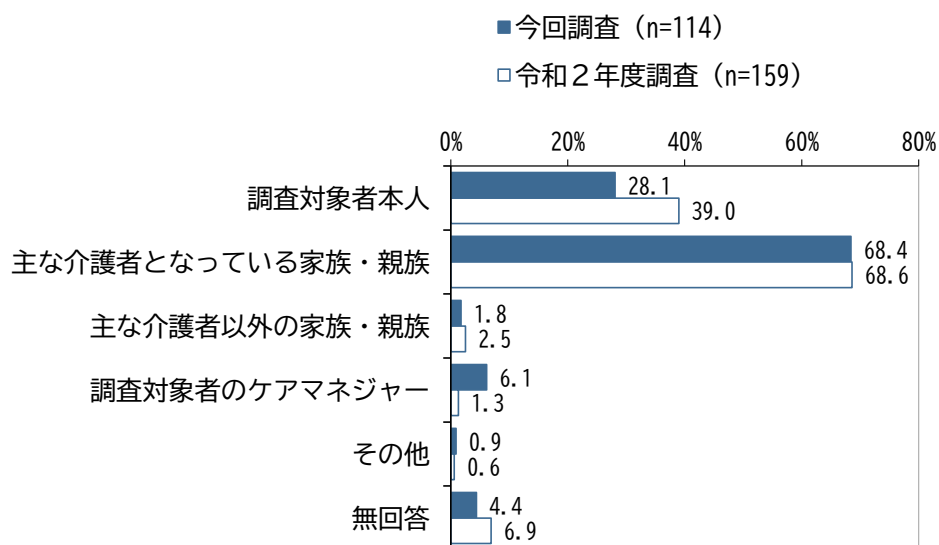
第3章 在宅介護実態調査

1 単純集計結果

(1) 聞き取りを行った相手

「主な介護者となっている家族・親族」が68.4%で最も高く、次いで「調査対象者本人」が28.1%、「調査対象者のケアマネジャー」が6.1%と続いています。

図表 3-1-1 聞き取りを行った相手



(2) 基本調査項目 (A票)

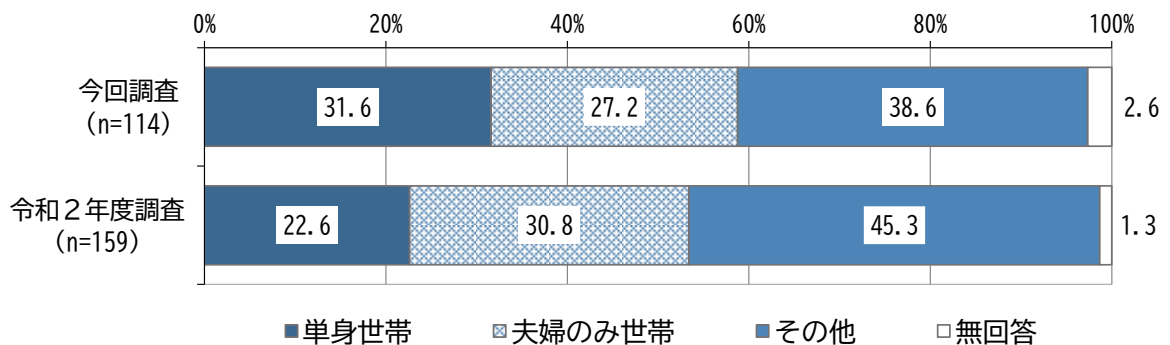
① 世帯類型

問1 世帯類型について、ご回答ください(1つを選択)

「その他」が38.6%で最も高く、次いで「単身世帯」が31.6%、「夫婦のみ世帯」が27.2%となっています。

令和2(2020)年度調査と比較すると、「単身世帯」(31.6%)では、令和2(2020)年度調査(22.6%)より9.0ポイント増加しています。

図表 3-1-2 世帯類型



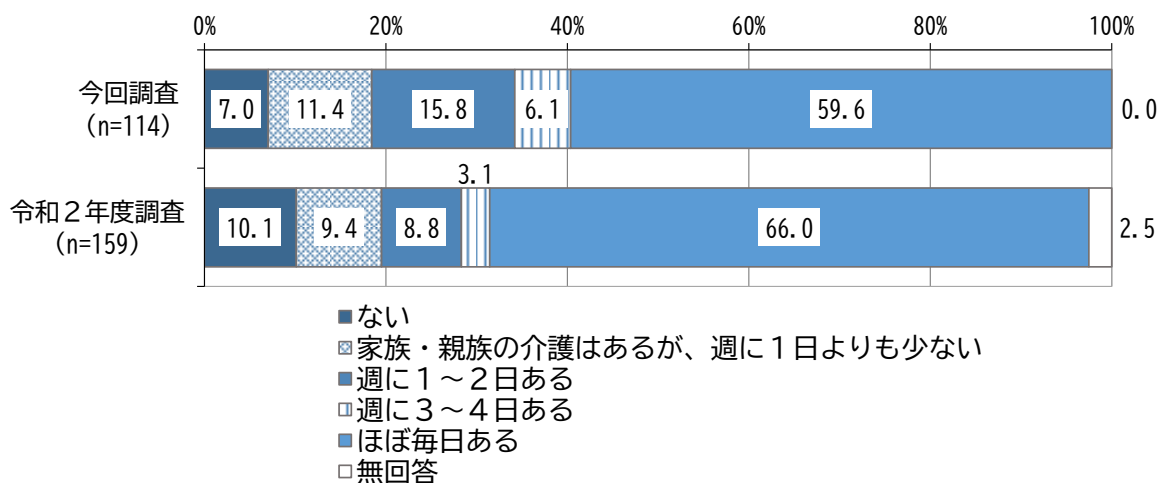
② 家族等による介護の頻度

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)

「ほぼ毎日ある」が59.6%で最も高く、次いで「週に1~2日ある」が15.8%、「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」が11.4%と続いています。

令和2(2020)年度調査と比較すると、「ほぼ毎日ある」(59.6%)では、令和2(2020)年度調査(66.0%)より6.4ポイント減少しています。

図表 3-1-3 家族等による介護の頻度

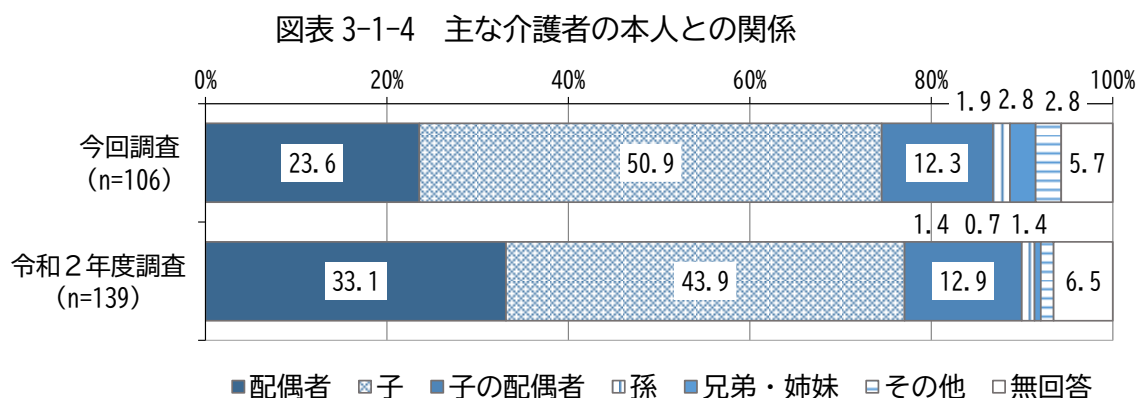


③ 主な介護者の本人との関係

問3 主な介護者の方は、どなたですか（1つを選択）

「子」が50.9%で最も高く、次いで「配偶者」が23.6%、「子の配偶者」が12.3%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「配偶者」（23.6%）では、令和2（2020）年度調査（33.1%）より9.5ポイント減少しています。

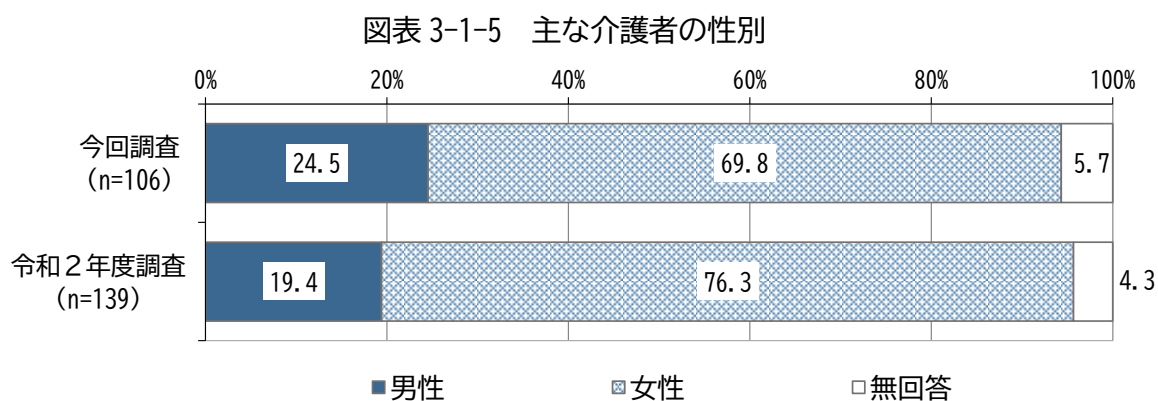


④ 主な介護者の性別

問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください（1つを選択）

「男性」が24.5%、「女性」が69.8%となっています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「男性」（24.5%）では、令和2（2020）年度調査（19.4%）より5.1ポイント増加しています。

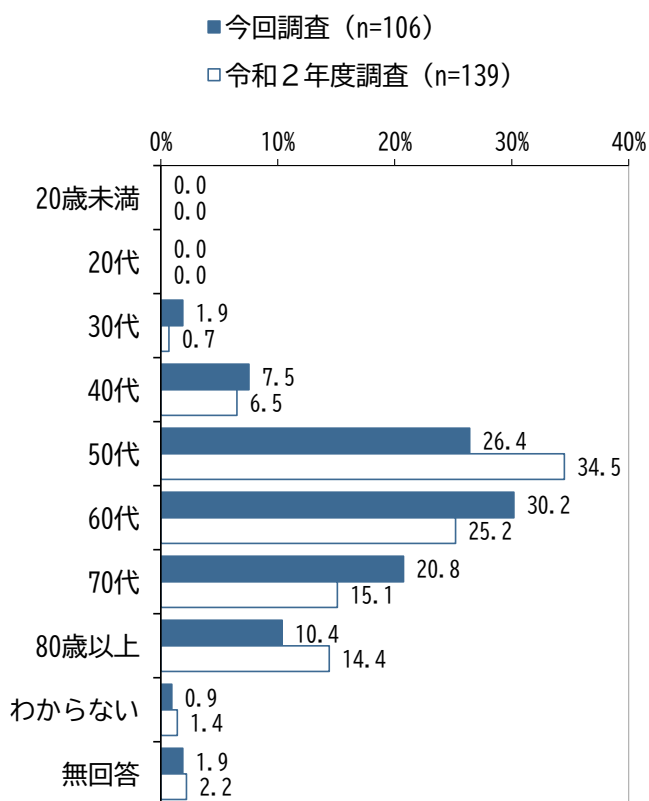


⑤ 主な介護者の年齢

問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（1つを選択）

「60代」が30.2%で最も高く、次いで「50代」が26.4%、「70代」が20.8%と続いています。令和2（2020）年度調査と比較すると、「70代」（20.8%）では、令和2（2020）年度調査（15.1%）より5.7ポイント増加しています。

図表 3-1-6 主な介護者の年齢



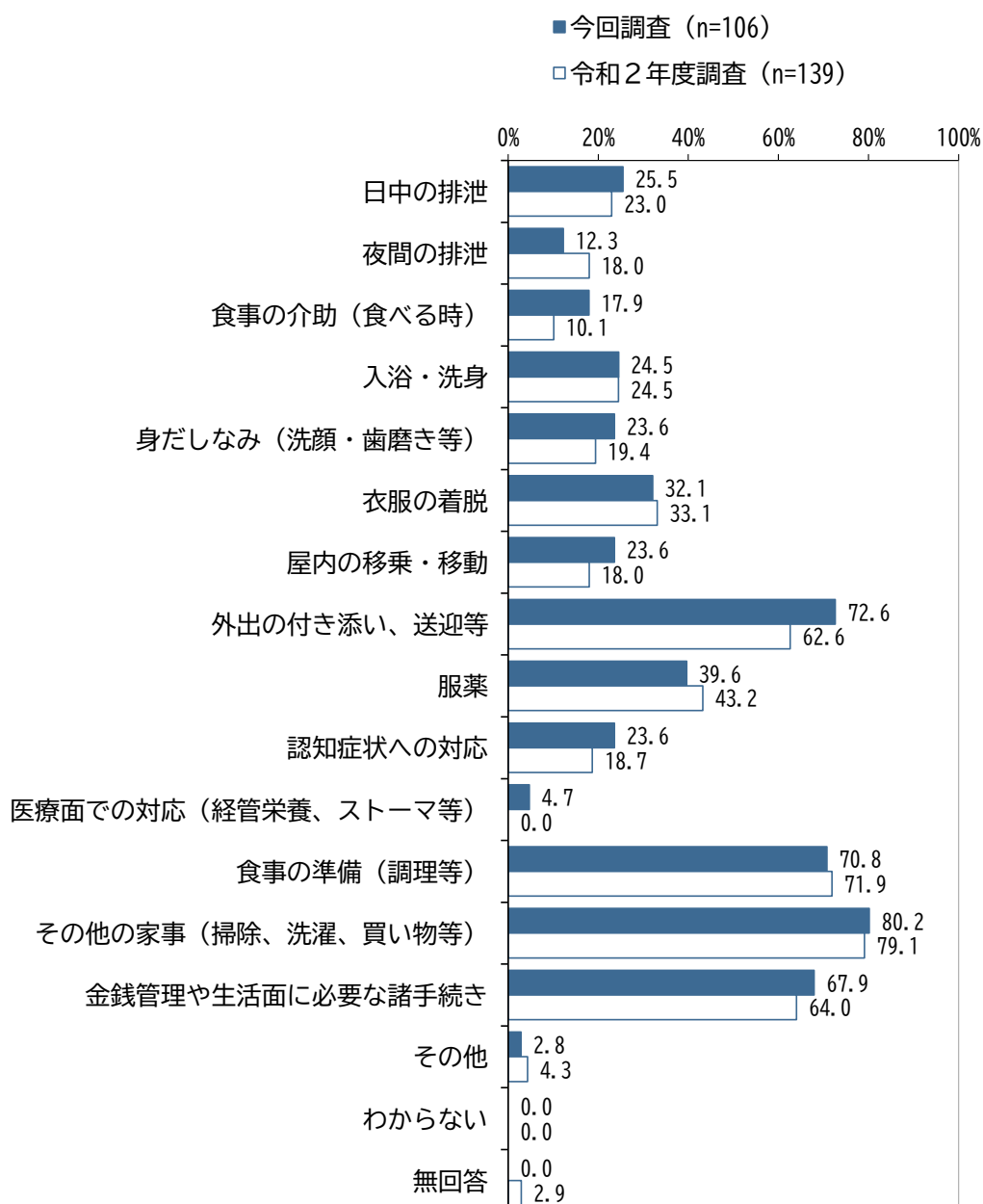
⑥ 主な介護者が行っている介護

問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（複数選択可）

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が80.2%で最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が72.6%、「食事の準備（調理等）」が70.8%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「外出の付き添い、送迎等」（72.6%）では、令和2（2020）年度調査（62.6%）より10.0ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-1-7 主な介護者が行っている介護



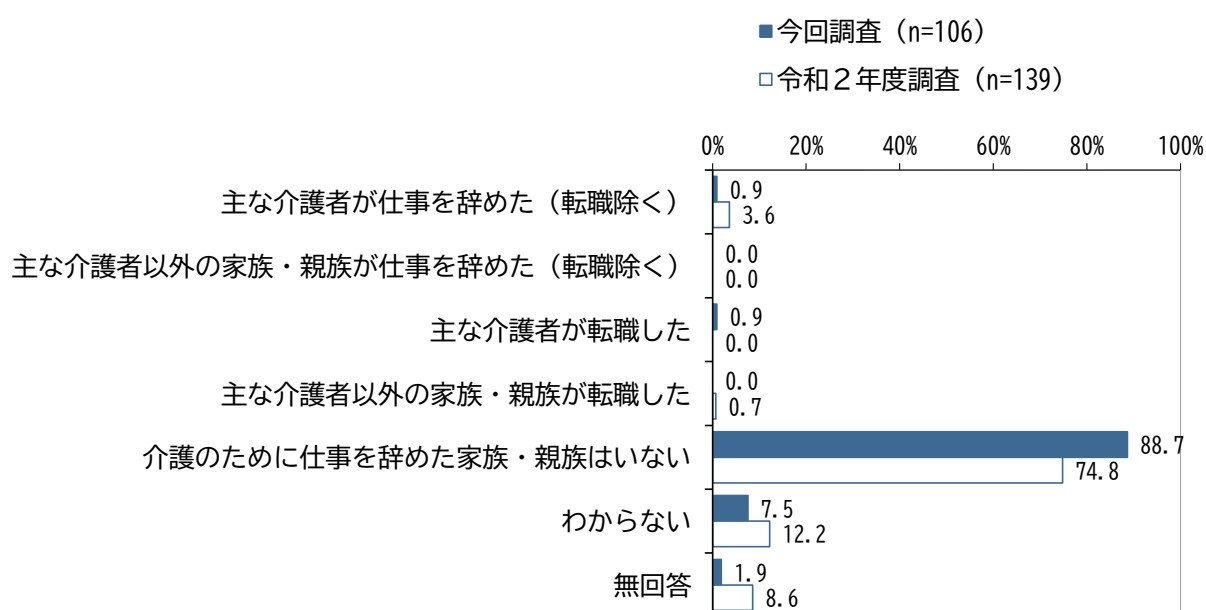
⑦ 介護のための離職の有無

問7 ご家族やご親族の中で、ご本人（要介護認定を受けている方）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が88.7%で最も高く、次いで「わからない」が7.5%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」（88.7%）では、令和2（2020）年度調査（74.8%）より13.9ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-1-8 介護のための離職の有無



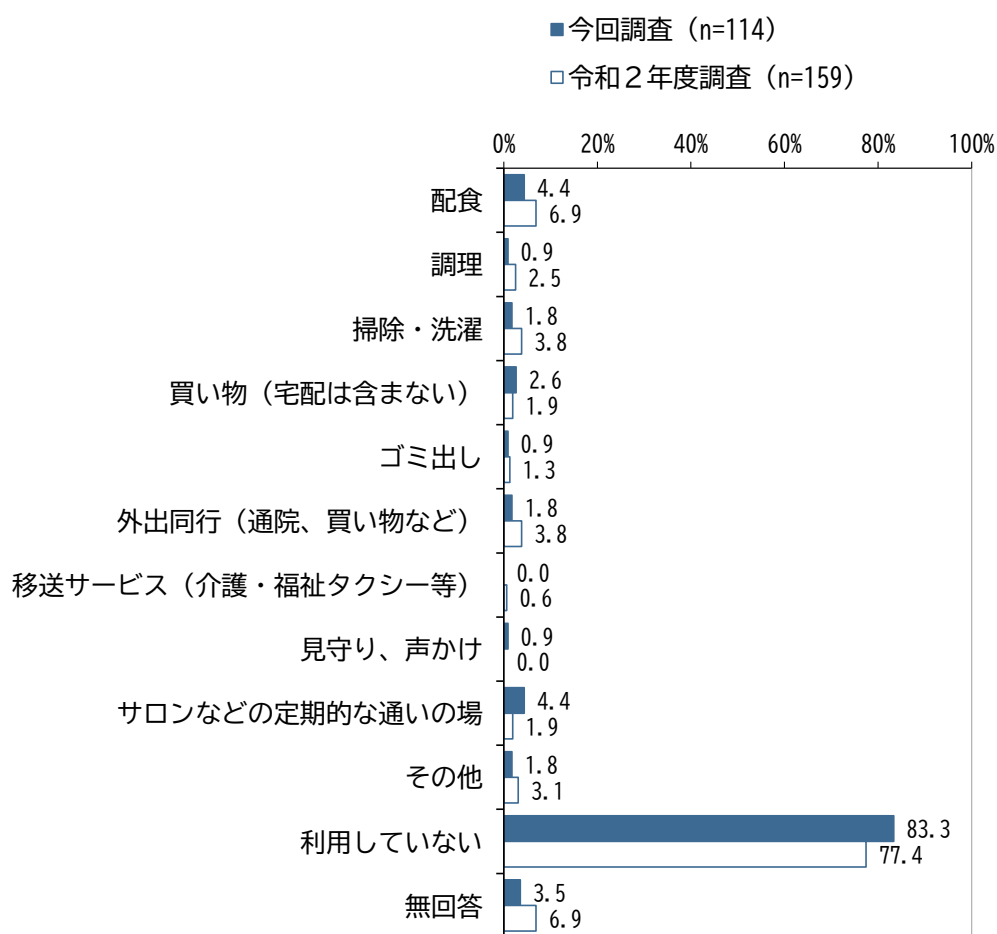
⑧ 保険外の支援・サービスの利用状況

問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください（複数選択可）

「利用していない」が 83.3%で最も高く、次いで「配食」、「サロンなどの定期的な通いの場」がいずれも 4.4%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「利用していない」（83.3%）では、令和2（2020）年度調査（77.4%）より 5.9 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-1-9 保険外の支援・サービスの利用状況



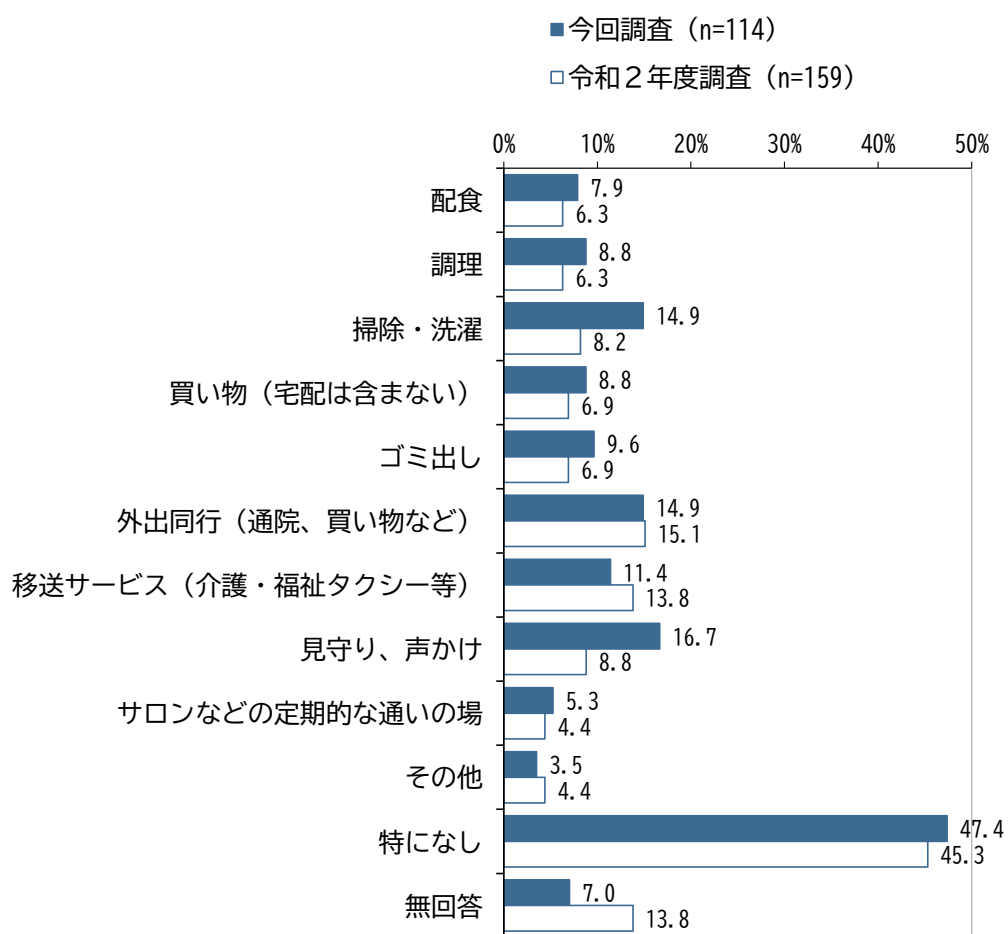
⑨ 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（複数選択可）

「特になし」が 47.4%で最も高く、次いで「見守り、声かけ」が 16.7%、「掃除・洗濯」、「外出同行（通院、買い物など）」がいずれも 14.9%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「見守り、声かけ」（16.7%）では、令和2（2020）年度調査（8.8%）より 7.9 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-1-10 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

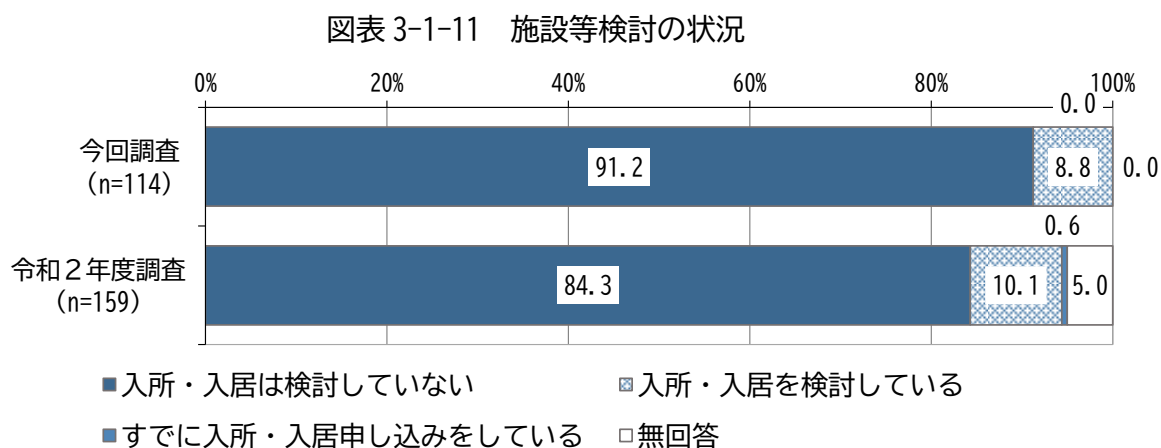


⑩ 施設等検討の状況

問 10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください（1つを選択）

「入所・入居は検討していない」が 91.2%で最も高く、次いで「入所・入居を検討している」が 8.8%となっています。

令和 2（2020）年度調査と比較すると、「入所・入居は検討していない」（91.2%）では、令和 2（2020）年度調査（84.3%）より 6.9 ポイント増加しています。



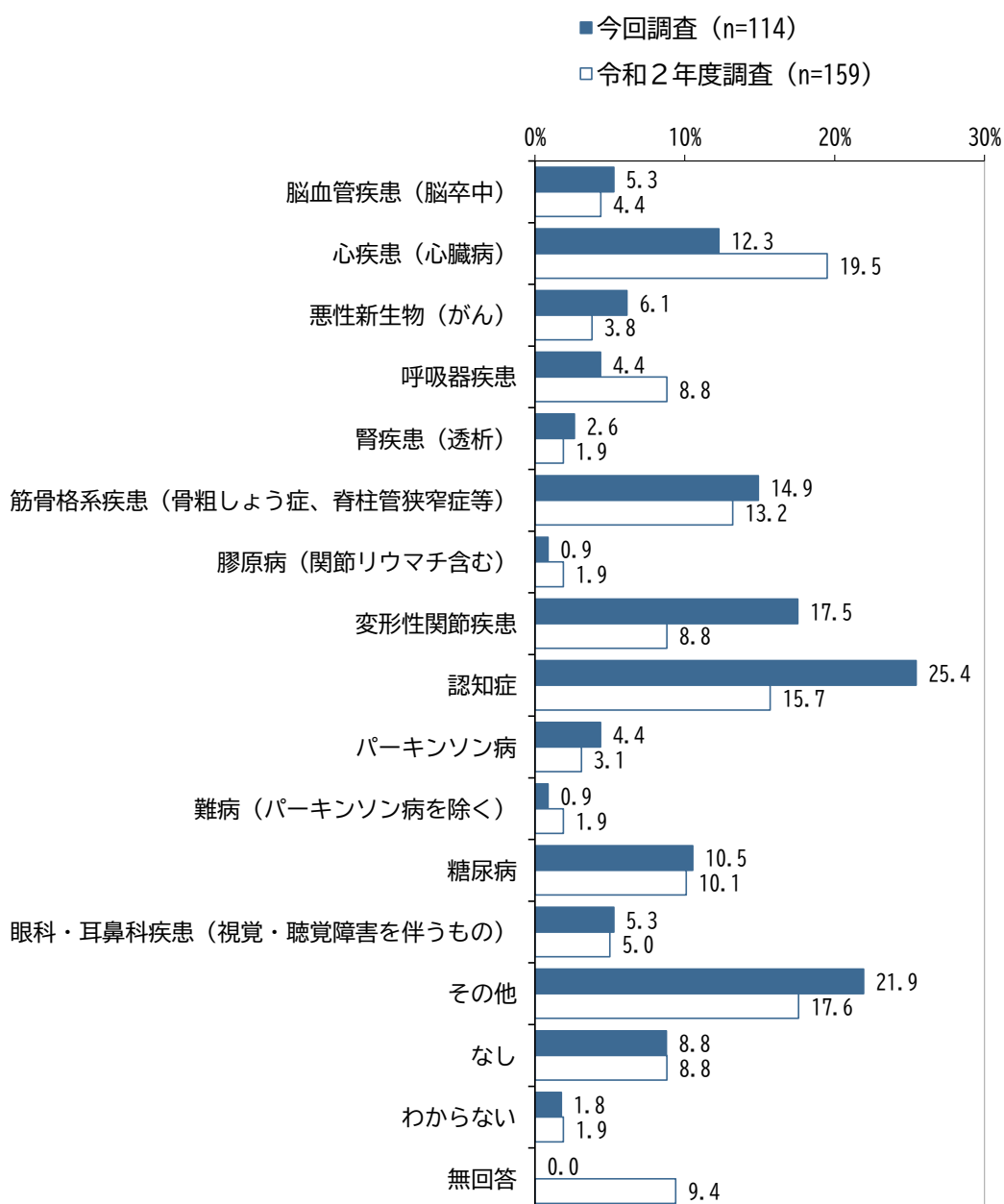
⑪ 本人が抱えている傷病

問 11 ご本人（認定調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください
（複数選択可）

「認知症」が 25.4%で最も高く、次いで「その他」が 21.9%、「変形性関節疾患」が 17.5%と続いています。

令和 2（2020）年度調査と比較すると、「認知症」（25.4%）では、令和 2（2020）年度調査（15.7%）より 9.7 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-1-12 本人が抱えている傷病

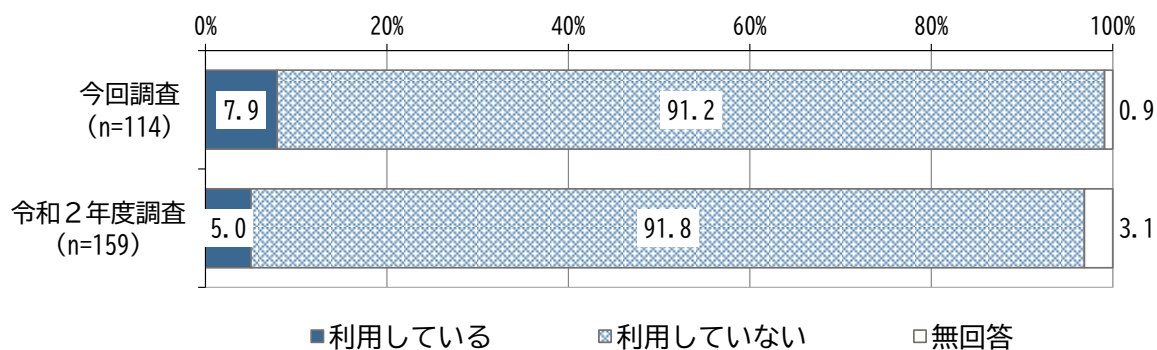


⑫ 訪問診療の利用の有無

問12 ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか（1つを選択）

「利用している」が7.9%、「利用していない」が91.2%となっています。
令和2（2020）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-1-13 訪問診療の利用の有無

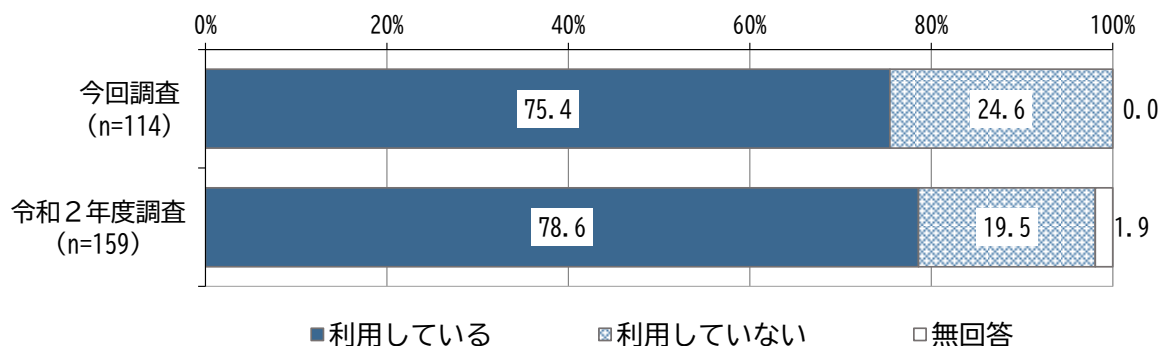


⑬ 介護保険サービスの利用の有無

問13 現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか（1つを選択）

「利用している」が75.4%、「利用していない」が24.6%となっています。
令和2（2020）年度調査と比較すると、「利用していない」（24.6%）では、令和2（2020）年度調査（19.5%）より5.1ポイント増加しています。

図表 3-1-14 介護保険サービスの利用の有無



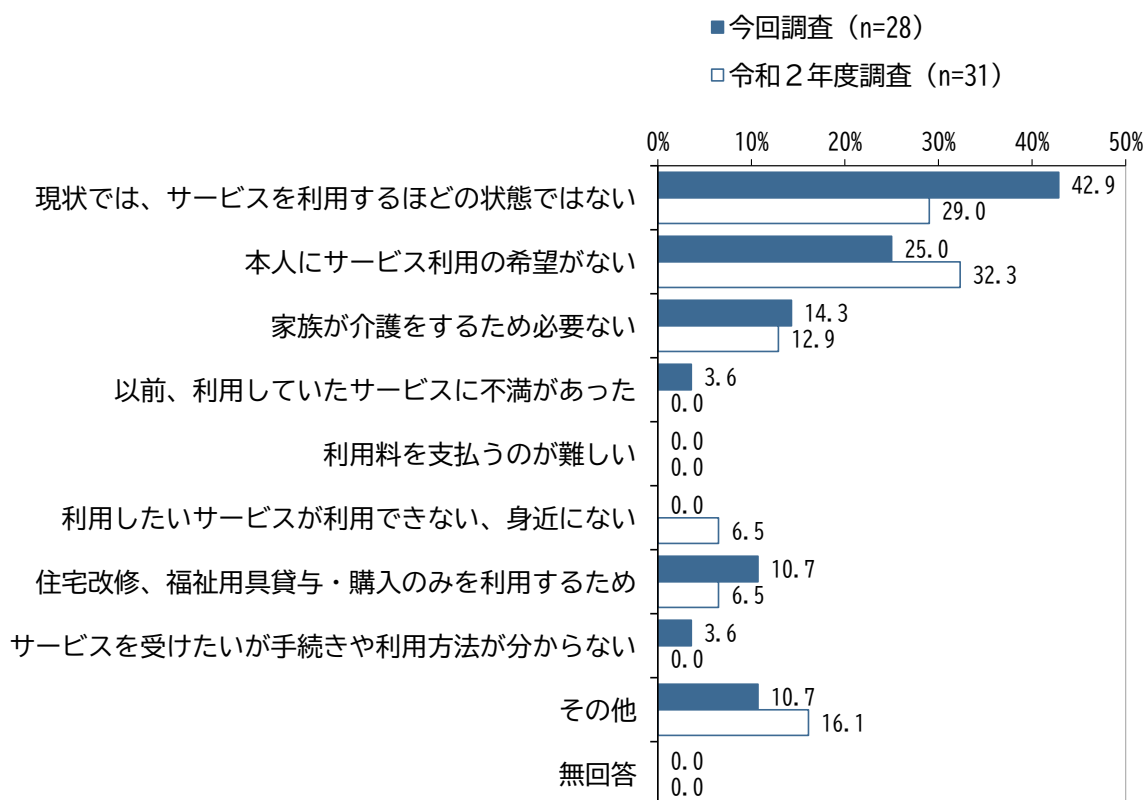
⑭ 介護保険サービス未利用の理由

問 14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（複数選択可）

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 42.9%で最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 25.0%、「家族が介護をするため必要ない」が 14.3%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」（42.9%）では、令和2（2020）年度調査（29.0%）より 13.9 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-1-15 介護保険サービスの未利用の理由



(3) 主な介護者様用の調査項目 (B票)

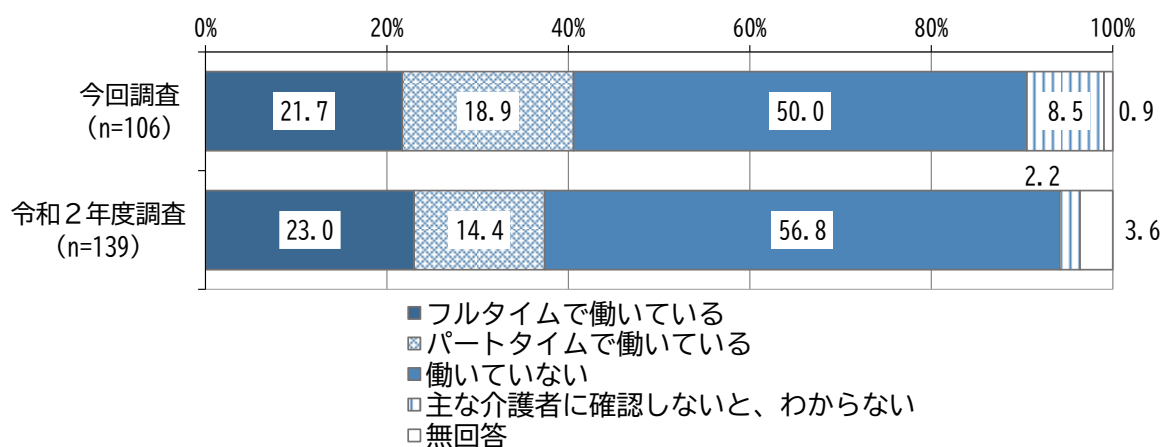
① 主な介護者の勤務形態

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください (1つを選択)

「働いていない」が 50.0%で最も高く、次いで「フルタイムで働いている」が 21.7%、「パートタイムで働いている」が 18.9%と続いています。

令和2 (2020) 年度調査と比較すると、「パートタイムで働いている」(18.9%)では、令和2 (2020) 年度調査 (14.4%) より 4.5 ポイント増加しています。

図表 3-1-16 主な介護者の勤務形態



② 主な介護者の方の働き方の調整の状況

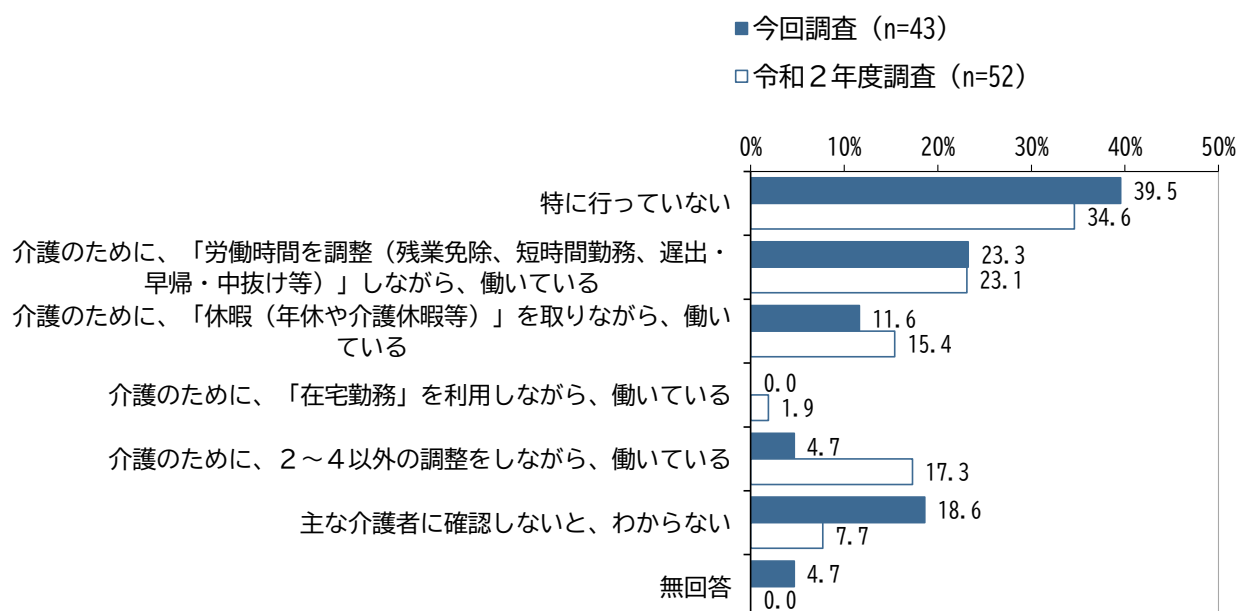
問2 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。

主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか
(複数選択可)

「特に行っていない」が39.5%で最も高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が23.3%、「主な介護者に確認しないと、わからない」が18.6%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」（4.7%）では、令和2（2020）年度調査（17.3%）より12.6ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

図表 3-1-17 主な介護者の働き方の調整状況



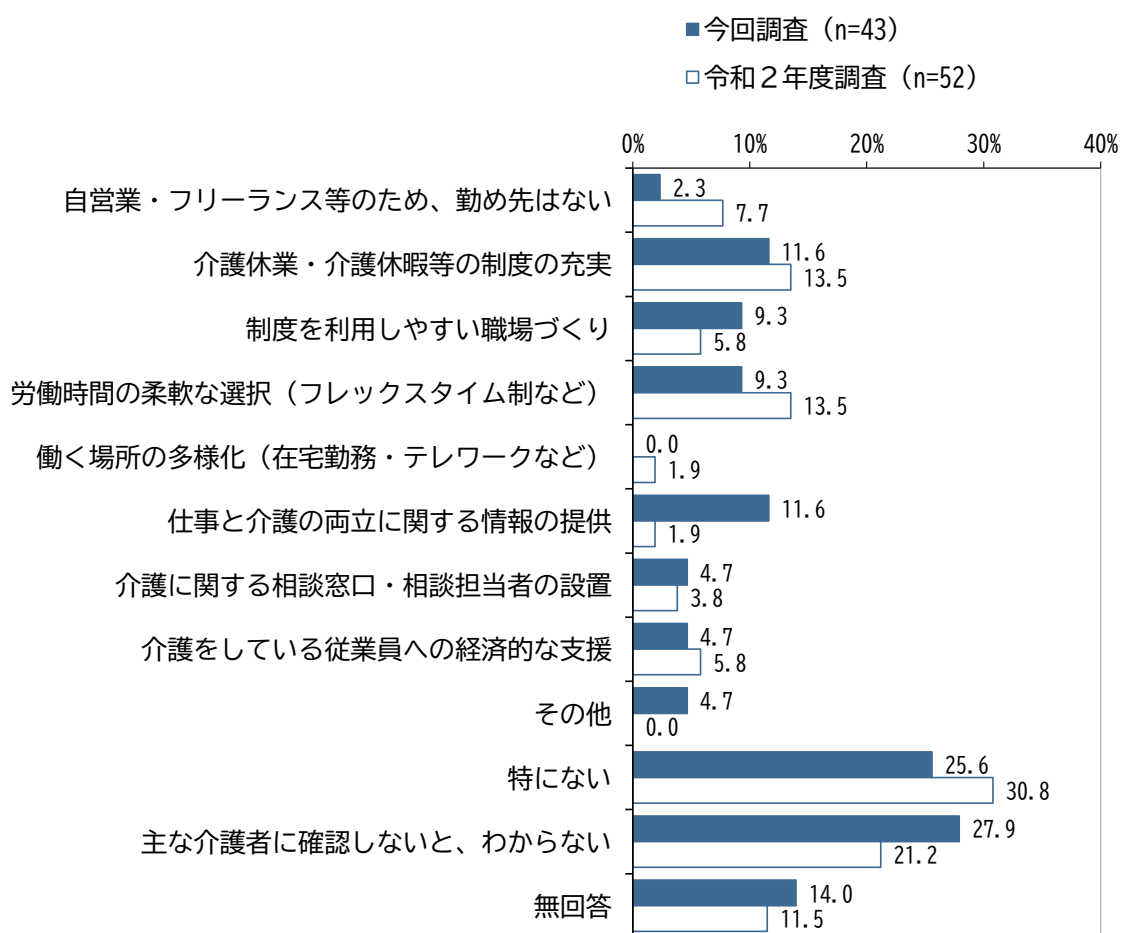
③ 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

問3 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。
 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果がある
 と思いますか（3つまで選択可）

「主な介護者に確認しないと、わからない」が 27.9%で最も高く、次いで「特にない」が 25.6%、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「仕事と介護の両立に関する情報の提供」がいずれも 11.6%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「仕事と介護の両立に関する情報の提供」（11.6%）では、令和2（2020）年度調査（1.9%）より 9.7 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-1-28 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援



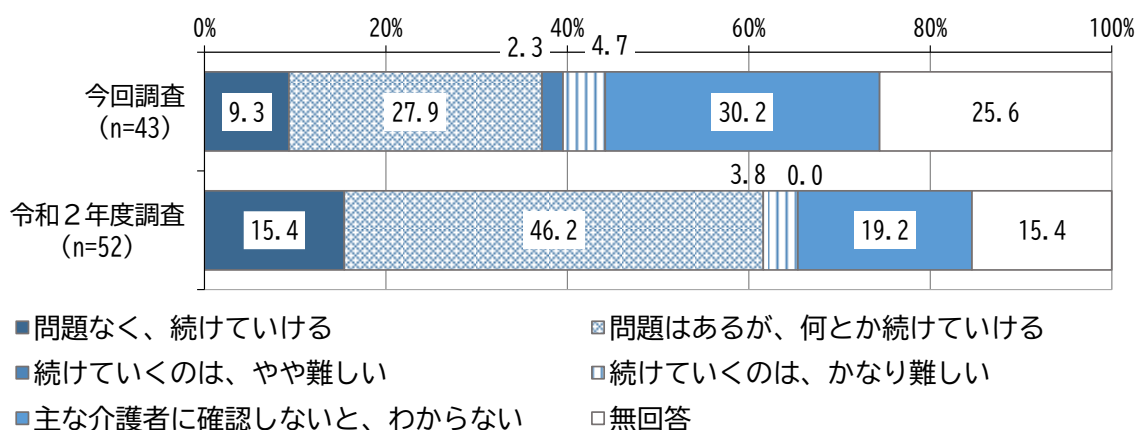
④ 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

問4 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。
 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1つを選択）

「主な介護者に確認しないと、わからない」が 30.2%で最も高く、次いで「問題はあるが、何とか続けていける」が 27.9%、「問題なく、続けていける」が 9.3%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「問題はあるが、何とか続けていける」（27.9%）では、令和2（2020）年度調査（46.2%）より 18.3ポイント減少しています。

図表 3-1-19 主な介護者の就労継続の可否に係る意識



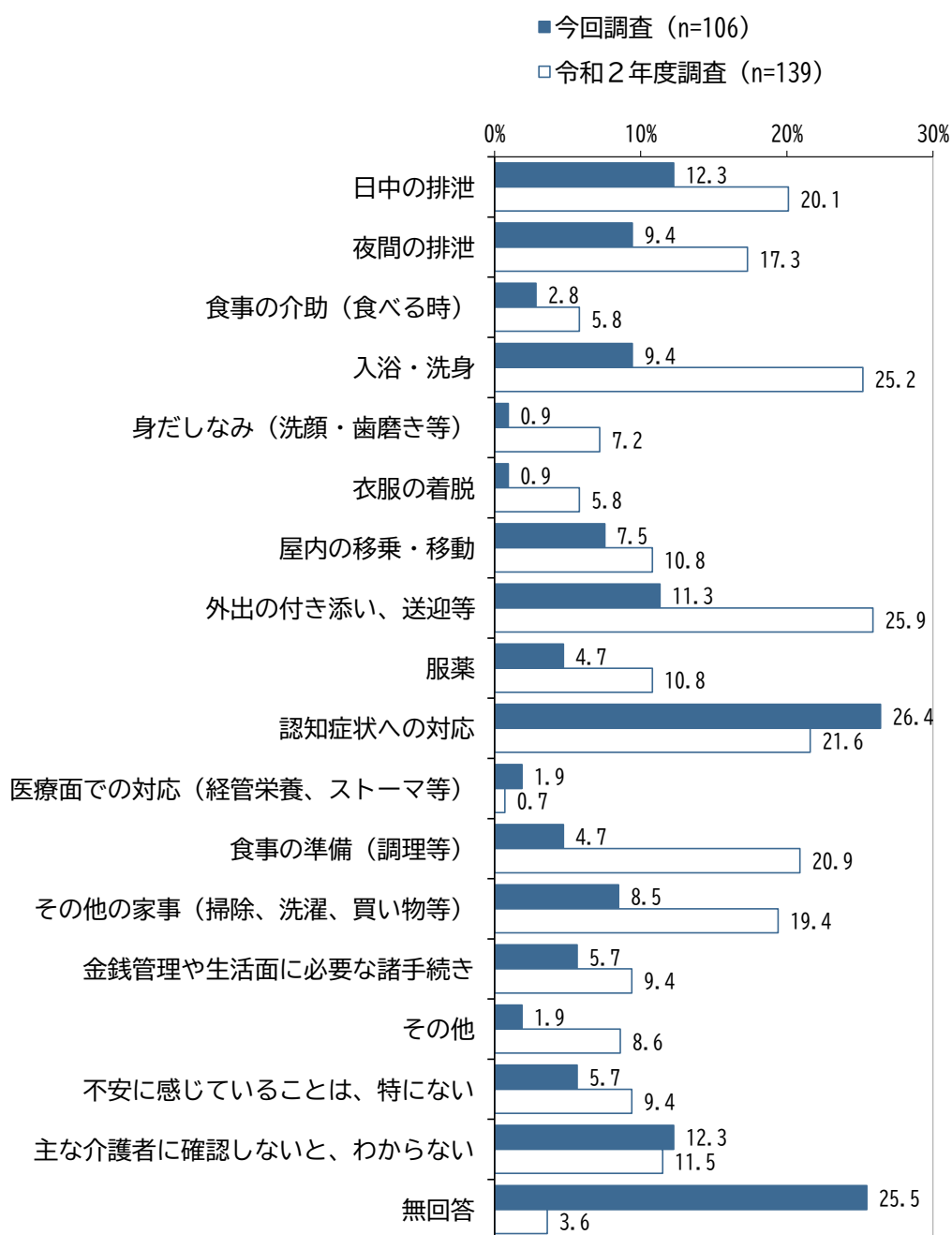
⑤ 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（3つまで選択可）

「認知症状への対応」が 26.4%で最も高く、次いで「日中の排泄」、「主な介護者に確認しないと、わからない」がいずれも 12.3%と続いています。

令和2（2020）年度調査と比較すると、「認知症状への対応」（26.4%）では、令和2（2020）年度調査（21.6%）より 4.8 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-1-20 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

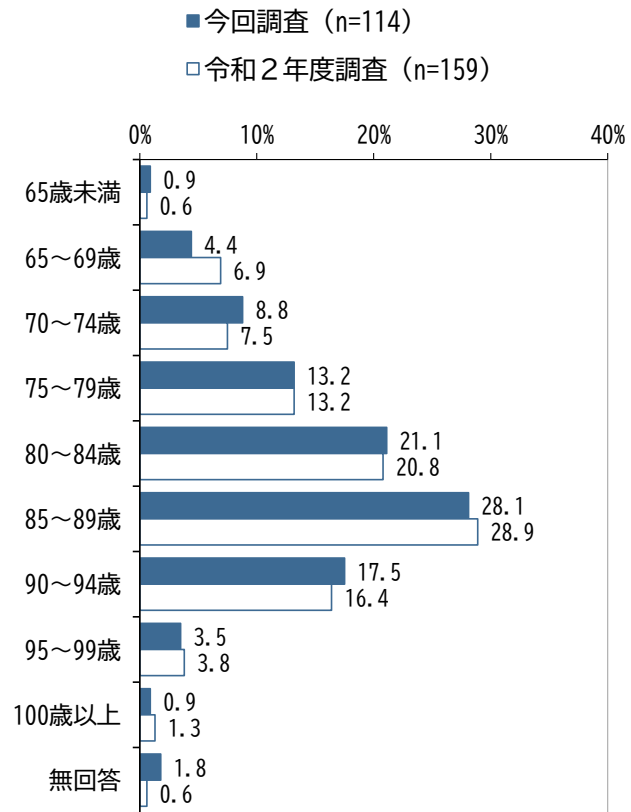


(4) 要介護認定データ

① 年齢

「85～89歳」が28.1%で最も高く、次いで「80～84歳」が21.1%、「90～94歳」が17.5%と続いています。

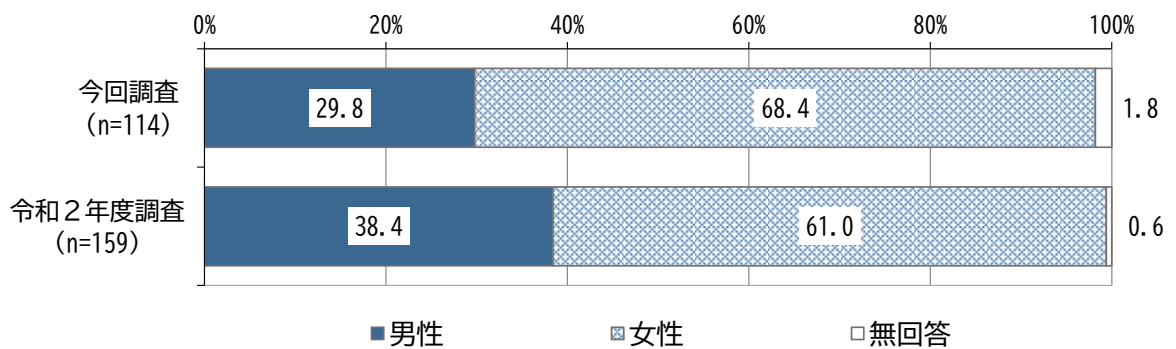
図表 3-1-21 年齢



② 性別

「男性」が29.8%、「女性」が68.4%となっています。

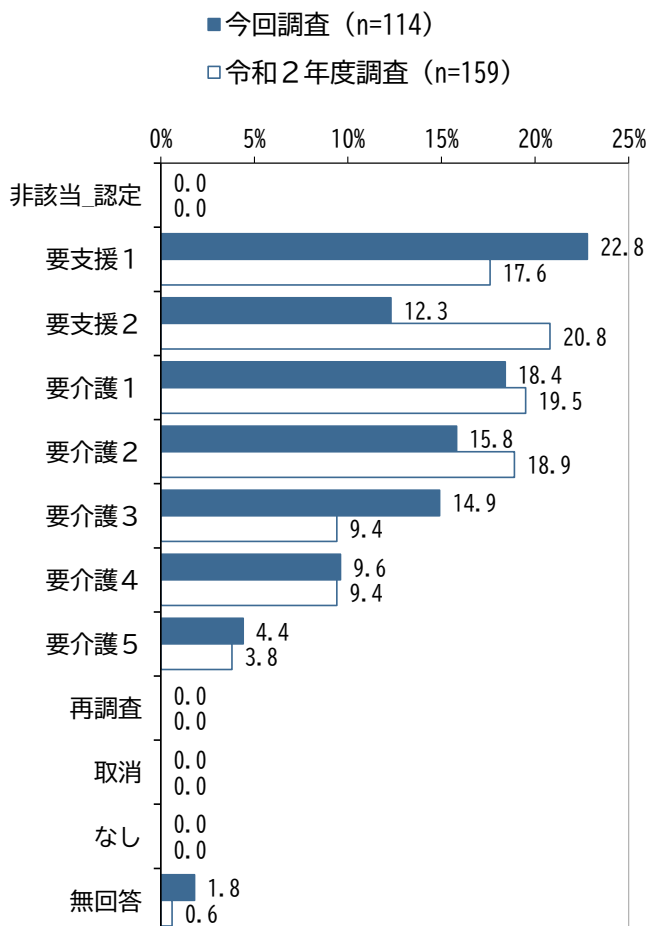
図表 3-1-22 性別



③ 二次判定結果（要介護度）

「要支援1」が22.8%で最も高く、次いで「要介護1」が18.4%、「要介護2」が15.8%と続いています。

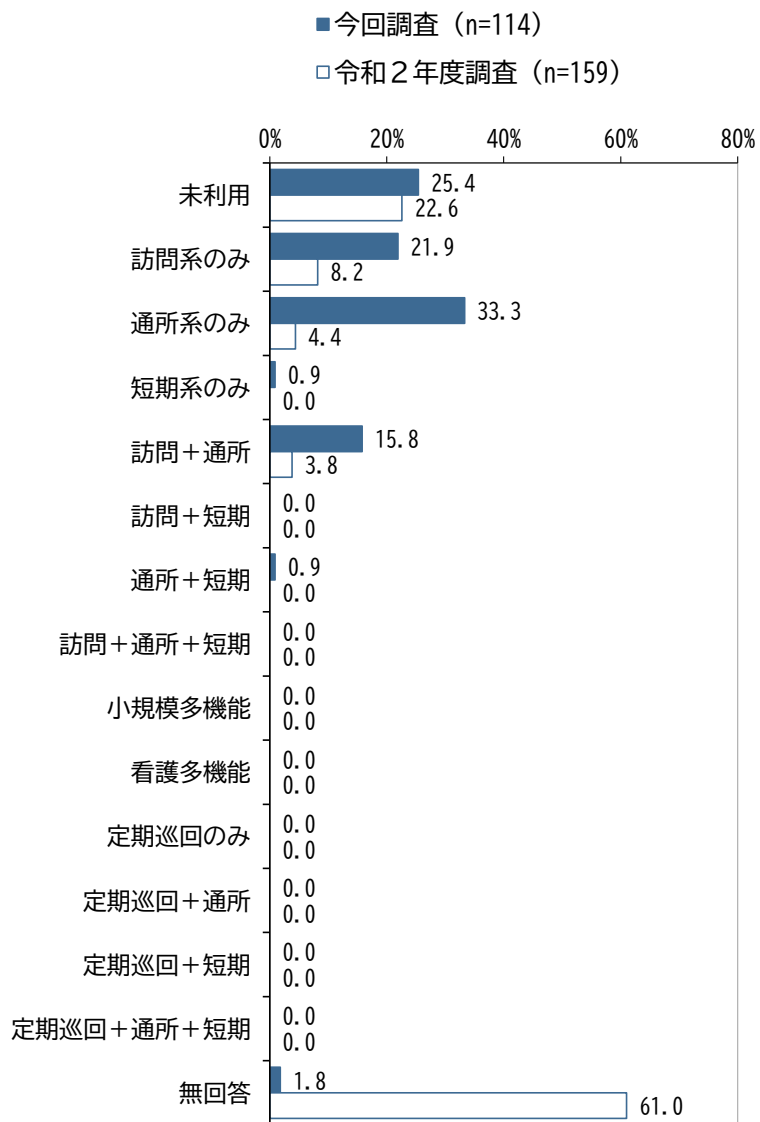
図表 3-1-23 二次判定結果



④ サービス利用の組み合わせ

「通所系のみ」が 33.3%で最も高く、次いで「未利用」が 25.4%、「訪問系のみ」が 21.9%と続いています。

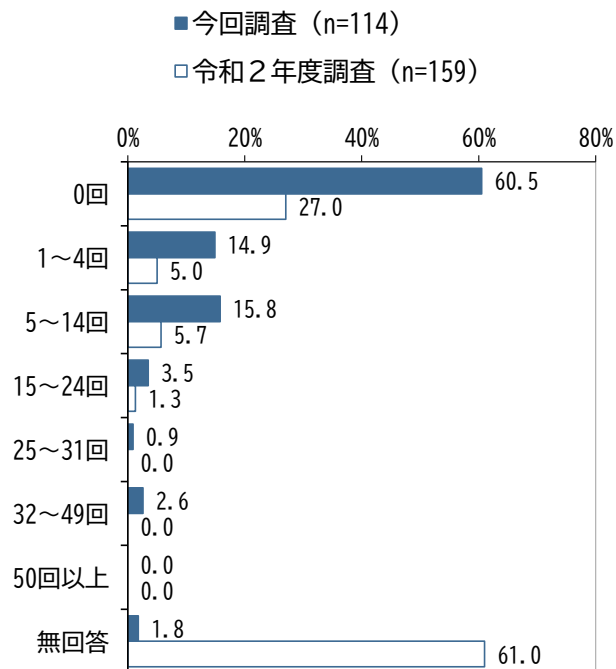
図表 3-1-24 サービス利用の組み合わせ



⑤ 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」が60.5%で最も高く、次いで「5～14回」が15.8%、「1～4回」が14.9%と続いています。

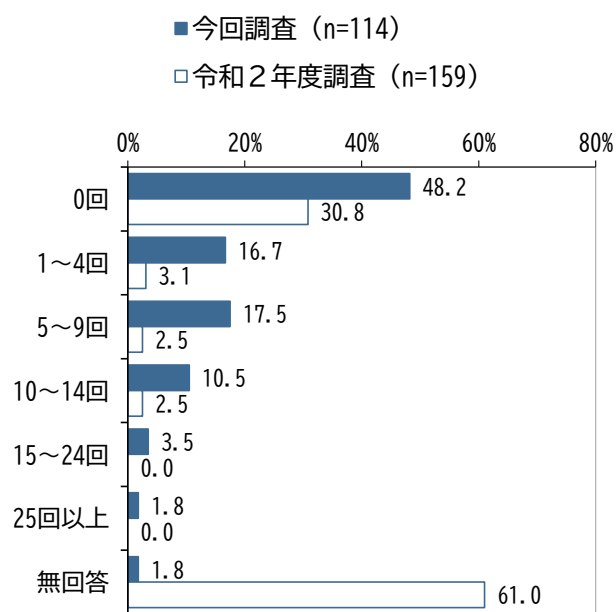
図表 3-1-25 サービスの利用回数（訪問系）



⑥ 通所系サービスの合計利用回数

「0回」が48.2%で最も高く、次いで「5～9回」が17.5%、「1～4回」が16.7%と続いています。

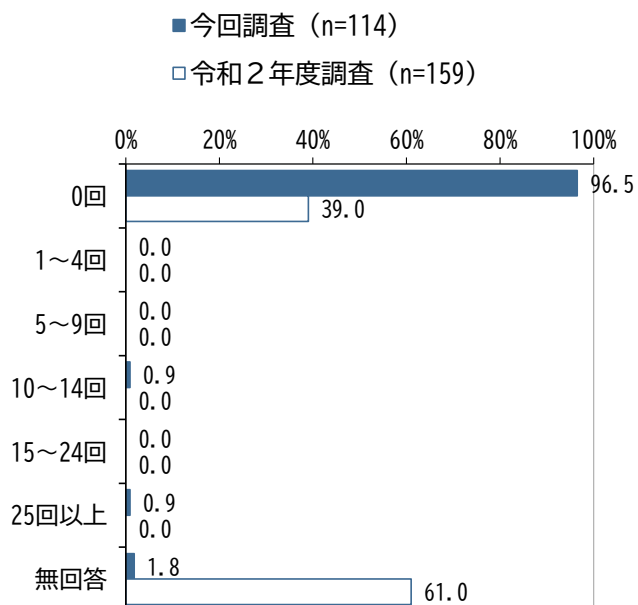
図表 3-1-26 サービスの利用回数（通所系）



⑦ 短期系サービスの合計利用回数

「0回」が96.5%で最も高くなっています。

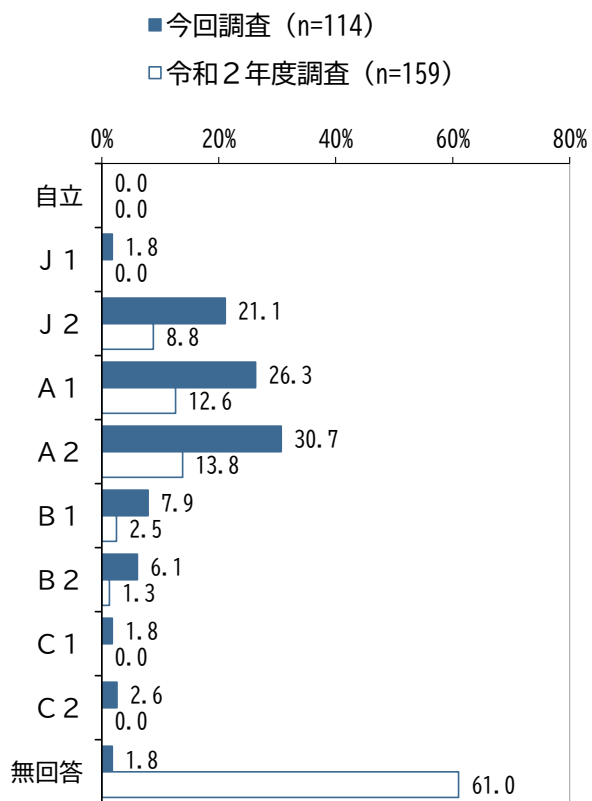
図表 3-1-27 サービスの利用回数（短期系）



⑧ 障害高齢者の日常生活自立度

「A2」が30.7%で最も高く、次いで「A1」が26.3%、「J2」が21.1%と続いています。

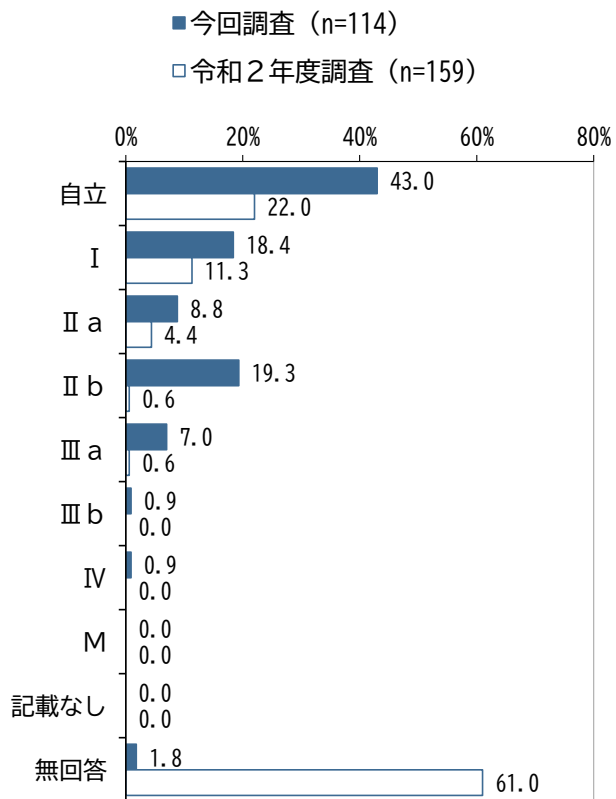
図表 3-1-28 障害高齢者の日常生活自立度



⑨ 認知症高齢者の日常生活自立度

「自立」が43.0%で最も高く、次いで「Ⅱb」が19.3%、「Ⅰ」が18.4%と続いています。

図表 3-1-29 認知症高齢者の日常生活自立度



2 クロス集計結果

ここでは、厚生労働省から配布された「在宅介護実態調査の自動集計分析ソフト」を使用し、調査結果と認定データを紐づけた上で分析を行っています。

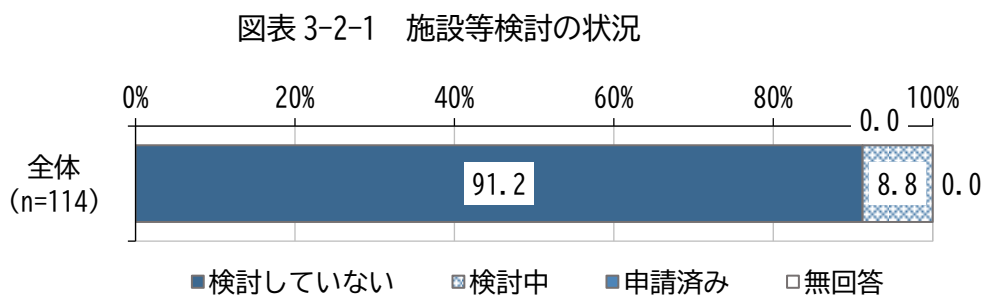
(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。

① 基礎集計

i) 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く 91.2%となっています。次いで、「検討中 (8.8%)」となっています。

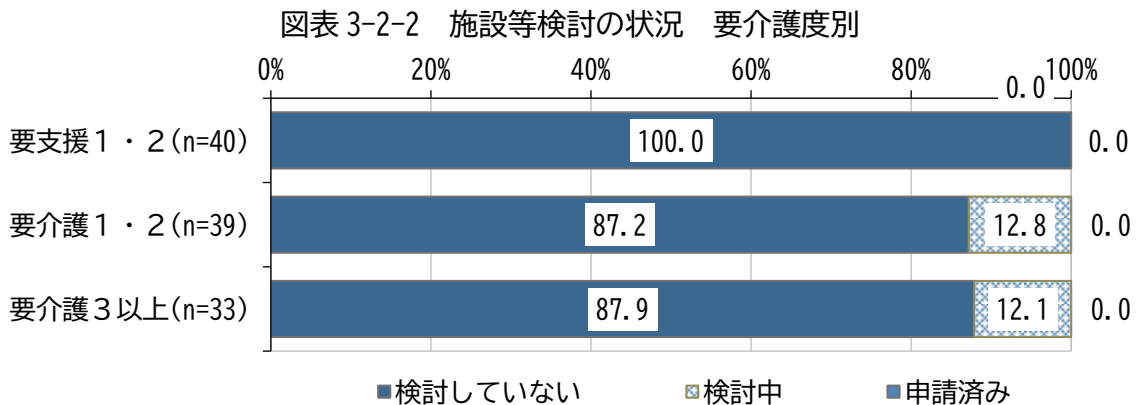


ii) 要介護度別でみる施設等検討の状況

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「要介護1・2」では「検討していない」が87.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が12.8%となっています。

「要介護3以上」では「検討していない」が87.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が12.1%となっています。

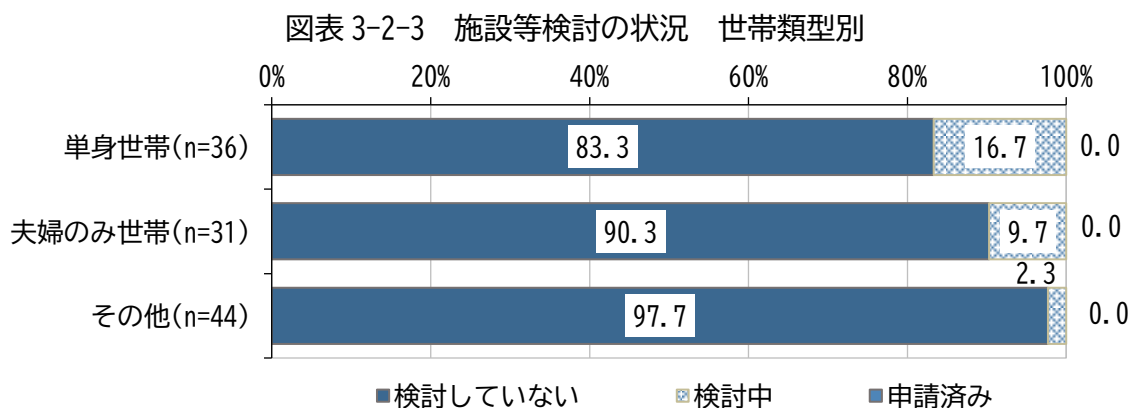


iii) 世帯類型別でみる施設等検討の状況

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が83.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.7%となっています。

「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が90.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が9.7%となっています。

「その他」では「検討していない」が97.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が2.3%となっています。



② 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

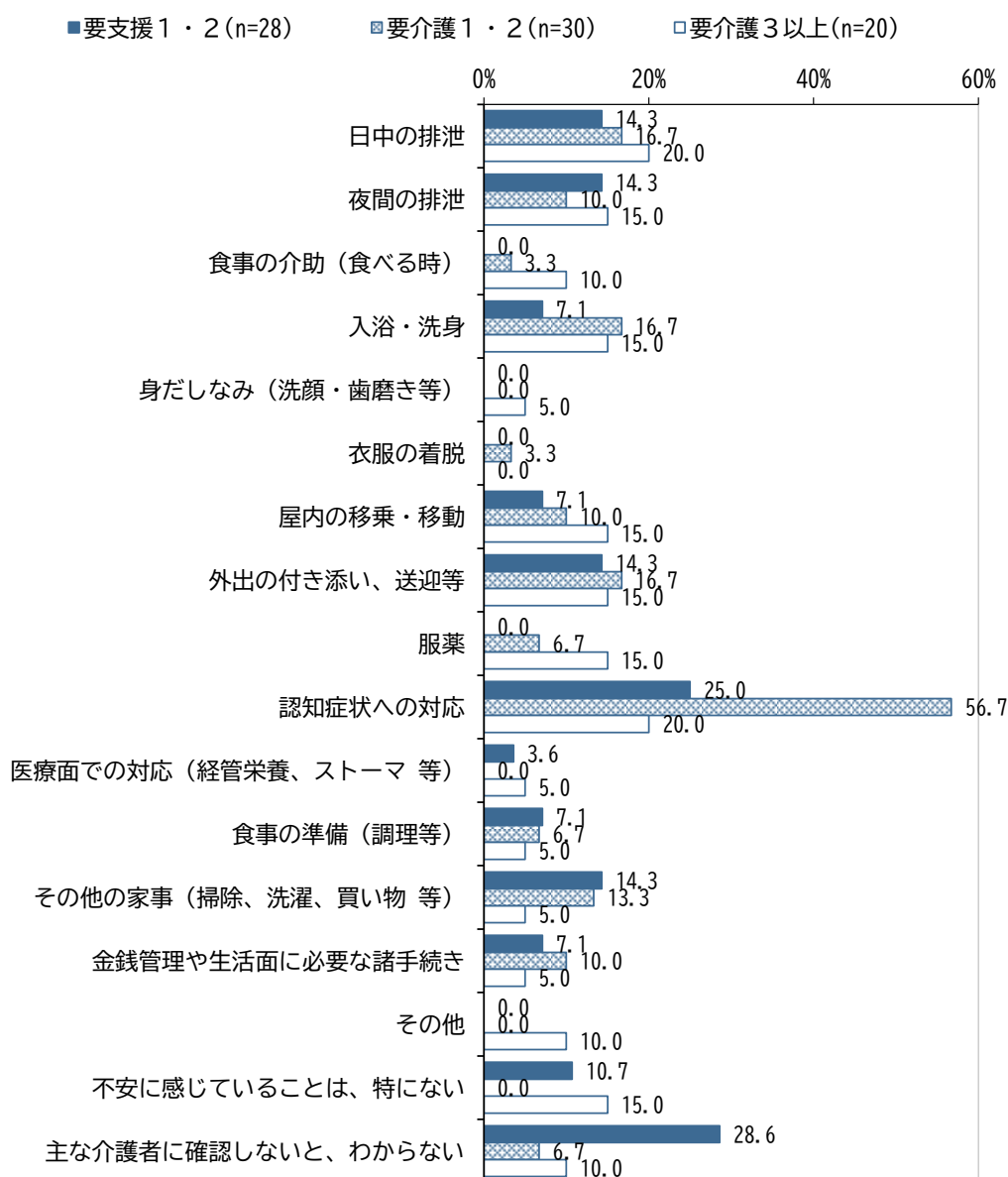
i) 要介護度別でみる介護者が不安に感じる介護

介護者が不安に感じる介護を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「主な介護者に確認しないと、わからない」が28.6%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が25.0%、「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」がいずれも14.3%となっています。

「要介護1・2」では「認知症状への対応」が56.7%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」がいずれも16.7%となっています。

「要介護3以上」では「日中の排泄」、「認知症状への対応」がいずれも20.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」、「不安に感じていることは、特にない」がいずれも15.0%となっています。

図表 3-2-4 介護者が不安に感じる介護 要介護度別



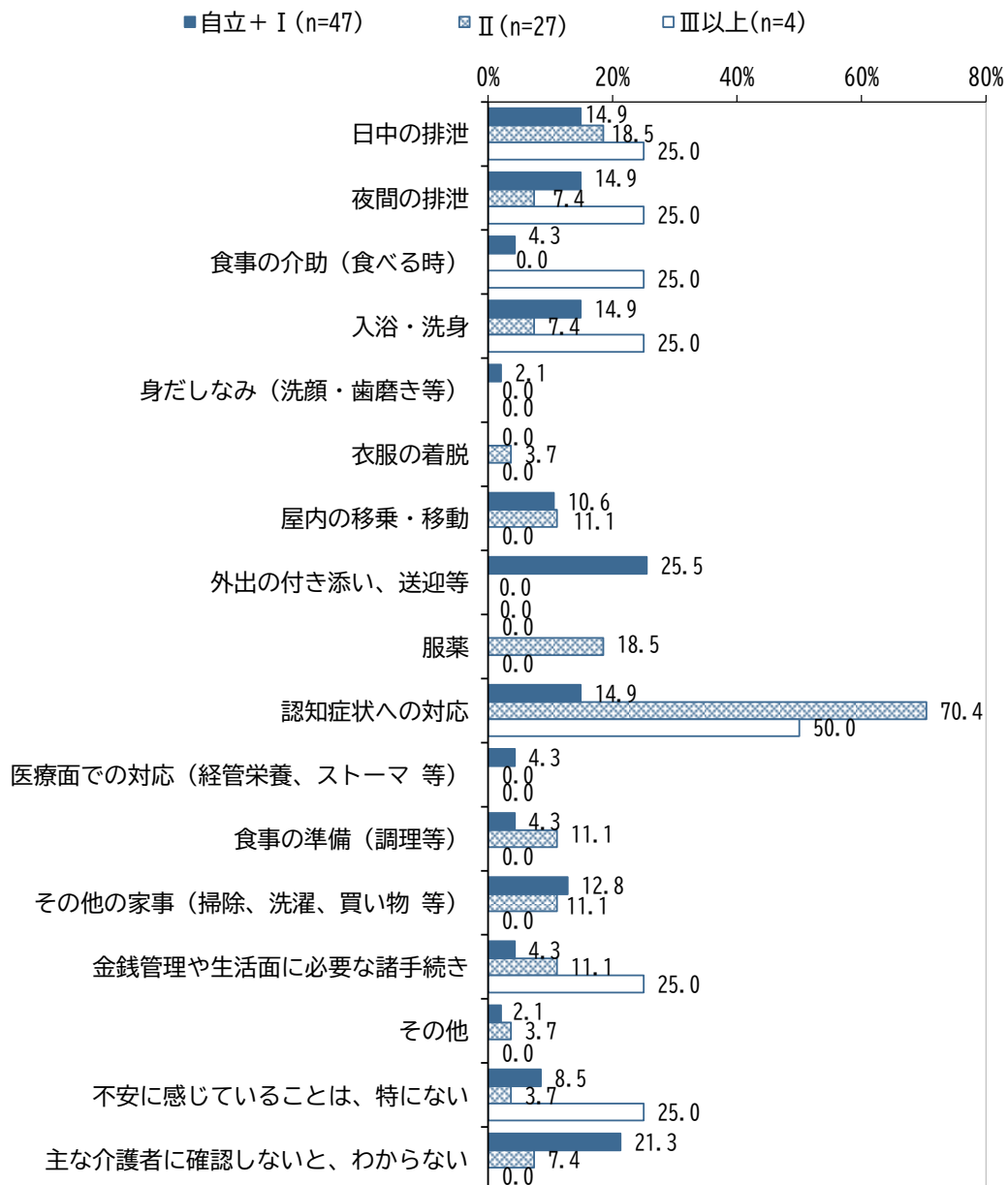
ii) 認知症自立度別でみる介護者が不安を感じる介護

介護者が不安を感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「外出の付き添い、送迎等」が 25.5%と最も割合が高く、次いで「主な介護者に確認しないと、わからない」が 21.3%、「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「認知症状への対応」がいずれも 14.9%となっています。

「II」では「認知症状への対応」が 70.4%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「服薬」がいずれも 18.5%となっています。

「III以上」では「認知症状への対応」が 50.0%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「不安を感じていることは、特にない」がいずれも 25.0%となっています。

図表 3-2-5 介護者が不安を感じる介護 認知症自立度別



③ 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

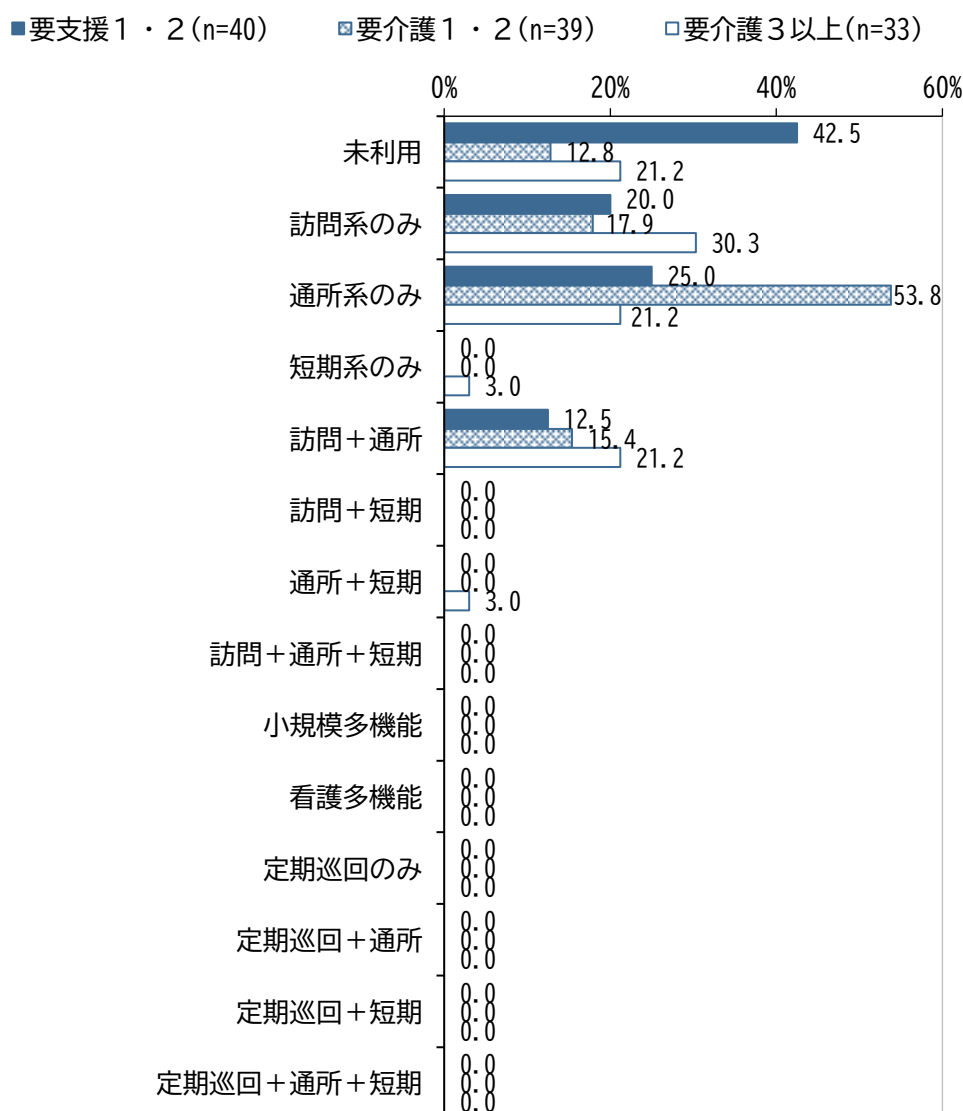
i) 要介護度別でみるサービス利用の組み合わせ

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が42.5%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が25.0%、「訪問系のみ」が20.0%となっています。

「要介護1・2」では「通所系のみ」が53.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が17.9%、「訪問+通所」が15.4%となっています。

「要介護3以上」では「訪問系のみ」が30.3%と最も割合が高く、次いで「未利用」、「通所系のみ」、「訪問+通所」がいずれも21.2%となっています。

図表 3-2-6 サービス利用の組み合わせ 要介護度別



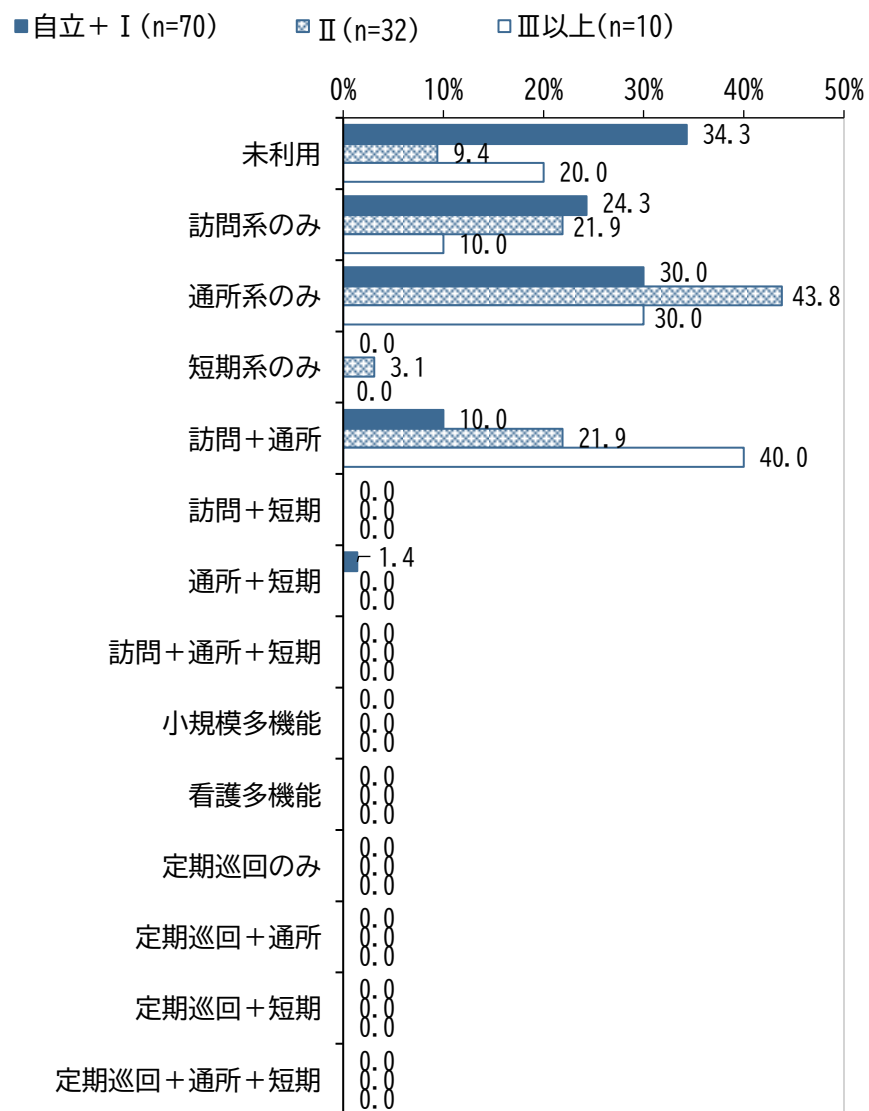
ii) 認知症自立度別でみるサービス利用の組み合わせ

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「未利用」が34.3%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が30.0%、「訪問系のみ」が24.3%となっています。

「II」では「通所系のみ」が43.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「訪問+通所」がいずれも21.9%となっています。

「III以上」では「訪問+通所」が40.0%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が30.0%、「未利用」が20.0%となっています。

図表 3-2-7 サービス利用の組み合わせ 認知症自立度別



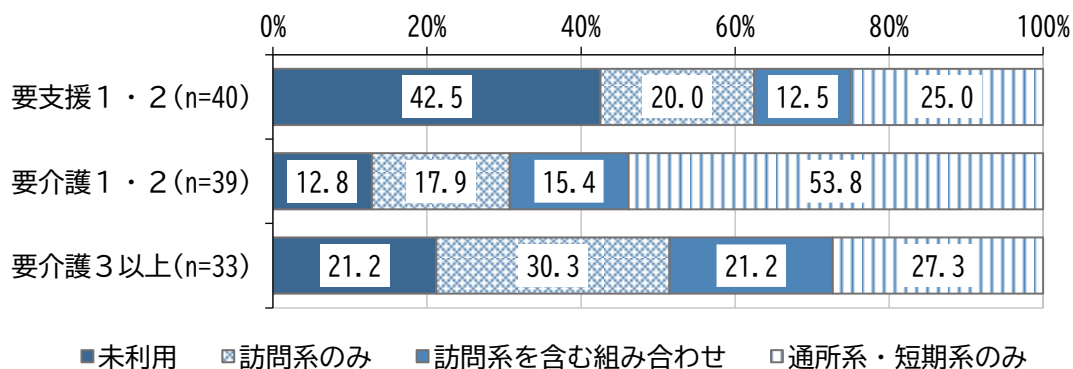
iii) 要介護度別でみるサービス利用の組み合わせ

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が42.5%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が25.0%、「訪問系のみ」が20.0%となっています。

「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が53.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が17.9%、「訪問系を含む組み合わせ」が15.4%となっています。

「要介護3以上」では「訪問系のみ」が30.3%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が27.3%、「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」がいずれも21.2%となっています。

図表 3-2-8 サービス利用の組み合わせ 要介護度別



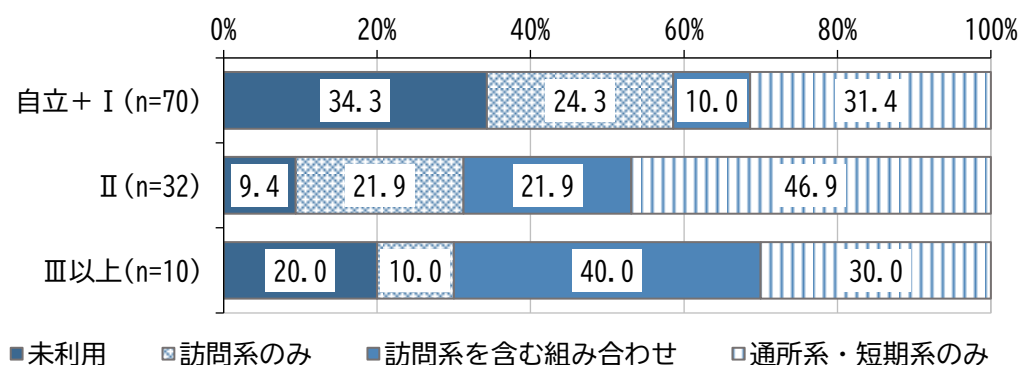
iv) 認知症自立度別でみるサービス利用の組み合わせ

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+I」では「未利用」が34.3%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が31.4%、「訪問系のみ」が24.3%となっています。

「II」では「通所系・短期系のみ」が46.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」がいずれも21.9%となっています。

「III以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が40.0%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が30.0%、「未利用」が20.0%となっています。

図表 3-2-9 サービス利用の組み合わせ 認知症自立度別



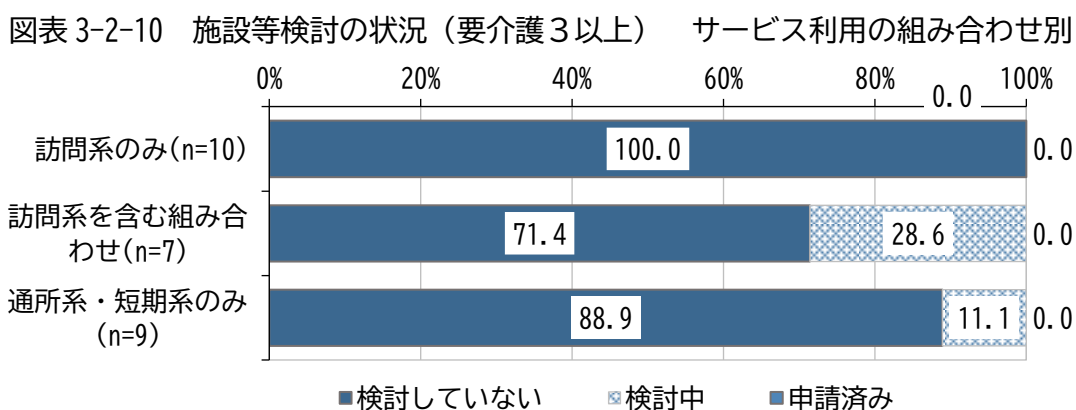
④ 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

i) サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が71.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が28.6%となっています。

「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が88.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が11.1%となっています。

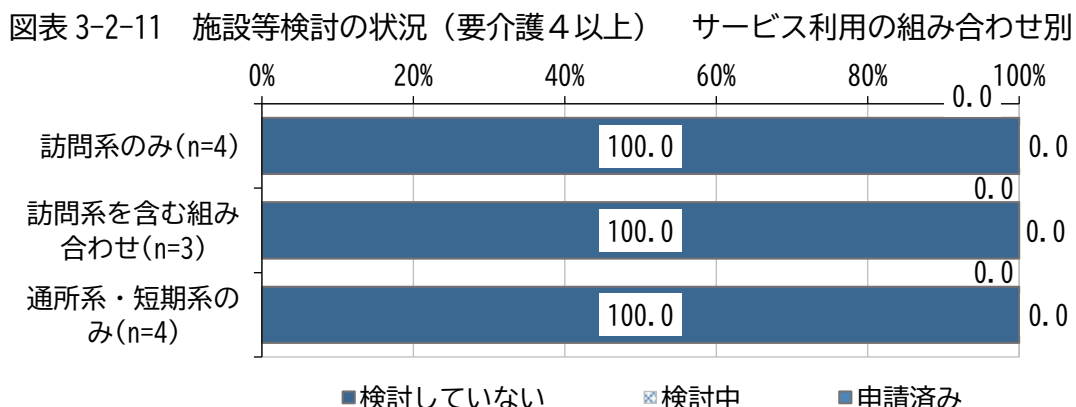


ii) サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。



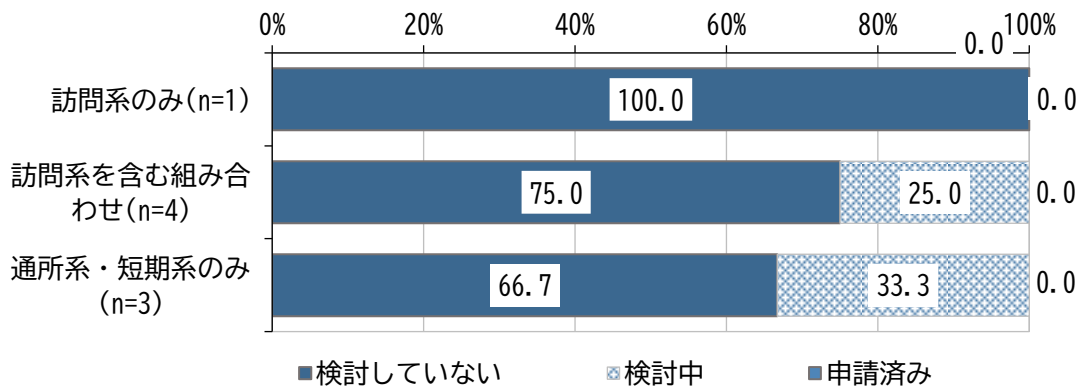
iii) サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症自立度Ⅲ以上）

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が75.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%となっています。

「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%となっています。

図表 3-2-12 施設等検討の状況（認知症自立度Ⅲ以上） サービス利用の組み合わせ別



⑤ 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

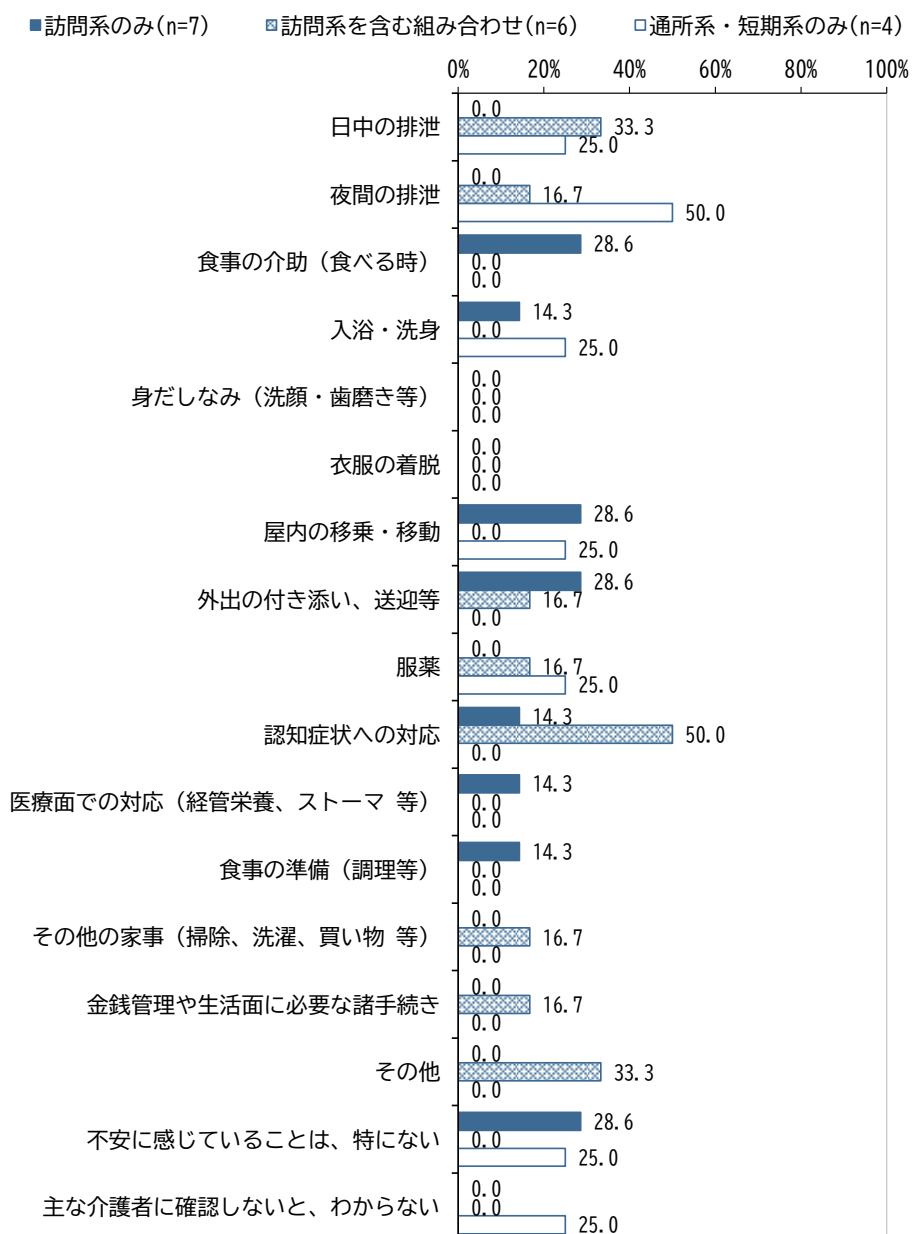
i) サービス利用の組み合わせ別でみる介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「食事の介助（食べる時）」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「不安を感じていることは、特にない」がいずれも 28.6%と最も割合が高くなっています。

「訪問系を含む組み合わせ」では「認知症状への対応」が 50.0%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「その他」がいずれも 33.3%となっています。

「通所系・短期系のみ」では「夜間の排泄」が 50.0%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「服薬」、「不安を感じていることは、特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」がいずれも 25.0%となっています。

図表 3-2-13 介護者が不安を感じる介護（要介護3以上） サービス利用の組み合わせ別

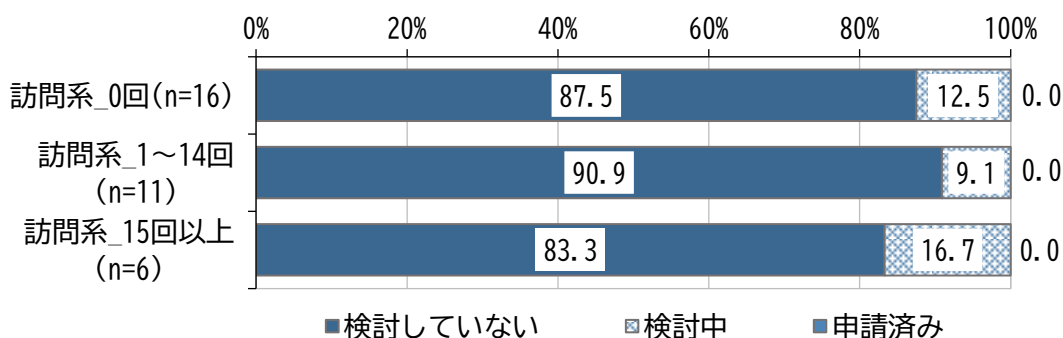


⑥ 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

i) サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「検討していない」では、「訪問系_0回」が87.5%、「訪問系_1~14回」が90.9%、「訪問系_15回以上」が83.3%となっています。

図表 3-2-14 施設等検討の状況（要介護3以上） 訪問系サービス利用回数別



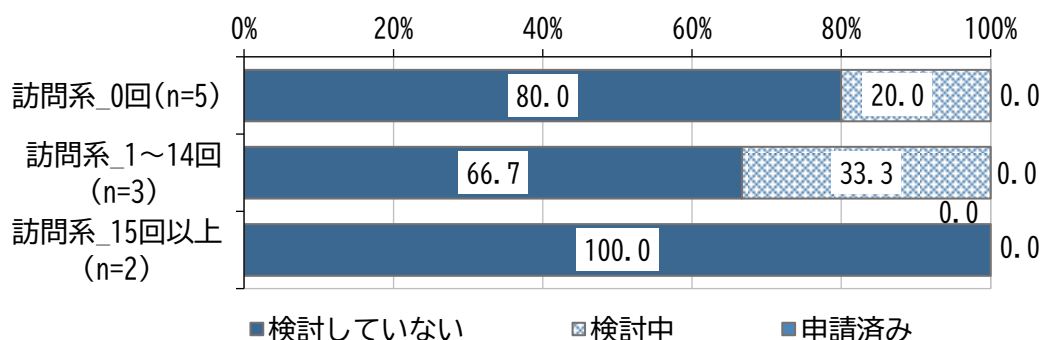
ii) サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症自立度Ⅲ以上）

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討していない」が80.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.0%となっています。

「訪問系_1~14回」では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%となっています。

「訪問系_15回以上」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

図表 3-2-15 施設等検討の状況（認知症自立度Ⅲ以上） 訪問系サービス利用回数別



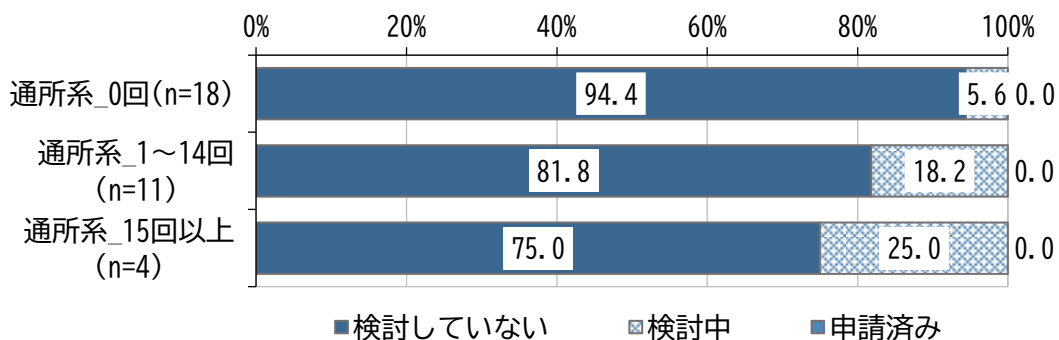
iii) サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が94.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が5.6%となっています。

「通所系_1～14回」では「検討していない」が81.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.2%となっています。

「通所系_15回以上」では「検討していない」が75.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%となっています。

図表 3-2-16 施設等検討の状況（要介護3以上） 通所系サービス利用回数別



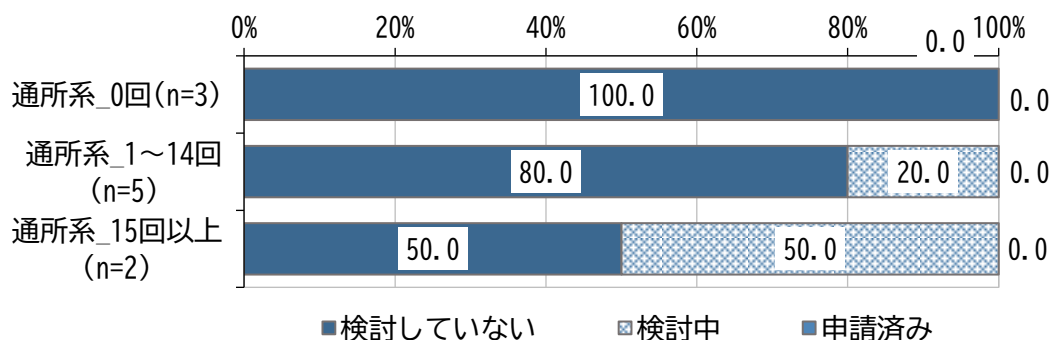
iv) サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症自立度Ⅲ以上）

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「通所系_1～14回」では「検討していない」が80.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.0%となっています。

「通所系_15回以上」では「検討していない」、「検討中」がいずれも50.0%となっています。

図表 3-2-17 施設等検討の状況（認知症自立度Ⅲ以上） 通所系サービス利用回数別



⑦ 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

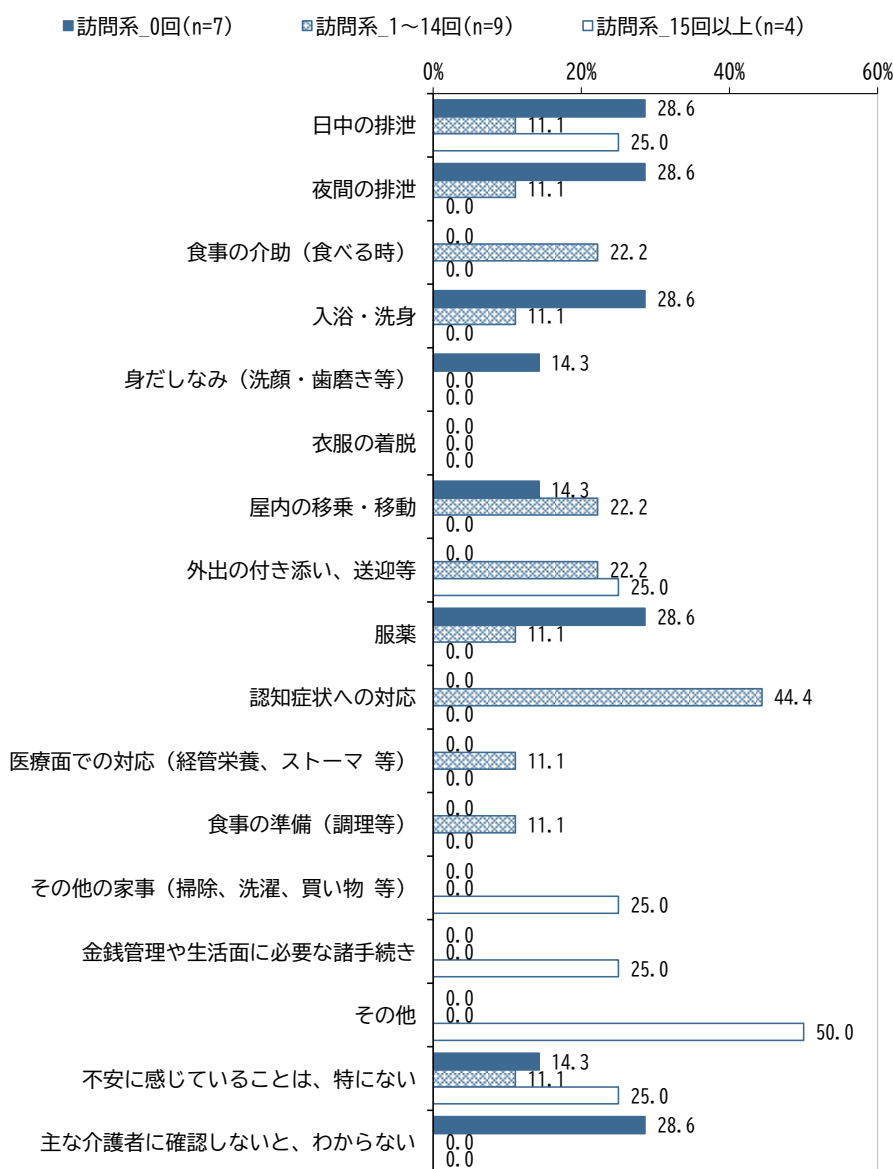
i) サービス利用回数別でみる介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「服薬」、「主な介護者に確認しないと、わからない」がいずれも28.6%と最も割合が高くなっています。

「訪問系_1～14回」では「認知症状への対応」が44.4%と最も割合が高く、次いで「食事の介助（食べる時）」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」がいずれも22.2%となっています。

「訪問系_15回以上」では「その他」が50.0%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「不安を感じていることは、特にない」がいずれも25.0%となっています。

図表 3-2-18 介護者が不安を感じる介護（要介護3以上） 訪問系サービス利用回数別



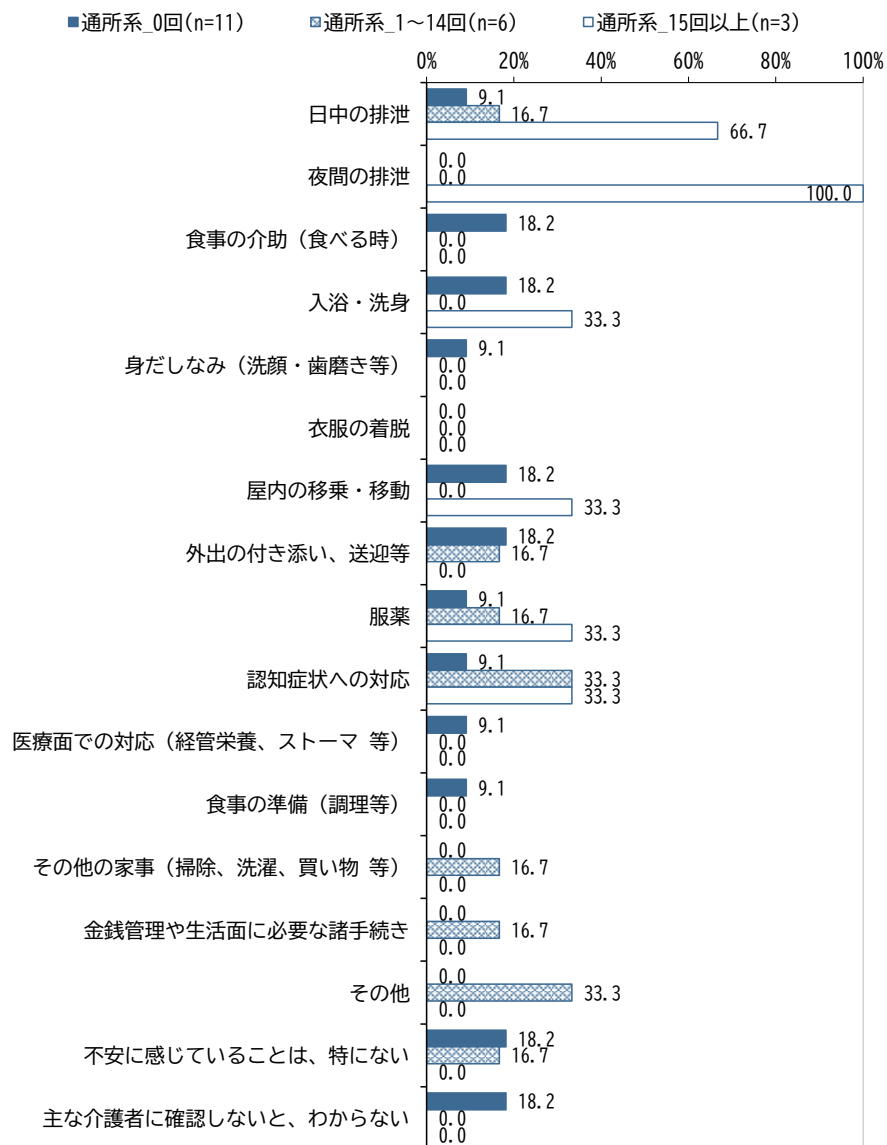
ii) サービス利用回数別でみる介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「不安を感じていることは、特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」がいずれも18.2%と最も割合が高くなっています。

「通所系_1～14回」では「認知症状への対応」、「その他」がいずれも33.3%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「不安を感じていることは、特にない」がいずれも16.7%となっています。

「通所系_15回以上」では「夜間の排泄」が100.0%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が66.7%、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「服薬」、「認知症状への対応」がいずれも33.3%となっています。

図表 3-2-19 介護者が不安を感じる介護（要介護3以上） 通所系サービス利用回数別



(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。

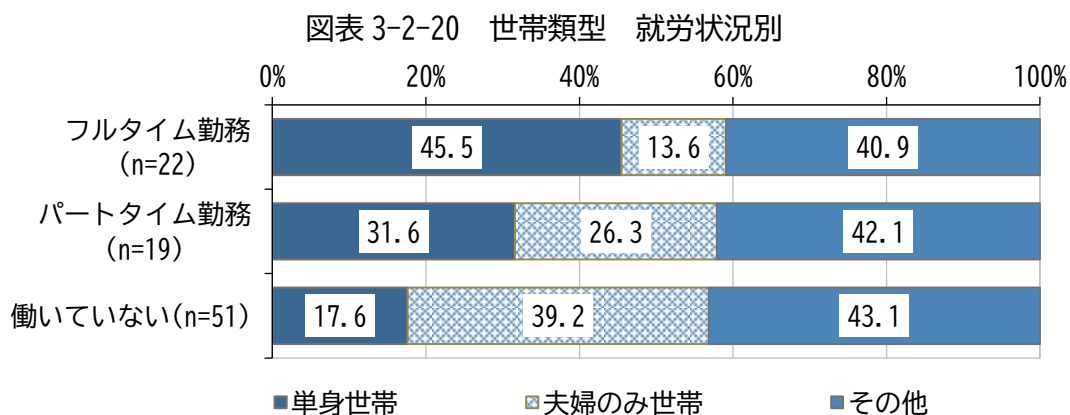
① 基礎集計

i) 就労状況別でみる世帯類型

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「単身世帯」が45.5%と最も割合が高く、次いで「その他」が40.9%、「夫婦のみ世帯」が13.6%となっています。

「パートタイム勤務」では「その他」が42.1%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が31.6%、「夫婦のみ世帯」が26.3%となっています。

「働いていない」では「その他」が43.1%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が39.2%、「単身世帯」が17.6%となっています。



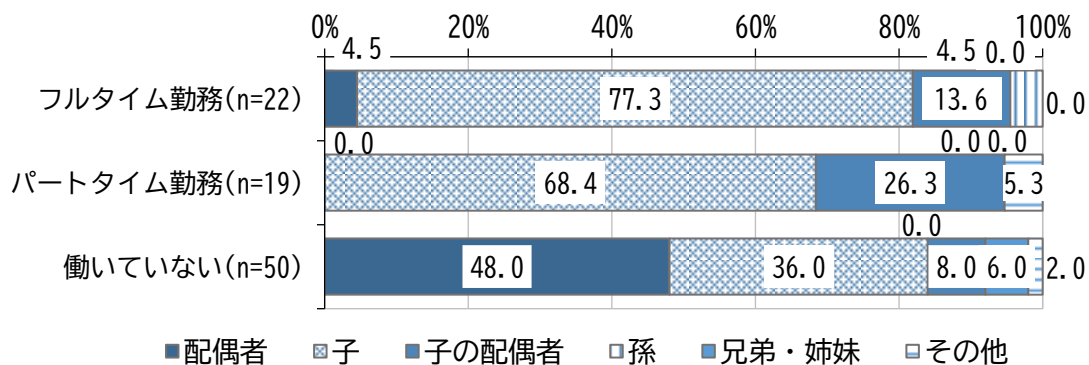
ii) 就労状況別でみる主な介護者の本人との関係

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が77.3%と最も割合が高く、次いで「子の配偶者」が13.6%、「配偶者」、「孫」がいずれも4.5%となっています。

「パートタイム勤務」では「子」が68.4%と最も割合が高く、次いで「子の配偶者」が26.3%、「その他」が5.3%となっています。

「働いていない」では「配偶者」が48.0%と最も割合が高く、次いで「子」が36.0%、「子の配偶者」が8.0%となっています。

図表 3-2-21 主な介護者の本人との関係 就労状況別



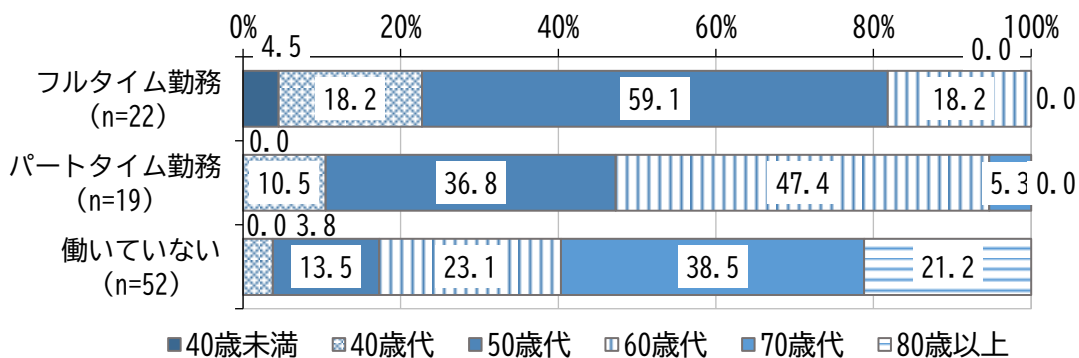
iii) 就労状況別でみる主な介護者の年齢

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50 歳代」が 59.1%と最も割合が高く、次いで「40 歳代」、「60 歳代」がいずれも 18.2%となっています。

「パートタイム勤務」では「60 歳代」が47.4%と最も割合が高く、次いで「50 歳代」が36.8%、「40 歳代」が10.5%となっています。

「働いていない」では「70 歳代」が 38.5%と最も割合が高く、次いで「60 歳代」が 23.1%、「80 歳以上」が21.2%となっています。

図表 3-2-22 主な介護者の年齢 就労状況別



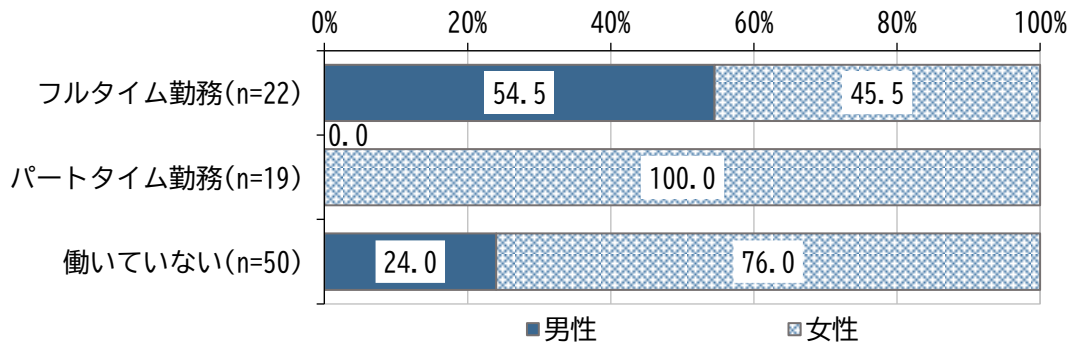
iv) 就労状況別でみる主な介護者の性別

介護者の性別を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「男性」が54.5%と最も割合が高く、次いで「女性」が45.5%となっています。

「パートタイム勤務」では「女性」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「働いていない」では「女性」が76.0%と最も割合が高く、次いで「男性」が24.0%となっています。

図表 3-2-23 主な介護者の性別 就労状況別



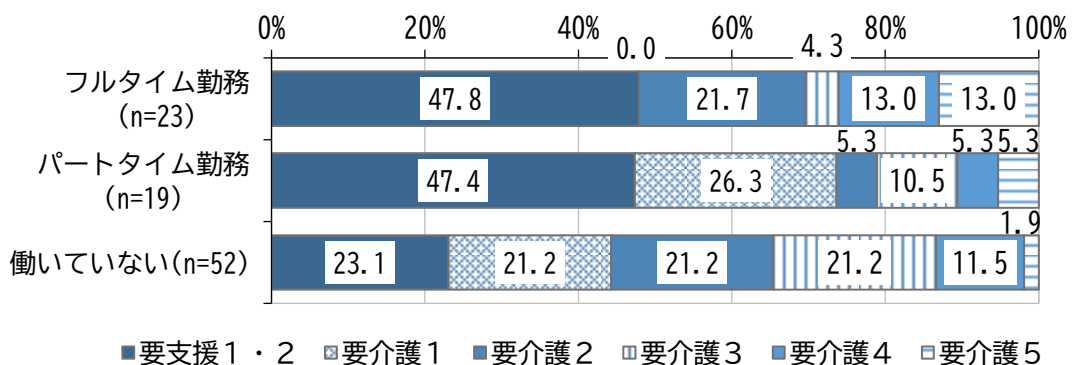
v) 就労状況別でみる要介護度

二次判定結果を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要支援1・2」が47.8%と最も割合が高く、次いで「要介護2」が21.7%、「要介護4」、「要介護5」がいずれも13.0%となっています。

「パートタイム勤務」では「要支援1・2」が47.4%と最も割合が高く、次いで「要介護1」が26.3%、「要介護3」が10.5%となっています。

「働いていない」では「要支援1・2」が23.1%と最も割合が高く、次いで「要介護1」、「要介護2」、「要介護3」がいずれも21.2%となっています。

図表 3-2-24 要介護度 就労状況別

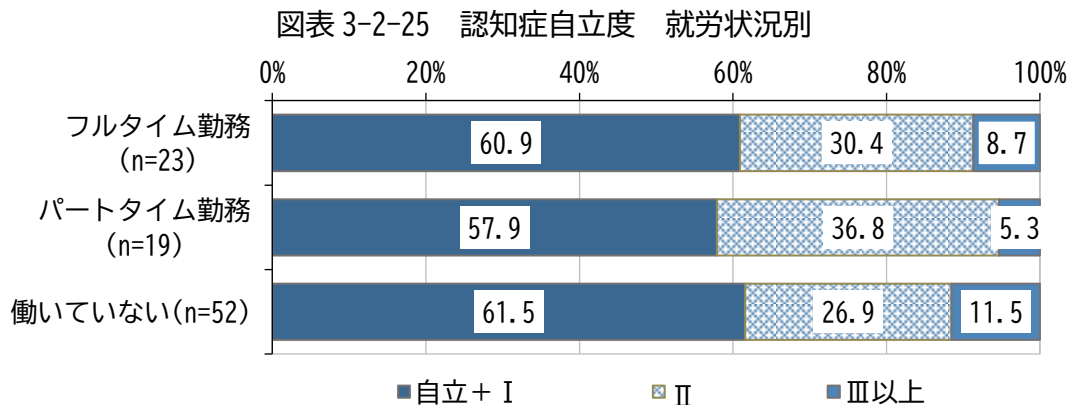


vi) 就労状況別でみる認知症自立度

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「自立+I」が60.9%と最も割合が高く、次いで「II」が30.4%、「III以上」が8.7%となっています。

「パートタイム勤務」では「自立+I」が57.9%と最も割合が高く、次いで「II」が36.8%、「III以上」が5.3%となっています。

「働いていない」では「自立+I」が61.5%と最も割合が高く、次いで「II」が26.9%、「III以上」が11.5%となっています。



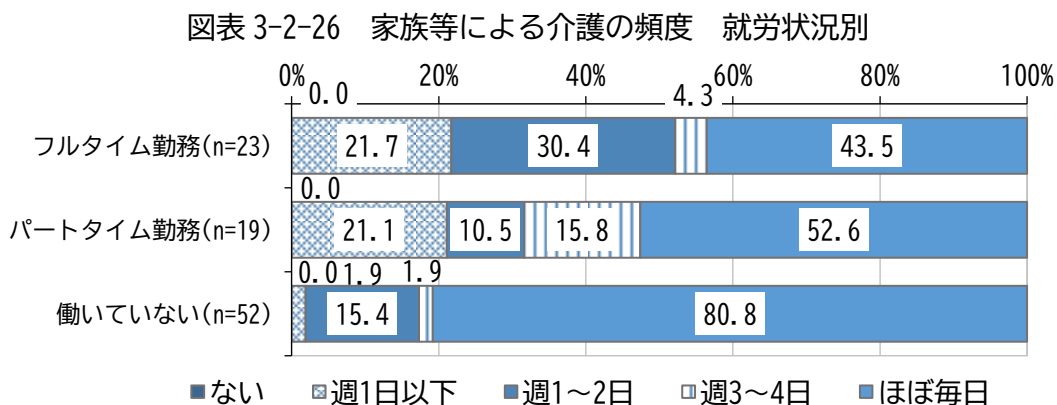
② 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

i) 就労状況別でみる家族等による介護の頻度

家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が43.5%と最も割合が高く、次いで「週1~2日」が30.4%、「週1日以下」が21.7%となっています。

「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が52.6%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が21.1%、「週3~4日」が15.8%となっています。

「働いていない」では「ほぼ毎日」が80.8%と最も割合が高く、次いで「週1~2日」が15.4%、「週1日以下」、「週3~4日」がいずれも1.9%となっています。



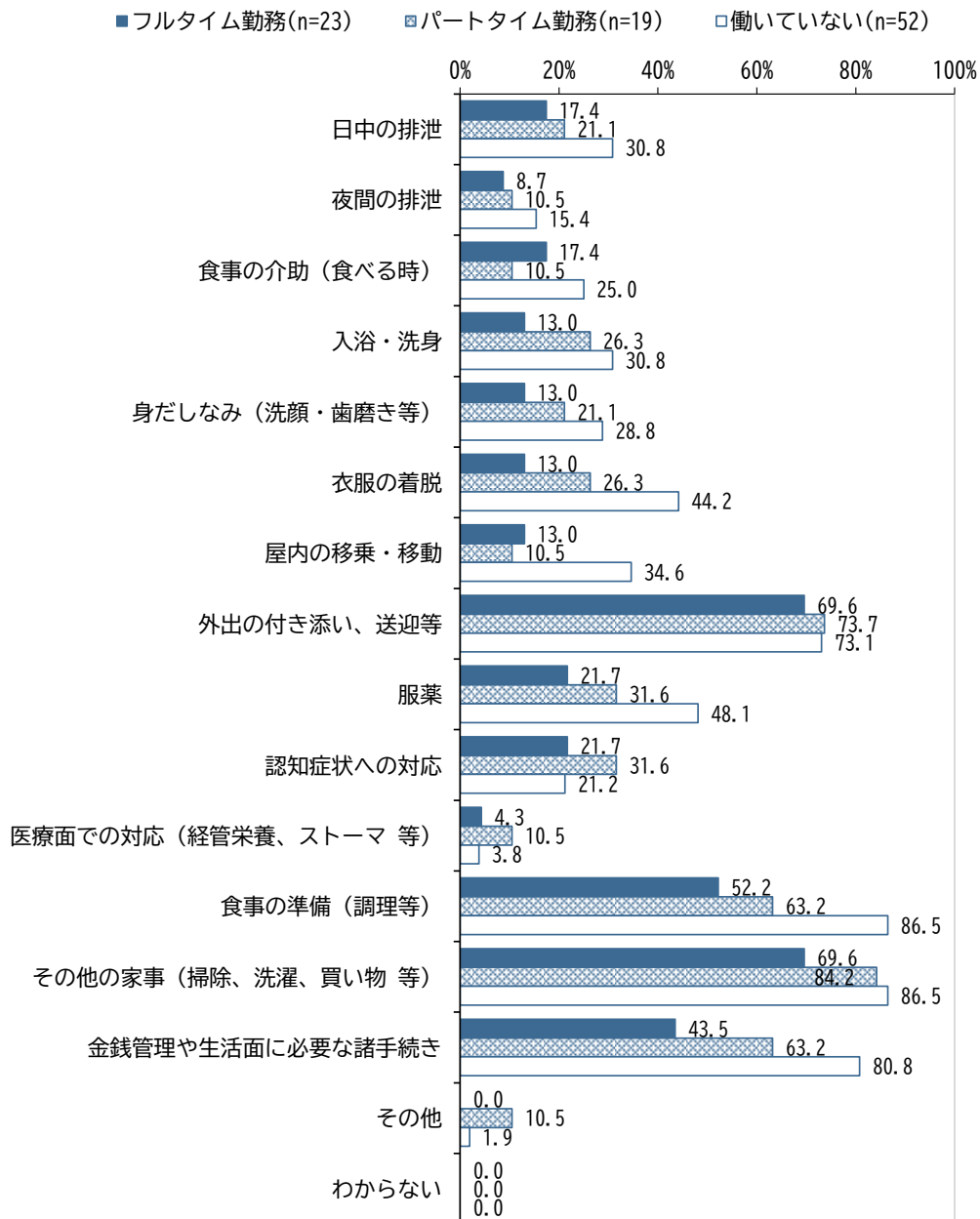
ii) 就労状況別でみる主な介護者が行っている介護

介護者が行っている介護を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」がいずれも 69.6%と最も割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が 52.2%となっています。

「パートタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 84.2%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 73.7%、「食事の準備（調理等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」がいずれも 63.2%となっています。

「働いていない」では「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」がいずれも 86.5%と最も割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 80.8%となっています。

図表 3-2-27 主な介護者が行っている介護 就労状況別

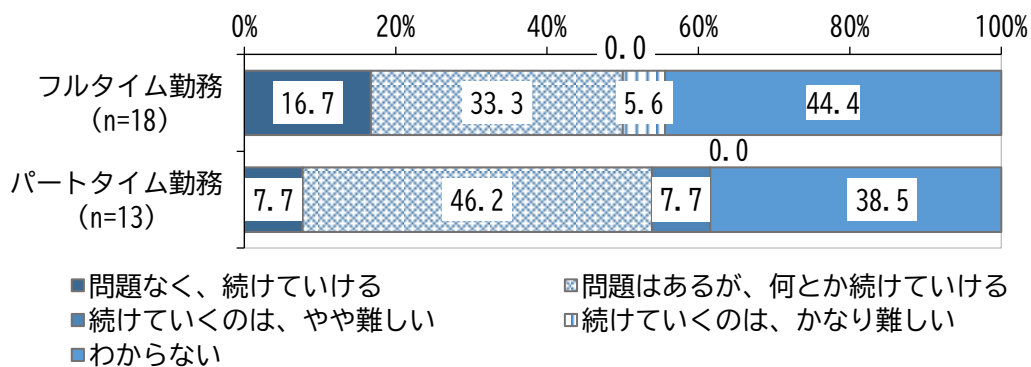


iii) 就労状況別でみる就労継続見込み

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「わからない」が 44.4%と最も割合が高く、次いで「問題はあるが、何とか続けていける」が 33.3%、「問題なく、続けていける」が 16.7%となっています。

「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 46.2%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 38.5%、「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、やや難しい」がいずれも 7.7%となっています。

図表 3-2-28 就労継続見込み 就労状況別

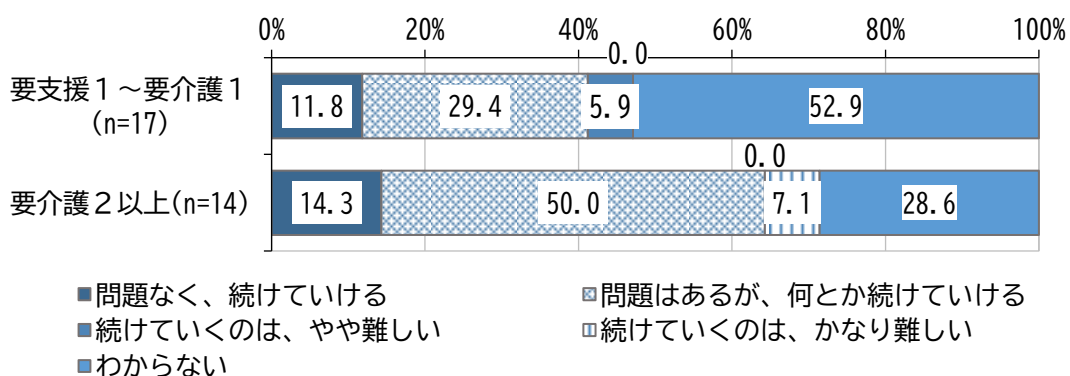


iv) 要介護度別でみる就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

介護者の就労継続の可否に係る意識を二次判定結果別にみると、「要支援1～要介護1」では「わからない」が 52.9%と最も割合が高く、次いで「問題はあるが、何とか続けていける」が 29.4%、「問題なく、続けていける」が 11.8%となっています。

「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 50.0%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 28.6%、「問題なく、続けていける」が 14.3%となっています。

図表 3-2-29 就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務） 要介護度別

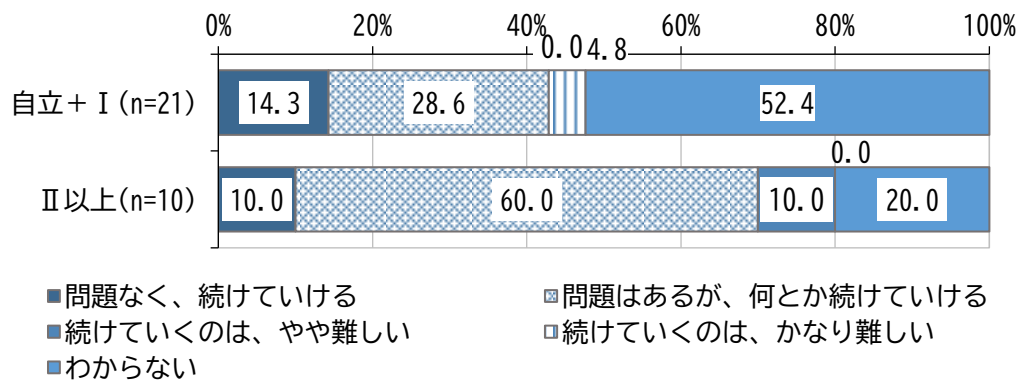


v) 認知症自立度別でみる就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+I」では「わからない」が52.4%と最も割合が高く、次いで「問題はあるが、何とか続けていける」が28.6%、「問題なく、続けていける」が14.3%となっています。

「II以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が60.0%と最も割合が高く、次いで「わからない」が20.0%、「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、やや難しい」がいずれも10.0%となっています。

図表 3-2-30 就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務） 認知症自立度別



③ 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

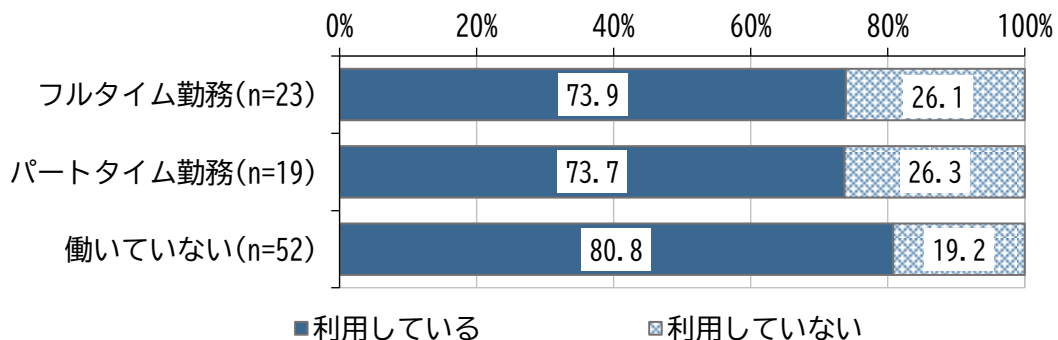
i) 就労状況別でみる介護保険サービス利用の有無

介護保険サービスの利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用している」が73.9%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が26.1%となっています。

「パートタイム勤務」では「利用している」が73.7%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が26.3%となっています。

「働いていない」では「利用している」が80.8%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が19.2%となっています。

図表 3-2-31 介護保険サービス利用の有無 就労状況別



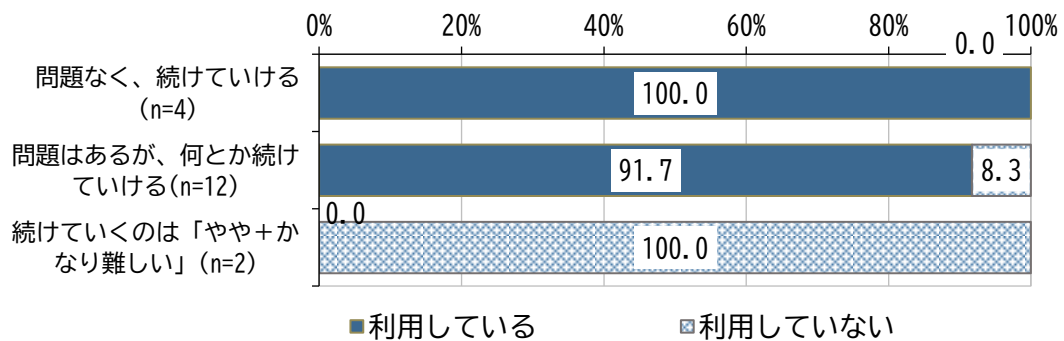
ii) 就労継続見込み別でみる介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

介護保険サービスの利用の有無を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「利用している」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「問題はあるが、何とか続けていける」では「利用している」が91.7%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が8.3%となっています。

「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「利用していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

図表 3-2-32 介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務+パートタイム勤務）
就労継続見込み別



④ 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

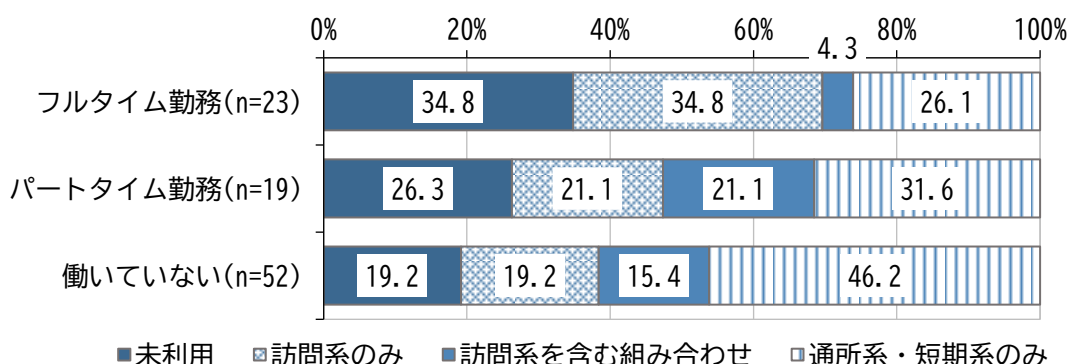
i) 就労状況別でみるサービス利用の組み合わせ

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「未利用」、「訪問系のみ」が 34.8%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が 26.1%、「訪問系を含む組み合わせ」が 4.3%となっています。

「パートタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が 31.6%と最も割合が高く、次いで「未利用」が 26.3%、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」がいずれも 21.1%となっています。

「働いていない」では「通所系・短期系のみ」が 46.2%と最も割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系のみ」が 19.2%、「訪問系を含む組み合わせ」が 15.4%となっています。

図表 3-2-33 サービス利用の組み合わせ 就労状況別



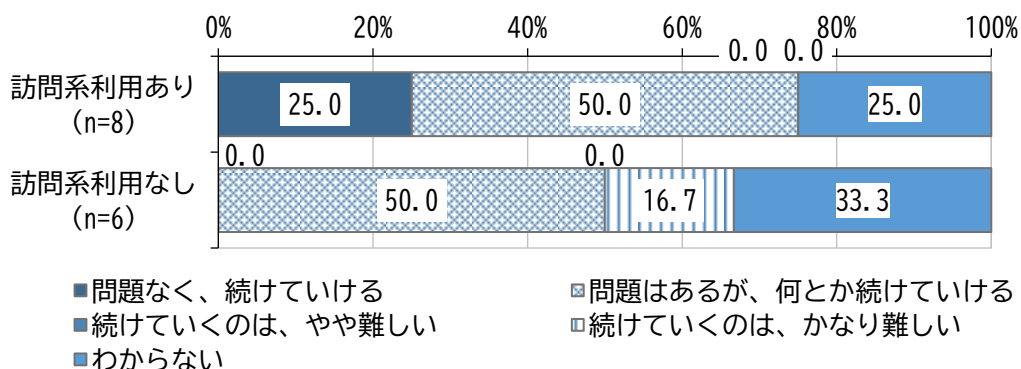
ii) サービス利用の組み合わせ別でみる就労継続見込み（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 50.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」、「わからない」がいずれも 25.0%となっています。

「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 50.0%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 33.3%、「続けていくのは、かなり難しい」が 16.7%となっています。

図表 3-2-34 就労継続見込み 訪問系の利用の有無別

(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)

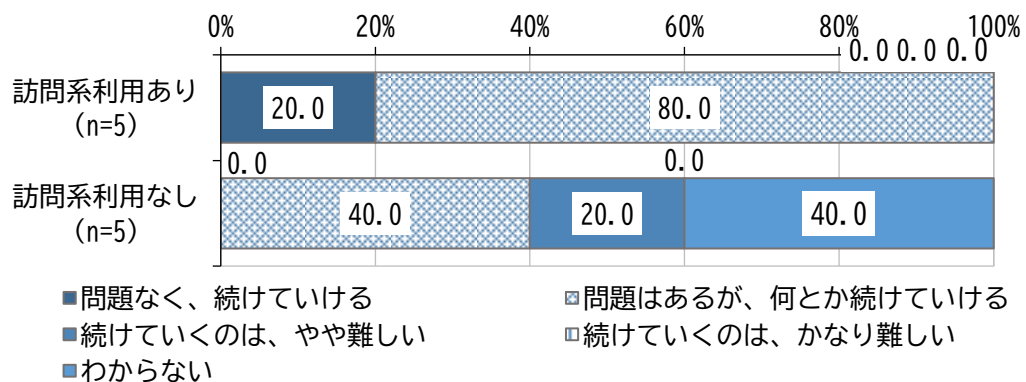


iii) サービス利用の組み合わせ別でみる就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 80.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が 20.0%となっています。

「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」、「わからない」がいずれも 40.0%と最も割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が 20.0%となっています。

図表 3-2-35 就労継続見込み 訪問系の利用の有無別
(認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)

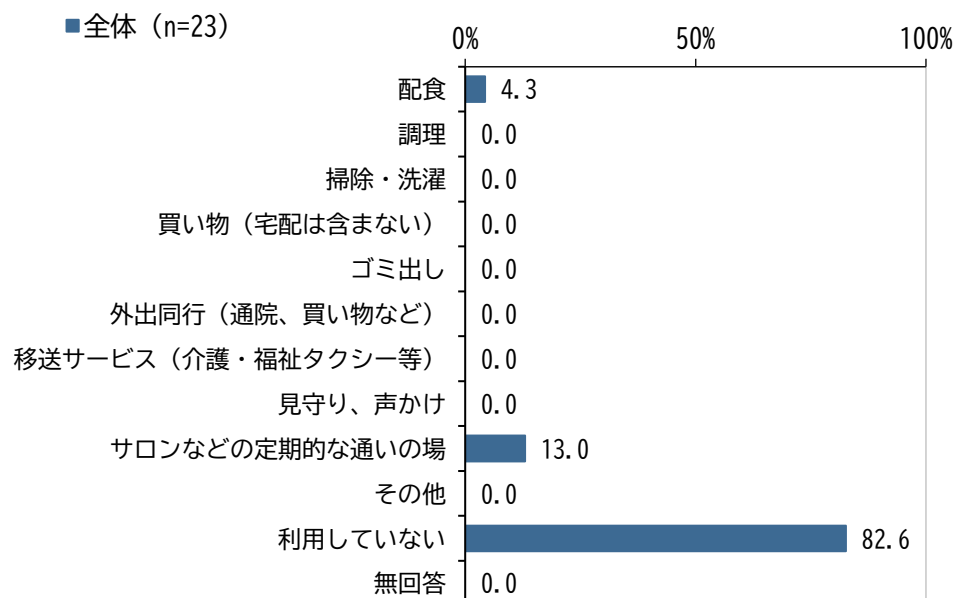


⑤ 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

i) 利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）

「利用していない」の割合が最も高く 82.6%となっています。次いで、「サロンなどの定期的な通いの場（13.0%）」、「配食（4.3%）」となっています。

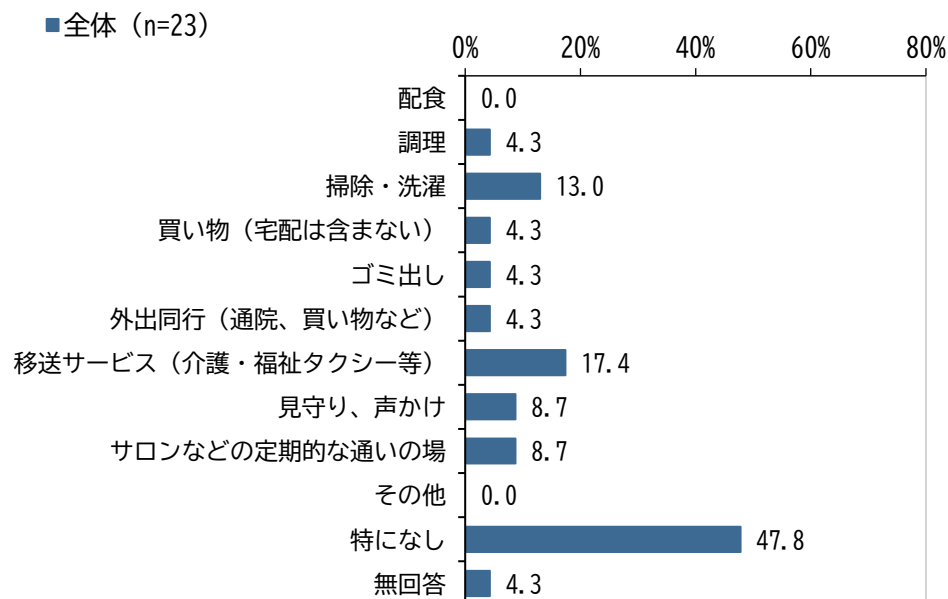
図表 3-2-36 利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



ii) 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）

「特になし」の割合が最も高く 47.8%となっています。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（17.4%）」、「掃除・洗濯（13.0%）」となっています。

図表 3-2-37 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



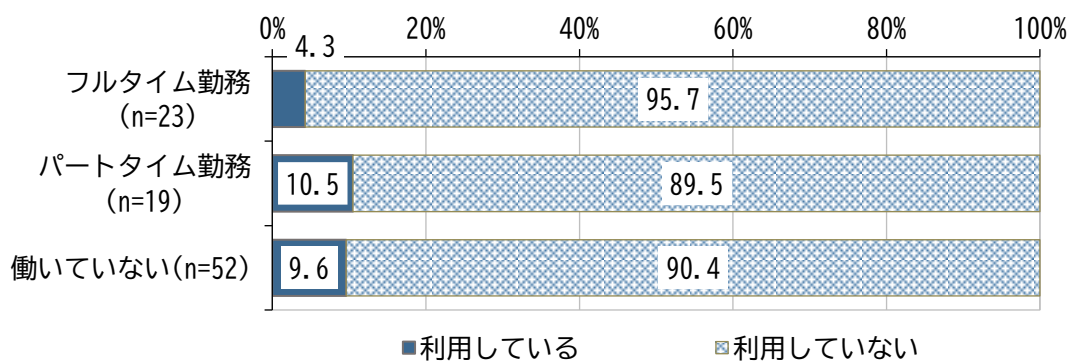
iii) 就労状況別でみる訪問診療の利用の有無

訪問診療の利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用していない」が95.7%と最も割合が高く、次いで「利用している」が4.3%となっています。

「パートタイム勤務」では「利用していない」が89.5%と最も割合が高く、次いで「利用している」が10.5%となっています。

「働いていない」では「利用していない」が90.4%と最も割合が高く、次いで「利用している」が9.6%となっています。

図表 3-2-38 訪問診療の利用の有無 就労状況別



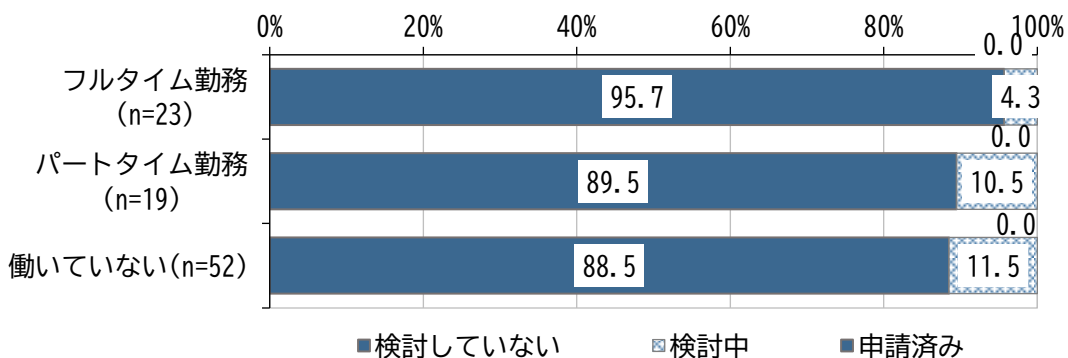
iv) 就労状況別・施設等検討の状況

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「検討していない」が95.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が4.3%となっています。

「パートタイム勤務」では「検討していない」が89.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が10.5%となっています。

「働いていない」では「検討していない」が88.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が11.5%となっています。

図表 3-2-39 施設等検討の状況 就労状況別



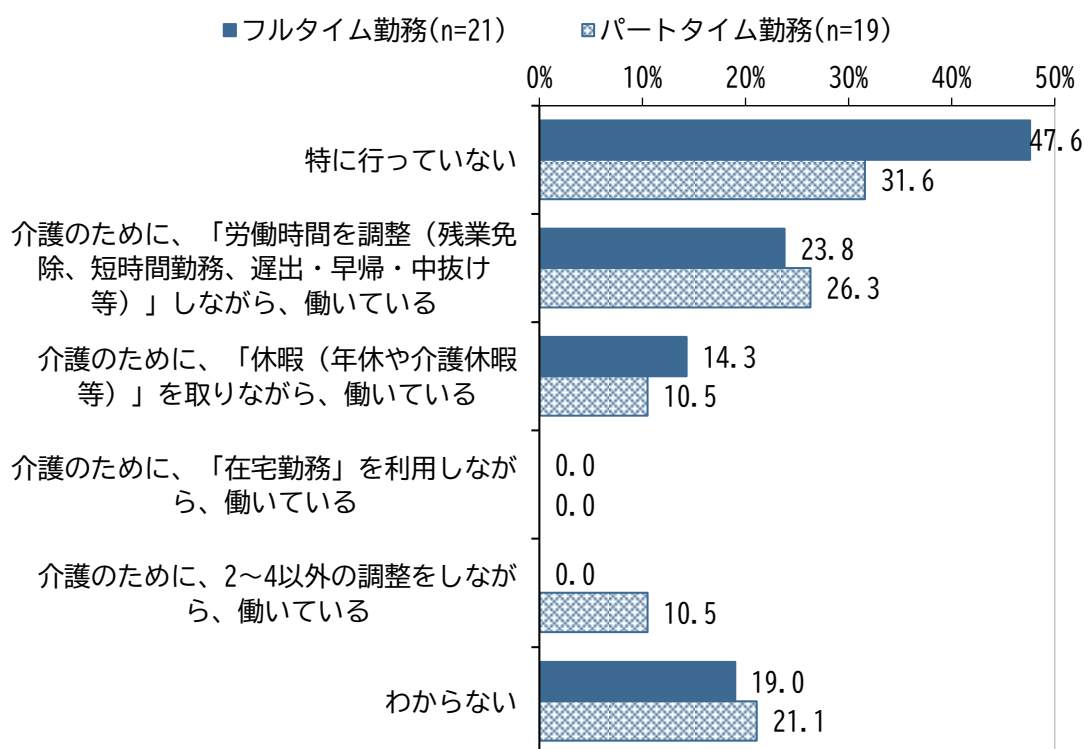
⑥ 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

i) 就労状況別でみる介護のための働き方の調整

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「特に行っていない」が47.6%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が23.8%、「わからない」が19.0%となっています。

「パートタイム勤務」では「特に行っていない」が31.6%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が26.3%、「わからない」が21.1%となっています。

図表 3-2-40 介護のための働き方の調整 就労状況別

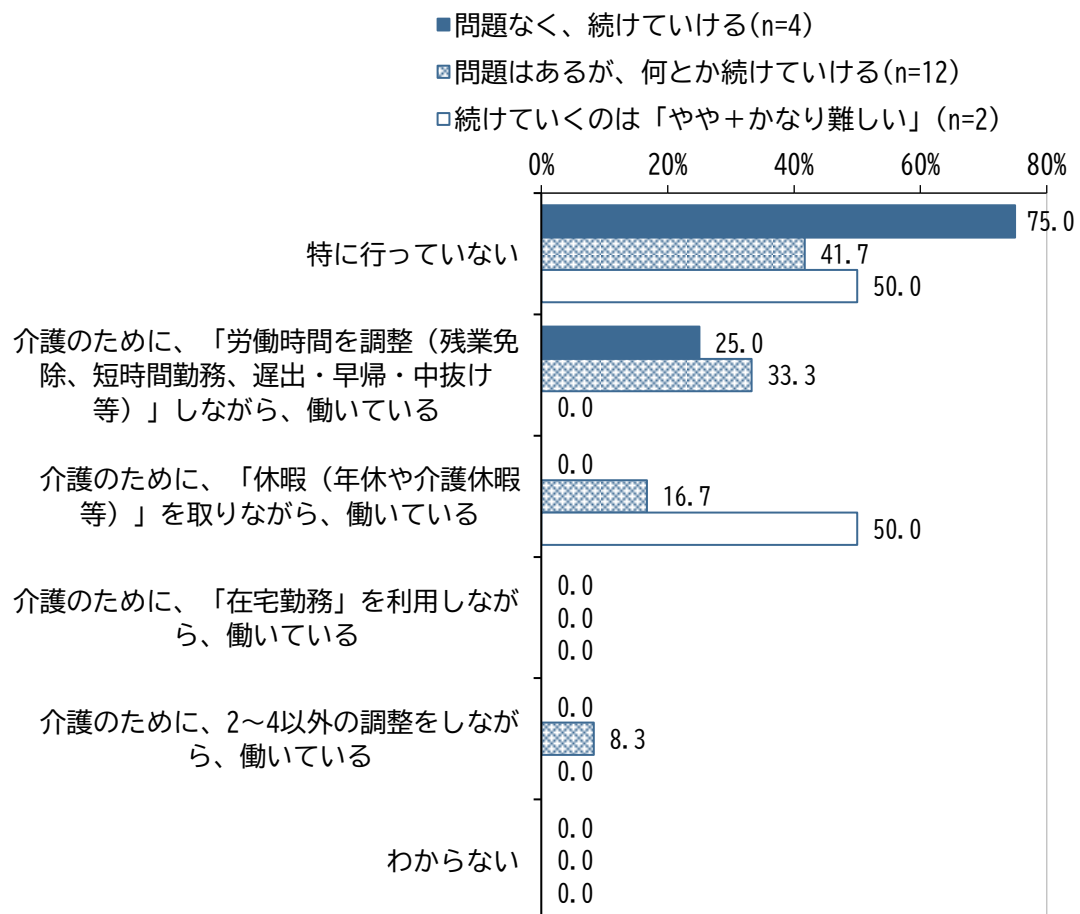


ii) 就労継続見込み別でみる介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務）
 介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が75.0%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が25.0%となっています。

「問題はあるが、何とか続けていける」では「特に行っていない」が41.7%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が33.3%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が16.7%となっています。

「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「特に行っていない」、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」がいずれも50.0%と最も割合が高くなっています。

図表 3-2-41 介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務）
 就労継続見込み別

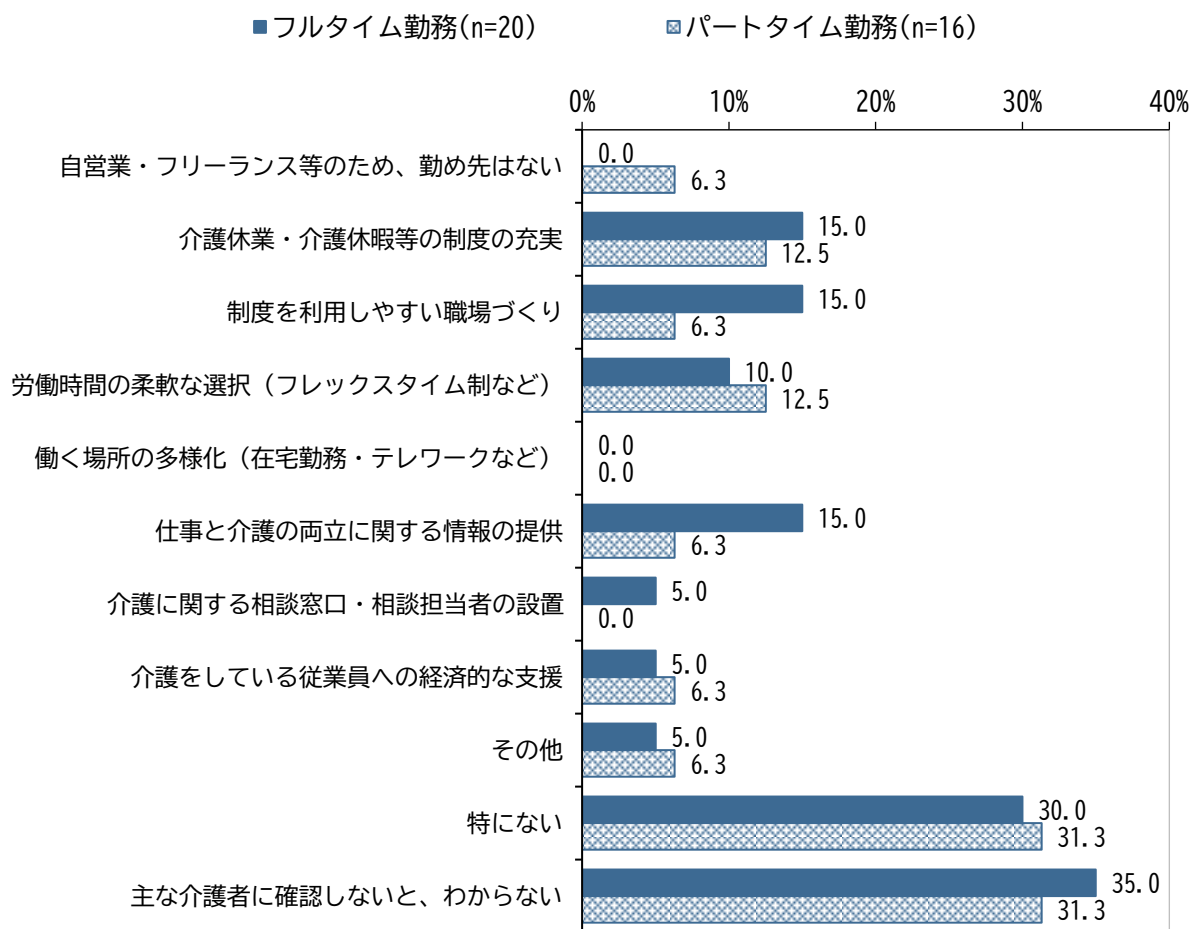


iii) 就労状況別でみる効果的な勤め先からの支援

効果的な勤め先からの支援を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「主な介護者に確認しないと、わからない」が35.0%と最も割合が高く、次いで「特にない」が30.0%、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「制度を利用しやすい職場づくり」、「仕事と介護の両立に関する情報の提供」がいずれも15.0%となっています。

「パートタイム勤務」では「特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」がいずれも31.3%と最も割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」がいずれも12.5%となっています。

図表 3-2-42 効果的な勤め先からの支援 就労状況別

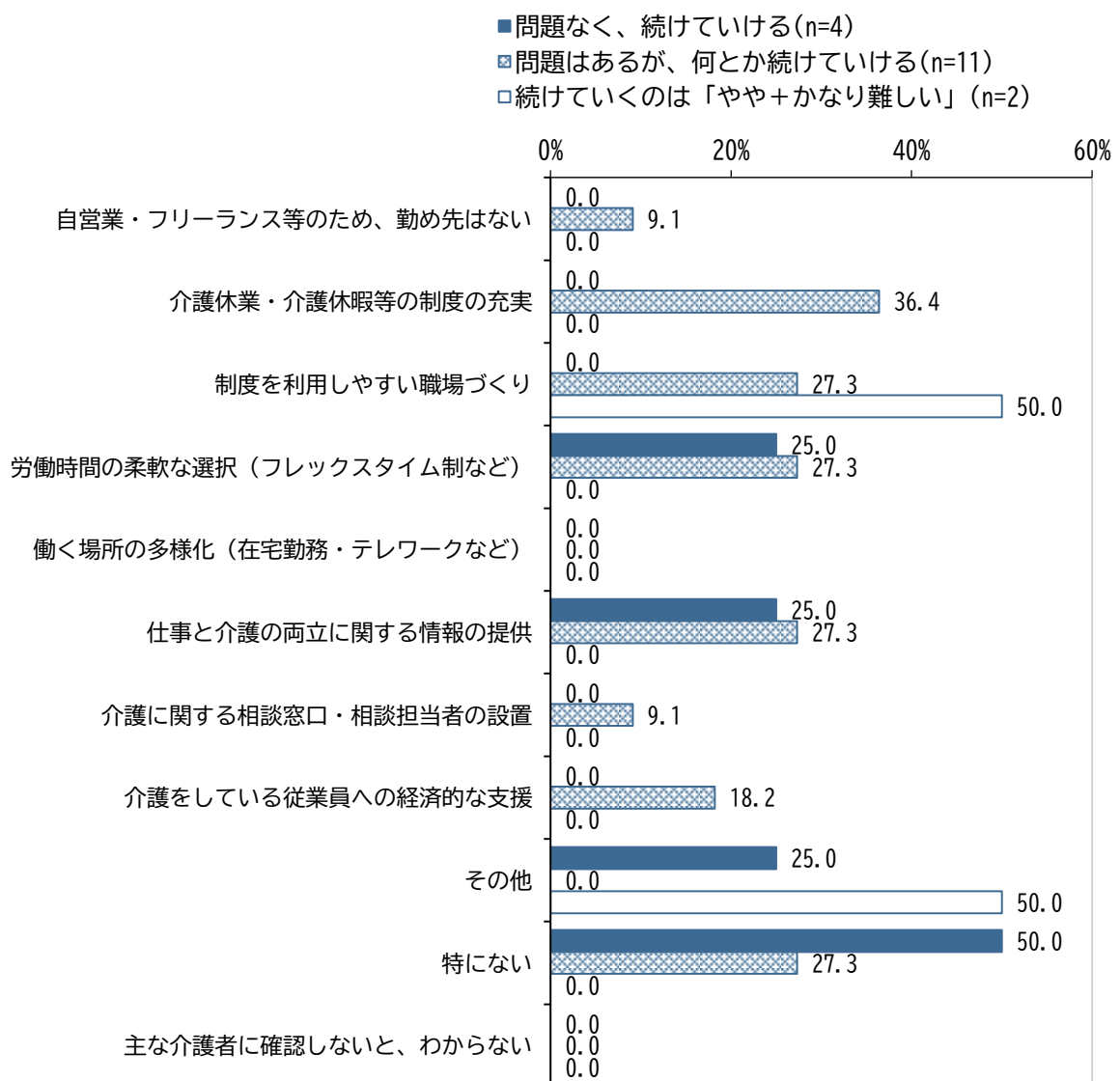


iv) 就労継続見込み別でみる効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務+パートタイム勤務）
 効果的な勤め先からの支援を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特にない」が 50.0%と最も割合が高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」、「仕事と介護の両立に関する情報の提供」、「その他」がいずれも 25.0%となっています。

「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 36.4%と最も割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」、「仕事と介護の両立に関する情報の提供」、「特にない」がいずれも 27.3%となっています。

「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「制度を利用しやすい職場づくり」、「その他」がいずれも 50.0%と最も割合が高くなっています。

図表 3-2-43 効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務+パートタイム勤務）
 就労継続見込み別



(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

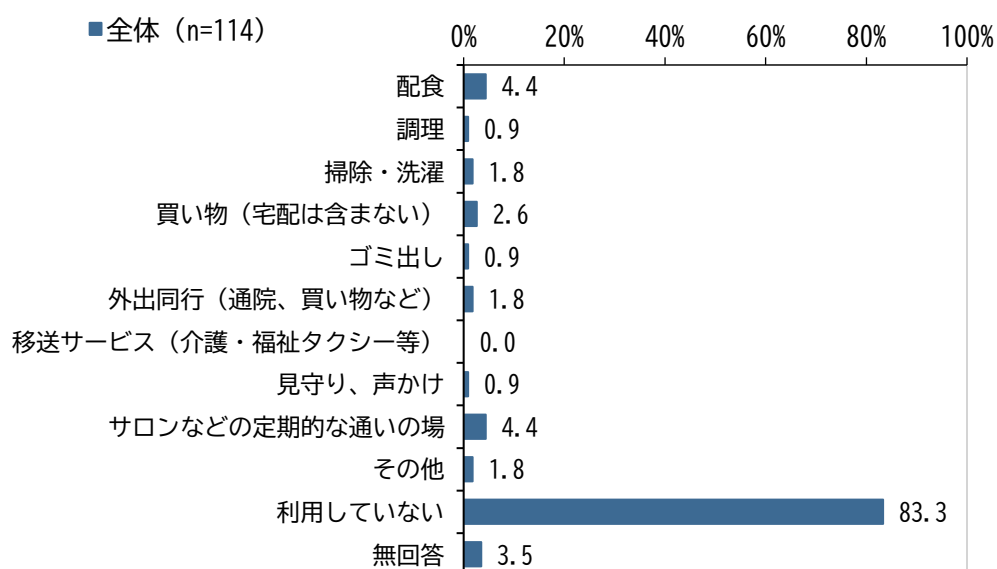
ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。

① 基礎集計

i) 保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」の割合が最も高く 83.3%となっています。次いで、「配食 (4.4%)」、「サロンなどの定期的な通いの場 (4.4%)」、「買い物 (宅配は含まない) (2.6%)」となっています。

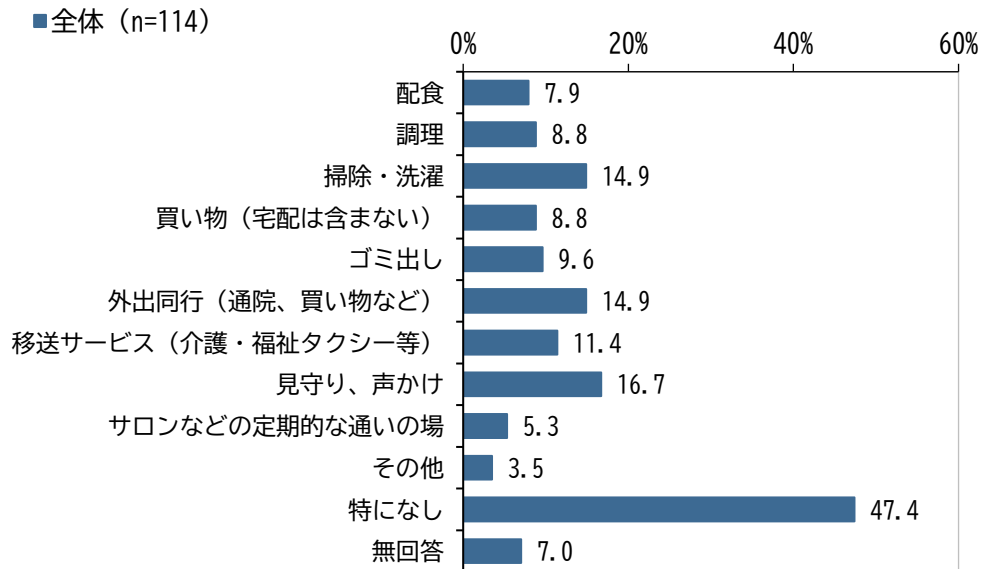
図表 3-2-44 保険外の支援・サービスの利用状況



ii) 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

「特になし」の割合が最も高く 47.4%となっています。次いで、「見守り、声かけ (16.7%)」、「掃除・洗濯 (14.9%)」、「外出同行 (通院、買い物など) (14.9%)」となっています。

図表 3-2-45 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



② 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

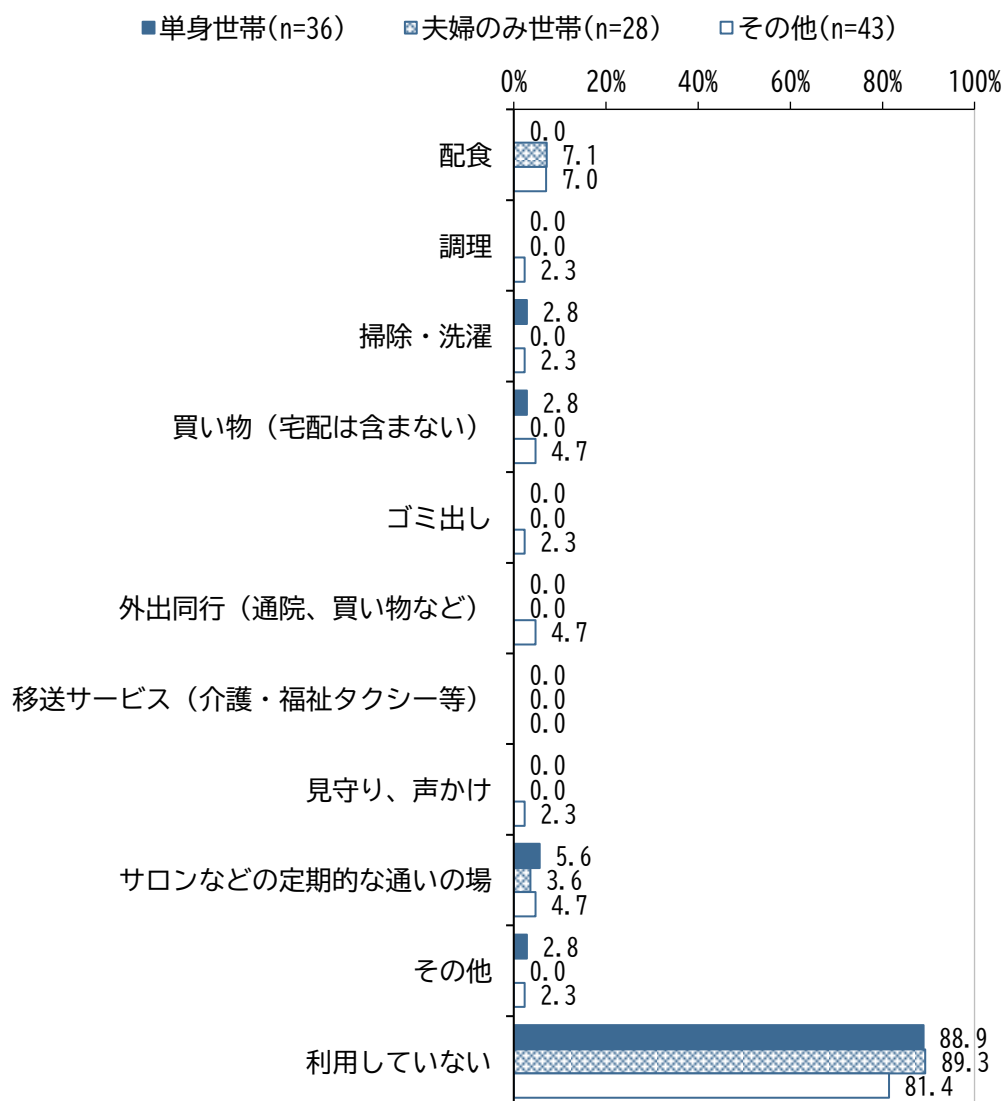
i) 世帯類型別でみる保険外の支援・サービスの利用状況

保険外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が88.9%と最も割合が高く、次いで「サロンなどの定期的な通いの場」が5.6%、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「その他」がいずれも2.8%となっています。

「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が89.3%と最も割合が高く、次いで「配食」が7.1%、「サロンなどの定期的な通いの場」が3.6%となっています。

「その他」では「利用していない」が81.4%と最も割合が高く、次いで「配食」が7.0%、「買い物（宅配は含まない）」、「外出同行（通院、買い物など）」、「サロンなどの定期的な通いの場」がいずれも4.7%となっています。

図表 3-2-46 保険外の支援・サービスの利用状況 世帯類型別



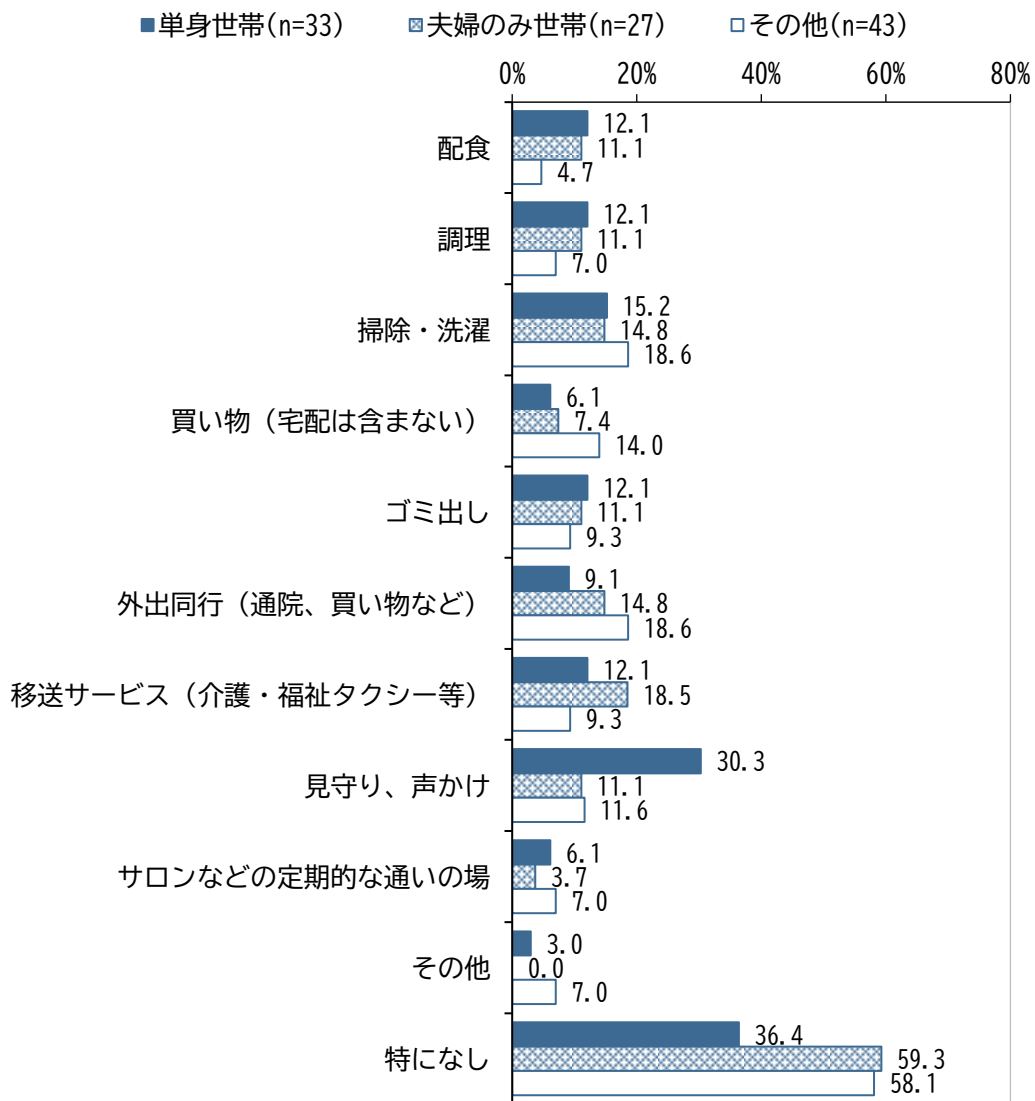
ii) 世帯類型別でみる在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「特になし」が36.4%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が30.3%、「掃除・洗濯」が15.2%となっています。

「夫婦のみ世帯」では「特になし」が59.3%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が18.5%、「掃除・洗濯」、「外出同行（通院、買い物など）」がいずれも14.8%となっています。

「その他」では「特になし」が58.1%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「外出同行（通院、買い物など）」がいずれも18.6%となっています。

図表 3-2-47 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス 世帯類型別



③ 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」

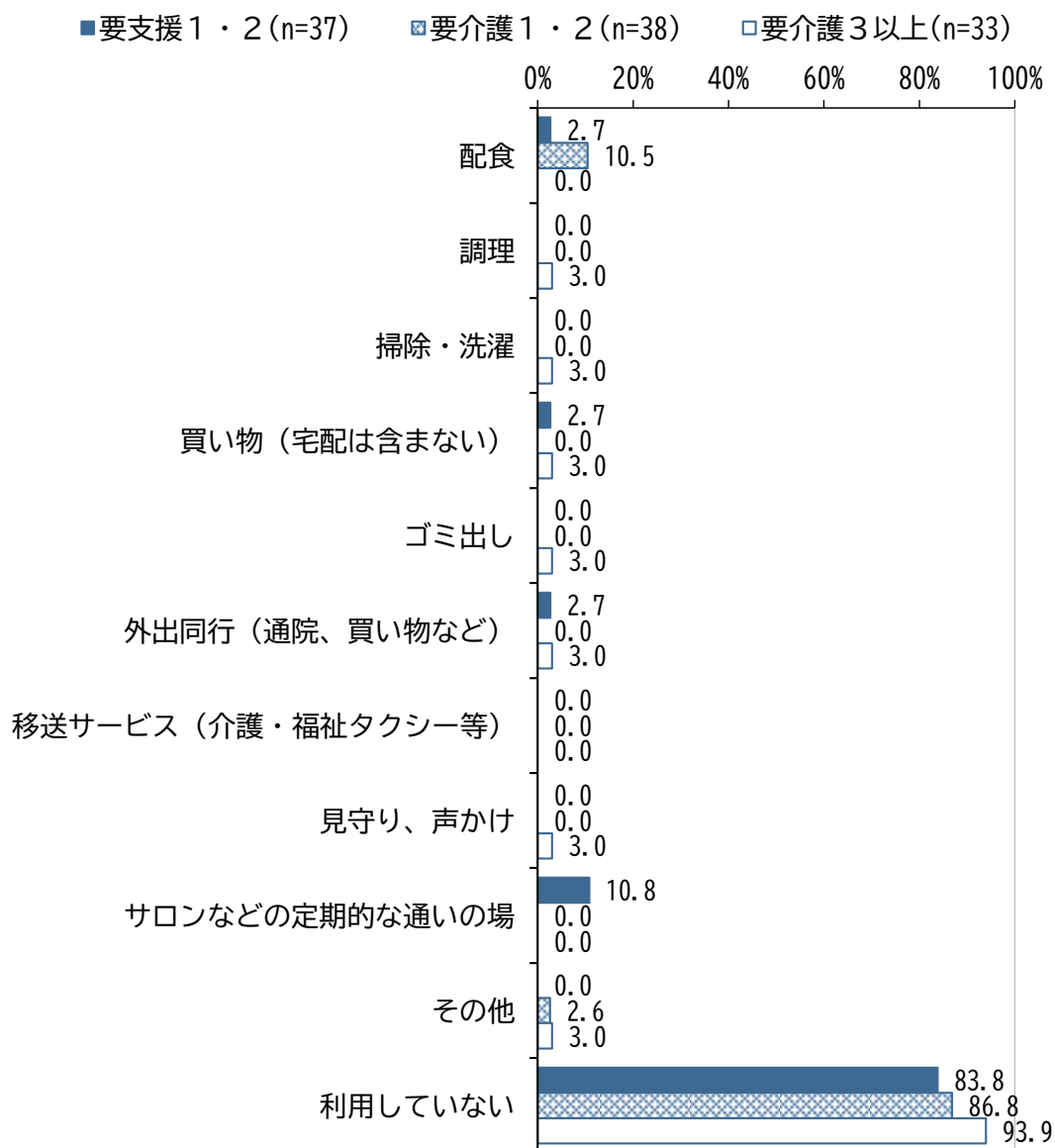
i) 要介護度別でみる保険外の支援・サービスの利用状況

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が83.8%と最も割合が高く、次いで「サロンなどの定期的な通いの場」が10.8%、「配食」、「買い物（宅配は含まない）」、「外出同行（通院、買い物など）」がいずれも2.7%となっています。

「要介護1・2」では「利用していない」が86.8%と最も割合が高く、次いで「配食」が10.5%、「その他」が2.6%となっています。

「要介護3以上」では「利用していない」が93.9%と最も割合が高く、次いで「調理」、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物など）」、「見守り、声かけ」、「その他」がいずれも3.0%となっています。

図表 3-2-48 保険外の支援・サービスの利用状況 要介護度別



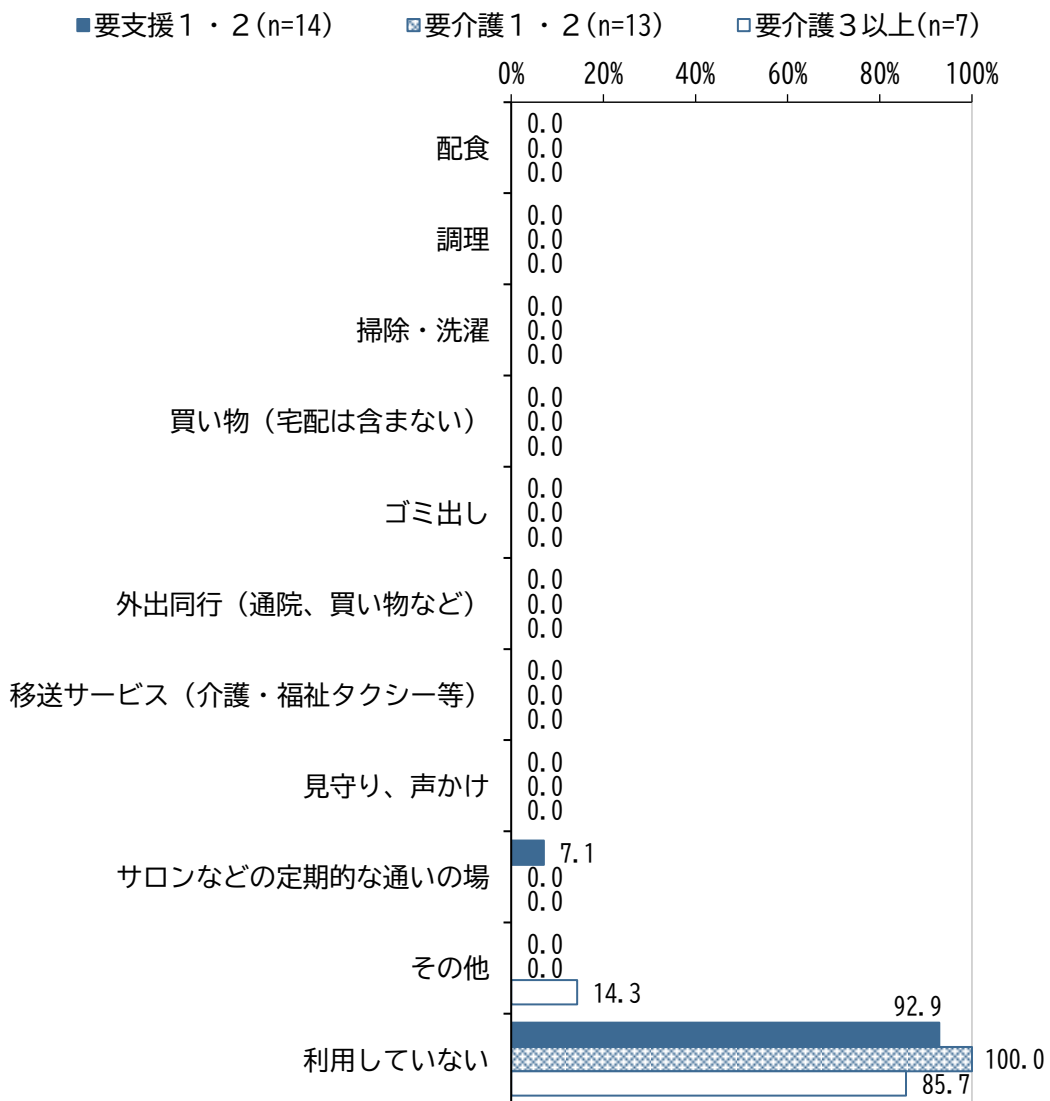
ii) 要介護度別でみる保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が92.9%と最も割合が高く、次いで「サロンなどの定期的な通いの場」が7.1%となっています。

「要介護1・2」では「利用していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「要介護3以上」では「利用していない」が85.7%と最も割合が高く、次いで「その他」が14.3%となっています。

図表 3-2-49 保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯） 要介護度別



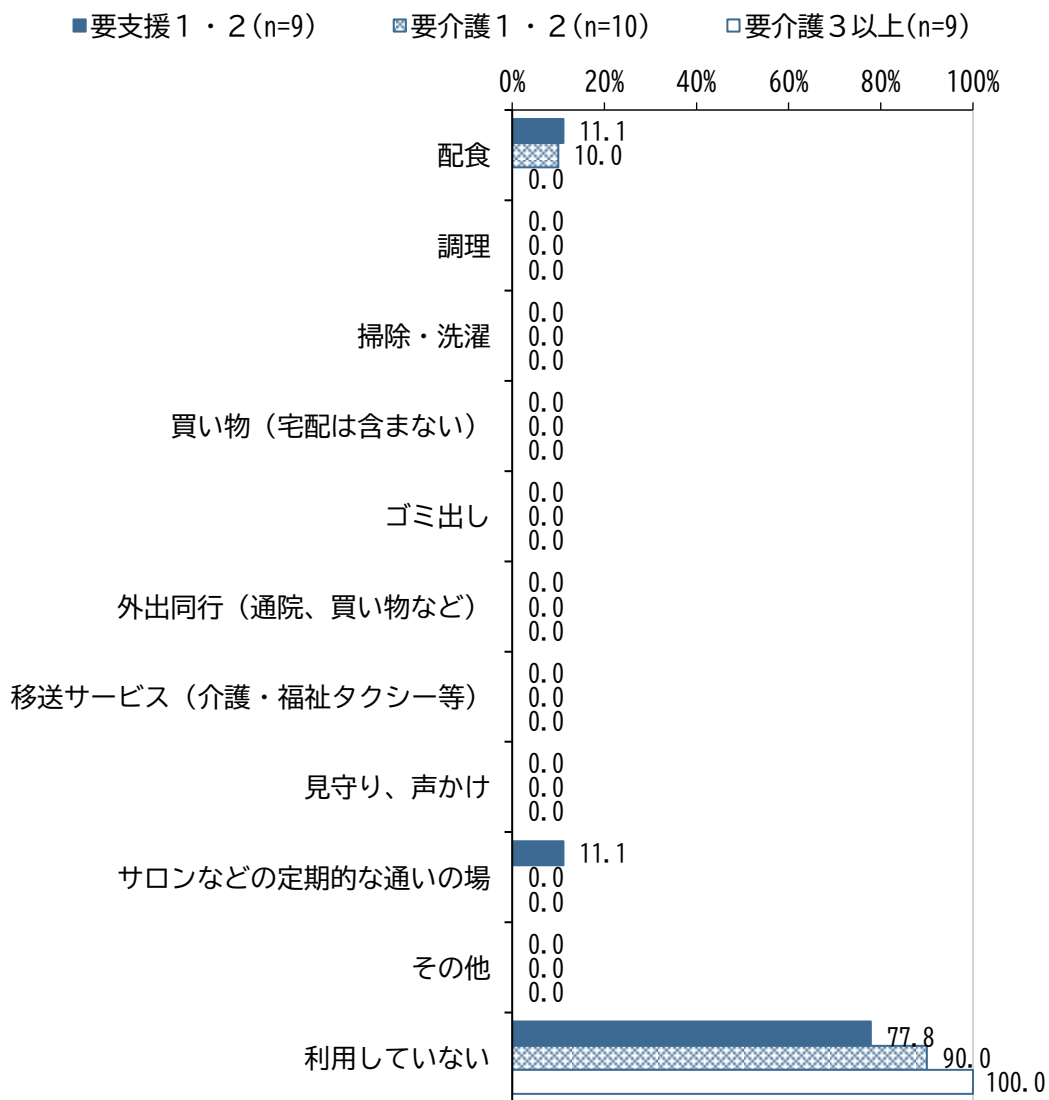
iii) 要介護度別でみる保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が77.8%と最も割合が高く、次いで「配食」、「サロンなどの定期的な通いの場」がいずれも11.1%となっています。

「要介護1・2」では「利用していない」が90.0%と最も割合が高く、次いで「配食」が10.0%となっています。

「要介護3以上」では「利用していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

図表 3-2-50 保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯） 要介護度別



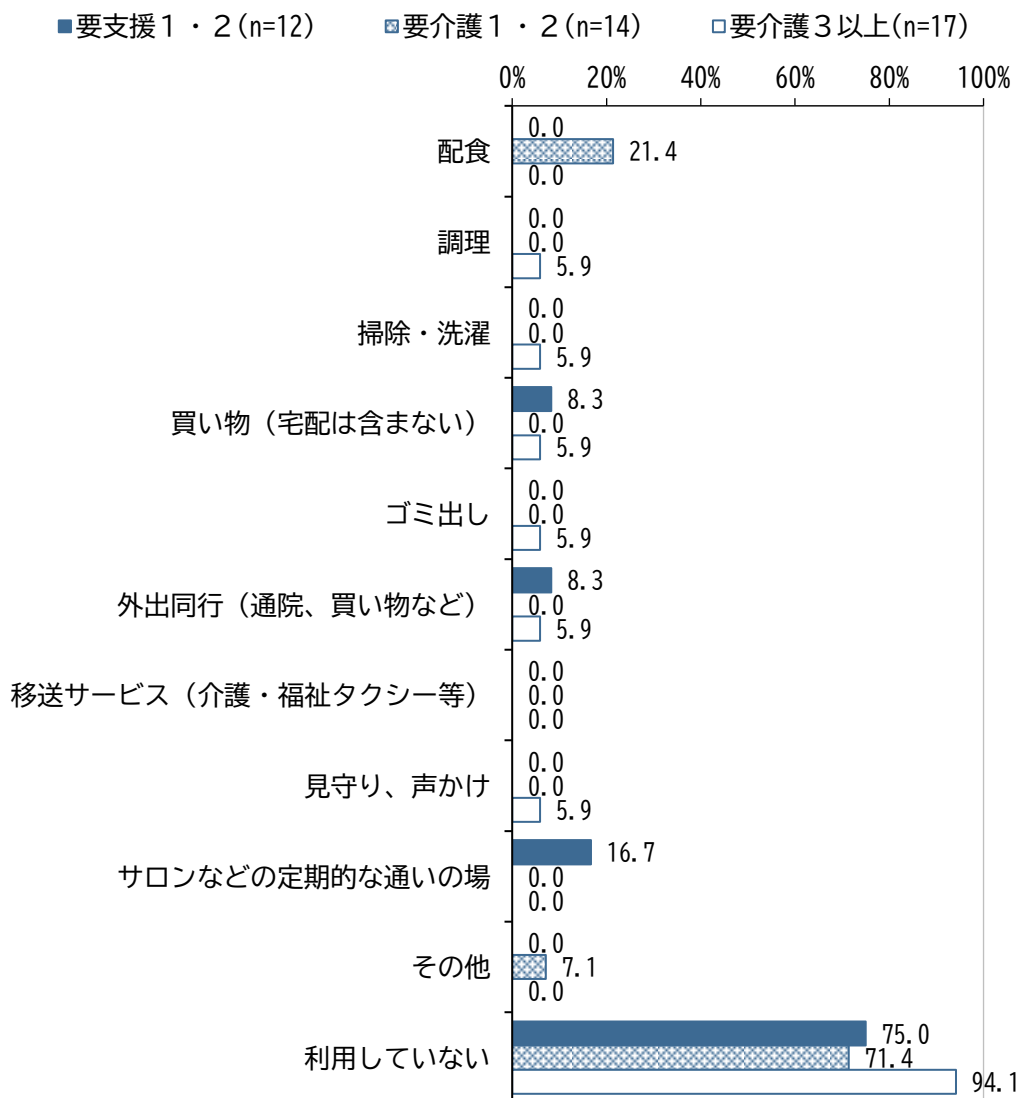
iv) 要介護度別でみる保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が75.0%と最も割合が高く、次いで「サロンなどの定期的な通いの場」が16.7%、「買い物（宅配は含まない）」、「外出同行（通院、買い物など）」がいずれも8.3%となっています。

「要介護1・2」では「利用していない」が71.4%と最も割合が高く、次いで「配食」が21.4%、「その他」が7.1%となっています。

「要介護3以上」では「利用していない」が94.1%と最も割合が高く、次いで「調理」、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物など）」、「見守り、声かけ」がいずれも5.9%となっています。

図表 3-2-51 保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯） 要介護度別



④ 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

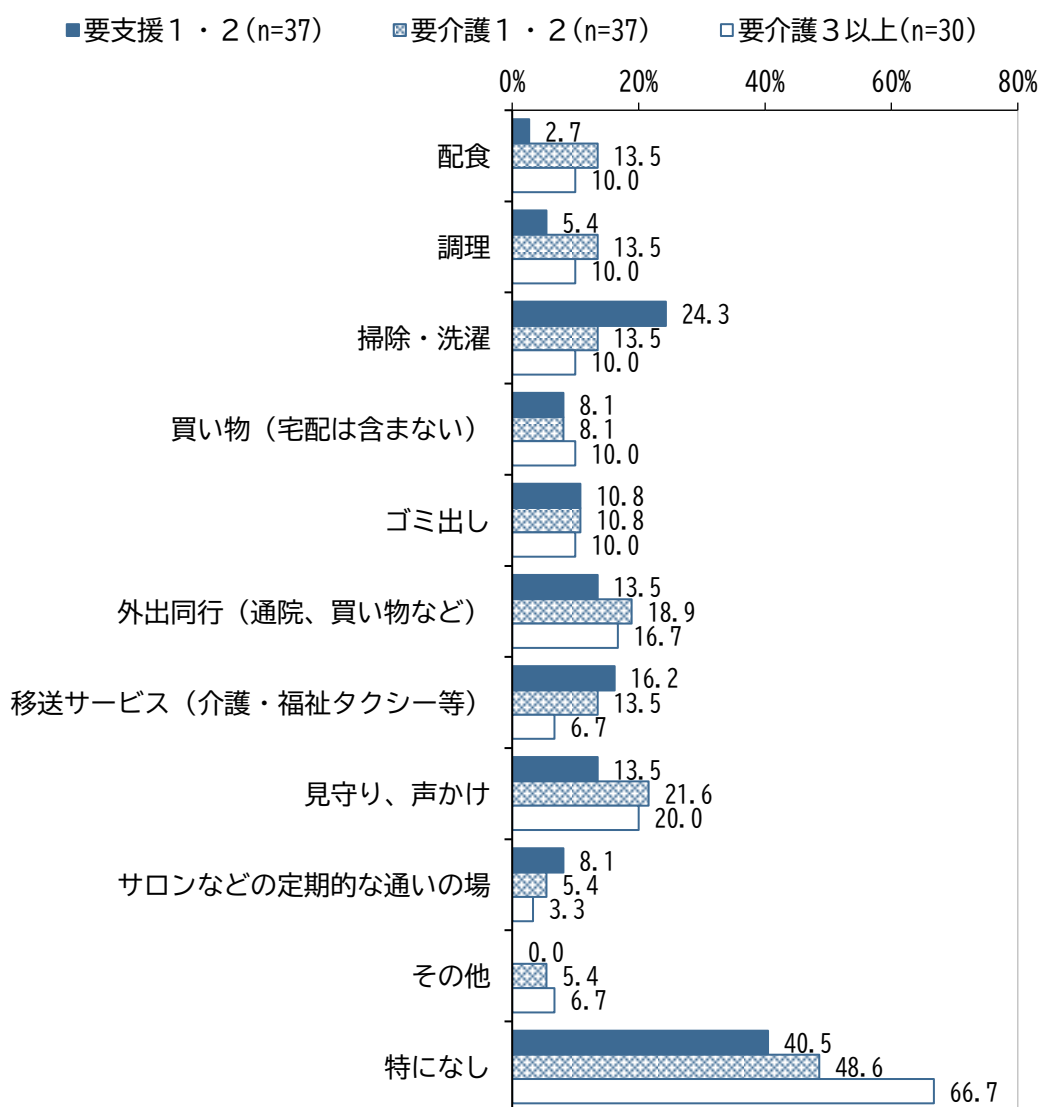
i) 要介護度別でみる在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が40.5%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が24.3%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が16.2%となっています。

「要介護1・2」では「特になし」が48.6%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が21.6%、「外出同行（通院、買い物など）」が18.9%となっています。

「要介護3以上」では「特になし」が66.7%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が20.0%、「外出同行（通院、買い物など）」が16.7%となっています。

図表 3-2-52 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス 要介護度別



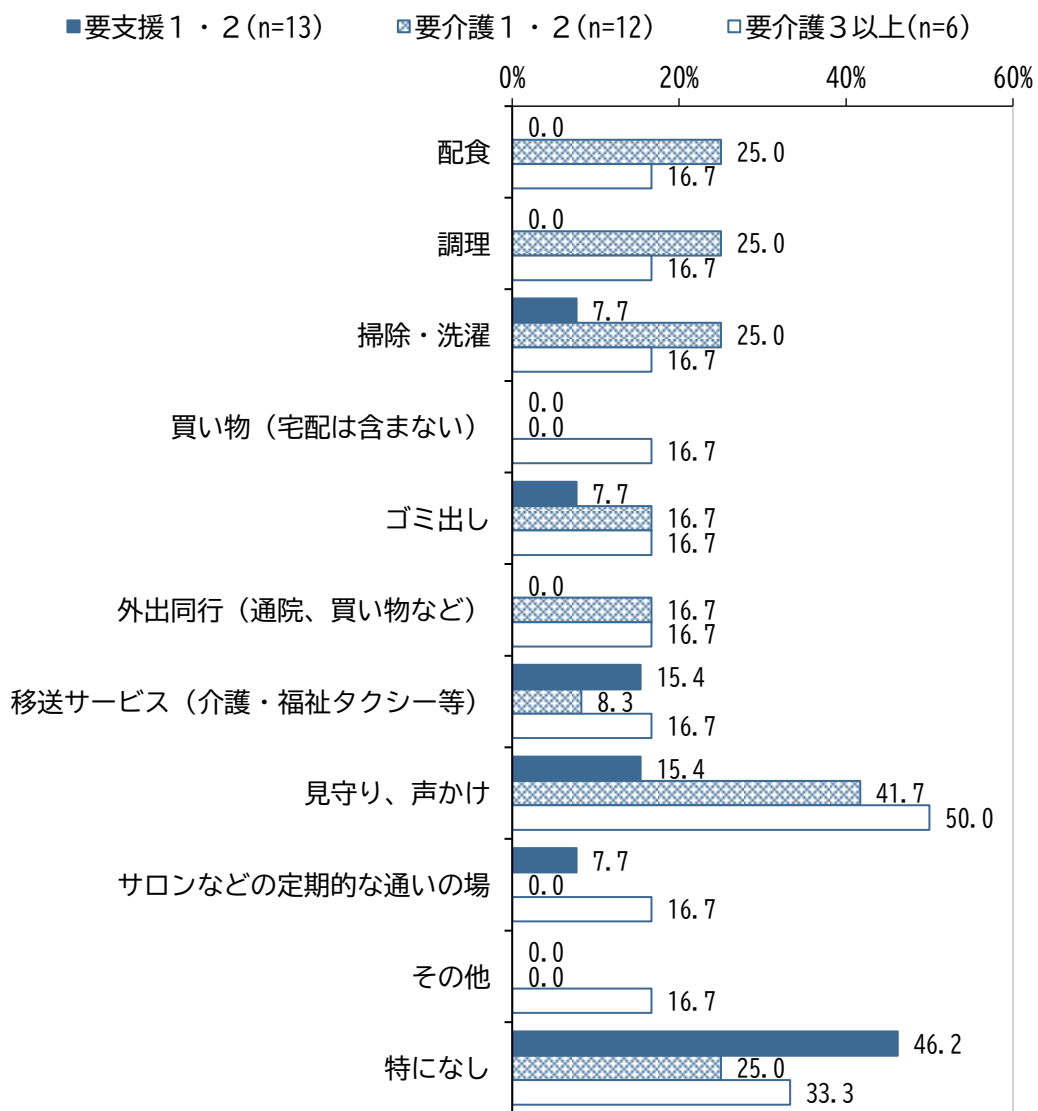
ii) 要介護度別でみる在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が46.2%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」がいずれも15.4%となっています。

「要介護1・2」では「見守り、声かけ」が41.7%と最も割合が高く、次いで「配食」、「調理」、「掃除・洗濯」、「特になし」がいずれも25.0%となっています。

「要介護3以上」では「見守り、声かけ」が50.0%と最も割合が高く、次いで「特になし」が33.3%、「配食」、「調理」、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「サロンなどの定期的な通いの場」、「その他」がいずれも16.7%となっています。

図表 3-2-53 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯） 要介護度別



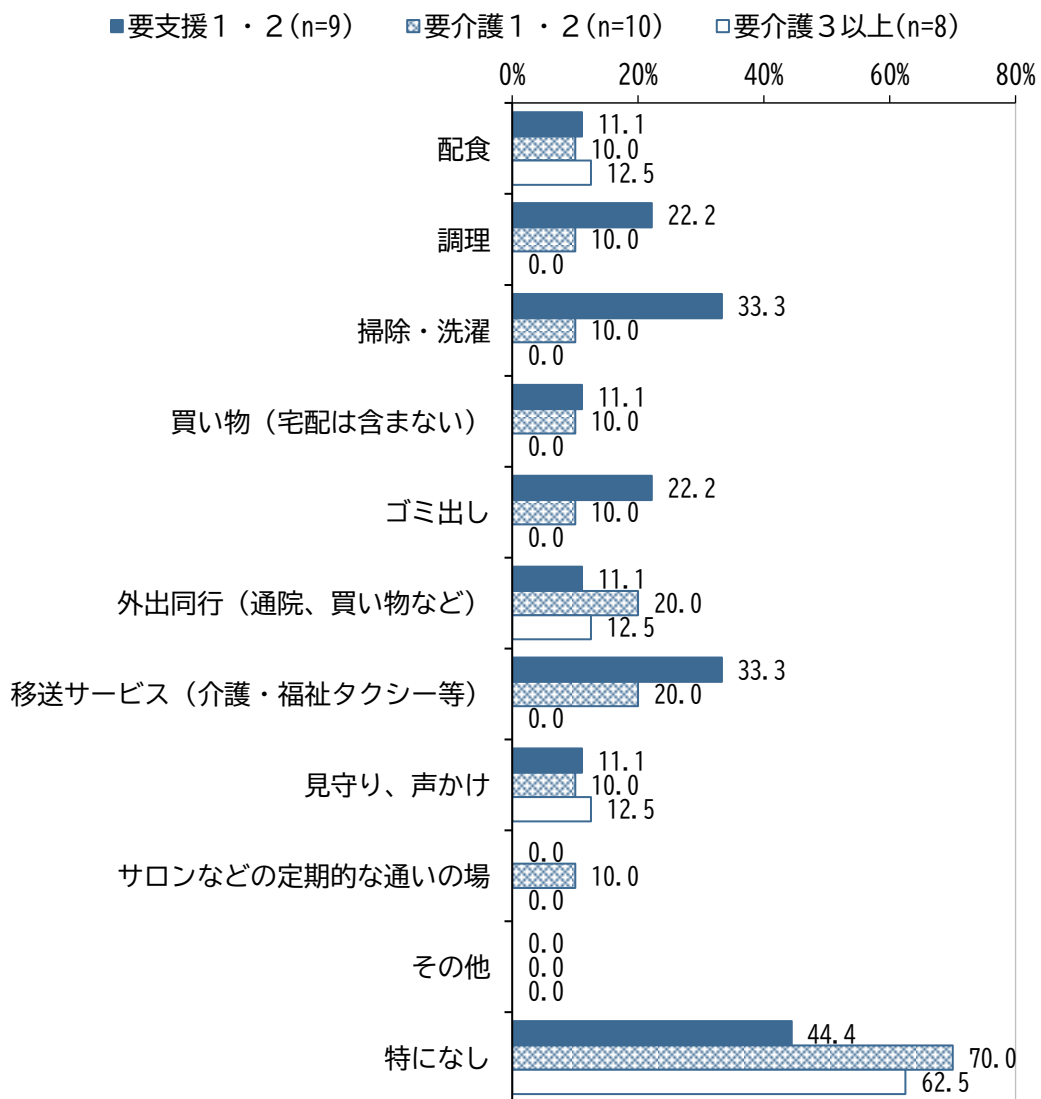
iii) 要介護度別でみる在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が44.4%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」がいずれも33.3%となっています。

「要介護1・2」では「特になし」が70.0%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」がいずれも20.0%となっています。

「要介護3以上」では「特になし」が62.5%と最も割合が高く、次いで「配食」、「外出同行（通院、買い物など）」、「見守り、声かけ」がいずれも12.5%となっています。

図表 3-2-54 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯） 要介護度別



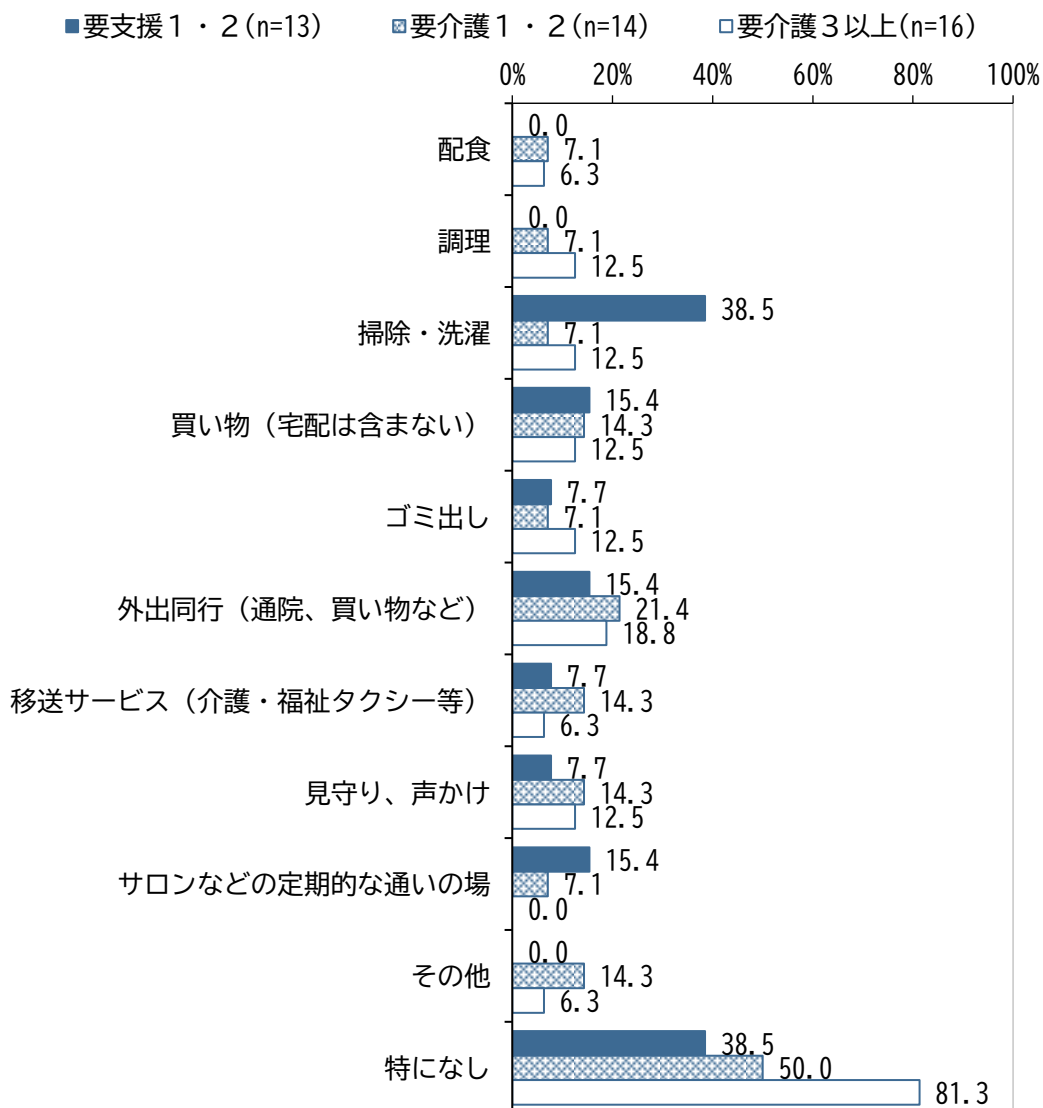
iv) 要介護度別でみる在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「掃除・洗濯」、「特になし」がいずれも38.5%と最も割合が高く、次いで「買い物（宅配は含まない）」、「外出同行（通院、買い物など）」、「サロンなどの定期的な通いの場」がいずれも15.4%となっています。

「要介護1・2」では「特になし」が50.0%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が21.4%、「買い物（宅配は含まない）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」、「その他」がいずれも14.3%となっています。

「要介護3以上」では「特になし」が81.3%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が18.8%、「調理」、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」、「見守り、声かけ」がいずれも12.5%となっています。

図表 3-2-55 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯） 要介護度別



(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。

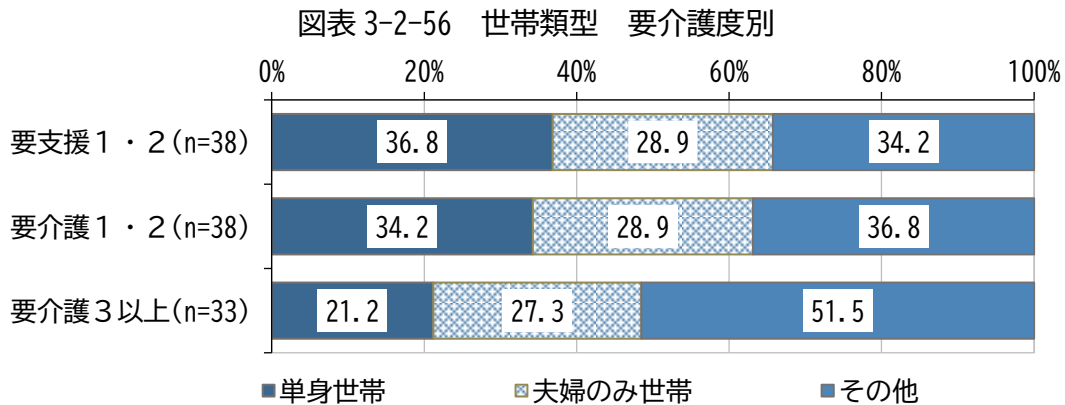
① 基礎集計

i) 要介護度別でみる世帯類型

世帯類型を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「単身世帯」が36.8%と最も割合が高く、次いで「その他」が34.2%、「夫婦のみ世帯」が28.9%となっています。

「要介護1・2」では「その他」が36.8%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が34.2%、「夫婦のみ世帯」が28.9%となっています。

「要介護3以上」では「その他」が51.5%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が27.3%、「単身世帯」が21.2%となっています。

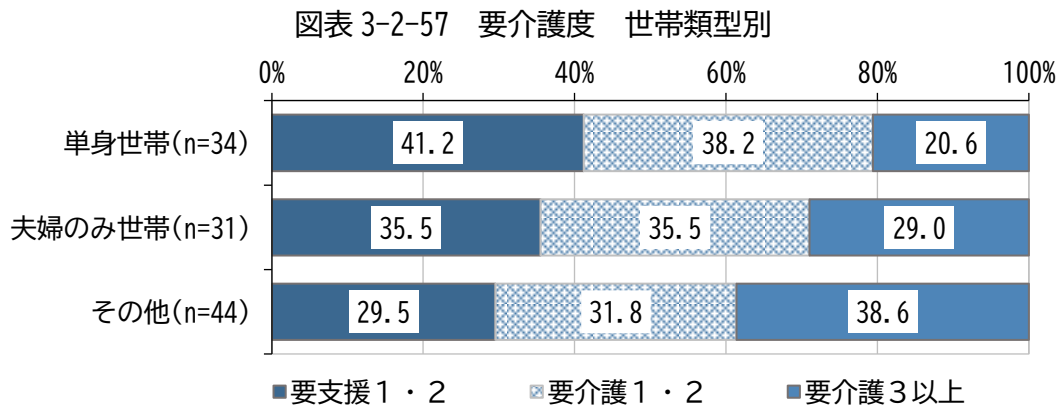


ii) 世帯類型別でみる要介護度

二次判定結果を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要支援1・2」が41.2%と最も割合が高く、次いで「要介護1・2」が38.2%、「要介護3以上」が20.6%となっています。

「夫婦のみ世帯」では「要支援1・2」、「要介護1・2」がいずれも35.5%と最も割合が高く、次いで「要介護3以上」が29.0%となっています。

「その他」では「要介護3以上」が38.6%と最も割合が高く、次いで「要介護1・2」が31.8%、「要支援1・2」が29.5%となっています。



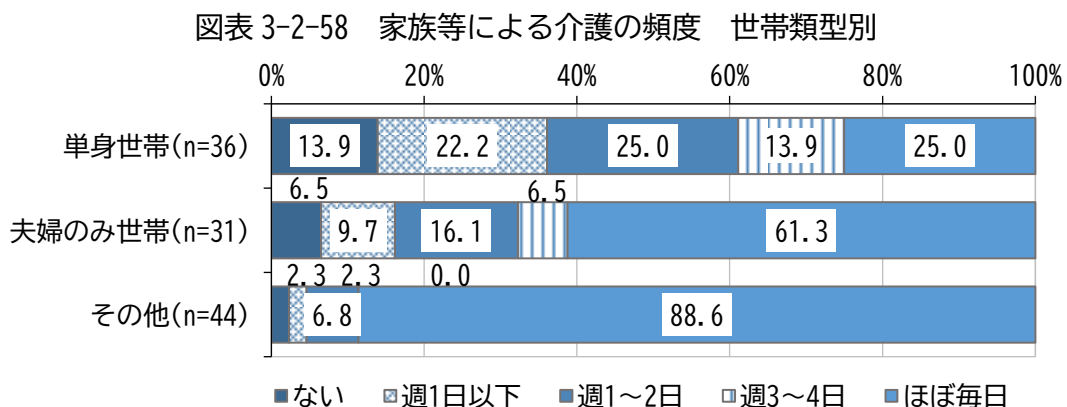
② 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

i) 世帯類型別でみる家族等による介護の頻度

家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「週1~2日」、「ほぼ毎日」がいずれも25.0%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が22.2%となっています。

「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が61.3%と最も割合が高く、次いで「週1~2日」が16.1%、「週1日以下」が9.7%となっています。

「その他」では「ほぼ毎日」が88.6%と最も割合が高く、次いで「週1~2日」が6.8%、「ない」、「週1日以下」がいずれも2.3%となっています。

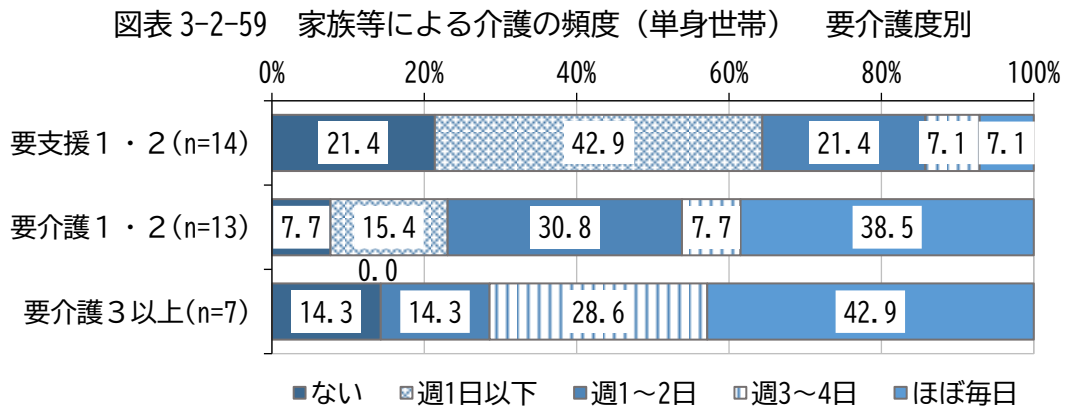


ii) 要介護度別でみる家族等による介護の頻度（単身世帯）

家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「週1日以下」が42.9%と最も割合が高く、次いで「ない」、「週1～2日」がいずれも21.4%となっています。

「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が38.5%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が30.8%、「週1日以下」が15.4%となっています。

「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が42.9%と最も割合が高く、次いで「週3～4日」が28.6%、「ない」、「週1～2日」がいずれも14.3%となっています。

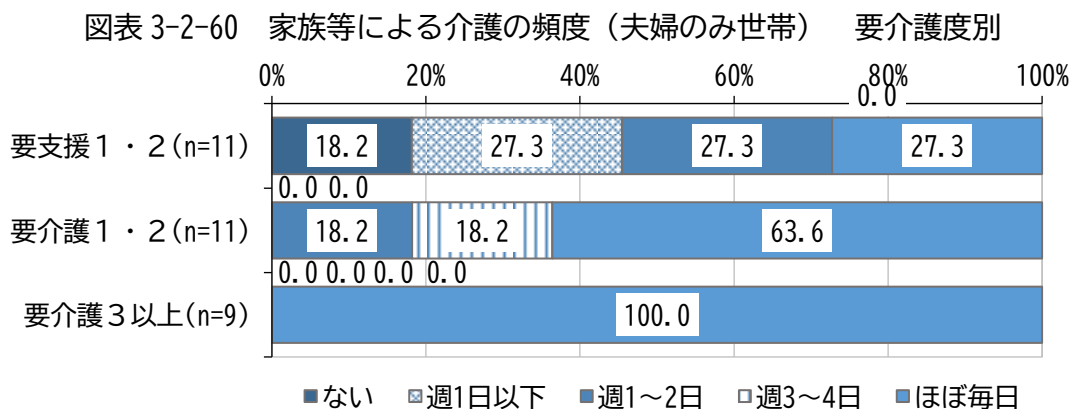


iii) 要介護度別でみる家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）

家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「週1日以下」、「週1～2日」、「ほぼ毎日」がいずれも27.3%と最も割合が高くなっています。

「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が63.6%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」、「週3～4日」がいずれも18.2%となっています。

「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が100.0%と最も割合が高くなっています。



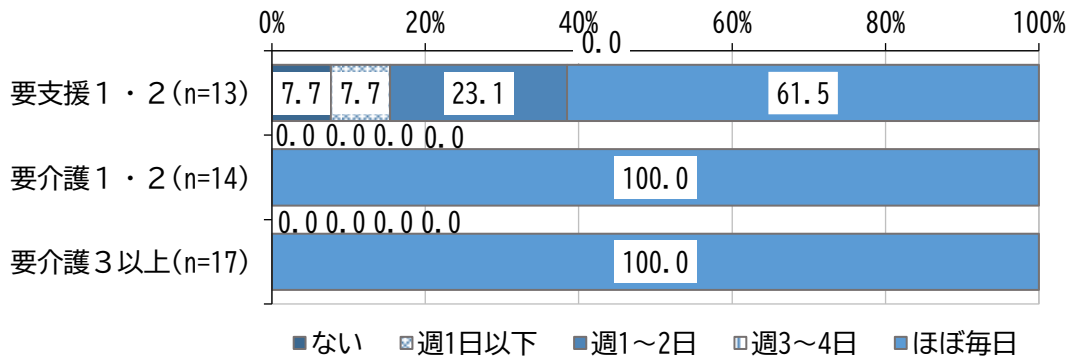
iv) 要介護度別でみる家族等による介護の頻度（その他世帯）

家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ほぼ毎日」が61.5%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が23.1%、「ない」、「週1日以下」がいずれも7.7%となっています。

「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が100.0%と最も割合が高くなっています。

図表 3-2-61 家族等による介護の頻度（その他世帯） 要介護度別



③ 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

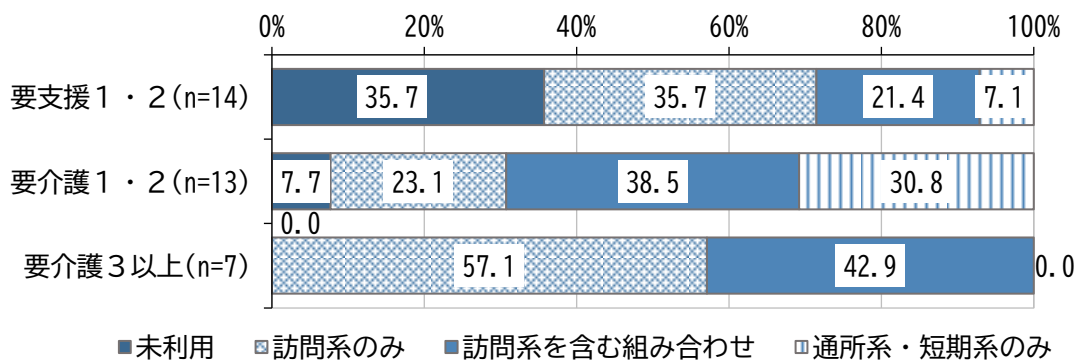
i) 要介護度別でみるサービス利用の組み合わせ（単身世帯）

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」、「訪問系のみ」がいずれも35.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が21.4%となっています。

「要介護1・2」では「訪問系を含む組み合わせ」が38.5%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が30.8%、「訪問系のみ」が23.1%となっています。

「要介護3以上」では「訪問系のみ」が57.1%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が42.9%となっています。

図表 3-2-62 サービス利用の組み合わせ（単身世帯） 要介護度別

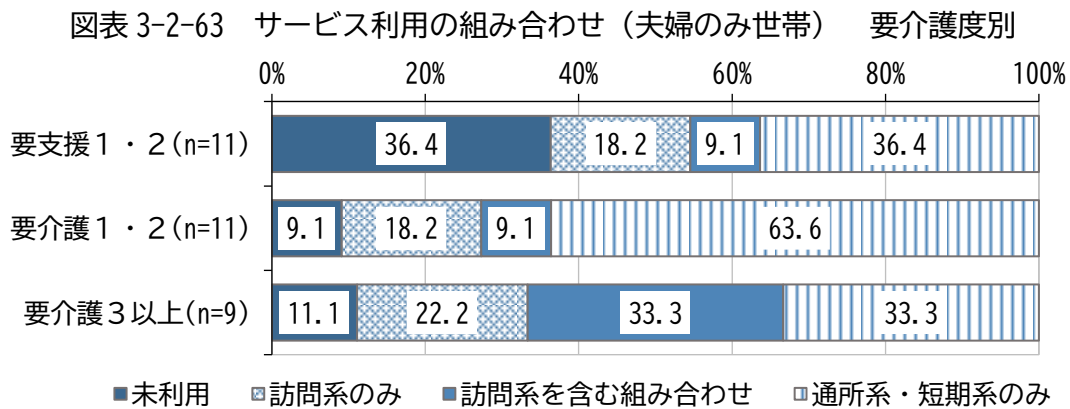


ii) 要介護度別でみるサービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」がいずれも36.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が18.2%となっています。

「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が63.6%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が18.2%、「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」がいずれも9.1%となっています。

「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」がいずれも33.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が22.2%となっています。

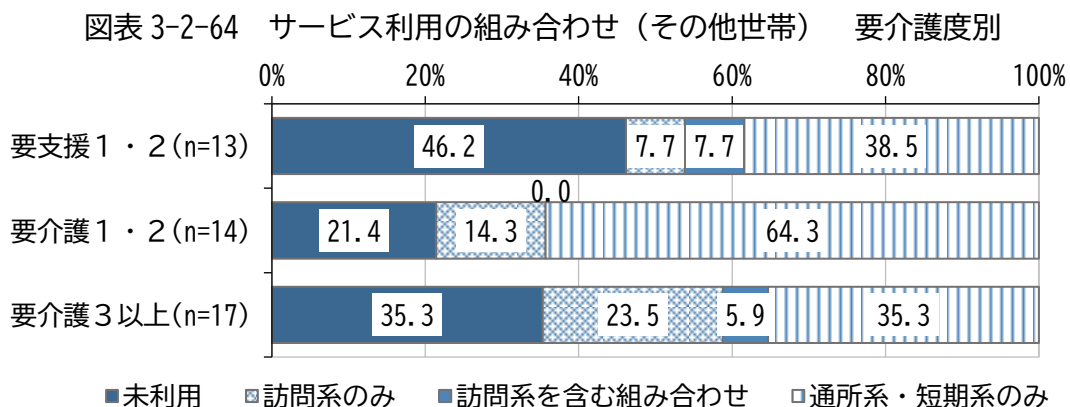


iii) 要介護度別でみるサービス利用の組み合わせ（その他世帯）

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が46.2%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が38.5%、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」がいずれも7.7%となっています。

「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が64.3%と最も割合が高く、次いで「未利用」が21.4%、「訪問系のみ」が14.3%となっています。

「要介護3以上」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」がいずれも35.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が23.5%となっています。

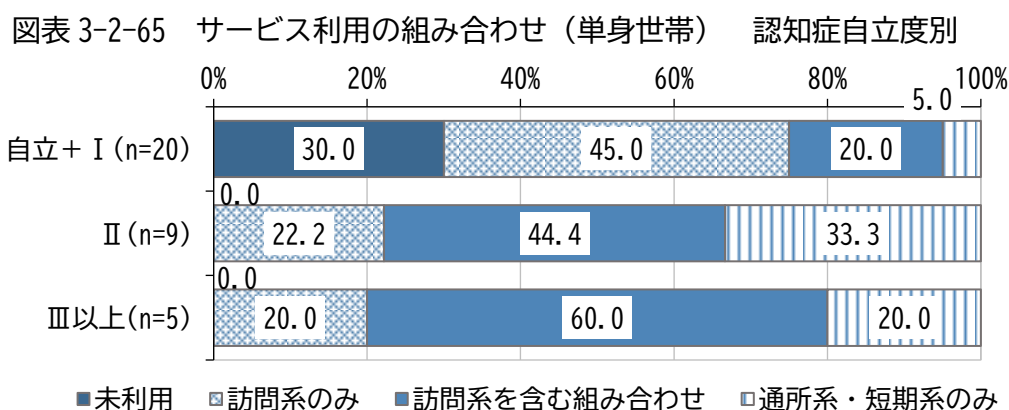


iv) 認知症自立度別でみるサービス利用の組み合わせ（単身世帯）

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「訪問系のみ」が45.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」が30.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が20.0%となっています。

「II」では「訪問系を含む組み合わせ」が44.4%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が33.3%、「訪問系のみ」が22.2%となっています。

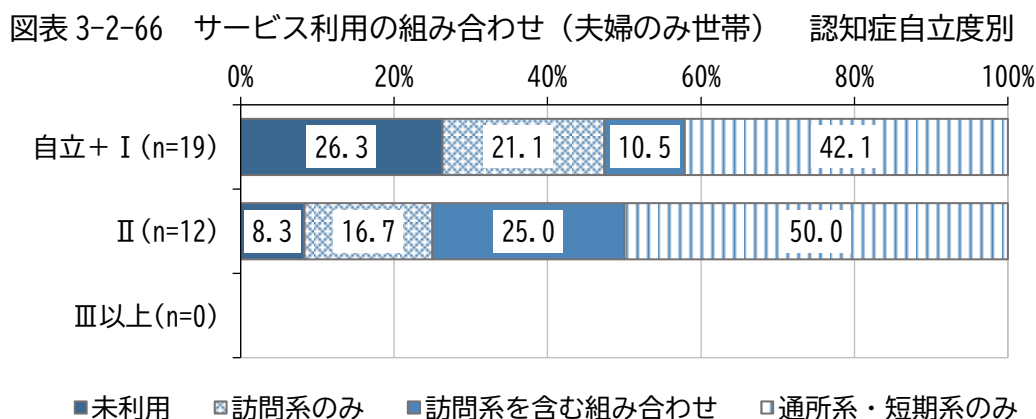
「III以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が60.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」がいずれも20.0%となっています。



v) 認知症自立度別でみるサービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「通所系・短期系のみ」が42.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が26.3%、「訪問系のみ」が21.1%となっています。

「II」では「通所系・短期系のみ」が50.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が25.0%、「訪問系のみ」が16.7%となっています。

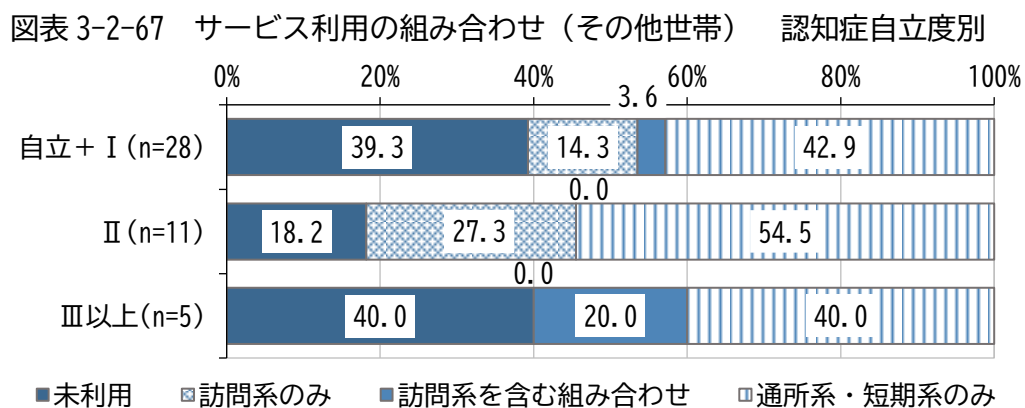


vi) 認知症自立度別でみるサービス利用の組み合わせ（その他世帯）

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「通所系・短期系のみ」が 42.9%と最も割合が高く、次いで「未利用」が 39.3%、「訪問系のみ」が 14.3%となっています。

「II」では「通所系・短期系のみ」が 54.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が 27.3%、「未利用」が 18.2%となっています。

「III以上」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」がいずれも 40.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が 20.0%となっています。



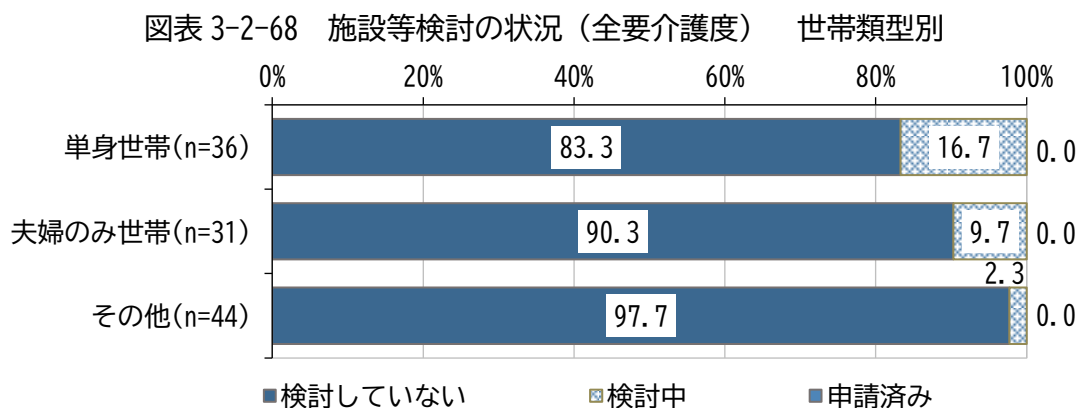
④ 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

i) 世帯類型別でみる施設等検討の状況（全要介護度）

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が 83.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が 16.7%となっています。

「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が 90.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が 9.7%となっています。

「その他」では「検討していない」が 97.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が 2.3%となっています。

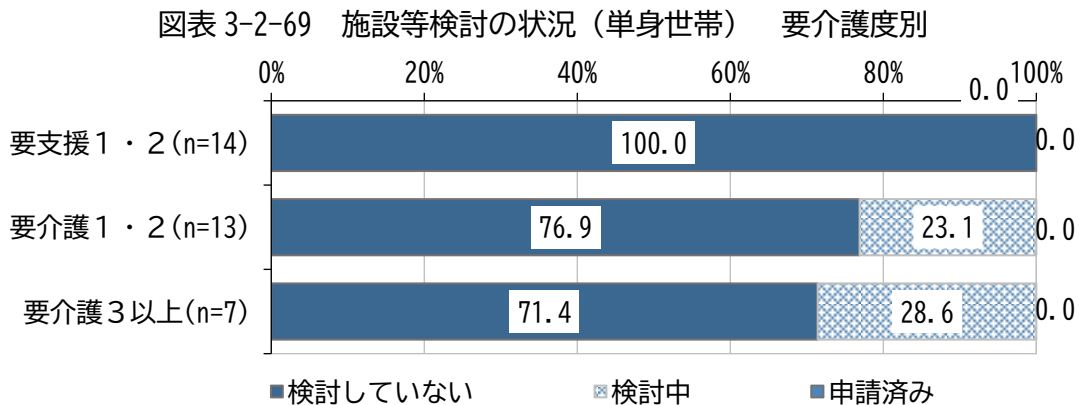


ii) 要介護度別でみる施設等検討の状況（単身世帯）

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「要介護1・2」では「検討していない」が76.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が23.1%となっています。

「要介護3以上」では「検討していない」が71.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が28.6%となっています。

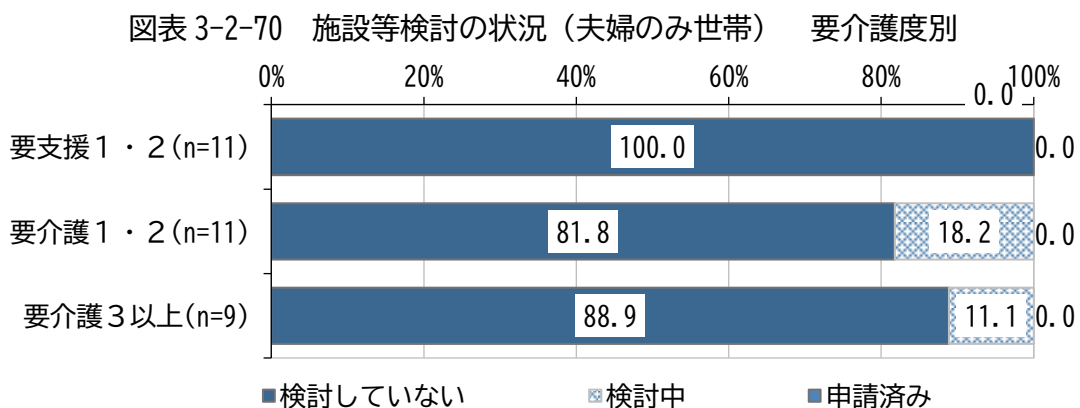


iii) 要介護度別でみる施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「要介護1・2」では「検討していない」が81.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.2%となっています。

「要介護3以上」では「検討していない」が88.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が11.1%となっています。

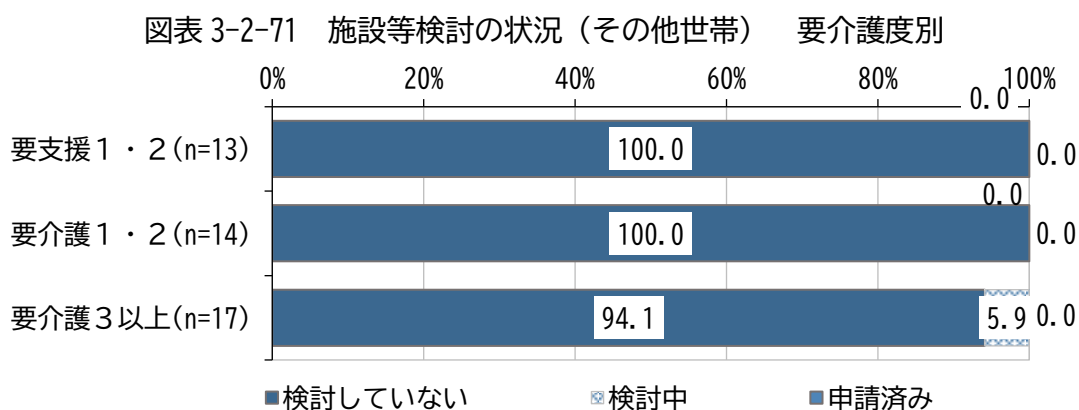


iv) 要介護度別でみる施設等検討の状況（その他世帯）

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「要介護1・2」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「要介護3以上」では「検討していない」が94.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が5.9%となっています。

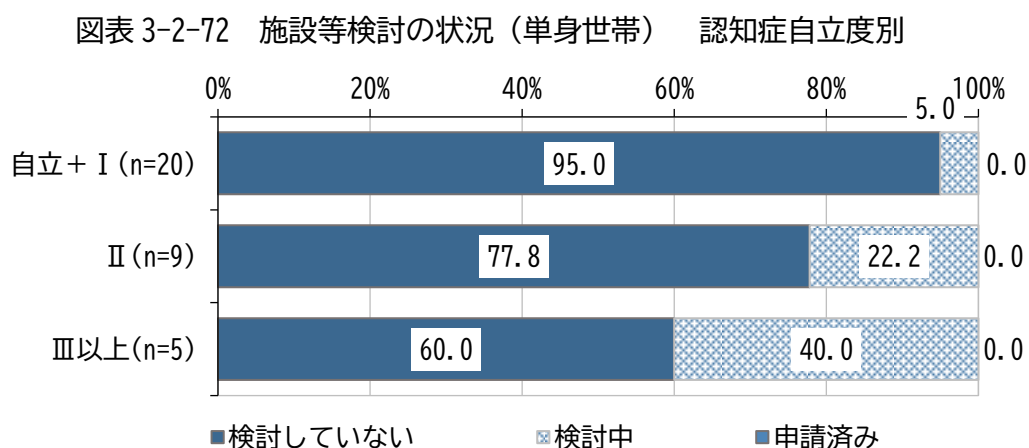


v) 認知症自立度別でみる施設等検討の状況（単身世帯）

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+I」では「検討していない」が95.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が5.0%となっています。

「II」では「検討していない」が77.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が22.2%となっています。

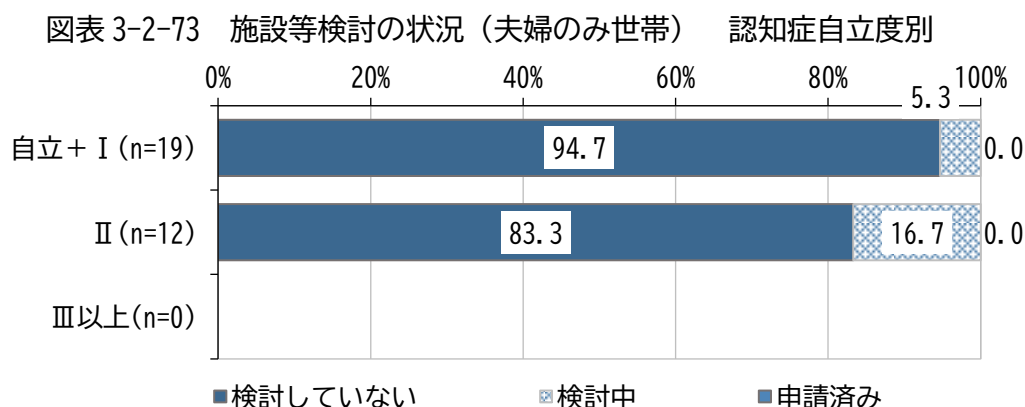
「III以上」では「検討していない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が40.0%となっています。



vi) 認知症自立度別でみる施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「検討していない」が94.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が5.3%となっています。

「II」では「検討していない」が83.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.7%となっています。

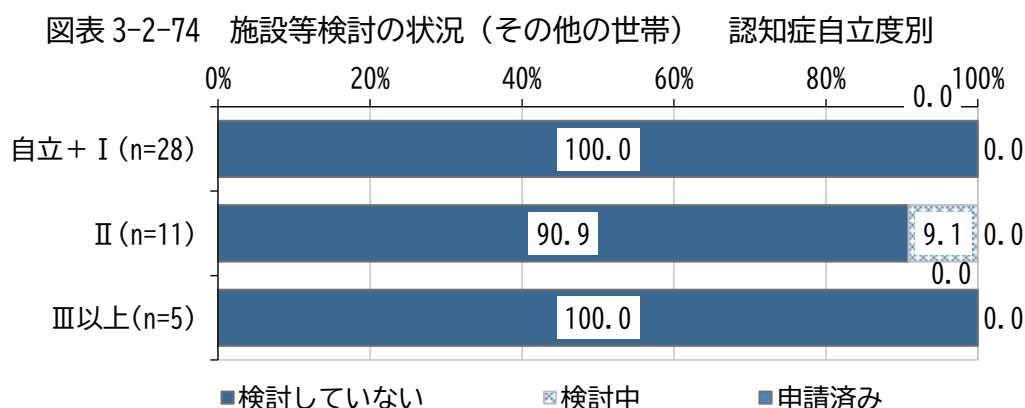


vii) 認知症自立度別でみる施設等検討の状況（その他の世帯）

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「II」では「検討していない」が90.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が9.1%となっています。

「III以上」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。



(5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

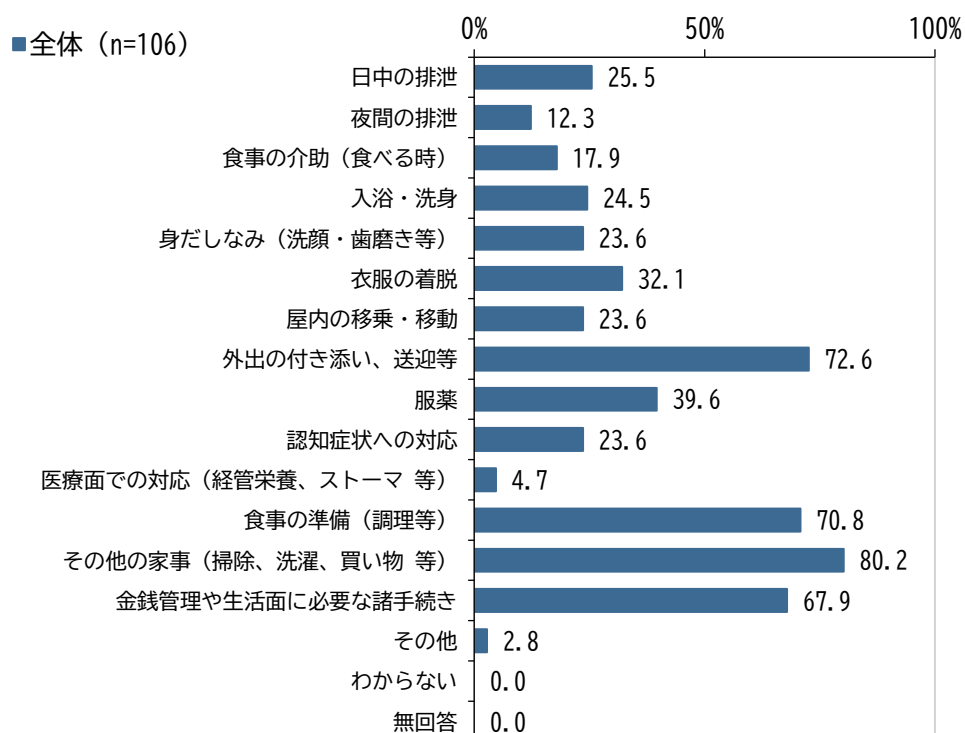
ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるための集計を行います。

① 基礎集計

i) 主な介護者が行っている介護

「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」は4.7%となっています。

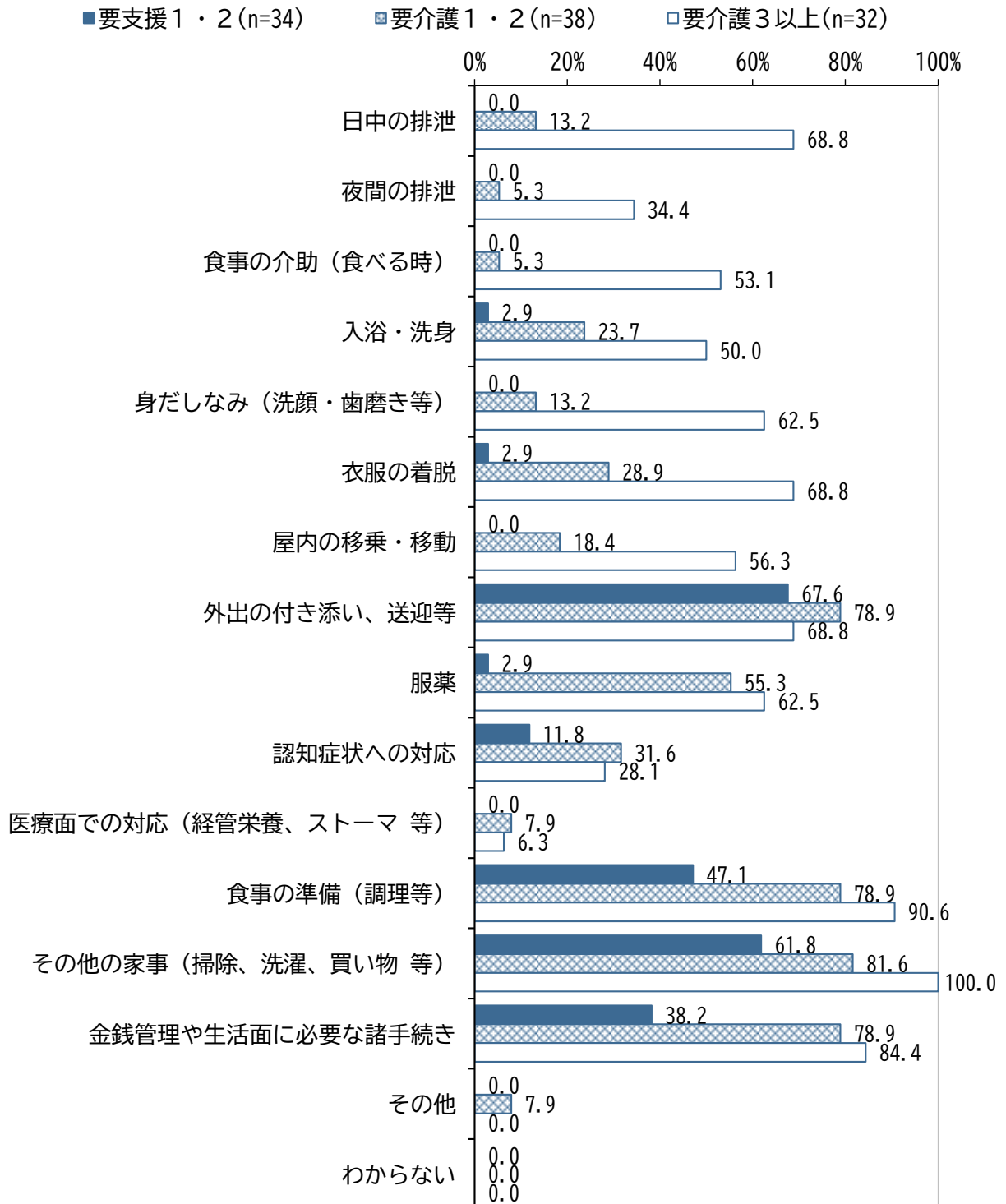
図表 3-2-75 主な介護者が行っている介護



ii) 要介護度別でみる主な介護者が行っている介護

介護者が行っている介護を二次判定結果別にみると、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」では、要支援1・2が0.0%、要介護1・2が7.9%、要介護3以上が6.3%となっています。

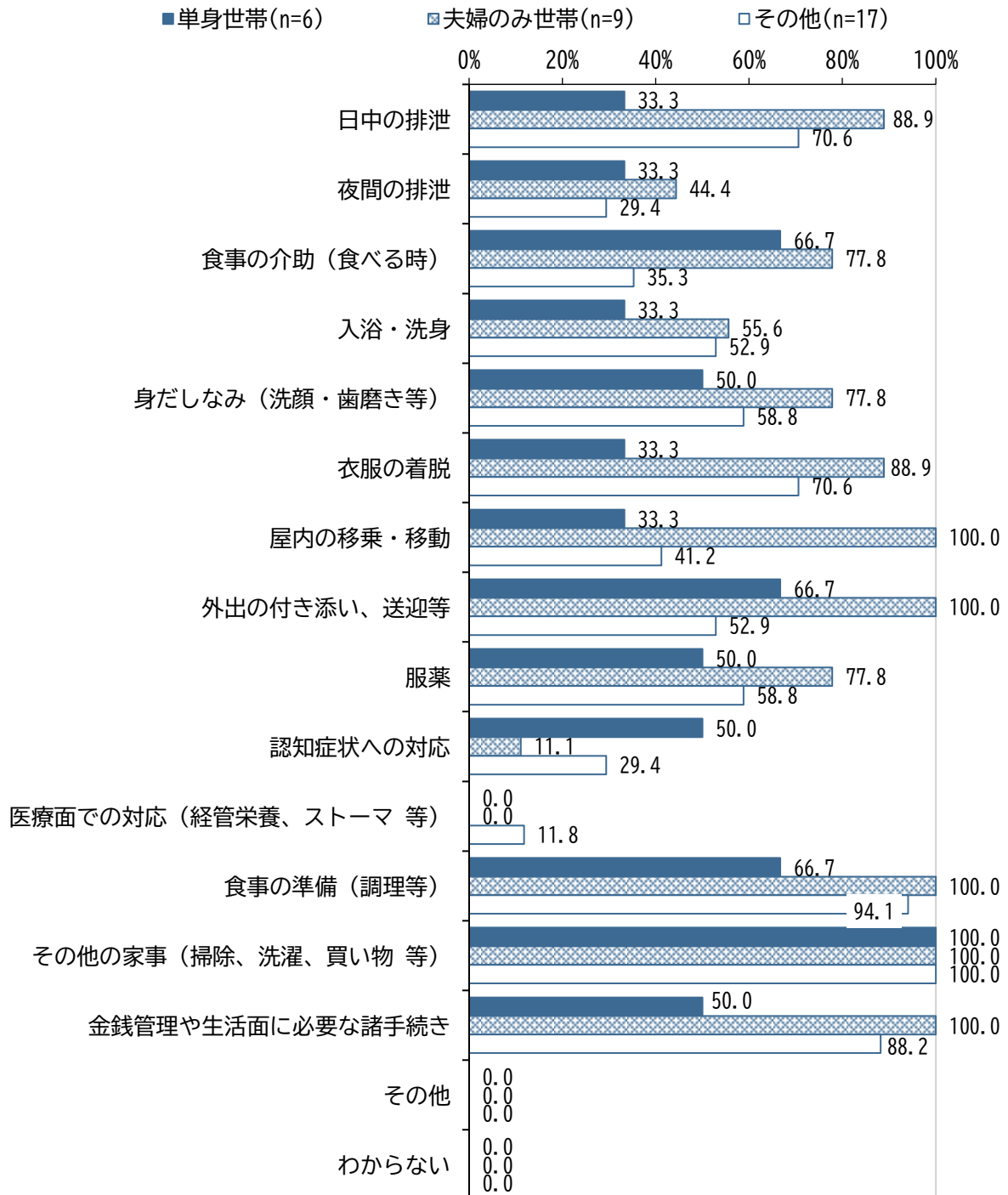
図表 3-2-76 主な介護者が行っている介護 要介護度別



iii) 世帯類型別でみる主な介護者が行っている介護（要介護3以上）

介護者が行っている介護を世帯類型別にみると、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」では、その他世帯が11.8%となっています。

図表 3-2-77 主な介護者が行っている介護（要介護3以上） 世帯類型別

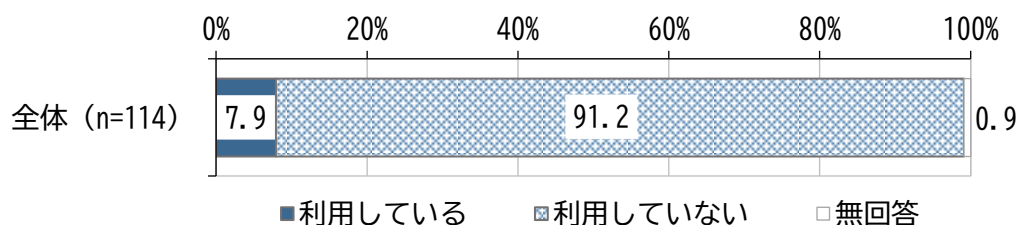


② 訪問診療の利用割合

i) 訪問診療の利用の有無

「利用していない」の割合が最も高く 91.2%となっています。次いで、「利用している (7.9%)」となっています。

図表 3-2-78 訪問診療の利用の有無



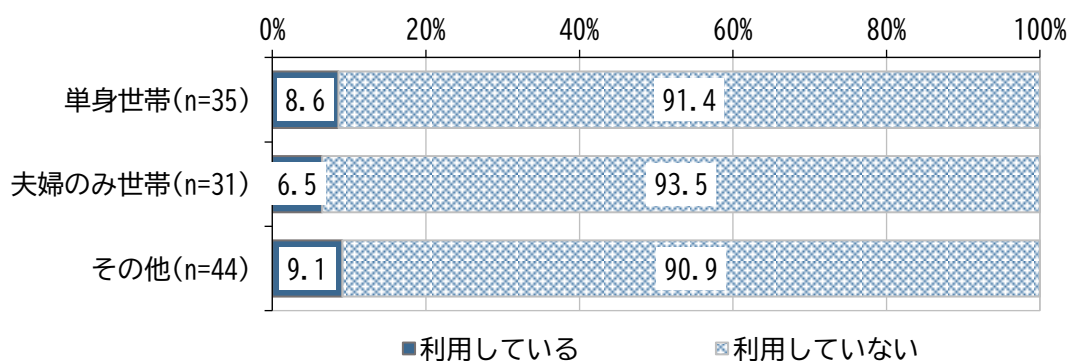
ii) 世帯類型別でみる訪問診療の利用割合

訪問診療の利用の有無を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が 91.4%と最も割合が高く、次いで「利用している」が 8.6%となっています。

「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が 93.5%と最も割合が高く、次いで「利用している」が 6.5%となっています。

「その他」では「利用していない」が 90.9%と最も割合が高く、次いで「利用している」が 9.1%となっています。

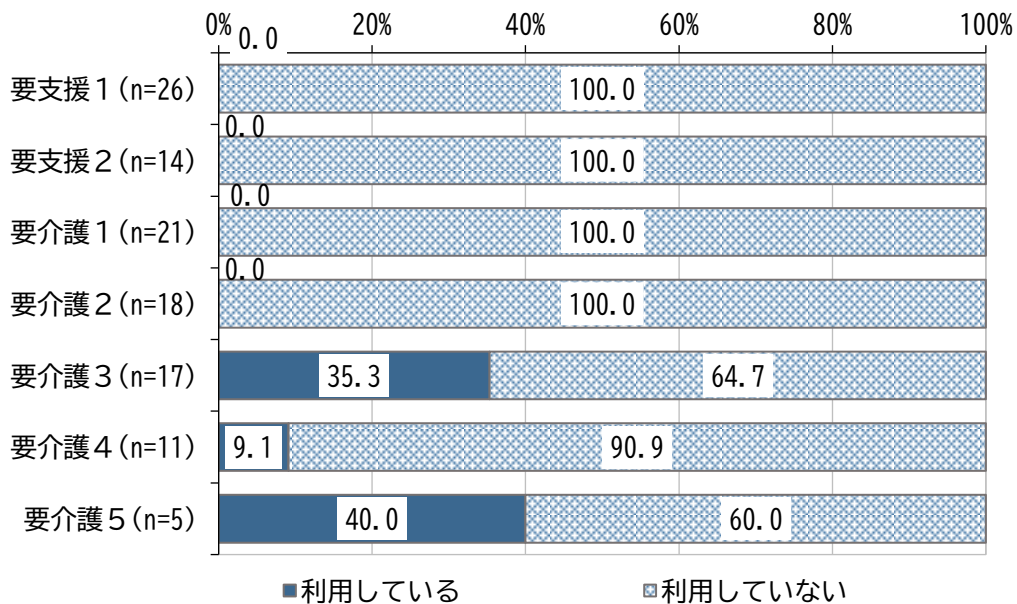
図表 3-2-79 訪問診療の利用割合 世帯類型別



iii) 要介護度別でみる訪問診療の利用割合

訪問診療の利用の有無を二次判定結果別にみると、「利用している」では、要介護5が40.0%で最も高くなっています。

図表 3-2-80 訪問診療の利用割合 要介護度別



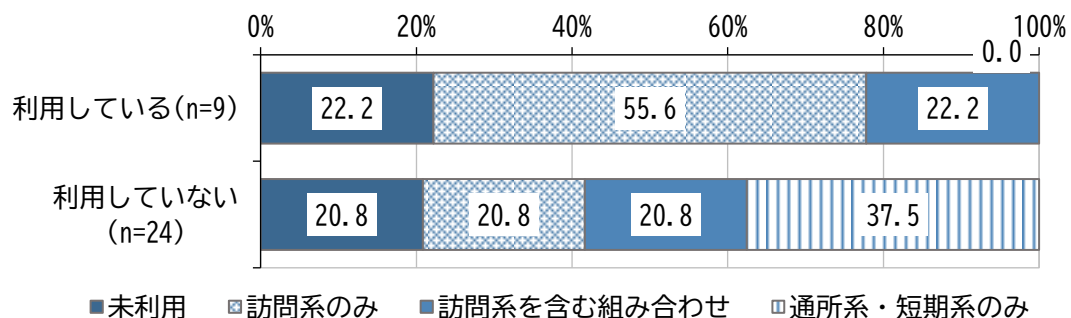
③ 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

i) 訪問診療の利用の有無別でみるサービス利用の組み合わせ (要介護3以上)

サービス利用の組み合わせを訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系のみ」が55.6%と最も割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」がいずれも22.2%となっています。

「利用していない」では「通所系・短期系のみ」が37.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」がいずれも20.8%となっています。

図表 3-2-81 サービス利用の組み合わせ (要介護3以上) 訪問診療の利用の有無別



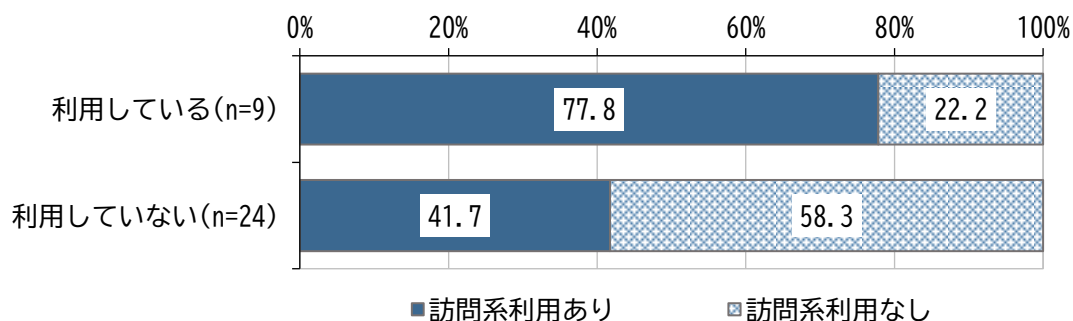
④ 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

i) 訪問診療の利用の有無別でみるサービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）

訪問系の利用の有無を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系利用あり」が77.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系利用なし」が22.2%となっています。

「利用していない」では「訪問系利用なし」が58.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系利用あり」が41.7%となっています。

図表 3-2-82 訪問系サービスの利用の有無（要介護3以上） 訪問診療の利用の有無別

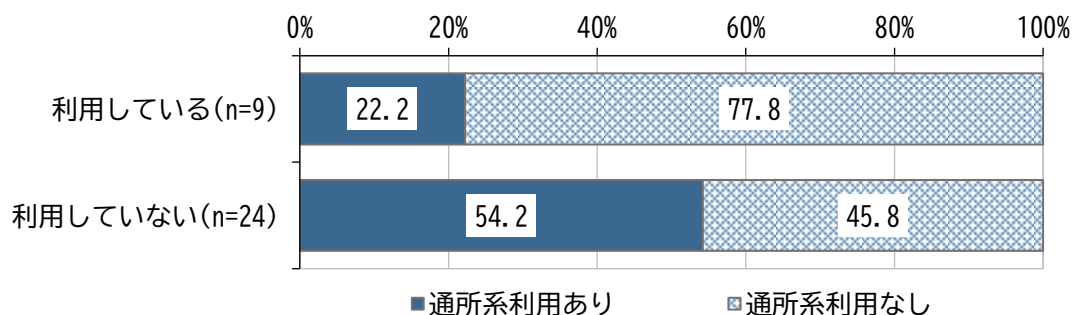


ii) 訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）

通所系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「通所系利用なし」が77.8%と最も割合が高く、次いで「通所系利用あり」が22.2%となっています。

「利用していない」では「通所系利用あり」が54.2%と最も割合が高く、次いで「通所系利用なし」が45.8%となっています。

図表 3-2-83 通所系サービスの利用の有無（要介護3以上） 訪問診療の利用の有無別

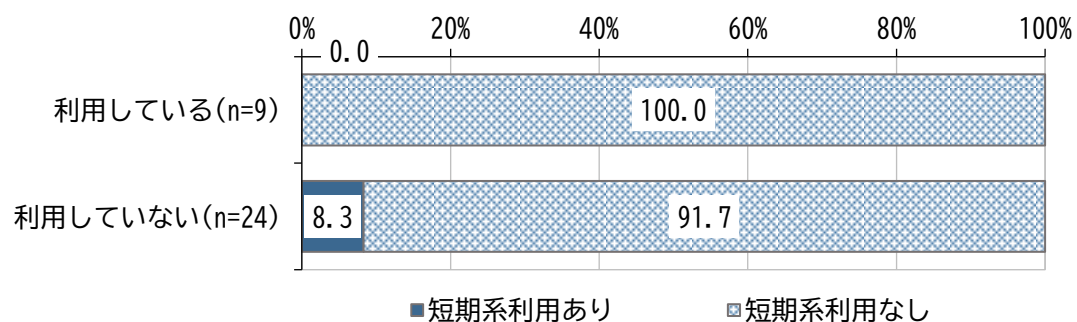


iii) 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）

短期系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「短期系利用なし」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「利用していない」では「短期系利用なし」が91.7%と最も割合が高く、次いで「短期系利用あり」が8.3%となっています。

図表 3-2-84 短期系サービス利用の有無（要介護3以上） 訪問診療の利用の有無別



(6) サービス未利用の理由など

ここでは、支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられるいくつかの集計結果を整理しています。

① 要介護度別でみる世帯類型別のサービス未利用の理由

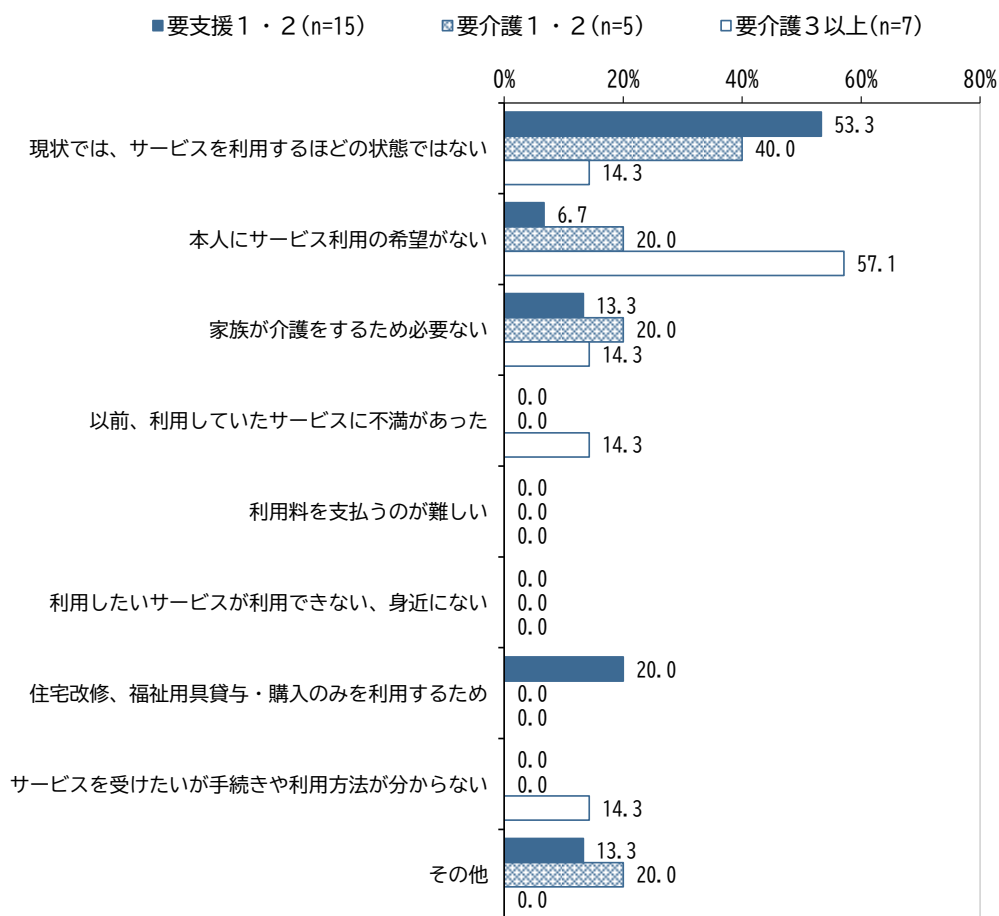
i) 要介護度別のサービス未利用の理由

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が53.3%と最も割合が高く、次いで「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が20.0%、「家族が介護をするため必要ない」、「その他」がいずれも13.3%となっています。

「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が40.0%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「その他」がいずれも20.0%となっています。

「要介護3以上」では「本人にサービス利用の希望がない」が57.1%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「家族が介護をするため必要ない」、「以前、利用していたサービスに不満があった」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」がいずれも14.3%となっています。

図表 3-2-85 サービス未利用の理由 要介護度別



② 認知症自立度別でみる今後の在宅生活に必要なと感じる支援・サービス

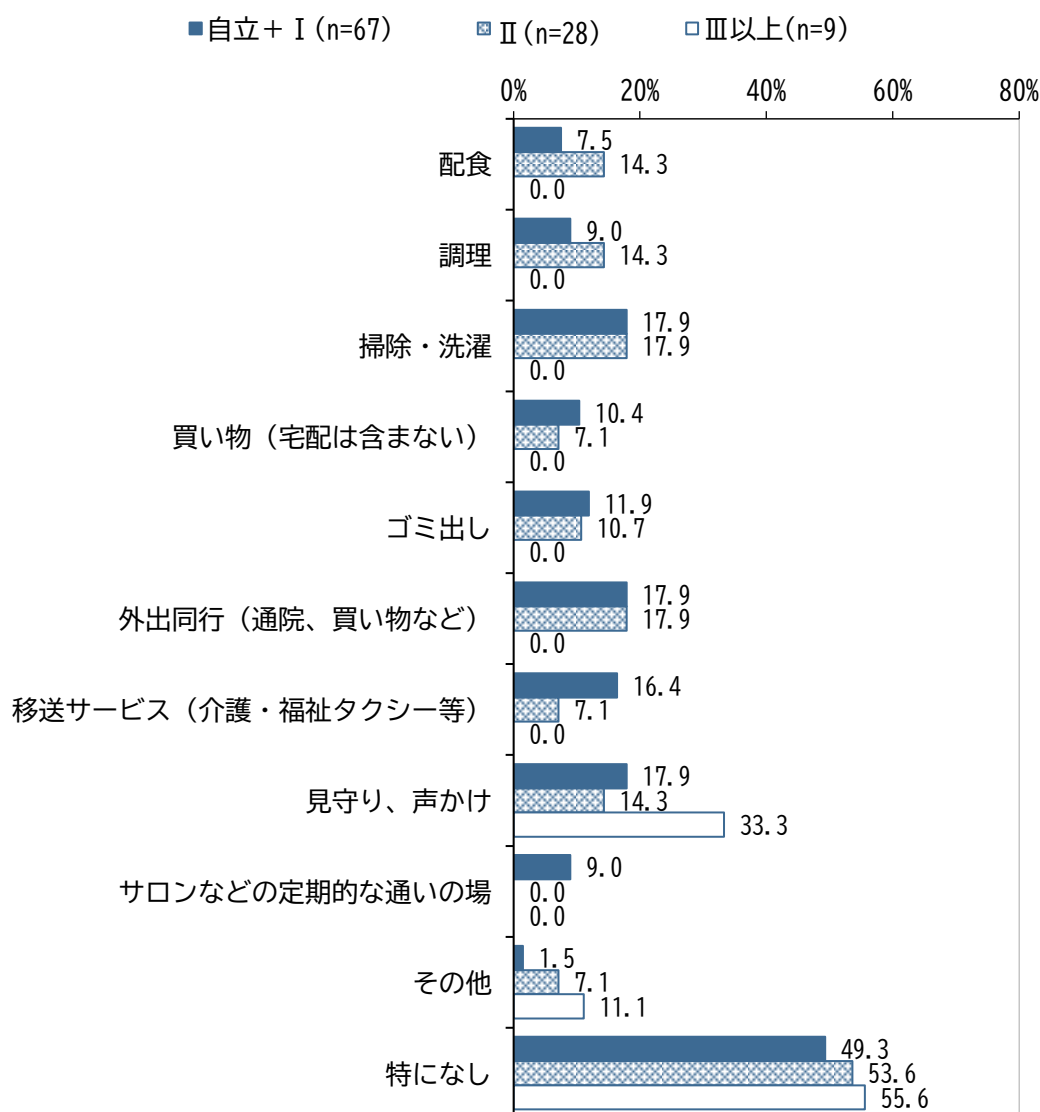
i) 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「特になし」が49.3%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「外出同行（通院、買い物など）」、「見守り、声かけ」がいずれも17.9%となっています。

「Ⅱ」では「特になし」が53.6%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「外出同行（通院、買い物など）」がいずれも17.9%となっています。

「Ⅲ以上」では「特になし」が55.6%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が33.3%、「その他」が11.1%となっています。

図表 3-2-86 在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス 認知症自立度別



③ 要介護度別の抱えている傷病

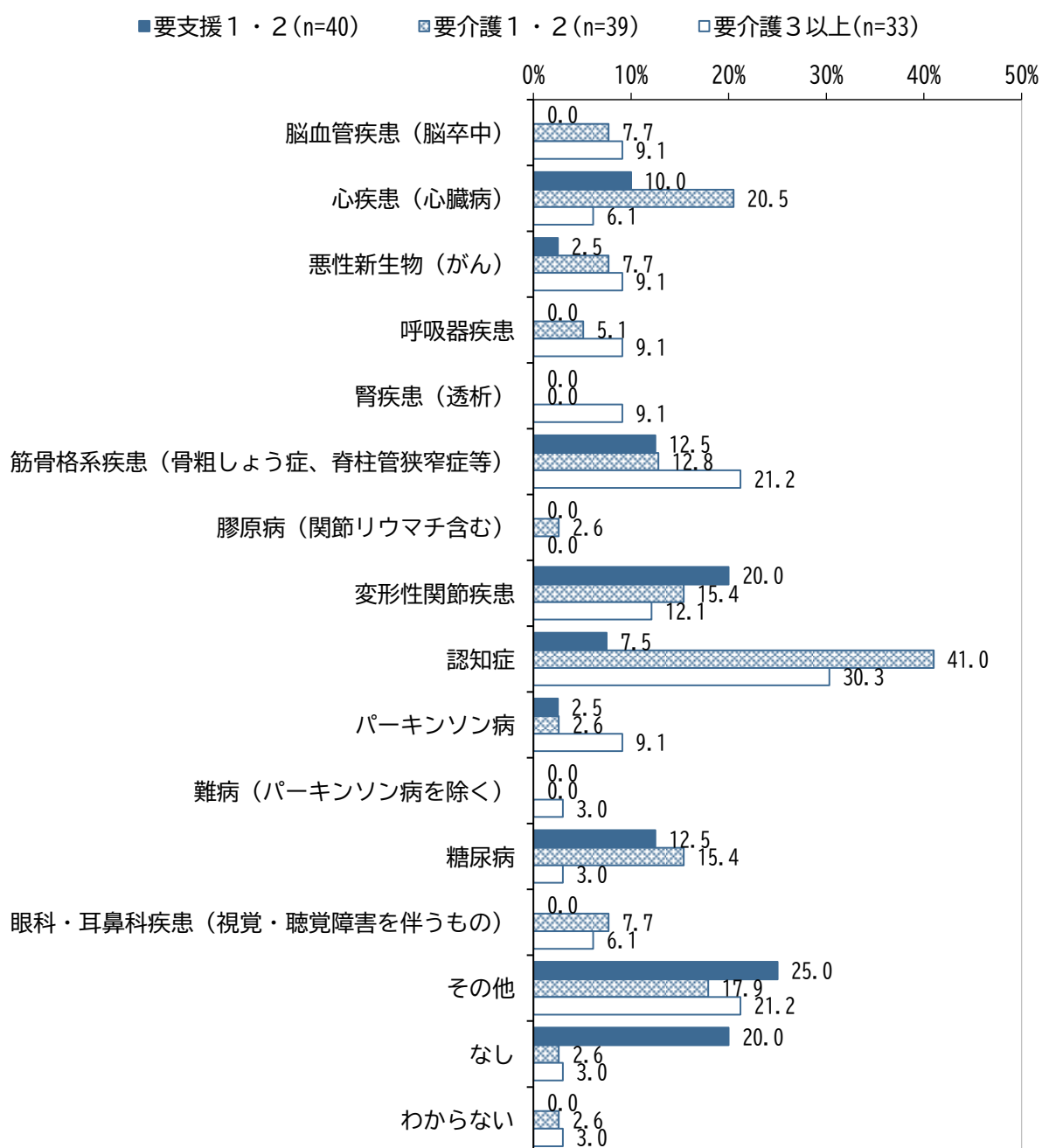
i) 要介護度別でみる抱えている傷病

抱えている傷病を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「その他」が25.0%と最も割合が高く、次いで「変形性関節疾患」、「なし」がいずれも20.0%となっています。

「要介護1・2」では「認知症」が41.0%と最も割合が高く、次いで「心疾患（心臓病）」が20.5%、「その他」が17.9%となっています。

「要介護3以上」では「認知症」が30.3%と最も割合が高く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」、「その他」がいずれも21.2%となっています。

図表 3-2-87 抱えている傷病 要介護度別



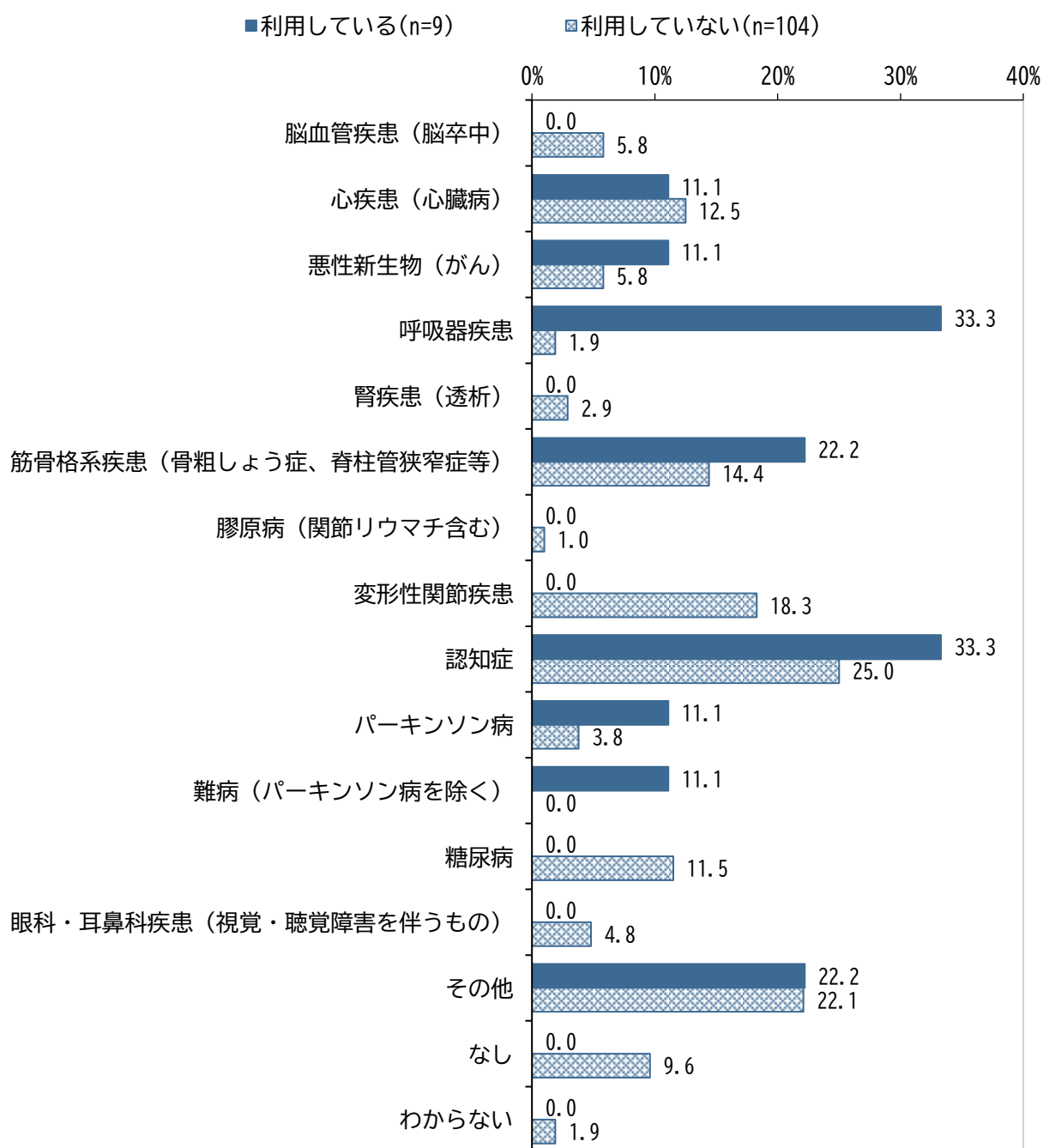
④ 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

i) 訪問診療の利用の有無別でみる抱えている傷病

抱えている傷病を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「呼吸器疾患」、「認知症」がいずれも 33.3%と最も割合が高く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」、「その他」がいずれも 22.2%となっています。

「利用していない」では「認知症」が 25.0%と最も割合が高く、次いで「その他」が 22.1%、「変形性関節疾患」が 18.3%となっています。

図表 3-2-88 抱えている傷病 訪問診療の利用の有無別



1 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 調査票

連番記載箇所

介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 調査ご協力をお願い

日頃から本町の介護保険事業にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
このたび、本町では、令和6年度から令和8年度までの3年間を計画期間とする「第9期介護保険事業計画及び高齢者福祉計画」を策定いたします。その基礎資料として活用し、皆さまの生活状態に合った介護サービスなどの各種福祉サービスを提供するため、アンケート調査を実施させていただきますことになりました。
ご記入いただいた内容は、計画策定のほか、本町が実施する介護予防・日常生活支援総合事業の評価等に役立てたいと考えております。
皆さまの情報を正確に整理するため、多くの質問を設けておりますが、調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和5年6月 大淀町長 辻本 真宏

回答に当たってのお願い

- ※ アンケートの回答は、鉛筆またはボールペンなどをお使いいただきこの調査票に直接ご記入ください。
- ※ 封筒のあて名の方がアンケートの対象者となっております。
- ※ 記入日現在の状況をご回答ください。
- ※ アンケートに調査対象者ご本人様（ご家族・知人・介護従事者等）がご本人の意思を反映して、ご記入くださるようお願いいたします。
- ※ 設問の選択肢の中から、当てはまる番号に○を付けてください。また、「その他」と回答された場合には、なるべく具体的にお書きください。
- ※ 調査票記入後は同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、**令和5年7月10日(月)まで**に投函してください。
- ※ このアンケート調査についてのお問い合わせは、下記をお願いします。

大淀町役場 住民福祉部 福祉介護課
電話：0747-52-5530（直通）

■まずはじめに、記入日や調査対象者の方などについてお教えください。

記 入 日	令和5年 月 日
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。	
1. あて名のご本人が記入	
2. ご家族が記入 (ご本人からみられた続柄)	
3. その他	

個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりです。ご確認ください。
なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものと見なさせていただきます。

【個人情報の保護および活用目的について】

- この調査は、効果的な介護予防政策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定の目的以外には利用いたしません。また当該情報については、大淀町内で適切に管理いたします。
- ただし、高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理する市町村外のデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析するなど、個人が識別されない形で利用することがあります。

問1 あなたの家族や生活状況について

1	家族構成をお教えください (○はひとつ)	
1. 1人暮らし	2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	
3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	4. 息子・娘との2世帯	
5. その他		
2	あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか (○はひとつ)	
1. 介護・介助は必要ない ⇒ [3]ハ		
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない ⇒ [2-1]ハ		
3. 現在、何らかの介護を受けている ⇒ [2-1] [2-2]ハ (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)		
2で「2」または「3」を回答された方(介護・介助が必要な方)のみ		
2-1	介護・介助が必要になった主な原因はなんですか (○はいくつでも)	
1. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	2. 心臓病	
3. がん(悪性新生物)	4. 呼吸器の病気(肺炎腫・肺炎等)	
5. 関節の病気(リウマチ等)	6. 認知症(アルツハイマー病等)	
7. パーキンソン病	8. 糖尿病	
9. 腎疾患(透析)	10. 視覚・聴覚障害	
11. 骨折・転倒	12. 脊椎損傷	
13. 高齢による衰弱	14. その他()	
15. 不明		
2で「3. 現在、何らかの介護を受けている」を回答された方のみ		
2-2	主にどなたの介護、介助を受けていますか (○はいくつでも)	
1. 配偶者(夫・妻)	2. 息子	
3. 娘	4. 子の配偶者	
5. 孫	6. 兄弟・姉妹	
7. 介護サービス(ヘルパー)	8. その他()	
3	現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (○はひとつ)	
1. 大変苦しい	2. やや苦しい	3. ふう
4. ややゆとりがある	5. 大変ゆとりがある	

4	お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか (○はひとつ)		
1. 持家(一戸建て)			
2. 持家(集合住宅)	(例) 分譲マンションなど		
3. 公営賃貸住宅	(例) 町営住宅など		
4. 民間賃貸住宅(一戸建て)			
5. 民間賃貸住宅(集合住宅)	(例) 賃貸マンション・アパートなど		
6. 借家 ※ 一般的な賃貸借契約がない場合など			
7. その他			
問2	からだを動かすことについて		
1	階段をすすりや壁をつたわらずに昇っていますか (○はひとつ)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない	
2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (○はひとつ)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない	
3	15分位続けて歩いていますか (○はひとつ)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない	
4	過去1年間に転んだ経験がありますか (○はひとつ)		
1. 何度もある	2. 1度ある	3. ない	
5	転倒に対する不安は大きいですか (○はひとつ)		
1. とても不安である	2. やや不安である	3. あまり不安でない	4. 不安でない
6	週に1回以上は外出していますか (○はひとつ)		
1. ほとんど外出しない	2. 週1回	3. 週2~4回	4. 週5回以上

7	昨年と比べて外出の回数が減っていますか (○はひとつ)
1.	とても減っている
2.	減っている
3.	あまり減っていない
4.	減っていない

8	外出を控えていますか (○はひとつ)
1.	はい ⇒ <input type="checkbox"/> 8-1
2.	いいえ ⇒ <input type="checkbox"/> 9

8で「1. はい」を回答された方のみ	
8-1	外出を控えている理由は、次のどれですか (○はいくつでも)
1.	病気
2.	障害(脳卒中の後遺症など)
3.	足腰などの痛み
4.	トイレの心配(失禁など)
5.	耳の障害(聞こえの問題など)
6.	目の障害
7.	外での楽しみがない
8.	経済的に出られない
9.	交通手段がない
10.	新型コロナウイルス感染症の感染が心配
11.	その他 ()

9	外出する際の移動手段は何ですか (○はいくつでも)
1.	徒歩
2.	自転車
3.	バイク
4.	自動車(自分で運転)
5.	自動車(人に乗せてもらう)
6.	電車
7.	路線バス
8.	よどりバス
9.	病院や施設のバス
10.	車いす
11.	電動車いす(シニアカー)
12.	歩行器・シルバーカー(手押し車)
13.	タクシー
14.	よどりタクシー
15.	その他 ()

問3 食べることについて

1	身長・体重(数字を記入)(小数点以下は四捨五入)
身長	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> cm
体重	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> kg

2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

3	お茶や汁物等でむせることがありますか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

4	口の渇きが気になりますか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

5	歯磨き(人にやってもらった場合も含む)を毎日していますか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

6	歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください (○はひとつ) (成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)
1.	自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用 ⇒ <input type="text"/> 6-1
2.	自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし ⇒ <input type="text"/> 7
3.	自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用 ⇒ <input type="text"/> 6-1
4.	自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし ⇒ <input type="text"/> 7

6で「1」または「3」を回答された方(入れ歯を利用されている方)のみ	
6-1	毎日入れ歯の手入れをしていますか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

7	噛み合わせは良いですか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

8	6か月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

9	どなたかと食事をとむにする機会がありますか (○はひとつ)
1.	毎日ある
2.	週に何度かある
3.	月に何度かある
4.	年に何度かある
5.	ほとんどない

問4 毎日の生活について

1	物忘れが多いと感じますか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

2	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

3	今日が何月何日かわからない時がありますか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

4	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可) (○はひとつ)
1.	できるし、している
2.	できるけどしていない
3.	できない

5	自分で食品・日用品の買物をしていますか (○はひとつ)
1.	できるし、している
2.	できるけどしていない
3.	できない

6	自分で食事の用意をしていますか (○はひとつ)
1.	できるし、している
2.	できるけどしていない
3.	できない

7	自分で請求書の支払いをしていますか (○はひとつ)
1.	できるし、している
2.	できるけどしていない
3.	できない

8	自分で預貯金の出し入れをしていますか (○はひとつ)
1.	できるし、している
2.	できるけどしていない
3.	できない

9	年金などの書類 (役所や病院などに出す書類) が書けますか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

10	新聞を読んでいますか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

11	本や雑誌を読んでいますか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

12	健康についての記事や番組に関心がありますか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

13	友人の家を訪ねていますか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

14	家族や友人の相談にのっていますか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

15	病人を見舞うことができますか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

16	若い人に自分から話しかけることがありますか (○はひとつ)
1.	はい
2.	いいえ

17	趣味はありますか (○はひとつ)
1. 趣味あり	→ (具体的に:)
2. 思いつかない	
18	生きがいがありますか (○はひとつ)
1. 生きがいあり	→ (具体的に:)
2. 思いつかない	

問5 地域での活動について

1	以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか ※ ①～⑧それぞれに回答してください (①～⑧それぞれに○はひとつ)
① ボランティアのグループ	1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない
② スポーツ関係のグループやクラブ	1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない
③ 趣味関係のグループ	1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない
④ 学習・教養サークル	1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない
⑤ 介護予防のための通いの場 (いきいき百歳体操など)	1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない
⑥ 老人クラブ	1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない
⑦ 町内会・自治会	1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない
⑧ 収入のある仕事	1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない

2	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行っている、いきいき地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか (○はひとつ)
1. 是非参加したい	2. 参加してもよい
3. 参加したくない	4. 既に参加している

3	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行っている、いきいき地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営 (お世話役) として参加してみたいと思いますか (○はひとつ)
1. 是非参加したい	2. 参加してもよい
3. 参加したくない	4. 既に参加している

問6 たすけあいについて

1	あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします あなたの心配事や愚痴 (ぐち) を聞いてくれる人 (○はいくつでも)
1. 配偶者	2. 同居の子ども
3. 別居の子ども	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
5. 近隣	6. 友人
7. その他 ()	8. そのような人はいない

2	反対に、あなたが心配事や愚痴 (ぐち) を聞いてあげる人 (○はいくつでも)
1. 配偶者	2. 同居の子ども
3. 別居の子ども	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
5. 近隣	6. 友人
7. その他 ()	8. そのような人はいない

3	あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (○はいくつでも)
1. 配偶者	2. 同居の子ども
3. 別居の子ども	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
5. 近隣	6. 友人
7. その他 ()	8. そのような人はいない

4	反対に、看病や世話をしあげてあげる人 (〇はいくつでも)
	1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣 6. 友人 7. その他 () 8. そのような人はいない

5	日常生活の中で、家族以外でゴミ出し等の手伝いをしてもらえらる人はいますか (〇はひとつ)
	1. いる ⇒ <input type="checkbox"/> 5-1へ 2. いない ⇒ <input type="checkbox"/> 5-2へ

5で「1」を回答された方 (家族以外で手伝いをしてもらえらる人がいる方) のみ	
5-1	どんな人に手伝ってもらっていますか (〇はいくつでも)
	1. 近所の顔見知りの人 2. 無償ボランティア 3. 有償ボランティア 4. 介護専門職 5. その他 (具体的に:)
5で「2」を回答された方 (家族以外で手伝いをしてもらえらる人がいない方) のみ	
5-2	(仮に手伝ってもらったとした場合) どんな人に手伝ってもらっていますか (〇はいくつでも)
	1. 近所の顔見知りの人 2. 無償ボランティア 3. 有償ボランティア 4. 介護専門職 5. その他 (具体的に:)

6	家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください (〇はいくつでも)
	1. 自治会・町内会・老人クラブ 2. 社会福祉協議会・民生委員 3. ケアマネジャー 4. 医師・歯科医師・看護師 5. 地域包括支援センター・役所・役場 6. その他 7. そのような人はいない

7	友人・知人と会う頻度はどれくらいですか (〇はひとつ)
	1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある 4. 年に何度かある 5. ほとんどない

8	この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか (〇はひとつ) ※同じ人には何度会っても1人と数えることとします
	1. 0人 (いない) 2. 1~2人 3. 3~5人 4. 6~9人 5. 10人以上

9	よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか (〇はいくつでも)
	1. 近所・同じ地域の人 2. 幼なじみ 3. 学生時代の友人 4. 仕事での同僚・元同僚 5. 趣味や関心が同じ友人 6. ボランティア等の活動での友人 7. その他 8. いない

問7 健康について

1	現在のあなたの健康状態はいかがですか (〇はひとつ)
	1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない

2	あなたは、現在のどの程度幸せですか (〇はひとつ) (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)
	とても不幸 ← → とても幸せ 0点 1点 2点 3点 4点 5点 6点 7点 8点 9点 10点

3	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか (○はひとつ)
1. はい	2. いいえ
4	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか (○はひとつ)
1. はい	2. いいえ
5	お酒は飲みますか (○はひとつ)
1. ほぼ毎日飲む	2. 時々飲む
3. ほとんど飲まない	4. もともと飲まない
6	タバコは吸っていますか (○はひとつ)
1. ほぼ毎日吸っている	2. 時々吸っている
3. 吸っていたがやめた	4. もともと吸っていない
7	現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (○はいくつでも)
1. ない	2. 高血圧
3. 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	4. 心臓病
5. 糖尿病	6. 高脂血症 (脂質異常)
7. 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気
9. 腎臓・前立腺の病気	10. 筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等)
11. 外傷 (転倒・骨折等)	12. がん (悪性新生物)
13. 血液・免疫の病気	14. うつ病
15. 認知症 (アルツハイマー病等)	16. パーキンソン病
17. 目の病気	18. 耳の病気
19. その他 ()	

12

問8 認知症について

1	認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか (○はひとつ)
1. はい	2. いいえ
2	認知症に関する相談窓口を知っていますか (○はひとつ)
1. はい	2. いいえ
3	認知症が疑われる際に受診する病院やその診療科目を知っていますか (○はひとつ)
1. はい	2. いいえ
4	認知症の施策について関心のある取り組みはありますか (○はいくつでも)
1. 認知症の勉強会 (認知症サポーター養成講座など)	
2. 認知症の家族の方が気軽に相談できる場づくり (認知症カフェなど)	
3. 認知症の方が気軽に集まれる場づくり (認知症カフェなど)	
4. 認知症について気軽に相談できる人の配置 (認知症地域支援推進員など)	
5. 地域で認知症の方を支えるチームの設置 (チームオレンジなど)	
6. 認知症に関するガイドブックの発行 (認知症ケアパスなど)	
7. 徘徊した認知症の方の早期発見 (見守りあんしんシールなど)	
8. その他 (具体的に:)	
9. 関心のある取り組みはない	

13

問9 人生の最終段階について

1	<p>将来、身の回りのことができなくなったり、どこで介護を受けたいとお考えですか (○はひとつ)</p> <p>1. 自宅</p> <p>2. 別居している子どもや親族宅</p> <p>3. 介護保険施設 (特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院)</p> <p>4. 介護付有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅</p> <p>5. 認知症グループホーム</p> <p>6. その他 (具体的に:)</p> <p>7. わからない</p>
----------	--

2	<p>ご自身の人生の最終段階に向けて、何か準備していることはありますか (○はひとつ)</p> <p>1. 準備している</p> <p>2. 準備しようと思っているが、まだできていない</p> <p>3. 準備していない</p>
----------	--

3	<p>人生の最終段階に向けた準備を進めるにあたって (または現在準備を進めている中で)、ご自身が知りたいことや相談したいことはありますか (○はいくつでも)</p> <p>1. 何から手をつけたらいいか</p> <p>2. いつから準備を始めたらいいか</p> <p>3. 葬儀やお墓の準備の仕方</p> <p>4. 身の回りの持ち物の整理</p> <p>5. 相続 (財産など) に関する事</p> <p>6. 残された家族のこと</p> <p>7. 葬儀をあげてくれる人がいない</p> <p>8. 終末期医療、介護についての話し合い</p> <p>9. エンディングノートの作成</p> <p>10. その他 (具体的に:)</p> <p>11. 特になし</p> <p>12. 何か準備することは考えていない</p>
----------	---

問10 災害時や緊急時の対応などについて

1	<p>あなたは、災害時 (台風や地震など) や火災などの緊急時に、一人で避難することができですか (○はひとつ)</p> <p>1. 避難できる ⇒ <input type="checkbox"/>2ハ</p> <p>2. 判断はできるが、一人で避難はできない ⇒ <input type="checkbox"/>1-1、<input type="checkbox"/>1-2ハ</p> <p>3. 一人で判断できないし、避難もできない ⇒ <input type="checkbox"/>1-1、<input type="checkbox"/>1-2ハ</p>
----------	---

1	<p>「2」または「3」を回答された方 (一人で避難できない方) のみ</p> <p>1-1 避難できない理由は何ですか (○はいくつでも)</p> <p>1. 体力・身体的な理由のため</p> <p>2. 看病や介護が必要な家族がいるため</p> <p>3. どこに避難したらいいかわからない</p> <p>4. 避難先に行く手段がない (遠い)</p> <p>5. その他 (具体的に:)</p>
----------	---

1	<p>「2」または「3」を回答された方 (一人で避難できない方) のみ</p> <p>1-2 災害時や火災など緊急時に避難する際、手助けを頼める人はいますか (○はいくつでも)</p> <p>1. 家族・親族</p> <p>2. 近所の人</p> <p>3. 友人・知人</p> <p>4. 自治会の人</p> <p>5. 民生委員</p> <p>6. その他 ()</p> <p>7. 頼れる人がいない</p>
----------	---

2	<p>地震や風水害などの災害時に対し、不安に思うことはありませんか (○はいくつでも)</p> <p>1. 災害に関する情報が入手できるかわからない</p> <p>2. どこ (だけ) に助けをもとめてよいかわからない (身近に頼れる人がいない)</p> <p>3. 安全な場所まで自力で避難できるかわからない</p> <p>4. 地域の避難場所がどこなのかわからない</p> <p>5. 地域の危険な箇所がわからない</p> <p>6. 防災グッズや非常食を常備していない</p> <p>7. 災害時用伝言ダイヤル (171) や伝言板の利用方法がわからない</p> <p>8. 健康面・身体面に不安がある (治療の必要な持病がある、歩きづらさなど)</p> <p>9. その他 (具体的に:)</p> <p>10. 不安は持たない</p>
----------	--

以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。
 記入済みの調査票を同封の返信用封筒に入れて (切手不要)、
令和5年7月10日 (月) までに郵便ポストに投函してください。

第9期大淀町介護予防・日常生活圏域二一ス調査及び
在宅介護実態調査報告書

令和5（2023）年8月

編集・発行：大淀町 住民福祉部 福祉介護課

〒638-8501

奈良県吉野郡大淀町桧垣本 2090 番地

TEL 0747-52-5530（直通）